

科目名	法学概論	科目名 (英文)	Jurisprudence
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実, 大川 謙蔵, 川谷 道郎, 城内 明, 萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1001a0		

授業概要・目的	法学部生として4年間学んでいくに当たって必要となる基本的な知識や、法的思考の助けとなる考え方について解説する。
到達目標	この講義を通じて、学生には、法を学ぶうえで必要と思われる基本的な知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	授業方法：下記「授業計画」で示したように、5人の担当者がそれぞれ、連続して講義を担当する。講義では、各担当者が作成したレジュメを使用する。なお、参考書については、講義中に適宜紹介する。Microsoft Teamsの「J138—法学概論」内に各担当者が設定している「○○講義部分連絡用」のなかに、各担当者の採用する授業方法について連絡しているため、必ず確認すること。 留意点：講義の進具合によっては、下記「授業計画」に示したテーマが前後したり、順番を入れ替えることがある。
科目学習の効果 (資格)	今後、法学部の様々な専門科目を学ぶうえで必要となってくる基本的知識を修得することができる。また、法学検定や公務員試験などで必要な法の基礎知識に関して、その土台となる考え方を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法とは何かを考える—消費者トラブルを素材として— (1) (担当：城内 明)	消費者トラブル！！その時どうする？	身の回りに消費者トラブルがないか考えてみよう (事前)。 身の回りの消費者トラブルの解決方法を考えてみよう (事後)。 (約1時間)
2	法とは何かを考える—消費者トラブルを素材として— (2) (担当：城内 明)	消費者トラブル！！泣き寝入りしないために。	身の回りの消費者トラブルの解決方法を考えてみよう (事前)。 消費者トラブルを解決するための法的手段について調べてみよう (事後)。 (約1時間)
3	法とは何かを考える—消費者トラブルを素材として— (3) (担当：城内 明)	消費者トラブル！！どうしたら防げるの？	どうしたら消費者トラブルを防ぐことができるか考えてみよう (事前)。 消費者トラブルを防ぐための法制度について調べてみよう (事後)。 (約1時間)
4	民事訴訟法って何？ (担当：萩原 佐織)	民事裁判手続の流れや弁護士の仕事について学ぼう！	最高裁判所のHPを見て、民事裁判の訴訟手続の流れについて調べる。 (約1時間)
5	民事保全執行法って何？ (担当：萩原 佐織)	不動産執行の競売で入札してみよう！	BIT (不動産競売物件情報サイト) を見て、競売手続の流れについて学ぶ。 (約1時間)
6	倒産法って何？ (担当：萩原 佐織)	清算型・再建型倒産手続について学ぼう！	倒産手続の種類、各手続の適用対象やメリット・デメリットについて調べる。 (約1時間)
7	法律と判例の関係 (担当：大川 謙蔵)	ある法律・条文の内容を確認しつつ、裁判所がその条文を使ってどのように判断しているのかを確認する。	自分の六法で、「民法」という法律の条文を確認すること。事後の学習は講義で指摘する。 (約1時間)
8	判例の検索とその内容 (担当：大川 謙蔵)	裁判所が下した判断について、それをどのように確認できるのか、また、その判例はどのように書かれているのかを確認する。	裁判所のHPで「裁判例情報」を検索してみる。事後の学習は講義で指摘する。 (約1時間)
9	判例の意義 (担当：大川 謙蔵)	裁判所の下した判断がいかなる意義を持つのかを具体的に確認する。	最近のニュースで裁判所の下した判決等を確認すること。事後の学習は講義で指摘する。 (約1時間)
10	法的なもの見方 (担当：川谷 道郎)	法的なもの見方とはどのようなものかを具体的に解説し、法的解決といわれるものの特徴を述べる。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと (約1時間)
11	裁判制度 (担当：川谷 道郎)	法的なもの見方が純粋な形で表れるのが裁判である。日本の裁判制度を解説するとともに、裁判にはどのような人々がどのような形で関与しているかを示す。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと (約1時間)
12	紛争解決の方法 (担当：川谷 道郎)	紛争の解決には裁判のほかにも多様な形態 (和解、調停、仲裁、各種ADR等) があることを示し、それぞれの解決の特徴を述べる。	配布レジュメおよび授業中に紹介した文献などに目を通すこと (約1時間)
13	司法に市民が参加するということ (1) (担当：家本 真実)	市民が裁判に参加することに、どのような意義があるのかを学ぶ。	事前：ネットで「裁判員制度」のキーワードでどのような情報があるか調べてみる。 事後：配布したレジュメを見直して、レジュメ内で指示された事後学習をおこなうこと。 (約1時間)
14	司法に市民が参加するということ (2) (担当：家本 真実)	日本の裁判員制度がどのようなものなのかを学ぶ。	事前：最高裁判所が発信する裁判員制度のHPで、裁判員制度について調べる。 事後：配布したレジュメを見直して、レジュメ内で指示された事後学習をおこなうこと。 (約1時間)
15	司法に市民が参加するということ (3) (担当：家本 真実)	日本の裁判員制度とアメリカの陪審制度を比較して、市民が裁判に参加する意義を再び考える。	事前：ネットで「陪審制度」について検索し、内容を確認しておくこと。 事後：配布したレジュメを見直して、レジュメ内で指示された事後学習をおこなうこと。 (約1時間)

実務経験				
関連科目	法に関するすべての科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なし		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	講義中に適宜、紹介する。		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各学生につき、5人の講義担当者がそれぞれ、担当した複数回の講義において課したペーパーやレポート、小テストを20点満点で評価し、これらを最終的に合わせた点数を最終成績とする。各担当者が何を成績評価の対象とするのかについて、詳細はそれぞれの講義のなかで説明する。			
学生への メッセージ	講義へは必ず出席し、遅刻しないこと。とくに、5人の担当者がそれぞれ20点満点で成績をつけるため、ある担当者の講義をすべて欠席すれば、20点を失うことになる旨、留意すること。 また、私語は厳禁とする。あまりに受講態度がひどい場合には、講義の途中で単位を取得できない旨、言い渡すことがある。			
担当者の 研究室等	11号館9階 川谷教授室、萩原准教授室、大川准教授室、家本准教授室 11号館10階 城内准教授室			
備考	【重要】入学年度によっては、2年次までに本科目の単位を修得しない限り、3年次への進級ができなくなるので、学生においては十分注意されたい。 なお、講義中の疑問点については、講義の最後に質問を受け付ける時間を設けることで対応する。			

科目名	法哲学総論	科目名 (英文)	Philosophy of Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3002a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野です。「哲学」という言葉の響きに嫌悪感や苦手意識を持っている学生がいるかもしれませんが、「哲学的に考察する」とは、言い方を換えれば、「物事を批判的に考えてみる」ことにほかなりません。 したがってこの講義では、法や正義にまつわるさまざまな問題を、条文や判例にとらわれずに——そして可能なかぎり哲学の難しい専門用語を使わずに——批判的に考えてみたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会のさまざまな問題点を正確に理解し、さらにそれらの問題に対して自分の見解を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染症への対策として、この授業は「教材・課題提供型」で行います。具体的には、事前にWebFolderで授業のレジュメや動画資料などを配布しますので、それらでしっかり学習したうえで課題に答えて提出してください。
科目学習の効果(資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文(未修者コース)の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法哲学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目なのか、なぜ法学部で法哲学を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、憲法や民法などの実定法学との違いを意識しながら、「法哲学」という科目の特徴を説明できるようになること(所要時間 120分)。
2	人工生殖とその法規制	科学技術の進展とともに人工生殖技術も劇的に発展しています。近年代理母やクローンが社会問題になっていますが、これらは全面的に禁止されるべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、J・S・ミルの「他者危害原理」という考え方を理解したうえで、代理母の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
3	死をめぐる自己決定	自分の所有物は自分の意思で自由に処分できるのが原則です。しかし、自分の命を自由に処分することは許されるでしょうか？ 例えば、人間には自殺する自由があるのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リバタリアンの自己所有権という考え方を理解したうえで、臓器売買の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
4	パターナリズム	他人に迷惑を掛けなければ自分の身体を自由に使用してもよいのでしょうか？ 例えば、当事者の自由意思に基づく売春や麻薬使用は禁止されるべきことなのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、パターナリズムという考え方を理解したうえで、シートベルト着用義務の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
5	表現の自由	近年ヘイトスピーチが日本でも問題になっており、その法規制をめぐる賛否両論があります。はたして日本でもヘイトスピーチ規正法は必要でしょうか？ またそれは本当に有効なのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「表現の自由の優越的地位」という考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解が述べられるようになること(所要時間 120分)。	
6	死刑制度	日本では死刑制度が存置されていますが、世界的に見れば死刑廃止国が増加しています。死刑制度は本当に必要でしょうか？ 必要だとすればそれはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、死刑に対するベッカーリアやカントらの考え方を理解したうえで、ヘイトスピーチ規正法の必要性について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
7	動物の権利	動物はペットとして人間によって保護されていますが、他方で、医学の実験などにおいてはその命を利用されています。そもそも人間にとって動物はいかなる存在なのでしょう？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、苦痛に対するシンガーの考え方を理解したうえで、医学のための動物実験の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
8	格差社会における平等	近年日本では貧富の差が拡大しており、格差社会という語がキーワードになっています。はたして、国家はこうした格差を是正する必要があるのでしょうか、それとも各人の努力にゆだねるべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、積極的差別是正措置の問題点を理解したうえで、日本への導入の可否について自分の見解を述べられるようになること。	
9	国境を超える正義	日本は世界でも有数の豊かな国ですが、貧困に苦しむ国も世界には数多くあります。日本は貧困国を援助する義務があるのでしょうか？ 義務があるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、国際援助に対するロールズやボググラの考え方を理解したうえで、日本のODAの在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
10	文化の相違を超えて	世界の国々には他国の人々にはなかなか理解しがたいさまざまな風習があります。例えば、アフリカには女子割礼の風習がありますが、その風習を他国の人々が批判することは許されるのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、人権の基礎づけをめぐるさまざまな言説を理解したうえで、多文化への批判の在り方について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
11	正義の戦争	世界中を見渡せば、戦争や紛争がいたるところで勃発しています。そもそも正しい目的を達するためであれば、戦争という手段も許されるのでしょうか？ 許されるとすれば、それはなぜでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、「正義の戦争」に対するロールズやウォルツァーの考え方を理解したうえで、いわゆるテロ戦争の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。	
12	戦争責任を問う	日本やドイツは第二次世界大戦で敗戦	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、	

			し、周辺国に多くの被害をもたらしました。しかし、なぜ戦争当事者ではない現世代のひとびとが前世代の犯した戦争責任を償わなければならないのでしょうか？	アイヒマン裁判の争点を理解したうえで、アイヒマンの責任の有無について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	13	監視社会	いたるところに張りめぐらされた防犯カメラに象徴されるように、現代社会は監視社会とも言われます。私たちのプライバシーを侵害するかもしれない防犯カメラの設置は正当化されるのでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、フーコーの「規律訓練型権力」という考え方を理解したうえで、街頭の監視カメラ設置の是非について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	14	リスク社会	原発問題で明らかになったように、私たちの生活を便利にするものが、他方で私たちの生活を脅かすものに転化する可能性があります。私たちはこうしたリスクにどのように対処すべきでしょうか？	授業終了後に、レジュメを見直してください。また、リスク社会論における「リスク」の考え方を理解したうえで、地球温暖化対策について自分の見解を述べられるようになること(所要時間 120分)。																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、法の果たすべき役割について考えてみます(可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	これまで講義で取り上げた個々の概念や人物を正確に理解しなおすこと。講義で分かりにくかった箇所を事前にピックアップしておいてください(所要時間 120分)。																
実務経験																				
関連科目	直接的には法哲学各論、法思想史と関連しますが、それ以外にも広く実定法学(憲法・民法・刑法など)の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>問いかける法哲学</td> <td>瀧川裕英編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかる法哲学・法思想(第2版)</td> <td>深田三徳・濱真一郎編</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ブリッジブック法哲学(第2版)</td> <td>長谷川晃・角田猛之編</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社	2	よくわかる法哲学・法思想(第2版)	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房	3	ブリッジブック法哲学(第2版)	長谷川晃・角田猛之編	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	問いかける法哲学	瀧川裕英編	法律文化社																	
2	よくわかる法哲学・法思想(第2版)	深田三徳・濱真一郎編	ミネルヴァ書房																	
3	ブリッジブック法哲学(第2版)	長谷川晃・角田猛之編	信山社																	
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法(基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題(レポート)の累計点で成績評価を行います(100%)。毎回それなりの分量のレポートを課しますので、そのつもりで受講してください。																			
学生へのメッセージ	この法哲学総論では具体的な問題を取り上げますが、それらに唯一の正解は存在しません。重要なのは答えではなく、それを支える論理です。「法律で決まっているから」や「最高裁判所が判決で言っているから」という回答は法哲学という科目では通用しませんので、そのつもりで受講してください。																			
担当者の研究室等	11号館9階 松島准教授室																			
備考	19年度 合格率93% (不受験率1%) A11% B29% C26% D27% 平均74点 140人登録																			

科目名	法哲学各論	科目名 (英文)	Philosophy of Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3003a0		

授業概要・目的	法哲学とは、その名の通り、法を哲学的に考察する学問分野ですが、より具体的には、「法とは何か」、「法はいかに解釈すべきか」、「何が正義にかなっているか」といった法律学全般にかかわる基礎的な問題を扱う科目です。 この講義では、法哲学の主要三部門と見なされている伝統的なテーマ——「法の一般理論」、「法学方法論」、「正義論 (法価値論)」——にそくして法哲学の基本的事項を学習するとともに、普段の実定法の学習ではあまり意識されることのない「法 (法律学) のあるべき姿」について考えてみたいと思います。
到達目標	この講義を通じて学生には、法哲学の基本事項を理解するとともに、そうした法哲学上の知識を手がかりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染症への対策として、この授業は「教材・課題提供型」で行います。具体的には、事前に Teams、WebFolder で授業のレジュメや動画資料などを配布しますので、それらでしっかり学習したうえで課題に答えて提出してください。 ただし、時おりリアルタイムで講義を行う可能性もあるので、正規の開講曜日・時限の予定をきちんと空けておくこと。
科目学習の効果 (資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法哲学で扱われるテーマは法科大学院入学試験の小論文 (未修者コース) の素材となることが多いので、法科大学院の受験を検討している学生には受講を強く推奨します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法哲学とは?	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法哲学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法哲学の基本的な参考文献を紹介します。	毎回、事前に教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に参考文献およびレジュメを見直してください。各回のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください (各回とも所要時間 120 分)。
2	法哲学の来歴	法哲学は、別名、法理学とも呼ばれます。そこで、この二つの名称のちがいを着目して、英米と大陸 (ドイツ) における同科目の基本的な相違点と、それが日本に導入された経緯について説明します。	【キーワード】 基礎法学、レヒト (Recht)、正義論 (法価値論)、法学方法論、法の一般理論 (法概念論)、法哲学 (Rechtsphilosophie)、法理学 (Jurisprudence)、穂積陳重、尾高朝雄
3	正義論① 西洋における正義観念	西洋法思想において「正義」(dikaiosyne, iustitia, justice) がどのように理解されていたかを、古代ギリシア・ローマや中世の法思想にさかのぼって概観し、現代正義論の思想的背景を確認します。	【キーワード】 ニコマコス倫理学、分配的正義、匡正の正義、比例的平等、算術的平等、ウルピアヌス、ユスティティア
4	正義論② ロールズ『正義論』	現代正義論に多大なインパクトを与えたロールズ『正義論』を学習します。まず彼の基本的なアイデア (原初状態・正と善の区別など) を確認し、そのあとで彼の主張する「正義の二原理」を検討してみます。	【キーワード】 価値相対主義、功利主義、善に対する正義の優先性、無知のヴェール、マクシミルルール、反照的均衡、格差原理、富の再配分
5	正義論③ リバタリアニズム	ロールズへの批判的主張として、リバタリアニズム (自由至上主義) を取り上げます。この講義では、おもにノージックの主張を検討しながら、課税や刑罰権といった国家の役割について考えてみる予定です。	【キーワード】 無政府資本主義、最小国家論、古典的自由主義、自己所有権テーゼ、労働価値説、超最小国家、最小国家、自生の秩序
6	正義論④ 共同体主義	ロールズへのもうひとつの批判的主張として、共同体主義を取り上げます。共同体主義の代表的論者の基本的立場や哲学的背景を学習するとともに、それらの学習を通じてロールズ『正義論』のより深い理解を目指します。	【キーワード】 『リベラリズムと正義の限界』、「負荷なき自我」と「位置ある自我」、共通善、美徳なき時代、ウォルツァー、テイラー、アリストテレス『政治学』
7	正義論⑤ 現代正義論への視座	現代正義論を補完する議論として、ハーバーマスの討議倫理、キムリッカの多文化主義、バトラーらのフェミニズムを紹介します。これらの議論を知ることによって、現代社会に求められている多様な「正義」について考えてみます。	【キーワード】 コミュニケーション的行為の理論、語用論、手続的正義、フェミニズム (の諸派)、多文化主義と文化相対主義
8	法学方法論① ハートの司法裁量論	まず、現代の法学方法論の前史として、19 世紀までの法律学の状況を簡単に説明します。そのあとで、H・L・A・ハートが『法の概念』で展開した司法裁量論の概要を説明し、その問題点を検討します。	【キーワード】 概念法学、自由法運動、法的三段論法、分析法理学、司法裁量論、疑わしい半影部分、法の開かれた構造
9	法学方法論② ドゥウォーキンンの法理論	この回ではドゥウォーキンンの法解釈にかんする理論を、前回のハートとの対比を通じて学習します。はたして難事件 (hard case) においても、唯一の正しい法解釈は存在するのでしょうか? 考えてみましょう。	【キーワード】 権利論 (Taking Rights Seriously)、ルールと原理、法の帝国 (Law's Empire)、内的視点、統合性としての法、原意主義
10	法学方法論③ ドイツにおける議論の理論	ドイツでは法学方法論をめぐって、さまざまな理論が提唱されています。この講義では、エッサー、クリューレらの法学的ヘルメノイティク、フィーヴェックのトピック論、アレクシーの法的議論の理論を	【キーワード】 理解の循環構造、実践哲学の復権、体系思考と問題思考、レトリック、発見の過程と正当化の過程、特殊事例テーゼ

			学習します。																	
	11	法学方法論④ 日本の法解釈論争	これまで学習した英米とドイツの解釈理論と照らし合わせながら、戦後日本の法学解釈論争を学習します。法解釈とはいかなる作業であるかを検討し、あわせて法学における「客観性」についても考えてみます。	【キーワード】 来栖三郎「わくの理論」、川島武宜「科学としての法律学」、星野英一「利益衡量論」、平井宜雄「法政策学」																
	12	法の一般理論① 自然法論	20世紀にいたるまでの自然法論の思想的系譜を簡単に振り返ったあとで、ラートブルフの再生自然法論、フラーの「法の内面道徳」、フィニスの新しい自然法論を学習し、自然法論の可能性とその限界を考察します。	【キーワード】 「制定法を超える法」と「制定法の形をした不法」、手続的自然法論、ハート＝フラー論争、トマス・アクィナス																
	13	法の一般理論② 法実証主義	代表的な現代の法実証主義者として、ケルゼン、ハート、ラズの三人を取り上げます。彼らの主張と自然法論者の主張とを比較検討することを通じて、「法と道徳」のあり方について考えてみます。	【キーワード】 方法二元論、純粋法学、根本規範、法＝主権者命令説、ルールとしての法、承認のルール、自然法の最小限の内容																
	14	法の一般理論③ 法の三類型モデル	日本を代表する法哲学者である田中成明の「法の三類型モデル」を手がかりにしながら、現代社会における法の変容や、日本社会における「法の支配」の問題などを考察します。	【キーワード】 法の規範的機能と社会的機能、自立型法（普遍主義型法）・管理型法・自治型法、法の支配、司法制度改革																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、「法のあるべき姿」というものについて考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	これまで講義で論じてきた個々の概念や人物を正確に理解しなおすとともに、法哲学全体の中でそれらの概念相互の関係性をしっかりと把握すること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
実務経験																				
関連科目	直接的には「法哲学総論」、「法思想史」と関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になるとと思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法思想史（有斐閣アルマ）</td> <td>中山・浅野・松島・近藤</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法哲学</td> <td>瀧川裕英ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法哲学（有斐閣アルマ）</td> <td>平野仁彦ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>20世紀の法思想</td> <td>中山竜一</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣	2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣	3	20世紀の法思想	中山竜一	岩波書店
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法哲学	瀧川裕英ほか	有斐閣																	
2	法哲学（有斐閣アルマ）	平野仁彦ほか	有斐閣																	
3	20世紀の法思想	中山竜一	岩波書店																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder																			
Teams コード	v3flwkz																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 （基準）	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題（レポート）の累計点で成績評価を行います（100%）。毎回それなりの分量のレポートを課しますので、そのつもりで受講してください。																			
学生への メッセージ	この「法哲学各論」の講義では「法哲学総論と比べてかなり難解で抽象的なテーマを扱う予定なので、法哲学に興味のない学生には、率直に言って、退屈な授業内容になるかもしれません。具体例を用いてできるだけ分かりやすく説明するように心がけますので、皆さんも理解できない点が出てきたら遠慮なく質問してください。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島准教授室																			
備考	講義名「法哲学各論」と教科書名「法思想史」が異なりますが、間違いではありません。その理由は初回の講義で説明します。 19年度 合格率96%（不受験率2%） A4% B22% C34% D35% 平均71点 89人登録																			

科目名	法思想史	科目名 (英文)	History of Legal Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2004a0		

授業概要・目的	法思想史とは、過去の思想家たちが法や正義をどのように理解してきたかを考察する学問分野です。この講義では、西洋世界に地域を限定したうえで、古典古代から19世紀までに登場したさまざまな法思想を駆け足で見えていきます (20世紀以降の新しい法思想は法哲学各論で扱います)。 個々の思想家にかんする知識をたんに丸暗記するのではなく、各法思想に含まれる普遍性と特殊性——いつの時代においても通用する普遍的なアイデアとその時代にしか通用しない特殊なアイデア——を的確に見極めつつ、現代の法思想の礎を確認することが、この講義の目的です。
到達目標	この講義を通じて学生には、法思想史の基本事項を理解することに加え、過去の思想家たちの知識を手掛かりにして自分の意見を論理的に組み立てられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染症への対策として、この授業は「教材・課題提供型」で行います。具体的には、事前に Teams、WebFolder で授業のレジュメや動画資料などを配布しますので、それらでしっかり学習したうえで課題に答えて提出してください。 ただし、時おりリアルタイムで講義を行う可能性もあるので、正規の開講曜日・時限の予定をきちんと空けておくこと。
科目学習の効果 (資格)	法学検定試験や公務員試験などの教養問題に一部対応しています。また、法科大学院入学試験の小論文 (未修者コース) のヒントになる前提知識が獲得できると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法思想史とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法思想史」がどのような科目なのか、なぜ法学部で西洋法思想の歴史を学ぶ必要があるのかを簡単に解説します。	毎回、教科書の該当箇所を読んでください。また、講義終了後に配布したプリントおよびレジュメを見直してください。各回の講義のキーワードを掲げておきますので、事前・事後学習の参考にしてください (各回とも所要時間 120 分)。
2	古代ギリシアの法思想①	「哲学」という独特の思考様式がなぜ古代ギリシアで誕生したのか、そして、それが後代の西洋世界にどのような影響を及ぼしたのかを学習します。哲学以前のホメロス・ヘシオドスの叙事詩も簡単に紹介します。	【キーワード】 『イリアス』と『オデュッセイア』、『神統記』と『労働と日』、神話学的思考と哲学的思考テミス、ノモス、ディケー、ソロン、ソフィスト
3	古代ギリシアの法思想②	プラトンの前期著作を通じてソクラテスが追究した正しい生き方を概観するとともに、中後期著作でプラトン自身が構想した独創的な正義論・国家論の概要を学習します。	【キーワード】 ソクラテス裁判、クセノポン、クリトン、アカデミア、対話篇の時代区分、善のアイデア、哲人王、『国家』と『法律』
4	古代ギリシアの法思想③	万学の祖アリストテレスの著作集はいずれも重要ですが、この回の講義では論理学関連の著作からは論理的思考の芽生え、『ニコマコス倫理学』からは正義論、『政治学』からは国制論をそれぞれ学習します。	【キーワード】 リュケイオン、オルガノン、シュロギスモス、一般的正義と特殊な正義、分配的正義と匡正の正義、衡平、「国制」
5	古代ローマの法思想	現代の法律学の基礎をなすローマ法がどのような経緯で誕生し、またそれにはどのような事柄が規定されているのかを学習します。また、当時のローマで栄えたストア派の法思想についても簡単に説明します。	【キーワード】 12 表法、市民法と万民法、解答権、自然法と万民法、ウルピアヌスとパウルス、ケケロ、ユスティニアヌス法典
6	古代から中世へ	西洋の法思想に今なお強い影響力を及ぼし続けているキリスト教の成立とその教義をごく簡単に説明したうえで、最大の教父哲学者アウグスティヌスの法思想を『神の国』を中心に解説します。	【キーワード】 ナザレのイエス、ペテロとパウロ、旧約聖書と新約聖書、コイナー、三位一体説、『告白』、永久法・自然法・世俗法
7	中世の法思想	ローマ帝国の衰退からいわゆる 12 世紀ルネサンスにおけるローマ法の復活にいたるまでの歴史的経緯を説明し、あわせて中世最大の哲学者トマス・アクィナスの法思想を解説します。	【キーワード】 12 世紀ルネサンス、ポローニャ大学、註釈学派 (glossatores)、註解学派 (commentatores)、学説彙纂、標準註釈、ドミニコ会、神学大全
8	中世から近代へ	中学高校の世界史でも必ず取り上げられる「ルネサンス」と「宗教改革」ですが、これらの出来事がそれ以降の法思想にどのような影響を与えたのかを、中世の法思想との対比を通じて学習します。	【キーワード】 ルネサンス (再生)、ルター、カルヴァン、マキアヴェッリ、ボダン、グロティウス、サラマンカ学派 (ビトリアとスアレ)
9	近代イギリスの法思想①	第 9 回から第 11 回までは社会契約説を学習します。まずこの回の講義ではホブズ『リヴァイアサン』を取り上げ、彼の法思想を当時のイングランドの社会背景とあわせて学習します。	【キーワード】 ビュリタン革命と名誉革命、自己保存権、自然状態の悲しさ、ホブズの自然法 (特に第 1～3 の自然法の内容)
10	近代イギリスの法思想②	社会契約論を代表する第二の思想家としてジョン・ロックを取り上げ、『統治論』で示されている法思想を学習します。ロックからやや時代が下りますが、ヒュームやベンサムも法思想も簡単に紹介します。	【キーワード】 ロックの自然法、固有権 (プロパティ)、抵抗権、スコットランド啓蒙、ヒュームの社会契約批判、ベンサム「功利主義」、J・S・ミル「他者危害原理」
11	近代フランスの法思想	社会契約論の最後の論者としてルソーを取り上げ、『社会契約論』で展開されている「一般意志」という考え方を学習します。あわせてモンテスキュー『法の	【キーワード】 『不平等起源論』、一般意志 (特にその問題点)、法律の一般性、人民主権、フランス革命へのルソーの影響、モンテスキューの権力分立論

			精神』における権力分立の思想も解説します。																	
	12	近代ドイツの法思想①	ドイツ観念論の系譜を簡単に説明したうえで、カント『人倫の形而上学』とヘーゲル『法の哲学』を中心に上げ、彼らの法思想のエッセンスを解説します。	【キーワード】 ドイツ啓蒙期自然法論（プーフェンドルフ・トマジウス・ヴォルフ）、カントの三批判、定言命法、合法性と道徳性、根源契約、ヘーゲルの社会契約批判																
	13	近代ドイツの法思想②	19世紀のドイツで展開された法思想を学習します。具体的にはサヴィニーに代表される歴史法学に始まり、ヴィントシャイトの概念法学を経て、イェーリングらに至る道のりを学習します。	【キーワード】 法典論争、サヴィニーにおける歴史的方法と体系的的方法、概念法学、イェーリングの概念法学批判、自由法運動、利益法学																
	14	近代ドイツの法思想③	20世紀ドイツを代表する法哲学者であるラートブルフ、ケルゼン、シュミットの三人を取り上げ、ワイマール期からナチズム期の「危機の時代」に彼らがどのような法理論を展開したのかを学習します。	【キーワード】 価値相対主義、再生自然法論、純粹法学、『民主主義の本質と価値』、決断主義、友と敵、政治神学、具体的秩序思想																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、各法思想の普遍性と特殊性について考えてみます（可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です）。	個々の概念や人物の正確な理解に努めるとともに、西洋史の大きな流れのなかで各法思想の特徴を述べられるようになること（講義で理解が難しかった箇所を事前にピックアップしておくこと）。																
実務経験																				
関連科目	直接的には法哲学総論、法哲学各論、西洋の裁判の歴史などと関連しますが、それ以外にも広く実定法学（憲法・民法・刑法など）の学習の一助になると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法思想史（有斐閣アルマ）</td> <td>中山・浅野・松島・近藤</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣アルマ）	中山・浅野・松島・近藤	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法思想史（有斐閣Sシリーズ）</td> <td>田中成明ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>法思想の水脈</td> <td>森村進編</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>増補新版 法とは何か 法思想史入門</td> <td>長谷部恭男</td> <td>河出書房新社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣	2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社	3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法思想史（有斐閣Sシリーズ）	田中成明ほか	有斐閣																	
2	法思想の水脈	森村進編	法律文化社																	
3	増補新版 法とは何か 法思想史入門	長谷部恭男	河出書房新社																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder																			
Teams コード	vzkhcg1																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 （基準）	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題（レポート）の累計点で成績評価を行います（100%）。毎回それなりの分量のレポートを課しますので、そのつもりで受講してください。																			
学生への メッセージ	この法思想史の講義では、法思想の「古典」と呼ばれる著作を毎時間取り上げます。授業では各法思想の要点しか説明できませんので、興味のある古典作品が出てきたらぜひ積極的に読書をしてほしいと思います。時代を超えて読み継がれてきた古典作品と向き合うことは、学生の皆さんにとってきっと有意義な読書体験になるはずです。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島准教授室																			
備考	19年度 合格率92%（不受験率4%） A6% B16% C41% D29% 平均71点 133人登録																			

科目名	法社会学	科目名 (英文)	Sociology of Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3005a0		

授業概要・目的	実定法の学習が進み、条文の細かな知識が増えるにつれ、法律学や現実の社会に対するさまざまな疑問が出てくるのではないのでしょうか？ 例えば、実社会は法律の条文どおりに動いているのだろうかとか、世の中のどれくらいの紛争が裁判所に持ち込まれているのだろうか等々。この授業では、実定法の学習だけでは見えてこないような社会と法のかかわりについて、さまざまな統計データや理論を用いて検討を加えていくことで、法社会学の基本的事項を学習していきます。
到達目標	この授業を通じて学生には、経験的社会科学の方法を用いて明らかにされる、現実社会で法が実際にどのように作動しているかを認識すること、その上で、法とその他の社会現象との関係、現実にある法とあるべき法との間をどのように埋めていくかといった問題を自分自身で考えることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、新型コロナウイルス感染症への対策として、「教材・課題提供型」の方法で行います。事前に WebFolder で授業の教材、課題を配布しますので、必ず確認するようにしておいてください。課題は提出を求めます（方法については改めて指示させていただきます）。
科目学習の効果（資格）	可能なかぎり、実定法科目の理解を促進するような授業を行う予定です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法社会学とは？	授業の進め方や成績評価の方法などを説明したあと、これから学習していく「法社会学」がどのような科目であるかを簡単に解説します。その際、法社会学の基本的な参考文献を紹介します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。
2	法専門職① 裁判官	各国の法曹制度を比較しながら、日本の法曹の特色を説明していきます。まず最初に裁判官を取り上げ、彼らのおかれている状況を検討します。また、司法行政の実態については詳しく考察する予定です。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。授業を聞いて、裁判官に対する印象は変わりましたか？ 感想をまとめておいてください。	
3	法専門職② 弁護士	前回の続き。日本の弁護士について考察します。はたして弁護士は市民にとって身近な存在なのでしょうか？ さらに司法書士、弁理士、行政書士などの職業を取り上げ、その職務内容をあわせて説明します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。授業を聞いて、弁護士に対する印象は変わりましたか？ 感想をまとめておいてください。	
4	刑事事件と法① 日本の犯罪の現状	連日のように凶悪犯罪が報道され、日本の安全神話が崩壊しつつあります。しかし、本当に日本は犯罪の多い危険な社会なのでしょうか？ また昔に比べ、本当に犯罪は凶悪化しているのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと（30分）。授業内容に関心を持った学生は、授業中に紹介した本を読み、その感想を書いてください。	
5	刑事事件と法② 日本の刑事司法の現状	警察による捜査活動、検察官による起訴判断、裁判における量刑などを手がかりに、日本の刑事司法の現状とその問題点を学習します（法専門職としての検察官についてはこの回に解説します）。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。刑事訴訟法で学習したことと比較しながら、刑事司法の問題点を考えてみてください。	
6	刑事事件と法③ 刑事弁護活動	刑事司法過程において、被疑者・被告人のために活動する弁護士が実際にどのようなことを行っているかを学習します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。テレビでも映画でも書籍でも良いので、自分なりの弁護士像をイメージしておいてください。	
7	民事紛争と法① 訴訟の要因	世の中のすべての紛争が裁判所に持ち込まれるわけではありません。いったい、人々はどのような場合に訴訟を検討し始め、逆にどのような場合に訴訟を回避しようとするのでしょうか？	配布したレジュメを見直すこと（30分）。友達や恋人とけんかしたとき、皆さんはどのように解決していますか？ 考えてみてください。	
8	民事紛争と法② 紛争処理	交通事故などのトラブルを素材にして、紛争発生から紛争解決までのプロセスを学習します。またこの回の授業の中で、ADR（代替的紛争処理）についても解説します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。皆さんが交通事故の被害者や加害者になった場合、どのように振舞いますか？ 考えてみてください。	
9	民事紛争と法③ 現代型訴訟	公害訴訟や空港騒音訴訟に代表される「現代型訴訟」と呼ばれる訴訟の特徴について学習し、それらの訴訟が社会に与えたインパクトについて検討します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。通常の民事訴訟と現代型訴訟何が異なるのか、説明できるようにすること。	
10	前半の授業のまとめ	前半の授業のまとめとして、法律家や裁判の社会的機能やその限界について考察してみます（もし皆さんの方で詳しく知りたいトピックがあれば、そのテーマに基づいて講義を行う予定です）。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。第2回から第9回までの授業で、分りにくかったところをピックアップしておいてください。	
11	法社会学の理論家たち	この回の授業では少し目先を変えて、法社会学の開拓者たちを紹介します。ウェーバー、エールリッヒ、パウンドらの問題意識を理解することで、法社会学という学問分野の成り立ちを学習します。また、最も重要な社会学者の一人であるニクラス・ルーマンを取り上げ、彼が構築したシステム理論の概要を解説し、彼の目から見た近代法システムの特徴を学習します。	配布したレジュメを見直すこと（30分）。図書館でウェーバーやエールリッヒ、ルーマンの入門書や著作を手にとってみてください。	
12	日本社会と法	日本人は権利や義務の意識が希薄なの	配布したレジュメを見直すこと（30分）。比較的安	

			だろうか。あるいは、日本人は和を尊ぶ国民なので訴訟が嫌いなのだろうか。こうした日本の法文化に関する諸問題を、川島武宜の著作を手がかりに学習します。	価なので、ぜひ一度、川島武宜「日本人の法意識」を読んでみてください。																
	13	男女雇用機会均等法	日本社会における法を個別法を通じて検討します。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。六法などで男女雇用機会均等法を軽く眺めておいてください。																
	14	離婚と法	離婚は、法律が規律する中でも最も感情が表れる分野の1つといえます。そこには、社会の変化や人々の意識の変化が現れているといえます。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。関連する家族法の分野を眺めておいてください。																
	15	授業全体のまとめ	これまでの講義で論じてきた事柄を簡単に復習し、社会において法が果たすべき役割について考えてみます(可能であれば、これまでの講義で論じることができなかったトピックを補足説明する予定です)。	配布したレジュメを見直すこと(30分)。これまでの授業で理解できなかったところを、ピックアップしておいてください。																
実務経験																				
関連科目	憲法・民法・刑法の基本的知識があることが望ましいです。また隣接科目として、法哲学や法思想史など受講していただくことより理解が深まると思います。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法社会学(第3版)</td> <td>村山真維、濱野亮</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	法社会学(第3版)	村山真維、濱野亮	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	法社会学(第3版)	村山真維、濱野亮	有斐閣																	
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder																			
Teams コード	3rf0yw2																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	Teams																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																			
評価方法 (基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題(レポート)の累計点で成績評価を行います(100%)。詳細は初回の講義で説明しますが、毎回の課題についてはしっかりと取り組む必要があります。 毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。																			
学生への メッセージ	授業では具体的な事例を用いてできるだけ分かりやすく説明するつもりですが、他方で、やや抽象的な理論も取り上げる予定です。授業で理解できないところが出てきたら、遠慮なく質問に来ていただければと思います。																			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)																			
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。 毎回の提出物については、次回の授業で解説する。																			

科目名	近世日本の法文化	科目名 (英文)	Law and Culture in Tokugawa Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1006a0		

授業概要・目的	わが国の近代化は、西欧諸国の大きな影響のもとに進められた。これは法文化においても例外ではなく、わが国は多くの西欧法を継受することで、法の近代化をおしすすめてきたのである。その中で、伝統的な法文化は、一部の例外を除いて捨て去られた。しかし、近代社会が目指したものをよりよく理解するためには、それに先立つ前近代社会の事情を是非とも知っておく必要があるだろう。本講義では、日本の近世社会の種々相を明らかにしながら、そこに現れる諸個人・諸集団の軋轢や調整といった近世の法現象や法文化を紹介する。 SDGs-4,10
到達目標	この授業を通じて学生には、日本の前近代法のさまざまな特徴を知り、もって近代法や現代法との違いを認識し、現代の法が過去の反省や止揚の上に成立していることを理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	WEB 講義による説明が中心である。適宜関連する史料や参考文献等も紹介する。講義に合うよい既存の教材がないので、毎回集中して講義を聞くことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	教職課程履修者にとっては重要科目。間接的には公務員試験や諸資格試験にも繋がっている。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	幕藩体制の概観	近世社会の構造	高校教科書の江戸時代の部分をあらかじめ読んでおくこと
	2	近世の法文化	身分制社会の諸相 法の多元性	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	3	徳川の平和	幕府の支配と民衆	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	4	将軍と大名	近世の主従関係	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	5	江戸の役人世界	近世行政の特質	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	6	藩支配の多様性	お家騒動あれこれ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	7	近世社会における犯罪の種々相	八百屋お七の悲劇	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	8	近世の犯罪と法①	主殺し・親殺し・子殺し	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	9	近世の犯罪と法②	日本左衛門と鼠小僧	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	10	近世の紛争①	犯罪者の末路	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	11	近世の紛争②	土地と金をめぐる争い(1)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	12	近世の紛争③	土地と金をめぐる争い(2)	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	13	幕藩体制と公議輿論①	坂本龍馬と舟中八策	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	14	幕藩体制と公議輿論②	大政奉還と五箇条の御誓文	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと
	15	近世日本の法と社会	講義のまとめ	講義ノートと当日配布した資料を見直すこと

実務経験	
関連科目	憲法・刑法・民法などの法学科目などすべての歴史系諸科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート3回の内容で評価する。1回目(30%)、2回目(30%)、最終(40%)の合計で評価する。
学生への メッセージ	法文化史は、日本史の知識を基礎として、その上に法学的視角から歴史にアプローチしようというものであるから、最低限高校の日本史教科書程度の知識をもっていること。
担当者の 研究室等	11号館10階 牧田教授室
備考	WEB 講義後の学習として、内容をノートに整理したり、補助教材類を熟読すること。全体として15時間～20時間程度の学習が望まれる。 19年度 合格率88% (不受験率7%) A19% B21% C20% D28% 平均71点 135人登録

科目名	日本の人権の歴史	科目名 (英文)	History of Human Rights in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1007a0		

授業概要・目的	前近代社会は身分制社会であり、近代法は封建的身分や差別からの解放を重要な目標として誕生した。この授業を通じて学生には、近代に先立つ身分制社会とはどのようなものなのか、逆に近代という時代はどのようなものなのか、その意味を理解できるようになることが期待される。近世社会に生きた様々な人々の抑圧や差別、差別を克服する戦い、そういうものを学び取ってほしい。 SDGs-5, 10																																																																		
到達目標	日本における差別の起源や歴史、差別の実態を知り、その非人間性を十分理解してもらい、基本的人権の重要性を認識してもらうことが目標である。																																																																		
授業方法と留意点	Teamsを使って、講義資料を送ります。しっかり読んで、内容を理解してください。レポートで理解を確認します。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義は、教職課程履修者にとっては重要科目。また、公務員試験や各種試験にも繋がっている。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>封建法と市民法</td> <td>自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」</td> <td>西欧近代市民社会の成立について、高校教科書をあらかじめ読んでおくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中世における差別</td> <td>河原者と非人</td> <td>日本の中世史について高校教科書を読んでおくこと、講義ノート・配布資料の見直し</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>近世身分制の成立</td> <td>太閤検地と身分制</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>近世被差別部落の成立</td> <td>近世のえた身分と非人身分</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>近世の被差別民①</td> <td>えたと呼ばれた人々の生活</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>近世の被差別民②</td> <td>近世非人の実態</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近世の被差別民③</td> <td>都市の下層社会</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>身分解放の思想</td> <td>近世の解放思想と抵抗運動</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近世の人身売買</td> <td>廓の中の女たち</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>解放令の成立</td> <td>近代社会と被差別</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>娼妓の解放</td> <td>近代と人身売買</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近代の「身分」</td> <td>華族の成立</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大正デモクラシーと被差別民</td> <td>水平社運動</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>その後の解放運動</td> <td>解放運動や戦後の諸立法</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>日本の人権の歴史</td> <td>講義のまとめ</td> <td>講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、高校教科書をあらかじめ読んでおくこと	2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史について高校教科書を読んでおくこと、講義ノート・配布資料の見直し	3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	10	解放令の成立	近代社会と被差別	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと	15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	封建法と市民法	自由・平等・人権の思想 「身分から契約へ」	西欧近代市民社会の成立について、高校教科書をあらかじめ読んでおくこと																																																																
2	中世における差別	河原者と非人	日本の中世史について高校教科書を読んでおくこと、講義ノート・配布資料の見直し																																																																
3	近世身分制の成立	太閤検地と身分制	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
4	近世被差別部落の成立	近世のえた身分と非人身分	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
5	近世の被差別民①	えたと呼ばれた人々の生活	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
6	近世の被差別民②	近世非人の実態	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
7	近世の被差別民③	都市の下層社会	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
8	身分解放の思想	近世の解放思想と抵抗運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
9	近世の人身売買	廓の中の女たち	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
10	解放令の成立	近代社会と被差別	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
11	娼妓の解放	近代と人身売買	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
12	近代の「身分」	華族の成立	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
13	大正デモクラシーと被差別民	水平社運動	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
14	その後の解放運動	解放運動や戦後の諸立法	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
15	日本の人権の歴史	講義のまとめ	講義ノート・授業中の配布資料を見直すこと																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	憲法・刑法など公法系の法学科目と歴史系諸科目。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	y0r9ugb																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	Teams 内の質問チャネルか研究室メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	2回のレポート点 (50% + 50%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	高校時代に日本史を選択していることが必要。本講義は、社会科学入門の意味を持つ。歴史学だけでなく政治学・社会学・経済学などを同時に勉強することが望まれる。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																																																																		
備考	講義資料を熟読すること。講義資料を読んだ後、自分なりに関心を持ったテーマについて調べることが望まれる。 19年度 合格率 86% (不受験率 6%) A20% B33% C22% D11% 平均 74点 250人登録																																																																		

科目名	家族と地域の法社会史	科目名 (英文)	History of Family and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2008a0		

授業概要・目的	近年、女性のM字型就労、アンペイド・ワーク、ストーカー問題、少年犯罪の凶悪化、引きこもり、パラサイト・シングル問題、高齢者ホームレスの増加、年金問題など、家族をとりまく問題が次々にもちあがっている。いずれも解決に時間がかかる難題ばかりであるが、この授業では、こうした現在の家族問題を念頭におきながら、日本史の中における過去の家族問題を考察しようとするものである。、歴史の中の家族像を手がかりに、その時代の社会構造や法、あるいは地域の事情について理解を深めてほしい。 SDGs-5, 10																																																																		
到達目標	現在、家族はいろいろな意味で揺れ動いている。この授業を通じて学生には、家族をめぐるさまざまな問題の歴史的背景、現状が理解できるようになることが期待される。その上で、今後自らそういう問題に直面した時の対応や解決を考える「導きの糸」にしてもらいたい。																																																																		
授業方法と留意点	WEB 講義の形式でおこなう。適当な教科書がないので、随時史料や関連文献を紹介する。民法の親族法・相続法を選択していることが望ましいが、日本史の知識があれば、とくに家族法をとっていただくとよい。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	間接的ながら、公務員試験、各種試験に繋がっている。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>戦国期の法と社会</td> <td>政略結婚の時代</td> <td>家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>近世の都市と家族(1)</td> <td>不倫の結末</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>近世の都市と家族(2)</td> <td>「かぶき者」の時代</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>近世の都市と家族(3)</td> <td>道楽息子のなれのはて</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>近世の都市と家族(4)</td> <td>捨てられた子供たち</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>近世の都市と家族(5)</td> <td>駆け込む女たち</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近世のキャリア・ウーマン</td> <td>大奥女中の生活</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近世の家族と道徳</td> <td>儒教の中の女性</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>東と西の農村</td> <td>地域差と家族</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近世農村と同族</td> <td>本家と分家</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>東の結婚・西の結婚</td> <td>若者仲間とかけおち</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近世農村の相続</td> <td>姉家督と末子相続</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>地域と家族</td> <td>「家」の地域差</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>現代の家族</td> <td>漂流する家族の今を考える</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>おわりに</td> <td>講義のまとめ</td> <td>講義ノートを整理し、見直すこと</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。	2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートを整理し、見直すこと	3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートを整理し、見直すこと	4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートを整理し、見直すこと	5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートを整理し、見直すこと	6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートを整理し、見直すこと	7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートを整理し、見直すこと	8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートを整理し、見直すこと	9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートを整理し、見直すこと	10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートを整理し、見直すこと	11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートを整理し、見直すこと	12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートを整理し、見直すこと	13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートを整理し、見直すこと	14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートを整理し、見直すこと	15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートを整理し、見直すこと
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	戦国期の法と社会	政略結婚の時代	家族をとりまくさまざまな問題に対する関心をもつこと。																																																																
2	近世の都市と家族(1)	不倫の結末	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
3	近世の都市と家族(2)	「かぶき者」の時代	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
4	近世の都市と家族(3)	道楽息子のなれのはて	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
5	近世の都市と家族(4)	捨てられた子供たち	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
6	近世の都市と家族(5)	駆け込む女たち	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
7	近世のキャリア・ウーマン	大奥女中の生活	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
8	近世の家族と道徳	儒教の中の女性	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
9	東と西の農村	地域差と家族	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
10	近世農村と同族	本家と分家	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
11	東の結婚・西の結婚	若者仲間とかけおち	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
12	近世農村の相続	姉家督と末子相続	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
13	地域と家族	「家」の地域差	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
14	現代の家族	漂流する家族の今を考える	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
15	おわりに	講義のまとめ	講義ノートを整理し、見直すこと																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	「近世日本の法文化」、「日本女性史」、民法、憲法など。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	レポート3回の成績による。1回目 (30%)、2回目 (30%)、最終 (40%) の合計で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	日本史に関心のある諸君の選択を希望する。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																																																																		
備考	少なくとも1時間はかけてノートを整理したり、プリン類トを熟読することが望まれる。全体で講義後15時間～20時間の自宅学習が望ましい。 19年度 合格率70% (不受験率4%) A4% B14% C26% D25% 平均62点 276人登録																																																																		

科目名	日本女性史	科目名 (英文)	History of Women in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2009a0		

授業概要・目的	高校の日本史教科書に登場する女性は、ごくわずかである。江戸時代では、出雲の阿国、皇女和宮、東福門院和子、明正天皇、後桜町天皇くらいである。これまでの日本史教育では、女性が何を考えてどう生きたか、ということはほとんど捨象されてきたといつてよい。この講義では、戦国期から近世のさまざまな女性像に焦点をあて、時代の中で奮闘し、悩み、楽しんだ女性の姿を紹介してみたい。 SDGs-5, 10																																																																		
到達目標	男女共同参画基本法や雇用機会均等法などによって、女性の差別的扱いを克服するのは、現代社会の喫緊の課題である。社会のあらゆる場面での男女の平等が求められているのである。この授業を通じて学生は、日本における女性差別の根源がどういうところにあり、それが現代にも大きな影を落としている様を理解すること、そして現代の法の目標とするところをよりよく理解できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	Teams を使って、講義資料や史料、関連文献を送信するので、みずから資料を熟読して理解を深めてもらいたい。レポートを2回課し、理解度を確かめる予定である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	「男女共同参画社会」に生きる男女すべてにとって必要な教養といえる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>女性史とは</td> <td>国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法</td> <td>男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中世の女性</td> <td>中世社会と女性の地位</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>戦国時代の女性①</td> <td>政略結婚の時代</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>戦国時代の女性②</td> <td>領国を支える女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>近世の女性①</td> <td>儒教と女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>近世の女性②</td> <td>武家の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>近世の女性③</td> <td>大奥の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近世の女性④</td> <td>町人社会の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近世の女性⑤</td> <td>長屋の中の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近世の女性⑥</td> <td>幕末の「お稽古事」事情</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近世の女性⑦</td> <td>江戸の娘たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近世の女性⑧</td> <td>天保改革と女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近世の女性⑨</td> <td>遊郭の女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近世の女性⑩</td> <td>幕末の動乱と女たち</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>近代の女性</td> <td>明治・大正期の女性</td> <td>講義ノート・レジュメの見直し</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し	2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し	3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し	4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し	5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し	6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し	7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し	9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し	11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し	12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し	13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し	14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し	15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	女性史とは	国連女子差別撤廃条約、男女共同参画基本法ほか最近の諸立法	男女共同参画について、日々関心を持つようにしよう。講義ノート・レジュメの見直し																																																																
2	中世の女性	中世社会と女性の地位	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
3	戦国時代の女性①	政略結婚の時代	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
4	戦国時代の女性②	領国を支える女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
5	近世の女性①	儒教と女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
6	近世の女性②	武家の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
7	近世の女性③	大奥の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
8	近世の女性④	町人社会の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
9	近世の女性⑤	長屋の中の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
10	近世の女性⑥	幕末の「お稽古事」事情	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
11	近世の女性⑦	江戸の娘たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
12	近世の女性⑧	天保改革と女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
13	近世の女性⑨	遊郭の女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
14	近世の女性⑩	幕末の動乱と女たち	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
15	近代の女性	明治・大正期の女性	講義ノート・レジュメの見直し																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	「近世日本の法文化」「家族と地域の法社会史」																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	71b5a62																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	Teams 内の質問チャネルか研究室メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	レポート2回の評価 (50%+50%) の合計点で判定する。																																																																		
学生へのメッセージ	日本史、女性史、現代の女性問題などに興味をもっている諸君が選択することを期待する。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																																																																		
備考	送信配布した内容を熟読すること。全体として15～20時間の自宅学習が望ましい。 19年度 合格率93% (不受験率3%) A20% B34% C21% D18% 平均77点 214人登録																																																																		

科目名	祭りと地域の法社会史	科目名 (英文)	History of Feast and Community in Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3010a0		

授業概要・目的	現在、多くの自治体では「地域おこし」の手段として、伝統的にその地域に伝わる祭礼（岸和田だんじり祭・博多祇園山笠など）や、近年になって新規に始められたイベント（各地のよさこいソーラン祭など）が利用されています。しかし、そこには「政教分離」をどうするか、そこに自治体としてどう関わるか、町の空洞化による後継者不足、資金難、文化財的価値と観光化との矛盾など、多くの問題点を抱えています。この講義では、祭りの歴史・存在構造・現在の問題点などを紹介し、考察する予定です。 SDGs-4,11
到達目標	この授業を通じて学生は、祭りやイベントをめぐって、過去にどのような問題があり、現代どのような問題が生じているかを理解し、その上で、今後何らかの形でそのような問題に直面する立場に置かれた時適切な対処ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	WEB 講義形式であるが、随時レジュメ・資料を紹介するので、理解の一助としたい。自ら各地の祭りに出かけ、その問題性を発見することも望まれる。
科目学習の効果 (資格)	旅行業務取扱主任など関連する資格がないわけではないが、それよりも自治体職員・警察官・議員・教員には実践的に必要な教養。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	祭りとは	祭り・祭礼・イベントの違い	日本の伝統文化に対する幅広い興味を持つこと。講義ノートやレジュメの整理、見直し
	2	祭礼の出現と都市文化	京都祇園祭の意義	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	3	近世社会と祭礼 (1)	城下町祭礼の出現	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	4	近世社会と祭礼 (2)	東照宮祭礼にみる権力と民衆	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	5	近世社会と祭礼 (3)	祭りと騒乱	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	6	近代社会と祭り (1)	伝統と変革の相克	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	7	近代社会と祭り (2)	祭りと天皇制	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	8	伝統の祭りと現代 (1)	祇園祭がかかえる問題性	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	9	伝統の祭りと現代 (2)	祭りとジェンダー	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	10	伝統の祭りと現代 (3)	暴走族と祭り	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	11	伝統の祭りと現代 (4)	文化財の保存と観光化	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	12	地域おこしとイベント (1)	地方自治体と地域おこし	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	13	地域おこしとイベント (2)	神戸祭とよさこいソーラン祭	講義ノートやレジュメの整理、見直し
	14	祭りと憲法	祭りをめぐる政教分離原則と自治体	講義ノートやレジュメの整理、見直し
		おわりに	講義のまとめ	講義ノートやレジュメの整理、見直し

実務経験	
関連科目	日本史・社会学・美術史・地理学・近世日本の法文化・憲法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート3回の成績による。1回目 (30%)、2回目 (30%)、最終 (40%) の総合による。
学生への メッセージ	京都の祇園祭、大阪天神祭、岸和田だんじり祭など、関西には有名な祭りが目白押しである。こうした祭り、あるいは自分の郷里の祭りなどをおして、今現在地域が抱えている問題を考えてみてほしい。
担当者の 研究室等	11号館10階 牧田教授室
備考	講義後、ノートを整理し、資料を熟読すること。全体として15～20時間の自宅学習が望ましい。 19年度 合格率 86% (不受験率 3%) A8% B23% C23% D32% 平均 69点 128人登録

科目名	西洋の人権の歴史	科目名 (英文)	History of Human Rights in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1011a0		

授業概要・目的	日本は、明治維新の後、近代化をなしとげるために西洋社会から多くの文化を取り入れました。この授業では、西洋社会がはぐくんだ法文化の歴史的基礎について、法と社会との関係に重点をおいて考察します。特に焦点をあてるのは、西洋(フランス、ドイツを中心に)における人権保障のありかたとその歴史的变化です。
到達目標	この授業を通じて学生には、西洋社会が現代のわたしたちに伝える重要な文化である、西洋の法の歴史・そして人権の歴史についての基本知識を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	毎回1～2枚程度のレジュメや資料等を配布します。毎回の授業の最後に小テストなどの課題に取り組んでもらいます。また授業中課題として中間レポートを予定しています。詳細は初回の授業時に説明します。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。
科目学習の効果(資格)	教職科目(中学社会・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養(SPI対策)としても有益です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに—近代日本における西洋文化の受容	明治政府・近代化・お雇い外国人	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	2	西洋法史の全体像① 前近代—ユスティニアヌス法典が生まれて復活するまで(6世紀～12世紀)、その後の法・法学の発展	ユスティニアヌス法典(ローマ法大全)の成立。ローマ法学の復活・ポロニア大学法学部の成立・ローマ法の継受	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	3	西洋法史の全体像② 近代以降—フランス革命、そして近代市民社会の到来と法	18世紀末以降の社会の変化と法の姿についての概観	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	4	中世ヨーロッパ社会と法。(12～15世紀)	身分制社会の基本原則としての「不平等」・特権としての「自由」、市民と農民の姿。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	5	自然法思想(17世紀)	人権の萌芽 近世自然法、グロティウス	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	6	啓蒙の時代(18世紀)	社会契約論、ルソー 啓蒙期の法典編纂事業、他	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	7	フランス革命と人権宣言(1789年)	フランス革命の概要・フランス人権宣言の特徴	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	8	ナポレオンと近代市民法—フランス民法典(1804年)	フランス民法典の成立過程、その特徴(フランス民法典における「人」、近代市民社会)	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	9	19世紀フランスの社会と法(1)	19世紀前半のフランスの社会、都市の貧困・衛生問題の発見	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	10	19世紀フランスの社会と法(2)	19世紀後半のフランス社会、選挙権獲得をめぐる動き	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	11	法典論争(1814年)と歴史法学派	1814年にサヴィニーとティボーの法典論争/歴史法学派	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	12	ドイツ民法典(1896年)の成立	ドイツ民法典の成立過程、その特徴(ドイツ民法典における「人」など)	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	13	20世紀前半—フランス・ドイツを中心に	現代型憲法としてのワイマール憲法/人権の抑圧—ホロコースト、占領下のフランス	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
	14	20世紀後半—1960年代以降	女性解放運動の波。第1の波(19世紀末～20世紀初頭)、第2の波(1960年代以降)/家族法の改革	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
15	授業のまとめと復習—21世紀における人権保障	21世紀における人権保障の課題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4時間)	

実務経験																	
関連科目	西洋の裁判の歴史、西洋女性史																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概説西洋法制史</td> <td>勝田有恒 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ローマ法とヨーロッパ</td> <td>ピーター・スタイン</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	概説西洋法制史	勝田有恒 他	ミネルヴァ書房	2	ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房	3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	概説西洋法制史	勝田有恒 他	ミネルヴァ書房													
	2	ローマ法とヨーロッパ	ピーター・スタイン	ミネルヴァ書房													
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	定期試験(予定)60%と、授業事の提出物(授業内容に関する小テストやレポートなど)40%によって総合的に評価します(詳細は初回の講義で説明します)。																
学生への メッセージ	できれば、高校の世界史教科書の「ヨーロッパ史」の部分を復習しておきましょう。わからない点は気軽に質問してください。																
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)																
備考	各授業の最後に実施する課題(小テストなど)の解答は、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。																

科目名	西洋の裁判の歴史	科目名 (英文)	History of Trial in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1012a0		

授業概要・目的	西洋社会における法と裁判の歴史について、主に刑事裁判の歴史を概説します。古代から現代までの裁判制度と著名な裁判を取りあげていきます。裁判に関する図像資料を授業に取り入れるなど、できるだけ具体的なイメージをもてるよう工夫します。裁判に関する基礎知識の修得の機会として、また市民が裁判に参加する意義を考える場として役立ててもらいたいと思います。
到達目標	授業を通じて学生には、西洋社会における裁判制度の歴史と著名な裁判に関わる基礎知識を修得することが期待されます。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配信型の講義形式で行います。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにもまとめるよう努力しましょう。各授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストや小レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。授業方法の詳細は、初回の授業で説明します。
科目学習の効果(資格)	教職科目(中学社会科・高校公民・高校地歴)に必要です。公務員試験や就職試験の一般教養(SPI対策)としても有益です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	序論-日本と西洋の裁判の比較	授業内容の概説、裁判や権利に関する制度の相違、歴史的な変化についての概要	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	古代ゲルマンの裁判-裁判集発見モデル	裁判集。水審・火審・決闘などの神判の利用。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	中・近世の裁判(1)	教会裁判所、職業裁判官による裁判。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	中・近世の裁判(2)	刑事裁判の変化、糾問主義の成立、拷問・自白の強要。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	中・近世の裁判(3)	フランス・ドイツの魔女裁判の考察。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	中・近世の裁判(4)	国王裁判所、18世紀の冤罪事件・カラス事件。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	イングランドにおける裁判(1)	ノルマン征服後、国土支配の道具として導入された陪審制。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	イングランドにおける裁判(2)	起訴陪審・判決陪審。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	フランス革命と裁判(1)	フランス革命期における裁判制度改革。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	フランス革命と裁判(2)	フランス革命期に導入された陪審制の特徴とその後の変化。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	19世紀の裁判(1)フランス	多様な法律職 / 小説の中で描かれる裁判や法律家たち	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	19世紀の裁判(2)フランス	ドレフェス事件-19世紀末のフランスで起こった軍部による組織的な冤罪事件。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	19世紀の裁判(3)ドイツ	陪審制から参審制の移行について(19世紀のドイツを中心)。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
14	20世紀の裁判-白バラ事件	ナチスへの抵抗として大学内でピラを配布した学生たちを裁いた民族裁判所。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
15	21世紀への展望-復習とまとめ	市民が裁判に参加する制度の国際比較。全体のまとめと復習。	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4時間)

実務経験

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋女性史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒 他	ミネルヴァ書房
	2	決闘裁判 ヨーロッパ法精神の原風景	山内進	講談社
	3	正義の女神の秤から	F・ハフト	木鐸社
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Teams「オンライン型」			
Teams コード	b4mnu0o			
Moodle コース名 および登録キー	西洋裁判歴史 JSAI20			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内課題(小テスト、小レポート等)40%と期末試験(レポート、他)60%によって総合的に評価します。詳細は初回の講義で説明します。			
学生への メッセージ	歴史科目が苦手だったという人もふるって履修してください。わからない点は、気軽に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	各授業の最後実施する授業内課題の解答は、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。			

科目名	西洋女性史	科目名 (英文)	History of Women in Western Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小宮山 直子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2013a0		

授業概要・目的	西洋社会における女性の地位の歴史について概説します。西洋史のなかの注目すべき女性たちの生涯と権力との関連、及び女性にかかわる事件・事項について、具体的なイメージがわくようにパワーポイントなどを利用して講義します。
到達目標	この授業を通して学生には、西洋の中世から現代までの各時代・各社会における女性の地位と法の関わりについて、歴史の大きな流れを踏まえて説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	基本は教材・課題配信型の講義形式で行います。受講生の皆さんは、講義内容をしっかりとノートにもまとめるよう努力しましょう。授業の最後に、学習した内容の復習と知識の定着のために小テストやミニ・レポート作成の機会を設けます。授業の進行にあわせて、2回分のテーマを1回にまとめることもあります。授業方法の詳細(オンライン型の一部活用(予定)など)は、初回の授業で説明します。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や企業採用試験の一般教養科目対策として有益である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業全体の目的 西洋社会における女性像の原点	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
2	前近代と近代の社会と法	西洋における前近代と近代の社会と法のあり様・変化を概観する	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
3	中世～近世の女性(1) 中世・封建社会における女性	12世紀、フランス王妃その後イングランド王妃となったアリエノール・ダキテーヌを通して、中世封建制度を考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
4	中世～近世の女性(2) 百年戦争とジャンヌ・ダルク(フランス)	百年戦争の末期に登場・活躍したジャンヌ・ダルク。その処刑裁判を考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
5	中世～近世の女性(3) 宗教改革と女性	ヘンリー8世とアン・ブーリン: 国王の離婚問題を契機とするローマ教会との決別、国王至上法などを考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
6	中世～近世の女性(4) 女性の身体と法	女性の身体に関わる問題を通して、近世フランスにおける法の一側面を考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
7	啓蒙主義の時代と女性	サロン文化とボンパドゥール夫人。近代市民社会の萌芽。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
8	フランス革命と女性(1)	フランス革命における女性たち。王妃マリー・アントワネット、他	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
9	フランス革命と女性(2)	グージュと女性の権利宣言、スタール夫人	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
10	フランス民法典—近代市民法と家父長制	民法典起草の意図。 フランス民法典のなかの女性・近代的家父長制の特徴を考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
11	19世紀フランス社会と女性(1)	19世紀のブルジョア女性の活動・主婦の誕生について、フランスを中心に考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
12	19世紀フランス社会と女性(2)	19世紀の労働者(女性を中心に)・衛生問題について、フランスを中心に考察する。	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
13	20世紀における女性(1) 19世紀末～20世紀初頭、第一次フェミニズム運動の展開	女性参政権獲得をめぐる運動、女性の社会進出とモード	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
14	20世紀における女性(2) 第2次フェミニズム運動	女性解放の進展、シモーヌ・ヴェイユ(国家と女性の身体の問題)	事前:授業のテーマに関連する文献(参考文献・資料など)を読んでおく。(2時間) 事後:今回のレジュメ及び資料を見直して、授業のポイントを確認・整理する。(2時間)
15	全体のまとめ	21世紀グローバル社会での女性問題	これまでのレジュメ及び資料を見直して、授業の全体像を再確認・整理する。重要キーワードについては、自分の言葉で説明できるよう整理する。(4時間)

実務経験

関連科目	西洋の人権の歴史、西洋の裁判の歴史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説西洋法制史	勝田有恒他	ミネルヴァ書房
	2	ジェンダーの比較法史学	三成美保編	大阪大学出版会
	3	法制史入門	岩村・三成著	ナカニシヤ出版
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle/Teams「オンライン型」			
Teams コード	zd36f91			
Moodle コース名 および登録キー	西洋女性史 JFEM20			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業内課題(小テスト、小レポート等)50%と期末試験(レポート、他)50%によって総合的に評価します。詳細は初回の授業で説明します。			
学生への メッセージ	楽しく教養を深めるのに役立つ授業です。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)			
備考	各授業の最後に実施する課題の解答例などは、次の授業で解説します。 参考文献は、授業の中で随時紹介します。			

科目名	英米法	科目名 (英文)	Anglo-American Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3014a0		

授業概要・目的	日本で生活していくうえで、他国の法制度の知識が役に立つことはあまり多くないかもしれませんが、しかし、他国の法制度を学ぶことは、日本の法制度に対する理解を深め、さまざまな法的問題の解決法を探ることにもつながります。そこでこの講義では、日本の法制度にも大きな影響を与えている英米法の基礎概念とアメリカの法制度を学んでいただきたいと考えています。講義では、英語の文献を参照することもありますし、映画などの映像資料も多用します。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、アメリカ法の特徴を理解し、憲法および民事法、陪審制度といったアメリカの法制度の全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書を使用せず、配布するレジュメを基に講義をおこないます。単位取得のためには毎回の講義内容を理解することが必須だと考えてください。各講義前にレジュメを配布しますので、講義前に目を通しておいてください。講義では、レジュメにつき解説を加えます。前期授業期間中の社会状況によっては、授業の手法を変更することがあります。また、講義内容についても、受講生の皆さんの理解度によっては多少変更することがあります。なお、講義においては、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細はMicrosoft Teamsの「
科目学習の効果 (資格)	英米法の基本的な考え方、アメリカの歴史や社会、法制度についての知識を得ることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに 訴訟社会、アメリカ?	この講義の内容や目的、講義の進め方について 訴訟社会といわれるアメリカの裁判について	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと。
	2	英米法とは	英米法の歴史と、アメリカ合衆国の生い立ち、その法体系	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	3	判例法とは (1)	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	4	判例法とは (2)	アメリカ法の特徴である判例法主義について、具体的な事例を基に学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	5	アメリカの憲法 (1)	アメリカにおける連邦と州の関係とそれぞれの権限について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	6	アメリカの憲法 (2)	アメリカ大統領の権限および大統領選挙について学ぶ	次回の講義までに、今回の講義内容を見直して、疑問点や不明点を確認しておくこと
	7	アメリカの憲法 (3)	アメリカの憲法 (権利章典) に関する判例を読む	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	8	銃問題アメリカの抱える問題 (1)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	9	銃問題アメリカの抱える問題 (2)	映画『ボウリング・フォー・コロンバイン』を通してアメリカの銃問題について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	10	アメリカの民事訴訟 (1)	アメリカの民事裁判手続きに採用されているディスカバリー (証拠開示手続き)、クラスアクション (集団代表訴訟) について	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	11	アメリカの民事訴訟 (2)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	12	アメリカの民事訴訟 (3)	映画 "Hot Coffee" を題材に、アメリカの民事裁判と懲罰的損害賠償について学ぶ	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	13	アメリカにおける市民の司法への参加 (1)	映画 "Hot Coffee" からわかるアメリカの陪審制度	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	14	アメリカにおける市民の司法への参加 (2)	アメリカの民事・刑事陪審制度、アメリカの陪審制度と日本の裁判員制度の比較	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
	15	おわりに	これまでの講義のまとめ	全講義を通して疑問や不明点がないか確認したうえで講義に臨むこと。
実務経験				

関連科目	国際関係の科目、英語系の科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代アメリカ法入門	丸田隆	日本評論社
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内で課す課題（ペーパーなど）への取り組みを50%程度、学期末に課すレポートの成績を50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	アメリカや英語に興味があり、積極的に学ぼうという姿勢を持つ学生（他学部在学生を含む）を歓迎します。授業中は私語を慎んでください。講義内容は、進行具合や受講生の様子によっては変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	課題については、次の回の授業で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20時間			

科目名	憲法概論	科目名 (英文)	Introduction to Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1015a0		

授業概要・目的	憲法の基本原則、基本的人権部分の総論的な領域をとりあつかいます。憲法 I (基本的人権) ではとりあげない領域もここに含まれますので、憲法を全体として習得したい人はこの講義をまずしっかりと勉強する必要があります。
到達目標	この授業を通じて学生には、基本的人権・統治機構、その他数多くある人権や権利に関連する法律を理解するために不可欠の土台を形成することになることが期待される。憲法は、各項目の理解のしやすさに関し、基本原則の理解が重要になります。
授業方法と留意点	動画配信による遠隔講義によって行います。 事前に公開されるレジュメの印刷や、教科書の入手などしておいていただくと講義の理解がより進むと思われます。
科目学習の効果 (資格)	様々な資格試験および公務員試験の基礎となります。 また、公務員の場合は就職後に警察学校などで科目となる場合があります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・憲法総論	ガイダンス・憲法の位置づけ	予習：教科書の目次を一通り読んでおく(10分)。 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(20分)
2	憲法の基本原則	近代憲法に不可欠の要素につき学ぶ	予習：教科書の1、2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
3	憲法の歴史	近代憲法の形成の歴史、日本国憲法史について学ぶ	予習：教科書の1、2を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
4	人権の到達範囲	人権保障の及ぶ範囲について学ぶ	予習：教科書の6を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
5	人権の享有主体	外国人の人権保障について学ぶ	予習：教科書の4、5を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
6	人権保障の限界	人権保障の限界の問題について学ぶ	予習：教科書の3を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
7	憲法13条の内容	13条の二つの側面について学ぶ	予習：教科書の8、9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
8	包括的基本権としての13条	幸福追求権としての13条のしくみについて学ぶ	予習：教科書の8、9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
9	新しい人権(1)	プライバシー権・名誉の権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
10	新しい人権(2)	肖像権・環境権などその他新しい権利について学ぶ	予習：教科書の9を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
11	法の下での平等(1)	法の下での平等について、歴史的経緯から学ぶ	予習：教科書の10を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
12	法の下での平等(2)	法の下での平等について、特に日本国憲法14条の内容について学ぶ	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
13	法の下での平等(3)	法の下での平等についての裁判例を学ぶ(1)	予習：教科書の11を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
14	法の下での平等(4)	法の下での平等についての裁判例を学ぶ(2)	予習：教科書の12を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)
15	精神的自由総論	精神的自由とはいかなるものか、内心の自由までを学ぶ	予習：教科書の1を読んでおく(20分) 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う(60分)

実務経験	
関連科目	憲法 I、憲法 II と深く関連します。また後期配当の憲法 I (基本的人権) を理解するためにはこの講義の受講・習得が重要になります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義ごとに課す課題 50%、期末のレポートもしくは試験(受講環境によって変わります)50%で採点します。
学生への メッセージ	講義の進め方、評価について詳細な説明をしますので初回の講義には必ず出席すること。
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室
備考	講義情報を twitter にて発信していきます。それほど頻繁ではありません。期待しないでください(@toruukita) 教科書は後期開講の憲法 I(基本的人権)と共通です。 課題ペーパーの解答については、次回講義最初にて解説を行います。 19年度 合格率 82% (不受験率 0%) A5% B21% C26% D29% 平均 68 点 225 人登録

科目名	憲法 I (基本的人権)	科目名 (英文)	Constitutional Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2016a0		

授業概要・目的	基本的人権領域における重要な部分としての具体的な人権規定を学んでもらいます。個別の人権規定についての理解が深まる。「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行っていきます。本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておくことが望ましいです。
到達目標	この授業を通じて学生には、「憲法概論」で学んだ人権の総論的な考え方を、個別の人権条項についての各論に反映させて理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	動画配信を用いた遠隔講義によって行います。事前に公開されるレジュメの印刷や、教科書の入手などとしておいていただくと講義の理解がより進むと思われます。
科目学習の効果 (資格)	憲法はあらゆる公務員試験および公務員として働き始めてからも科目として設定されることが多いです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・内心の自由	講義概要の説明と精神的自由の基礎となる思想・良心の自由について学ぶ	予習：教科書の目次を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	2	信教の自由	宗教に関する個人の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	3	政教分離	日本国憲法における国家と宗教の関係について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	4	表現の自由(1)	表現の自由の価値について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	5	表現の自由(2)	報道の自由・インターネットにおける表現の問題について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	6	表現の自由(3)	集会・結社の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	7	学問の自由	先端科学技術と学問の自由について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	8	経済的自由(1)	経済活動における権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	9	経済的自由(2)	具体的な経済的自由の保障と規制について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	10	財産権	所有と財産に関する権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	11	生存権	社会権としての生存権について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	12	教育を受ける権利	公教育における国民の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	13	労働基本権	労働者の権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	14	法定手続の保障	憲法 31 条の保障する内容について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。
	15	刑事手続に関する権利	32 条以下の具体的な権利について学ぶ	予習：教科書の該当項目を読んでおく(20分)。復習・学習：講義ノートふり返り。ある場合は課題を完成させる(60分)。

実務経験	
関連科目	憲法概論、憲法 II その他あらゆる法律科目。憲法概論とは内容的な連続性もあります。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間	井上典之編	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	憲法 I(基本的人権) 2020ukhr
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題(40%)、期末レポート(60%)により評価します。
学生への メッセージ	憲法概論も履修しておいてください。
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室
備考	「憲法概論」を履修していることを前提にして講義を行う部分もありますので本科目を受講する学生は前期憲法概論も登録しておいてください。 確認ペーパーの解答については次回講義にて解説を行います。 19年度 合格率78% (不受験率0%) A5% B18% C28% D28% 平均64点 148人登録

科目名	憲法Ⅱ（統治機構）	科目名（英文）	Constitutional Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー（DP）	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2017a0		

授業概要・目的	本講義では、憲法Ⅰ（基本的人権）で習得した知識を土台として、基本的人権と並ぶ憲法の重要な構成要素である統治機構について学習してもらいます。憲法の統治機構の基本的な部分、応用への足がかりまでを学習することを目的としています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日本国憲法の採用する様々な制度を理解し、全体としての統治システムの構造と作用を把握するところにあります。その上で、統治に関する憲法の規定が、単に国家の構成について定めただけではなく、憲法で掲げられる基本的人権などの重要な価値を保障するための組織を作り上げるものであるということを理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	動画配信を用いた遠隔講義によって行います。 事前に公開されるレジュメの印刷や、教科書の入手などしておいていただくと講義の理解がより進むと思われます。
科目学習の効果（資格）	司法試験、公務員試験などの試験科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	・講義の概要説明	予習：指定教科書の目次に目を通しておく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
2	統治機構総論	・権力分立概論 ・民主主義概論	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
3	立法と行政(1)	・議院内閣制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
4	立法と行政(2)	・国会の性格、地位	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
5	立法と行政(3)	・内閣を頂点とする行政権の仕組み	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
6	司法権(1)	・裁判所の役割	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
7	司法権(2)	・違憲審査	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
8	司法権(3)	・憲法裁判	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
9	平和主義(1)	・憲法9条の解釈について	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
10	平和主義(2)	・自衛隊の憲法適合性、日本の安全保障	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
11	憲法改正	・現代における憲法改正論議	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
12	憲法保障	・憲法保障のシステムについて	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
13	天皇制	・日本国憲法における象徴天皇制	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
14	地方自治	・憲法上の地方自治	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）
15	まとめ	・まとめ	予習：講義該当部分の教科書を読んでおく（20分） 復習・学習：講義ノートふり返り、課題ペーパーのある場合はそれも行う（60分）

実務経験	
------	--

関連科目	行政法や国際法といった実定法領域のほか、政治学、行政学などひろく政治学の領域へと学習を展開する基礎となります。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新・エッセンス憲法	安藤高行編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義ごとに課される課題 50%、期末の試験もしくはレポート(受講環境によって変わります)50%で評価します。
学生への メッセージ	基本的人権だけでなく、統治機構も理解することで憲法の勉強を完成させましょう。
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室
備考	確認ペーパーの解答については次回講義冒頭にて解説します。 19年度 合格率 79% (不受験率 0%) A7% B20% C16% D36% 平均 65点 123人登録

科目名	行政法総論	科目名 (英文)	Administrative Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2018a0		

授業概要・目的	私たちの生活や新聞で目にする多くの事柄には、さまざまな行政活動や行政サービスが関わっています。行政法とは、そのような多岐にわたる行政の活動・サービスの根拠や仕組みを規律する法規の総称です。この授業では、行政プロセスを規律する法的な仕組み、ルールとしてのどのようなものがあるか、具体例に即して学んでもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、 (1) 具体例に即して、行政法の基本原則・原則を理解する。 (2) 具体例に即して、行政法の基本的な制度・仕組みを読み解く能力を習得する。 (3) 具体的問題について、行政法の原則、制度をもとに思考・処理する力を身につける。 ことが期待される。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画を見てください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 思考の促進、理解の確認のために学生に対して質疑応答を求めます。事前に教科書の該当箇所を読んで予習する
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や、行政書士その他の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政法の意義	授業・試験方法、成績評価などの説明。 行政法と社会の関わりを解説する。	事前学習：教科書 Chapter 1 をあらかじめ読んでおくこと (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
2	法律による行政の原理	法律による行政の原理 (法治国原理) の考え方や、その派生原理を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 2 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
3	行政法の一般原則 (1)	比例原則を中心に、法治国原理に基づく一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 3 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
4	行政法の一般原則 (2)	説明責任を中心に、市民参加に関する一般原則を学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 4 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
5	行政行為 (1)	行政行為の基本的考え方、種類、内容に関するルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 5 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
6	行政行為 (2)	行政裁量について基本的考え方とその審査の仕方を学ぶ。	事前学習：事前配布資料をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
7	行政手続	行政手続の基本的な考え方、具体的なルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 6 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
8	行政基準	行政基準にどのようなものがあるか、どのような働きをするか。	事前学習：教科書 Chapter 7 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
9	行政計画	都市計画を中心に、行政計画の基本的な内容とそれを巡るルールを学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 8 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
10	行政指導	行政指導の特徴と、その法的な規律について学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 9 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を整理、要約する (2 時間)。
11	事実行為	事実行為の特徴とその働きについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 10 を事前にあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
12	行政上の義務履行確保	代執行制度を中心に義務履行の基本的仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 11 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
13	情報公開法	情報公開制度の基本的考え方と仕組みについて学ぶ。	事前学習：教科書 Chapter 12 をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
14	行政組織法	行政組織の基本構造、ルールについて学ぶ。	事前学習：配布資料をあらかじめ読む (2 時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する (2 時間)。
15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる。	事前学習：配布資料をあらかじめ読む。これまでで

				分で整理・要約したノート類を読み返す(2時間)。 事後学習：講義・教科書の内容を見直し、整理、要約する(2時間)。
実務経験				
関連科目	憲法, 民法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	社会とつながる行政法入門	大橋洋一	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	行政法 I 現代行政過程論	大橋洋一	有斐閣
	2	グラフィック 行政法入門	原田大樹	新世社
	3	行政法判例 50!	大橋真由美ほか	有斐閣
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題：40% ・ミニツペーパー：30% ・小テスト(オンラインで実施予定)：30% *各項目の内容について詳しい説明は授業初回に行います。			
学生への メッセージ	公務員志望, 社会問題に関心のある学生の受講を歓迎します。			
担当者の 研究室等	未定			
備考	演習課題は次回の授業で解説する。			

科目名	行政法各論	科目名 (英文)	Administrative Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2019a0		

授業概要・目的	国家の活動により損害・損失を被った市民には、さまざまな救済の手段・仕組みが準備されており、法治国原理の実現が企図されています。この授業では、そのような仕組み・ルールである行政救済法の基本について学んでもらいます。
到達目標	この講義を通じて、学生には以下の3点を身につけることが期待されます。 (1) 行政救済法にはどのような仕組みがあるか理解し、それぞれの特徴を説明する能力。 (2) 行政訴訟上の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。 (3) 国家賠償・損失補償の具体的問題として典型的にどのようなものがあるかを理解し、これを解決するための考え方。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画を見てください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 行政法総論を受講済みであることが前提とされます。基本的には講義形式で行います。思考の促進、理解の確認

科目学習の効果 (資格)	公務員試験、行政書士や宅建など各種の資格試験で問われる行政法の基礎学力の習得。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 行政救済法とは	授業方法、期末テスト、評価方法について冒頭で説明する。 行政法における事後的救済制度(行政訴訟、国家賠償、損失補償)の概観としてどのようなものがあるかを学ぶ。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
2	取消訴訟の訴訟要件(1)	取消訴訟の要件である処分性の基本的理解について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
3	取消訴訟の訴訟要件(2)	原告適格を中心とする訴訟要件について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
4	取消訴訟の訴訟要件(3)	(1),(2)で扱わなかった訴訟要件についてまとめて扱う。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
5	取消訴訟の審理・判決	取消訴訟の本案審理の基本的仕組みと判決の効力について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
6	無効等確認訴訟	取消訴訟と異なる無効確認の特徴について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす。
7	不作為違法確認訴訟	不作為の違法確認訴訟の特徴と基本的仕組み。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
8	義務付け訴訟	義務付け訴訟の特徴と基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
9	仮の救済制度	仮の救済制度の基本的仕組みと働きについて	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
10	当事者訴訟・民衆訴訟	抗告訴訟とは異なる訴訟の特徴と基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす。
11	行政の不服申立てについて	訴訟以外の救済制度を行政不服審査法を中心として学ぶ。	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
12	国家賠償訴訟(1)	国家賠償訴訟の基本的考え方、国家賠償法1条の基本問題	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
13	国家賠償訴訟(2)	国の営造物による損害に対する賠償制度について	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
14	損失補償	適法な国家活動による損失の補償についての基本的仕組み	事前：配布レジュメをあらかじめ読む(2時間)。 事後：講義・教科書の内容を整理・要約し、見なおす(2時間)。
15	総括	これまでの講義のまとめ	事前：配布レジュメをあらかじめ読む。これまで整理・要約したノート類を見返す(2時間)。 事後：演習課題に取り組んだうえで、見なおす(2時間)。

実務経験	
関連科目	民事訴訟法の理解が必要になるので、履修済みか並行して履修することが望ましいです。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	社会とつながる行政法入門	大橋洋一	有斐閣
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	行政法判例50!	大橋真由美ほか	有斐閣
	2	行政法 II 現代行政救済論	大橋洋一	有斐閣
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	cb3ha50			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・演習課題：40% ・ミニツツペーパー：30% ・小テスト(オンラインで実施予定)：30% 			
学生への メッセージ	公務員志望者、社会問題に関心のある方の受講を歓迎します。			
担当者の 研究室等	笛木講師室(11号館9階)			
備考	演習課題の正解は次回の授業で解説する。			

科目名	地方自治法	科目名 (英文)	Local Autonomy Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3020a0		

授業概要・目的	我々の生活を支える行政活動・サービスは地方自治体の存在なくして語ることはできません。この講義では、そのような地方自治体が活動するための最も基本的な原理である「地方自治」とは何かを、地方自治法を中心に理解してもらうことを目的としています。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のスキルを身につけることが期待されます。 (1) 地方自治の基本的な法的ルール・仕組みを理解し、解釈する能力。 (2) 地方における具体的な課題について、地方自治法の観点から問題を理解し、解決するための思考力。
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 授業は、Microsoft Teams を用いて、時間割ごとの曜日・時限で講義型の授業を動画配信して行います。 授業後は、直ちに録画したものをアップしますので、通信障害などによりリアルタイムで受講できない場合には、録画を見てください。 レジュメは事前にパワーポイントをアップしますので、そちらをあらかじめダウンロードした上で受講してください。 ・その他 ・思考の促進、理解の確認のために学生に対して質疑応答を求め、できる限り双方向コミュニケーションに努め
科目学習の効果 (資格)	公務員試験および資格試験各種に必要な地方自治法の基礎学力の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、地方自治とは何か	講義の進め方、期末試験、成績評価など。「地方自治の本旨」、地方自治の歴史	事前：教科書第1章、第2章をあらかじめ読む（特に第1章を中心に）（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
2	地方公共団体って何？	普通地方公共団体、特別地方公共団体	事前：教科書第3章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
3	住民って何？	住民の法的地位、住民参加の仕組み、住民投票制度について	事前：教科書第4章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
4	地方公共団体の仕事にはどのようなものがあるか	地方公共団体の処理する事務の性質（自治事務、法定受託事務）	事前：教科書第5章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
5	国と地方の関係	関与の基本類型、関与の仕組み	事前：教科書第6章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
6	自主行政権（1）	自治体の行政活動と街づくりの手法	事前：教科書第7章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
7	自主行政権（2）	情報公開・個人情報保護	事前：教科書第8章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
8	自主財政権	地方財政法 地方の財政調整・財源保障（地方交付税、国庫支出金、地方債）	事前：教科書第9章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
9	自主立法権	条例制定権の意義と限界	事前：教科書第10章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
10	自治体の組織（1）	議会、長の法的地位、権限	事前：教科書第11章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
11	自治体の組織（2）	委員会と委員、附属機関、監査	事前：教科書第12章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
12	住民による自治体のチェック	住民監査請求、住民訴訟	事前：教科書第13章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
13	公の施設の管理	公の施設の設置、管理の仕組み	事前：教科書第14章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
14	地方公務員法	地方公務員の勤務関係、義務・責任	事前：教科書第15章をあらかじめ読む（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する（2時間）。
15	総括	これまでの講義の復習	事前：これまでの整理・要約ノートを講義前までにあらかじめ読み返す（2時間）。 事後：講義・教科書の内容を見直し、整理・要約する。演習課題に取り組む（2時間）。

実務経験				
関連科目	憲法、行政法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	自治体職員のためのようこそ地方自治法（改訂版）	板垣勝彦	第一法規
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	*必要に応じて授業で指示します。		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・復習課題：40% ・ミニツッペーパー：30% ・小テスト（オンラインで実施予定）：30% *各項目の内容について詳しい説明は授業初回に行います。			
学生への メッセージ	地方公務員志望者，地方行政について関心のある学生の受講を歓迎します。			
担当者の 研究室等	未定			
備考	復習課題は次回の授業で解説する。			

科目名	租税法 I	科目名 (英文)	Tax Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3021a0		

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。租税法 I では、税法の総論に関する事項と個人に關係する所得税法の仕組み、考え方について理解してもらいたいと思います。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則や基本事項が理解できるようになること。</p> <p>②租税法の中でも最も基本的で身近な所得税法の概要が理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	<p>遠隔授業のうち、moodle を使って教材・課題提供型授業を行います。決まった教科書は使用しませんが、レジュメと参考資料を授業の開始前に配付しますので、ダウンロードし、そのコピーを手元において配信される講義映像を視聴して下さい。なお、期末試験のほか、小テストを逐次行う予定です。</p> <p>聞き慣れない用語も出てくるとは思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにして下さい。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>税理士試験や国税専門官を目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	私達の生活と税	税との関わり、財政の状況、税の種類、税が持っている機能	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第1回講義を見直すこと。(約1時間)
	2	租税法序論 (I)	税法の法源、租税実体法と租税手続法	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第2回講義を見直すこと。(約2時間)
	3	租税法序論 (II)	課税要件 (その1)	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第3回講義を見直すこと。(約2時間)
	4	租税法序論 (III)	課税要件 (その2)	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第4回講義を見直すこと。(約1時間)
	5	租税法の原則	租税法律主義と租税公平主義、	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第5回講義を見直すこと。(約2時間)
	6	租税法の解釈と適用	税法の解釈と適用の仕方	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第6回講義を見直すこと。(約2時間)
	7	納税義務の確定等	納税義務の成立・確定、更正等の期間制限、附帯税	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第7回講義を見直すこと。(約2時間)
	8	所得税法 (1)	所得税の特色、納税義務者、包括所得概念、担税力に応じた負担	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第8回講義を見直すこと。(約1.5時間)
	9	所得税法 (2)	所得の帰属、権利確定主義	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第9回講義を見直すこと。(約2時間)
	10	所得税法 (3)	所得の区分 (利子、配当、退職、給与) と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第10回講義を見直すこと。(約1時間)
	11	所得税法 (4)	所得の区分 (事業、不動産、山林、雑) と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第11回講義を見直すこと。(約2時間)
	12	所得税法 (5)	所得の区分 (譲渡、一時) と計算	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第12回講義を見直すこと。(約2時間)
	13	所得税法 (6)	所得控除と税額控除	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第13回講義を見直すこと。(約1時間)
	14	源泉徴収制度	制度の概要と源泉徴収の法律関係	配布資料に基づき予習しておくこと。レジュメ第14回講義を見直すこと。(約1時間)
	15	まとめ	授業全体のまとめ	

実務経験	
関連科目	憲法、民法、商法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
	2	租税法	金子宏	弘文堂
	3	図解所得税	松崎啓介	大蔵財務協会

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	期末試験の点数 (60%) と小テストの総点数 (40%) の合計で評価します。

(基準)	
学生へのメッセージ	授業内容は連続していますので、順序に沿って全部を視聴しないと理解が難しいと思います。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室
備考	レジュメは比較的重要な用語を穴あきにしてありますので、講義用スライドに記載している用語で埋めて下さい。

科目名	租税法Ⅱ	科目名 (英文)	Tax Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3022a0		

授業概要・目的	<p>現代社会では、国民は法律（租税法）に基づいて納税の義務を負い税金を納付することになりますが、租税法は必ずしも容易に理解できるものではありません。これは、租税法が多様な経済活動を幅広く適用の対象としていることや、租税負担の公平を図るため、租税法が明確かつ一義的に規定することを要求されていることによるものです。一方、皆さん方が社会人になれば、自営業者、会社員等を問わず、税とは何らかの形で関わらざるを得ません。</p> <p>租税法Ⅱでは、所得税法と同様に個人に対して課税される相続税及び我が国経済の原動力である法人の利益に対して課税される法人税について学習します。いずれも所得税法と並ぶ重要な税目で、皆さんの将来に直接又は間接に影響を与えるものです。</p> <p>租税法は実学の代表格です。小職は、国税庁本庁に長年勤務し、また、東京、大阪、名古屋などの国税局で部長職を歴任するなど、税務行政の企画・立案や指揮をしてきたほか、名古屋国税不服審判所等の所長として租税法の解釈・適用にも携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うこととしています。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。</p> <p>①租税法に共通する原則並びに相続税法及び法人税法の固有の考え方が理解できるようになること。</p> <p>②相続税法及び法人税法の概要・仕組みが理解できるようになること。</p>
授業方法と留意点	Teamsを使用した「教材・課題配信型」授業を行います。聞き慣れない用語も出てくるとはと思いますが、租税法の基本的な考え方を理解することが重要ですから、要点を確実に押さえるようにしてください。なお、毎回簡単な小テスト（oX式）を行います。期末試験のみ WebFolder を利用する可能性があります。
科目学習の効果（資格）	税理士試験や国税専門官を目指す人の入門講座になると思います。また、社会人となって税金を払う立場になれば、無関心ではいられないこともありますので、この機会に税に馴染んでおくのも有益かと思えます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	相続税法と民法（相続編）との関係	計数で見る相続税、民法の基礎事項	民法第5編（相続）に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	2	相続税法（1）	相続税の意義・課税方式、相続税の納税義務者	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	3	相続税法（2）	相続財産の範囲	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	4	相続税法（3）	債務控除	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	5	相続税法（4）	相続税の課税標準と税額の計算、各相続人の納付税額	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	6	相続税法（5）	贈与税の意義	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	7	相続税法（6）	贈与税の課税標準と税額の計算、相続時精算課税制度	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	8	相続税法（7）	相続税、贈与税の申告・納付	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	9	相続税法（8）	財産の評価	相続税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約1時間）
	10	法人の経済活動と法人税	法人税の意義、納税義務者、法人税の計算（企業会計と課税所得）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	11	法人税法（1）	法人税法22条と別段の定め	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	12	法人税法（2）	法人税法22条と別段の定め（続き）	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	13	法人税法（3）	同族会社	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	14	法人税法（4）	国際課税	法人税法に関する入門書の該当箇所に目を通しておくこと。レジュメ及び配布資料を見直すこと。（約2時間）
	15	まとめ	講義全体のまとめ	ノートと配布資料等を復習しておくこと。（約6時間）

実務経験	
関連科目	民法、会社法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣新書
	2	租税法	金子宏	弘文堂
	3	図解相続税・贈与税	高藤一夫 編	大蔵財務協会
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	5y9k4ak			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを利用。			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末試験の点数(60%)と小テスト(40%)の合計で評価します。			
学生への メッセージ	授業内容は連続していますので、欠席すると理解が難しくなってきます。授業は配付資料に沿って行います。参考書のうち、「税法入門」は租税法の概要を知りたい人に、「租税法」は本格的に勉強しようとする人に、図解シリーズは租税法の仕組みを速習したい人にお勧めします。なお、租税法Iを取らなかった場合でも理解できる内容です。			
担当者の 研究室等	11号館10階 小島教授室			
備考	レジュメの穴埋めは講義において明示する。			

科目名	刑事法概論	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1023a0		

授業概要・目的	<p>・法学部の専門科目には、「刑法総論」、「刑法各論」、「経済刑法」、「刑事訴訟法」、「刑事政策」、「現代社会と刑事法」のほか、これらに対応する応用講義が用意されている。これらの科目で学習する内容をまとめて「刑事法」と呼ぶことができる。</p> <p>・本講義の内容は、この「刑事法」を広い視点から俯瞰ないし概観しようというものである。すなわち、どのような行為をすれば犯罪と刑罰に問われるのかを学ぶ刑事実体法（刑法）、および、刑法の内容を実現させるのに必要な刑事手続法（刑事訴訟法）の解釈論から、刑罰の正当化根拠や効果を学ぶ刑罰論、犯罪者や犯罪被害者をどのように社会で処遇するかという刑事政策、犯罪原因の解明とその対策を講じる犯罪学など、その取り扱う内容は多岐にわたる。</p> <p>・本講義では、刑事法上の諸問題を具体的に検討し、刑事法への関心を高めることで、刑事法全体の見取り図を得ることを目的とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <p>「・刑法の全体像をできるだけ具体的に把握するとともに、刑法総論と刑法各論の異同を理解できる</p> <p>・刑事手続、刑罰制度、犯罪動向の現状、犯罪者処遇、および、被害者救済などの問題点について、基本的な知識を身につけることができる</p> <p>・刑法、刑事手続法、犯罪学の基本的な考え方に触れ、各分野のしくみ、はたらき、機能などを理解することができる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・今般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義はMicrosoft社teamsを活用して行いますが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p> <p>必要に応じて紙媒体の資料を交付する。</p> <p>・刑事法は近年相次いで法改正がなされているので、最新の六法を持参すること。たとえば、令和2年版ポケット六法（有斐閣）、デイリー六法（三省堂）や判例六法（有斐閣）など。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・この科目と、2回生以降で配当される「刑法総論」、「刑法各論」、「刑法応用講義Ⅰ」および「刑法応用講義Ⅱ」をしっかりと受講すれば、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、警視庁警察官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験で出題される刑法の問題を解けるようになり、得点源とすることができます。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	刑事法とは何か？ 刑法、刑事手続法、犯罪学の違い	本講義概要の説明 文献紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：刑事法学のあらましをあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑事法学のあらましを見直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	刑法①	刑法のあらまし 犯罪についての基本的な考え方 学派の争い	<ul style="list-style-type: none"> 事前：学派の争いをあらかじめ読むこと（2時間） 事後：学派の争いを見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
3	刑法②	刑法総論 ・犯罪成立要件 刑法各論 ・保護法益による犯罪の分類	<ul style="list-style-type: none"> 事前：刑法総論と刑法各論の箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法総論と刑法各論の箇所を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
4	刑法③	交通刑法 ・交通刑法の大改正と近年における重罰化傾向の是非	<ul style="list-style-type: none"> 事前：交通刑法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：交通刑法を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
5	刑法④	経済刑法 ・自由主義経済体制と経済犯罪の整備	<ul style="list-style-type: none"> 事前：経済刑法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：経済刑法を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
6	刑法⑤	刑罰の正当化根拠 ・死刑存廃論	<ul style="list-style-type: none"> 事前：刑罰論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑罰論を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
7	刑法⑥	・性犯罪の大改正と残された課題	<ul style="list-style-type: none"> 事前：性犯罪法の改正をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：性犯罪法の改正を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
8	刑法のまとめ	第1回目から第7回目までの重要論点 総復習	<ul style="list-style-type: none"> 事前：刑法の項目をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑法の項目を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
9	刑事手続法①	刑事手続法のあらまし 捜査法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：捜査法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：捜査法を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
10	刑事手続法②	公訴法と公判法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：公訴と公判をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：公訴と公判を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
11	刑事手続法③	証拠法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：証拠法をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：証拠法を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
12	犯罪学①	犯罪学 ・犯罪原因論 ・女性犯罪 ・老人犯罪 ・少年犯罪	<ul style="list-style-type: none"> 事前：犯罪学をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：犯罪学を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
13	犯罪学②	刑事政策 ・犯罪者処遇論	<ul style="list-style-type: none"> 事前：犯罪者処遇論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：犯罪者処遇論を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
14	犯罪学③	被害者学 ・犯罪被害者支援と修復的司法	<ul style="list-style-type: none"> 事前：被害者学をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：被害者学を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	
15	刑事手続法と犯罪学のまとめ	第9回目から第14回目までの重要論点 総復習	<ul style="list-style-type: none"> 事前：刑事訴訟法と犯罪学をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：刑事訴訟法と犯罪学を見直し、章末問題を解くこと（2時間） 	

				くこと (2 時間)
実務経験				
関連科目	刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、現代社会と刑事法、刑事政策、刑法応用講義 I・II、刑事訴訟法応用講義			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法 (第 6 版)	三井誠ほか	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う (100%)。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞 (朝刊や夕刊) の社会面、あるいは、インターネット上のニュースなどに掲載されている犯罪記事を読みましょう。 ・授業に出席したときは、何かを得て帰るように努めてください。 ・法学を体得するには、自らの手を動かして問題を解く、あるいは講義内容をまとめてみるなどの復習がもっとも効果的です。教科書を漫然と読むだけでは講義内容の中身は身につけません。とにかく手を動かしましょう。 ・公務員を目指している学生がいれば、勉強の仕方など、ご相談に乗りますので、気軽に声をかけてください。 			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の理解度を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。 19 年度合格率 99% (不受験率 3%) A33% B31% C20% D15% 平均 79 点 248 人登録			

科目名	刑法総論	科目名 (英文)	Criminal Law (General)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2024a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法総論は、全ての犯罪に共通する犯罪成立要件論と刑罰論に関する一般原則を探究する学問である。 ・刑法総論では、刑法の機能、刑法の解釈と罪刑法定主義、主として単独正犯を念頭に置いた犯罪成立要件論として、構成要件論、違法性論、責任論をめぐる諸問題について概説する。 ・刑法総論は、個別の犯罪を離れた犯罪一般を考察対象とするため、抽象的な犯罪論体系に関する議論が多い。 そのため、初学者にはやや難しく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて分かりやすく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 <ul style="list-style-type: none"> 「刑法の謙抑性、罪刑法定主義およびその派生原則を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・今般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義はMicrosoft 社 teams を活用して行いますが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。 ・講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けた。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版が
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：第1章「刑法と刑法学」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1章を読み直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想と刑法学 ・刑法の基礎理論 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第2章「刑法の基礎」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第2章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	刑法の法源と解釈	<ul style="list-style-type: none"> ・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第3章「刑法の法源と解釈」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第3章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪の概念 ・犯罪論の体系 ・刑法上の行為 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第4章「刑法の基本概念」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第4章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	構成要件	<ul style="list-style-type: none"> ・構成要件の概念 ・構成要件要素 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第5章「構成要件」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第5章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	構成要件該当性 1	<ul style="list-style-type: none"> ・実行行為とは何か ・実行行為の客観面 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第6章のうち、「実行行為の客観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の客観面に関する問題を解くこと（2時間）
7	構成要件該当性 2	<ul style="list-style-type: none"> ・実行行為の主観面（構成要件の故意と構成要件の錯誤） 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第6章「構成要件該当性」のうち、実行行為の客観面に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第6章のうち、「実行行為の主観面」部分を見直し、章末問題のうち、実行行為の主観面に関する問題を解くこと（2時間）
8	構成要件該当性 3	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法上の因果関係論 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第6章「構成要件該当性」のうち、因果関係に関する内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第6章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	構成要件該当性のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・構成要件該当性に関する重要論点の総復習 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1章から第6章までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1章から第6章までの末尾の問題を見直すこと（2時間）
10	違法性阻却事由 1	<ul style="list-style-type: none"> ・違法性とは何か ・正当行為と正当業務行為 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、正当行為部分を見直し、章末問題のうち、正当行為に関する問題を解くこと（2時間）
11	違法性阻却事由 2	<ul style="list-style-type: none"> ・正当防衛 ・過剰防衛 ・誤想（過剰）防衛 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、防衛行為部分を見直し、章末問題のうち、防衛行為に関する問題を解くこと（2時間）
12	違法性阻却事由 3	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急避難 ・過剰避難 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難の内容をあらかじめ読むこと（2時間）

			<ul style="list-style-type: none"> ・誤想（過剰）避難 ・超法規的違法性阻却事由 	事後：第7章「違法性阻却事由」のうち、緊急避難部分を見直し、章末問題のうち、緊急避難に関する問題を解くこと（2時間）
	13	責任阻却事由1	<ul style="list-style-type: none"> ・責任とは何か ・責任能力 	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章「責任阻却事由」のうち、174頁から188頁までの内容を見直し、章末問題のうち、責任能力に関する問題を解くこと（2時間）
	14	責任阻却事由2	<ul style="list-style-type: none"> ・違法性の意識とその可能性 ・期待可能性 	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性の内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章末尾の問題のうち、違法性の意識と期待可能性に関する問題を解くこと（2時間）
	15	違法性および責任阻却事由のまとめ	違法性および責任阻却事由に関する重要論点の総復習	事前：第7章「責任阻却事由」のうち、違法性の意識と期待可能性部分を見直すこと（2時間） 事後：章末問題を見直すこと（2時間）
実務経験				
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法総論（第2版）	佐久間 修	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 ・問題集は開講時に紹介します。 ・公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 ・総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジ 			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	修正された構成要件論（未遂犯と共犯）、罪数論、刑罰の正当化根拠、および刑法の適用範囲については刑法応用講義Ⅰで取り扱う。 講義の理解度を試すミニツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。 19年度 合格率97%（不受験率2%） A26% B24% C26% D21% 平均76点 242人登録			

科目名	刑法各論	科目名 (英文)	Criminal Law (Specific)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2025a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・刑法各論は、各種犯罪の個別成立要件とその適用の限界について考察する学問である。 ・刑法各論は刑法総論よりも具体的でわかりやすいが、個別犯罪の適用範囲や限界について細かな議論をする必要があり、適用する条文の検討に注意を要する。 ・刑法各論は、個別の犯罪を考察対象とするため、具体的な議論が多い。 そのため、初学者にはやや学問としての体系的性がつかみづらく感じられるかもしれないが、なるべく身近な具体例を用いて体系的に解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 <ul style="list-style-type: none"> 「個別犯罪における保護法益を説明できる ・個別の犯罪の成立要件の範囲について正確に理解できる ・刑法各論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を Microsoft 社 teams 上の「質疑応答チャンネル」を通じて行う。 ・講義の知識を定着させるため、学生が主体的に問題に取り組めるように、必要に応じて刑事法に関する公務員試験の問題を解く時間を設けた。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	<ul style="list-style-type: none"> ・「刑法総論」および「刑法各論」をしっかり受講すれば、法学検定、地方公務員上級職採用試験、労働基準監督官採用試験（大卒）、裁判所事務官採用試験、および、司法書士試験で出題される「刑法総論」の問題を確実に処理することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンスと文献紹介 刑法各論と刑法学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・刑法各論の意義 ・犯罪の処罰根拠と保護法益 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：序章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：犯罪の処罰根拠と保護法益の関係性を見直し、ノートにまとめること（2時間）
2	生命・身体に対する罪1	<ul style="list-style-type: none"> ・人の始期と終期 ・殺人の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第1章「殺人の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第1章「殺人の罪」を見直し、章末の「殺人の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
3	生命・身体に対する罪2	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の罪 ・過失傷害の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第1章「傷害の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第1章「傷害の罪」を見直し、章末の「傷害の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
4	生命・身体に対する罪3	<ul style="list-style-type: none"> ・堕胎の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第1章「堕胎の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第1章「堕胎の罪」を見直し、章末の「堕胎の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
5	生命・身体に対する罪4	<ul style="list-style-type: none"> ・遺棄の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第1章「遺棄の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第1章「遺棄の罪」を見直し、章末の「遺棄の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
6	自由・私生活の平穏に対する罪1	<ul style="list-style-type: none"> ・逮捕、監禁の罪 ・脅迫の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第2章「逮捕・監禁・脅迫の罪」を見直し、章末の「逮捕・監禁・脅迫の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
7	自由・私生活の平穏に対する罪2	<ul style="list-style-type: none"> ・略取、誘拐および人身売買の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第2章「略取、誘拐および人身売買の罪」を見直し、章末の「略取、誘拐および人身売買の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
8	自由・私生活の平穏に対する罪3	<ul style="list-style-type: none"> ・性的自由に対する罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第2章「性的自由に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第2章「性的自由に対する罪」を見直し、章末の「性的自由に対する罪」に関する問題を解くこと（2時間）
9	自由・私生活の平穏に対する罪4 名誉と信用に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> ・住居を侵す罪 ・業務に対する罪 ・秘密を侵す罪 ・名誉と信用に対する罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1部第2章「住居を侵す罪」および第3章「名誉に対する罪」を見直し、章末の「住居を侵す罪」および「名誉に対する罪」に関する問題を解くこと（2時間）
10	個人的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第1回から第9回までの重要論点を総復習	<ul style="list-style-type: none"> 事前：序章から第1部第3章までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：序章から第1部第3章までの内容を見直し、序章から第3章までの末尾の問題を見直すこと（2時間）
11	公共の安全に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> ・放火、失火の罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第2部第1章「放火の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第2部第1章「放火の罪」を見直し、章末の「放火の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
12	風俗に対する罪	<ul style="list-style-type: none"> ・死体損壊等の罪 ・賭博に関する罪 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：第2部第4章「風俗に対する罪」をあらかじめ読むこと（2時間）

				事後：第2部第4章「風俗に対する罪」を見直し、章末の「風俗に対する罪」に関する問題を解くこと（2時間）
	13	国家作用に対する罪1	<ul style="list-style-type: none"> 公務の執行を妨害する罪 犯人蔵匿の罪 証拠隠滅の罪 虚偽告訴の罪 	事前：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第3部第2章「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」を見直し、章末の「公務の執行を妨害する罪」、「犯人蔵匿の罪」、「証拠隠滅の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
	14	国家作用に対する罪2	<ul style="list-style-type: none"> 汚職の罪 	事前：第3部第2章「汚職の罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第3部第2章「汚職の罪」を見直し、章末の「汚職の罪」に関する問題を解くこと（2時間）
	15	社会的法益および国家的法益に対する罪（財産犯を除く）のまとめ	第10回から第14回までの重要論点を総復習	事前：第7章までの内容をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第7章までの内容を見直し、章末問題を見直すこと（2時間）
実務経験				
関連科目	刑事法概論、刑法総論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての刑法学	佐久間修＝小野晃正＝川崎友巳 ＝安田拓人＝品田智史＝十河太朗＝豊田兼彦	三省堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」			
Teamsコード	adsjp4r			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	・Microsoft社teamsを活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 問題演習の素材としては、公務員試験や司法書士試験で出題される刑法の問題がさしあたり有効です。 問題集は開講時に紹介します。 公務員（地方行政職、国家行政職、警察、消防、刑務、裁判所事務官、検察事務官）試験やロースクールをはじめとする大学院の受験を意識している学生はなるべく受講するようにしてください。 総論上の争点とそれに対する判例ないし通説を正確に理解すれば、公務員試験はむしろ易しい類です。決して臆することなく果敢にチャレンジ 			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	個人的法益に対する罪のうち、財産犯（財産犯総論、窃盗、強盗、詐欺、恐喝、横領、背任、盗品等関与、器物損壊などの罪）については刑法応用講義Ⅱで取り扱う。 講義の理解度を試すミニツッパーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。 19年度 合格率96%（不受験率3%） A20% B27% C28% D21% 平均75点 213人登録			

科目名	経済刑法	科目名 (英文)	Economic Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3026a0		

授業概要・目的	・経済刑法では、経済活動を規制する刑罰法規につき、刑事実体法、刑事手続法、および、刑事学などの観点から、経済犯罪をめぐる諸問題について総合的に検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・経済犯罪とは何かを説明できる ・論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解を説明できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	・原則として講義形式で行うが、学生と教員間の双方向理解を確保するために随時質疑応答も行うので、シラバスに記した回の事前予習を教科書を通じて行うこと。 ・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず参照すること。
科目学習の効果（資格）	・ビジネス科目ともいうべき本科目を学習することで、卒業後の進路に応じ、企業実務、行政実務及び警察実務においてすぐにも役立つ経済刑法上の基本知識が身につく。 ・公務員試験に出題される刑法の問題を素早く解けるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法の基礎理論（復習） 経済刑法の概念	・文献紹介 ・刑法の機能と解釈 ・罪刑法定主義 ・経済刑法とは何か ・刑法各論と経済刑法の関係	・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第1章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
2	経済刑法と刑罰	・法人の刑事責任 ・両罰規定 ・自由刑と罰金刑の併科 ・行政処分と刑罰の併科	事前：教科書第3章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第3章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
3	経済犯罪の国際化	・経済のグローバル化 ・国際経済犯罪 ・国際法上の経済犯罪 ・国内犯と国外犯 ・代理処罰	事前：教科書第6章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第6章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
4	マネー・ロンダリング	・マネーロンダリングの意義 ・やみ金融と組織犯罪処罰法 ・犯罪収益移転防止法	事前：教科書第9章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第9章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
5	経済犯罪の監視と捜査	・公正取引委員会 ・証券取引等監視委員会 ・捜索と差押え、逮捕と勾留 ・個別法の犯則調査	事前：教科書第11章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：11章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
6	会社法上の罰則	・会社法の目的 ・特別背任罪 ・預合いの罪 ・取締役等の贈賄罪 ・利益供与の罪	事前：教科書第13章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第13章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
7	証券取引をめぐる犯罪	・金融商品取引法の目的 ・不正取引の禁止 ・風説の流布 ・相場操縦 ・インサイダー取引 ・損失補填	事前：教科書第14章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第14章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
8	独禁法違反の犯罪 破産犯罪	・独禁法の目的 ・不当な取引制限 ・入札談合 ・破産法の目的 ・倒産処理と犯罪 ・詐欺破産罪	事前：教科書第15章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第15章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
9	民事執行制度をめぐる犯罪	・民事執行制度の趣旨 ・執行妨害の罪	事前：教科書第17章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第17章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
10	悪質商法と消費者保護	・消費者保護法制 ・ネズミ講とマルチ商法 ・預託商法 ・壟断商法 ・内職商法 ・催眠商法 ・点検商法と次々商法	事前：教科書第18章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第18章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
11	欠陥商品・不当表示をめぐる犯罪	・不法行為法と製造物責任法 ・過失犯と製造物責任 ・食品と不当表示 ・不正競争防止法	事前：教科書第20章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第20章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
12	補助金と公的資金の不正受給 政官財の癒着と賄賂罪	・補助金適正化法上の犯罪 ・賄賂 ・公職選挙法違反	事前：教科書第21章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：第21章を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
13	脱税	・租税犯罪の意義	事前：教科書第23章をあらかじめ読むこと（2時間）

			<ul style="list-style-type: none"> ・租税ほ脱犯の既遂時期 ・重加算税と二重処罰の問題 	間) 事後：第 23 章を見直し、章末問題を解くこと (2 時間)
	14	カード犯罪 コンピュータ犯罪	<ul style="list-style-type: none"> ・カードの不正使用 ・スキミング ・不正アクセス 	事前：教科書第 25 章をあらかじめ読むこと (2 時間) 事後：第 25 章を見直し、章末問題を解くこと (2 時間)
	15	情報の刑法的保護	<ul style="list-style-type: none"> ・企業秘密の漏示 ・偽ブランド商品と知的財産の保護 	事前：教科書第 27 章をあらかじめ読むこと (2 時間) 事後：第 27 章を見直し、章末問題を解くこと (2 時間)
実務経験				
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑事学、会社法、独占禁止法、知的財産法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新経済刑法入門 (第 2 版)	神山 敏雄ほか	成文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑法からみた企業法務	佐久間 修	中央経済社
	2	経済刑法	山口厚/編著	商事法務
	3	経済刑法	芝原邦爾	岩波書店 (岩波新書)
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	uceqh22			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う (100%)。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・企業をめぐる犯罪を多く取り扱うので、民間企業志望者を大歓迎する。 ・公務員の職務に関するテーマが多いので、公務員志望者はできるだけ受講すること。 			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭に行う。 19 年度 合格率 98% (不受験率 5%) A56% B20% C7% D16% 平均 82 点 122 人登録			

科目名	刑事政策	科目名 (英文)	Criminal Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3027a0		

授業概要・目的	本授業では、まず、犯罪の発生原因について近代から現代にいたる様々な学説について概観したうえで、わが国における犯罪対策に関して、刑事司法の各段階における犯罪者処遇の態様や犯罪者処遇の方法などについて解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、刑事政策に関する基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書をもとに作成した PowerPoint をインターネット上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める方法で行う (教材・課題提供型授業)。
科目学習の効果 (資格)	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役には立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
2	伝統的犯罪学について①	犯罪原因論 (生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因) について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
3	伝統的犯罪学について②	犯罪原因論 (生物学的原因、心理学・精神医学的原因、社会学的原因) について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
4	近年の犯罪学について①	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
5	近年の犯罪学について②	コントロール理論、ラベリング理論、合理的選択理論など	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
6	犯罪者処遇について①	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
7	犯罪者処遇について②	警察、検察、裁判の各段階における犯罪者処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
8	少年事件について①	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
9	少年事件について②	少年法の理念、少年事件手続について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
10	刑罰について①	刑罰の種類、内容について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
11	刑罰について②	死刑制度について①	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
12	刑罰について③	死刑制度について②	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
13	施設内処遇について	刑務所、少年院などにおける処遇について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
14	社会内処遇について	保護観察、更生緊急保護などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)
15	全体のまとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと (約1時間)

実務経験	
関連科目	刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法応用講義、刑事法概論、現代社会と刑事法、経済刑法、地域防犯政策など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策 (第2版)	川出敏裕・金光旭	成文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策学	武内謙治・本庄武	日本評論社
	2	ピギナーズ刑事政策 (第3版)	守山正・安部哲夫	成文堂
	3	犯罪白書 (各年度版)	法務総合研究所編	法務省

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各回、授業テーマに関する課題を出すので、その出来によって評価する (100%)
学生へのメッセージ	犯罪はなぜ起こるのか、犯罪を防ぐためにはどうしたらよいか、犯罪を行った者の処遇はどうすべきか、などといった問題について、自分なりに検討してみることを勧める。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	19年度 合格率 77% (不受験率 3%) A23% B16% C18% D20% 平均 72点 128人登録

科目名	現代社会と刑事法	科目名 (英文)	Modern Society and the Criminal Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3028a0		

授業概要・目的	本授業では、現代社会におけるさまざまな社会問題に対して刑事法がどのように関わっているのかについて、事例や判例、学説、実務の動向などを踏まえながら解説する。
到達目標	本授業を通じて学生には、現代社会における刑事法の役割、関わり方などについて、基本的な知識を修得するとともに、そうした基本的知識を用いて、具体的な問題の解決策を立案する能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	PowerPoint で作成したレジュメ及びその解説をインターネット上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める方法で行う(教材・課題提供型授業)。
科目学習の効果(資格)	資格試験や公務員試験といった「試験」には直接役に立たないが、将来、法曹三者や警察官、検察事務官、裁判所事務官、刑務官、法務教官など刑事法に関わる仕事に就こうと思っている人にはどこかで役に立つはずである。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の内容および進め方に関する説明、文献・参考書の紹介	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
2	少年事件報道について①	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
3	少年事件報道について②	少年法 61 条をめぐる判例・学説について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
4	少年非行について①	少年非行の原因について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
5	少年非行について②	非行少年の更生について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
6	犯罪被害者について	犯罪被害者の保護などに関する法制度などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
7	障害者による犯罪について	障害者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
8	性犯罪について	性犯罪の概況とその対策及び性犯罪に関する近時の法改正について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
9	ストーカー犯罪について	ストーカー犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
10	高齢者犯罪について	高齢者による犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
11	交通犯罪について	交通犯罪の概況とその対策について	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
12	冤罪事件について	冤罪事件の紹介、冤罪の発生原因などについて	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
13	時事問題について①	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
14	時事問題について②	近時の刑事事件、判例、社会問題などについて刑事法学的視点から検討	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)
15	まとめ	重要論点の再解説	配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと(約1時間)

実務経験	
関連科目	刑事政策、刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法応用講義、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事法概論、経済刑法、地域防犯政策など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事政策(第2版)	川出敏裕・金光旭	成文堂
	2	ピギナーズ刑事政策(第3版)	守山正・安部哲夫	成文堂
	3	犯罪白書(各年度版)	法務総合研究所編	法務省

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teamsコード	6nhhl3u
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	各回、授業テーマに関する課題を出すので、その出来によって評価する(100%) ただし、少なくとも10回分以上の課題が期限内に提出されていることを単位認定のための要件とする。
学生へのメッセージ	現代においては、さまざまな社会問題が発生しているが、その解決方法は必ずしもひとつでなく、そうした社会問題に対して、刑事法の視点から、そのメリット・デメリット、その限界などを踏まえた上で、自分なりにいろいろ考えて「説得力のある」解決方法を探し出してほしい。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	質問等があれば、次の授業において回答する。

科目名	刑事訴訟法	科目名 (英文)	Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3029a0		

授業概要・目的	本授業では、我が国の刑事手続について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。一般的に、新聞やテレビ、インターネットのウェブサイト等が刑事事件・刑事裁判について報じる際、捜査機関あるいは犯罪被害者の視点で報じられることが多いように思われるが、本授業においては、刑事訴訟法が「公共の福祉の維持と個人の基本的人権の保障とを全うしつつ、事案の真相を明らかにし、刑罰法令を適正且つ迅速に適用実現する」ことをその目的としていることにも鑑み、捜査機関のみならず被疑者・被告人あるいは裁判所・裁判官、さらには裁判員の視点にも立った解説を行う予定である。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を修得することが期待される。
授業方法と留意点	下記で指定した教科書をもとに作成した PowerPoint をインターネット上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める方法で行う(教材・課題提供型授業)。
科目学習の効果(資格)	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験、法学検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	捜査とは	捜査の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
2	捜査の方法・実行	任意捜査と強制捜査の区別など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
3	被疑者の逮捕・勾留	逮捕・勾留の要件と手続など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
4	捜索・差押え・検証など	令状主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
5	被疑者側の防御	弁護人選任権、黙秘権、接見交通権など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
6	公訴提起の手続	公訴提起、不起訴処分など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
7	公訴提起の方式	起訴状の記載事項、起訴状一本主義など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
8	公判のための準備活動	公判準備など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
9	公判期日における手続	公判手続の概要など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
10	証拠法とは	証拠法の概要、証拠能力・証明力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
11	伝聞法則	伝聞法則の意義、例外など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
12	自白法則	自白の証拠能力など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
13	違法収集証拠排除法則	証拠排除法則など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
14	裁判	裁判の種類、成立過程など	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)
15	まとめ	重要論点の確認	配布レジュメおよび教科書の該当部分を見直すこと(約1時間)

実務経験	
関連科目	刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事手続法(第8版)	三井誠・酒巻匡	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事訴訟法(第2版)	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
2	判例教材刑事訴訟法(第5版)	三井誠編	東京大学出版会	
3	刑事訴訟法判例百選(第10版)	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣	

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	各回、授業テーマに関する課題を出すので、その出来によって評価する(100%)
学生へのメッセージ	刑事訴訟法では、捜査・公判における現実の「場面」が問題となることから、そうした「場面」において、もし自分が警察官・検察官だったら、裁判官だったら、あるいは被疑者・被告人・弁護人だったらどう考えるか、それぞれの視点に立って考えてみてほしい。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	六法は必携。

19年度 合格率 80% (不受験率 2%) A8% B22% C16% D33% 平均 66点 85人登録
--

科目名	民法法概論	科目名 (英文)	Introduction to Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵, 萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1030a0		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものです。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされます。そのような分類の中で、私人といわれる、一般の人たちの間の問題を規律するものの総称が民法法と呼ばれるものであり、その中心となる法律が民法です。民法では特に財産と家族の問題が規定されています。 本講義では、上記のような私人間の問題について扱う法律を、民法を中心に確認し、さらにそこで規律されている権利義務の内容がどのようなものであるのか、また、それらがどのように実現されるのかという、手続法と呼ばれる部分も講義の後半部分で扱っていく予定である。
到達目標	この講義を通じて、学生には民法法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観を確認し、今後の民事に関する法律科目を勉強するための概要を把握することが期待される。
授業方法と留意点	Teamsを使った講義の動画を配信予定である。動画の掲載期間は講義予定日より2週間とし、2週間目には削除予定である。 講義に関連する、レジュメまたは資料を同様の形で配布する予定である。法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要であるが、今年度は一定の場合にはネット上で対応は可能でもあるので、講義と関連して適宜参照をすること。 大川担当部分と萩原担当部分で講義方法は異なる。萩原担当部分は3回で、その3回分の講義日程・講義方法は講義を進めるうえで適宜調整し動画内で連絡を行うので、それを確認すること。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民法法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	法学部がどのようなものであり、法律関係の講義がどのような問題を扱うのかなどの、概要部分を扱う予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持っている部分を是非見つけてください。
2	民法法とは	民法法の内容および手続法との関係などを扱う予定です。	自分の周辺でどのような「法的問題」があるのかを検討してみてください。	
3	法律内容と民法	民法法と民法との関係、民法の構造の把握。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産に関連する問題を自分なりに検討して下さい。	
4	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを確認して下さい。	
5	人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、親の同意が必要となった契約を確認して下さい。	
6	所有権を通しての物権①	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?この法的意味を確認して下さい。	
7	所有権を通しての物権②	物権がどのような問題について規律されるのかを確認する予定です。	物を所有する以外に、人と物との関係にどのようなものがあるのかを検討すること。	
8	金融担保一般	民法典に存在する担保について確認をする予定です。	お金の貸し借りの構造を法的に分析すること。	
9	不法行為	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのかについて、検討すること。	
10	親族法	家族関係などを確認する。	自分の周りの人たちの家族関係を、法的視点で整理すること。	
11	民事手続①	実体法との違いを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。	
12	民事手続②	権利実現の手順などを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。	
13	民事手続③	手続にも様々なものがあることを確認する。	講義中の課題を再確認のこと。	
14	相続法	人の死後の財産関係を簡単に扱う予定。	人の死後に起こりうる問題等を確認すること。	
15	全体の復習	民法法の構造の再確認	全体の内容を確認すること。	

実務経験																	
関連科目	憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民法法入門</td> <td>野村豊弘</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法法入門	野村豊弘	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	民法法入門	野村豊弘	有斐閣														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定であるが、動画配信システム・小テストシステムの確認が必要となることから、詳細は講義内で伝えるので、動画内を適宜確認すること。																
学生への	民法法は日常生活に関する規範である。したがって、民法法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。																

メッセージ	
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	<p>大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題、指摘部分及び確認テスト内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。</p> <p>近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。</p>
	19

科目名	民法総則	科目名 (英文)	Civil Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2031a0		

授業概要・目的	民法総則は、民法（特に財産法）を学ぶ上での基本です。本講義は、この民法総則の基礎を学ぶことにより、民法の思考を体得することを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、民法総則の基本を身につけることを期待します。
授業方法と留意点	毎週配信する動画により授業します。小型六法は、毎回、用意して下さい。
科目学習の効果（資格）	公務員試験のほか、宅建・行政書士・司法書士等、各種資格試験に必須。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・契約	ガイダンス・民法の学習方法・契約の成立	事前学習課題：なし 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管すること(30分程度・最低10分以上)。
2	意思表示の瑕疵(1)	意思表示の構造・意思表示の瑕疵とは・意思の不存在と瑕疵ある意思表示・無効と取消し	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
3	意思表示の瑕疵(2)	意思の不存在(1) －心裡留保・虚偽表示－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
4	意思表示の瑕疵(3)	意思の不存在(2)－古典的錯誤－ / 瑕疵ある意思表示(1)－動機の錯誤－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
5	意思表示の瑕疵(4)	瑕疵ある意思表示 －詐欺・強迫－	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
6	通則	基本原則・解釈の基準	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
7	人I	権利能力	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
8	人II	意思能力、制限行為能力者制度(1) 総説	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
9	人III	制限行為能力者制度(2) 未成年者、制限行為能力者の相手方の保護	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
10	人IV	制限行為能力者制度(3) 成年後見制度	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
11	代理I	総説、代理権	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
12	代理II	代理行為・無権代理(1)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	
13	代理III	無権代理(2)	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。	

	14	代理Ⅳ	表見代理	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
	15	時効	消滅時効	事前学習課題：①関連条文を読む。②テキストの該当範囲に目を通す(最低10分は行うこと)。 事後学習課題：授業内容を200字および800字でまとめ、レジュメと一体的に保管する(30分程度、少なくとも10分以上行うこと)。
実務経験				
関連科目	民事法概論・法学概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法1 第2版	小川富之、中山布紗編著	一学舎
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	5pasimy			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎週の課題により評価します(100%)。			
学生への メッセージ	民法総則は、民法(特に財産法)を学ぶ上での基本です。 2年次以降に債権法・物権法(・および相続法)を学ぶ予定のある人は、必ず受講して下さい。 民法総則は、非常に難しい科目です。毎回の予習・復習を必ず行って下さい。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	19年度 合格率69% (不受験率16%) A10% B19% C22% D18% 平均67点 68人登録			

科目名	法人法概説	科目名 (英文)	Corporation Law Outlined
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男・田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2032a0		

授業概要・目的	平成18年法律改正後の法人に関する事項一般及び会社法の基礎につき学習する。 授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、実生活や仕事で実際に役立つ知識や考え方を習得できるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	講義をするが、十分な理解のためには予習と復習が不可欠である。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>法人とは何か・法人制度</td> <td>基礎概念を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>旧社団法人と旧財団法人</td> <td>平成18年の制度改正前の民法上の法人</td> <td>法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>一般社団法人と一般財団法人</td> <td>新制度における社団法人と財団法人</td> <td>社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人</td> <td>旧制度と新制度の違い</td> <td>どのように法改正の前とあとでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>権利能力のない社団、財団</td> <td>権利能力のない社団とはどのようなものか</td> <td>権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>会社</td> <td>旧制度の会社の種類など</td> <td>法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>新会社法</td> <td>会社法の基本的なしくみⅠ</td> <td>新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>会社法の基本的なしくみ</td> <td>会社法の基本的なしくみⅡ</td> <td>基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>会社の機関</td> <td>期間について学習する</td> <td>基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>株主総会と株主の権利</td> <td>株主とはどのようなものか</td> <td>基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>取締役の地位と責任</td> <td>会社における取締役の地位、責任</td> <td>取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>株式と社債</td> <td>会社の株式とは、社債とは</td> <td>二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>会社の資本</td> <td>資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか</td> <td>資本について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>持分会社</td> <td>持分会社とはどのようなものか</td> <td>持分会社について知り見直すこと(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>学生諸君からの質問を期待している。</td> <td>法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	法人とは何か・法人制度	基礎概念を知り見直すこと(約1時間)	2	旧社団法人と旧財団法人	平成18年の制度改正前の民法上の法人	法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)	3	一般社団法人と一般財団法人	新制度における社団法人と財団法人	社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)	4	旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人	旧制度と新制度の違い	どのように法改正の前とあとでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)	5	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)	6	会社	旧制度の会社の種類など	法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)	7	新会社法	会社法の基本的なしくみⅠ	新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	8	会社法の基本的なしくみ	会社法の基本的なしくみⅡ	基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)	9	会社の機関	期間について学習する	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	10	株主総会と株主の権利	株主とはどのようなものか	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)	11	取締役の地位と責任	会社における取締役の地位、責任	取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)	12	株式と社債	会社の株式とは、社債とは	二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)	13	会社の資本	資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか	資本について知り見直すこと(約1時間)	14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	持分会社について知り見直すこと(約1時間)	15	まとめ	学生諸君からの質問を期待している。	法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	法人とは何か・法人制度	基礎概念を知り見直すこと(約1時間)																																																																
2	旧社団法人と旧財団法人	平成18年の制度改正前の民法上の法人	法改正前の法人制度を知り見直すこと(約1時間)																																																																
3	一般社団法人と一般財団法人	新制度における社団法人と財団法人	社団とはなにか、財団とはなにかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
4	旧公益法人、法改正後の公益社団法人、公益財団法人	旧制度と新制度の違い	どのように法改正の前とあとでどのように変わったのかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
5	権利能力のない社団、財団	権利能力のない社団とはどのようなものか	権利能力が無いとはどのようなことかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
6	会社	旧制度の会社の種類など	法改正前の会社について知り見直すこと(約1時間)																																																																
7	新会社法	会社法の基本的なしくみⅠ	新法の基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
8	会社法の基本的なしくみ	会社法の基本的なしくみⅡ	基本的な知識を学び見直すこと(約1時間)																																																																
9	会社の機関	期間について学習する	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
10	株主総会と株主の権利	株主とはどのようなものか	基本的な知識を知り見直すこと(約1時間)																																																																
11	取締役の地位と責任	会社における取締役の地位、責任	取締役とはどのようなものかを知り見直すこと(約1時間)																																																																
12	株式と社債	会社の株式とは、社債とは	二つの特色、違いを知り見直すこと(約1時間)																																																																
13	会社の資本	資本金とはどのようなものか。金額によってどのような違いが出てくるのか	資本について知り見直すこと(約1時間)																																																																
14	持分会社	持分会社とはどのようなものか	持分会社について知り見直すこと(約1時間)																																																																
15	まとめ	学生諸君からの質問を期待している。	法人一般、会社について質問したいことを準備しておく(約1時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	民法、会社法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プライマリー会社法</td> <td>藤田勝利, 北村雅史</td> <td>法律文化社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プライマリー会社法	藤田勝利, 北村雅史	法律文化社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プライマリー会社法	藤田勝利, 北村雅史	法律文化社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	定期試験(70%)と授業中に行う小テスト(30%)の結果による。																																																																		
学生へのメッセージ	自分から問題意識を持って参加することが大切である。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室																																																																		
備考	学生の理解度、授業の進行速度により、授業の順序や内容を変更することもある。 教材フォルダにレジメを入れるが、社団法人、財団法人については教科書は特に指定しない。図書館などで何冊か読み比べ、自分が気に入ったものを選ぶことを勧める。小テストの解答はその回の授業で行う。																																																																		

科目名	物権法	科目名 (英文)	Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2033a0		

授業概要・目的	物権は、物を支配する権利です。たとえば、土地を所有していれば、その土地に対して所有権という物権を持っていることになり、その土地を自由に使用したり、処分したりすることができます。物権法は、民法の中でも、こうした物権に関するルールを定めた法律です。本講義では、担保物権を除く物権法の全体像を理解することを目的とします。より理解を深めていただくために、できる限り身近な事例を挙げるとともに、条文に対する解釈や、学説、判例について紹介していきたいと考えています。
到達目標	この講義を通じて、学生の皆さんには、担保物権を除く物権法の基礎をしっかりと理解し、民法における物に対する権利の考え方について全体像を把握できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義形式でおこないます。各講義前にレジュメを配布しますので、講義前に目を通しておいてください。講義では、レジュメにつき解説を加えます。六法を参照していただくことも多いので、書籍またはオンラインで参照できるものを必ずご用意ください。教科書は可能な限り、ご準備いただくことをお勧めします。 なお、講義においては、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細はMicrosoft Teamsの「J039-物権法」内の「連絡用」を確認してください。
科目学習の効果 (資格)	各種資格試験においては、物権法を含む民法の理解が必須となる場合があります。ただし、本講義では各種資格試験の対策まではおこないません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	物権変動 (1)	物権変動の基本的理論	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
3	物権変動 (2)	不動産の物権変動における公示と登記制度	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
4	物権変動 (3)	不動産の物権変動における「第三者」の範囲	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
5	物権変動 (4)	不動産の物権変動における「取消しと登記」	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
6	物権変動 (5)	不動産の物権変動における「取得時効と登記」	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
7	物権変動 (6)	登記の効力	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
8	物権変動 (7)	動産の物権変動における公示と即時取得	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
9	占有権	占有の取得、移転、消滅、効力	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
10	所有権 (1)	所有権の基本的理論、所有権の取得	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
11	所有権 (2)	所有権に基づく物権的請求権	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
12	所有権 (3)	共同所有	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
13	所有権 (4)	建物の区分所有	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
14	用益物権 (1)	地上権、永小作権	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
15	用益物権 (2) おわりに	地役権、入会権 講義のまとめと補足	今回の講義内容に関するレジュメ (前回講義終了時に配布) を読んでおくこと。 全講義を通して疑問や不明点がないか確認しよう

				えて講義に臨むこと。
実務経験				
関連科目	債権法、契約法、担保物権法など民法科系目全般。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法の基礎 2-物権 (第2版)	佐久間毅	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義中に課す課題を50%程度、学期末に課すレポートを50%程度の割合で、最終的な評価をおこないます。			
学生への メッセージ	講義中は不要な私語などの迷惑行為は慎んで、真剣に講義を受けようとしている学生を妨害しないでください。 講義内容は、講義の進行具合に応じて変更する場合があります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室			
備考	講義中に課題を課した場合は、次の回の講義で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：22時間			
	19年度 合格率68% (不受験率12%) A8% B9% C17% D35% 平均61点 113人登録			

科目名	不動産取引法	科目名 (英文)	Real Estate Exchange Act
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 行男・田中 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2034a0		

授業概要・目的	<p>不動産取引全般についての知識の習得と担保物権の果たしている役割についての理解を深めることを目的とする。登記簿の見方、対抗要件とは何か、通行権などにつき一通りの理解をし、実生活で役に立つ事柄につき学習する。また、担保とは、債権、特に金銭債権の回収を確実にする方策のことである。債権が確実に弁済されることは債権者にとって重要なことである。さらに、市場原理による経済社会にあつては、企業は新たな事業展開を迫られ、常に、その資金の確保を必要とする。金融を得るには担保の提供は必須で、この点からも担保に関する法制度は極めて重要である。当該講義は抵当権を中心とし、仮登記担保、譲渡担保等の新たな担保方法や担保の対象についても知識が得られるようにする。なお、担保法は物権と債権が交錯する領域で、担保物権の学習は財産法の全体像を把握することにもなる。</p> <p>授業担当者の田中は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義も行いたい。</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、不動産取引につき一通りの知識を習得し、担保とはなにか、どのような場面でどのような役割を果たしているのか、注意すべき事柄は何かについて簡単な説明ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	不動産取引についての理解は仕事をしたり、自宅を購入する際などにも必要な事柄である。担保物権は物権法と債権法が交錯し、学ぶべき裁判例も多い法領域である。しかし、制度に関することが大半で、民事法の基本的知識を踏まえて着実に学習すれば、民事法全体が把握でき、金融に関する新たな知識が獲得でき、興味が広がる分野である。講義は、配信したレジュメなどに基づいて行うが、登記・民事執行等についての基本を確認した上、教科書に即し、該当条文を確認・検討してもらいたい。その際、教科書と小六法（関連科目の法律が載っているもの。同名
科目学習の効果（資格）	理解が進めば財産法全体に興味を持って、民法に関しての応用力が養われ、民法を試験科目とする各種資格試験に対応できる。金融についての知識も得られるので、不動産関係あるいは金融関係の仕事に就くことを望む者にとっては、必須の領域であるといえよう。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・不動産取引についての基礎知識	・授業の進め方、受講上の注意 ・小六法の活用方法、 ・実際の競売物件をスマホなどで確認する	インターネット上の裁判所の競売情報を見て何が重要事項なのかを確認する。
2	登記簿の見方	・登記簿の記載内容 ・登記簿の見本を見ながら学ぶ	登記簿を見ると何がわかるのを確認する。	
3	対抗要件	・対抗要件とは何か、なぜ必要なのか	対抗要件制度を理解する。	
4	通行権	・通行権とは何か	囲繞地通行権を理解する。	
5	農地の売買、山林の売買	・一般宅地の売買と異なる点はあるのか ・明認方法とはどのようなものか	農地法、明認方法を理解する。	
6	金銭債権の権利実現（金銭執行の概略）、担保の意義・必要性	担保の果たしている役割・担保の必要性	担保について理解する。	
7	担保法概論	・担保法の全体像	担保物権の全体像（典型担保、非典型担保）を把握、理解する。	
8	抵当権の設定	・抵当権に関する概念の把握	用語を理解する。	
9	抵当権の実行と物上代位	・実行手続きの概要 ・物上代位とは何か	抵当権の実行手続きを理解する。	
10	抵当目的物の利用・譲渡	・設定者の使用収益権 ・抵当目的物の第三取得者	担保権者の持つ価値権と設定者の使用収益権の関係を理解する。	
11	法定地上権 特殊な抵当権（共同抵当、根抵当）	・法定地上権とは何か ・共同抵当、根抵当とは何か	法定地上権、共同抵当、根抵当を理解する。	
12	質権	・質権の意義、効力など	質権について理解する。	
13	先取特権・留置権	・先取特権の種類 ・留置権とはどのようなものか	先取特権と留置権について理解する。	
14	非典型担保概説・譲渡担保等	・非典型担保の意義・必要性 ・譲渡担保について	民法の条文にない担保権の種類、譲渡担保の果たしている役割を理解する。	
15	おわりに	講義内容を復習をすることにより、不動産取引、担保物権の全体像を整理・概説する。	全講義を振り返り、理解していない部分や質問等がないか検討する。 事前の質問には、適宜応じる。	

実務経験	
関連科目	民法総則・物権法・債権総論、民事執行法、破産法、民事再生法等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法2 物権	淡路剛久ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	t3119or
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業を踏まえた小テストとレポート（各提出時期は授業の進捗状況に応じて後日決定する）によって評価する。
学生への メッセージ	不動産取引の全体像を把握すること、取引社会において重要な意義を有している金融の概略を学ぶことは社会生活を営む上で必須である。他方、不動産取引は身近な法的領域でもある。法律の学習は講義内容を理解することが第一であるが、本講義も同様である。授業は工夫をするが、理解を深めるための質問を期待している。
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室
備考	物権法を学習しておくことが望ましい。学生の理解度、授業の進行によっては順序、内容を変更することもある。小テストの解答は、提出した後の直近の授業で行う。

科目名	債権総論	科目名 (英文)	Law of Obligation: General Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2035a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つ編があります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。さらに、債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義ではその総論部分を扱います。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養することを目的とします。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの取引で生じる債権とはいかなる内容のもので、いかなる性質を有しているのか、合意 (契約) により生じた債権が約束通りに履行されない場合にはどのような問題が生じるのか、これらの債権を確保する行為は許されるのか、それらの債権を売却するなどして有効活用することはできないのか、および、これらの債権はどのような行為により実現されるか
授業方法と留意点	Teamsを使った講義を配信予定である。動画を配信型で展開する予定である。講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。法律科目であるので、六法 (書籍の一種) が必要ではある。
科目学習の効果 (資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出题される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	債権法概論	講義のガイダンス	総則および債権各論部分を見直すこと。
	2	債権の目的	債権の内容と種類	契約の性質を整理しておくこと。
	3	債権の効力①	強制履行・債務不履行	民事訴訟法など、手続法がどのようなものかについても自習しておくこと。
	4	債権の効力②	債務不履行の種類とその成立要件	債務不履行については教科書等で見直すこと。
	5	債権の効力③	受領遅滞	債権者・債務者はどのような人かについて、整理しておくこと。
	6	責任財産の保全①	債権者代位権	3者関係と制度の意義を整理すること。
	7	責任財産の保全②	債権者取消権	債権者代位権との違いを整理すること。
	8	多数当事者の債権債務関係①	分割債権債務 不可分債権債務	債権者・債務者が複数となる意義を確認すること。
	9	多数当事者の債権債務関係②	連帯債務	連帯債務の意義を確認しながら、各制度の違いを整理すること。
	10	多数当事者の債権債務関係③	保証債務	担保の意義を見直すこと。
	11	債権関係の移転①	債権譲渡①	債権が譲渡される意味を押えること。
	12	債権関係の移転②	債権譲渡②、債務引受	債権の移転と債務の移転の違いを整理すること。
	13	債権の消滅①	弁済①	債権の消滅する形を確認すること。
	14	債権の消滅②	弁済②、相殺①	弁済と相殺の意義を整理すること。
	15	債権の消滅③	相殺②	相殺の意義を見直すこと。

実務経験	
関連科目	契約法、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法Ⅲ－債権総論 (最新版)	野村豊弘ほか	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	enlbhlz
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定である。
学生へのメッセージ	法学学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずです。
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習する必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。 19年度 合格

科目名	債権各論	科目名 (英文)	Law of Obligation: Special Provisions
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2036a0		

授業概要・目的	民法典における財産法には、総則・物権・債権の三つがあります。その中で、物権とは人と物との関係を扱う部分であり、債権とは人と人との関係を扱う部分です。債権法の部分は大きく分けて、総論部分と各論部分に分かれます。本講義では各論部分を扱います。特に、契約を中心に確認する予定です。
到達目標	この授業を通じて学生には、債権法の内容を全体的に把握し日常的な取引で生じる法的問題等を考察できる知識を涵養する事を目的としています。具体的には、日常的にどのような取引がなされているのか、それらの契約にはどのようなものがあるのか、それらの契約がどのような性質を含んでいるのかを確認します。これにより、本講義では、社会における取引の意義を把握できるようにし、かつ、自分の判断で問題を処理するための基本的知識の獲得をすることが期待されます。
授業方法と留意点	Teamsを使った講義を配信予定である。動画を配信型で展開する予定であり、掲載期間は合議予定日より2週間とし、2週間目には削除予定である。講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要ではある。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験においては、債権法を含む民法の理解が必須となります。公務員試験等、民法科目が出题される場合や、銀行取引などにおいても重要となる知識を債権法は含んでいます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	契約の種類	いかなる種類の契約があるのかを確認する。	契約の種類を全体的に整理すること。
3	契約の成立	契約がいかにして成立するのか、成立についていかなる問題があるのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
4	契約の効力①	契約が成立するといかなる効力を持つのかを確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
5	契約の効力②	第4回の復習および、契約の解除について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
6	贈与	贈与契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
7	売買①	売買契約全体について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
8	売買②	売買の担保責任について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
9	売買③・交換	売買契約の担保責任および交換契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
10	消費貸借・使用貸借・賃貸借①	貸借型の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
11	賃貸借②	賃貸借契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
12	賃貸借③	借地借家法について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
13	雇用・請負	雇用・請負契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
14	委任・寄託・その他の契約	委任・寄託その他の契約について確認する。	教科書の関連する部分を見直すこと。
15	全体のまとめ	契約法全体を確認し、内容の復習を行う。	全体の内容を見直すこと。

実務経験	
関連科目	債権総論、不法行為法、民法総則など、民法系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法Ⅳ－債権各論 (最新版)	藤岡康宏ほか	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定である。
学生へのメッセージ	法学学にもかなり慣れたことだと思いますが、不十分だと思われる方も、復習をしつつ取り組んでいけば十分に理解ができますし、興味も持っていけるはずですよ。
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。

近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

19年度 合格

科目名	不法行為法	科目名 (英文)	Tort Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3037a0		

授業概要・目的	不法行為法は、709条というたった1条の条文で、交通事故、公害、医療過誤、薬害事件といった様々な現代的諸問題を解決してきました。その面白さをわかってもらえるような講義にしたいと思っています。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代社会における不法行為法の意義について理解できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	遠隔授業にて実施します。 レジュメも配布しますが、自宅にPCやタブレット、プリンターを持っていない学生もいると思いますので、基本的には、スマホ画面で完結する授業を予定しています。教科書は入手が望ましいですが、外出自粛が最優先ですので、ネットで購入できない人は、無理をしなくてかまいません。授業の動画(mp4)あるいは音声データ(mp3)を、自宅のIT環境にあわせてダウンロードした上、視聴して下さい。
科目学習の効果(資格)	各種資格試験、および今後の市民生活において不可欠です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・不法行為法総説(1)	ガイダンス・債権発生原因としての不法行為・条文から見る不法行為法・不法行為の判断場面・不法行為法の難しさと面白さ	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
2	不法行為法総説(2)	不法行為法の基本原理・不法行為法の目的と機能	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
3	故意・過失(1)	故意/過失要件の意義・過失(1)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
4	故意・過失(2)	過失(2)・責任能力・故意	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
5	権利侵害・違法性(1)	起草者の考えた権利侵害要件・権利侵害から違法性へ・権利一元論からの批判・権利侵害要件の再生	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
6	権利侵害・違法性(2)	権利と法律上保護される利益・権利の目録(人格権と財産権)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
7	権利侵害・違法性(3)	生成途上の権利と権利の生成プロセス・不法行為成立要件としての違法性(違法性阻却事由)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
8	因果関係(1)	相当因果関係説批判・成立上の因果関係/賠償範囲の因果関係/金銭評価の区別・成立上の因果関係(事実に因果関係)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
9	因果関係(2)	事実に因果関係の立証(高度の蓋然性/疫学的因果関係論の位置付け)・賠償範囲の因果関係(大隅裁判官の反対意見・義務射程説・危険性関連説)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
10	共同不法行為	719条1項前段の共同不法行為の成立要件・大気汚染訴訟と共同不法行為・1項後段の共同不法行為の成立要件・共同不法行為の効果	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
11	損害論	損害の種類・損害とは何か・救済の方法・損害額の算定方法(総論)	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
12	損害額の算定方法	逸失利益の算定に係る問題・一時金賠償と定期金賠償・慰謝料の算定に係る問題・積極損害に係る問題	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
13	賠償額の調整(1)	損益相殺・過失相殺・被害者側の過失	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
14	賠償額の調整(2)	過失相殺規定の類推適用(素因減額)・消滅時効と除斥期間	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。
15	特殊の不法行為	監督者責任・使用者責任・土地工作物責任・動物占有者責任・製造物責任・運行供用者責任	事前にテキストに目を通しておくこと(最低10分)。事後、授業内容で分からなかった部分につき、テキスト該当部分を読んで理解しておくこと。

実務経験	
関連科目	民法総則、債権法など民法科目全般。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	不法行為法 第5版	吉村良一	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の授業に対して課題の提出を求めます。この課題の評価により、成績を決めます。			
学生への メッセージ	不法行為法は、判例・学説により大きく発展し、現在も、なお発展を続けている現在進行形の法領域です。この面白さを理解したい学生の参加を期待します。			
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	設例に対する答えは、授業内で解説します。 分からない点がありましたら、teams上でどうぞ質問して下さい。			

科目名	親族法	科目名 (英文)	Family Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦, 古川 行男
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2038a0		

授業概要・目的	<p>民法典の第4編「親族」を中心に講義を行う。具体的には、夫婦、親子関係などの身分関係について、その権利と義務の視点から検討を行う。親族関係は、戸籍制度とも密接に関係し、現在の日本において避けては通ることのできないものであり、日常で感じる家族などの人間関係が法的にどのようなものであるかの把握も行う。</p> <p>授業担当者の田中は、大阪高裁・地裁、東京地裁などの裁判官として39年間勤務し、また、広島家庭裁判所長を経験するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟、家事手続等に数多く携わってきた。この授業では、法理論のみならず、それらに関する実務経験を踏まえた講義も行いたい。この授業を通じて学生には、身近な分野である家族法について民法に規定されている基礎的な法的知識を自分のものするとともに、家族について考える契機とすることが期待される。</p>																																																																		
到達目標	この授業を通じて学生には、身近な分野である家族法について民法に規定されている基礎的な法的知識を自分のものするとともに、家族について考える契機とすることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	送付するレジュメ等に沿って行う。これらを検討する際には、教科書と六法を必ず用意すること。理解度を高めるために、重要事項について小テストやレポートの提出を求めることもある（毎回ではない）。																																																																		
科目学習の効果（資格）	日常生活において生じる身分関係問題を理解するだけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>家族法概論</td> <td>家族法の概略、意義、身分行為など</td> <td>これまで学習した民法を全体的に確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>家族紛争の解決方法</td> <td>家事事件の処理手続、氏名、戸籍</td> <td>実体法と手続法の違いを確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>婚姻の成立と不成立</td> <td>婚姻の成立と成立が否定される場合</td> <td>どのような場合は婚姻できないのかについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>婚姻の効力</td> <td>婚姻の効力について学ぶ</td> <td>婚姻すると同様な法的効果が発生するのかについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>夫婦財産制 日常家事債務</td> <td>夫婦間の財産関係</td> <td>夫婦と他人の違いについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>離婚</td> <td>離婚制度</td> <td>離婚とはどのようなものかについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>協議離婚、裁判離婚、調停離婚</td> <td>離婚するには</td> <td>離婚によって生ずる問題にはどのようなことがあるのかについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>離婚に伴う財産関係</td> <td>財産分与</td> <td>財産分与の目的と内容するのかについて確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>離婚と子の福祉</td> <td>親権、面会交流</td> <td>子の福祉の重要性について確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>実親子関係</td> <td>実親子、嫡出制度</td> <td>法的に親子関係を形成する意義を確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>親子関係</td> <td>認知、準正</td> <td>法的な親子関係の成立とは何か、生物学的なものとう違うのかを確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>養子関係</td> <td>養子制度</td> <td>養子縁組の意義と手続について確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>成年後見</td> <td>成年後見制度の意義と問題点</td> <td>高齢者社会の到来と成年後見制度について確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>扶養</td> <td>扶養の内容、扶養義務者</td> <td>扶養について確認し見直す。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>全体の復習</td> <td>全体を復習する</td> <td>事前に出された質問などを踏まえ、親族法全般についてわからない点を確認する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など	これまで学習した民法を全体的に確認し見直す。	2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	実体法と手続法の違いを確認し見直す。	3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	どのような場合は婚姻できないのかについて確認し見直す。	4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	婚姻すると同様な法的効果が発生するのかについて確認し見直す。	5	夫婦財産制 日常家事債務	夫婦間の財産関係	夫婦と他人の違いについて確認し見直す。	6	離婚	離婚制度	離婚とはどのようなものかについて確認し見直す。	7	協議離婚、裁判離婚、調停離婚	離婚するには	離婚によって生ずる問題にはどのようなことがあるのかについて確認し見直す。	8	離婚に伴う財産関係	財産分与	財産分与の目的と内容するのかについて確認し見直す。	9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	子の福祉の重要性について確認し見直す。	10	実親子関係	実親子、嫡出制度	法的に親子関係を形成する意義を確認し見直す。	11	親子関係	認知、準正	法的な親子関係の成立とは何か、生物学的なものとう違うのかを確認し見直す。	12	養子関係	養子制度	養子縁組の意義と手続について確認し見直す。	13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	高齢者社会の到来と成年後見制度について確認し見直す。	14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	扶養について確認し見直す。	15	全体の復習	全体を復習する	事前に出された質問などを踏まえ、親族法全般についてわからない点を確認する。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	家族法概論	家族法の概略、意義、身分行為など	これまで学習した民法を全体的に確認し見直す。																																																																
2	家族紛争の解決方法	家事事件の処理手続、氏名、戸籍	実体法と手続法の違いを確認し見直す。																																																																
3	婚姻の成立と不成立	婚姻の成立と成立が否定される場合	どのような場合は婚姻できないのかについて確認し見直す。																																																																
4	婚姻の効力	婚姻の効力について学ぶ	婚姻すると同様な法的効果が発生するのかについて確認し見直す。																																																																
5	夫婦財産制 日常家事債務	夫婦間の財産関係	夫婦と他人の違いについて確認し見直す。																																																																
6	離婚	離婚制度	離婚とはどのようなものかについて確認し見直す。																																																																
7	協議離婚、裁判離婚、調停離婚	離婚するには	離婚によって生ずる問題にはどのようなことがあるのかについて確認し見直す。																																																																
8	離婚に伴う財産関係	財産分与	財産分与の目的と内容するのかについて確認し見直す。																																																																
9	離婚と子の福祉	親権、面会交流	子の福祉の重要性について確認し見直す。																																																																
10	実親子関係	実親子、嫡出制度	法的に親子関係を形成する意義を確認し見直す。																																																																
11	親子関係	認知、準正	法的な親子関係の成立とは何か、生物学的なものとう違うのかを確認し見直す。																																																																
12	養子関係	養子制度	養子縁組の意義と手続について確認し見直す。																																																																
13	成年後見	成年後見制度の意義と問題点	高齢者社会の到来と成年後見制度について確認し見直す。																																																																
14	扶養	扶養の内容、扶養義務者	扶養について確認し見直す。																																																																
15	全体の復習	全体を復習する	事前に出された質問などを踏まえ、親族法全般についてわからない点を確認する。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	民法に関連する講義全般。 特に相続法とは大きな関連を有する。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>民法7 親族・相続</td> <td>高橋朋子ほか</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teams コード	utmq3tv																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業を踏まえた小テストとレポート（各提出時期は授業の進捗状況に応じて後日決定する）によって評価する。																																																																		
学生への メッセージ	身近な法律であるだけに、関心を持つとともに、正確な知識を持つことが重要である。																																																																		
担当者の 研究室等	11号館10階 田中教授室																																																																		
備考	授業の進行に応じて順序、内容を変更することもある。小テストの解答は、提出した後の直近の授業で行う。																																																																		

科目名	相続法	科目名 (英文)	Succession Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男・田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3039a0		

授業概要・目的	民法第5編の「相続」を講義する。具体的には、法定相続の仕組みと遺言について、その内容を明らかにする。親族関係を前提としての財産上の権利義務を承継するという相続制度を検討することを通して、身分関係法上の財産権移転の構造を理解することが目標となる。改正法の内容についても知る必要がある。 授業担当者は、大阪高裁、広島高裁などの裁判官として39年間勤務し、また、山口地方裁判所長、神戸家庭裁判所長を歴任するなど、財産法や家族法に関する民事訴訟等の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、日常生活で良く起こる相続に関し民法ではどのような条文になっているのか、遺言はどのように作らなければ有効とは言えないのかといった点につき正確な知識の習得と、具体的な遺産分割の計算方法を練習し、これらについて説明出来るようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行うが、具体的な条文の参照を随時するので、六法を必ず持参すること。理解度を高めるために、重要事項の確認テストを行うことがあるので注意すること。また、親族法の理解が前提となるので、その知識の確認をしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	日常生活において生じる身分関係問題の理解だけでなく、資格試験などでの民法科目の理解にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	相続法の概略	相続法とは	教科書第7章を読む 重要事項を確認し見直すこと
2	相続人と相続分①	相続人の範囲と順位	教科書第8章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
3	相続人と相続分②	代襲相続、相続分	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
4	相続人と相続分③	相続欠格、相続廃除、相続回復請求権	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
5	相続の効力①	相続の一般的効果	教科書第9章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
6	相続の効力②	相続と登記、祭祀承継	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
7	相続の効力③	遺産共有、遺産管理、遺産分割	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
8	相続の承認・放棄①	単純承認、限定承認	教科書第10章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
9	相続の承認・放棄②	相続放棄	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)と
10	財産分離と相続人の不存在	財産分離の意義、相続人不存在、特別縁故者	教科書第11章・第12章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
11	遺言①	遺言とは、遺言の方式	教科書第13章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
12	遺言②	遺言の効力	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
13	遺言③	遺言による財産処分、遺言の執行	重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
14	遺留分	遺留分とは、遺留分の確定、遺留分減殺請求権	教科書第14章を読む 重要事項を確認し見直すこと(約1時間)
15	全体の復習	相続全般を振り返る	すべての重要事項の再確認(約1時間)

実務経験	
関連科目	親族法、民法概論

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	民法7 親族・相続	高橋朋子ほか	有斐閣アルマ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 (70%) と小テスト (30%) の結果で評価する
学生へのメッセージ	相続法の理解を通して、「相続」がもつ意義を再確認する。
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室
備考	授業の進行に応じて順序や内容を変更することがある。小テストの解答はその回の授業で行う。

科目名	消費者と法	科目名 (英文)	Consumer and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3040a0		

授業概要・目的	本講義は、消費者問題の本質について理解を深めること、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることを目的とします。
到達目標	この授業を通じて学生には、消費者問題の本質について理解を深め、被害の発生を防ぎ、被害者の救済を図るかについての実践的な知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業にて実施します。 レジュメも配布しますが、自宅に PC やタブレット、プリンターを持っていない学生もいると思いますので、基本的には、スマホ画面で完結する授業を予定しています。教科書は入手が望ましいですが、外出自粛が最優先ですので、ネットで購入できない人は、無理をしなくてかまいません。授業の動画(mp4)あるいは音声データ(mp3)を、自宅の IT 環境にあわせてダウンロードした上、視聴して下さい。
科目学習の効果 (資格)	消費生活専門相談員、消費生活アドバイザー、消費生活コンサルタント、その他、今後、市民生活を送る上で不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・消費者法概説	消費者法とは何か	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
2	消費者契約法(1)	消費者契約法概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
3	消費者契約法(2)	誤認・困惑類型における取消し(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
4	消費者契約法(3)	誤認・困惑類型における取消し(2) 不当約款規制(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
5	消費者契約法(4)	不当約款規制(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
6	消費者契約法(5)	不当約款規制(3)・消費者団体訴訟	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
7	特定商取引に関する法律(1)	特商法の全体像、クーリング・オフ制度	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
8	特定商取引に関する法律(2)	訪問販売・電話勧誘販売	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
9	特定商取引に関する法律(3)	通信販売・特定継続的役務提供	
10	特定商取引に関する法律(4)	連鎖販売取引	
11	特定商取引に関する法律(5)	業務提供誘引販売取引	
12	消費者信用取引	販売信用取引・消費者金融取引・多重債務者問題	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
13	商品安全と法(1)	商品安全に係る法制度概説	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
14	商品安全と法(2)	製造物責任法(1)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。
15	商品安全と法(3)	製造物責任法(2)	事前に授業時に指示するテキスト該当範囲に目を通し、授業で理解できなかった内容については、事後にテキストを読み直しておくこと(最低10分)。

実務経験	
関連科目	民事法関連科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 消費者法 第3版	中田邦博他編	日本評論社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費者法判例インデックス	松本恒雄他編	商事法務
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	各回の授業に対して課題の提出を求めます。この課題の評価により、成績を決めます。
学生への メッセージ	悪徳業者は、いつ何時、あなたに襲いかかってくるかわかりません。降りかかった火の粉を払いのける術を身につけ、自分自身、家族・友人、そして社会を守ってください。
担当者の 研究室等	11号館10階 城内准教授室
備考	

科目名	国際私法総論	科目名 (英文)	Private International Law (General Theories)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3041a0		

授業概要・目的	国際私法は、複数の国の要素をもつ私的法律関係の問題について、最も密接な関係のある場所や地域の法律（準拠法）を適用することによって解決しようとする法律です。「抵触法」とも呼ばれ、民法のような「実質法」とは次元を異にする法であるので、講義では、特に、その構造と理論の理解に力を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、「国際私法の構造」及びその「基本的考え方」を説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書に沿った講義ですが、重要事項をまとめた資料も配付してそれを使った学習後、提示する設問に対する「課題レポート」の提出を求める形で行います。資料配付及び課題の提出は、WebFolderを利用します。提出を求める課題は、国際私法の基本的知識の確認と復習のために、重要事項の「再確認」という意味で何回か行いますが、提出の期日を指定します。
科目学習の効果(資格)	外国との関連のある生活関係においてどのような法律問題が生じるのか、またその解決の考え方について理解できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	国際私法とは何か	「渉外的法律関係」とは、国際私法の定義・名称、その法的性質	教科書第1章をあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
2	国際私法の法源①	国際私法に関する法律	配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
3	国際私法の法源②	「法の適用に関する通則法」と特別法	配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
4	国際私法理論の歴史①	国際私法の沿革、法規分類学派	教科書第3章をあらかじめ読むこと、重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
5	国際私法理論の歴史②	「伝統的国際私法理論」とは何か	配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
6	法律関係の性質決定①	国際私法の基本的構造、「法性決定」とは何か	教科書第2章Ⅰ・Ⅱをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
7	法律関係の性質決定②	法性決定の仕方、「先決問題」と「適応問題」とは	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
8	連結点の確定①	「連結点」とは、連結政策、連結点の主張・証明・不明	教科書第2章Ⅲをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
9	連結点の確定②	「属人法」の観念を理解する	教科書第4章Ⅰをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
10	連結点の確定③	国籍とは、わが国の国籍法の問題点	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
11	連結点の確定④	連結点としての国籍・住所・常居所、法律回避	配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
12	準拠法の特定制①	「反致」とは、その種類と位置づけ	教科書第2章Ⅳをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
13	準拠法の特定制②	不統一法国法・未承認国法の指定	重要事項及び確認問題を再確認すること(約2時間)
14	準拠法の適用①	準拠法の性質、外国法の扱い	教科書第2章Ⅴをあらかじめ読むこと、配付資料の重要事項を確認すること(約2時間)
15	準拠法の適用②	国際私法上の公序とは	確認問題の復習、すべての重要事項・配付資料・確認問題を確認すること(約2時間)

実務経験

関連科目 国際私法各論、国際取引法、民法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門(第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法 (基準)	評価は、数回提出を求める「課題レポート」と、通常の実施が可能な場合は定期試験の成績を合計して行います(定期試験 60%及び課題レポート 40%) が、定期試験が実施できない場合は、それに代わる「総合課題レポート」で評価します。定期試験もしくは「総合課題レポート」は、「課題レポート」を使った応用問題で出題します。
学生への メッセージ	民法などの「実質法」とは次元の異なる「牴触法」の考え方を学んで下さい。
担当者の 研究室等	11号館9階 小山教授室
備考	双方向性は、WebFolderの「提出」フォルダを利用してまずは確保したいと思いますので、ファイルの形にはなりますが質問などをアップロードしてください。なお、別途、メールを使うことも予定しています。 2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅰ』 19年度 合格率83% (不受験率3%) A8% B3% C19% D52% 平均62点 63人登録

科目名	国際私法各論	科目名 (英文)	Private International Law (Particular Issues)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3042a0		

授業概要・目的	国際私法総論 (前期開講) で理解した「国際私法の構造」について、単位法律関係ごとに具体的な検討をします。「実質法」上の概念と「抵触法」上の概念の違いを特に意識し、婚姻や親子関係、債権契約といったすでに実質法で得ている知識が、国際私法ではどのように違いそして区別して考えるべきかを理解することが目的となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、単位法律関係ごとにその準拠法及びその「連結政策」を検討することを通して、「国際私法の構造」及びその中心となる具体的な問題点が説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	民法を始めとして関連する外国の私法にも言及して講義を行います。重要事項をまとめた資料を配付しますのでテキストも含めて学習してください。その後に、設問を提示した「課題レポート」の提出を求めます。資料と課題については、WebFolder を利用しますが、課題レポートは5回程度を予定していますが、それぞれ提出期限を指定します。最後に、「総合課題レポート」を求めます。
科目学習の効果 (資格)	国際的な人及び物の交流によって生じる具体的な法律関係の解決方法について理解でき、合わせて、日本の民事法の知識を再確認できます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			教科書第4章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する (約2時間)
1	国際家族法①	婚姻の成立の準拠法	
2	国際家族法②	婚姻の効力の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
3	国際家族法③	離婚、別居、婚約、内縁の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
4	国際家族法④	実親子関係、準正の準拠法	重要事項及び確認問題を再確認する (約2時間)
5	国際家族法⑤	養親子関係の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
6	国際家族法⑥	親子関係の効力、親族関係の法律行為の方式の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
7	国際家族法⑦	その他の親族関係、親族間扶養の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
8	国際家族法⑧	相続、遺言、氏の準拠法、身分関係と戸籍	教科書第4章Ⅲ・Ⅳをあらかじめ読み、重要事項及び確認問題を再確認する (約2時間)
9	国際財産法①	自然人の準拠法、後見・保佐・補助の管轄権と準拠法	教科書第5章Ⅰをあらかじめ読み、重要事項を確認する (約2時間)
10	国際財産法②	法人の準拠法、外国人法	確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
11	国際財産法③	契約準拠法、当事者自治の原則とその制限論	教科書第5章Ⅱをあらかじめ読み、重要事項を確認する (約2時間)
12	国際財産法④	契約の方式、代理の準拠法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
13	国際財産法⑤	不法行為、事務管理・不当利得の準拠法	教科書第5章Ⅲをあらかじめ読む、確認問題を復習し、配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
14	国際財産法⑥	債権譲渡、相殺、物権、知的財産権の準拠法	教科書第5章Ⅳ・Ⅴ・Ⅵをあらかじめ読み、重要事項を確認する (約2時間)
15	国際民事手続法	国際裁判管轄、外国判決の承認と執行、国際商事仲裁、国際倒産	教科書第6章をあらかじめ読む、すべての重要事項・配付資料・確認問題を再確認する (約2時間)

実務経験	
関連科目	国際私法総論、国際取引法、民法総則、法人法概説、物権法、不動産取引法、債権法、不法行為法、親族法、相続法、商法、民事訴訟法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際私法入門 (第8版)	澤木敬郎・道垣内正人	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teams コード	32ycz2g
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	チーム内のチャット及び学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	評価は、「課題レポート」(60%)と最後に提示する「総合課題レポート」(40%)の合計で評価します。「総合課題レポート」は、定期試験に代えるも

(基準)	のですが、「課題レポート」を使った応用問題を出題します。
学生へのメッセージ	民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法のすべてについて、その基本的な知識を再確認しておいてください。
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室
備考	資料及び課題・総合課題レポートは、WebFolderの「教材・提出」folderを使いますが、質問などはMicrosoft Teamsを利用して双方向性を維持します。 2014年度以前入学生科目名 『国際私法Ⅱ』

科目名	民事訴訟法	科目名 (英文)	Civil Procedure Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3043a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法を」含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目標とする。多様な紛争関係者を前提として適正・迅速といった対立する目的を実現しなければならないため、多面的な思考を養うことにも資する。
到達目標	この講義を通じ学生が、民事法において、実体法である民法、そして手続法である民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法が、それぞれどういう役割を担っているかを正確に理解し、民事法の全体像やそれぞれの機能の仕方を理解することが期待される。そのうえで、裁判所の種類や各裁判所の役割・機能をはじめ、民事裁判全体の流れを掴み、民事裁判の仕組みや果たす役割について理解することも期待される。
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果 (資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員(事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養われる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・民事訴訟法の概要 ・民事訴訟法と他の法律(憲法、民法、民事保全・執行法、倒産法)との関係	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・裁判を受ける権利 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書 P. 55～76 事後学習：講義における配布資料の復習 (事前学習に要する時間 約1時間、以下同様)
2	・裁判	・訴訟に勝てばどうなるのか ・訴訟には、どれだけの時間と費用がかかるか ・裁判にあたる人たち(裁判官、弁護士) ・紛争処理の方策(ADR、調停、仲裁)	事前学習：教科書 P. 5～54 最高裁判所のHPにて、訴訟費用額の一覧表を参照しておくこと 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
3	・裁判所Ⅰ	・裁判所の種類 ・最高裁判所 ・高等裁判所	事前学習：裁判所の種類・構造・所在地、各裁判所の役割について調べる 事後学習：講義における配布資料の復習 講義における配布資料の復習 (約1時間)	
4	・裁判所Ⅱ	・地方裁判所 ・家庭裁判所 ・簡易裁判所	事前学習：自分の住所地の各管轄裁判所を調べる 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
5	・上訴	・特別の不服申立て ・控訴 ・上告 ・抗告	事前学習：教科書 P. 311～332 (判例)上訴の利益 理由中の判断に対する不服最高裁昭和31年4月3日第三小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
6	・管轄(審理・判決はどの裁判所とするのか?)	・事物管轄と土地管轄 ・合意管轄と応訴管轄 ・移送	事前学習：教科書 P. 109～126 (判決)最高裁平成20年7月18日第二小法廷決定 移送の可否 裁量移送の要件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
7	・訴えの種類	・給付の訴え、確認の訴え、形成の訴え ・訴えの併合、訴えの変更、反訴	事前学習：教科書 P. 77～108 (判決)最高裁昭和56年12月16日大法廷判決 将来給付の訴え 大阪国際空港事件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
8	・当事者(訴える人、訴えられる人とは?)	・誰が当事者になれるか?(権利能力、当事者能力) ・誰が当事者になるのが正しいか?(当事者適格、選定当事者)	事前学習：教科書 P. 127～140 (判例)法人でない団体の当事者能力 最高裁昭和42年10月19日第一法廷判決 事後学習：講義までに配布した全資料の復習 (約1時間)	
9	・訴訟代理	・訴訟代理とは? ・代理権の範囲	事前学習：教科書 P. 38～40 (判例)最高裁昭和38年2月21日第一小法廷判決 訴訟代理人の代理権の範囲 事後学習：講義までに配布した全資料の復習 (約1時間)	
10	・民事訴訟の基本原則 ・事実認定	・処分権主義 ・弁論主義 ・自由心証主義	事前学習：教科書 P. 217～240 (222～228(訴えの取下げ、請求の放棄・認諾、訴訟上の和解、は除く) (判例)時期に遅れた攻撃防御方法の提出 最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
11	・訴訟審理の進め方	・訴えの提起から判決まで ・口頭弁論はどのように実地されるか? ・争点および証拠の整理	事前学習：教科書 P. 179～214 (204～209(相殺の抗弁)は除く) (判例)相手方の援用しない自己に不利益な事実の陳述 最高裁平成9年7月17日第一法廷判決 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	

	12	・事実認定と証拠	<ul style="list-style-type: none"> ・証拠はなぜ必要なのか？ ・自由心証主義 ・証拠の種類 	事前学習：教科書 P. 241～257 (257～文書提出命令、証明責任等は除く) (判例) 東京高裁平成 21 年 5 月 28 日 損害賠償額の算定 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)
	13	・判決の成立と効力	<ul style="list-style-type: none"> ・既判力 ・執行力 ・形成力 	事前学習：教科書 P. 283～310 (判決) 最高裁昭和 42 年 7 月 18 日第三小法廷判決 標準時後の事情変更 後遺症 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)
	14	・再審	<ul style="list-style-type: none"> ・再審の訴え～確定判決を動かす方法～ ・再審訴訟の手続 	事前学習：教科書 P. 330～332 (判決) 最高裁平成 25 年 11 月 21 日第一小法廷決定 第三者による再審 事後学習：講義における配布資料の復習 (約 1 時間)
	15	・まとめ&復習	<ul style="list-style-type: none"> ・講義全体のまとめと復習 	事前学習：教科書 P. 335～368 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習 (約 3 時間)
実務経験				
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、倒産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法入門〔第 3 版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第 5 版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。民事訴訟法を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、演習内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。 19 年度 合格率 85% (不受験率 0%) A25% B21% C20% D20% 平均 73 点 61 人登録			

科目名	倒産法	科目名 (英文)	Insolvency Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3044a0		

授業概要・目的	個人もしくは企業が経済的に破綻した場合、適切に対応は、関係者にとっても、経済全体にとっても重要なことである。倒産処理に関する法的処理は、激しく対立する債務者と債権者間の利害を公平かつ適切に調整する極めて動的で且つ実体法と訴訟法が複雑に交錯する実際の、興味深い分野である。当該講義は、倒産処理法を中心とする破産法について検討した上、民事再生の基本的な指導理念や枠組みについて説明する。これらの学習によって民法法全体についての理解にも資する。
到達目標	倒産法という自分には全く関係のない問題のように考える人も多いかと思いますが、教育ローン・マイホームローン・マイカーローンの返済の滞り、クレジットカード等による浪費等は誰にでも考えられることであり、自分が倒産しなくても、バイト先や勤務先の会社の業績不振による給料の未払い、就職した会社の取引会社が倒産して債権の回収に駆り出されたりと、倒産手続に巻き込まれる可能性はある。このため、この授業を通じて学生には、転ばぬ先の杖ではないが、倒産手続の仕組みを理解し、経済的に自立した大人となるための基礎知識を得
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	法科大学院への進学、裁判所職員、司法書士の試験等に有益である。金融についての理解が進むので、金融機関で働くことを望む者や、フィナンシャルプランナー(FP)の資格取得希望者にとっても極めて有益である。また、それらを目指さない者であっても、経済的に困難な状況に陥った場合のリスク回避・倒産手続の理解・対処方法の習得として、全ての者にとって必要な知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・倒産法の概要 ・倒産法と、他の法律(民法、民事訴訟法、民事保全・執行法)との関係 ・平常時と倒産時の比較の観点 ・倒産手続の種類(再建型と清算型)	・授業の進め方・受講上の注意及び評価方法等について ・個別執行(民事保全執行法)と包括執行(倒産法)との違い ・再建型(民事再生・会社更生)と清算型(破産・特別清算)	事前学習:教科書 P. 1~11 (判例)最高裁平成3年2月21日第小法廷決定 倒産手続と憲法的保障 事後学習:講義における配布資料の復習 (事前学習の目安は約1時間とする、以下同様)
2	・倒産手続 ・破産手続	・倒産手続の種類 ・破産手続の流れ	事前学習:教科書 P. 13~23 (判例)東京高裁昭和57年11月30日決定 破産手続開始申立に対する事前協議・合意条項の効力 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
3	・再生手続	・再生手続の種類 ・再生手続の流れ	事前学習:教科書 P. 24~39 (判例)福岡高裁平成15年6月12日決定 給与取得者等再生における可処分所得要件 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
4	・破産手続開始決定	・破産手続開始要件 ・破産手続開始の申立て ・保全処分 ・破産手続開始に対する不服申立て ・手続開始決定の効果	事前学習:教科書 P. 42~57 (判例)東京高裁昭和56年9月7日決定 債務超過の判断要素 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
5	・財産の管理/換価と管財人等	・破産財団の管理/換価等および破産管財人の善管注意義務 ・破産財団の意義と範囲および係属中の訴訟手続の取扱い ・破産管財人の第三者性と手続開始後の登記等の効力 ・再生債務者財産の管理等、再生債務者の第三者性等 ・財産評定	事前学習:教科書 P. 58~73 (判例)最高裁昭和58年3月22日第三小法廷判決 破産管財人の第三者性 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
6	・契約関係の処理(売買・取戻権)	・双務契約の一方未履行の場合 ・双務契約の双方未履行の場合 ・取戻権	事前学習:教科書 P. 74~89 (判例)最高裁昭和45年1月29日第一小法廷判決 第三者意義の訴えと債務者の破産 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
7	・契約関係の処理(賃貸借・請負・リース契約)	・賃貸借契約 ・請負契約 ・ファイナンスリース契約	事前学習:教科書 P. 90~106 (判例)最高裁昭和53年6月23日第二小法廷 請負契約における注文者の破産 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
8	・否認権	・否認権の種類 ・詐害行為否認 ・偏頗行為否認	事前学習:教科書 P. 107~120 (判例)東京高裁平成5年5月27日判決 不動産の適価売却と否認 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
9	・相殺権と相殺禁止	・相殺権の意義(民法における相殺との比較) ・相殺権の拡張 ・相殺権の制限	事前学習:教科書 P. 134~148 (判例)最高裁平成17年1月17日第二小法廷判決 相殺の可否 手続開始後の停止条件成就 事後学習:講義における配布資料の復習 (1時間)	
10	・倒産手続における担保権の取扱い	・担保権とは何か ・別除権とは何か	事前学習:教科書 P. 149~168 民法上における担保制度の復習	

			<ul style="list-style-type: none"> ・別除権の行使 ・別除権となる担保権（典型担保の場合） 	事後学習：講義における配布資料の復習（1時間）
	11	・債権の優先順位	<ul style="list-style-type: none"> ・債権者平等の原則 ・債権の優先順位 ・財団債権と破産債権（破産手続） 	事前学習：教科書 P. 186～203 （判例）最高裁平成18年1月23日第二小法廷判決 破産債権に対する自由財産からの弁済と不当利得の成否 事後学習：講義における配布資料の復習（1時間）
	12	・配当と破産手続の終了	<ul style="list-style-type: none"> ・配当 ・破産手続の終了とその効果 	事前学習：教科書 P. 204～216 （判例）最高裁平成5年6月25日第二小法廷判決 破産手続終了後の訴訟 事後学習：講義における配布資料の復習（1時間）
	13	・再生計画、履行	<ul style="list-style-type: none"> ・再生計画とは？ ・再生計画の提出と可決、認可手続 	事前学習：教科書 P. 217～234 （判例）東京高裁平成13年9月3日決定 権利変更の平等 事後学習：講義における配布資料の復習（1時間）
	14	<ul style="list-style-type: none"> ・個人債務者の倒産手続 ・免責 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人倒産制度の全体像 ・自由財産 ・免責 ・小規模個人再生/給与所得者等再生 	事前学習：教科書 P. 235～251 （判例）東京高裁平成7年2月3日決定 破産法上の義務違反と免責 事後学習：講義における配布資料の復習（1時間）
	15	<ul style="list-style-type: none"> ・倒産法における諸問題 ・まとめ&復習 	<ul style="list-style-type: none"> ・倒産におけるライセンス契約等の取扱い等 ・講義全体のまとめと復習 	事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全資料の復習（3時間）
実務経験				
関連科目	民法全般、民事保全・執行法、民事訴訟法、民事訴訟応用講義、知的財産法、商法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎トレーニング倒産法	藤本利一・野村剛司	日本評論社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	倒産法 判例百選〔第5版〕	伊藤眞・松下淳一編	有斐閣
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	中間・定期試験(80%)、ならびに復習・確認演習やレポート等(20%)により総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するので、必ず持参すること。倒産法を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュかつ深めてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。			

科目名	民事保全・執行法	科目名 (英文)	Enforcement of Judgments; Provisional Remedies
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3045a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続、いわゆる民事裁判である。ただ、訴訟で勝訴しても、相手が応じない等の理由で、紛争が解決しない場合がある。その際の、究極の紛争解決手段が、民事保全執行手続である。当該講義では、民事保全執行手続の基礎を学ぶとともに、民法や民事訴訟法等で学んだ知識を発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習や応用ができ、また「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法・民事保全執行法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図ることができる。
到達目標	民法と比べると、民事執行法・民事保全法には、それほど馴染みがないかもしれない。でも、民法の知識だけで、お金を貸した相手が返してくれない場合や、約束したはずの養育費が支払われない場合など、債務者が任意に支払ってくれない場合にどうやってその支払いを促すことができるのか、理解するのは難しい。 この授業を通じて学生には、将来、自分が債権者として債務者から金銭を回収したい場合はもちろん、逆に自分が債務者として金銭の支払いを促される場合においても、どのような仕組みで、どのような過程や手続を経て、その執行が強制的
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果 (資格)	・民事保全執行手続のしくみを理解し、民事紛争解決手段の一端を知ることができる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員 (事務官・書記官)、司法書士などの受験に対応できる知識・応用力を養う。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	① ガイダンス ② 民事執行法の概観	① 授業方法・評価方法等の説明 ② 他の法分野との関係 ③ 判決手続と執行手続 ④ 民事執行の沿革等	事前学習：教科書 第1章1, 2 (事前事後学習に要する時間 約1時間、以下同様)
2	① 執行手続の種類・態様 ② 執行手続の主体	① 強制執行の意義と種類 ② 執行当事者 ③ 執行機関	事前学習：教科書 第1章3、第2章1節、 (判例) 最高裁平成9年7月15日第三小法廷判決 現況調査にあつての執行官の注意義務 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
3	民事保全法 I	① 民事保全法の概説 ② 民事保全命令手続	事前学習：教科書 第6章1、2節 (判例) 最高裁平成15年1月31日第二小法廷決定 保全の必要性 仮差押え 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
4	民事保全法 II	① 不服申立手続 ② 保全執行	事前学習：教科書 第6章3、 (判例) 最高裁昭和61年6月11日大法廷判決 仮 の地位を定める仮処分 審尋の要否 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
5	強制執行手続の開始	① 強制執行手続の要件 ② 債務名義とその種類	事前学習：教科書 第2章2節 (判例) 最高裁平成10年4月28日第三小法廷判決 外国判決の承認執行 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
6	強制執行手続の進行	① 執行の対象 ② 財産開示手続 ③ 執行手続の終了	事前学習：教科書 第2章2節2、第5章 (判例) 大阪高裁平成22年1月19日決定 財産開 示の要件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
7	執行関係訴訟	① 請求異議の訴え ② 執行文付与に関する訴訟 ③ 第三者異議の訴え	事前学習：教科書 第2章3節 (判例) 最高裁昭和57年2月23日第三小法廷判決 執行法上の救済手段をとることの懈怠と国家賠償 の成否 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
8	非金銭執行の実現	① 物の引渡し・明渡しの強制執行 ② 作為・不作為の強制執行 ③ 意思表示の強制執行	事前学習：教科書 第3章2節 (判例) 札幌地裁平成6年7月8日決定、東京地裁 立川支部平成21年4月28日決定 子の引渡請求の 執行方法 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
9	非金銭執行の実例	① 子の引渡しと執行 ② 面会交流権と執行	事前学習：民法上の面会交流権の復習、指定した判 例を読み込むこと 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
10	動産執行	① 動産執行の意義 ② 差押え・換価・満足	事前学習：教科書 第3章1節4項 (判例) 東京地裁八王子支部昭和55年12月5日決 定、東京地裁平成10年4月13日決定 差押禁止動 産 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)	
11	不動産執行 I	① 強制競売の開始 ② 売却の準備・条件・効果	事前学習：教科書 第3章1節2項 (判例) 東京高裁平成20年4月25日決定 引渡命 令 事後学習：講義における配布資料の復習	

				(約1時間)
	12	不動産執行Ⅱ	① 債権者の満足 ② 強制管理	事前学習：教科書 第3章1節2項 (判例)最高裁平成14年1月25日第三小法廷決定 売却条件 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	13	債権およびその他の財産権 に対する強制執行	① 金銭債権に対する強制執行 ② 少額訴訟債権執行 ③ 船舶・動産等の引渡請求権に対する 強制執行	事前学習：教科書 第3章1節5項 (判例)東京高裁平成22年6月29日決定、東京高 裁平成22年6月22日決定 差押禁止債権 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	14	担保権の実行としての競売 等	① 担保権実行制度の意義 ② 担保不動産競売 ③ 担保不動産収益執行 ④ 動産競売	事前学習：教科書 第4章 民法上等の担保権制度の復習 事後学習：講義における配布資料の復習 (約1時間)
	15	まとめ&復習	① 全てのまとめ&復習	事前学習：該当範囲の復習 事後学習：当該講義において配布した全ての配布資 料の復習 (約3時間)
実務経験				
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事訴訟法応用講義、倒産法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から分かる民事執行法・民事保全法【第2版】	和田吉弘	弘文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事執行・保全 判例百選【第2版】	上原・長谷部・山本編	有斐閣
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	vr0ath5			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	Teams 上における課題及び小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。民事保全執行手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。			

科目名	商法総論	科目名 (英文)	Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2046a0		

授業概要・目的	<p>商法は、私法の特別法である。私法の一般法としては、民法が存在する。商法の特殊性は、企業関係に特有な法規から成り立っているということにある。企業とは、一定の計画に従い、継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位であるといわれている。企業によって、商品の生産および流通活動が、行われており、本講義で教授する商法総則・商行為法の知識は、企業活動に関係する者にとり、必須の知識である。</p> <p>商法総則では、商法の基本概念である商人・商行為の定義をはじめ、商人に特有な、商号や商業登記等の諸制度について、また、商行為法では、商行為法の通則、問屋営業や運送営業等について、講義を行う。</p>
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法総則・商行為法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<p>授業では、できるだけ、最近、話題になった事件を判例や専門雑誌の記事を通して紹介し、現実の商法の運用について説明したい。練習問題を解きながら、応用力を養いたい。授業中は、必ず、ポケット六法を携帯してください。</p> <p>講義中心で行うが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、数回、復習の確認テストを行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	商業活動に必要であり、ビジネス・パーソンにとって必須の知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	商法の意義、商法の基本概念、商法の歴史、商法の特色と傾向、商法の法源	形式的意義における商法、実質的意義における商法、商法と他の法律との関係、基本概念としての商行為と商人について学ぶ。	事前に教科書2ページ～23ページを読むこと(1時間) 事後に教科書2ページ～23ページを読むこと(1時間)
2	商人	商人の意義、商人資格、営業能力について学ぶ。	事前に教科書26ページ～32ページを読むこと(1時間) 事後に教科書26ページ～32ページを読むこと(1時間)	
3	営業・営業所	営業の意義、営業所の意義、本店および支店、営業所に結び付けられた法律上の効果について学ぶ。	事前に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
4	商業登記(1)	総説、商業登記事項、商業登記の手続、商業登記の一般的効力について学ぶ。	事前に教科書35ページ～42ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
5	商業登記(2)	不実登記の効力、商業登記の特殊の効力について学ぶ。	事前に教科書43ページ～45ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
6	商号	総説、商号の選定、商号の数、商号の登記、商号権、商号の譲渡・廃止・変更、名板貸し	事前に教科書46ページ～62ページを読むこと(1時間)を読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
7	営業の譲渡・商業帳簿	営業譲渡の意義、営業譲渡契約、営業譲渡の機能、営業譲渡当事者間における効果、第三者に対する営業譲渡の効果、営業の貸借・経営委任、商業帳簿の総説について学ぶ。	事前に教科書63ページ～85ページを読むこと(1時間) 教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
8	商業使用人・代理商	総説、支配人の意義、支配人の選任・終任、支配人の代理権・義務、表見支配人、その他の商業使用人、代理商の意義、代理商契約の締結、代理商契約の効果、代理商契約の終了について学ぶ。	事前に教科書86ページ～105ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
9	商行為(1)	絶対的商行為、営業的商行為(1)について学ぶ。	事前に教科書108ページ～115ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
10	商行為(2)	営業的商行為(2)、付属的商行為について学ぶ。	事前に教科書115ページ～117ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
11	商行為法通則	商行為法通則、商事代理、商事売買	事前に教科書117ページ～141ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
12	交互計算	交互計算の意義、交互計算の効力、交互計算の終了について学ぶ。	事前に教科書142ページ～146ページを読むこと(1時間) 事後に教科書32ページ～34ページを読むこと(1時間)	
13	問屋営業	総説、問屋の意義、問屋の法的地位、問屋の権利・義務、準問屋について学ぶ。	事前に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間)	
14	運送営業(1)	総説、物品運送の意義、運送人の義務、運送人の権利、荷受人の地位、相次運送について学ぶ。	事前に教科書169ページ～181ページを読むこと(1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読むこと(1時間)	
15	運送営業(2)	貨物引換証、乗車券の性質について学	事前に教科書181ページから189ページを	

			ぶ。	むこと (1時間) 事後に教科書160ページ～168ページを読む こと (1時間)
実務経験				
関連科目	民法、会社法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー商法総則商行為法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70 パーセント 授業中の復習テスト 30 パーセント			
学生への メッセージ	商法総則・商行為法は、比較的、解りやすい分野です。六法全書は、必ず、授業中に携帯してください。質問は、どしどし、してください。			
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 牛丸教授室			
備考	予習・復習にはそれぞれ、1時間とってください。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 19 年度 合格率 98% (不受験率 1%) A16% B52% C23% D7% 平均 79 点 301 人登録			

科目名	会社法	科目名 (英文)	Corporate Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2047a0		

授業概要・目的	会社は、企業活動の担い手であり、会社法の知識は、社会人として、当然に知っておくべき常識である。会社の種類は、会社法上、4種類ある。すなわち、合名会社、合資会社、合同会社、株式会社である。そのうち、日本の経済において最も重要な役割を果たしている形態は、株式会社である。そこで、授業では、株式会社に対する法規制を中心に講義したい。会社法について、きめの細かい講義を行う。本講義は、会社法全体を概観する入門的な講義である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、会社法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、できるだけ、解りやすく基本的な知識の説明を行う。新聞記事や最近の判例を紹介し、会社法の運用の現実の動きをみていく。ポケット六法は、必ず、授業中、携帯すること。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、数回、復習の確認テストを行う。 遠隔授業 (Teams) で行う。
科目学習の効果 (資格)	会社に就職する者にとっては、必須の知識を身に付けることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	会社法総論・会社法総則	会社法の現代化、会社法の歴史、会社の意義と能力、会社の種類と分類、会社法の法源、会社法の規制理念、会社法総則について学ぶ。	事前に教科書2ページ～40ページを読む。 事後に教科書2ページ～40ページを読む。
2	株式会社序説・株式会社の設立	株式会社序説、株式会社の設立の総説、定款の作成、出資、設立時役員等の選任・解任等、募集設立の場合、株式会社の成立、発起人等の責任、設立の無効について学ぶ。	事前に42ページ～65ページを読む。 事後に42ページ～65ページを読む。	
3	株式と株主 (1)	株式の概念、株主の権利および義務、株券、株主名簿について学ぶ。	事前に66ページ～86ページを読む。 事後に66ページ～86ページを読む。	
4	株式と株主 (2)	株式の譲渡、自己株式の取得、株式の担保化、株式の消却・併合・分割・無償割当て、単元株制度について学ぶ。	事前に86ページ～107ページを読む。 事後に86ページ～107ページを読む。	
5	募集株式の発行等・新株予約権	総説、募集株式の発行の態様、募集株式の発行等の手続、違法な募集株式の発行等の是正、新株予約権について学ぶ。	事前に105ページ～132ページを読む。 事後に105ページ～132ページを読む。	
6	機関・株主総会	機関の意義と機関設計、株主総会の権限・招集・議事、株主の議決権、決議、決議の瑕疵、種類株主総会について学ぶ。	事前に133ページ～150ページを読む。 事後に133ページ～150ページを読む。	
7	取締役・取締役会 (1)	総説・取締役について学ぶ。	事前に150ページ～155ページを読む。 事後に150ページ～155ページを読む。	
8	取締役・取締役会 (2)	取締役会、代表取締役、取締役と会社との関係について学ぶ。	事前に155ページ～164ページを読む。 事後に155ページ～164ページを読む。	
9	会計参与、監査役・監査役会、会計監査人、委員会・執行役	会計参与の権限・職務、監査役、監査役会、会計監査人の権限・職務、委員会、執行役について学ぶ。	事前に164ページ～180ページを読む。 事後に164ページ～180ページを読む。	
10	役員等の損害賠償責任、株主による経営の監督是正	役員等の会社に対する責任、役員等の第三者に対する責任、違法行為の差止請求権、代表訴訟提起権について学ぶ。	事前に180ページ～192ページを読む。 事後に180ページ～192ページを読む。	
11	計算、定款の変更、事業の譲渡等	計算規定の目的と原則、計算書類等の作成と承認、剰余金の配当等、資本金・準備金の額の変動、定款の変更、事業の譲渡等について学ぶ。	事前に193ページ～216ページを読む。 事後に193ページ～216ページを読む。	
12	持分会社	合同会社、合名会社、合資会社について学ぶ。	事前に217ページ～223ページを読む。 事後に217ページ～223ページを読む。	
13	社債	社債の意義、社債の種類、社債の発行、社債の管理について学ぶ。	事前に225ページ～236ページを読む。 事後に225ページ～236ページを読む。	
14	組織再編行為	企業の結合と組織再編序説、組織変更、合併、会社分割、株式交換・株式移転、合併、会社分割、株式交換・株式移転の手続について学ぶ。 合併、会社分割、株式交換・株式移転の無効	事前に237ページ～290ページを読む。 事後に237ページ～290ページを読む。	
15	会社の消滅と倒産処理、外国会社	更生、解散、通常清算、特別清算、外国会社について学ぶ。	事前に291ページ～314ページを読む。 事後に291ページ～314ページを読む。	

実務経験	
関連科目	金融商品取引法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー会社法(最新版)	藤田勝利・北村雅史	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	d5s7aef			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30% 試験は Teams での Web テストで行う。			
学生への メッセージ	出席することが重要です。授業中は、私語をしないで下さい。ポケット六法は、授業には、必ず、携帯して下さい。会社法は比較的、他の法律の知識を前提にしておらず、完結していますので理解しやすい。			
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 19年度合格率 100% (不受験率3%) A26% B40% C34% D0% 平均81点 156人登録			

科目名	有価証券法	科目名 (英文)	Law of Negotiable Instruments
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2048a0		

授業概要・目的	本講義で取り扱う有価証券は、主として手形・小切手である。手形には約束手形と為替手形の2種類があり、約束手形は信用の手段として、為替手形は送金・取立の手段として利用される。また、小切手は支払の手段として利用される。近年、手形・小切手の利用が減少してきたとはいえ、現在でも約束手形は、わが国の活発な経済活動をささえる重要な役割を担っている。したがって、約束手形の法的仕組みを理解することはきわめて重要である。
到達目標	この授業を通じて学生には、有価証券(手形・小切手)の基本的な法的仕組みを理解し、判例などの検討を通して具体的な問題について法的解決を図ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行する。必要に応じて補足資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	実社会において重要な役割を担う有価証券の仕組みを理解することにより、就職後等に必要な知識を修得することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	手形・小切手の経済的機能と銀行取引、有価証券	手形・小切手と銀行取引、有価証券の意義	教科書第2章および第3章(p.10~33)を読んでおくこと。(約60分)
3	手形行為の意義と特性・成立要件	手形行為の意義—書面性・文言性・要式性・無因性・独立性—、成立要件—署名・手形の交付—	教科書第4章および第5章(p.37~54)を読んでおくこと。(約60分)
4	手形行為の有効要件、他人による手形行為	手形権能力・手形行為能力、他人による手形行為の方式—代理方式・機関方式—	教科書第6章および第7章(p.55~69)を読んでおくこと。(約60分)
5	無権代理と偽造	無権代理、偽造、表見代理	教科書第8章(p.70~82)を読んでおくこと。(約60分)
6	約束手形の振出	振出の意義、手形要件、有益の記載事項・無益の記載事項・有害の記載事項	教科書第9章(p.83~99)を読んでおくこと。(約60分)
7	白地手形・手形の変造	白地手形の意義、補充権、変造	教科書第10章(p.100~113)を読んでおくこと。(約60分)
8	裏書	約束手形の譲渡、譲渡裏書の効力、裏書の連続	教科書第11章(p.114~129)を読んでおくこと。(約60分)
9	善意の手形取得者の保護	抗弁の制限と手形抗弁、物的抗弁、人的抗弁、善意取得	教科書第12章(p.130~148)を読んでおくこと。(約60分)
10	特殊の裏書	特殊の譲渡裏書、特殊の裏書	教科書第13章(p.149~163)を読んでおくこと。(約60分)
11	手形の支払	支払のための呈示、支払の方法、振出人の免責、支払の猶予	教科書第14章(p.164~177)を読んでおくこと。(約60分)
12	遡求、手形保証	遡求の当事者・要件・通知・方法、手形保証の意義・付従性と独立性、隠れた保証のための裏書	教科書第15章および第16章(p.178~186)を読んでおくこと。(約60分)
13	時効・利得償還請求権・除権決定・手形訴訟	手形の時効、利得償還請求権、手形の喪失と除権決定、手形訴訟	教科書第17章(p.187~195)を読んでおくこと。(約45分)
14	為替手形、小切手	為替手形の振出・引受・支払・遡求、小切手の振出・流通・支払、線引小切手	教科書第18章および第19章(p.197~218)を読んでおくこと。(約60分)
15	まとめ	手形・小切手法の総復習	手形・小切手法の講義全体を振り返り、教科書・レジュメを見直すこと。(約5時間)

実務経験	
関連科目	民法総則・債権法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本講義 手形・小切手法 第2版	早川 徹	新世社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業中の小テストおよび定期試験の結果によって評価する(小テスト20%、定期試験80%)
学生へのメッセージ	理解が難しい箇所もあるが、教科書に従い基本的な知識の修得を目的として講義を行うので、意欲的に授業に取り組んでもらいたい。

担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	小テストについては、当該授業または次の授業で解説する。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	独占禁止法	科目名 (英文)	Anti-Trust Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3049a0		

授業概要・目的	独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。
到達目標	この授業を通じて、学生は、独占禁止法の基本的知識と応用力を取得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業では、独占禁止法の運用の実態を理解するために公正取引委員会の審決を読み、また、練習問題を解いていく。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、数回、復習テストを行う。 授業は、遠隔授業 (Teams) で行う。
科目学習の効果 (資格)	企業に就職する者にとっては、独占禁止法の知識は不可欠の知識となっており、また、公務員にとっても談合という不当な取引制限に対する知識の修得が、職務上、重要である。独占禁止法の知識と応用力の修得により、会社や社会に対して大きく貢献できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	独占禁止法の目的・構成と手続	自由競争の促進と独禁法について学ぶ。	事前に教科書 p. 1～9 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 1. ～9 を読むこと (1時間)。
2	独占禁止法の基礎概念	事業者、一定の取引分野、競争の実質的制限、公共の利益等について学ぶ。	事前に教科書 p. 15. ～22 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 15～22 を読むこと (1時間)。
3	公正取引委員会の組織と構成	公正取引委員会の組織、公正取引委員会の構成等について学ぶ。	事前に教科書 p. 35～61 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 35. ～61 を読むこと (1時間)。
4	独占禁止法違反事件の処理手続	行政的救済、刑事制裁、民事上の救済手段等について学ぶ。	事前に教科書 p. 62～74 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 62～74 を読むこと (1時間)。
5	私的独占の禁止	私的独占の禁止の形態、支配と排除要件、等について学ぶ。	事前に教科書 p. 75 ～93 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 75～93 を読むこと (1時間)。
6	不当な取引制限 (1)	カルテルとは何かについて学ぶ。	事前に教科書 p. 97 ～119 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 97～119 を読むこと (1時間)。
7	不当な取引制限 (2)	カルテルの形態 国際カルテルの規制について学ぶ。	事前に教科書 p. 435～441 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 435～441 を読むこと (1時間)。
8	不当な取引制限 (3)	行政指導とカルテル、カルテルの適用除外等について学ぶ。	事前に教科書 p. 135. ～139 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。
9	不当な取引制限 (4)	事業者団体の活動規制、事業者団体とは、違法な活動類型等について学ぶ。	事前に教科書 p. 120～134 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 120～134 を読むこと (1時間)。
10	不当な取引制限 (5)	政指導とカルテル カルテルの適用除外 価格の同調的引上げの理由報告制度	事前に教科書 p. 135. ～19 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 135～139 を読むこと (1時間)。
11	結合・集中規制 (1)	合併 分割・役員兼任等 独占的地位に対する措置について学ぶ。	事前に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 163. ～180 を読むこと (1時間)。
12	結合・集中規制 (2)	持株会社の規制・金融会社の株式保有制限・一般会社の株式保有規制等について学ぶ。	事前に教科書 p. 163. ～180 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 163～180 を読むこと (1時間)。
13	不公正な取引方法 (1)	概説、排他条件付取引、再販売価格の拘束、拘束条件付取引、不当な差別的取扱い等について学ぶ。	事前に教科書 p. 223～277 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 223～277 を読むこと (1時間)。
14	不公正な取引方法 (2)	不当対価、不当な顧客誘引・強制、欺まんの顧客誘引、抱き合わせ販売、取引上の地位の不当利用等について学ぶ。	事前に教科書 p. 278～318 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 278～318 を読むこと (1時間)。
15	知的財産権と独占禁止法その他	知的財産権と独占禁止法、政府規制と独占禁止法、国際取引と独占禁止法等について学ぶ。	事前に教科書 p. 319～368 を読むこと (1時間)。 事後に教科書 p. 319～368 を読むこと (1時間)。

実務経験	
関連科目	会社法、行政法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	独占禁止法と競争政策 (最新版)	岸井大太郎その他4名	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済法判例・審決百選 (最新版)	厚谷襄仁・稗貫俊文編	有斐閣
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	28go2tm
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30% 試験は、Teams の Web テストで行う。
学生への メッセージ	辛抱強く勉強してください。
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 牛丸教授室
備考	予習・復習には各 1 時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 19 年度 合格率 100% (不受験率 2%) A30% B39% C29% D2% 平均 82 点 214 人登録

科目名	金融商品取引法	科目名 (英文)	Financial Instrument and Exchange Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	.JDJ3050a0		

授業概要・目的	株式会社が証券市場を通じて資金調達をするため株式を公開すれば金融商品取引法による規制を受ける。また、金融商品取引法は、投資者が株式や社債など資産を運用する手段となっている投資信託等の勧誘・販売等について規制している。本講義では、このような金融商品取引法の基本を理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、金融商品取引法の基本を理解するにとどまらず、具体的な問題点も意識しつつ知識を習得することが期待される。また、裁判例や時事問題にも関心を持ち、講義で習得した知識に基づきどのように解決することができるのかを考えることも期待される。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	上場会社や金融商品取引業者に就職する者にとって必須の講義である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 金融商品取引法の全体像	金融商品市場の基本的な仕組み	特になし
2	金融商品取引法総論	金融商品取引法の目的と規制内容・適用範囲	教科書 p. 1～24	
3	「有価証券」の意義と機能	有価証券の上場 有価証券取引の仕組み 金融商品取引所	教科書 p. 25～41	
4	企業の情報開示(ディスクロージャー)(1)	有価証券の発行開示制度	教科書 p. 42～64	
5	企業の情報開示(ディスクロージャー)(2)	有価証券の継続開示制度	教科書 p. 64～72	
6	企業の情報開示(ディスクロージャー)(3)	情報開示の正確性確保と内部統制	教科書 p. 72～77	
7	企業の情報開示(ディスクロージャー)(4)	情報開示義務違反と民事および刑事責任	教科書 p. 78～91	
8	金融商品取引業者の規制	金融商品取引業者の開業規制と登録制度、誠実公正義務	教科書 p. 92～119	
9	企業支配に関する開示制度(1)	株式公開買付(TOB)の規制	教科書 p. 120～137	
10	企業支配に関する開示制度(2)	大量保有報告制度(5%ルール)	教科書 p. 137～156	
11	不公正な取引の規制(1)	内部者取引(インサイダー取引)規制(1)	教科書 p. 170～190	
12	不公正な取引の規制(2)	内部者取引(インサイダー取引)規制(2)	教科書 p. 170～190	
13	不公正な取引の規制(3)	相場操縦の規制	教科書 p. 190～212	
14	デリバティブ取引	デリバティブ取引とは	教科書 p. 216～223	
15	まとめ	これまでの授業の復習	これまで学習した箇所	

実務経験	
関連科目	会社法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学べる金融商品取引法(第4版)	近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子	弘文堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	e6cstef
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各回の提出課題(70%)および期末レポート(30%)
学生への メッセージ	予習は、授業計画に記載されたテキスト(指定教科書)の該当箇所を熟読しておくこと。事後学習としては、毎回、ノートとレジュメを見直し、不明な点はテキストで確認すること。
担当者の 研究室等	11号館6階 法学部
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	保険法	科目名 (英文)	Insurance Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3051a0		

授業概要・目的	保険制度とは、同種の危険にさらされた多数の経済主体を1つの団体とみて、それに属する経済主体がそれぞれ金銭を拠出することにより共同的備蓄を形成し、現実需要が発生した主体がそこから保険金の支払いを受ける方法で需要を満たす制度である。具体的には、損害保険契約、生命保険契約および傷害疾病保険契約についての法制度を講義する。
到達目標	この授業を通じて、学生は、保険法の全体構造を理解し、かつ、基礎的知識を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	保険契約の契約書、約款、最近の判例、および新聞で報道されている事件を紹介しながら、生きた保険法の講義を行いたい。
科目学習の効果 (資格)	保険会社に就職する者にとり、必須の講義である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	保険システム	保険システムの目的と機能、保険法について学ぶ。	事前に教科書2ページ～28ページを読むこと。事後に教科書2ページ～28ページを読むこと。
2	保険監督法	総説、保険業規制の内容、保険募集規制について学ぶ。	事前に教科書29ページ～48ページを読むこと。事後に教科書29ページ～48ページを読むこと。
3	損害保険契約総論 (1)	損害保険契約総説、損害保険契約の意義・特徴、損害保険契約の種類、片面強行規定の特徴について学ぶ。	事前に教科書50ページ～58ページを読むこと。事後に教科書50ページ～58ページを読むこと。
4	損害保険契約総論 (2)	保険契約の成立、告知義務について学ぶ。	事前に教科書59ページ～69ページを読むこと。事後に教科書59ページ～69ページを読むこと。
5	損害保険契約総論 (3)	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料について学ぶ。	事前に教科書70ページ～75ページを読むこと。事後に教科書70ページ～75ページを読むこと。
6	損害保険契約総論 (4)	損害保険契約の構造、保険金額と保険価額、重複保険について学ぶ。	事前に教科書76ページ～100ページを読むこと。事後に教科書76ページ～100ページを読むこと。
7	損害保険契約総論 (5)	損害保険契約の成立の効果について学ぶ。	事前に教科書101ページ～119ページを読むこと。事後に教科書101ページ～119ページを読むこと。
8	損害保険契約総論 (6)	損害保険の給付について学ぶ。	事前に教科書120ページ～145ページを読むこと。事後に教科書120ページ～145ページを読むこと。
9	損害保険契約総論 (7)	損害保険契約の終了について学ぶ。	事前に教科書146ページ～156ページを読むこと。事後に教科書146ページ～156ページを読むこと。
10	損害保険契約総論 (8)	損害保険契約の処分について学ぶ。	事前に教科書157ページ～161ページを読むこと。事後に教科書157ページ～161ページを読むこと。
11	損害保険契約総論 (9)	保険担保について学ぶ。	事前に教科書162ページ～171ページを読むこと。事後に教科書162ページ～171ページを読むこと。
12	損害保険契約各論	火災保険、責任保険、自動車保険、運送保険、海上保険、再保険について学ぶ。	事前に教科書174ページ～221ページを読むこと。事後に教科書174ページ～221ページを読むこと。
13	生命保険契約 (1)	総説、生命保険契約の成立について学ぶ。	事前に教科書224ページ～242ページを読むこと。事後に教科書224ページ～242ページを読むこと。
14	生命保険契約 (2)	生命保険契約の効力、生命保険契約に基づく給付・終了、生命保険債権の処分と差押えについて学ぶ。	事前に教科書243ページ～266ページを読むこと。事後に教科書224ページ～242ページを読むこと。
15	傷害疾病保険契約	総説、保険給付の要件、傷害疾病定額保険をめぐる問題について学ぶ。	事前に教科書268ページ～283ページを読むこと。事後に教科書268ページ～283ページを読むこと。

実務経験	
関連科目	民法、商法総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	レクチャー新保険法(最新版)	今井薫・岡田豊基・梅津昭彦	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%			
学生への メッセージ	授業に出席することが重要です。授業中は、私語はしないでください。保険法の専門用語が多くありますので、用語の定義を重視してください。 授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。授業開始直後、数回、復習の確認テストを行う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。 19年度 合格率98% (不受験率3%) A7% B18% C52% D22% 平均72点 184人登録			

科目名	知的財産法	科目名 (英文)	Intellectual Property Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関堂 幸輔
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3052a0		

授業概要・目的	知的財産は、2002年の小泉首相(当時)による「知財立国宣言」以来、わが国の政策上の戦略的資源の一つとしても位置づけられており、ますますその重要性が増しつつあります。本講義では、知的財産法(知的所有権法)の概要を俯瞰することでなぜ知的財産が法的に保護されるべきなのかを理解し、その一方で、最新の事例等の問題を紹介しつつ、高度情報化社会に伴う情報の積極的な共有化と、いわば情報を囲い込む知的財産権との相克という観点から、将来の知的財産法制度の在り方についても検討していくことを目標とします。
到達目標	この授業は、受講する学生において、「授業概要・目的」に掲げた知的財産権ないし知的財産法に特有な意義・性質を理解し、それらが将来どのように運用されるべきであるか、自ら考察できるようにすることを到達目標とします。受講生に最低限求められるのは、単に法律や制度を「覚える」ことではなく、法律の「解釈・運用」を「考察・検討」し、時に「疑う」ものだと気づくことです。
授業方法と留意点	板書中心の講義形式とし、適宜配付資料や視聴覚的資料を用います。なお、本来なら産業から文化まで広範囲に渡る知的財産法の全般を半年のみの科目で修めることはおよそ無理な話なのですが、本学部のカリキュラムはそれを強めていますので、やむを得ず本講義では特許法と著作権法のみを中心に授業を行います。
科目学習の効果(資格)	最先端かつ重要な特別法の分野に接することで、より応用的な法学の力や考え方が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	詳細なガイダンス	授業の内容、方法その他について詳細に説明します。	—
	2	情報の意義・性質と知的財産	いわば「情報を囲い込み独占する」という知的財産の制度が、情報本来の性質にどう関わってくるのか、法制度の趣旨と併せて検討します。	事後：情報の性質と知的財産法制度について考察する
	3	知的財産のいろいろ	特許権、実用新案権、意匠権、商標権、著作権などの対象として身近な例を取り上げ、それぞれ概要を理解します。	事後：身の回りの具体的な知的財産を意識する
	4	技術的アイデアの保護	特許権の対象である「発明」について理解します。	事後：発明の法令上の要件と実際の運用について考察する
	5	特許出願と特許権取得の手続	特許権を取得するための出願・審査・登録といった手続の流れを把握します。	事後：出願の手続と特許要件等について考察する
	6	特許権の性質・内容	特許権の存続期間と権利の及ぶ(逆に及ばない)範囲について学びます。「消尽論」「均等論」といった法学上の重要論点もここで取り上げます。	事後：授業で取り上げた法理について理解を深める
	7	表示・標識の保護	識別性ないし周知性のある表示・標識を保護する制度としての商標法および不正競争防止法について簡単に説明します。	事後：商標権および不正競争防止法の保護対象としての表示について考察する
	8	創作的表現の保護	著作権の対象である「著作物」、そしてそれを伝達する「実演」等について理解します。	事後：著作物とそれに似て非なるものについて理解する
	9	著作権の内容(1)	著作権や著作隣接権の具体的な内容を把握します。	事後：広義の著作権に含まれる諸々の権利を具体的に整理しておく
	10	著作権の内容(2)	著作権や著作隣接権の具体的な内容を把握します。	事後：広義の著作権に含まれる諸々の権利を具体的に整理しておく
	11	著作権の制限(1)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：著作権の権利制限規定の具体的な内容について理解する
	12	著作権の制限(2)	著作権等の存続期間(時間的制限)および「私的使用目的複製」「引用」など、著作権が制限される場合を理解し、そのような制度の趣旨や在り方について検討します。	事後：著作権の権利制限規定の具体的な内容について理解する
	13	最新の事例・問題(1)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：授業で取り上げた事例の意義を確認しておく
	14	最新の事例・問題(2)	知的財産法に関する最新の事例や問題点を取り上げ、検討します。	事後：授業で取り上げた事例の意義を確認しておく
	15	まとめと試験	全体のまとめをし、試験をします。	—

実務経験	
関連科目	民法(特に財産法)、経済法、行政法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業内で行う試験で評価します。試験によるだけでは評価できない者については平常点（授業内で配布する特別の書式のコメントカード）を加味して評価します。(試験：80～90%，平常点：10～20%)
学生への メッセージ	こうした最先端の分野に関わる法律には、いわゆる「正解」がありません。現在妥当だとされる考え方が5年後、10年後に変わっている可能性さえあるのです。そうしたことを踏まえて、積極的に自分の頭で考えようとする姿勢が何よりも肝要です。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	担当者は毎回ごとに特定の課題を与えることに特段の意義を見出していません。なぜなら、社会のさまざまな事象と密接に関連するこのような社会科学においては、周囲のあらゆることが学びのきっかけであり、またそれが絶ゆることはなく、すなわちいつでもどこでも予習・復習が必要なのです。受講生においてもそのつもりで臨んで下さい（最低限毎回の講義と同じ時間を事後の復習に費やすべきです）。

科目名	国際取引法	科目名 (英文)	International Trade Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3053a0		

授業概要・目的	国際取引に適用される法に関する一般的な問題を検討することから始め、「国際物品売買契約」及びそれに関係する分野を中心に講義します。国際取引法として適用される範囲は、国際条約や国際的規則だけでなく、「国際私法」や「民法」、「商法」、「国際経済法」などにも及ぶため、その関係を明確にすることに力を置きます。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際取引法の基本的知識、特に「国際物品売買」及びそれに関係する「国際海上物品運送」、「貨物海上保険」そして「国際代金決済」についての国際的ルールを説明できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	教科書の理解を中心として、それを補充する国際条約や国際的規則を重視しますが、重要事項をまとめた資料を配付してそれを使った学習後、提示する設問に答える「課題レポート」の提出を求める形で行います。資料配付及び課題提出は、WebFolderを利用します。提出を求める課題は、国際取引法の基本的知識の確認と復習のために、重要事項の「再確認」という意味で何回か行いますが、提出の期日を指定します。
科目学習の効果(資格)	貿易関係など外国取引に関係する基本的知識が得られます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	国際取引の意義と特色	国際取引の現状、特色	教科書第1章をあらかじめ読む (約2時間)
2	国際取引に適用される法	国際取引法の定義・内容、「抵触法」と「涉外実質法」、統一私法	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
3	国際取引の当事者	個人、法人・企業 国家機関、国際法人	教科書第2章をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
4	国際物品売買①	国際売買の構造と国際契約の準拠法	教科書第3章第1・2節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
5	国際物品売買②	当事者自治の原則、 契約準拠法の構造、 「ハーグ統一売買法」	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
6	国際物品売買③	「ウィーン統一売買法」、 「インコタームズ」の概要	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
7	国際物品売買④	国際物品売買契約の成立、 契約交渉と契約の基本的条件	重要事項を再確認する (約2時間)
8	国際物品運送①	国際物品運送の種類、 ハーグルール	教科書第3章第3節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
9	国際物品運送②	国際海上物品運送法、 船荷証券、 国際航空運送	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
10	国際貨物保険①	海上保険証券	教科書第3章第4節をあらかじめ読む、 重要事項を再確認する (約2時間)
11	国際貨物保険②	貨物保険契約の内容	配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
12	国際代金決済	代金決済の方式、 荷為替信用状	教科書第3章第5節をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
13	その他の国際取引①	プラント輸出	教科書第4章をあらかじめ読む、 重要事項を再確認する (約2時間)
14	その他の国際取引②	国際技術移転、国際投資	教科書第5章をあらかじめ読む、 配付資料の重要事項を確認する (約2時間)
15	国際取引紛争の解決	国際裁判管轄、 外国判決の承認・執行、 国際商事仲裁	教科書第6章をあらかじめ読む、 すべての確認問題・重要事項を確認する (約2時間)

実務経験	
関連科目	国際私法総論・各論、民法総則、債権法、商法、民事訴訟法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際取引法(第4版)	佐野寛	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜、紹介します。		
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	評価は、数回提出を求める「課題レポート」と、通常の実施が可能な場合は定期試験の成績を合計して行います(定期試験 60%及び課題レポート 40%) が、定期試験が実施できない場合は、それに代わる「総合課題レポート」で評価します。定期試験もしくは「総合課題レポート」は、「課題レポート」を使った応用問題で出題します。
学生への メッセージ	国際取引における主要な「グローバル・スタンダード」を知ってください。
担当者の 研究室等	11号館9階 小山教授室
備考	双方向性は、WebFolderの「提出」フォルダを利用してまずは確保したいと思いますので、ファイルの形にはなりますが質問などをアップロードしてください。なお、別途、メールを使うことも予定しています。 2014年度以前入学生科目名 『国際取引法I』 19年度 合格率84% (不受験率6%) A0% B9% C29% D46% 平均63点 144人登録

科目名	労働保護法	科目名 (英文)	Labor Standards Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2054a0		

授業概要・目的	契約関係の基本となるのは「民法」ですが、民法が個人の自由・独立、契約自由の原則といった市民法の原理に貫かれているのに対し、労働法は労働者の保護を基調とした社会法としての性格を持っています。そのような労働法の性格を実際の法規定に照らして実感してもらうことがこの講義の目的です。 授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生は労働者の保護という法律の目的が具体的にどのような規定によって実現されているのかを理解し、低賃金労働、長時間労働、労働災害、外国人労働者問題といった現実の社会で生起している問題を法律の観点からとらえ、問題の解決の方向を見出すことができるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義はTeamsによるオンライン講義となります。現状で動画配信の予定はありません。 講義では後記教科書を使用するほか、適宜レジュメを配布して行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果 (資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。学生の多くは卒業後に就職することになるでしょうが、そのこと一つをとっても労働法の知識は社会生活を送るうえで極めて有用なものとなるはずです。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	労働法の意義と体系	・労働法の全体像、規律構造 ・法の中で労働法がどのような位置を占めるのかについて述べる。	教科書第1編の第1、2章(2頁-14頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	2	労働法の基本構造	・労働者が持つ憲法上の権利	教科書第1編第3章(15頁-22頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	3	労働者保護の一般原則	・労働者、使用者の概念 ・労働基準法の適用範囲	教科書第2編第1、2章(24頁-63頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	4	労働契約の成立	・労働契約の基本 ・採用の意味	教科書第2編第3章の1、2(64頁-79頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	5	労働契約の規制	・労働契約の法的規制 ・労働契約における権利と義務	教科書第2編第3章の3、4(79頁-96頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	6	使用者の業務命令権と配転	・配転、出向、転籍 ・使用者の業務命令権 ・人事考課	教科書第2編第3章の5、6(96頁-109頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	7	賃金	・賃金と退職金 ・賃金支払の原則 ・休業手当	教科書第2編第4章(110頁-131頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	8	労働時間	・労働時間の意味 ・労働時間規制の原則と例外	教科書第2編第5章の1から6(132頁-154頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	9	休憩・休日 年次有給休暇	・休憩に関する規制 ・年休権の内容	教科書第2編第5章の7から第6章まで(154頁-174頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	10	年少者と女性労働者の保護	・年少者と女性労働者の労働規制	教科書第2編第7章(175頁-184頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	11	安全衛生と災害補償	・使用者の安全配慮義務 ・労働災害の補償	教科書第2編第8章(185頁-204頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	12	就業規則	・就業規則の意義とその効果	教科書第2編第9章(205頁-223頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	13	懲戒	・使用者の懲戒権の法的根拠 ・懲戒処分の内容	教科書第2編第10章(224頁-242頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	14	解雇・定年・退職	・解雇の法理	教科書第2編第11章(243頁-271頁)を予め読み、事後には配布資料に目を通すこと(各1時間)
	15	まとめ・追補	これまでのまとめと、あまり触れられなかった問題の補足	今まで学んだことで自分がわかりにくかった部分などがどこかを確認しておく(1時間)

実務経験	
関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働団体法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法 [第12版]	安枝英諄・西村健一郎	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選 [第9版]		有斐閣
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	zaxpcsj
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	期末テスト (5割)、授業中の課題 (5割) とします。受講者が少ない場合、学期末テストもオンライン実施の予定です。
学生への メッセージ	労働法は、近い将来、皆さんの生活に極めて身近なものとなる法律です。労働法を学ぶことは社会の実態を知ることにもつながるので意欲をもって学習してください。
担当者の 研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	小テストの正解は次の回の授業で解説する。 19年度 合格率 96% (不受験率 9%) A3% B29% C33% D31% 平均 73点 132人登録

科目名	労働組合法	科目名 (英文)	Labor Union Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3055a0		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、労働団体に大きく分けることができますが、この授業では、労働団体の主要法である労働組合法についてその内容を概観します。 授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法律が認めている労働者の権利を実現するために労働組合にどのような権利が与えられ、どのような役割が期待されているのか、また実際にどのような活動を行うのかを知り、さらには最近の就労形態の多様化の現象の下で、労働組合がどのような問題を抱えているのかを考えるようになることが期待される。
授業方法と留意点	前期授業はWeb方式となります。大学指定のMicrosoft「Teams」で、「J015-労働組合法-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい。論点を整理したレジュメを適宜配布するほか、関連する判例や資料を指定することもあります。授業では教科書および六法を必ず参照してください。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の特徴	・労働法制の概観 ・労使関係の現状と問題点 ・労働法の意義、性格	教科書2頁から44頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
2	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	教科書312頁から329頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
3	団体交渉	・団体交渉の法的枠組み ・団体交渉義務の内容 ・団交拒否の救済方法	教科書330頁から336頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
4	労働協約①	・労働協約の意義 ・労働協約の締結	教科書337頁から341頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
5	労働協約②	・労働協約の効力、拘束力 ・労働協約の終了	教科書342頁から354頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
6	労働者の団体行動(争議)①	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性	教科書355頁から365頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
7	労働者の団体行動(争議)②	・違法な争議行為とその責任 ・争議行為と第三者	教科書365頁から379頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
8	組合活動①	・就業時間中の組合活動	教科書第380頁から383頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
9	組合活動②	・就業時間外の組合活動 ・組合への便宜供与	教科書383頁から390頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
10	不当労働行為①	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の類型	教科書第391頁から408頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
11	不当労働行為②	複数組合への対応	教科書408頁から412頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
12	不当労働行為③	・不当労働行為の救済	教科書412頁から418頁を予め読み、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
13	補講	これまでに十分に触れられなかった重要論点について解説する	事前に理解が不十分であることを確認し、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
14	補講	これまでに十分に触れられなかった重要論点について解説し、労働組合法の全体像を見直す。	事前に理解が不十分であることを確認し、事後には配布した資料を見直すこと(各1時間)
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習する。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと(1時間)

実務経験	
関連科目	日本国憲法、民法Ⅰ、民法Ⅱ、労働保護法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法(第12版)	(有斐閣双書プリマ)	安枝英紳 ほか
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働判例百選[第9版]		
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	学期末に課するレポートの内容(70%)、授業中の小テストもしくは課題(30%)により総合的に評価します。
学生への	労働法が取り上げる問題は近い将来において皆さん方自身の問題となるものばかりです。法律が労働者にどのような態度で向き合っているのかを

メッセージ	実感して下さい。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室
備考	確認テストの解答は次回の授業で解説する。 19年度 合格率98% (不受験率3%) A12% B28% C50% D8% 平均75点 160人登録

科目名	社会保障法	科目名 (英文)	Social Security Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3056a0		

授業概要・目的	社会保障法は、現代の国民の生活に欠かすことができない法分野であるとともに、企業や国家にとっても重要な意味をもつ法分野でもあります。現在の日本のおかれている状況を理解し、社会のあり方を考えるための一つの手段として、社会保障法を概観したいと考えています。授業担当者は、弁護士として17年、裁判官として22年勤務し、また、大阪家庭裁判所、広島高等裁判所の総括判事、鳥取地方裁判所所長を歴任するなど、労働問題や社会保障に関する民事訴訟の判決に数多く携わってきました。この授業では、法理論のみならず、それらの実務経験を踏まえた講義を行うことにしています。
到達目標	この授業を通じて学生には、社会保障の概要を理解するとともにこれが国の政策において極めて大きな部分を占めていること、社会保障の現代的な課題が自らの将来にも深く関係することを実感して、国の政策などに積極的な興味を持つようになることが期待されます。
授業方法と留意点	講義はTeamsによるオンライン講義となります。現状で動画配信の予定はありません。講義では後記教科書を使用するほか、論点を整理したレジュメを適宜配布します。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	社会保険労務士の資格取得のための必須科目であり、公務員試験の一般教養などでの出題も考えられます。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会保障の歴史と枠組み	・社会保障の歴史 ・社会保障の定義、体系	教科書プロローグとChapter1(3頁から21頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
2	年金制度(1)	・公的年金制度の全体像 ・国民年金と厚生年金、共済年金	教科書Chapter2(22頁から50頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
3	年金制度(2)	・年金給付の概要	教科書Chapter2(22頁から50頁)を再度確認し、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
4	医療保障制度(1)	・医療保障の概要、体系	教科書Chapter3(51頁から75頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
5	医療保障制度(2)	・医療保障の給付 ・混合診療 ・医療保障の財政	教科書Chapter3(51頁から75頁)を再度読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
6	介護保障	・介護保険の仕組み	教科書Chapter4(76頁から97頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
7	労災補償	・労災補償制度と労災保険 ・労災の認定	教科書Chapter5(98頁から125頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
8	雇用保険	・雇用保険制度の成り立ち ・失業給付	教科書Chapter6(126頁から152頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
9	社会福祉制度	・社会福祉制度の全体像 ・社会福祉法人	教科書Chapter7(153頁から178頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
10	障害者福祉	・障害者総合支援法による支援 ・福祉サービスにおける給付の具体例	教科書Chapter8(179頁から207頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
11	児童福祉と社会手当	・児童福祉制度の概要 ・ひとり親家庭の支援 ・育児に関する金銭給付	教科書Chapter9(208頁から235頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
12	公的扶助(生活保護)	・生活保護法の概要	教科書Chapter10(236頁から263頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
13	グローバル化と社会保障	・外国人と社会保障 ・在外邦人と社会保障	教科書Chapter12(290頁から318頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
14	紛争の解決と救済 社会保障の根拠法	・不服申立ての手続 ・審査請求と行政訴訟 ・社会保障法の構造	教科書Chapter11(264頁から289頁)、Chapter13(319頁から338頁)を予め読み、事後には配布資料を検討すること(各1時間)。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足します。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと(1時間)。

実務経験	
関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ブリッジブック 社会保障法 (第2版)	菊池馨実 (編)・稲森公嘉ほか	信山社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	目で見える社会保障法教材【第5版】	岩村正彦ほか	有斐閣
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	2z63k5v
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	期末テストの成績(50%)、授業中の小テスト(50%)による総合評価をします。期末テストもオンライン実施の予定です。

学生へのメッセージ	社会保障は、どこか遠くのものではなく、自分たち自身に密接に関連するものであることを認識し、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室
備考	学生の皆さんが興味を持ったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業の中でとりあげます。小テストの解説は次回の講義で行います。

科目名	環境法	科目名 (英文)	Environmental Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3057a0		

授業概要・目的	環境にまつわる法と制度を周辺の事情なども含めて学習してもらいます。 国家と環境の関係について、法律学的な検討だけでなくその他環境法の総合的理解に必要な観点から考察を加えます。
到達目標	この授業を通じて学生には、環境という広い領域の中の、法律・行政に関わる部分を学び整え、憲法、民法、行政法などを踏まえた上での環境に対する法の思考を形成できるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	動画配信による遠隔講義によって行います。 事前に公開されるレジュメの印刷や、教科書の入手などしておいていただくと講義の理解がより進むと思われれます。 法学部3年生後期の科目なので、そこまでの憲法、民法、行政法の理解を前提として講義を行います。
科目学習の効果 (資格)	新司法試験の選択科目です。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	・講義の進め方、環境法を学ぶにあたっての前提事項の確認など	予習：教科書の目次を読んでくる (5分) 復習・学習：講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んでみて内容をチェックする (20分)
	2	環境法概説	・法哲学的にみた「環境」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	3	環境法と権利	・環境法における実定法的「権利」とは	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	4	環境法と環境行政①	・環境法、環境行政の歴史①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	5	環境法と環境行政②	・環境法、環境行政の歴史②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	6	環境と訴訟①	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	7	環境と訴訟②	・四大公害裁判と民事訴訟理論の展開②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	8	環境と訴訟③	・新しい形態をとる環境訴訟	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	9	環境政策と基本法①	・環境基本法の制定とその内容①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	10	環境政策と基本法②	・環境基本法の制定とその内容②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	11	環境に対する事前の措置①	・環境影響評価法の導入とその仕組み①	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	12	環境に対する事前の措置②	・環境影響評価法の導入とその仕組み②	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	13	環境に対する事前の措置③	・環境影響評価法の導入とその仕組み③	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	14	領域を越えた環境問題①	・環境問題のグローバル化	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
	15	領域を越える環境問題②	・領域を越えた環境問題の解決	予習：初回説明・前回配布プリントを見ておく (20分) 講義ノートふり返し、該当部分の教科書を読んで内容をチェックする (20分)
実務経験				
関連科目	憲法 I、憲法 II、行政法などの公法科目と関連します。法哲学、行政学や、民法(不法行為など)、民事訴訟法などとも関連します。			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	考えながら学ぶ環境法	畠山武道	三省堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	環境法 2020ukel			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の小課題(40%)、期末レポート(60%)で評価します。			
学生への メッセージ	資料等は適宜配布します。その他詳細については初回に配布するプリントを参照すること。			
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室			
備考	小課題については授業で解説します			

科目名	国際社会と法	科目名 (英文)	International Community and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1058a0		

授業概要・目的	国内法とは相当に異なる基本構造をもつ国際法について、基礎的な知識を体系的に整理して理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際法の基礎知識を体系的に習得し、国際問題を国際法的視点から考える素養を身に着けることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、Teamsを用いた遠隔授業によって行われる。
科目学習の効果(資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 国際法の基本構造	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際社会の構造、国際法の歴史について学ぶ。	シラバスの講義概要に目を通しておくこと。
2	国際法の基礎	国際法とは何か全体像について学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
3	国際法の法源	慣習国際法の成立要件について学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
4	条約の締結と効力	条約の定義、条約の締結手続、条約の適用、条約の抵触について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
5	条約の留保	国際連盟方式、汎米方式、ジェノサイド条約留保事件、両立性の原則、について学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
6	条約の無効と終了	条約の承継、無効、改正と条約の終了・運用停止について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
7	第6回講義までの復習と確認課題を課す	第6回目までの復習を行ったうえで、確認課題を課す。	これまでの授業の復習を行うこと。2時間	
8	国際法主体(その1)	法主体(とくに国家)、国家平等について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間	
9	国際法主体(その2)	国際機構の法主体性について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
10	国際連合法	国連法、国連の組織・構造、国連の法人格と権限について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
11	国際人権法	人権の法典化、さまざまな人権条約、人権条約の国際的実施、国連機関による人権の実現について学ぶ。	第10回講義の復習をおこなうこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
12	外国人法	国民と外国人、外交的保護について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
13	国家責任	国家責任の概念、行為の国家への帰属、国際義務の違反、国家責任の結果について学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
14	紛争解決	仲裁裁判、司法的解決、国際司法裁判所について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。2時間	

実務経験	
関連科目	国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	dskv8m8
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	jo.toriyabe@law.setsunan.ac.jp

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中に指示する課題の達成度によって評価を行う。
学生への メッセージ	国際法は国内法とはその構造を相当に異にするので、戸惑うことも多いかと思いますが、毎回の授業を理解しようと努力すれば、きっと皆さんも国際法の面白さに気が付くはずですよ。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回で行う。 19年度 合格率76% (不受験率5%) A4% B8% C25% D39% 平均65点 122人登録

科目名	国際法の基礎理論	科目名 (英文)	Introduction to International Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2059a0		

授業概要・目的	国内法とは相当に異なる基本構造をもつ国際法について、基礎的な知識を体系的に整理して理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際法の基礎知識を体系的に習得し、国際問題を国際法的視点から考える素養を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に教科書及び毎回配布するレジュメに沿って行われる。
科目学習の効果 (資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種への就職を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 国際法の基礎	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際法とは何かについて学ぶ。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	武力行使禁止と自衛権	武力行使禁止原則、個別的自衛権、集団的自衛権などについて学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
3	集団安全保障	集団安全保障制度について国際連盟と国際連合を対比しつつ学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
4	主権と自決権	国家主権、人民の自決権、不干渉原則について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
5	国家・政府の誕生と内戦	国家の誕生、政府の変更、破綻国家の扱いなどについて学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
6	国家管轄権	管轄権の種類、立法管轄権と司法管轄権、管轄権の拡大、執行管轄権の調整について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	第6回講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間	
8	管轄権の制限	外交・領事特権免除、主権免除、国際機構の特権免除について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間	
9	国家領域	領域の区別、領域権原、領土紛争について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
10	領域使用	領域主権の意義、天然資源と国有化、領域使用の管理責任、国際化地域について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
11	海洋法の構造	領海、国際海峡、群島水域について学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
12	海洋開発	排他的経済水域、大陸棚、公海、深海底について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
13	海上管轄権	内水及び領海における刑事管轄権、接続水域と継続追跡、公海上の刑事管轄権などについて学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
14	空・宇宙及び南極	空、宇宙、南極について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について説明する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間	

実務経験	
------	--

関連科目	国際社会と法、国際組織法、国際人権法
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際法入門【第2版】	山形英郎編	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業期間中に指示する課題（レポートなど）の達成状況をもとに評価する。
学生への メッセージ	コロナの影響で対面の授業が困難となっておりますので、状況に応じて、シラバスの内容を若干変更せざるを得ない場合が出て来得ることをご承知おき下さい。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	教科書は購入しなくとも努力次第では単位の取得が可能となるように配慮します。 19年度 合格率 75% (不受験率 0%) A2% B20% C29% D24% 平均 65点 203人登録

科目名	国際人権法	科目名 (英文)	International Human Rights Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2060a0		

授業概要・目的	国際人権法とは、人権に関する条約や宣言、それを実施するための国際的・国内的な制度や手続の総体をいう。人権は、第一義的には、各国の憲法によって保障されている。しかし、憲法をはじめとする国内法制度だけでは人権の保障が十分に確保されないことがある。こうしたときに、人権に関わる不十分な国内法制を、外から客観的基準に照らして検証し再考するための機会を提供する役目を果たすが、国際人権法という学問である。本講義では、人権問題に国際社会がどのように対処しようとしているのかについて、国際法の観点から基本的な知識を体系的に整理・分析する能力を養うことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、人権問題に対処するための国際的な制度や手続について国際法の視点から整理・分析できるようになるとともに、現代社会に生起する人権に関する諸問題について国際法の観点から議論できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、Teams を用いて遠隔授業を実施する。本講義は、「国際法の基礎理論」及び「国際社会と法」で習得する基礎知識を前提として行われるので、事前にこれらの国際法科目を受講しているか、あるいは同時に受講することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 国際人権法とは？	・講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際人権法の概観を学ぶ。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。
2	国際人権法の生成と発展	国際人権の中心理念、主要な国際人権文書とその概要について学ぶ。	第1回講義の復習を行うこと。第2回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
3	ヨーロッパの人権保障制度	ヨーロッパ人権条約の旧制度下及び現制度下の手続、について学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
4	ヨーロッパ人権裁判所(その1)	ヨーロッパ人権裁判所の判例、発展的解釈について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
5	ヨーロッパ人権裁判所(その2)	ヨーロッパ人権裁判所の判例について学ぶ。	第4回講義の復習を行うこと。第5回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
6	南北アメリカの人権保障制度	米州機構と地域的人権文書、米州人権委員会、米州人権裁判所について学ぶ。	第5回講義の復習を行うこと。第6回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
7	第6回講義までの復習と確認課題を課す	第6回目までの内容の復習を行ったうえで、確認課題を課す。	第6回目までの講義の復習を行っておくこと。2時間	
8	アフリカの人権保障制度	制度概要、バンジュール憲章、実施措置、アフリカ人権裁判所について学ぶ。	第8回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。1時間	
9	国連の人権活動	国連の主要な人権関係機関、人権理事会の組織と任務について学ぶ。	第8回講義の復習を行うこと。第9回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
10	国連の人権活動	日本政府への勧告の内容について学ぶ。	第9回講義の復習を行うこと。第10回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
11	普遍的な人権条約の国家報告制度	国家報告制度、自由権規約委員会総括所見について学ぶ。	第10回講義の復習を行うこと。第11回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
12	普遍的な人権条約の個人通報制度	個人通報制度、自由権規約委員会、個人通報制度の役割と課題について学ぶ。	第11回講義の復習を行うこと。第12回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
13	国際人権法の国内的実施	憲法と人権条約の優先関係、国内裁判における国際人権条約の適用方法について学ぶ。	第12回講義の復習を行うこと。第13回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
14	管轄下にある人の人権保障	緊急事態の存在、必要性の要件、無差別、人権条約の実施と国際協力について学ぶ。	第13回講義の復習を行うこと。第14回講義の前に、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。各1時間	
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と期末課題について説明する。	これまでに完成した全レジメの復習と質問を準備しておくこと。2時間	

実務経験	
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際私法、その他国際関係に関係する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	6wgbr61

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	jo.toriyabe@law.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中に指示する課題の達成度によって評価する。
学生への メッセージ	人権は、各国の国内法で保障され救済制度が整備されれば問題ないのではないか、なぜ国際的な物差しを考慮する必要があるのかと疑問に思う人もいるでしょう。その「なぜ？」を、本講義を通じて皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	中間テストの解説は、テストを実施した次の回の授業で行う。

科目名	国際組織法	科目名 (英文)	Law of International Organizations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3061a0		

授業概要・目的	現代国際社会において、国際連合をはじめとする国際組織（政府間国際機構）は、国家と並ぶ重要な地位を占めるようになってきている。国際組織の設立及び活動内容は、一般に条約によって設立される。そのため、国際組織はすぐれて法的な存在である。本講義では、国際社会において国際連合を中心とする国際組織がいかなる役割を果たし、いかなる意義を有する存在であるかを、国際法の観点から明らかにすることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際組織の活動において国家がどのような役割を果たしているか、また、国際組織の活動が国家にどのような影響を及ぼしているかについて、具体的な例を示しつつ説明することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、基本的に毎回配布するレジュメに沿って授業を行う。本講義は、「国際社会と法」および「国際法の基礎理論」と密接に関係しているため、これらの科目を併せて受講することが望ましい。
科目学習の効果（資格）	国際機関やNGOなど国際性豊かな職種を希望する学生はもちろんのこと、国家公務員をはじめとする各種公務員の教養試験や教員資格取得および大学院・法科大学院進学にも役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 国際組織とは何か？	・講義の到達目標を含む講義概要、講義の進め方、成績評価方法などについて説明する。 ・国際組織の概念と役割、国際組織の定義について学ぶ。	シラバスを読み講義概要に目を通しておくこと。教科書（pp. 255-278）を事前に読んでおくこと。
2	国際連盟以前における国際組織の歴史的発展	国際組織の原初形態、国際組織誕生の流れについて学ぶ。	第2回講義の復習を行うこと。第3回講義レジュメを完成させること。各1時間
3	国際連盟	国際連盟の成立、国際連盟の組織構造、国際連盟の任務と活動について学ぶ。	第3回講義の復習を行うこと。第4回講義レジュメを完成させること。各1時間
4	国際連合の設立と組織構造	国際連合の創設、国際連合の目的、任務、組織構造について学ぶ。	第4回目講義の復習を行うこと。第5回講義レジュメを完成させること。各1時間
5	国際組織の国内法人格	国際組織の国内法人格について学ぶ。	第5回目講義での復習を行うこと。第6回講義レジュメを完成させること。各1時間
6	国際組織の国際法人格	国際組織の国際法人格について学ぶ。	第6回目の講義の復習を含め、中間テストの準備を行うこと。2時間
7	第6回講義までの復習と中間テスト	第6回目までの復習を行ったうえで、中間テストを実施する。	中間テストの準備を行うこと。2時間
8	国際組織の特権免除（その1）	外交・領事特権免除について学ぶ。	第8回目講義の復習を行うこと。第9回目レジュメを完成させること。各1時間
9	国際組織の特権免除（その2）	国連大学事件について学ぶ。	第9回目講義の復習を行うこと。第10回レジュメを完成させること。各1時間
10	国際組織の特権免除（その3）	国際組織の特権免除に関する国内裁判所の判例、国際裁判所の判例について学ぶ。	第10回目講義の復習を行うこと。第11回目レジュメを完成させること。各1時間
11	国際組織の特権免除（その4）	平和維持活動に関する国連の裁判権免除について学ぶ。	第11回目講義の復習を行うこと。第12回レジュメを完成させること。各1時間
12	国際組織の表決制度	安全保障理事会の拒否権制度を中心に、全会一致制、多数決制、コンセンサス方式、加重表決制について学ぶ。	第12回目講義の復習を行うこと。第13回目レジュメを完成させること。各1時間
13	国際組織の決議の法的効果	国際組織の維持運営（内部事項）に関する決議の効果と、国際組織の任務遂行（対外的事項）に関する決議の効果を対比しながら学ぶ。	第13回目講義の復習を行うこと。第14回レジュメを完成させること。各1時間
14	国際組織の紛争解決制度	国威司法裁判所を中心に国際組織の紛争解決制度について学ぶ。	第14回目講義の復習を行うとともに、第13回目までのレジュメの内容を確認しておくこと。2時間
15	学期のまとめ	本学期的講義内容の総括と学期末テストの準備について指示する。	これまでに完成した全レジュメの復習と質問を準備しておくこと。2時間

実務経験	
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際人権法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業期間中に指示する課題（レポートなど）の達成状況をもとに評価する。

学生へのメッセージ	コロナの影響により対面での授業が困難でありますので、状況に応じて、シラバスの内容を若干変更せざるを得ない場合が出て来得ることをご承知おき下さい。
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	

科目名	政治学概論	科目名 (英文)	Introduction to Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○		
科目ナンバリング	JDJ1062a0		

授業概要・目的	この講義では、いまの政治・政策の大きな課題を取り上げ、テレビのニュース番組に関心を持って見られるようになることを目的とする。選挙で投票するにあたって、政治家や政党の訴えに対して自分の意見が持てるようになってほしいと考える。
到達目標	この講義を通じて学生には、週1～2回でもテレビのニュース番組を見て、「この問題、いまそうなっているのか」と思えるよう、前提となる知識を身につけることが期待される。そして、その問題について自分の意見を持てるようにする。
授業方法と留意点	ひとつの時事のテーマを講義2回で扱う。時事を扱うため、夏までの情勢を見たあとに授業計画を確定する。講義では、簡単なレジュメを配布し、ニュース映像や新聞記事を多用する。毎回、知識の確認や自分の意見を書く確認ペーパーを課す。受講者とのやりとりを心がける。*遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は1週間後に設定する。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験では、教養科目でも社会科学や政治の時事の知識が問われる。民間企業の採用試験でも、一般常識として、政治の仕組みの基礎や時事が問われる。職業社会人と会話をするうえで、政治や政策の話題についていく最低限の知識は不可欠である。この講義では、こういった知識や常識を身につける出発点を提供したい。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	いまの政治・政策の大きな課題に目をとおしてみる。	講義で扱う時事について、学生とやりとりをしながら、いまの政治・政策の大きな課題の概要を確認する。
2		日本の内閣はなぜ長続きしなかった? (1)	第二次安倍内閣以前、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く (約1時間)。
3		日本の内閣はなぜ長続きしなかった? (2)	第二次安倍内閣以前、内閣が約1年しかもたなかった理由を探る。衆議院と参議院の「ねじれ」現象、内閣支持率の動き、無党派層の性格を解説する。	配布した新聞記事を読む。なぜ短命内閣となっていたのか自分の意見を整理して書く (約1時間)。
4		安保法制、どう考える? (1)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く (約1時間)。
5		安保法制、どう考える? (2)	2015年、議論が紛糾した安保法制に考えるにあたって、自衛隊の創設から冷戦以降の自衛隊の役割の拡大の歴史を説明し、国際政治の文脈を意識してもらう。	配布した新聞記事を読む。自衛隊の役割の拡大に関する自分の意見を整理して書く (約1時間)。
6		消費税を上げるのに賛成? (1)	2019年10月に10%増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。
7		消費税を上げるのに賛成? (2)	2019年10月に10%増税された消費税を扱う。日本の借金残高や、借金が増えてきた経緯を説明し、消費税導入と増税の背景を理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。消費税増税に賛成するか、反対するか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。
8		尖閣諸島・竹島にこだわる? (1)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く (約1時間)。
9		尖閣諸島・竹島にこだわる? (2)	近年、日中間、日韓間で争いの種となっている領土問題を取り上げる。歴史の経緯を簡単に整理したうえで、国有化、大統領の上陸などをめぐって、どのような言い争いの構図になっているか説明する。	配布した新聞記事を読む。尖閣諸島・竹島問題に関する自分の意見を整理して書く (約1時間)。
10		日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う? (1)	原則、関税を撤廃する TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。
11		日本は TPP のなかでいかに経済を持続的に発展させていくべきかと思う? (2)	原則、関税を撤廃する TPP (環太平洋戦略的経済連携協定) をめぐる動向や議論を説明する。輸出国である日本にとってのメリット、食品の安全や小規模農業への影響の懸念など、TPP と生活の結びつきを理解してもらう。	配布した新聞記事を読む。日本が TPP に参加すべきかどうか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。
12		原発存続に賛成する? 反対する? (1)	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。
13		原発存続に賛成する? 反対する? (2)	特に東日本大震災後、存続・廃止をめぐる議論が行われている原発の問題を扱う。原発の仕組みやリスクを説明したうえで、日本における原発開発の背景	配布した新聞記事を読む。原発を維持すべきか、廃止すべきか、自分の意見を整理して書く (約1時間)。

			と、原発をめぐる資金の流れの意味を考えてもらう。	
	14	大阪都構想をどう見る？ (1)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
	15	大阪都構想をどう見る？ (2)	地元大阪の政治動向を説明する。特に、既得権益の打破、有権者が決める政治を訴えて勢力を得た維新と、その主張の核となった大阪都構想について解説する。	配布した新聞記事を読む。大阪都構想に対する自分の意見を整理して書く（約1時間）。
実務経験				
関連科目	「政治」「政策」「行政」「地方自治」と名のつく講義につながる基礎科目である。中学・高校の社会（公民分野）が苦手だったという人は、前期の「政治と政策」を受講しておくことを勧める。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/YouTube			
Teams コード	201ckym			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	大学メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。*遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。			
学生への メッセージ	どんな仕事に就いても、政治や政策の問題は避けられません。領土をめぐる中国や韓国との争いが厳しくなったり、国の借金が増え円高になり輸出に不利になったりすれば、よい製品も売れなくなります。加えて、電力の安定的な確保は、生活と仕事の最も基礎にある問題です。自分と家族を守るために、毎日の政治・政策のニュースに関心が持てるようになってほしいと考えて、講義をしていきます。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。 19年度 合格率94% (不受験率4%) A5% B33% C37% D19% 平均75点 216人登録			

科目名	世界の政治と社会	科目名 (英文)	Politics and Society of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1063a0		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、第二次世界大戦後の国際政治の流れを理解し、現在の国際関係を考える基礎となる知識を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	<p>【新型コロナ対応：7月9日更新】</p> <p>この授業では、私の作成した動画をみなさんの都合の良い時に視聴していただく形の「オンデマンド型」授業をやっていきます。教科書は使用せず、講義レジュメによって授業をすすめていきます。</p> <p>授業計画、動画配信情報、成績評価方法の詳細、講義レジュメのダウンロードなど、全てを Moodle の中で指示していますので、履修する方は必ず Moodle の登録を行ってください。</p> <p>登録キー：1206</p>
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職時に、日本と世界の関わりという点で国際情勢について問われる場面は多い。この授業によって、現在の国際情勢を理解するうえで必要な知識を習得することができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	高校世界史の教科書などで、冷戦期の国際政治の流れについて一通り読んでおく (約2時間)
	2	冷戦時代の国際関係 (1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	冷戦初期の国際情勢について調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
	3	冷戦時代の国際関係 (2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	「アジア・アフリカ会議」、「非同盟諸国首脳会議」について調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
	4	冷戦時代の国際関係 (3)	多極化とデタントについて	「キューバ危機」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
	5	冷戦時代の国際関係 (4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	ゴルバチョフについて調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
	6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (1)	冷戦終結後の国際政治全般について	「文明の衝突」について調べておく (約30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
	7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ (2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	ユーゴスラヴィアの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
	8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	「核抑止」について調べておく (約30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
	9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」後の国際政治について	「9.11テロ」について調べておく (約30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
	10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	オバマ大統領の「ブラハ演説 (2009)」について調べておく (約30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
	11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	「ヴェトナム戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
	12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエルの成り立ちについて調べておく (約30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
	13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	「朝鮮戦争」について調べておく (約30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
	14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	日本の領土問題について調べておく (約30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	講義全体を振り返り、期末レポートの準備をする

実務経験	
関連科目	日本政治論、日本外交史、国際関係論、国際関係史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会
	2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
	3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア (田中明彦訳)	有斐閣

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	世界の政治と社会 <2020年度後期 水曜3限J・1 担当：森康一> 1206
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
	【新型コロナ対応 : 7月9日更新】
評価方法 (基準)	①平常点 : 20% (小テストを 2 回実施予定 (第 5 回・第 10 回の授業日の 13 : 20?14 : 50 に、Moodle を通じて実施。制限時間は 10 分で、1 問 1 点×10 問)) ②期末レポート : 80% (5 つのテーマを出し、そのうち 2 つを選択して書いてもらいます。文字数は各 800?1000 文字で。分量と理解度を勘案し、それぞれ 40・35・30・25・20・・と 5 点刻みで採点します。Moodle を通じて提出してもらいます。テーマは第
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに興味を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	近代日本政治史	科目名 (英文)	Modern History of Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1064a0		

授業概要・目的	現代の日本の政治に参加するさい、今までの日本の政治の歴史や政策、また日本の政治が扱ってきた問題などを知っておくことは非常に有益です。なぜなら、それらに基づいて皆さんは自分をとりまく政治問題や政治情勢、望ましい政策や選択肢について考え、意思決定することができるからです。 この授業では、有権者である学生の皆さんに日本の政治の歴史についての基本的な知識を与えることが目的です。近代日本政治史ということで明治以降の日本の政治史が対象になりますが、より皆さんの生活に関係が深い戦後の日本政治史を中心に授業していきます。
到達目標	この授業を通じて学生は、日本の政治の歴史についての基本的な知識を獲得できるとともに、それに基づいて、自分自身でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのか考え、論理的に意思決定できるようになります。 また日本政治史の分野に関わる地方上級や市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説し、試験に対応できるだけの知識を獲得することができます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。また必要に応じて映像資料を見せる場合もあります。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果(資格)	公務員試験や就職活動において、政治や歴史の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また身の回りで起こっている政治・社会の出来事に造詣の深い人物になるべく、日本の基本的な歴史的・政治的知識を知ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション～「近代」とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と「近代(modern)」とは何を意味するのかについて授業します。	事前学習：今まで勉強してきた歴史の教科書などを再読し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
2	戦前日本の政治史①～明治・大正の政党の活動と大日本帝国憲法	政党史を中心に大正デモクラシーまでの政治史を概観し、大日本帝国憲法の政治的な重要箇所について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
3	戦前日本の政治史②～軍部の台頭	映像資料を見ながら、日本が日中戦争・太平洋戦争へと向かっていった原因の一つである軍部を考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第三回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
4	戦前日本の政治史③～満州国の設立	映像資料を見ながら、なぜ日本がワシントン体制から脱して満州国設立へと向かって行ってしまったのかを考えます。	事前学習：レジュメの該当箇所(第四回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
5	戦後日本の政治史①～GHQによる日本の初期占領政策	GHQの日本占領政策と連立政権について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第五回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
6	戦後日本の政治史②～インフレ対策と逆コース	冷戦の激化にともない、GHQの日本占領政策が転換していった過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第六回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
7	戦後日本の政治史③～日本の独立と吉田茂の退場	サンフランシスコ平和条約締結周辺の経過と吉田保守本流の外交方針について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第七回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
8	戦後日本の政治史④～新日米安保条約と安保闘争	岸内閣を中心に、新日米安保条約の改定が望まれた理由や安保闘争の経過について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第八回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
9	戦後日本の政治史⑤～沖縄返還問題と非核三原則	佐藤内閣を中心に、当時の沖縄返還をめぐる諸問題について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第九回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
10	戦後日本の政治史⑥～派閥の強化と田中派の隆盛	自民党の派閥政治の特徴と田中派が勢力を拡大していく過程について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
11	戦後日本の政治史⑦～田中派から竹下派への禪譲	田中派から竹下派へと自民党の権力が移行していった80年代の自民党政治について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十一回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
12	戦後日本の政治史⑧～政治改革と55年体制の崩壊	55年体制が崩壊し、細川連立内閣が成立した90年代の政治史を授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所(第十二回)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。

				事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	13	戦後日本の政治史⑨～小泉内閣から民主党内閣へ	小泉内閣の外交や郵政民営化法案を中心に授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十三回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	14	戦後日本の政治史⑩～安倍内閣の諸政策	国家の自衛権とは何かを解説しながら、安倍内閣における集団的自衛権の行使の閣議決定の内容について授業します。	事前学習：レジュメの該当箇所（第十四回）を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する（30分）。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く（30分）。																
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく（30分）。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す（時間の許す限り）。																
実務経験																				
関連科目	中学・高校の日本史、世界史など。大学の歴史学、政治学概論など。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>近代日本政治史</td> <td>坂野潤治</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>現代日本政治史</td> <td>廣澤孝之</td> <td>晃洋書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店	2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	近代日本政治史	坂野潤治	岩波書店																	
2	現代日本政治史	廣澤孝之	晃洋書房																	
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																			
Teams コード	zgf4m85																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	オンライン授業での小テストとレポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。																			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の日本の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。																			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室																			
備考	予習・復習テストについては次回の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。 19年度 合格率98%（不受験率5%） A25% B60% C11% D1% 平均85点 213人登録																			

科目名	日本外交史	科目名 (英文)	Japan Diplomatic History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2065a0		

授業概要・目的	開国から現代までの日本の外交史を講義する。明治維新、日清・日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、第二次世界大戦、そして戦後という激動の歴史を理解することで、今後日本がとるべき方向を考える土台を培ってほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治・外交史を理解することにより、社会人として世に出た時に、日本の近現代史を常識として語ることでできる能力を持つことが期待される。
授業方法と留意点	<p>【新型コロナ対応：4月30日更新】</p> <p>私の作成した動画をみなさんに視聴していただく形のオンライン授業をやっていきます（オンデマンド型）。</p> <p>受講するみなさんは、履修登録後必ず以下のことを行って下さい。</p> <p>授業計画、成績評価方法の詳細、レジュメのダウンロードなど、全てをMoodleの中で指示しています、</p> <p>①Moodleの登録</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生向け Moodle のマニュアルに従い、「コース」一覧から「日本外交史」（担当：森康一の名前が書いてあります）を検索し、そのコースに入る。 ・「登録キー」の入力を
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、日本の政治・外交史が一般教養として問われる。この授業によって、上記に際して必要な、また現代や将来の日本を考える上で必須となる歴史的な知識を得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
	2	開国	江戸時代の末期、欧米諸国に開国を迫られた状況について	幕末の条約について調べておく（約30分） レジュメ（第2回）を見直しておく（約1時間）
	3	明治維新	明治維新期の対外関係について	明治初期の諸条約について調べておく（約30分） レジュメ（第3回）を見直しておく（約1時間）
	4	領土問題・条約改正問題	諸外国との領土確定交渉と条約改正の試みについて	条約改正の過程について調べておく（約30分） レジュメ（第4回）を見直しておく（約1時間）
	5	大陸問題	征韓論と日朝関係について	明治六年の政変について調べておく（約30分） レジュメ（第5回）を見直しておく（約1時間）
	6	日清戦争と日露戦争	日本と清、ロシアをめぐる外交関係について	日清・日露戦争の講義と条約について調べておく（約30分） レジュメ（第6回）を見直しておく（約1時間）
	7	第一次世界大戦前後の国際情勢と日本の対外政策	第一次世界大戦前後の外交、幣原外交について	第一次世界大戦前の国際情勢について調べておく（約30分） レジュメ（第7回）を見直しておく（約1時間）
	8	満州事変	田中外交と満州事変をめぐる国際連盟の対応について	満州事変のきっかけについて調べておく（約30分） レジュメ（第8回）を見直しておく（約1時間）
	9	日中戦争の始まり	日中戦争期の対外関係について	第一次近衛内閣について調べておく（約30分） レジュメ（第9回）を見直しておく（約1時間）
	10	太平洋戦争への道	アメリカと敵対していく外交関係について	ハル・ノートについて調べておく（約30分） レジュメ（第10回）を見直しておく（約1時間）
	11	第二次世界大戦	第二次世界大戦期の日本をとりまく国際関係について	連合国首脳国際会議について調べておく（約30分） レジュメ（第11回）を見直しておく（約1時間）
	12	第二次世界大戦後の国際社会と日本	大戦終結直後の国際関係について	冷戦初期の国際情勢について調べておく（約30分） レジュメ（第12回）を見直しておく（約1時間）
	13	サンフランシスコ体制下の日本外交	日本の独立回復後の外交について	ソ連や韓国との国交回復・樹立について調べておく（約30分） レジュメ（第13回）を見直しておく（約1時間）
	14	高度経済成長期以後の日本の政治と外交	最近の日本の外交について	中華人民共和国との国交樹立について調べておく（約30分） レジュメ（第14回）を見直しておく（約1時間）
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

実務経験				
関連科目	世界の政治と社会、日本政治論、国際関係史、国際関係論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本外交史講義	井上寿一	岩波書店
	2	日本外交史概説	池井優	慶應義塾大学出版会
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名				

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<p>【新型コロナ対応：4月30日更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：20%（小テスト（Moodle を通じて実施予定。1 問 1 点×10 問の小テストを 2 回実施）） ・期末レポート：80%（5 つのテーマを出し、そのうち 2 つを選択して書いてもらいます。文字数は各 800?1000 文字で。分量と理解度を勘案し、それぞれ 40・35・30・25・20・・・と 5 点刻みで採点します。Moodle を通じて提出してもらいます。テーマは最終回の授業他で発表） <p>の合計点によって評価を行います。</p>
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起きていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	西洋政治思想史	科目名 (英文)	History of Western Political Thought
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2066a0		

授業概要・目的	皆さんが憲法や法律、政治家の演説を見聞きするとき、自由・平等・正義といったさまざまな政治的概念が現れると思います。それらは空虚で意味のない言葉ではなく、古代ギリシアにおいてプラトン・アリストテレスといった政治思想家たちが発明し、それが意味する内容がさまざまに変化しつつ、ようやく現在のかたちまで固まった言葉です。 この授業は、政治思想家たちの著作や思想を紹介しつつ、「普段なにげなく使われている基本的な政治的概念にこんな意味があったのか」と知ってもらおうべく解説するのが大きな目的です。政治的概念の深い意味に気づいてもらうことによって、皆さんが政治参加するさいに必要な論理的思考力・判断力・表現力が育成されることとなります。
到達目標	この授業を通じて学生は、著名な政治思想家や政治的概念についての基本的な知識・技能を獲得できるとともに、そうした知識・技能に基づいて法律の条文や政治家の演説をより深く思考できるようになります。それによって現在の政治においていかなる政策が望ましいかを論理的に判断し、それを選挙など政治参加において表明するという判断力・表現力も育成することができます。
授業方法と留意点	オンライン授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治思想の内容が一般常識として問われる場合があります。そうした試験に対応するために、また政治的概念や論理的思考を熟知した理性的な市民になるべく、基本的な政治思想の知識を獲得することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～古代から近代の政治思想家たち	イントロダクションとして、講義の内容と古代と近代の政治思想家たちの概略について授業します。	事前学習：政治思想について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	2	プラトン	『国家』の内容を中心に、正義の概念について考えます。	事前学習：プラトンについて文献を収集し、調べておく (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	3	アリストテレス	『ニコマコス倫理学』『政治学』を中心に、幸福や正義の概念について、またポリスの階層秩序について考えます。	事前学習：アリストテレスについて文献を収集し、調べておく (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	4	キケロー	『義務について』を中心に、古代ローマの共和主義について考えます。	事前学習：キケローと古代ローマの歴史について文献を収集し、調べておく (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	5	マキャベリ	『君主論』を中心に、古代政治学との対立や国家理性について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第一章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	6	ホッブズ	『リヴァイアサン』を中心に、社会契約や主権者について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第二章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	7	ロック	『統治論』を中心に、社会契約や所有権、立法権について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第三章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	8	ルソー	『社会契約論』を中心に、社会契約や自由、平等について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第四章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	9	カント	『啓蒙とは何か』『永遠平和のために』『実践理性批判』を中心に、啓蒙や意志について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	10	J・S・ミル	『自由論』を中心に、個性や自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	11	バーリン	『二つの自由概念』を中心に、積極的自由や消極的自由について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	12	ロールズ	『正義論』を中心に、自由や正義について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十一章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	13	アーレント	『人間の条件』を中心に、全体主義や公的領域、活動について考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第九章) を読む (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	14	バトラー	『ジェンダー・トラブル』を中心に、フェミニズムの歴史や性差について考えます。	事前学習：バトラーについて文献を収集し、調べておく (60分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、内容を理解する (30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度授	事前学習：来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があ

			業します。	れば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習：試験に向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済、倫理など。大学の倫理学、哲学など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治思想の知恵—マキャベリからサンデルまで—	仲正昌樹編	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代政治理論	飯島昇蔵・佐藤正志・太田義器編	おうふう
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	授業中に紹介した著作を読むようにして、政治思想についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	提出してもらったリアクションペーパーについてはいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。 19年度 合格率99% (不受験率3%) A68% B28% C2% D0% 平均90点 232人登録			

科目名	国際関係史	科目名 (英文)	International History
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2067a0		

授業概要・目的	本講義では、国際関係の歴史について、特に第2次世界大戦後“冷戦”と呼ばれた時代に焦点を当てて、それがどのように発生し、展開し、そして終結したのか、米ソ間の対立の経緯を中心に解説していく。そうして、激動する今日の世界の動きを把握するための歴史的背景を理解できるように、また現代の国際関係に対する関心と問題意識をより高められるような材料を提供したい。
到達目標	この授業を通じて学生には、現代世界の構造の歴史的な要因を、第2次世界大戦後の米ソ冷戦の展開から学び、現代世界の動きをより深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で行う。毎回レジュメを配布するので、それを読んで理解を深めてもらう。なお、今年度は、遠隔授業（Web上での資料配信型）方式で実施する。
科目学習の効果（資格）	歴史（特に現代史）を見る眼と戦後の国際関係の展開に関する基礎知識の習得。また、最近の国際情勢の歴史的背景を知ることによって、今後どのような展開が予想されるか、主体的に考える力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	高校時代に世界史・政治経済・現代社会の科目を履修した人は、教科書の中で戦後の世界の動きを扱った箇所を読み直してみましょう。（事後学習2時間）
	2	“冷戦”の概念	定義、起源や原因に関する諸説について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	3	戦後世界の起点	第2次世界大戦終盤の協力および戦後構想をめぐる動きについて解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	4	米ソ対立の契機	東欧の共産化について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	5	米ソ対立の深化と拡大（1） / 政治レベルの対立	米ソ間の対立が顕在化していく過程を、有力国の指導者の声明をたどりつつ解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	6	米ソ対立の深化と拡大（2） / 経済レベルの対立	マーシャル・プランからドイツの東西分裂にいたる過程およびアメリカの封じ込め理論の内容を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	7	米ソ対立の深化と拡大（3） / 軍事レベルの対立	経済的対立が軍事的対立へと深化し、東西対立が固定化される過程を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	8	米ソ対立の深化と拡大（4） / アジアの“熱戦”（前編）	朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	9	米ソ対立の深化と拡大（5） / アジアの“熱戦”（後編）	前回は引き続き、朝鮮戦争について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	10	“雪解け”とその影響	ソ連の指導者の死去とそれが与えた国際的影響を解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	11	ソ連の対西側積極攻勢とその影響	第2次ベルリン危機およびキューバ危機を中心に解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	12	（第1次）冷戦の特徴および緊張緩和の時代	第1次冷戦の構造的特質の説明、および緊張緩和が到来した原因とその影響について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	13	新（第2次）冷戦	ソ連の核戦略の積極化とアメリカの対抗措置、それらに対する世界的な反核運動の展開、そしてソ連の指導者の交代と方針転換について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	14	冷戦構造の崩壊	ソ連の変革と東欧の民主化、そして東側陣営の崩壊について解説する。	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全15回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習8時間）

実務経験	
関連科目	政治学および国際関係に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	4uuee8z
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法（基準）	内容理解の確認小テストもしくはミニ・ペーパー（50%）および期末レポート（50%）の合計の成績によって評価する。
学生への	現在の国際社会の状況を理解する上で、必要不可欠の内容です。国際関係論の講義と合わせて受講するとより理解が深まると思います。

メッセージ	
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室
備考	<p>第1回目のレポートについては、次の回の講義で結果の解説を行う。第2回目のレポートについては、ポータルサイトで結果の解説を行うとともに、質問者に対しては、SHの時間に対応する。</p> <p>19年度 合格率78% (不受験率4%) A0% B8% C20% D50% 平均65点 74人登録</p>

科目名	国際関係論	科目名 (英文)	International Relations
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2068a0		

授業概要・目的	『国際関係論』という学問について、その基本的な考え方を習得し、激動する現代の国際関係（世界の動き）に対する理解力の向上を、本講の目的とする。講義内容は、国際関係の基礎概念の説明から始め、アクターがどのように行動するのか、現実主義的アプローチに基づいてその行動様式を中心に解説していく。そして、現実の国際関係がどのような構造で、何がどのような目的で活動しているのか、把握し理解できるよう『国際関係を見る眼』を養うような講義にしたい。
到達目標	この授業を通じて学生には、国際関係がどのように展開していくのか、その基本的なポイントについて理解できるようになるとともに、それらを踏まえて国際社会で生起しているさまざまな動きを観察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式は、Web上で資料配布型の授業で行う。具体的には、授業内容に合わせて作成した詳細なレジュメを配布して、受講生諸君はこれを読んで内容の理解を進めていく。なお、内容でわからない点、もっと詳細に知りたい点などがあれば、Web上で対応していく。また、授業内容の区切りに合わせて、内容理解の確認小テストを複数回実施する。さらに、期末には、レポートを課す予定である。詳細は、授業開始後に適宜告知していく。
科目学習の効果 (資格)	国際関係を規定する要因などを学ぶことで、国際社会の動きを表面的だけでなくその本質を見抜く‘眼’を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明（進め方、評価方法など）、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出。	時事問題、特に国際関係の報道に目を向ける習慣をつけましょう。（事後学習1時間）
	2	国際関係論とはどのような学問か	定義、研究方法などについての解説	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習2時間）
	3	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（1）	行動主体〈アクター〉とは？ 国際関係の行動主体としての“国家”についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	4	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（2）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（1）	配布したレジュメと資料で復習してください。（事後学習1時間）
	5	国際関係における主要な行動主体〈アクター〉（3）	国家以外の主要な行動主体〈アクター〉についての説明（2）	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	6	行動主体の行動原理	“国益”と行動目標についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	7	行動主体の力の行使に関する概説（1）	国力とは何か？その内容についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	8	行動主体の力の行使に関する概説（2）	力の行使の一般論および軍事的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	9	行動主体の力の行使に関する概説（3）	経済的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	10	行動主体の力の行使に関する概説（4）	宣伝的手段および文化的手段についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	11	行動主体の力の行使に関する詳説（1） 経済制裁（前編）	経済制裁の種類、歴史的発展プロセスについての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	12	行動主体の力の行使に関する詳説（2） 経済制裁（後編）	経済制裁の効果を左右する要因についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習2時間）
	13	行動主体の力の行使に関する詳説（3） 外交・外交交渉（前編）	外交の語義や形態の歴史についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	14	行動主体の力の行使に関する詳説（4） 外交・外交交渉（後編）	外交交渉についての説明	配布したレジュメと資料を見直してください。（事後学習1時間）
	15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	全15回の講義で配布したレジュメと資料を読み直してください。（事後学習8時間）

実務経験	
関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	内容理解の確認小テスト(50%)および期末レポート(50%)の合計の成績によって評価する。
学生への メッセージ	現代において、国際関係の動向が私たちの日常生活と密接に関連しています。それゆえ、複雑な国際情勢を的確に把握し読み解く能力が求められ、この科目の履修の必要性が高まっています。とりわけ、2016年に起きた、イギリスのEUからの離脱の決定やアメリカのトランプ大統領の登場は、世界が歴史的な大転換点を迎えつつあることを示しているかのようにも思われ、目の離せない状況となっています。こういう時代だからこそ、ぜひ国際関係を見る眼をしっかりと養っていきましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階 河原教授室
備考	19年度 合格率97% (不受験率5%) A0% B0% C17% D80% 平均63点 60人登録

科目名	グローバル社会論	科目名 (英文)	Global Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3069a0		

授業概要・目的	いま国際社会において“グローバル化”が急速に進んでいる。その結果、さまざまな領域における世界的規模での相互依存の深化と競争の激化という現象が同時に進行している。そして、経済や文化などの領域での画一化が進む一方で地球規模の問題が起きており、「世界の一体化」を進展させているようにもみえるし、より「対立の深刻化」を引き起こしているようにもみえる。本講義では、現代の国際社会の変容を読み解く上で重要な“グローバル化”という現象の内容やそれがもたらす問題をさまざまな視点から解説していく。
到達目標	この授業を通じて学生には、グローバル化を迎えた現代世界の構造の政治経済的な要因を、欧米列強の植民地活動の歴史や南北問題の経緯から学ぶとともに、近年特に問題視されている人の移動の激化や、そのほかのグローバル化の具体的な現状を統計資料などによって学び、現代世界をより一層深く理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式は、Web上で資料配布型の授業で行う。具体的には、授業内容に合わせて作成した詳細なレジュメを配布して、受講生諸君はこれを読んで内容の理解を進めていく。なお、内容でわからない点、もっと詳細に知りたい点などがあれば、Web上で対応していく。また、授業内容の区切りに合わせて、内容理解の確認小テストを複数回実施する。さらに、期末には、レポートを課す予定である。詳細は、授業開始後に適宜告知していく。
科目学習の効果(資格)	国際社会の現状およびその背景的要因を知ることで、世界の動きをみる“眼”を養うとともに、問題解決への意識を育む。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、イントロダクション	講義内容の説明(進め方、評価方法など)、講義開始前の認識度確認レポートの作成と提出	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。(事後学習1時間)
2	“グローバル化”とは	基礎的な概念の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
3	グローバル化の経緯(1)	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明(1)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
4	グローバル化の経緯(2)	グローバル化を進めた“基層”の形成過程の説明(2)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
5	グローバル化の経緯(3)	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進(1)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。(事後学習1時間)	
6	グローバル化の経緯(4)	列強による植民地政策の展開とグローバル化の推進(2)	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
7	戦後のグローバル化の展開(1)	国際分業の拡大・相互依存の浸透	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
8	戦後のグローバル化の展開(2)	南北問題の顕在化と深刻化	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
9	戦後のグローバル化の展開(3)	新自由主義の浸透とそれへの反発	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
10	人のグローバル化(1)	第二次世界大戦までの人の移動の歴史を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)	
11	人のグローバル化(2)	第2次世界大戦後の人の移動の歴史を概説する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料で復習してください。(事後学習2時間)	
12	人のグローバル化(3)	深刻化する現代の移民・難民問題を概観する	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習2時間)	
13	データでみるグローバル化の現状(1)	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
14	データでみるグローバル化の現状(2)	各種データによる解説	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、配布したレジュメと資料を見直してください。(事後学習1時間)	
15	総括	講義のまとめ・講義終了時の認識度確認レポートの作成と提出・期末試験の説明	時事問題、特に国際問題に目を向けましょう。また、全15回にわたって配布したレジュメと資料を読み直してください。(事後学習8時間)	

実務経験	
関連科目	政治・国際関係に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験の点数(90%)と講義内作成レポートの提出(2回計10%)の合計の成績によって評価する。			
学生への メッセージ	私たちの住む世界の重要な動きに、ぜひ関心をもってほしいと思います。			
担当者の 研究室等	11号館10階 河原教授室			
備考	19年度 合格率97% (不受験率1%) A0% B2% C10% D84% 平均63点 88人登録			

科目名	日本政治論	科目名 (英文)	The Lectures on Japanese Politics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1070a0		

授業概要・目的	幕末から戦後までの日本の政治を、国内政治を中心に概説する。 特に、各内閣がどのような政策をとったかについて目を向けていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけることが期待される。
授業方法と留意点	<p>【新型コロナ対応：4月30日更新】</p> <p>私の作成した動画をみなさんに視聴していただく形のオンライン授業をやっていきます（オンデマンド型）。</p> <p>受講するみなさんは、履修登録後必ず以下のことを行って下さい。 授業計画、成績評価方法の詳細、レジュメのダウンロードなど、全てをMoodleの中で指示しています、</p> <p>①Moodleの登録 ・学生向け Moodle のマニュアルに従い、「コース」一覧から「日本政治論」（担当：森康一の名前が書いてあります）を検索し、そのコースに入る。 ・「登録キー」の入力を</p>
科目学習の効果（資格）	公務員試験や就職において、日本の政治史が一般教養として問われる。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	『日本政治論』講義について	講義の内容全体について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく
	2	西欧の衝撃への対応	開国と幕末の動乱について	開国後の主な藩の動きについて調べておく（約30分） レジュメ（第2回）を見直しておく（約1時間）
	3	明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく（約30分） レジュメ（第3回）を見直しておく（約1時間）
	4	政府批判の噴出	士族の反乱と自由民権運動について	西南戦争について調べておく（約30分） レジュメ（第4回）を見直しておく（約1時間）
	5	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	不平等条約の内容について調べておく（約30分） レジュメ（第5回）を見直しておく（約1時間）
	6	議会政治の定着	初期議会・日清戦争後の藩閥—政党関係について	自由党・立憲改進黨について調べておく（約30分） レジュメ（第6回）を見直しておく（約1時間）
	7	日清戦争と日露戦争	2つの戦争をめぐる国内政治・国際関係について	日清・日露戦争の講和条約について調べておく（約30分） レジュメ（第7回）を見直しておく（約1時間）
	8	帝国の膨張	韓国併合、満州政策、第一次世界大戦について	韓国併合に至る過程について調べておく（約30分） レジュメ（第8回）を見直しておく（約1時間）
	9	政党政治の発展	日露戦争後・大正期の藩閥—政党関係について	大正時代の政党について調べておく（約30分） レジュメ（第9回）を見直しておく（約1時間）
	10	国際協調と政党内閣	原敬内閣および政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく（約30分） レジュメ（第10回）を見直しておく（約1時間）
	11	軍部の台頭	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく（約30分） レジュメ（第11回）を見直しておく（約1時間）
	12	帝国の崩壊	日中戦争、日米戦争について	日中戦争勃発以降の内閣の変遷について調べておく（約30分） レジュメ（第12回）を見直しておく（約1時間）
	13	敗戦・占領・講和	初期占領改革、冷戦構造と講和について	戦後初期の政党について調べておく（約30分） レジュメ（第13回）を見直しておく（約1時間）
	14	自民党政治	55年体制成立以降の国内政治・国際関係について	自民党の派閥の成り立ちについて調べておく（約30分） レジュメ（第14回）を見直しておく（約1時間）
	15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、試験に向けての準備をする（約4時間）

実務経験				
関連科目	日本外交史、世界の政治と社会、国際関係論、国際関係史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本政治史	北岡伸一	有斐閣
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	近代日本政治史	坂野 潤治	岩波書店
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名				

および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<p>【新型コロナ対応：4月30日更新】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常点：20%（小テスト（Moodle を通じて実施予定。1 問 1 点×10 問の小テストを 2 回実施）） ・期末レポート：80%（5 つのテーマを出し、そのうち 2 つを選択して書いてもらいます。文字数は各 800?1000 文字で。分量と理解度を勘案し、それぞれ 40・35・30・25・20・・・と 5 点刻みで採点します。Moodle を通じて提出してもらいます。テーマは最終回の授業他で発表） <p>の合計点によって評価を行います。</p>
学生への メッセージ	高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、日本の政治史をベースにとらえていくようにしましょう。
担当者の 研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	市民社会論	科目名 (英文)	Civil Society
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2071a0		

授業概要・目的	「市民社会」は、「国家」とも「市場」とも異なる新しい公共性の担い手として、特に1989年の東欧の民主化以降注目を集めている。この講義では、「民主主義」との関わりで、欧米あるいは日本の「市民社会」・「市民社会論」の歴史的系譜について整理した上で、事例として東欧の民主化の過程をとりあげたい。今後の社会を担う一つの市民として、「市民社会」のありかたについて考えることを目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、西欧の政治思想についての基礎的な知識を習得すること、また東欧の社会主義国においてどのように民主化が果たされたのか理解することが期待される。
授業方法と留意点	【新型コロナ対応：7月9日更新】この授業では、私の作成した動画をみなさんの都合の良い時に視聴していただく形の「オンデマンド型」授業をやっていきます。教科書は使用せず、講義レジュメによって授業をすすめていきます。 授業計画、動画配信情報、成績評価方法の詳細、講義レジュメのダウンロードなど、全てをMoodleの中で指示していますので、履修する方は必ずMoodleの登録を行ってください。 登録キー：1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職において、西洋の思想が一般教養として問われる。この授業によって、上記に際して必要な知識を得ることができる。また、日本の社会を考える上で必要となる歴史的視点や思想・理論を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞等で、市民社会・民主主義について書かれている記事を積極的に読んでおく また、西洋政治思想の流れを世界史の教科書などで見直しておく
2	市民社会とは何か	「市民」と「市民社会」について	レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	市民社会論の歴史的系譜	市民社会論の歴史的系譜について	レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	西欧における市民社会論の展開 (1)	古代ギリシャの市民社会論について	プラトン・アリストテレスについて調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	西欧における市民社会論の展開 (2)	近代ブルジョア的市民社会論について	ホブズ・ロックについて調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	西欧における市民社会論の展開 (3)	近代ブルジョア的市民社会論に対する批判論について	ルソー・ヘーゲルについて調べておく (約30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	西欧における市民社会論の展開 (4)	近代止揚の市民社会論について	マルクス・グラムシについて調べておく (約30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	西欧における市民社会論の展開 (5)	現代の市民社会論について	アーレント・ハーバーマスについて調べておく (約30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	日本的「市民社会」論	日本の思想家による「市民社会」のとらえ方について	丸山真男について調べておく (約30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	事例研究: ポーランドの民主化運動 (1)	ポーランドの社会主義と自主管理労組「連帯」の活動について	第二次世界大戦後のポーランドについて調べておく (約30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	ポーランドの民主化運動 (2)	東欧の民主化の先導役としてのポーランドが辿った過程について	レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	チェコスロヴァキアの民主化運動 (1)	チェコスロヴァキアの社会主義と1968年の「プラハの春」について	チェコスロヴァキアの独立 (1918) から解体 (1939) について調べておく (約30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	チェコスロヴァキアの民主化運動 (2)	チェコスロヴァキアの社会主義と市民社会の関わりについて	レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	チェコスロヴァキアの民主化運動 (3)	1989年のピロード革命について	ハヴェルについて調べておく (約30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、レポートの準備をする (約4時間)

実務経験	
関連科目	世界の政治と社会、国際関係史、国際関係論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	市民社会論	吉田傑俊	大月書店
	2	近代市民社会の成立	成瀬治	東京大学出版会
	3	社会主義の20世紀 (第3巻)	伊東孝之・南塚信吾	日本放送出版協会

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	市民社会論 <2020年度後期 水曜2限J・2 担当：森康一> 1206

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	【新型コロナ対応：7月9日更新】 ①平常点：20%（小テストを2回実施予定（第5回・第10回の授業日の11:00?12:30に、Moodleを通じて実施。制限時間は10分で、1問1点×10問） ②期末レポート：80%（5つのテーマを出し、そのうち2つを選択して書いてもらいます。文字数は各800?1000文字で。分量と理解度を勘案し、それぞれ40・35・30・25・20・・・と5点刻みで採点します。Moodleを通じて提出してもらいます。テーマは第
学生への メッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、日本や世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	

科目名	政治過程論	科目名 (英文)	Political Process
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2072a0		

授業概要・目的	人間が集団で生活している限り、法や条例、公共事業の影響を避けて生きることはできません。それらを決定するのが政治であり、18歳になって選挙権を与えられた学生の皆さんはそうした政策決定過程のなかに組み込まれ、またその影響を受けながら日々の生活を送っています。この授業では、有権者である学生の皆さんに、権力行使・選挙・政党・マスメディア・議会などさまざまな政策決定過程についての基本的な知識を与えることを大きな目的としています。それによって皆さんは、政治参加するさいに必要な論理的思考力・判断力・表現力を身につけることができます。また皆さんが最近のニュースをよりよく理解できるように、政治的な時事問題についても紹介し、解説します。
到達目標	この授業を通じて学生は、現代国家の政策決定過程についての基本的な知識を獲得して思考力を身につけるとともに、自分でいかなる政策・政党・候補者が望ましいのかを論理的・理性的に考えることができる判断力と、政策決定過程に積極的に参加して自分の政治的意見を表明しようという意欲・表現力を育成することができます。また政治過程論の分野に関わる地方上級・市役所・警察官・消防官などの公務員試験の問題も解説しますので、試験に対応できるだけの知識を獲得することもできます。
授業方法と留意点	レジュメや資料を配布しながら、講義形式で行います。アクティブラーニングの一環として、リアクションペーパーを配布して皆さんに簡単な政治的意見や質問を書いてもらうこともあります。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、政治や政治学の内容が問われる場合があります。そうした試験に対応し、基本的な政治的知識を獲得することができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション～政治過程とは何か?	イントロダクションとして、講義の内容と政治過程の現代的意義について授業します。	事前学習：政治・政治参加について文献を収集し、授業に積極的に参加するモチベーションを高める (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)
2	権力の行使①～権力とは何か?	政策が決定されるプロセスで行使される権力について、身近な例を挙げて考えます。	事前学習：教科書の該当箇所 (第一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
3	権力の行使②～正当な権力とは何か?	マックス・ウェーバーの権力観を中心に、現代の国家で行使される権力の特徴について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第一章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
4	世論と政治文化	リップマンやガセットらの大衆社会論を参照しつつ、世論やポピュリズム、政治文化について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第四章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
5	投票行動	世論を形成する有権者の投票行動がどのように研究されてきたのかについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
6	現代のマスメディア	マスメディアの役割とさまざまな効果について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第五章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
7	政党と政党制	政党の機能と政党制の分類について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第八章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
8	選挙	衆議院と参議院の選挙制度、一票の格差、中選挙区制から小選挙区比例代表並立制への移行などについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第六章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
9	国会	国会の機能と役割について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第九章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
10	議院内閣制と大統領制	日本とアメリカの政治システムの違いについて授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
11	内閣①～内閣のしくみ	日本の内閣制度について授業します。	事前学習：教科書の該当箇所 (第十二章) を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する (30分)。 事後学習：授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く (30分)。	
12	内閣②～今世紀の行政改革	今世紀の内閣の権限強化について授業	事前学習：教科書の該当箇所 (第十二章) を読み、	

			します。	マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	13	リーダーシップ	リーダーシップの特徴とその機能、効果について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第十二章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	14	官僚制	日本の官僚制の特徴について授業します。	事前学習:教科書の該当箇所(第十章)を読み、マスメディアのニュースから政治の知識・情報を獲得する(30分)。 事後学習:授業中に配布したレジュメ・資料をもう一度熟読し、予習・復習テストを解く(30分)。
	15	まとめ	講義の重要箇所についてまとめ、わからない点や難しい点があればもう一度解説します。	事前学習:来るべき試験に備えるべく、授業中に配布したレジュメ・資料を熟読し、わからない点があれば最後の授業に質問できるようにまとめておく(30分)。 事後学習:テストに向けて教科書やノート、レジュメを読み直す(時間の許す限り)。
実務経験				
関連科目	中学・高校の現代社会、政治・経済など。大学の政治学概論、日本政治論など。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治過程論	伊藤光利・田中愛治・真淵勝	有斐閣アルマ
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	川出良枝・谷口将紀編	東京大学出版会
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	r7wfg9d			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	オンライン授業での小テストとレポートで評価します。Aの取得率は、全受講者数の25%以下とします。			
学生への メッセージ	新聞・TV・ネットなどマスメディアのニュースに日常的に触れるようにして、現代の政治についての関心を高めてください。またわからない点や疑問点があれば、積極的に質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	予習・復習テストについては時間の授業で解説します。提出してもらったリアクションペーパーについてもいくつか匿名で紹介し、短評を与えます。 19年度 合格率99% (不受験率3%) A26% B65% C5% D2% 平均87点 268人登録			

科目名	公共政策の基礎	科目名 (英文)	Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2073a0		

授業概要・目的	政策とは、解決すべき問題のために考案され用いられる手段のセットといえる。なかでも公共政策は、政府の公権力をもって国民全体のために決定され実施される手段の体系である。この講義では、公共政策を担う政府の役割を市場との対照において把握することからはじめ、公共政策の合理的な形成を理解したうえで、現実には最良の政策案が採用されるケースが稀である理由を探る。
到達目標	この授業を通じて学生には、合理的な政策の立案過程を学んだうえで、現実の政策が合理的とは必ずしもいえないものになる理由を説明できるようになることが期待される。自分が政治家や官僚だったら、現実の制約のなかでどのように考え、行動するか考える。
授業方法と留意点	理論を学び、身近な例で確認し、いまの社会問題を使って説明を試みる。このステップを講義中に課題形式で進めていく。
科目学習の効果 (資格)	授業は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	市場のメカニズム	等価交換に基づく市場の仕組みを知る。	レジュメ p.1 を見直す (約1時間)
3	政府のメカニズム	市場と対照的な政府の仕組みを知る。	レジュメ p.2 を見直す (約1時間)
4	政府による市場メカニズムの採用	最近の教育制度改革を例に使用して、政府が競争原理を部分的に採用する意義と方法を理解する。	新聞記事資料の確認 (約1時間)
5	システムとしての政府の役割	政府をシステムとしてとらえて、公共政策を国民生活にアウトプットする意義を考える。	レジュメ p.3 を見直す (約1時間)
6	公共政策としてのサービスと規制	公共政策の内容を大きく「サービス」と「規制」に分けて整理する。	レジュメ p.4 を見直す (約1時間)
7	政策過程の考え方	政府が政策をつくり、実施する過程を段階間の移行として説明する議論を理解する。	レジュメ p.5-6 を見直す (約1時間)
8	合理的意思決定と政策過程	政策過程の前提にある合理性について考える。	レジュメ p.7-8 を見直す (約1時間)
9	課題設定とその回避	水俣病に対する政府の対応を見て、社会問題の解決が政府の課題とされる場合とされない場合がある理由を探る。	レジュメ p.9-10 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
10	政策立案とその制約	防衛力整備の検討を例に挙げて、課題を達成する政策案を考案する過程と、最良と思われる政策案が消えていく現実を知る。	レジュメ p.11 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
11	インクリメンタリズム	現実の政府は現在からの少しの変化だけを視野に入れて公共政策を決定するというモデルを学ぶ。	レジュメ p.12 を見直す (約1時間)
12	政策決定の非合理性	高速道路建設の現実を例に使用して、合理的とはいえない政策が決定されることになる現実を知る。	レジュメ p.13 を見直す (約1時間)
13	組織過程モデル	現実の政府では各省庁に備わる所定の手続が非合理的な政策を生み出すというモデルを学ぶ。	レジュメ p.14 を見直す (約1時間)
14	政策決定の消滅	郵政民営化やエコポイントを例に挙げて、政策案があっても政策決定が先送りになったり、行われなかったりがある現実を知る。	レジュメ p.15 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
15	ゴミ箱モデル	政策決定を偶然ととらえ、政策が決定に至らない現実を説明するモデルを学ぶ。	レジュメ p.16-17 を見直す 期末試験の対策 (約3時間)

実務経験	
関連科目	入門の「政治学概論」と発展の「行政学」の間に位置する基本科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末試験の点数（70%）の合計によって評価する。
学生への メッセージ	法学部の授業としては内容も方法も「かわった」ものにする挑戦的な授業にしたいと考えています。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。 19年度 合格率86%（不受験率5%） A8% B23% C32% D23% 平均73点 118人登録

科目名	行政学	科目名 (英文)	Public Administration
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2074a0		

授業概要・目的	民主主義の国家の憲法は、議会が法律をつくると定めている。しかし現代においては、法律に反映されるべき政策は行政なくしては立案も決定もできない。しかも、行政府の官僚が大きな影響力を持っている。そこでこの講義では、まず議会と行政、政治家と官僚の関係を明らかにしたうえで、日本の行政組織のあり方を確認し、国の秩序の柱となる産業政策について日本の戦後政策の特徴を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には、民主主義の現代社会において、国民による選挙で選ばれた存在ではない官僚がどれくらい大きな力を持っているのか、逆に国民の世論が官僚の行動にどのように影響を与えているのか説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義の目的は具体的な事例を解釈することにある。それには(1)理論と知識を学び、(2)事例を理解し、(3)理論や知識で事例の意味を考えると、いう3段階が必要になる。*遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は1週間後に設定する。
科目学習の効果 (資格)	講義は大学にふさわしいものとするが、公務員試験で問われる知識に関しては注意を促すので、志望者は積極的に受講してほしい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	映画『13デイズ』に見る政治と行政(1)	キューバ危機をめぐるアメリカ政府の動きを見て、政策決定における政治家と官僚の関係を考える。	レジュメ p.1 を見直す 『13デイズ』の視聴 (約1.5時間)
2	映画『13デイズ』に見る政治と行政(2)	第1回の続き。	レジュメ p.2 を見直す 『13デイズ』の視聴 (約1.5時間)
3	1930年代アメリカの映像に見る政治と行政	アメリカのニューディール政策の光景を見て、政策決定における行政の役割が拡大・深化した理由を探る。	レジュメ p.3 を見直す (約1時間)
4	行政国家と政治行政融合論	現代国家が「行政国家」と呼ばれる理由と、行政国家の現実を説明する政治行政融合論を学ぶ。	レジュメ p.4-5 を見直す (約1時間)
5	ふたりの米大統領の言葉から考える政治と行政	ふたりの米大統領の対照的な言葉を読み、行政が素人仕事から政策の専門職になった背景を知る。	レジュメ p.6 を見直す (約1時間)
6	メリットシステムと政治行政二分論	専門家としての官僚を採用するメリットシステムと、その理論的根拠となった政治行政二分論を学ぶ。	レジュメ p.7 を見直す (約1時間)
7	行政組織を見る視点	行政組織を見る上で基本となる「ラインとスタッフ」「独任制と合議制」の区別をできるようにする。	レジュメ p.8 の見直す (約1時間)
8	日本の中央行政機構(1)	内閣を中心とする日本の行政機構全体の組織を把握する。	レジュメ p.9-10 を見直す 行政組織法の整理 (約1.5時間)
9	日本の中央行政機構(2)	政治家たる大臣をトップとし、官僚がほとんどの職を占める各省の組織を把握する。	レジュメ p.11 を見直す 行政組織法の整理 (約1.5時間)
10	産業政策としての護送船団方式	産業育成を目的とした日本の省庁による「護送船団方式」と呼ばれる戦後の産業政策の構造を知る。	レジュメ p.12-13 を見直す (約1時間)
11	護送船団方式の実際と批判	医薬品販売や携帯電話メーカーの業界における護送船団方式の実際とそれへの批判を把握する。	レジュメ p.12-13 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
12	護送船団方式以後の産業政策	英会話教室の業界を例に挙げて、近年の産業政策が消費者重視に移行しつつある背景を探る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
13	トラック運送業界に見る護送船団方式とその崩壊	「宅急便」が風穴をあけたトラック運送業界のケースを見てみる。	レジュメ p.14-15 を見直す 読物資料の確認 (約1.5時間)
14	業界との関係と行政組織の変化	業界との関係の基本方針によって行政組織のあり方がどう変化するのか知る。	レジュメ p.16 を見直す (約1時間)
15	金融庁設立に見る業界監督官庁の変化	金融業界を所管する省庁が大蔵省から金融監督庁を経て金融庁となった背景を見てみる。	レジュメ p.17 を見直す 新聞記事資料の確認 期末試験の対策 (約3時間)

実務経験

関連科目 「公共政策の基礎」の発展科目である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/YouTube

Teams コード	h2u0j47
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	大学メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点（毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%）と期末試験の点数（70%）の合計によって評価する。*遠隔の場合、期末試験は相応の期末課題とする。
学生への メッセージ	中身の濃い授業をコンパクトに進めます。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。 19年度 合格率 89%（不受験率 6%） A18% B38% C17% D16% 平均 77 点 142 人登録

科目名	政治と政策	科目名 (英文)	Politics and Public Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ1075a0		

授業概要・目的	この授業では、政治と政策に関わるさまざまなトピックを取り上げ、解説を行いながら、私たち一人一人がそれらの問題についてどのように立ち向かうべきかについて考える。それぞれのトピックについて、基礎知識を学ぶ回と、問題解決策を考える回の2回で構成される。また、各回の冒頭には時事問題による小テストを出題し、政治と政策に関するニュースも並行して学んでいく。これらの内容を通じて、政治と政策に関する理解と関心を高めてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、政治と政策に関する主要なトピックについて基礎的な知識を持ち、それらの問題について自分の意見を述べることができ、主体的に問題解決に取り組む姿勢を身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	動画配信を主とする遠隔授業により行う。 動画視聴後に、小テストの受講とふりかえりシートへの記入を行ってもらう。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	政治と政策のトピック	政治と政策に関わる様々な問題を概観し、授業の目的について理解を深める。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
2	日本は財政破綻するのかわ？①	日本の政府債務の問題について概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
3	日本は財政破綻するのかわ？②	政府債務の問題をどのようにして解決すれば良いのかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
4	なぜ格差が生まれるのかわ？①	日本や世界の経済格差の現状について概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
5	なぜ格差が生まれるのかわ？②	どのようにして経済格差を是正すれば良いのかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
6	消費税は何のためにあるのかわ？①	外国と比較しながら消費税制度について概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
7	消費税は何のためにあるのかわ？②	消費税制度を今後どうすべきかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
8	私たちは年金を受け取れるのかわ？①	年金の仕組みについて概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
9	私たちは年金を受け取れるのかわ？②	年金制度を今後どうすべきかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
10	憲法は改正するべきかわ？①	憲法改正を巡る議論を概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
11	憲法は改正するべきかわ？②	今後の憲法のあり方を考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
12	差別のない社会は可能かわ？①	様々な差別の問題について概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
13	差別のない社会は可能かわ？②	差別のない社会を作るためにはどうすれば良いのかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
14	ふるさと納税は地方を救うのかわ？①	ふるさと納税を事例に、地方財政や地方自治について概観する。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)
15	ふるさと納税は地方を救うのかわ？②	地方を活性化させるためにはどうすれば良いのかを考える。	事前：新聞・テレビ・ウェブなどでニュースを見る (2時間)	事後：レジュメの内容を復習する (2時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート 50%、小テスト 30%、ふりかえりシート 20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館 10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては次の回の授業で解説とフィードバックを行う。 19年度 合格率 97% (不受験率 1%) A25% B38% C19% D15% 平均 81点 143人登録

科目名	地方自治論	科目名 (英文)	Local Self-Government
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3076a0		

授業概要・目的	授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の政治や行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	この授業を通じて学生には、地方自治についての重要概念や理論について説明することができ、地方自治の主要な課題について住民自治の視点から分析することができ、地方自治の主要な課題について自分の意見を述べるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回 Teams に動画と資料を配信します。 動画を閲覧した上で、小テストを受講してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	地方公務員を目指す受講生にとって、身につけておくべき知識を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地方自治の理念と制度	憲法における地方自治、地方自治法、補完性の原理について学ぶ。	事前：教科書第1章第1節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
2	日本の自治の歴史	古代から現代に至るまでの、自治の歴史を概観し、自治の意味を考える。	事前：教科書第1章第2節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
3	顧客主義か住民自治か	住民について「人口」、「行政サービスの受け手」、「自治を担う地域の主体」の3つの捉え方を比較する。	事前：教科書第1章第3節を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
4	適正規模の理論	適正規模の捉え方や決定要因について検討する。	事前：教科書第2章を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
5	スケールメリット論の検証	財政効率を主眼においた適正規模論の概要と問題点を考える。	事前：教科書第3章を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
6	適正規模論への新視点	人口と歳出額の関係から、市町村合併による財政面での効果について検討する。	事前：教科書第4～6章を予習 (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
7	迷惑施設問題と自治	迷惑施設問題を分析するための概念について学ぶ。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
8	住民運動と公共性	住民運動の意義と、対立が生じる原因について学ぶ。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
9	お知らせ広報と政策広報	お知らせ広報としての自治体広報の問題点と、改革の方向性について考える。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
10	住民自治の広報理論	住民自治の視点からの広報理論について学ぶ。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
11	広報・広聴と政治性	パブリック・リレーションズ概念を手がかりに、広報の類型化を行う。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
12	問題提起型広報の意義	問題提起型広報の事例を取り上げ、その特徴と実現への課題について学ぶ。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
13	問題提起型広報の効果	問題提起型広報が住民自治を促す効果について検討する。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
14	住民参加と協働	住民参加と協働の意義について学ぶ。	事前：Moodle で配布した文献を読む (2時間) 事後：小テストの内容について復習する (2時間)
15	住民自治の意義	全体を振り返りつつ、住民を主体とした地方自治について考察する。	事前：これまでのレジュメと小テストを復習する (4時間)

実務経験	
関連科目	「住民協働論」では第14回の協働についてより詳しい内容をアクティブ・ラーニング形式で学ぶことができる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成の大合併と財政効率	増田知也	金壽堂出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	p3zt7r
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 (または期末レポート) 50%、小テスト 50%
学生へのメッセージ	地方政治・行政に関するニュースや、地元自治体の広報などに注目しながら学んでください。
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
備考	小テストとふりかえりシートについては、次の回の授業で解説とフィードバックを行う。

19年度 合格率 97% (不受験率 4%) A21% B32% C27% D17% 平均 78 点 98 人登録

科目名	地域防犯政策	科目名 (英文)	Regional Security Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3077a0		

授業概要・目的	長い間、「犯罪を減らすのは警察の仕事」、「犯人を捕まれば犯罪は減る」というのが当然と思われてきた。しかし、1990年代後半から犯罪の認知件数が急増すると、「市民を守るのは警察」、「検挙が最大の防犯」という考え方に対する疑問が出てきた。かわりに、「行政・警察・住民一体でまちを守る」、「犯罪が起きにくいまちづくり」と言われるようになる。このように犯罪発生の問題をまちづくりの課題としてとらえ、犯罪抑止を目的として打ち出されてきた施策・事業の集まりを「地域防犯政策」と呼びたい。本講義では、地域防犯政策の展開を具体的な事例に照らして説明する。
到達目標	この講義を通じて、学生には次のことが期待される。①犯罪が増える背景には、ふつうはよいものと考えられる規制緩和、国際化、情報化という社会の動向があることを理解する。②犯罪に対する政策が、捜査・検挙と更生という事後の視点から、抑止と教育という事前の視点に重点を移している理由を考える。③自治体（特に市町村）が防犯に予算と人を投入する意義と、地域住民がボランティアで防犯に取り組む意味を知る。
授業方法と留意点	個別の政策に関する勉強なので教えるレベルは高くなる。加えて、「なぜ犯罪が増えたのか」、「どうすれば犯罪が減るのか」という問いには、明確なひとつの答えがあるわけではないので、自分の頭で、あるいは受講生同士で話し合っただけで考えることが大事になる。*遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は1週間後に設定する。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験の課題式論文の対策に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	犯罪対策の2つの考え方	「犯人を捕まえる」という考え方と「犯罪を起こさせない」という考え方を比較する。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
2	犯罪統計の読み方	認知件数、検挙件数、検挙人員からはじまる基礎用語を理解し、犯罪統計をいかに読むか考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
3	犯罪認知件数の推移	戦後からの認知件数の推移を社会の変化に照らしてみる。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
4	1990年代後半の犯罪急増の背景	規制緩和、高速移動、国際化、情報化といった「改革」と犯罪急増との関係を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
5	検挙から抑止へ	警察が検挙に加えて抑止にも力を入れ始めた経緯を整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
6	警察と自治体との関係	警察が自治体に協力を求めた理由と、自治体側の反応について知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
7	防犯ボランティアの登場	新しく登場した防犯ボランティアと従来の防犯委員などとの違いを見出す。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
8	防犯カメラへの注目	防犯を超えて捜査・検挙に大きな変化をもたらした防犯カメラの普及過程を追う。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
9	広報・情報発信の充実	警察が犯罪発生情報をメールや SNS で積極的に市民に発信するようになった理由を探る。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
10	街頭犯罪対策の進展	ひったくりなどの街頭犯罪を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
11	侵入盗対策の進展	空き巣などの侵入盗を抑止するためにとられた対策をハード、ソフト両面で整理する。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
12	子どもの安全確保の拡充	「地域防犯=子どもの安全確保」というイメージがあるほどに、子どもの安全が強調されるようになった経緯をたどる。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
13	性犯罪対策の要請	性犯罪に対する警察の対応が大きく変わった背景と、現在の対応と課題を知る。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
14	特殊詐欺という新たな問題	電話で持ちかけ、ATMでお金を奪うという特殊詐欺に地域でどう対抗するか議論する。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)
15	まちづくりの基礎としての防犯	防犯活動の浸透が、犯罪の抑止を超えてまちづくりの基礎となっている意味を考える。	配布レジュメ・資料を見直すこと (約1時間)

実務経験	
関連科目	本講義の入門編として、教養特別講義「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」がある。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/YouTube
------	-------------------------

Teams コード	vslapnr
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	大学メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義時に課すペーパーの累積点(30%)と、定期試験の点数(70%)の合計で評価を行う。*遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。
学生への メッセージ	「学」(がく)というより、近年と現在の動向を考える講義なので、問題意識を持って講義に臨んでほしいです。自治体職員(公務員)や警察官志望の学生にとっては、将来の仕事を考える機会にもなると思います。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーは原則、次週に採点して返却する。 19年度合格率96% (不受験率4%) A12% B33% C37% D15% 平均78点 52人登録

科目名	住民協働論	科目名 (英文)	Residents Cooperative Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3078a0		

授業概要・目的	協働とは、行政・企業・NPOなどが、共通の目的に向かって対等の立場で協力して活動することを意味する。行政だけが公共を担うという従来の考え方から、さまざまな主体がネットワーク化されることで公共を担っていくという考え方への変化が起こっている。この授業では、協働の担い手となる人（地域公共人材）に着目しながら、どのようにして協働型社会を形成すれば良いかを様々な面から検討する。
到達目標	この授業を通じて学生には、協働概念を理解するのに必要な概念について説明することができ、文献の要点をまとめ、分かりやすく発表することができ、地域の問題を自分の問題として考え、意見を持つことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回 Teams に動画と資料を配信します。 動画を閲覧した上で、小テストを受講してもらいます。
科目学習の効果 (資格)	住民としての行政との向き合い方、自治体職員としての住民との向き合い方を学ぶことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	地域における人の力	協働における人材の重要性について、基本となる考え方を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』序章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
2	協働型社会の理論	協働型社会についての理論を学ぶ。	事前:『地域公共人材をつくる』第1章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
3	地域公共人材の意味	京都府における地域公共人材育成の事例から、協働のための人材育成の意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第2章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
4	協働と地域公共人材	協働のための人材育成において、大学が果たす役割を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第3章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
5	もやい直しと協働	熊本県水俣市を事例に、行政と市民が担うべき役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第4章と第7章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
6	協働の担い手としての子どもたち	滋賀県米原市を事例に、子どもの権利と社会参加について学ぶ。熊本県氷川町宮原を事例に、子どもたちや大学生が地域活動を担うことの意味を考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第5章と第6章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
7	NPOと協働	兵庫県芦屋市と愛知県田原市を事例に、NPOが人材育成に果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第8章と第9章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
8	市民と企業、市民と議会の協働	京都府京都市を事例に、ソーシャルビジネスの可能性について考察する。北海道登別市を事例に、市民と議会の協働の可能性について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第10章と第13章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
9	住民運動と市民活動	奈良県葛城市を事例に、住民と行政の対立を協働へと発展させる方法について考察する。広島県福山市鞆町を事例に、市民活動が果たす役割について考察する。	事前:『地域公共人材をつくる』第11章と第12章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
10	協働と地域公共人材の展望	京都府丹波・丹後地域を事例に、協働の担い手となる地域リーダーの育成方法について考察する。授業全体を振り返りつつ、今後の協働と人材育成のあり方を展望する。	事前:『地域公共人材をつくる』第14章と終章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
11	住民の権利と責任	憲法や地方自治法における住民の位置づけについて学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第6章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
12	住民意識の変化と自治行政	住民の受益者化について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第7章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
13	住民運動の衝撃	住民運動の特色について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第8章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
14	住民参加への取り組み	住民参加の意義と課題について学ぶ。	事前:『地方自治と民主主義』第9章を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)
15	対立から協働へ	行政と住民の対立関係を協働関係に変えるための方法について考察する。	事前:論文「行政広報は『お知らせ』以上のものになれるか?」を読む(2時間)	事後:確認テストの内容について復習する(2時間)

実務経験	
関連科目	「地方自治論」では地方自治に関する知識を講義形式で学ぶことができます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域公共人材をつくる:まちづくりを担う人たち	今川晃・梅原豊	法律文化社

	2	地方自治と民主主義	佐藤 竺	大蔵省印刷局
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	nmpz0ew			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 50%、小テスト 50%			
学生への メッセージ	協働の前提として、住民が自治の主体としての自覚を持つことが必要です。自治意識をもった住民をどのようにして育てるのかを考えていきましょう。			
担当者の 研究室等	11号館10階 増田講師室			
備考	小テストについては、次の回の授業でフィードバックを行う。			

科目名	福祉政策論	科目名 (英文)	Social Protection Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3079a0		

授業概要・目的	少子高齢化や格差社会が大きな問題となる中、福祉政策はますます重要性を増している。この授業では、福祉に関わる基礎知識と課題について学ぶ。教科書の内容を前提として、グループ・ディスカッションを交えながら授業を展開する。福祉政策の意義と、福祉の視点から見た政治・行政について理解を深めてほしい。
到達目標	この授業を通じて学生には、福祉政策に関する重要な概念や理論について説明することができ、福祉政策に関する文献から要点を抽出し、自分の言葉でまとめることができ、福祉政策の主要な論点について自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	動画配信を主とする遠隔授業により行う。 動画視聴後に、小テストの受講とふりかえりシートへの記入を行ってもらう。
科目学習の効果 (資格)	福祉関係の職業を目指す受講生にとって、最低限身につけておくべき知識を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	現代社会と福祉	日本社会が抱える問題と、社会福祉政策の概要について学ぶ。	事前：あらかじめ参考書に目を通しておく (6時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
2	福祉への社会的対応	福祉の定義を確認しつつ、福祉のための制度と思想について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
3	福祉ニードと供給システム	福祉におけるニード概念と、資源を割り当てるための供給システムについて学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
4	福祉の計画と評価	福祉分野における計画行政の歴史と、計画の立案・評価の方法について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
5	福祉政策と市場経済	経済理論からみた福祉政策について検討する。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
6	福祉政策の歴史	国家が関与する福祉政策について、その興りと発展について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
7	日本の福祉制度	日本における福祉制度の体系と、その特質について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
8	労働・住宅・教育政策	労働・住宅・教育分野における福祉政策について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
9	所得の保障	社会保険・社会手当・公的扶助からなる所得保障制度について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
10	健康・医療・介護の保障	健康づくりの取り組みと、医療保障、介護保険などの仕組みと意義を学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
11	福祉サービスの保障	専門職による個別的な福祉サービスの必要性と、制度改革について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
12	福祉制度の費用と財政	日本における社会福祉費用の特徴と課題について学ぶ。	事後：小テストで間違ったところを復習する (2時間) 事後：レジュメの内容をふりかえり、次回的小テストに備える (2時間)
13	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク 1	ABD (アクティブブックダイアログ) の手法を用いて学習し、内容についてグループディスカッションを行う。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく (2時間)
14	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク 2	グループディスカッションを行った結果をポスターにまとめる。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく (2時間)
15	薬学部・経済学部学生との合同グループワーク 3	ポスターにまとめた内容をグループで発表する。	事前：グループワークで使用する文献にあらかじめ目を通しておく (2時間)

実務経験									
関連科目	「社会保障法」では関連する内容を法律の面から学ぶことができます。 「地方自治論」では地方自治についての知識を学ぶことができます。 「地方財政論」では第12回の関連分野をより詳しく学ぶことができます。								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1			
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1									

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	反貧困：「すべり台社会」からの脱出	湯浅誠	岩波書店
	2	社会福祉政策：現代社会と福祉	坂田周一	有斐閣
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	期末レポート50%、小テスト30%、ふりかえりシート20%			
学生への メッセージ	第13回から第15回は、「医療経済学」(薬学部)、「地域保健医療」(経済学部)の受講生と合同でグループワークを実施する予定です。第12回までの授業では、参考書『社会福祉政策：現代社会と福祉』の流れに沿って授業を行うので、適宜予習・復習してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 増田講師室			
備考	小テストの解答については、当日の授業の最後に解説する。 ふりかえりシートについては、次の回の授業でフィードバックを行う。			
	19年度 合格率93% (不受験率0%) A32% B25% C14% D23% 平均77点 73人登録			

科目名	国際ボランティア論	科目名 (英文)	Studies in International Volunteers
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3080a0		

授業概要・目的	本講義ではボランティアを、一過性のイベントとしてとらえるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用する。国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。 この科目は「国際貢献」プログラム対応科目です。 SDGs 1, 2, 4, 17
到達目標	ボランティアの定義・理念、ボランティア活動に関する基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業 (非同期・非対面式) の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントや PDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。
科目学習の効果 (資格)	日本の立場を国際的な視野から見る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクションと授業内容概要	授業の目的や方針を確認し、全体の流れ (起承転結) を知る	ボランティア・社会奉仕・社会貢献についての概略
	2	(起-1) ボランティアの基礎①	ボランティアとは何か、活動の内容とボランティアとしての自覚を学ぶ	答えのない世界とは何かを考える
	3	(起-2) ボランティアの基礎②	貧困・災害とは何かを学ぶ	どこでなにが起きるか分からないということを理解する
	4	(起-3) 社会貢献	社会貢献やCSRとは何かを知る	個人・団体・企業など様々な取り組みを考える
	5	(承-1) 企業の社会的貢献	企業の社会的貢献の現状を知る	慈善なのか、企業倫理なのかを考える
	6	(承-2) 国際協力の現状把握	どういった国際協力が行われてきたのか、現在、何が行われているのかを知る	偽善とは何なのかを考える
	7	(転-1) 国際ボランティア・NGO ボランティア	国際ボランティア・NGO ボランティアとは何かを知る	目的別のボランティアを考える
	8	(転-2) 国際ボランティア (青年海外協力隊)	国際ボランティア (青年海外協力隊) になるにはどうしたら良いのかを知る	チャレンジとは、何かを知る
	9	(転-3) 国際ボランティア (国連ボランティア)	国際ボランティア (国連ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える①
	10	(転-4) 国際ボランティア (NGO ボランティア)	国際ボランティア (NGO ボランティア) になるにはどうしたら良いのかを知る	ステップアップする方法を考える②
	11	(結-1) 国際ボランティアの活動にあたって	国際ボランティアとしての自覚と次へのステップ	自覚と義務とのギャップを巻がる
	12	(結-2) 自分に何ができるのか	ボランティア活動をするために、自分ができうる事を明確にする	他人事でボランティアをしない方法はあるのかを考える
	13	(結-3) 更なる発展に向けて	ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせない	ボランティアを受ける側の事情を考察する
	14	今後の課題	ボランティア活動の諸問題と克服について知る	ボランティア活動10ヶ条を考える
	15	総括的確認 (必ず出席すること)	これまでに学んできたことについて総合的判断を行う	ボランティア活動を人生に生かす方法を考える

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
Teams コード	vwoxzap
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	記述式小テストの総計(100%)により評価する。記述式小テストは、3週間に一度程度行います。これは、学期末に詰め込み式で理解するのではなく、ある程度まとまった形で、「理解し考える」ことを目的としています。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	7号館5階 (浅野研究室)
備考	この授業の担当教員は、国際協力機構 (JICA) の国際協力専門家として、アフリカ・ケニアにおいて10年間の勤務経験があり、摂南大学の現役学

	生を 33 名、JICA ボランティア（青年海外協力隊）に合格させた実績がある。現役学生の合格者数は、日本国内の大学でトップクラスとなっている。
--	--

科目名	金融論	科目名 (英文)	Money and Banking
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3081a0		

授業概要・目的	グローバル化の中で、金融システムは刻々と変化しています。この授業では金融システムの現状だけでなく、そのあり方についても説明していきたい。
到達目標	この授業を通じて、学生には金融における仕組みについて、経済学のアプローチから理解できるようにする。またこれから変化していく金融について、経済学の立場から自ら考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。金融論に必要なマクロ・ミクロ経済学の知識は講義の中で適宜説明する。
科目学習の効果 (資格)	経済学検定

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	金融取引の基礎 (1)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読む。(2時間)
3	金融取引の基礎 (2)	金融取引の理解に必要なミクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
4	金融取引 金融機関	信用リスクや銀行や証券会社の種類、業務などについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
5	日本型金融システム	日本の金融システムの特徴について説明する。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
6	金融システムの設計 (1)	情報の非対称性の問題について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
7	金融システムの設計 (2)	スクリーニング機能やモニタリング機能について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(2時間)
8	確認テスト 金融政策の理論 (1)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	紹介する文献を読んでおく。(2時間)
9	金融政策の理論 (2)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	練習問題を解いておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
10	金融政策の理論 (3)	金融政策の理解に必要なマクロ経済学の知識について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
11	金融政策運営 (1)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
12	金融政策運営 (2)	最近の金融政策の仕組みについて説明する。	紹介する文献を読んでおく。指定したレジュメを事前に読むこと。(1時間)
13	グローバル経済における金融政策	外国為替市場について概観し、変動相場制における金融政策について説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
14	ファイナンスの基礎	デリバティブやオプションの基本的な仕組みについて説明する。	前回の内容を復習しておくこと。(1時間)
15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)

実務経験	
関連科目	マクロ経済学、ミクロ経済学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	現代金融論	塩澤修平	創文社
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	確認テストと受講態度と期末テストで評価する。(確認テスト10% 受講態度20% 期末テスト70%)
学生へのメッセージ	経済学の他の科目と同様に、金融論も積み重ねが大事です。毎回出席することが不可欠です。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	確認テストの正解は次の回の授業で解説する。

科目名	財政学	科目名 (英文)	Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3082a0		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	授業はMoodleに授業のスライドを記載したPowerpointをあげておきます。
科目学習の効果 (資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習
8	租税原則と財政投融资制度	租税制度のあるべき姿と財政投融资改革について説明する。	講義ノートの復習
9	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習
10	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習
14	地方財政 II	地方税と補助金 (国庫支出金、地方交付税) について説明する。	講義ノートの復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

実務経験	
関連科目	公共政策論、公共経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 (100%) で総合的に評価します。 座席指定を行います。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室 (経済学部)
備考	

科目名	地方財政論	科目名 (英文)	Local Public Finance
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	.JDJ3083a0		

授業概要・目的	「地方でできることは地方へ」という分権化時代において、権限を委ねられる地方自治体には、法務能力と政策立案能力の双方の強化が必要になってきている。この講義では、地方自治体の財政状況から地域政策の問題点を探り、問題を生み出した構造とその改革策を理解する。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①地方自治体の決算カードを見て、財務指標を計算する。②その指標から、どれくらいの政策の自由度が地方自治体に現実にあるのか判断する。③自由度の小ささは、どのような経緯によるものか理解する。④今後、自由度を広げていくには、地方と国にどのような努力が必要か考える。
授業方法と留意点	公共政策に関する基礎知識を前提に、地方財政の知識を身につけながら地域政策の現状を明らかにする。大学らしい発展科目にする考えなので、受講者には高い意識が求められる。*遠隔の場合、録画配信とする。確認ペーパーはオンラインフォームとし、締切は1週間後に設定する。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験で出題される行政学の一部をカバーする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ドラマ『再生の町』に見る地方行政の危機	大阪の市役所をモデルにして作られたドラマを見て、自治体の財政危機の様子をイメージする。	ドラマ『再生の町』の視聴 (約1時間)
2	自治体の財政危機と地域政策(1)	自治体財政の基本的な仕組みを理解し、財政状況から地域政策の現状を知る意義を確認する。	レジュメ p.1-2 を見直す (約1時間)
3	自治体の財政危機と地域政策(2)	大阪府の市町村の実データを使って、財政状況をはかる指標の数値を算出できるようにする。	レジュメ p.3 を見直す 決算カードの確認 (約1.5時間)
4	自治体の財政危機と地域政策(3)	大阪府の市町村の実データを使って、借金の累積と財政への影響を把握できるようにする。	レジュメ p.4 を見直す 決算カードの確認 (約1.5時間)
5	地方債の増加と建設政策(1)	地方債制度の基本を理解し、自治体が借金をして建設政策を展開する意味を知る。	レジュメ p.5-6 を見直す (約1時間)
6	地方債の増加と建設政策(2)	昭和40年代後半から昭和50年代前半まで公共事業を拡大させた補助金交付の実態を確認する。	レジュメ p.6-7 を見直す 行政投資関連資料の確認 (約1.5時間)
7	地方債の増加と建設政策(3)	地方交付税について、自治体間で一般財源の均衡を図る機能と、国が自治体の政策を誘導する機能を確認する。	レジュメ p.7-8 を見直す (約1時間)
8	地方債の増加と建設政策(4)	昭和61年頃から平成7年頃にかけて公共事業を拡大させた地方交付税措置という仕組みを理解する。	レジュメ p.8 を見直す 地方交付税・公債関連資料の確認 (約1.5時間)
9	地方財政健全化比率(1)	地方財政健全化法によって導入された、自治体の「本体」以外の会計の現状を明らかにする指標を知る。	レジュメ p.9 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
10	地方財政健全化比率(2)	近畿の市町村の実データを使って、健全化比率で自治体の財政状況を把握できるようにする。	レジュメ p.10 を見直す 健全化比率関連資料の確認 (約1.5時間)
11	土地開発公社	公共事業拡大の前提にあった公有地の取得について、土地開発公社が果たした役割と抱えた負債の問題の重さを考える。	レジュメ p.11-12 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
12	第三セクター	ビルやリゾートの開発のために自治体が第三セクターを設立した背景と、多くの第三セクターが破綻に至った経緯を知る。	レジュメ p.13-14 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
13	公営企業	下水道・交通・病院事業などを行う自治体の公営企業について、赤字につながる問題と改革の限界を理解する。	レジュメ p.15-16 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
14	「事業仕分け」の改革	事業の必要性を問い直す「事業仕分け」の改革について、その方法と結果を確認する。	レジュメ p.17-18 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)
15	「協働」の改革	市民の行政依存、行政の自己完結を問い直す「協働」の改革について、その背景と動向を知る。	レジュメ p.19-20 を見直す 新聞記事資料の確認 (約1.5時間)

実務経験	
------	--

関連科目	「公共政策の基礎」「行政学」「地方自治論」
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/YouTube
Teams コード	tr6mr93
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	大学メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点(毎回の課題ペーパーの点数の累積、30%)と期末試験の点数(70%)の合計によって評価する。*遠隔の場合、定期試験は相応の期末課題とする。
学生への メッセージ	政策系の最後の科目として高いレベルで講義を展開します。特に地方公務員として地域政策をリードすることになる人が真剣に勉強する場になりたいと思います。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	講義毎回の確認ペーパーは、原則次週に採点して返却します。

科目名	法情報学	科目名 (英文)	Law and Computer
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷 次郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2084a0		

授業概要・目的	授業概要：「法情報学」について、リテラシー的なアプローチから学ぶ。具体的には、法律にかかわる情報（法情報）の検索、収集、活用等（リーガル・リサーチ）の方法である。 授業目的：民主主義の下では、法情報に自由にアクセスでき、これを活用できることが重要である。講義と演習を通じて、これらを体験する。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んだ社会人、市民として今日の高度情報化社会を支える知識の習得および判断力を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	情報処理室を使用して演習方式で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、2020年度後期は原則として遠隔授業により行うことになった。そこで、本講義はマイクロソフトチームズを活用した教材・課題配信型の遠隔授業を行う。授業ごとに講義動画を提供し、併せて課題（授業ごとに小レポートの提出）を課する。課題提出に当たってはWebFolderを利用することがある。詳細はその都度指示する。
科目学習の効果（資格）	とりわけ、法律を取り扱う職業（専門職はもちろんのこと、民間企業の法務担当や公務員等も含む）に就職する際には役立つであろう。また、高度情報化社会に生きる市民として、インターネットを使用した法情報の収集に関する基礎的知識が習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	リーガル・リサーチの方法（1）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶ。	教科書第1部（2～47ページ）に簡単に目を通して（30分～1時間）。
3	リーガル・リサーチの方法（2）	リーガル・リサーチの対象となる資料の所在や、調べ方について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第1部に簡単に目を通すとともに、授業後にも各自で適宜検索してみる（1時間程度）。
4	法令を調べる（1）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶ。	教科書第2部1～2（50～99ページ）に簡単に目を通して（30分～1時間）。
5	法令を調べる（2）	法令の種類や資料の調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第2部3～7（100～144ページ）に簡単に目を通して（1時間程度）。
6	判例を調べる（1）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶ。	教科書第3部1～2（146～207ページ）に簡単に目を通して（1時間程度）。
7	判例を調べる（2）	判例調査についての基礎知識と、判例資料の所在や調査方法について学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第3部3～4（208～239ページ）に簡単に目を通して（1時間程度）。
8	文献を調べる（1）	文献調査の基礎知識を学ぶ	教科書第4部1（242～290ページ）に簡単に目を通して（30分～1時間程度）。
9	文献を調べる（2）	文献調査の具体的な内容を学ぶとともに、実際にインターネットを使った調査を試してみる。	教科書第4部2～5（291～377ページ）に簡単に目を通して（1時間程度）。
10	リーガルリサーチの実際（1）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1時間程度）。
11	リーガルリサーチの実際（2）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1時間程度）。
12	リーガルリサーチの実際（3）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1時間程度）。
13	リーガルリサーチの実際（4）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1時間程度）。
14	リーガルリサーチの実際（5）	担当教員が実際に扱った事件などを題材にして、リーガルリサーチの実際について学ぶ。	これまでの授業内容をおさらいしておくとともに、授業内容に関連した検索等を行ってみる（1時間程度）。
15	まとめ	これまでの講義で扱ったテーマについて総合的に捉え直すとともに、期末レポートの説明を行う。	これまでの授業内容をおさらいしておく（1時間程度）。

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リーガル・リサーチ 第5版	いしかわまりこ他	日本評論社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法情報の調べ方入門 法の森のみちしるべ	ロー・ライブラリアン研究会編	日本図書館協会
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Web Folder

Teams コード 9zfmfmz

Moodle コース名

および登録キー	
連絡手段	電子メール（摂南大学アドレス）
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 （基準）	授業ごとの小レポート 30%、期末レポート 50%、中間レポート(1回)20%の割合で評価する。
学生への メッセージ	今日の情報化社会において、法学部でも、法情報（法に関する情報）の知識は不可欠となっています。また、法情報についての知識は、他の学問を学ぶ際にも非常に有益な情報を含んでいます。また、今期は期せずして ICT を活用した遠隔授業となり、高度情報化社会における新しい社会のあり方が否応なく試されています。学生の皆さんには関心をもって積極的に受講して頂きたいと思います。
担当者の 研究室等	11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室
備考	中間レポートについては、事後の授業で解答例を示します。 期末レポートについては講評を事後に示します。 本年度は、遠隔授業となるため、担当教員は原則として出校しません。よって、質問は下記メールを使用すること。メールに際しては、学籍番号、氏名、授業名を明記してください（担当教員は本務の関係で1日当たり数十通～百通程度のメールを扱っているため）。 jiro.tani@edu.setsunan.ac.jp テキストについては、シラバス作成後に新版が出た場合、新版を使います。出版情報に注意してください

科目名	裁判制度特別講義	科目名 (英文)	Special Lecture on Judicial System
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ3085a0		

授業概要・目的	2009年に、日本でも司法制度に一般の市民が参加する裁判員制度が導入されました。20歳以上の日本国籍を持つ人であれば誰でも、裁判員として刑事裁判に参加する可能性があることとなります。しかし、ようやく裁判員となる可能性がある年齢に達した学生の皆さんにとっては、裁判員が刑事裁判でどのような任務を果たさなくてはならないのか、よく分からないのではないのでしょうか。そこで、この授業では、裁判員制度を深く理解していただくために、裁判員制度そのものについてはもちろん、関連する刑事裁判の手続きや、外国でおこなわれている市民の司法への参加制度をあわせて学んでいただき、広く司法制度のあり方についても考えていただきたいと思います。
到達目標	この授業を通じて、学生の皆さんには、裁判員制度について基本的な理解していただくとともに、市民の司法参加制度のあり方について考えることができる知識を得ていただくことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、日本の裁判員制度について理解していただくにあたって、様々な視点からアプローチします。そのなかでは、単に教員から講義をおこなうだけでなく、受講生の皆さんが作業をしたり、意見を出したり、グループで議論したりと、自ら考えて発信する時間を設けます。したがって、ただ出席していれば良いという授業ではないことにご注意ください。講義内容は、講義の進行具合に応じて多少変更する場合があります。なお、後期授業を、原則、遠隔授業によりおこなうこととなった場合は、Microsoft Teams、また場合によつ
科目学習の効果 (資格)	裁判員制度、日本や外国の市民の司法参加制度、また広く司法制度について知識を深めることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	この講義の概要、講義予定、および受講確認	次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。
2	裁判員制度とは (1)	裁判員制度および刑事司法制度の概要	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
3	裁判員制度とは (2)	裁判員制度導入の経緯と制度の内容	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
4	裁判員制度とは (3)	裁判員制度の内容と実施状況	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
5	刑事裁判手続 (1)	刑事裁判における原則、公判手続の流れ	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
6	刑事裁判手続 (2)	刑事事件の捜査、手続きにおける問題点	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
7	外国の市民の司法参加制度 (1)	おもに英米でおこなわれている陪審制度について	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
8	外国の市民の司法参加制度 (2)	映画にみる陪審制度	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
9	外国の市民の司法参加制度 (3)	映画にみる陪審制度	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
10	外国の市民の司法参加制度 (4)	ヨーロッパ諸国などで採用されている参審制度について	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
11	戦前の日本の陪審制度	日本で戦前におこなわれていた陪審制度について	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
12	裁判員制度が抱える問題点	現在の裁判員制度において指摘されている問題について考える	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
13	ある刑事事件について考えてみよう	裁判員になったつもりで、ある刑事事件について有罪か無罪かを考える	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
14	今後の裁判員制度のあり方	市民の司法参加を最大限に活かすために、今後、裁判員制度はどうあるべきかを考える	前回の講義で指定された資料を読んでおくこと。次回の講義までに、今回の講義を復習し、疑問点を整理しておくこと。	
15	おわりに	講義のまとめ	これまでの講義の疑問や不明点を整理したうえで今回の講義に臨むこと。	

実務経験	
関連科目	刑法総論・各論、犯罪学などの刑事法、刑事訴訟法、英米法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Zoom		
Teams コード	zkw32y1		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	学期末レポート(60%)、講義中に課す課題(40%)を評価の基準とします。 遅刻および欠席は、1度でも、単位の取得から遠のくこととなりますので、ご注意ください。		
学生への メッセージ	日本の裁判員制度やアメリカの陪審制度に興味のある方はぜひ履修していただければと思います。履修者が少数の場合は、授業において学生の皆さんが主体的に考える時間(たとえば議論していただくなど)をより多くとるようにします。		
担当者の 研究室等	11号館9階 家本准教授室		
備考	講義中に課す課題については、次の回の授業で講評・解説をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20時間		

科目名	法律英語	科目名 (英文)	Legal English
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP8○		
科目ナンバリング	JDJ2088a0		

授業概要・目的	この授業は、日本の重要判例について、外国人学者（ラムザイヤー教授〔ハーバード大学〕）が分析した短い英文を読むことを通して、日本の重要判例を異なる角度から考える機会を提供することを目的とする。
到達目標	この授業の到達目標は、次の2点である。第1は、日本の重要判例の大筋を理解すること、第2は、日本の重要判例を外国人学者（ラムザイヤー教授〔ハーバード大学〕）がどう捉えているかを把握すること、である。
授業方法と留意点	毎回の授業は、概ね次の3つの点に留意して行う。第1は、当該判例の大筋をまずは日本語で理解すること、第2は、当該判例が日本ではどのように評価されているかを大まかに理解すること、第3は、英文を読み当該判例を外国人学者がどのように分析・評価しているかを知ること、である。なお、授業の進度は、受講者の様子を見て判断するため、下記授業計画に掲げた全判例を扱えない場合があることに留意されたい。
科目学習の効果（資格）	TOEICなどの英語検定試験の準備、海外留学や海外研修の事前学習となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	砂川事件	砂川事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 2-14 に事前に目を通しておくこと。
3	三菱樹脂事件	三菱樹脂事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 15-22 に事前に目を通しておくこと。
4	ノンフィクション「逆転」事件	ノンフィクション「逆転」事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 30-39 に事前に目を通しておくこと。
5	非嫡出子法定相続分違憲訴訟	非嫡出子法定相続分違憲判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 40-52 に事前に目を通しておくこと。
6	武蔵野市長給水拒否事件	武蔵野市長給水拒否事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 54-67 に事前に目を通しておくこと。
7	中間テスト	前回までの授業の確認テストを実施し、解説を行う。	第6回目までの授業内容を復習しておくこと。
8	強制予防接種事件	強制予防接種事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 68-85 に事前に目を通しておくこと。
9	光母子殺害事件	光母子殺害事件第二次上告審判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 110-121 に事前に目を通しておくこと。
10	狭山事件	狭山事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 122-140 に事前に目を通しておくこと。
11	学納金返還請求事件	学納金返還請求事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 155-170 に事前に目を通しておくこと。
12	松下電器カラーテレビ事件	松下電器カラーテレビ事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 194-206 に事前に目を通しておくこと。
13	高知放送事件	高知放送事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 244-261 に事前に目を通しておくこと。
14	電通事件	電通事件判決の概要をまず日本語で把握した後、ラムザイヤー教授の短編英語評論を読み大筋を理解する。	教科書 pp. 275-290 に事前に目を通しておくこと。
15	総まとめ	これまでの授業の総復習を行う。	前回までの配布レジュメの内容の理解にもれがないか確認する。

実務経験	
関連科目	憲法、行政法、民法、刑法、労働法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アメリカから見た日本法	J・マーク・ラムザイヤー	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業期間中に指示する課題（レポートなど）の達成状況をもとに評価する。
学生への メッセージ	コロナの影響で対面の授業の実施が困難になっておりますので、シラバスの内容を若干変更せざるを得ない場合があることをご承知おき下さい。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	教科書を購入しなくとも、毎回配布するレジュメを理解していれば、単位取得に支障がないようにする。

科目名	スポーツと法律	科目名 (英文)	Sports and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	.DJJ2089a0		

授業概要・目的	スポーツに関する法令を学ぶとともに、関連する判例や諸問題を検討することを通して、スポーツ法学についての理解を深める。また、法学に関する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、法とスポーツ活動との様々な接点を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書『スポーツ法へのファーストステップ』を用いて授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得のための科目でもある。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	スポーツと法 (1)	スポーツの概念、特性	スポーツの概念や特徴についてまとめる。
	2	スポーツと法 (2)	スポーツ基本法の制定 (スポーツの自治とガバナンス・コンプライアンス)	関連資料に目を通すこと
	3	スポーツと法 (3)	スポーツ活動と関連法令	関連資料に目を通すこと。
	4	スポーツに親しむ権利 (1)	スポーツへのアクセス	関連資料に目を通すこと。
	5	スポーツに親しむ権利 (2)	スポーツ権論	前回の講義と関連づけてまとめる。
	6	スポーツと教育	学校スポーツ、社会スポーツ (生涯スポーツ) の展開と関連法令	関連資料に目を通すこと。
	7	スポーツに関する紛争	スポーツ仲裁制度	関連資料に目を通すこと。
	8	スポーツ振興と法、これまでの講義のまとめ	スポーツの振興に関する法令、および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめること。
	9	スポーツと国籍	スポーツへの参加と国籍	配布資料に目を通すこと。
	10	スポーツと社会的平等	スポーツとジェンダー	関連資料に目を通すこと。
	11	スポーツ事故と責任 (1)	スポーツ活動中 (学校での活動を含む) の事故と法 (民法、刑法、国家賠償法)	民法、刑法および国家賠償法の関連条項の整理。
	12	スポーツ事故と責任 (2)	スポーツ活動中の事故と当事者・指導者の法的責任①	配布資料に目を通すこと。
	13	スポーツ事故と責任 (3)	スポーツ活動中の事故と指導者・当事者の法的責任②	前回の講義と関連づけてまとめる。
	14	スポーツ事故と責任 (4)	フランスにおけるスポーツ事故と法的責任	スポーツ事故の発生と法的責任の発生に関してまとめる
	15	講義の総括と習熟度検査	講義の総括と習熟度確認	講義全体を体系的に整理する。

実務経験	
関連科目	スポーツ政策論等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂典秀	法律文化社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」・Teams「教材・課題配信型」(併用)
Teamsコード	h7tvgol
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業に参加する姿勢 (30%) と複数回出される課題に対する回答 (70%) をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に講義に参加してください。
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験については次の回の授業で解説する。 19年度 合格率100% (不受験率7%) A18% B22% C20% D40% 平均74点 55人登録

科目名	スポーツ文化論	科目名 (英文)	Cultural Aspects of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	.JDJ2090a0		

授業概要・目的	スポーツを文化の領域と捉え歴史的、経済的とあらゆる側面から講義を進めてゆく。特権階級の人々に親しまれたスポーツをもっと身近に感じられるよう、スポーツの取り巻く問題と新たなスポーツ文化を発掘していこうとすることがスポーツ文化論である。担当者は、日本代表のラグビー選手として世界の国々で国際試合や地域の人々と交流、さらにラグビーW杯に選手・コーチとして参加。その国々で肌で体感した様々なスポーツの考え方・見方の違いを講義に取り入れる。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを身体運動だけにとらわれず、知的学問としてとらえ文化的行動の基礎を築くことができ、さらに、2019年ラグビーW杯カップ、2020年にはオリンピック・パラリンピックが開催され世界中の人々が試合を観戦に日本を訪れる。来訪者と交流を進める第一歩としてスポーツを文化ととらえコミュニケーションを進めることのできる知識を身に付けられることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やVTRなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果(資格)	スポーツを楽しむためによりスポーツを理解することが出来る。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	ガイダンス	事前: 授業概要・目的を確認しておく (30分) 事後: 内容を振り返る (30分)
2	スポーツ文化を学ぶ (1)	スポーツ文化を学ぶとは① 「学ぶ」ことの必要性 「学ぶ」者の心構え	事前: 学ぶことについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
3	(スポーツ文化を学ぶ2)	スポーツ文化を学ぶとは② 「学ぶ」事での変化	事前: 学ぶことについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
4	スポーツ文化を学ぶ (3)	スポーツ文化の必要性 国内外でのスポーツ文化の捉え方 日本のスポーツ文化の必要性	レポート提出 事前: 文化について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
5	スポーツとマスコミ (1)	スポーツマンシップの理解 スポーツマンシップを理解する スポーツマンシップと人生観	事前: マスコミについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
6	スポーツとマスコミ (2)	新聞の読み方 マスメディアの理解 アメリカと日本のマスメディアの違い	事前: マスコミについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
7	国民性とスポーツ (1)	民族によるスポーツの考え方 (欧米) クラブ組織のスポーツと学校スポーツの違い	事前: 国民性について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
8	国民性とスポーツ (2)	民族によるスポーツの考え方 (アジア) 日本人の大型化 大型化に伴う問題点	事前: 民族について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
9	生きがいとスポーツ	生きがいの役割 スポーツを生きがいとして捉えること により深くスポーツを理解する	事前: 生きがいについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
10	企業とスポーツマーケティング (1)	スポーツ商業主義 オリンピック憲章の理解 アマチュアとプロ化の流れ	事前: 企業スポーツについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
11	企業とスポーツとマーケティング (2)	学校体育と企業スポーツ スポーツが生む莫大な金銭 今後のスポーツとマーケティングの関係	レポート提出 事前: 学校体育について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
12	スポーツ少年団 (1)	スポーツ参加の意義 スポーツを経験する必要性 教育の一部を担うスポーツ	事前: スポーツと教育について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
13	スポーツ少年団 (2)	子供達のスポーツ参加 教育としての体育・運動とスポーツの位置づけ	事前: スポーツ参加について自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
14	スポーツ文化論総括	文化論 まとめ 各授業テーマの理解度を把握する	事前: 各授業テーマについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	
15	スポーツ文化論総括	再学習 理解度不足などの再学習を行う	事前: 各授業テーマについて自分なりの意見をまとめておく (30分) 事後: 内容について振り返りをしておく (30分)	

実務経験	
関連科目	スポーツ指導者入門

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スポーツ国家アメリカ	鈴木 透	中公新書
	2	よくわかるスポーツ人類学	寒川 恒夫	アカデミズム

	3	人種とスポーツ	川島 浩平	中公新書
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	wsiwbft			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	最終筆記試験 (50%) 課題レポート (20%) 小テスト (15%) ・グループ発表 (15%) などを総合的に評価する。			
学生への メッセージ	講義は聞くだけでなく、自分の問題として捉え、自分に置き換えて考えることが重要である。教科書は特に使用しないが、新聞など関連記事には目を通したほうが良い。また、インターネットによる情報収集も新鮮な情報が得られる。			
担当者の 研究室等	総合体育館1階 河瀬研究室			
備考	課題レポート、小テスト、は、次回授業で評価・解説し理解度の悪い項目については再度説明及び再提出を行う 課題発表については発表時に評価・解説する。 スポーツ文化論を受講に対し事前・事後学習に1時間程度必要。			

科目名	地域とスポーツ	科目名 (英文)	Community and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2091a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツ活動が担う地域振興という役割を踏まえ、地域社会とスポーツとの関係の理解を深める。また、法・政策について体系的に理解することへの一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域社会の発展や連帯を促進という視点から、スポーツの果たす役割に関する知見を修得することが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	地域社会とスポーツ	地域とスポーツとの関係性について整理する。
2	地域におけるスポーツの振興(1)	地域におけるスポーツ振興方策と行政とのかかわり	関連資料に目を通す。
3	地域におけるスポーツの振興(2)	地域におけるスポーツ振興の主要課題	配布資料を理解する。
4	地域におけるスポーツの振興(3)	地域におけるスポーツ振興と民間団体の役割	前2回と今回の講義を関連づけて整理する。
5	地域スポーツの振興拠点(1)	学校スポーツ、企業スポーツ、(総合型)地域スポーツクラブ、スポーツ少年団	関連資料に目を通す。
6	地域スポーツの振興拠点(2)	諸外国における地域スポーツの振興拠点	配布資料を理解する。
7	地域スポーツの振興拠点(3)	(総合型)地域スポーツクラブ・スポーツ少年団の役割と両者の連携・統合	わが国と諸外国との相違点・類似点という視点からまとめる。
8	地域スポーツの振興拠点(4)、およびこれまでの講義のまとめ	地域スポーツクラブの役割、これまでの到達度を評価するための試験の実施	前3回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
9	地域スポーツの振興と関連法令	地域スポーツ振興と関連法令	配布資料の理解。
10	地域社会の活性化とスポーツ(1)	わが国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	関連資料に目を通す。
11	地域社会の活性化とスポーツ(2)	諸外国におけるスポーツ活動による地域社会活性化へ向けた取り組み	配布資料の理解。
12	地域社会の連帯促進とスポーツ(1)	わが国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	関連資料に目を通す。
13	地域社会の連帯促進とスポーツ(2)	諸外国におけるスポーツ活動による地域連帯促進への取り組み	配布資料の理解。
14	地域社会の連帯促進とスポーツ(3)	わが国における取り組みと諸外国における取り組みとの比較検討	前2回と今回の講義とを関連づけて整理する。
15	講義の総括	講義の総括と習熟度確認のための臨時試験の実施	これまでの講義を体系的に整理・理解する。

実務経験	
関連科目	スポーツ政策論等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」・Teams「教材・課題配信型」(併用)
Teamsコード	09293be
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業に参加する姿勢(30%)と複数回出される課題に対する回答(70%)をもって評価する。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験の解説は次の回の授業で行う。 19年度 合格率98% (不受験率2%) A11% B34% C21% D31% 平均74点 90人登録

科目名	スポーツマネジメント	科目名 (英文)	Sports Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	JDJ2092a0		

授業概要・目的	スポーツを効率よくマネジメントする上で、検討すべき課題について理解を深めるとともに、スポーツマネジメントを実践するための基本的な知識を学習する。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを効率よくマネジメントする上での基本的な知識を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス、スポーツマネジメントとは	スポーツマネジメントという言葉の整理。
2	マネジメントの本質 (1)	マネジメントの定義、マネジメントにおける目標設定、目的・補完のマネジメント	関連資料に目を通す。
3	マネジメントの本質 (2)	マネージャーの役割、心構え	マネジメントという概念をまとめる。
4	スポーツマネジメントの特徴	スポーツマネジメントの特徴、スポーツ産業が持つ特質	前2回の講義と今回とを関連づけてまとめる。
5	スポーツ施設の建設、運営および事業展開	スポーツ施設の建設と運営	配布資料の理解。
6	全体戦略の設定	ミッション・ビジョン・ドメイン	関連資料に目を通す。
7	スポーツとマネジメント (1)	人事マネジメント、GMの役割	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
8	スポーツとマネジメント (2)	リスクマネジメント	リスクとマネジメントという意味について整理。
9	スポーツとマネジメント (3)、これまでの講義のまとめ	顧客管理および習熟度確認	これまでの講義を体系的にまとめ、理解する。
10	スポーツ事業の展開 (1)	スポーツ事業の計画・運営・評価 (総論、スポーツ教室の実施・運営)	関連資料に目を通す。
11	スポーツ事業の展開 (2)	スポーツマーケティング	配布資料を理解する。
12	スポーツ事業の展開 (3)	必要な法務の知識、必要な財務・経理・会計・税務の知識	前2回の講義を関連づけてまとめる。
13	スポーツ組織の機能・役割とその運営 (1)	スポーツ組織の機能・役割	配布資料に目を通すこと。
14	スポーツ組織の機能・役割とその運営 (2)	スポーツ組織の運営	前回の講義と関連づける。
15	講義のまとめ	講義の総括と習熟度の確認	講義全体の体系化とその理解。

実務経験	
関連科目	スポーツと法律等

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	複数回出される課題への回答をもって評価する (100%)。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	意欲を持って参加してください。
-----------	-----------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度試験についての解説は、次の回の授業で行う。
----	--

備考	19年度 合格率97% (不受験率0%) A16% B48% C23% D10% 平均78点 61人登録
----	--

科目名	グローバル社会とスポーツ	科目名 (英文)	Global Society and Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎		
科目ナンバリング	.JDJ3093a0		

授業概要・目的	スポーツに関する諸問題を社会的な視点からグローバルに検討することによって、社会とスポーツとのかかわりに対する理解を深める。また、主に法政策学の体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツを取り巻く社会的な諸相をグローバルな観点からの確に捉え、理論的に理解するための基本的な能力を養うことが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。
科目学習の効果 (資格)	スポーツに関する社会的な知識を身につけることが可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	グローバル社会とスポーツ	グローバル社会におけるスポーツの意義	関連資料に目を通すこと。
3	スポーツ人口の構造 (1)	スポーツ人口構造の類型化	配布資料の理解。
4	スポーツ人口の構造 (2)	年齢別、性別スポーツ参加状況	前回の講義と関連づけて今回の講義を整理する。
5	少子・高齢化とスポーツ (1)	少子化とスポーツ	配布資料の理解。
6	少子・高齢化とスポーツ (2)	高齢化とスポーツ	少子・高齢化とスポーツとの関係についてまとめる。
7	女性とスポーツ	女性のスポーツ参加	関連資料に目を通すこと。
8	日本と諸外国におけるスポーツ事情、これまでの講義のまとめ	日本と諸外国のスポーツ参加、および習熟度を確認	これまでの講義を体系的に整理・理解する。
9	スポーツの社会的基盤 (1) - 諸外国とわが国との比較 検討 -	学校・地域のスポーツクラブ	関連資料に目を通すこと。
10	スポーツの社会的基盤 (2) - 諸外国とわが国との比較 検討 -	企業および民間クラブ	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
11	スポーツと社会化 (1)	スポーツによる社会化	配布資料の理解。
12	スポーツと社会化 (2)	スポーツへの社会化	前回の講義と今回の講義とを関連づけて整理する。
13	商業主義とスポーツ	商業主義のスポーツへの影響	関連資料に目を通すこと。
14	スポーツとマスメディア	マスメディアのスポーツへの影響	マスメディアという言葉の意味を検索。
15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認	これまでの講義を体系立てて整理し理解する。

実務経験

関連科目 地域とスポーツ等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「オンライン型」・Teams「教材・課題配信型」(併用)

Teams コード c0b21ws

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準) 授業に参加する姿勢(30%)と複数回出される課題への回答(70%)によって評価する。

学生へのメッセージ 意欲的に取り組んでほしい。

担当者の研究室等 11号館10階 石井教授室

備考 各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。
課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。

19年度 合格率100% (不受験率2%) A8% B40% C17% D35% 平均75点 65人登録

科目名	実定法特別講義 I	科目名 (英文)	Special Lecture on Positive Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2094a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義 I の講義では、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的としています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を聞き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目指すようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、新型コロナウイルス感染症への対策として、「教材・課題提供型」の方法で行います。事前に WebFolder で授業の課題を配布しますので、必ず確認し、十分に予習するようにしておいてください。課題は提出を求めます（方法については改めて指示させていただきます）。また、関連する論点を各自が所持している教科書で確認するようにしておいてください。なお、回数に限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。範囲としては、憲法全般、民法全般に及ぶので、
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義の全体像：ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的な心構えなどの概説を行います。	授業中に指示します。資格試験や公務員試験、司法試験など具体的な目標をあらかじめ考えておくこと（約30分）。
2	憲法①	憲法の人権の中でも重要な位置を占める精神的自由についての基本を学びます。	精神的自由、特に表現の自由について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
3	憲法②	憲法には、精神的自由以外にも様々な人権があります。それらの概要を学びます。	経済的自由、社会権、参政権などについて自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
4	憲法③	憲法には、大きく分けて人権分野と統治分野からなります。国会、内閣、裁判所などの統治機構についての基本を学習します。	統治機構の基本となる国会・内閣・裁判所の関係と権能について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
5	民法①	私人間の関係を規律する民法についての学習をはじめます。まずは、権利の主体や法律行為などを定めている民法総則から学習します。	民法総則の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
6	民法②	物を直接的・排他的に支配する権利であるといわれる物権について学習します。	物権、特に所有権、抵当権の内容について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
7	民法③	特定人から特定人に対して一定の財産上の行為を請求できるという債権について学びます。まずは、債権総論からはじめます。	債権総論、特に債権者代位権、詐害行為取消権について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
8	民法④	債権各論といわれる分野を学習します。契約がどのようにして成立するのか、契約の効力はどのようなものがあるかなどを学びます。	債権各論の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
9	民法⑤	ここでは、具体的な契約の種類や事務管理・不当利得・不法行為などを学習します。	引き続き債権各論の分野、特に売買、賃貸借、不法行為について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
10	民法⑥	民法は、経済的生活関係だけではなく、身的生活関係も規律しています。婚姻、親子、相続などを学習します。	民法の親族・相続の分野について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所について自分の持っている教科書を見直すこと（約1時間）。
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がよく理解できなかった部分などがどこを見直すこと（約30分）。

実務経験	
------	--

関連科目	直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題(レポート)の累計点で成績評価を行います(100%)。詳細は初回の講義で説明しますが、毎回の課題についてはしっかりと取り組む必要があります。 毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入学試験の対策を行いたいと考えています。 また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。 確認ペーパーなどの正解・解説は授業内で行う。

科目名	実定法特別講義Ⅱ	科目名(英文)	Special Lecture on Positive Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2095a0		

授業概要・目的	この実定法特別講義Ⅱの講義では、同Ⅰに引き続いて、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試などに向けた基礎的な知識の習得を目的にしています。受講生の皆さんが試験に合格するため、少しでもお役に立てるよう、受講生の要望を開き入れながら、一緒に頑張っていければと考えています。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学検定試験や行政書士試験、宅地建物取引士などの問題演習を通じて、憲法・民法の基礎知識を習得すること、具体的には、法学検定のベーシック合格だけにとどまらず、スタンダードの合格を目標とするようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、新型コロナウイルス感染症への対策として、「教材・課題提供型」の方法で行います。事前にWebFolderで授業の課題を配布しますので、必ず確認し、十分に予習するようしておいてください。課題は提出を求めます(方法については改めて指示させていただきます)。また、関連する論点を各自が所持している教科書で確認するようしておいてください。なお、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。範囲としては、憲法全般、民法全般に及ぶので、
科目学習の効果(資格)	公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の全体像: ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的な心構えなどの概説を行います。	各自の目標を具体的にイメージしておくこと(30分)。
2	憲法①	精神的自由の内容の理解を深めます。違憲審査基準などにも触れます。	表現の自由の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
3	憲法②	精神的自由以外の人権の議論も多々ありますので、理解を深めていきたいと思えます。	経済的自由、社会権、平等権、参政権などの内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
4	憲法③	統治機構は、資格試験では頻出の分野です。暗記すべき部分や自分で考える部分にメリハリを付けながら学習したいと考えています。	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
5	民法①	民法総則の中で論点となる部分を重点的に学習します。	民法総則の中でも、代理に関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
6	民法②	物権も重要な論点が多いので、基本的な部分をしっかり押さえておきたいと思えます。	物権の中でも、抵当権に関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
7	民法③	問題演習などをつうじて、債権総論についての理解を深めたいと思えます。	債権者代位権、詐害行為取消権の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
8	民法④	債権各論を更に勉強します。	売買、賃貸借、請負の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
9	民法⑤	債権各論の理解を深めます。	事務管理、不当利得、不法行為の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
10	民法⑥	親族・相続分野は、択一では頻出ですので、具体的な問題演習をつうじて理解を深めたいと思えます。	婚姻、養子、相続の内容、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
11	民法⑦	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
12	民法⑧	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
13	民法⑨	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
14	民法⑩	民法全般について問題演習を通じて学びます。	民法の該当箇所を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を確認し、見直しておくこと(約30分)。	

実務経験	
関連科目	直接的には、各種の実定法特別講義に関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年法学検定試験問題集ベーシック	法学検定試験委員会	商事法務
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder
Teamsコード	wc39070
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:

評価方法 (基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題（レポート）の累計点で成績評価を行います（100%）。詳細は初回の講義で説明しますが、毎回の課題についてはしっかりと取り組む必要があります。 毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連動する形で、公務員試験や法科大学院（ロー・スクール）入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。具体的な講義内容については、受講生の皆さんの要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。 また、各種試験の合格には、授業だけでは勉強量が不足するといわざるをえません。目標をもって、日々勉強に励んでいただく必要がありますので、ぜひ頑張ってください。
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。 確認ペーパーの正解や解説については、授業内で行う。

科目名	実定法上級講義	科目名 (英文)	Comprehensive Lecture on Positive Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	前田 剛志, 松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ4096a0		

授業概要・目的	この実定法上級講義の講義では、法政キャリア特別講義と同様に公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試などに向けた実践的な知識の習得を目的としています。直前期にあたることとなりますので、短期間で集中的に知識の獲得を目指します。受講生の要望を随時受け入れます。
到達目標	この授業を通じて学生には、公務員試験や法科大学院入学試験などの問題演習を通じて、各種試験合格に必要な高度に専門的な法的知識を習得できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義は、新型コロナウイルス感染症への対策として、「教材・課題提供型」の方法で行います。事前にWebFolderで授業の課題を配布しますので、必ず確認し、十分に予習するようにしておいてください。課題は提出を求めます(方法については改めて指示させていただきます)。また、関連する論点を各自が所持している教科書で確認するようにしておいてください。なお、回数が限られていますので、必然的に重要な部分を集中的に論じることになり、少ししか触れられない部分もでてくるかと思えます。範囲としては、憲法全般、民法全般、行政法全般
科目学習の効果(資格)	公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入試の合格を目指す学習の一助になればと考えています。また、行政書士や法学検定試験、宅地建物取引士などに役立つ知識の獲得にも対応できるよう考えています。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義の全体像: ガイダンス	授業の進め方や全体像、試験対策に向けての一般的な心構えなどの概説を行います。	各自の受験する試験の内容を具体的に確認しておくこと(約30分)。
2	憲法①	精神的自由 思想良心の自由、表現の自由、信教の自由、集会・結社の自由など 特に、違憲審査基準の理解	精神的自由に関する違憲審査基準、関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
3	憲法②	その他の人権 経済的自由、幸福追求権、平等権、社会権など 特に、違憲審査基準の理解(精神的自由との比較)	経済的自由で用いられる審査基準と精神的自由で用いられる審査基準の違いを確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
4	憲法③	統治機構 国会、内閣、裁判所、財政・地方自治、憲法保障など	国会・内閣・裁判所の権能を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
5	民法①	民法総則 意思表示、代理、時効など 特に、心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理	心裡留保・虚偽表示・錯誤、表見代理の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
6	民法②	物権 占有権、所有権、用益物権、担保物権など 特に民法177条、抵当権	物権変動の基本原則、抵当権の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
7	民法③	債権総論 債務不履行、責任財産の保全、多数当事者の債権・債務関係、債権譲渡、債権の消滅など 特に、415条・416条、債権者代位権・詐害行為取消権	債務不履行の一般原則について、見直しておくこと(約1時間)。	
8	民法④	債権各論① 契約の成立、契約の効力、契約各論①など 特に、解除、売買	契約の解除、売買、賃貸借、請負の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
9	民法⑤	債権各論② 契約各論②、事務管理・不当利得・不法行為など 特に、賃貸借、不法行為	事務管理、不当利得、不法行為の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
10	民法⑥	親族・相続 婚姻、親子、相続など	婚姻、養子、相続の内容及び関連する判例を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
11	行政法①	行政法総論、行政組織法など 法律による行政の原理、行政主体、地方自治など	法律による行政の原理の内容を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
12	行政法②	行政作用法 行政行為、行政上の強制手段、行政指導、行政手続など 特に、行政行為の種類	行政行為の種類、内容を見直しておくこと(約1時間)。	
13	行政法③	行政救済法 行政不服申立て、行政事件訴訟、国家賠償、損失補償など 特に、取消訴訟	行政事件訴訟法に規定されている訴訟類型の要件を確認し、見直しておくこと(約1時間)。	
14	その他の実定法 刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法など	憲法、民法、行政法以外で試験に関連する科目	刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法などの基本概念を見直しておくこと(約1時間)。	
15	授業全体のまとめ	これまでの講義で学習してきた問題を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだ部分で自分自身がわからなかった部分を見直しておくこと(約30分)。	

実務経験	
関連科目	直接的には、各種実定法特別講義講義と関連しますが、憲法、民法、行政法など実定法の科目とも関連しています。
教科書	番号 書籍名 著者名 出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題(レポート)の累計点で成績評価を行います(100%)。詳細は初回の講義で説明しますが、毎回の課題についてはしっかりと取り組む必要があります。 毎回の課題提出が前提ですので、合理的理由のない課題の未提出が一定回数を超えた場合、単位取得を認めないことがあります。			
学生への メッセージ	この講義では、各種の実定法特別講義と連続した形で、公務員試験や法科大学院(ロー・スクール)入学試験の対策を行いたいと考えています。また、行政書士、宅地建物取引士など資格試験の対策も考えております。直前期にあたるため、受講生の皆さんの具体的な要望にできる限り応じられるようにしたいと考えています。			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	この講義は「法律学特修コース」の学生の履修を想定しているため、かなりの量の予習・復習が必要となります。また、定員の上限を定める場合があります。「法律学特修コース」以外の学生で履修を希望する者は、履修期間内にあらかじめ担当者に相談してください。確認テストの解説については、授業内で行う。			

科目名	憲法応用講義	科目名 (英文)	Advanced Lecture of Constitutional Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3097a0		

授業概要・目的	憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)の履修を前提として、憲法のさらなる発展的な理解を得ることを目的とします。取り扱う領域は基本的人権が中心となります。日本及び外国の判例を素材として、講義形式での解説、学生による報告を中心に行います。
到達目標	この授業を通じて学生には、外国の憲法の考え方と比較しつつ日本の憲法理論の理解を深められるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義、報告、議論を中心に行います。少人数を想定しています。参加する人は、遠隔講義にできるだけ対応することが必要です(スマホのみで参加することは難しいかと思います)。
科目学習の効果 (資格)	科目に憲法が設定されている資格試験に対応する力をつけます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	概要の説明、報告担当の決定など	事前：なし 事後：課題ペーパー(90分)
2	人権総論	人権理論の復習と解説	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
3	裁判所による違憲審査について	アメリカ型の違憲審査基準とドイツにおける三段階審査の比較など	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
4	個人の尊厳(1)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
5	個人の尊厳(2)	生命・身体の権利に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
6	法の下での平等(1)	法の下での平等に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
7	法の下での平等(2)	差別的取扱いに関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
8	婚姻・家族に関する保護と権利	婚姻の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
9	表現の自由(1)	意見表明の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
10	表現の自由(2)	報道機関の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
11	信教の自由	信教の自由に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
12	職業の自由(1)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
13	職業の自由(2)	職業に対する規制に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
14	財産権(1)	所有権に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	
15	財産権(2)	公用収容に関する判例について報告・解説・議論を行う	事前：配布プリントを読む(20分) 事後：課題ペーパー(90分)	

実務経験	
関連科目	憲法概論、憲法 I(基本的人権)、憲法 II(統治機構)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	各回に出される課題ペーパー(50%)、最終のレポート(50%)により評価します。
学生へのメッセージ	内容は難しくなりますが頑張らしましょう。
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室
備考	課題のペーパーについては次の講義の最初に解説を行います。

科目名	民法応用講義 I	科目名 (英文)	Advanced Civil Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3099a0		

授業概要・目的	公務員試験等を視野に、民法の基礎を再確認する。
到達目標	この授業を通じて、学生には民法（財産法）の基礎を確実に身に付けることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業にて実施します。 自宅に PC やタブレット、プリンターを持っていない学生もいると思いますので、基本的には、スマホ画面で完結する授業を予定しています。基本的な内容について、まず、動画 (mp4) あるいは音声データ (mp3) による解説を行い、その上で、毎回、小テストにチャレンジしてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	公務員試験、宅建、司法試験 (ロースクール)、司法書士試験、行政書士試験等。民法が受験科目となる試験全般。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	方針決定	実力テスト・希望聴取	民法の既習内容について、復習してくる事。
2	民法総則①	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
3	民法総則②	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
4	民法総則③	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
5	民法総則④	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
6	民法総則⑤	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
7	債権法①	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
8	債権法②	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
9	債権法③	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
10	債権法④	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
11	債権法⑤	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
12	債権法⑥	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
13	債権法⑦	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
14	債権法⑧	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。
15	債権法⑨	問題演習	授業時に指示する内容につき、事前に予習してくる事。

実務経験	
関連科目	民法 (財産法) の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	各回的小テストにより評価します。
-----------	------------------

学生へのメッセージ	民法は、基本です。この基本を、問題演習を通じ、正確に、確実に身に付けることを目指します。
-----------	--

担当者の研究室等 備考	11号館10階 城内准教授室
----------------	----------------

科目名	民法応用講義Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Civil Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3100a0		

授業概要・目的	民法に関連する各講義で学んだ基礎的な知識をもとに、各種資格試験棟で取り上げられている過去問を使用しつつ、民法の判例および法理論を多角的に検討する予定である。 本講義では、民法総則を扱う予定ではあるが、応用講義Ⅰで取り上げられたものとは異なる範囲で検討を行う。
到達目標	この講義を通じて学生には、民法を様々な角度から検討を行い、民法の基本的な制度・概念の理解を正確できるようになることが期待される。基本を押さえないければ、応用・発展的問題についての理解も進まないからである。
授業方法と留意点	公務員試験等の過去問を中心に取り上げ、法制度の基本的な理解から応用的・発展的な内容についても検討していくことを考えている。細かな点は学生の目標や能力等に合わせて、調整する予定である。
科目学習の効果(資格)	民法に関連する試験全般

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の内容、学生の目標等の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
2	意思表示①	心裡留保・虚偽表示制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
3	意思表示②	錯誤制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
4	意思表示③	詐欺・強迫制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
5	権利能力①	自然人の権利能力制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
6	権利能力②	法人制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
7	代理①	代理制度の全般を確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
8	代理②	無権代理の問題を確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
9	代理③	無権代理と相続問題の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
10	代理④	表見代理制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
11	条件・期限・期間	条件・期限・期間の内容の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
12	時効①	時効全般について確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
13	時効②	取得時効制度の確認	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
14	時効③	消滅時効制度の確認。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。
15	確認テスト	全体の復習を兼ねてテストを行う予定。	講義においてあらかじめ指摘した部分を検討し、講義でその内容を確認する予定である。

実務経験	
関連科目	民法系科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	wa5m73e
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	例年、少人数でのゼミ的な形で講義を行っていることから、講義での取り組みを中心に採点いたします。具体的には、講義での取り組み80点、確認テスト20点で行う予定です。ただし、詳細については講義で確認を行う予定である。
学生へのメッセージ	民法応用講義Ⅰ
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容について、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。

近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	商法応用講義	科目名 (英文)	Advanced Commercial Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3101a0		

授業概要・目的	<p>ロースクールや研究者になるために大学院への進学を希望する学生や国家公務員の試験に合格することを旨とする学生に対して、商法、特に会社法について、高度の知識と応用力を付けるために、重要な法律上の問題を順次、講義する。</p> <p>本講義の目的は、ロースクールや法科大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することである。</p>
到達目標	この授業を通じて、学生は、ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	<p>授業では、練習問題を解き、解答について分析する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。</p> <p>授業開始直後、数回、復習テストを行う。</p> <p>授業は遠隔授業 (Teams) で行う。</p>
科目学習の効果 (資格)	ロースクールや研究者になるための大学院の試験や国家公務員の試験に合格するための商法の知識および応用力を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	会社の設立	株式会社の設立手続の特徴、会社の定款、発起人組合と設立中の会社、開業準備行為、財産引受の無効と会社の追認の可否などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
3	株式 (1)	株式の本質、単元株制度、株券発行前の株式譲渡の効力、譲渡制限株式の譲渡、契約による株式の譲渡制限、種類株式、自己株式取得の要件などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
4	株式 (2)	株券不所持制度、株券の発行・不発行、株券発行の時期、株券喪失登録制度、株式の名義書換え、名義書換え未了株式譲受人の地位などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
5	株主総会	株主総会・取締役会・代表取締役・執行役、株主総会の招集権、株主提案権、書面投票制度・電磁的方法による議決権行使などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
6	取締役 (1)	株主総会と取締役会との権限の関係、取締役会決議の瑕疵、代表取締役と取締役会との権限の関係、代表取締役の職務執行の適正確保などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
7	取締役 (2)	取締役の善管注意義務、取締役の競業禁止義務、取締役の利益相反、取締役の報酬、取締役の権利義務者・一時取締役・取締役の職務代行者・補欠取締役などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
8	監査役	監査役による監査と取締役会による監査、内部統制システムと監査役、会計参与・監査役・会計監査人の異同などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
9	計算	資本金・株式・会社財産の関係、剰余金の分配に関する規制、現物配当、法定準備金、剰余金の配当等と会社債権者の保護、違法配当の効果などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
10	資金調達 (1)	資金調達における株主の保護、資本金の額の増加の方法、株式会社設立時の株式発行と設立後の新株発行の差異、新株の第三者割当などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
11	資金調達 (2)	公示義務違反、差止違反の株式発行の効力、新株発行の不存在と不存在確認の訴え、新株予約権、株式と社債の異同、社債権者の保護などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
12	企業再編 (1)	持株会社 (完全親会社)、企業買収防衛策、合併比率の不正、会社分割と会社債権者の保護などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
13	企業再編 (2)	特別支配株主の株式等売渡請求、組織再編における価格決定申立てによる公正な価格、株式の相互保有、親子会社、一人会社などを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
14	資本金の額の減少・解散	資本金の額の減少、資本金額減少無効の訴え、会社の解散・清算、解散命令と解散判決を学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。
15	持分会社	持分会社の社員の責任と地位、合名会社の投資資本の回収方法、持分会社および株式会社における出資の確保などを学	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) すること。授業で配布した資料を読むこと。

			ぶ。	
実務経験				
関連科目	会社法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プライマリー会社法 (最新版)	藤田勝利・北村雅史編	法律文化社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	ejy9137			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30% 試験は、Teams の Web テストで行う。			
学生への メッセージ	予習を十分にすること。授業中、ポケット六法を携帯すること。			
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室			
備考	教科書の該当箇所の予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。			
	19年度 合格率 100% (不受験率 0%) A29% B25% C36% D10% 平均 79点 87人登録			

科目名	民事訴訟法応用講義	科目名 (英文)	Advanced Civil Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3102a0		

授業概要・目的	民法等により認められた権利が害され、私人間に紛争が生じた場合、その紛争解決手段として用いられるのが民事訴訟手続である。当該講義は、紛争解決手段としての民事訴訟手続につき、前期の民事訴訟法で学んだ知識をもとに、それらを発展・応用する能力を培うことを目的とする。紛争の対象として取り扱うのが民法上の権利であるため、民法全般の復習・発展に役立つ。また、「実体法である民法」と「手続法である民事訴訟法」を含めた『民事法』としての総合的理解を図り、それらの知識を深めることを、目的とする。
到達目標	前期の民事訴訟法では、民事法の中における民事訴訟法が果たす役割や民事裁判の全体的な流れについて学んだ。そこでは、当事者(原告・被告)がともに単数(1人)であることを前提としていたが、本講義を通じて学生には、当事者の一方または双方が複数人である多数当事者訴訟についても学び、例えば新聞等でもよく耳にする団体訴訟等についてその仕組みと機能について理解を深めることが期待される。 また、判決の効力、証明責任や証拠提出命令、家庭紛争(家事審判・調停・人事訴訟)など、前期の民事訴訟法では触れられなかったテーマについて
授業方法と留意点	講義は、教科書と六法を用いて、板書により行う。毎回、主要箇所を括弧空けにした補助教材のプリントを配布するので、講義において、自分でその括弧に当てはまる用語や説明等を書き込む。アクティブ・ラーニング型の講義を目標としているため、プリントの輪読、プリント内の括弧の答えに関する質疑応答を行うものとする。なお、多角的な知識を得、理解を深めるため、復習・確認演習ならびにレポートを数回実施し、評価の対象とする。与えられた課題につき、グループワークを行う場合がある。
科目学習の効果(資格)	・紛争解決手段である民事訴訟手続のしくみが理解できるようになる。 ・大学院ならびに法科大学院等への進学、裁判所職員(事務官・書記官)、司法書士、法検スタンダードコースなどの受験に対応できる知識・応用力を養う。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス ・現在の裁判	・授業の進め方、受講上の注意、評価方法等について ・現在の裁判における状況 ・時事問題	事後学習：講義における配布資料の復習(事後学習に要する時間 約30分)
2	・民事裁判権の限界	・裁判権免除 ・国際裁判管轄 ・訴訟と非訟	事前学習：教科書 P. 119～126 (判例)最高裁昭和40年6月30日大法廷決定 訴訟と非訟 夫婦同居の審判 事後学習：講義における配布資料の復習 (事前事後学習に要する時間 約1時間、以下同様)	
3	・複数当事者 ～共同訴訟が認められる場合とは?～	・共同訴訟は、どういう場合に認められるのか? ・通常共同訴訟 ・必要的共同訴訟 ・同時審判申出訴訟	事前学習：教科書 P. 140～154 (判例)最高裁平成20年7月17日第一小法廷判決 固有の共同訴訟の成否 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
4	・複数当事者 ～第三者の訴訟参加～	・他人の訴訟に割り込む方法 ・補助参加 ・独立当事者参加	事前学習：教科書 P. 154～168 (判例)補助参加の利益東京高裁平成20年4月30日決定 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
5	・複数当事者 ～訴訟承継～	・訴訟が承継されるときとは? ・当事者が亡くなったら訴訟はどうなるのか? ・係争物の譲渡 ～参加承継・引受承継～ ・第三者の訴訟引込み ・任意的当事者変更	事前学習：教科書 P. 168～178 (判例)最高裁昭和41年3月22日第三小法廷判決 引受承継人の範囲 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
6	・訴訟審理の進め方	・攻撃防御方法の提出 ・相殺 ・口頭弁論における当事者の欠席	事前学習：教科書 P. 204～209、214～216 (判例)最高裁昭和46年4月23日第二小法廷判決 相殺に対する反対相殺 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
7	・訴訟の終了	・訴えの取下げ ・請求の放棄/認諾 ・訴訟上の和解	事前学習：教科書 P. 222～227 (判例)最高裁昭和46年6月25日第二小法廷判決 刑事上罰すべき他人の行為による訴えの取下げ 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
8	・前回までの講義内容のまとめ&復習	・前回までの講義内容についてのまとめと復習、ならびに質疑応答	事前学習：前回講義までの内容についての復習、ならびに疑問点の抽出 事後学習：前回講義までに配布した全資料の復習(約2時間)	
9	・証拠 ～文書提出命令～	・文書提出命令	事前学習：教科書 P. 257～264 (判例)最高裁平成20年11月25日 文書提出命令 職業の秘密 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
10	・証拠 ～立証の困難を克服するために～ ・証拠 ～証明がつかないときはどうなるのか?～	・相当な損害額の認定 ・証明責任とは何か? ・証明責任の分配 ・証明責任の転換	事前学習：教科書 P. 264～282 (判例)最高裁昭和35年2月2日第三小法廷判決 証明責任の分配 虚偽表示における第三者の善意 事後学習：講義における配布資料の復習(約1時間)	
11	・判決 ～既判力～	・訴訟物による限界(既判力の客観的範囲) ・基準時による蔽戒(既判力の時的限界)	事前学習：教科書 P. 293～305 (判例)最高裁平成10年6月12日第二小法廷判決 一部請求後の残部請求 明治紗入れた場合 事後学習：講義における配布資料の復習	

			・既判力の及ぶ人の範囲（既判力の主観的範囲）	（約1時間）
	12	・上訴と再審	・特別の不服申立て ・控訴/上告/抗告 ・再審	事前学習：教科書 P. 311～332 （判例）最高裁平成6年11月22日第三小法廷判決 不利益変更の禁止 一部請求と相殺の抗弁 事後学習：講義における配布資料の復習 （約1時間）
	13	・督促手続	・督促手続のメリット ・督促手続の経過 ・オンライン督促手続	事前学習：教科書 P. 338～342 裁判所が配布しているリーフレット等で督促手続 の流れについて理解する 事後学習：講義における配布資料の復習 （約1時間）
	14	・家庭紛争と裁判	・家庭紛争の解決方法 ・家事審判と家事調停 ・人事訴訟	事前学習：教科書 P. 343～377 （判例）最高裁昭和33年7月25日第二小法廷判決 離婚訴訟と特別代理人（訴訟能力） 事後学習：講義における配布資料の復習 （約1時間）
	15	・当該講義における全内容 についてのまとめと復習	当該講義における全内容についての、ま とめ、復習、そして質疑応答	事前事後学習：当該講義における全内容についての 復習、ならびに疑問点の抽出 （約3時間）
実務経験				
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全・執行法、倒産法、国際私法、国際取引法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事裁判入門〔第3版補訂版〕	中野貞一郎	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民事訴訟法 判例百選〔第5版〕	高橋・高田・畑編	有斐閣
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	140dfk6			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	Teams上における課題及び小テストにおいて総合評価する。また、講義への積極的な姿勢による加点や、講義中の態度による減点を考慮する。詳細は講義にて。			
学生への メッセージ	講義中における私語・携帯等の使用については、他の学生の迷惑になるので、厳しく対処します。教科書と六法は講義で常に使用するもので、必ず持参すること。紛争解決手段である民事訴訟手続を学ぶことで、既に学んだ民法全般の知識をリフレッシュさせてください。			
担当者の 研究室等	11号館9階 萩原准教授室			
備考	レポート等の返却は、後日、添削・評価してから、講義内もしくはキャリアルームにおいて行うものとする。適宜、講義内において指導する。			

科目名	刑法応用講義 I	科目名 (英文)	Advanced Criminal Law I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3103a0		

授業概要・目的	2 回生配当の刑法総論において、十分な時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点（修正された構成要件論）について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験（裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員）、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・未遂犯および共犯の処罰根拠を説明できる ・刑法総論をテーマとした事例における論点（問題の争点）を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる刑法総論に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法 今般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義は Microsoft 社 teams を活用して行いますが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。
科目学習の効果（資格）	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明	教科書の入手 事前：教科書の単独正犯に関する構成要件論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教科書の単独正犯に関する章末問題を解くこと（2時間）
	2	未遂犯	予備犯と未遂犯 未遂犯の処罰根拠 実行の着手	事前：障害未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：障害未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	3	不能犯	不能犯をめぐる近時の判例・学説動向	事前：不能犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：不能犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	4	中止未遂	中止未遂をめぐる近時の判例・学説動向	事前：中止未遂をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：中止未遂を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	5	共犯の基礎	狭義の共犯と広義の共犯 共犯の処罰根拠 共犯の従属性	事前：共犯の処罰根拠論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の処罰根拠論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	6	共同正犯 1	実行共同正犯	事前：実行共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：実行共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	7	共同正犯 2	共謀共同正犯	事前：共謀共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共謀共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	8	共同正犯 3	過失の共同正犯	事前：過失の共同正犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：過失の共同正犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	9	教唆犯と幫助犯	狭義の共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：教唆犯と幫助犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：教唆犯と幫助犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	10	共犯をめぐる諸問題 1	片面的共犯と承継的共犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：片面的共犯と承継的共犯をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：片面的共犯と承継的共犯を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	11	共犯をめぐる諸問題 2	共犯関係からの離脱・共犯の中止犯をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯からの離脱と共犯の中止をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯からの離脱と共犯の中止を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	12	共犯をめぐる諸問題 3	共犯の錯誤、共犯と緊急行為をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯の錯誤をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯の錯誤を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	13	共犯と身分	共犯と身分をめぐる近時の学説・判例動向	事前：共犯と身分をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：共犯と身分を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	14	罪数	一罪と数罪 法条競合 包括一罪 科刑上一罪 併合罪	事前：罪数論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：罪数論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）
	15	講義のまとめ	重要事項の総復習	事前：未遂犯論と共犯論をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：未遂犯論と共犯論を見直し、章末問題を解くこと（2時間）

実務経験																	
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法総論（第5版）</td> <td>大谷 實</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法総論（第5版）	大谷 實	成文堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	刑法総論（第5版）	大谷 實	成文堂													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法総論（第2版）</td> <td>佐久間 修</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例集および補助教材について開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法総論（第2版）	佐久間 修	成文堂	2	判例集および補助教材について開講時に指示する			3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	刑法総論（第2版）	佐久間 修	成文堂													
	2	判例集および補助教材について開講時に指示する															
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。																
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法総論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。																
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室																
備考	・講義の理解度を試すミニツッパーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。 19年度 合格率96%（不受験率0%） A35% B26% C22% D14% 平均78点 78人登録																

科目名	刑法応用講義Ⅱ	科目名(英文)	Advanced Criminal Law II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3104a0		

授業概要・目的	2回生後期配当の刑法各論において十分に時間を割いて取り扱うことができなかった応用的論点(財産犯論)について、最新の判例と学説動向を踏まえながら解説を行うとともに、こうした問題をテーマにした公務員試験(裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員)、司法書士および司法試験等の客観式問題を確実に正解できる力を身につけてもらうことを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、 「・各種の財産犯について、その共通点と相違点を説明できる ・財産犯をテーマとした事例における論点(問題の争点)を抽出し、それに対する判例や通説的見解の内容を説明できる ・各種公務員試験や国家試験で必要とされる財産犯に関する知識を修得できる」 ようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法 教科書と配布資料を用いた講義形式を基本とするが、質疑応答や問題演習を随時取り入れる。 留意点 毎回出席することで、問題を解く際の頭の働かせ方を身につけることができる。

科目学習の効果(資格)	司法試験や法科大学院入学試験の準備、裁判所事務官・労働基準監督官・地方公務員採用試験など。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方の説明	初回までに教科書を手入手しておくこと。 事前:刑法各論の概要と保護法益論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:刑法各論の概要と保護法益論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
2	財産犯総論	財産犯の分類 財物の意義 財産上の利益	事前:財産犯総論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:財産犯総論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
3	窃盗罪1	窃盗の意義	事前:窃盗の意義をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:窃盗の意義を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
4	窃盗罪2	不法領得の意思 窃盗罪をめぐる近時の判例・学説動向	事前:不法領得の意思をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:不法領得の意思を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
5	強盗罪1	強盗の要件	事前:強盗の要件論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:強盗の要件論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
6	強盗罪2	事後強盗をめぐる近時の学説・判例動向	事前:事後強盗をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:事後強盗を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
7	強盗罪3	強盗殺人・強盗致死罪ほか	事前:強盗殺人をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:強盗殺人を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
8	詐欺罪1	詐欺罪の要件	事前:詐欺罪の要件論をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:詐欺罪の要件論を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
9	詐欺罪2	詐欺罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前:詐欺罪の学説動向をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:詐欺罪の学説動向を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
10	恐喝罪	恐喝罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前:恐喝罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:恐喝罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
11	横領罪	横領罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前:横領罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:横領罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
12	背任罪	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前:背任罪の要件をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:背任罪の要件を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
13	横領と背任の区別	背任罪をめぐる近時の学説・判例動向 横領と背任の区別	事前:横領と背任の区別をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:横領と背任区別を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
14	盗品等関与罪 器物損壊罪ほか	盗品等関与罪をめぐる近時の学説・判例動向	事前:盗品等関与罪をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:盗品等関与罪を見直し、章末問題を解くこと(2時間)
15	まとめ	重要事項の総復習	事前:財産犯論全体をあらかじめ読むこと(2時間) 事後:財産犯論全体を見直し、章末問題を解くこと(2時間)

実務経験	
関連科目	・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策、現代社会と刑事法など ・財産犯の理解には、民法の知識が必要である。 とくに、典型担保、非典型担保、債権総論、契約法、不当利得については本学で開講されている民法諸科目を履修していることが望ましい。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法各論 (第5版)</td> <td>大谷 實</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法各論 (第5版)	大谷 實	成文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	刑法各論 (第5版)	大谷 實	成文堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法各論</td> <td>佐久間 修</td> <td>成文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例集および補助教材について開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法各論	佐久間 修	成文堂	2	判例集および補助教材について開講時に指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	刑法各論	佐久間 修	成文堂														
2	判例集および補助教材について開講時に指示する																
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」																
Teams コード	k7jv3id																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	・Microsoft 社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う (100%)。																
学生への メッセージ	・刑法が好きな学生や上記各種試験等の準備を要する学生の履修を歓迎する。ただし、少なくとも刑法各論については単位取得または同時履修しておくことが望ましい。																
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室																
備考	・講義の理解度を試すミニッツペーパーに対するコメントは次回の講義の冒頭で行う。 19年度 合格率96% (不受験率5%) A35% B23% C20% D18% 平均78点 74人登録																

科目名	刑事訴訟法応用講義	科目名 (英文)	Advanced Criminal Procedure
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3105a0		

授業概要・目的	我が国の刑事手続に関する応用的問題について、学説・判例の動向を踏まえながら解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、我が国の刑事手続に関する専門的知識を有するとともに、そうした知識を活用し、応用的問題に対する解決案を立案できる能力を修得することが期待される。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ●授業方法 原則として、PowerPoint で作成したレジュメ及びその解説をインターネット上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める方式を予定しているが、受講者数やその希望など諸般の事情を考慮し、Microsoft Teams を用いて、オンタイムで講義を行う方式への変更もありうる。 ●留意点 本授業は「応用講義」であることから、受講生が刑事訴訟法のみならず刑事法全般について基本的知識を修得していることを前提として授業を進めていく。したがって、本授業を受講しようとする学生
科目学習の効果 (資格)	司法試験、法科大学院入学試験、裁判所事務官採用試験など。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進め方の説明や刑事訴訟法の勉強の仕方など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	2	捜査に関する一般規範	捜査比例の原則、強制処分法定主義、任意捜査の原則、令状主義など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	3	職務質問	所持品検査、自動車検問など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	4	逮捕・勾留①	事件単位の原則、一罪一逮捕一勾留の原則、再逮捕・再勾留の禁止、別件逮捕・勾留など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	5	逮捕・勾留②	前回の続き	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	6	被疑者取調べ	身柄不拘束及び身柄拘束中の被疑者の取調べ	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	7	捜索・押収	捜索・押収に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	8	その他の捜査方法	写真・ビデオ撮影、GPS 装置の使用、おとり捜査、コントロールド・デリヴァリーなど	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	9	公訴提起	訴因、起訴状一本主義、予断排除の原則など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	10	訴因・罰条の変更①	訴因変更の可否・許否・要否など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	11	訴因・罰条の変更②	前回の続き	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	12	証拠の関連性	類似行為の事実の立証、科学的証拠など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	13	伝聞法則	伝聞法則およびその例外など	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	14	違法収集証拠排除法則	排除法則に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)
	15	自白法則	自白法則に関する諸問題	教科書やレジュメを見直し、重要論点を再確認すること (約1時間)

実務経験	
関連科目	刑事訴訟法、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事法概論、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	刑事訴訟法 (第2版)	宇藤崇・松田岳士・堀江慎司	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	判例教材刑事訴訟法 (第5版)	三井誠編	東京大学出版会
	2	刑事訴訟法判例百選 (第10版)	井上正仁・大澤裕・川出敏裕編	有斐閣
	3	刑事訴訟法 (第2版)	酒巻匡	有斐閣

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各回、授業テーマに関する課題を出すので、その出来によって評価する (100%) ただし、少なくとも10回分以上の課題が期限内に提出されていることを単位認定のための要件とする。
学生への	上記「関連科目」で示した講義の履修・単位取得の有無は、必ずしも本授業を受講するに当たっての履修条件ではないが、上記「授業方法と留意

メッセージ	点」のところで述べたような理由から、少なくとも刑事訴訟法、刑法総論については履修・単位取得しておくことを強く勧める。
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室
備考	講義の際、六法は必携。 授業内容の疑問点について学生から質問があった場合、次回以降の授業の中で適宜解説する。

科目名	企業法務特別講義 I (金融法実務)	科目名 (英文)	Special Lecture on Business Law I (Financial Law Practice)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3106a0		

授業概要・目的	金融法のうち、特に銀行取引に関して、実務的側面を重視して、講義を行う。 本講義では、銀行の固有業務である受信取引と与信取引を取り上げる 本講義の目的は、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することである。
到達目標	この授業を通じて、学生は、銀行に就職を希望する学生が自信を持って就職活動を行うことができ、また銀行に就職後、自信を持って業務を行うことができるために、銀行に対する法律の規制、法律問題および銀行実務の基礎的な知識および応用力を習得することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	必要な資料は、授業中に配布する。授業は、講義中心であるが、ディスカッションも取り入れる。 授業開始直後、数回、復習の確認テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	銀行等の金融機関に就職する時と就職後に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	金融法概観	金融法の範囲と基礎概念、金融取引の類型、金融取引に関する特別法、金融規制の目的と近年の動向等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。
2	受信取引法 (1)	預金契約についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
3	受信取引法 (2)	預金の成立についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
4	受信取引法 (3)	預金の帰属についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
5	受信取引法 (4)	預金の払戻しについてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
6	受信取引法 (5)	預金の相続についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
7	受信取引法 (6)	預金と時効、複数店預金に対する差押え等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
8	与信取引法 1 (1)	銀行の与信業務と根拠法、与信業務にかかる法規制等についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
9	与信取引法 1 (2)	与信判断における善管注意義務についてを学ぶ。	授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
10	与信取引法 1 (3)	与信の相手方、銀行取引約定書等についてを学ぶ。	授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
11	与信取引法 1 (4)	与信の具体的態様についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
12	与信取引法 1 (5)	保証・損失補償についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
13	与信取引法 1 (6)	担保についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
14	与信取引法 2 (1)	債権管理についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	
15	与信取引法 2 (2)	債権回収についてを学ぶ。	事後に授業で学習したことの整理と確認 (1時間) をすること。	

実務経験	
関連科目	民法、商法、金融商品取引法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	定期試験 70% 復習テスト 30%

学生への メッセージ	辛抱強く、勉強してください。
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室
備考	<p>予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解は次の回の授業で解説する。</p> <p>19年度 合格率100% (不受験率3%) A35% B40% C7% D18% 平均80点 60人登録</p>

科目名	ボランティアと法律	科目名 (英文)	Volunteers and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3109a0		

授業概要・目的	本講義では、法律と密接に関わるボランティア活動、ボランティアが関わる現場の法律問題、ボランティア活動の盛り上がり背景にある立法、ボランティア活動に期待する立法について、実務家と担当者が対談する。その後、履修学生と意見交換を行う。
到達目標	この授業を通じて学生には次のことが期待される。①ボランティア活動が「お手伝い」とは限らず、公共の目的を実現するうえで不可欠な固有の役割があることを理解する。②その役割を担ううえで、法律を正しく理解する、法律問題に備える、立法を促す、という自立的な行動が必要になる点を考える。③行政がボランティア活動を促すためにどのような施策・事業を行っているか知る。④対談を聴いて、意見や疑問を言葉にし、意見交換を行う能力を養う。
授業方法と留意点	本講義は、1回連続2コマで行うので、そのことを理解したうえで履修すること。1コマ目は実務家と担当者との対談を聴き、2コマ目は学生との意見交換を行う。両方に出席することが求められる。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の課題式論文や面接、集団討論に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ボランティアと法律との関わり(1)	民生委員、保護司、人権擁護委員、行政相談委員など、行政委嘱の無報酬の各種委員の役割を知る。	配布資料を見直す。(約1時間)
2	ボランティアと法律との関わり(2)	教育や福祉、防犯や防災など、ボランティアによって支えられている現場の広がりを知る。	配布資料を見直す。(約1時間)
3	学校教育の現場の法律問題(1)	学校での事故や体罰、いじめなどの法律問題について、弁護士と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
4	学校教育の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、弁護士と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
5	自然学校の安全管理(1)	子どもに自然体験の機会を提供する自然学校での安全管理について、自然学校経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
6	自然学校の安全管理(2)	上記の対談を聴いたうえで、自然学校経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
7	高齢者福祉の現場の法律問題(1)	老人ホームや老人保健施設などでの法律問題について、社会福祉法人経営者と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
8	高齢者福祉の現場の法律問題(2)	上記の対談を聴いたうえで、社会福祉法人経営者と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
9	民生委員の役割(1)	地域で高齢者や障害者、ひとり親家庭の状況を把握し、支援を行う民生員と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
10	民生委員の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、民生委員と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
11	保護司の役割(1)	犯罪を犯した者や非行のある少年の改善更生を助ける保護司と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
12	保護司の役割(2)	上記の対談を聴いたうえで、保護司と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
13	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(1)	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援している実務家と担当者との対談を聴く。	配布資料を読む。(約1時間)
14	ひきこもり、不登校などの問題を抱える人たちの支援(2)	上記の対談を聴いたうえで、実務家と意見交換をする。	振り返りシートの作成。(約2時間)
15	ボランティア固有の役割とは何か?	これまでの対談・意見交換を振り返って、ボランティアの固有の役割を考える。	これまでの振り返りシートの見直し。(約1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名	
および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	実務家との意見交換での発言内容(20%)、振り返りシートの出来(40%)、期末レポート(40%)を総合して評価する。
学生への メッセージ	現場で活躍する実務家の話をじっくり聴き、意見交換ができる機会を多く提供します。意欲的にボランティア活動をしている学生に履修してほしいと思います。
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室
備考	振り返りシートの感想部分を実務家に伝え、それを読んでいたいただいた感想を、後日、受講生に伝える。

科目名	地域政策応用講義Ⅱ（地方政策論）	科目名（英文）	Regional Policy Application Lecture II (Local Policy Theory)
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3111a0		

授業概要・目的	この授業は、「住民自治」をキーワードに、地域政策を実践的に学ぶための科目です。地方自治の現場における様々な事例を取り上げ、関連する知識と共に、常に住民を主体に考えるという視点を身につけてもらいたいと思います。
到達目標	この授業を通じて学生には、地域政策における重要用語の意味を説明することができ、住民自治の視点から地域政策を分析することができ、地域政策についての自分の意見を持ち、他者と討議することができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	毎回 Teams に動画と資料を配信します。 動画を閲覧した上で、小テストを受講してもらいます。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地方自治に未来はあるか	内容：民主主義国家における地方自治の役割を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
2	日本国憲法と地方自治	内容：日本国憲法における地方自治の位置づけを学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
3	望まれる地方公務員像	内容：地方公務員制度の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
4	地方自治に未来をあらしめるために	内容：地方自治の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
5	私たちと地方自治	内容：地方自治の分析視点を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
6	地方自治とコミュニティ・ソリューション	内容：コミュニティによる問題解決の手法を学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
7	迷惑施設問題と手続き的公正	内容：迷惑施設問題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
8	グローバル化社会における地方自治	内容：グローバル化の地方自治への影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
9	行政現場における政策形成過程と施策形成過程	内容：政策形成過程について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
10	自治体行政と協働	内容：自治体組織における協働の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
11	地域住民協議会の運営と展望	内容：地域自治組織の運営上の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
12	住民自治と地域活動	内容：地域活動の課題について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
13	住民自治を支える公民館運営	内容：地方自治における公民館の役割について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
14	住民自治と行政相談委員	内容：行政相談委員が地方自治に与える影響について学ぶ 方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）
15	地方自治を問いなおす	内容：これからの地方自治を展望する方法：「授業方法と留意点」を参照	事前：『地方自治と民主主義』第1章を読む（2時間） 事後：確認テストの内容について復習する（2時間）

実務経験	
関連科目	「地方自治論」では関連する知識を学ぶことができます 「住民協働論」では地域づくりの担い手である地域公共人材について学ぶことができます 「福祉政策論」では福祉政策についての知識を学ぶことができます

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地方自治を問いなおす：住民自治の実践がひらく新地平	今川晃	法律文化社
2	地方自治と民主主義	佐藤竺	大蔵省印刷局	

	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	ka7dnhz		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	定期試験 50%、小テスト 50%		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館10階 増田講師室		
備考	小テストの解答については、次の回の授業でフィードバックを行う。		

科目名	スポーツ政策論	科目名 (英文)	Sports Policy
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3113a0		

授業概要・目的	現代社会におけるスポーツの意義やスポーツ(振興)政策の立案過程を踏まえたうえで、スポーツと政策との関係について理解を深める。同時に、法・政策に対する体系的な理解の一助とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ(振興)政策が担う社会的役割に関する知見を獲得することが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。
科目学習の効果(資格)	公認スポーツ指導者養成に関する科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	スポーツ政策とは	スポーツ政策という概念を整理する。
	2	スポーツ政策の概念	スポーツ政策の目的、意義	関連資料に目を通す。
	3	スポーツ政策の体系	スポーツ政策の体系	配布資料の理解。
	4	スポーツ政策の立案者	スポーツ政策を立案する組織、団体	スポーツ組織を立案する組織・団体を抜粋し整理する。
	5	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(1)	社会の中のスポーツ、スポーツの社会的意義(健康の維持増進、地域振興など)、歴史の変遷(オリンピズム、フェアプレー精神、スポーツフォーオール)	スポーツの社会的意義を整理する。
	6	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(2)	わが国におけるスポーツ振興施策、学校でのスポーツ活動の発展を促すスポーツ政策	関連資料に目を通す。
	7	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(3)	わが国におけるスポーツ振興施策、文化としてのスポーツ・健康の維持増進とスポーツ政策	配布資料を理解する。
	8	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(4)	わが国におけるスポーツ振興施策、生活の質向上とスポーツ政策	わが国におけるスポーツ政策の特徴を体系づける。
	9	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(5)	世界のスポーツ振興政策	わが国と諸外国のスポーツ政策上の特徴の理解を深める
	10	スポーツ活動の意義、その促進とスポーツ政策(6)、これまでの講義のまとめ	世界のスポーツ事情と日本のスポーツ振興施策、およびこれまでの習熟度確認	前5回の講義と今回とを関連づけて整理する。
	11	競技力の向上とスポーツ政策(1)	国威発揚としての国際競技力の向上政策	関連資料に目を通す。
	12	競技力の向上とスポーツ政策(2)	国内の連帯促進と国際競技力の向上政策	前回の講義と関連づけて整理する。
	13	社会化促進のためのスポーツ政策	社会への組み入れを促すためのスポーツ政策	配布資料の理解。
	14	社会的平等とスポーツ政策	社会的平等を促進するためのスポーツ政策	関連資料に目を通す。
	15	講義の総括と習熟度の検査	講義全体の総括と習熟度確認	これまでの講義を体系立てて復習する

実務経験	
関連科目	スポーツと法律等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	複数回出される課題に対する回答をもって評価する(100%)。
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでほしい
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認のための試験の解説は、次の回の授業で行う。 19年度 合格率99% (不受験率2%) A13% B43% C22% D22% 平均78点 115人登録

科目名	スポーツビジネスと法	科目名 (英文)	Sports Business and Law
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3114a0		

授業概要・目的	スポーツはビジネスとも深くかかわっていることから、そこでは法律問題も当然に生じる。この講義では、そのようなスポーツビジネスに関する法的問題を検討するために、各種契約、スポーツにおいて生じた事故など、スポーツと法律に関する問題を取り上げ、さらに、スポーツに関するビジネスについての概要についても確認する予定である。なお、講義の流れは、民法の流れに沿い、民法総則・契約法・不法行為法などの視点から行う予定である。
到達目標	この授業を通じて、学生にはスポーツビジネス一般について知識を得て、そこで生じる法律問題を理解し、法的にどのような解決方法があるのかなどを検討できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	レジュメ・資料等を用いて行う。また、教科書も使用する。Teamsを使った講義を配信予定である。動画を配信型で展開する予定である。講義に関連する、レジュメまたは資料を配布する予定である。法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要ではある。またPCを使ったインターネットでの情報の確認、レジュメのスクリーン投影等も行いながら行う。民事法との関係を中心に検討を行う予定であるので、民法内容についても講義の中で適宜確認を行う。
科目学習の効果(資格)	スポーツ・インストラクター、スポーツ・エージェントなど

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スポーツビジネスと法律の概要	これまで学んできた法律知識の確認	これまで学んできた法律科目の内容を確認すること。
2	自然人とスポーツ①	自然人とスポーツの関係を確認する。	民法における人の概念を見直すこと。
3	自然人とスポーツ②	自然人とスポーツの関係を確認する。	生涯を持つ者と民法との関係を見直すこと。
4	法人とスポーツ①	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	法人一般を見直すこと。
5	法人とスポーツ②	法人とスポーツとの関係について確認を行う。	スポーツとスポーツ団体の関係を見直すこと。
6	代理とスポーツ①	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理制度一般を見直すこと。
7	代理とスポーツ②	代理とスポーツとの関係について確認を行う。	代理人がスポーツにおいて果たす役割を見直すこと。
8	契約とスポーツ①	スポーツにおける契約の意義を確認する。	契約制度一般を見直すこと。
9	契約とスポーツ②	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツと契約との関係を見直すこと。
10	契約とスポーツ③	スポーツにおける契約の意義を確認する。	スポーツ選手・団体が契約を結ぶ意味を見直すこと。
11	ビジネスとスポーツ①	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	講義中に課題を出すので、それを検討すること。
12	ビジネスとスポーツ②	ビジネスにおけるスポーツの法的問題について確認する。	スポーツに関するビジネスの形態を見直すこと。
13	不法行為とスポーツ①	スポーツにおける事故の問題を確認する。	不法行為一般を見直すこと。
14	不法行為とスポーツ②	スポーツにおける事故の問題を確認する。	スポーツにおける事故の問題を見直すこと。
15	講義の全体的な復習	これまでの内容を全体的に確認する。	全体を見直すこと。

実務経験

関連科目 経済学、経営学、憲法、民法、商法、労働法など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スポーツ法へのファーストステップ	石堂・建石編	法律文化社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態 Teams「オンライン型」

Teamsコード dw7xgn8

Moodle コース名 および登録キー

連絡手段 okawa@law.setsunan.ac.jp

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:

評価方法(基準) 配信動画と共に、配信講義に関連する小テストを行う。これを合算し、100点満点計算で行う予定である。

学生へのメッセージ スポーツは、自由な人格形成、健康で文化的な生活、余暇のため、重要な役割を演じるものである。そのようなスポーツを法律との関係を把握し、スポーツの意義を確認すること。

担当者の研究室等 11号館9階 大川准教授室

備考 大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。それぞれにつき、90分を確保して学習をする必要があります。しかし、予習・復習については、各講義の内容により多少の違いが出てきますので、必ず講義でそれらの対象を聞くようにしてください。事前・事後学習内容につ

	<p>いて、講義で出された課題及び指摘部分の内容については、各対応時の講義で確認・解説を行います。 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。</p>
--	---

科目名	フィットネストレーニングの理論と実際	科目名 (英文)	Theory and Practice of Fitness Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2115a0		

授業概要・目的	現代社会において運動は生活の一部であり、より良い運動習慣を身につけることは健康で質の高い生活を送るために欠かせないことである。正しいトレーニング方法を知り、実践することでより健康な生活ができるよう学んでいく。
到達目標	この授業を通じて学生には、フィットネストレーニングの基礎的な知識を学び、それらを正しく実践出来る身体能力を獲得できるようになることが期待される。 また身につけた技術を指導するための能力を身につけることも目標とする。
授業方法と留意点	講義形式のトレーニング理論の習得と屋内・外でのフィットネストレーニングの実習を主な授業内容とする。 実技に際しては運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果 (資格)	日本体育協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業主旨説明 運動と健康	運動と健康についての基礎用語の確認 次の回の授業で、解説を行う
2	身体組成	機能解剖学的身体組成の基礎知識	身体組成についての基礎知識の習得 次の回の授業で、解説を行う
3	全身持久力 (1)	フィットネストレーニングとは 全身持久力とは	フィットネストレーニング、全身持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
4	全身持久力 (2)	全身持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
5	筋力と筋持久力 (1)	筋力・筋持久力とは	筋力・筋持久力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
6	筋力と筋持久力 (2)	筋力トレーニングと筋持久力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
7	柔軟性 (1)	柔軟運動とは	柔軟運動の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
8	柔軟性 (2)	柔軟運動の実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
9	調整力 (1)	調整力とは	調整力の基礎用語の確認、実践の準備 次の回の授業で、実践指導を行う
10	調整力 (2)	調整力トレーニングの実践	実技指導のフィードバック 次回、授業で各グループごとに発表を行い、意見交換を行う
11	マシントレーニング (1)	マシンの特性 (1)	マシントレーニングの基礎用語の確認 13、14回目の授業で、実践指導を行う
12	マシントレーニング (2)	マシンの特性 (2)	マシントレーニングメニュー内容、確認と実践の準備 13、14回目の授業で、実践指導を行う
13	マシントレーニング (3)	マシントレーニング実習 (1)	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
14	マシントレーニング (4)	マシントレーニング実習 (2)	実技指導のフィードバック 次回、授業で発表を行い、意見交換を行う
15	まとめ	講義内容の総括を行う	課題提出

実務経験	
------	--

関連科目	スポーツ科学概論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツプログラミング、発育発達論、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラム専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	単位取得条件は、実技技能および平常態度、知的理解度などを総合的に判断し、100点中60点で合格とする。 実技 50%、提出物 30%、小テスト 20%
-----------	--

学生への	正しい理論と方法を身につけることで、トレーニング効果はよりよいものとなります。
------	---

メッセージ	基本理論を身につけ、それらを正しく指導できるよう実践していきましょう。
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60 時間を目安とします。

科目名	ヘルスエクササイズの理論と実際	科目名 (英文)	Theory and Practice of Health Exercise
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	吉川 万紀
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2116a0		

授業概要・目的	健康と運動との関わりについて、運動対象者に合わせたエクササイズの理論を理解し、実践を通して学んでいく。ウォーミングアップの意義や効果を含め、有酸素運動を中心に、スポーツ指導の実際にかかす。また、レクリエーション・スポーツを実践しながらルールを知り、楽しさを実感する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ヘルスエクササイズの理論と実技を身につけ、プログラム作成と実践指導ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	実技を中心に行うが、実践を通して理論について学ぶ。参考資料は適宜配布する。実技に際しては、運動に適した服装とシューズを着用すること。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業ガイダンス ※オンライン開催 (確定)	授業の進め方の説明	特になし
2	体操・ストレッチング(座学) ① ※オンライン開催 (確定)	筋コンディショニング、バランストレーニング、動的・静的ストレッチング	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
3	体操・ストレッチング② ※対面実施	体幹トレーニング、ヨガ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
4	ウォーキング・ジョギング(座学) ① ※オンライン開催 (確定)	歩行・走行測定・走り方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
5	ウォーキング・ジョギング② ※対面実施	ウォーキングエクササイズ、効率の良い歩き方	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
6	水泳・水中運動① ※対面実施	スイムフォームの指導	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
7	水泳・水中運動② ※対面実施	ウォーターエクササイズ	理論は勿論のこと、実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業までに提出。	
8	エアロビックダンス (座学) ① ※オンライン開催	エアロビックダンスについての知識を学ぶ	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。	
9	エアロビックダンス② ※対面実施	エアロビックダンス	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業までに提出。	
10	2?9 回までの実技テスト ※対面実施	プログラム構成・実践指導	実技指導の中で学んだことや反省点についてまとめ、次回授業時に提出。	
11	レクリエーションスポーツ (座学) ① ※オンライン開催 (確定)	レクリエーションゲームについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	
12	レクリエーションスポーツ (実技) ② ※対面実施	レクリエーションゲーム	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	
13	レクリエーションスポーツ (座学) ③ ※オンライン開催 (確定)	レクリエーションスポーツについての知識を学ぶ	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	
14	レクリエーションスポーツ (実技) ④ ※対面実施	ドッチビー、キックベースボールな	ルール、実践方法、および実技指導の中で学んだことについてもまとめ、次回授業時に提出。	
15	総まとめ確認テスト ※オンライン開催	これまでの内容を総復習する	確認テストをしっかり復習すること	

実務経験	
関連科目	スポーツプログラミング、スポーツトレーニングの基礎、発育発達論、フィットネストレーニングの理論と実際、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「オンライン型」/対面授業
Teams コード	rxwopib
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール、Teamsの質問チャネル
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	単位取得条件は、技能及び平常態度、知的理解度などを総合して判断する。

(基準)	知識 30%、技能 40%、毎回の提出物 30%
学生へのメッセージ	新型コロナの蔓延により、対面授業の実施をできるだけ避けるため、シラバスを大幅変更いたしました。対面授業に関して不安なことがたくさんあるかと存じます。遠慮なく相談していただけるとありがたいです。画面越しではございますが、皆さんの元気な姿がみられることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願い申し上げます。
担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とする。

科目名	スポーツ医学の理論と実際	科目名 (英文)	Theory and Practice of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	今井 大喜
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3117a0		

授業概要・目的	運動やスポーツの実施による身体の変化と適応について、医学・運動生理学的アプローチからその基礎を学び、健康管理に必要な理論と実際について理解することを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、運動やスポーツの実践によって健康の維持・増進をはかり、心身共に充実した体力を養いながら、自らの理想とする健康を獲得するための指導・支援・助言ができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義および演習形式で授業を進める。また、必要に応じて配布資料を提供したり視聴覚教材を使用したりする。
科目学習の効果 (資格)	スポーツプログラマーに必要な医学・運動生理学の理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	健康と体力について	テキスト p3-4 を事前に読んでおくこと (30分)。配布資料の内容を復習すること (30分)。
2	体力と身体運動	体力の分類と各要素の発育・発達	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
3	運動のメカニズム 1	運動の中核、筋の分類	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
4	運動のメカニズム 2	筋収縮の様式、筋の代謝特性 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
5	体力における精神的要素	メンタルストレス	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
6	精神的ストレスへの対抗手段	メンタルストレスに対する運動・スポーツの効果とその作用機序	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
7	フィットネスエクササイズ の概念	体調管理の意義と方法	テキスト p83-88 を事前に読んでおくこと (1時間)。配布資料の内容を復習すること (30分)。授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)。
8	フィットネスエクササイズ 実施の事前準備とアフター ケア	ウォーミングアップとクーリングダウン	テキスト p93-99 を事前に読んでおくこと (30分)。配布資料の内容を復習しておくこと (30分)。
9	持久力トレーニング	全身持久力、筋持久力	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと (1時間)。配布資料の内容を復習すること (30分)。
10	筋力トレーニング	マシントレーニング、筋パワー	テキスト p9-69、p107-110 を事前に読んでおくこと (1時間)。配布資料の内容を復習すること (30分)。
11	フィットネスプログラム	子ども、中年、高齢者、女性、障がい者 別アプローチ	テキスト p127-166 を事前に読んでおくこと (1時間)。配布資料の内容を復習すること (30分)。授業終了時に示す課題についてレポートを作成すること (2時間)。
12	安全管理	RICE 処置、熱中症の種類と発生機序、その 予防と対処法、AED を用いた心肺蘇生 法の実際	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
13	コンディショニング 1	スポーツ実施者の食事摂取の基本、コン ディショニング維持とビタミン摂取	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
14	コンディショニング 2	骨づくりとカルシウム、血予防と鉄・タ ンパク質摂取 小テスト実施	配布資料の内容を予・復習すること (1時間)。
15	まとめ	授業全体のまとめ	テキストのこれまで学習した関連項目について整理しておくこと (1時間)。

実務経験	
関連科目	スポーツ医学の基礎

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	小テスト 2回 (20%)、レポート (10%)、まとめテスト (70%) の複数項目の合計で評価する。
学生への	参加型、双方向性の授業を心がけています。積極的に参加し、体の仕組みと身体運動の科学的理解を深めて下さい。

メッセージ	
担当者の研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	小テストの正解は、次の回の授業で解説する。 レポートは、評価をしたうえで次の回の授業で直接返却する。

科目名	体力測定とスポーツ相談	科目名 (英文)	Physical Fitness Test and Sports Counseling
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3118a0		

授業概要・目的	社会的な健康志向の高まりにより日常的に運動を行う人が増えているなか、個人の身体能力向上やスポーツに対する疑問や悩みに対して適切に対応できるようにするための知識を身につける。 運動愛好者からアスリートまで多岐にわたり対応できる知識を身につけていく。
到達目標	この授業を通じて学生には、体力測定の方法と評価の原理を知り、個人の身体のサイズや行動体力を把握する能力を身につけられるようになること、また、スポーツにかかわる相談事に対応し得る知識と技術を理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、各テーマに沿って実践的な課題を行う
科目学習の効果 (資格)	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	体力測定 (1)	体組成について	課題 骨格と筋肉 次回の授業で行う体組成への理解を深める
3	体力測定 (2)	体組成の測定と評価	課題 測定結果の集計と評価 次回の授業でデータの確認を行う
4	体力測定 (3)	体力測定の意義と方法	課題 新体力テスト実施要綱の作成 次回の授業で実施方法について説明を行えるように
5	体力測定 (4)	体力測定の実践と方法	課題 体力測定：その他測定項目と方法 次回の授業で実施方法について説明を行えるように
6	体力測定 (5)	測定結果の処理と評価	課題 測定結果のデータ処理 次回の授業でデータの確認を行う
7	体力測定 (6)	測定結果を基にした体力評価	課題 体力評価表の作成 次回の授業で体力評価表の確認を行う
8	スポーツ相談 (1)	概念 領域・範囲	課題 スポーツ相談の基礎用語の確認 次回の授業で解説を行う
9	スポーツ相談 (2)	必要な資料収集と記録方法 企画と運営	課題 スポーツカルテの作成 次回の授業で作成をしたカルテについて評価を行う
10	スポーツ相談 (3)	スポーツ相談の技術：基本的考え方と進め方	課題 健康指導のための基礎知識：3大疾病 次回の授業で発表を行えるように
11	スポーツ相談 (4)	健康指導を行うための基礎知識 スポーツ相談で利用される技術・技法	課題 メンタルトレーニングとその方法 次回の授業内で解説を行う
12	スポーツ相談 (5)	来談者理解のための技法と実践 東大式エゴグラム	課題 エゴグラムの実践と評価 次回の授業内で自身の評価について考える時間を設ける
13	スポーツ相談 (6)	メンタルトレーニング オンライン実習 (1)	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
14	スポーツ相談 (7)	メンタルトレーニング オンライン実習 (2)	実習内容をレポートにまとめる 次回の授業内で確認を行う
15	まとめ	講義の総括を行う	

実務経験	
関連科目	スポーツ科学概論、スポーツプログラミング、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」またはTeams「オンライン型」、授業内容によりオンライン授業を実施することがあります
Teams コード	poem6pr
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	単位取得は、課題提出および発表、小テストおよび平常態度、知的理解度などを総合的に判断し、100点中60点で合格とする。 課題 50%、発表・レポート 30%、小テスト 20%
学生への メッセージ	個人でもグループでも指導できるよう実習を交えながら行います。 いろいろな場面で応用できるよう学んでいきましょう。

担当者の 研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	法政キャリア特別講義 I	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見, 石井 信輝, 牛丸 與志夫, 高橋 剛, 松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ1125a0		

授業概要・目的	本講義は、将来のキャリア形成を視野に入れ、法学部生のキャリアとして身につけておかなければならないことを習得するために開設されている専門科目である「法政キャリア特別講義」の全体像と、2年生以降に各自が選択することになる4つのコースについて、総合的に案内することを目的とします。自分のキャリア形成にあった勉強するにはどのようなことを意識して実践しなくてはならないのかを熟考する授業となります。
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部で開講している専門科目、教養科目を中心として、どのような計画でどのような知識を習得していくべきなのか、自分自身で考えられるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	複数の担当者が講義形式 (Teams を利用した遠隔授業) で行うことを原則とします。公務員試験や一般企業の就職試験問題を体験することも併せて行います。自らのキャリアデザインを確実にするためにも、すべての授業に出ること、15回の授業すべてが重要な評価対象です。また、教員による課題レポートは2回 (松島・牛丸担当) あります。なお、課題提出先については、授業内で各担当教員の指示に従ってください。
科目学習の効果 (資格)	法学部生が目指す法科大学院試験、国家・地方公務員試験、就職試験 (SPI 試験)、そして法律関係の資格試験などの基礎的知識を知ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	総合ガイダンス	法政キャリア特別講義 (1 年次から 3 年次) の全体と 4 コース制の概要	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
2	地域政策 コースの紹介と特別講義①	地域政策 コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
3	地域政策 コースの紹介と特別講義②	地域政策 コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
4	地域政策 コースの紹介と特別講義③	地域政策 コースとは③	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
5	地方公務員試験対策の実際	公務員試験の体験	授業での実践練習の復習 (約 3 時間)
6	スポーツ法政策 コースの紹介と特別講義①	スポーツ法政策 コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
7	スポーツ法政策 コースの紹介と特別講義②	スポーツ法政策 コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
8	企業法務 コースの紹介と特別講義①	企業法務 コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
9	企業法務 コースの紹介と特別講義②	企業法務 コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
10	企業法務 コースの紹介と特別講義③	企業法務 コースとは③宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
11	企業法務 コースの紹介と特別講義④	企業法務 コースとは④宅建対策	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
12	一般企業就職対策の実際	就職試験の体験	授業での実践練習の復習 (約 3 時間)
13	法律学特修 コースの紹介と特別講義①	法律学特修 コースとは①	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
14	法律学特修 コースの紹介と特別講義②	法律学特修 コースとは②	授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 1 時間)
15	総括と課題レポート	まとめ 法学の基礎知識に関する小テスト 課題レポートの提示	全 15 回の授業で学んだことの整理と資料の見直し (約 5 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	法政キャリア特別講義 II ~ VII
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/ Web Folder
------	-----------------------------

Teams コード	a8hkp4m
-----------	---------

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	ワークアカデミーの 2 回の小テスト (各 10%)、第 15 回授業 (牛丸) で実施する小テスト (30%)、および課題レポート (松島 20%・牛丸 30%) の成績結果を合計して評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	自分の希望する将来が、確実に実現できるようになるためにはどうすればいいのか、考えましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 10 階 河原教授室
----------	------------------

備考	事前・事後学習には、合計 20 時間はかけて下さい。 課題レポートに関する質問については、成績表公布後に出席した教員 (松島・牛丸) が対応します。
----	---

	19年度 合格率 92% (不受験率 0%) A0% B63% C29% D0% 平均 74点 186人登録
--	--

科目名	法政キャリア特別講義Ⅱ	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2126a0		

授業概要・目的	本講義は、企業等に就職した後に求められる基本的な法律知識を修得することを目的とする。 近年、企業における不祥事が多発し、従業員はもとより取引先や株主に対して大きな影響を及ぼしており、これまで以上にコンプライアンス（法令等遵守）が強く求められている。 このような状況において、法務部門に関わる者だけでなく、企業に関わる者すべてが基本的な法律知識を修得していることが重要となっている。そこで、ビジネス実務法務検定3級の範囲を順次学習することにより、ビジネスパーソンに必要な基礎的な法律知識の修得を目的に講義を進める。
到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネス実務法務についての基本的な法律知識を理解し、ビジネス実務法務検定3級の合格レベルに到達できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、ビジネス実務法務検定試験3級程度の内容を理解することができるように講義を行う。したがって、ビジネス実務法務検定試験3級の公式テキストに従い講義を進める。ただし、ビジネス実務法務検定試験3級に合格するためには、各自の予習・復習が必要である。また、関連する民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法なども積極的に履修することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務法務検定試験3級の問題に対処する基礎的な法律知識を養うことができる。また、同試験に合格すれば「ビジネス法務リーダー」の称号が与えられる。また、この検定を推奨したり、採用や社内評価の参考にする企業が増えているといわれる（東京商工会議所試験情報HP参照）。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	講義の進行方法・評価方法の説明。 ビジネスと法律の関わり、コンプライアンス。	レジュメを見返しておくこと。(約30分)
	2	企業活動に関わる法律の基礎知識	近代私法の基本原則、財産権	教科書p.1~37を読んでおくこと。(約90分)
	3	企業取引の法務(1)一契約一	契約の成立	教科書p.40~77を読んでおくこと。(約90分)
	4	企業取引の法務(2)一契約成立後の法律関係一	債務不履行責任・担保責任・危険負担	教科書p.78~98を読んでおくこと。(約90分)
	5	企業取引の法務(3)一売買以外の契約一	賃貸借契約・消費貸借契約・請負契約・委任契約・寄託契約	教科書p.99~123を読んでおくこと。(約90分)
	6	ビジネス文章の保存・管理、契約によらない債権・債務の発生	ビジネス文書・契約書、不法行為・不当利得・事務管理	教科書p.124~163を読んでおくこと。(約90分)
	7	債権の管理と回収	債権の管理と取引の決済一手形・小切手等一	教科書p.166~209を読んでおくこと。(約90分)
	8	債権の担保	法定担保物権・約定担保物権・人的担保	教科書p.210~235を読んでおくこと。(約90分)
	9	企業財産の管理	固定資産・流動資産の管理と法律、知的財産権	教科書p.238.~276を読んでおくこと。(約60分)(約90分)
	10	企業活動に関する法規制	独占禁止法・消費者保護法・特定商取引法・製造物責任法	教科書p.278~310を読んでおくこと。(約90分)
	11	企業と会社のしくみ(1)	法人と企業、会社の種類	教科書p.312~335を読んでおくこと。(約90分)
	12	企業と会社のしくみ(2)	株式会社	教科書p.335~353を読んでおくこと。(約90分)
	13	企業と従業員の関係	従業員と労働関係、男女雇用機会均等法、労働者派遣事業	教科書p.356~388を読んでおくこと。(約90分)
	14	ビジネスに関連する家族法	夫婦間の法律関係、相続	教科書p.390~410を読んでおくこと。(約90分)
	15	講義のまとめ	全範囲の復習	これまでの講義内容に関する教科書・レジュメを見直しておくこと。(約5時間)

実務経験	
関連科目	民法・商法・会社法・労働法・独占禁止法・知的財産法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務法務検定試験3級公式テキスト(2020年度版)	東京商工会議所編	中央経済社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	毎回授業中に行う確認テストにより評価する(テスト100%)。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定3級合格を目指し、意欲的に基礎的な法律知識を修得してほしい。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)

備考	確認テストについては、当該授業または次の授業で解説をする。 授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名・学籍番号・氏名を入れて送信すること。
----	--

科目名	法政キャリア特別講義Ⅲ	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	仲 秀樹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ2127a0		

授業概要・目的	この授業では将来、営業職や企画職、または総合職や事務職として、企業や公共団体などで活躍することを目指す学生に、ビジネスの基本要素であるヒト・モノ・カネの動きを簿記でどのように記録するのか、そして会社の成績表ともいえる決算書からどのような情報が得られるのか、を教授する。
到達目標	この授業を通じて学生には、ビジネスの世界において、企業が事業活動を通じて利益を出すことがいかに重要であるのか、また利益追求を目的としない公共団体の財政の健全化とは何か、その事業活動がどのように決算書に数字として反映されるのかという点について説明できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式で、実際のビジネスの流れがわかるような説明を加えながら、実務上の出来事を、簿記でどのように捉えるのかをわかりやすく説明する。演習的に簿記問題を解いて、理解度を確かめながら着実に知識が身につく講義を心掛けたい。
科目学習の効果 (資格)	日商簿記3級合格程度の知識を獲得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	会社の成績表とは？	講義内容の復習 (テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
2	簿記とは何か？	簿記の目的と手続き	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
3	仕訳と転記	簿記の基本的な記帳の仕方について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
4	期中の処理と決算手続	会計期間中の処理と、会計期間の締めとなる決算について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
5	現金・預金の取引	現金や預金の記帳について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1時間)
6	商品売買と掛取引	売上や仕入、売掛金や買掛金について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
7	手形の取引	手形の種類や手形の処理について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
8	有価証券の取引	有価証券の種類や売買の処理について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
9	債権・債務の取引	債権・債務や経過勘定などの処理について	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
10	固定資産の取引	固定資産の取得・売却と減価償却	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
11	資本金と税金の処理	資本取引と法人税・消費税など	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
12	収益と費用、伝票の処理	収益や費用の科目、伝票会計の手続きなど	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
13	決算の手続き 1	決算整理の意味・手続きについて	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約1.5時間)
14	決算の手続き 2	費用・収益の繰延など	復習課題の実施 (テキストの指示された問題を解くこと、約2時間)
15	まとめと復習	まとめと練習問題	練習問題の復習 (テキストの指示された問題を解くこと、約3時間)

実務経験	
------	--

関連科目	会社法を履修していることが望ましい。
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新段階式日商簿記検定問題集 3級四訂版	渡辺 正直他	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スッキリわかる日商簿記3級 第10版	滝澤ななみ	TAC 出版
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	ed3qisp
-----------	---------

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	平常点 (毎回の確認テストの点数の累積、30%) と期末の課題レポートの点数 (70%) の合計によって評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	簿記のまったくの初心者や、数字が苦手な学生でも、ビジネスや実務に興味があれば歓迎する。学生の理解度によって講義内容を調整することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	11号館6階 (経営学部事務室)
----------	------------------

備考	講義毎回の確認テストの正解およびポイントは、その授業の中で解説し、学生の理解の定着に努める。
----	--

科目名	法政キャリア特別講義Ⅳ	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics IV
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3128a0		

授業概要・目的	この講義の目的は宅建(宅地建物取引士)資格に合格できる知識を習得することです。具体的には、過去問の問題演習を通じて、宅建試験対策を行います。 試験の内容は大きく分けて、①権利関係に関する分野、②宅建業法に関する分野、③法令上の制限に関する分野、④鑑定・需給・取引実務・税などの分野に分かれます。皆さんの予習と復習を前提として、15回の講義ですべての分野をひと通り学習します。
到達目標	この講義を通じて学生には、宅地建物取引士試験に必要な法的知識を身につけ、過去問をひと通り解けるようになることが期待されます。
授業方法と留意点	例年この講義は10名以下の受講者ですが、受講生が多い場合には、「教材・課題提供型」の授業を行います。事前にWebFolderで授業のレジュメや動画資料などを配布しますので、それらでしっかり学習したうえで毎回課題に答えて提出してください。 ただし受講生が例年通り少数である場合(そして受講生のネット環境が整っている場合)には、Teams(ないしLINEなど)を用いて双方向の講義を行う可能性があります。その場合には受講生にはポータルなどを通じて連絡します。 *いずれの授業形態にせよ、教科書と問題集は
科目学習の効果(資格)	宅地建物取引士資格試験

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	宅建試験の概要と勉強の仕方	教科書はじめに(試験の概要などを説明します)	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。
2	権利関係(1)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第1章～第2章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
3	権利関係(2)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第3章～第4章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
4	権利関係(3)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第5章～第6章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
5	権利関係(4)	教科書 Part III-1 権利関係 (第3分冊) 第7章～第8章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
6	権利関係(5)	教科書 Part III-2 権利関係 (第4分冊) 第9章～第11章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
7	権利関係(6)	教科書 Part III-2 権利関係 (第4分冊) 第12章～第14章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
8	中間のまとめ(予備日)	権利関係の総まとめ	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
9	宅建業法(1)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第1章～第3章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
10	宅建業法(2)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第4章～第5章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
11	宅建業法(3)	教科書 Part I 宅建業法 (第1分冊) 第6章～第7章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
12	法令上の制限(1)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第1章～第2章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
13	法令上の制限(2)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第3章～第4章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	
14	法令上の制限(3)	教科書 Part II 法令上の制限 (第2分冊) 第5章～第7章	教科書の該当箇所をあらかじめ読み、過去問を解いてください。また授業終了後に、小テストで間違えた箇所を解きなおしてください(事前・事後学習を合わせて所要時間120分以上)。	

	15	その他の分野	教科書 Part IV その他の分野 (第4分冊) 第1章～第4章	これまでの学習内容を総復習する(事前・事後学習を合わせて所要時間 120 分以上)。
実務経験				
関連科目	民法全般、行政法、税法など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スッキリわかる宅建士 テキスト+過去問スーパーベスト 2020 年度	中村喜久夫	TAC 出版
	2	スッキリとける宅建士 過去問コンプリート12 2020 年度	中村喜久夫	TAC 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法入門 第7版	川井健	有斐閣
	2	都市法概説 第3版	安本典夫	法律文化社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度は毎回の課題(小テストやレポート)の累計点で成績評価を行います(100%)。詳細は初回の講義で説明しますが、毎回それなりの分量の課題を出しますので、そのつもりで受講してください。			
学生への メッセージ	たんに単位取得のみを目的とする学生には受講をお勧めしません。真剣に宅建試験の合格を目指しますので、受講生にはかなりの量の予習と復習を求めます。この点も初回の講義の際に説明いたします。 宅建は人気のある法律系の国家資格です。在学中に合格しておくことを強くお勧めします。合格すれば、就活の際に選択の幅が(少しかもしれませんが)確実に広がります。			
担当者の 研究室等	11号館9階 松島准教授室			
備考	(毎回授業の始めに小テストを実施し、授業時間内にその解説を行います。教員のほうから積極的に指名するので、双方向の講義になります。) 授業の進行具合によっては多少シラバスに変更があるかもしれないので、その点はあらかじめご了承ください。			

科目名	法政キャリア特別講義V	科目名(英文)	Special Classes for Law and Politics V
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3129a0		

授業概要・目的	企業が違法な行為を行うと、損害賠償請求を受けたり、行政処分を課せられたり、刑事罰が課されるばかりでなく、社会から大きな非難を受け、企業の存続の危機にさらされるおそれもある。そこで、ビジネスパーソンとして、十分な法的素養を得ることが求められる。本講義は、中堅ビジネスパーソンが習得することが求められる法的知識を得ることを目的としている。
到達目標	この授業を通じて、学生は、ビジネス実務法務検定試験の2級に合格する実力をつけることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本講義は、受講者がビジネス実務法務検定試験の2級の合格を目指しているので、教科書に従って行う授業と毎回の復習の確認テストによって行う。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務法務検定試験の2級の合格により、就職活動が有利になる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ビジネス法務の実務	ビジネス実務法務とは、企業を取り巻くリスクとビジネス実務法務、企業活動とコンプライアンス・企業倫理について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.2～5 を読むこと(各1時間)。
2	企業取引の法務(1)	ビジネスに関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.7～34 を読むこと(各1時間)。	
3	企業取引の法務(2)	損害賠償に関する法律関係について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.38～47 を読むこと(各1時間)。	
4	債権の管理と回収(1)	債権の担保について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.48～71 を読むこと(各1時間)。	
5	債権の管理と回収(2)	緊急時の債権回収 債務者の倒産に対応するための処理手続について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.72～119 を読むこと(各1時間)。	
6	会社財産の管理・活用と法律(1)	流動資産の運用・管理の法的側面 固定資産の管理と法律について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.120～131 を読むこと(各1時間)。	
7	会社財産の管理・活用と法律(2)	知的財産権の管理と活用、賃借物件の管理について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.132～163 を読むこと(各1時間)。	
8	企業活動に関する法規制(1)	経済関連法規 消費者保護関連の規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.164～224 を読むこと(各1時間)。	
9	企業活動に関する法規制(2)	情報化社会にかかわる法律 事業関連規制について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.227～286 を読むこと(各1時間)。	
10	株式会社の組織と運営(1)	株式会社のしくみについて学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.290～334 を読むこと(各1時間)。	
11	株式会社の組織と運営(2)	株式会社の運営について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.336～365 を読むこと(各1時間)。	
12	企業と従業員の関係	労働組合と使用者との関係、社会保険等について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.366～373 を読むこと(各1時間)。	
13	紛争の解決方法	紛争の予防方法、民事訴訟法について学ぶ。手続、その他の紛争の解決方法	事前にかつ事後に教科書 p.374～409 を読むこと(各1時間)。	
14	国際法務(渉外法務)	国際取引に関する法的諸問題と対応のポイント、国際取引における契約作成上の諸問題、国際取引に関する個別の法的諸問題、WTOと国際通商問題について学ぶ。	事前にかつ事後に教科書 p.410～466 を読むこと(各1時間)。	
15	模擬テスト	これまでの授業を総括する j 授業を行う。次に、総まとめのテストを実施する。	事前にかつ事後に教科書 p.1～466 を読むこと(各1時間)。	

実務経験	
関連科目	法政キャリア特別講義II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020年度版ビジネス実務法務検定試験公式テキスト	東京商工会議所編	東京商工会議所検定センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	5690s11
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	第2回目から第14回目のテストの結果を合計39%とし、定期試験を61%とし、合計100パーセントで評価する。 試験は、TeamsのWebテストで行う。
学生へのメッセージ	ビジネス実務法務検定試験の2級の合格という明確な学習目標ができ、勉強の励みになる。学習によって、中堅ビジネスパーソンが修得することが求められる法的知識を得ることができ、しかも、それを商工会議所が証明してくれたことになり、自信を持って企業人として社会で活動できる。

	学習範囲が広いので、焦らず、辛抱強く、取り組んでください。
担当者の 研究室等	11号館9階 牛丸教授室
備考	<p>予習・復習には各1時間とって下さい。 確認テストの正解はテスト終了後、授業で解説する。</p> <p>19年度 合格率83% (不受験率8%) A9% B45% C20% D9% 平均69点 111人登録</p>

科目名	法政キャリア特別講義VI	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics VI
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3130a0		

授業概要・目的	法学を学ぶ者は、自分の意見や考えを読み手に納得してもらい、自分と同じ意見をもつよう説得できる文章を書くことができなければなりません。そこでこの授業では、このような文章を書くに必要な能力とそのような文章の書き方を説明し、いくつかの課題文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、読み手を納得させる文章の書き方についての基礎的な知識を習得し、法的知識に基づいた自分の意見、理由、根拠の示された文章を書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は教材・課題提供型授業で行います。
科目学習の効果 (資格)	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	法学と説得力のある文章 小論文と作文など	第1回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
2	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力1	論理的なものごとを考え判断する能力とは	第2回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
3	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力2	ものごとの相互の対応関係を探る能力とは	第3回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
4	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力3	他人が述べたことの真意を判断する能力とは	第4回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
5	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力4	考え方や発想を柔軟に変更して妥当な解決策を探る能力とは	第5回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
6	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力5	他人の文章が何を伝えるために書かれているかを理解する能力とは	第6回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
7	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力6	複数の資料の相互の関係を理解する能力とは	第7回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
8	法的知識に基づいた文章の作成に必要な基礎的能力7	統計学の基礎知識とは	第8回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
9	法的知識に基づいた文章と日本語1	日本文の特徴、文の単位、日本語の語順など	第9回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
10	法的知識に基づいた文章と日本語2	文の役割と文の接続、日本文と主観的表現、語調の統一など	第10回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
11	法的知識に基づいた文章の書き方1	課題の求めているものは何かなど	第11回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
12	法的知識に基づいた文章の書き方2	主題の決め方、主題を文章化するための材料の集め方など	第12回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
13	法的知識に基づいた文章の書き方3	意見や考えの理由と根拠、構想の立て方、構成の仕方など	第13回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
14	法的知識に基づいた文章の書き方4	説得力のある文章と説得力のない文章、比較的字数の少ない文章の作成など	第14回配布プリントを見直し、授業中に示した次回課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
15	まとめ	法的基礎に基づいた文章のまとめ	第15回配布プリントを見直しして下さい。(1時間程度)

実務経験	
関連科目	法政キャリア特別講義VII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	フォルダーへの提出小論文によって評価します。
学生へのメッセージ	できる限り個別に対応します。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)
備考	①課題小論文の返却は次回の授業で行い、返却の際に作成上の注意点を個別に説明します。 ②授業時間外の質問等に対しては、月曜日12時30分から13時20分に11号館5階法学部資料室において対応できます。

科目名	法政キャリア特別講義Ⅶ	科目名 (英文)	Special Classes for Law and Politics VII
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JDJ3131a0		

授業概要・目的	ある問題に対する自分の意見を読み手に納得させる文章を書くためには文章の形式だけでなく内容も問題になります。なぜならば仮にいくら納得させる書き方をしても書かれている内容が薄いものであれば、誰も自分に同調してくれるはずがないからです。そこでこの講義では、納得させる文章とは何かを理解してもらうために、内容に重点を置き、重要と思われる課題を取り上げてそれを説明し、小論文を作成してもらいます。
到達目標	この授業を通じて学生には、文章に関する知識を一層深め、読み手を納得させるのにふさわしい形式と内容の濃い文章が書くことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業方式、Teams「教材・課題配信型」で授業は行います。
科目学習の効果(資格)	警察官、消防士、市役所などの公務員試験に役立ちます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法的思考が読み取れる文章とは？(その1)	課題の解釈と出題の意図など	第1回配布プリントを見直して下さい。(1時間程度)
	2	法的思考が読み取れる文章とは？(その2)	三段落構成の各段落の役割と書き方など	第2回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	3	法的思考が読み取れる文章とは？(その3)	四段落構成の各段落の役割と書き方など	第3回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	4	法的思考が読み取れる文章とは？(その4)	よりわかり易い構成、論理の飛躍など	第4回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	5	法的思考が読み取れる文章の内容1	「情報化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第5回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	6	法的思考が読み取れる文章の内容2	「国際化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第6回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	7	法的思考が読み取れる文章の内容3	「少子高齢化」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第7回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	8	法的思考が読み取れる文章の内容4	「災害」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第8回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	9	法的思考が読み取れる文章の内容5	「環境」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第9回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	10	法的思考が読み取れる文章の内容6	「少年犯罪」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文も作成	第10回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	11	法的思考が読み取れる文章の内容7	「公権力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第11回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	12	法的思考が読み取れる文章の内容8	「人権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第12回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	13	法的思考が読み取れる文章の内容9	「能力」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第13回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
	14	法的思考が読み取れる文章の内容10	「地方分権」を課題として、その課題の意図及び意義についての説明と知識の確認および小論文の作成	第14回配布プリントを見直し、授業中に示した次の課題について下調べをして下さい。(1時間程度)
		15	まとめ	法的思考が読み取れる文章のまとめ

実務経験	
関連科目	法政キャリア特別講義Ⅵ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	xj9dmkd
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teamsのなかに、「質問用」チャンネルを作ります。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	提出された小論文で評価します。
学生への メッセージ	提出物の返却は入構が自由になってから、11号館6階のキャリアルームで受け取って下さい。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	質問は、Teams のなかに、「質問用」チャンネルを作ります。そこにしてください。

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。</p>		
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合っ決めてしたいと思います。
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
実務経験			
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	授業期間中に指示する課題 (レポートなど) の達成状況をもとに評価する。		
学生へのメッセージ	ご入学おめでとうございます。入学早々、コロナの影響で対面の授業ができず、教員としても大変残念ですが、できることからやってみましょう!		
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室		
備考			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 (I・II) は、皆さんが学生生活に慣れ、大学における学習をスムーズに始められるように、次の3つを目的としています。</p> <p>(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、</p> <p>(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>そして、(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																																																																		
到達目標	この授業では、法学部における勉学をスムーズに開始できるよう、法学の基礎的な能力 (いわば法学学習の「型」) を身につけることが期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	<p>・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点</p> <p>Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で双方向型の授業を行います。</p> <p>・その他</p> <p>方法：演習 (ゼミ) 形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。</p> <p>留意点：(1) 出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。</p> <p>(2) 法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法学学習の「型」(作法) を身につけよう。</td> <td>まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。</td> <td>事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やレポートに取り組む。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	法学学習の「型」(作法) を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やレポートに取り組む。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	法学学習の「型」(作法) を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をするかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やレポートに取り組む。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>*授業初回に指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>*授業初回に指示します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	*授業初回に指示します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	*授業初回に指示します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	発表の内容：30% 議論への参加・貢献：30% 課題：40%																																																																		
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は、高校までのものとは異なり、とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから、意欲的に参加し、またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。																																																																		
担当者の研究室等	未定。																																																																		

備考	<ul style="list-style-type: none">・事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内に行う。
----	--

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 穰
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。			
到達目標	この演習を通じて学生には、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるよう、法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。			
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。なお、ゼミはTeamsを用いて、遠隔授業(「ライブ(テレビ会議)型」)で実施されます。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。	図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題についてそれを法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと話し合って決めたいと思います。	初回の授業で指示します。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	4ceiu4j			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	Teamsのテレビ会議を通じて行われる毎回の演習時に指示する課題の達成状況に応じて評価を行う。			
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの学生生活にとって大切な友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、学生生活が実り多きものとなることを願っています。			
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室			
備考				

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的

法学基礎演習(Ⅰ・Ⅱ)は、皆さんが学生生活に慣れ、大学における学習をスムーズに始められるように、次の3つを目的としています。

(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、
(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、
(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。

そして、(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。

到達目標

この授業で学生には、法学部における勉学をスムーズに開始できるよう、法学の基礎的な能力(いわば法学学習の「型」)を身につけることが期待されます。

授業方法と留意点

- ・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点
- Microsoft Teamsを用いて、時間割どおりの曜日・時限で双方向型の授業を行います。
- ・その他

方法：演習(ゼミ)形式。プレゼンテーションとディスカッションを行ってもらいます。

留意点：(1)出席が重視されます。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。

(2)法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法学学習の「型」(作法)を身につけよう。	まず図書館利用や情報処理講習で学習のための基本的な情報収集の方法を学んでもらいます。その上で、社会でどのようなことが問題になっているか、そこにおいて法律がどのようにかかわっているかを調べてもらい、全員で検討していく予定です。本演習で具体的に何をやるかについては、初回の授業で皆さんと相談して決めます。	事前学習：初回の授業で指示しますが、新聞記事や様々な文献をあらかじめ読んできてもらうことが中心となります。 事後学習：復習課題やレポートに取り組む。
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

実務経験

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	*授業初回に指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	*授業初回に指示します。		
2			
3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teamsコード	01cb8pc
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	発表の内容：30% 議論への参加・貢献：30% 課題：40%
学生へのメッセージ	大学での勉強の仕方は、高校までのものとは異なり、とりわけ初年度はどうしたらいいか分からずに戸惑いや不安があるかと思います。この授業はそうした学生のために開講されるものですから、意欲的に参加し、またわからないことや悩みがあれば教員に積極的に相談してください。
担当者の研究室等	未定。

備考	<ul style="list-style-type: none">・事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内に行う。
----	--

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鳥谷部 瑛
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	21世紀は「環境の世紀」といわれています。今日、テレビや新聞、インターネットなどで「環境」という言葉を見聞きしない日はありません。ではどうして、現代社会において「環境」というワードがそこまで重要視されるのでしょうか。それは、環境が悪化すれば究極的には「文明社会の滅亡」という結果が待ち受けているからにはなりません。「環境法・国際環境法」は、文明社会の滅亡を遅らせるための法律といわれることがあります。このゼミでは、環境破壊による文明社会の滅亡を遅らせるための方法論を共有します。
到達目標	この演習を通じて学生には、2年次後期から開始される少人数形式の学生主体の専門演習（ゼミ）にスムーズに馴染めるよう、その基礎能力を培うことが期待されます。
授業方法と留意点	この授業では、数人のグループに分かれて、グループごとに環境問題に関するテーマを発見し、グループワークを通して、問題を掘り下げる作業を行ってまいります。そしてその成果を他の受講者を前にしてプレゼンテーションし、全員でディスカッションします。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、グループワーク及びプレゼンテーションのための準備時間は必須です。

科目学習の 効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	環境問題を「環境法・国際環境法」のレンズを通して見つめる	ゼミとは学生による報告が主体の演習形式の授業のことで。この授業では、環境問題・国際環境問題について各自が興味・関心をもつテーマを見つけ、そのテーマについて法の視点から掘り下げて調べ、発表してもらいます。発表された内容については、聞く側の学生も交えて全員で討論していきます。授業時間以外での活動は特に予定していませんが、報告のための準備時間は各自必要となります。	初回の授業で指示します。
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
15				

実務経験	
関連科目	国際法の基礎理論、国際社会と法

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポートの内容によって評価します。
学生への メッセージ	コロナで大変な時期ですが、できることからやっていきましょう！ 身近な環境問題について考えるきっかけを掴みましょう。
担当者の 研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室
備考	

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法学では事例研究・判例学習が非常に重要になってきます。この授業では、2年次後期の「専門演習 I」、3年次の「専門演習 II」、4年次の「卒業研究」に向けて、そういった事例研究を通じた公法（行政法、憲法、地方自治法）の基礎知識の習得を目指します。具体的には、判例などの素材を通じて、具体的な問題点の把握、関連判例と学説の整理をした上で、そのプレゼンテーション及びディスカッションを行ってまいります。																																																																		
到達目標	本演習を通じて学生には各段階において次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 (1) 公法における重要判例の事案・判旨を正確に読み解く力 (2) ある問題について異なる見解が提示されているとき、その対立点を把握して整理する力 (3) 自ら主体的に課題を発見する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階 (4) 自分の考えを整理・要約し、他者に伝える力 (5) 他人の意見に傾聴する力																																																																		
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で双方向型の授業を行います。 ・その他 授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が、ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。並行して行政法総論、地方自治法を履修することが望ましいです。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例(判例)研究を通じた公法の基礎知識の獲得</td> <td>報告担当者(グループ)を決め、判例(事案・判旨)についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。 判例の調べ方、当たるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。</td> <td>事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと(2時間程度) 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります(2時間程度)。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事例(判例)研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者(グループ)を決め、判例(事案・判旨)についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。 判例の調べ方、当たるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと(2時間程度) 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります(2時間程度)。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事例(判例)研究を通じた公法の基礎知識の獲得	報告担当者(グループ)を決め、判例(事案・判旨)についてのプレゼンテーションを行ってまいります。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。 判例の調べ方、当たるべき文献、データベースの活用法などを初回に説明します。また、初回だけでなく、プレゼンテーションに対するコメントでも必要に応じて指摘します。	事前学習： 報告担当者は事案と判旨の整理、関連判例と学説の調査等報告準備を行ってまいります。報告準備は10時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと(2時間程度) 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討してまいります(2時間程度)。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	行政法、地方自治法、憲法 (また、民法や刑法、民事訴訟の基礎知識があると望ましいですが、必要に応じて適宜フォローに努めます。)																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法	・プレゼンテーション (配布資料・報告の内容)：60%																																																																		

(基準)	・ディスカッション (議論への貢献度) : 40%
学生へのメッセージ	このブレ専門演習を通じて、試験のためではなく、自分なりの課題をもって主体的に学習すること、そして他者との議論を通じて自分の考えを明確化・修正することの楽しさ、重要性を知ってほしいと思います。また、演習は学生の積極的な参加・協力が不可欠ですので、誠実な態度で授業に臨んでください。
担当者の研究室等	未定。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・j 事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	みなさんのなかには、日常生活で国際法を身近に感じる機会が存分にあるという方は決して多くはないでしょう。いきなり分厚い国際法の教科書に書いてある論点を取り上げることに抵抗を感じる学生も少なくないと思います。そこで本ゼミの内容は、主に次の3点とします。第1に、本ゼミでは、最近の時事国際問題を複数検索しその内容を調べることで、広く社会で何が起きているか、何が問題となっているか、という現状を認識することから始めます。第2に、各自が本格的に調べることを選択した時事問題について、国際法との接点を見出していきます。第3に、以上を踏まえて、条約・判例といった生の素材や、それらに分析を加えた文献を読解し、ゼミ生間で情報共有し議論し発表することを通して、国際法の視点から時事問題を分析する素養を磨きます。																																																																		
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の基礎的な知識を身につけること、③3年次の専門演習に余裕をもってついていけるようになること、が期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本ゼミは Teams を用いオンラインで実施します。国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に付けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応えて下さい！																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際法への理解を深める</td> <td>国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べるのが重要です。</td> <td>自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べるのが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	国際法への理解を深める	国際社会に生起するさまざまな事例への理解を深めるためには、判例や過去の実行を詳しく調べるのが重要です。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams 「オンライン型」																																																																		
Teams コード	utg2hnf																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	毎回出席し、主体的に議論に参加できているか、物事を深く考えようとする意欲がみられるかによって判断します。																																																																		
学生へのメッセージ	国際法という分野は国内法とは相当に異なった性質をもっています。初めは取っ付きにくいと感じる方も多いでしょう。しかしながら今や、新聞やメディア等の情報媒体において、国際法に関連する出来事を目にしない日はありません。実は、みなさんの身近にも国際法は存在しているのだということを、本ゼミを通して感じてもらえればと思います。																																																																		
担当者の研究室等備考	11号館10階 鳥谷部特任講師室																																																																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	笛木 淳
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	この授業は、3年次の「専門演習 II」、4年次の「卒業研究」に向けて、公法（行政法、地方自治法、憲法）の主要判例や学説、法令についての学習を皆さんが主体的に深化させることを目的としています。この講義では、ブレ専門演習での判例学習を通じて自分なりに発見した課題をさらに深く掘り下げるために、他の関連判例や専門文献に取り組み、プレゼンテーションとディスカッションをしていただきます。		
到達目標	本演習を通じて学生には各段階で次のスキルの獲得が期待されます。 ・資料の収集段階 (1) 事例研究を通じて自ら主体的に課題を発見する力 (2) 発見した課題に必要な資料を自ら探索・収集する力 ・プレゼンテーションとディスカッションの段階について (3) 自分の考えを整理・要約し、他者に伝える力 (4) 他人の意見に傾聴し、問題点を指摘する力		
授業方法と留意点	・新型コロナウイルス感染防止対応に伴う変更点 Microsoft Teams を用いて、時間割どおりの曜日・時限で双方向型の授業を行います。 ・その他 授業方法：学生によるプレゼンテーションとディスカッション。 留意点：報告準備段階では主体性な調査・学習が、ディスカッションでは積極的な発言や学生自らによる議論の整理が求められます。特に行政訴訟に関する分野を研究したい方は、行政法各論を並行して受講することが望ましいです。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等 事前・事後学習課題
	1	事例 (判例)・文献研究を通じた問題意識の掘り下げ	報告担当者 (グループ) を決め、各自設定した課題 (判例研究、その他の論点研究) についてのプレゼンテーションを行っていただきます。報告の内容は判例の事案・判旨の読解、関連判例と学説の調査・整理が中心です。報告をもとに、参加者全員でディスカッションをします。 事前学習： 報告担当者は報告準備に 10 時間程度かかると思います。報告者以外は指定文献をあらかじめ読んで疑問点等をまとめておくこと (2 時間程度) 事後学習： プレゼンテーションへのフィードバックとディスカッションにより明らかになった報告の問題点を踏まえ、再調査または再検討していただきます (2～4 時間程度)。
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
実務経験			
関連科目	行政法、地方自治法、憲法。 (また、民法や刑法の基礎知識があると望ましいですが、学習が不十分な場合にはこちらで適宜フォローに努めます。)		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	初回講義で指定。学生の意見も取り入れて決定します。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teams コード	uz04kb6		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	・プレゼンテーション (配布資料・報告の内容)：60% ・ディスカッション (議論への貢献度)：40%		
学生へのメッセージ	3年次からはいよいよ卒業論文に関連する学習が本格化することでしょう。この授業ではそうした作業にスムーズに移行できるようにできる限りの支援を提供します。とはいえ演習の主体はあくまでも学生です。意欲的で誠実な参加を期待します。		

担当者の研究室等	笛木講師室（11号館9階）
備考	<ul style="list-style-type: none">・j 事前および事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の予習および復習に取り組むこと。・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	鳥谷部 壤
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本ゼミは、専門演習 I を受講していることを前提として展開されます。本ゼミは、専門演習 I で修得した国際法の基礎知識を浸透させ定着化を図るとともに、国際法の応用的なアプローチについても学んでいきます。																																																																		
到達目標	この演習を通じて、①受動的ではなく、主体的・能動的な学習態度を身に着けること、②国際法の主要な論点について、筋道の立った説明をすることができるようになること、③卒業研究のテーマの候補を見つけること、が期待されます。																																																																		
授業方法と留意点	本ゼミは、Teams を用いオンラインで実施します。国際法は非常に広い領域を取り扱います。国際法全体について基礎知識を備えることは並大抵のことではありません。でも、そうした基礎知識をみなさんに身に着けてもらうために様々な工夫を凝らし最大限努力します。ですので皆さんもそれに応じて下さい！																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際法への理解を深める</td> <td>国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べる事が重要となります。</td> <td>自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。</td> </tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	国際法への理解を深める	国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べる事が重要となります。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。	2				3				4				5				6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	国際法への理解を深める	国際社会で日々生じている時事問題への理解を深めるためには、判例や過去の実例を詳しく調べる事が重要となります。	自分が選択した事例について、十分に調べ考える姿勢を保つこと。																																																																
2																																																																			
3																																																																			
4																																																																			
5																																																																			
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
実務経験																																																																			
関連科目	国際社会と法、国際法の基礎理論、国際組織法、国際人権法																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams 「オンライン型」																																																																		
Teams コード	p5ziqf2																																																																		
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	毎回出席し、主体的に議論に参加できているか、物事を深く考えようとする意欲がみられるかによって判断します。																																																																		
学生へのメッセージ	本ゼミは、みなさんの学習能力やニーズに鑑みて柔軟に対応します。いずれにせよ教員は、ゼミ生に無理難題を言うのではなく、いかなる状況であれみなさんの良き理解者であり味方であれるようにしたいと思っています。																																																																		
担当者の研究室等	11号館10階 鳥谷部特任講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・・・																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション テキスト</td> <td>Introduction exercises</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Speaking of People</td> <td>Peter Vincent, etc.</td> <td>978-4-523-17909-2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生への メッセージ	興味をもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	BC
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Smart Choice textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・・・																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション テキスト</td> <td>Introduction exercises</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習セッション</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 1, Third Edition</td> <td>Ken Wilson</td> <td>Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 1, Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice 1, Third Edition	Ken Wilson	Oxford University Press: ISBN 978-0-19-46024-8																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生への	Prepare for your future and study and speak English today.																																																																		

メッセージ	
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	DEGHI
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2305c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・・・																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション テキスト</td> <td>Introduction exercises</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Speaking of People</td> <td>Peter Vincent, etc.</td> <td>978-4-523-17909-2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生への メッセージ	興味をもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Speaking of People textbook is designed to help you with your conversational English and is useful for students in any field of academic study.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)	・・・																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction オリエンテーション テキスト</td> <td>Introduction exercises</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction オリエンテーション テキスト	Introduction exercises	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習	Feedback session	・・・																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Speaking of People</td> <td>Peter Vincent, etc.</td> <td>978-4-523-17909-2</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Speaking of People	Peter Vincent, etc.	978-4-523-17909-2																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle																																																																		
Teamsコード	8uxsocj																																																																		
Moodleコース名 および登録キー	英語Ⅱb Bell 2020 shark8seal																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	Grading will be based on weekly assignments to be found on Moodle, including end of unit quizzes and tests.																																																																		
学生へのメッセージ	興味のもてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	BC
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Smart Choice 1 textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.																																																																		
到達目標	読解力をつけるための単語力、文法力をつける。 自習の習慣を付け、辞書を使うことに慣れる。 音声に慣れ、リスニングから発話へとつなげるように音読に慣れる。																																																																		
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. 単語のテスト又は何らかのテストが毎回あります。出席していなければ受けられない物もあります。英語が苦手でも努力次第で成績がとれる科目です。辞書を必ず持参し、配布物をしっかり整理してよく復習する事。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First semester test review</td> <td>Review of first semester test</td> <td>Students should study the content of the day's lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>次回の単語テストの予習 テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>単語テスト Exercises</td> <td>テキスト</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめテストと復習セッション</td> <td>Feedback session</td> <td>・・・</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson	2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test	13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson	15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	First semester test review	Review of first semester test	Students should study the content of the day's lesson																																																																
2	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
3	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
4	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
5	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
6	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
7	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
8	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
9	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
10	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
11	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
12	Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson・test																																																																
13	単語テスト Exercises	次回の単語テストの予習 テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
14	単語テスト Exercises	テキスト	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson																																																																
15	まとめテストと復習セッション	Feedback session	・・・																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice 1</td> <td>Ken Wilson</td> <td>OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46024-8</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice 1	Ken Wilson	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46024-8	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Smart Choice 1	Ken Wilson	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-46024-8																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他																																																																		
Teamsコード	akrnzbs																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	Teams chat																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法(基準)	Grading will be based on student class participation, attendance, quizzes (70%) and an end of semester in-class final test (30%).																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future and study and speak English today.																																																																		
担当者の	7号館2階非常勤講師室																																																																		

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英語Ⅱb	科目名(英文)	English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	DEGHI
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2306c1		

授業概要・目的	The Passport textbook will help you with your travel-based English and general communication skills.			
到達目標	To improve listening and speaking for the purpose of improving communication skills related to travel.			
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course.			
科目学習の効果(資格)	...			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Explanation of the course, expectations, and grading system	End of class report
	2	Unit 1-2	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 1
	3	Unit 3-4	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 1 Topic Choice Worksheet
	4	Unit 5-6	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 2
	5	Unit 7-8	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Complete Presentation 1
	6	Presentation Day	Presentation 1	End of class report Study for Speaking Quiz 1
	7	Speaking Assessment	Speaking Quiz 1	End of class report Extensive Listening Homework 3
	8	Unit 9-10	Vocabulary, listening, speaking	End of class report
	9	Unit 11-12	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 4
	10	Unit 13-14	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Presentation 2 Topic Choice Worksheet
	11	Unit 15-16	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Extensive Listening Homework 5
	12	Unit 17-18	Vocabulary, listening, speaking	End of class report
	13	Unit 19-20	Vocabulary, listening, speaking	End of class report Complete Presentation 2
	14	Presentation Day	Presentation 2	End of class report Study for Speaking Quiz 2
15	Speaking Assessment	Speaking Quiz 2	End of class report	
実務経験				
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 (Second Edition)	Angela Buckingham/Lewis Lansford	OXFORD University Press ISBN 978-0-19-471822-6
	2			
3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Web Folder, その他			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	Zoom chat, Teams chat			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	End of class reports (participation) (15 x 2%) 30% Presentations (2 x 10%) 20% Speaking Assessments (2 x 15%) 30% Extensive Listening Reports (5 x 4%) 20%			
学生への メッセージ	興味もてる内容のテキストを選びました。言葉とは文化と密接な関係にあるもの。文化的知識を楽しみながらリスニング、や音読を練習しましょう。語彙も増やして行きましょう。			
担当者の 研究室等	Questions should be asked in the lesson (Zoom).			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	

実務経験	
関連科目	—

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 10% Homework assignments 10% Class participation and attitude, ability 70%
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョーンストン
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
		15	復習	復習
実務経験				
関連科目	(記入不要)			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234</td> <td>Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown</td> <td>Pearson (2018)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	共通課題（成果物・成果発表）15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%																
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英会話 I	科目名 (英文)	English Conversation I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	E G H I
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2329c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
		15	復習	復習
実務経験				
関連科目	(記入不要)			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Funny Laws in the World (with CD)</td> <td>Joe Ciunci</td> <td>Nan'un-do</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Funny Laws in the World (with CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Funny Laws in the World (with CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英会話Ⅱ	科目名(英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	AB
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD Revised ISBN 978-4-9905671-1-8	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/その他
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 20%, In-class quizzes, Homework assignments, Class participation, attitude, ability 80% All adapted for the online learning environment.
学生への メッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	英会話Ⅱ	科目名 (英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスティー ジョーンストン
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
		15	復習	復習
実務経験				
関連科目				
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234</td> <td>Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown</td> <td>Pearson (2018)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Web Folder																
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	personal email																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	共通課題（成果物・成果発表）15% + 授業中の小テスト・発言・討論、宿題、提出物等 85%.																
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	英会話Ⅱ	科目名 (英文)	English Conversation II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	E G H I
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN2330c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
		15	復習	復習
実務経験				
関連科目				
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Funny Laws in the World (With CD)</td> <td>Joe Ciunci</td> <td>Nan'un-do</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Funny Laws in the World (With CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Funny Laws in the World (With CD)	Joe Ciunci	Nan'un-do														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teams コード	b61vax1																
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段	Line																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)																
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。																
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																

科目名	スポーツ科学概論	科目名 (英文)	Introduction to Sports Science
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀧 千波
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1349a1		

授業概要・目的	スポーツと運動は、日常生活の中で欠かせないものである。本授業では、スポーツや運動、身体運動に関する基礎的な知識について、最新の科学的知見をもとに学習する。ヒトの基本的な身体の構造（骨格や筋腱、神経）、及びしくみについて学ぶとともに、自分自身やスポーツ競技現場のアスリートのみならず、成長期の子どもから高齢者に至るまでの身体の変化についても理解する。その上で、それぞれの目的に合った効果的なトレーニングやエクササイズについて理解し、競技パフォーマンスの向上や生活習慣病の予防など、生涯を通じてスポーツや運動、身体運動を実践する能力や、提供できる能力を養うことを目指す。 SDGs-3, 4, 5
到達目標	身体の形態・機能およびスポーツによる身体の変化について、正しく理解することができる。 ヒトの身体の構造や機能のしくみを理解する。 目的（パフォーマンス向上や健康増進）に応じたトレーニングやエクササイズについて理解する。
授業方法と留意点	教材・課題提供の際に ICT ツールを使用するためネットワーク環境を整えておくこと。 講義を受け、課題を課す。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	本講義の目的と意義、授業方法について説明する。	・授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事後学習時間 30分)
2	身体のづくり	中学・高校で既知の身体のづくりについて復習する。身体のづくりについて正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
3	身体を動かすしくみー筋・骨格系ー	身体が活動する際、骨や筋肉はどのようなしくみにより、どのように協調して動いているのか、正しく理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
4	身体を動かすしくみー呼吸循環器系ー	身体活動の強度が増すとき、心臓および血管系、呼吸器系がどのように応答しているのか理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
5	身体の生理機能	安静時および身体活動時における生体内部の働きと、恒常性について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
6	スポーツ栄養	様々な運動種目のパフォーマンスを最大限に向上させるための望ましい栄養摂取について、その内容と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
7	筋力トレーニングの科学	運動種目や運動目的の違いに即した運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
8	有酸素性トレーニングの科学	持久力を向上させるために必要な運動方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
9	青少年におけるトレーニング	発育期における身体的特徴と運動との関わりについて理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
10	加齢と運動	老年期における個人差を含む身体的・脳機能の特徴、さらに老化を遅延させるための運動の役割について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
11	運動と疲労	運動による疲労はなぜ惹起されるのか、またその回復について、理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
12	スポーツと環境	環境が身体に与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
13	スポーツと遺伝	遺伝がスポーツに与える影響について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
14	運動障害と予防	運動による内科的・外科的疾患の概要と予防方法について理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 ・講義内容に沿った課題を課すので必ず行うこと。 (事前・事後学習時間 60分)
15	リカバリーの科学	スポーツパフォーマンスを最大限に発揮するため、心身の調整について理論と方法を理解することができる。	・レジュメ、授業ノートで復習すること。 (事前・事後学習時間 60分)

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題 (50%)、出席 (50%) により評価する。 100点中60点で合格とする。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館1階 瀧研究室			
備考				

科目名	スポーツ科学実習 I a	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	瀬川 智広、樫本 崇土、瀧林 賢次、吉川 万紀、渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1350a1		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提出型とし、Microsoft Teams, Moodle の2つの ICT ツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

実務経験	
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。
学生への メッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の 研究室等	総合体育館1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ着用のこと

科目名	スポーツ科学実習 I b	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川 智広、岡崎 和伸、瀧林 賢次、吉川 万紀、渡部 将之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1351a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習 I で培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間に内で課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業では Microsoft Teams を使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で Teams を使い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
3	【対面授業】 ・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	【対面授業】 ・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	【対面授業】 ・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	【対面授業】 ・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	【対面授業】 ・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	【対面授業】 ・ゲーム	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシ	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分)

		【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	ップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分） 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする（生涯スポーツなど）	事前：これまでのまとめと健康管理（30分） 事後：内容の振り返り（30分）																
実務経験																				
関連科目	生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業																			
Teamsコード	a8p8gtg																			
Moodleコース名および登録キー																				
連絡手段	チャット（チャットが使用不可の場合は学内メール）																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法（基準）	対面授業・・・活動点50%、態度点+技能点50%として、総合評価する。 なお活動点は授業への参加意欲とする。態度点は積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50%、課題点50%として、総合評価する。 なお活動点は授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。																			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ててください。																			
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。																			

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ a	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治, 吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1352a1		

授業概要・目的	スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。 SDGs-3、4、5
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。 実技および講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する 事後: 本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく 事後: 内容の振り返り
4	・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
5	・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
6	・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
7	・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後: 内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 内容の振り返り
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 事後: 全授業の総括

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	活動点50%、課題点50%として、総合評価する。

学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズを着用すること。

科目名	スポーツ科学実習Ⅱb	科目名(英文)	Practicum in Sports Science IIB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	瀬川 智広, 吉川 万紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1353a1		

授業概要・目的	<p>スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3、4、5</p>
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	本科目は、「対面授業」と授業時間内に課題を提出する「遠隔授業」を併用し授業を行う。対面授業は大学施設を使用し実技を実施し、遠隔授業ではMicrosoft Teamsを使用し「教材・課題配信型」として実施する。なお、遠隔授業においても、実際の授業時間内に課題を行い提出することとする。学生は諸事情により「対面授業」から「遠隔授業」、「遠隔授業」から「対面授業」へ切り替えることができる。本科目は、対面であれば実際の実技によって授業目的・到達目標の達成を目指し、「教材・課題配信型」であれば講義教材を用いて学習し
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	・ガイダンス	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通でTeamsを用い、履修上の注意を行う	事前：授業概要・目的などを学習する(30分) 事後：本実習の理解を深める(30分)
2	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義・種目の概要 ・基礎知識について	【対面授業】 ・コース分け、種目の概要 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎知識を学習しておく(30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
3	【対面授業】 ・基本技術(導入編) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルールについて学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
4	【対面授業】 ・基本技術(基礎編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
5	【対面授業】 ・基本技術(基礎編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
6	【対面授業】 ・基本技術(応用編1) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
7	【対面授業】 ・基本技術(応用編2) ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
8	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	
9	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分)	

		・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	10	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	11	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	12	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	13	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	14	【対面授業】 ・ゲーム 【遠隔授業】 ・自宅や屋外でできるスポーツ実技およびスポーツ講義	【対面授業】 ・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む 【遠隔授業】 ・配信されたスポーツ実技とスポーツ講義を行う	【対面授業】 事前：ルール・技術等の確認と健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分) 【遠隔授業】 事前：運動指導要領を確認し、内容を学習しておく(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
	15	・総括	・対面授業希望者、遠隔授業希望者共に共通で後期授業の振り返りを行い、授業アンケート、今後の健康スポーツについて説明をする(生涯スポーツなど)	事前：これまでのまとめと健康管理(30分) 事後：内容の振り返り(30分)
実務経験				
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業			
Teamsコード	oemyb19			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	チャット(チャットが使用不可の場合は学内メール)			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	対面授業・・・活動点50%、態度点+技能点50%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。 遠隔授業・・・活動点50%、課題点50%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲とする。課題点とは課題内容とする。			
学生へのメッセージ	・授業内容は、種目毎の例であり、それ以外を行うこともあります。また本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席してください。 ・トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を使用してください。 ・授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来てください。			
担当者の研究室等	体育館1F 体育館事務室			
備考	・東側グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。学生の事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にならないために、必ず正門前の横断歩道を使用してください。ルールを守らない場合や教員・守衛の指示に従わない場合は、単位を認めません。 ・万一、コロナウィルスの影響で対面授業が困難と判断された場合は、「遠隔授業」に切り替える。			

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1304a1		

授業概要・目的	哲学とは、われわれが日常生活を送る中で暗黙のうちに前提としている考え方や振舞い方に関して、「何故、こんな風に考えるのか」、「何故、こんな風に振舞うのか」、こうした素朴な疑問から始まる。決して現実離れた学問ではない。授業では、映像（映画、写真、夢）を見るという、ありふれた体験でありながらも、避けられない日常的経験の中で、何が起きているのか、これをテーマとしながら、従来の哲学史上の考え方・概念を紹介しつつ、日常的経験を可能にしている諸々の要因を洗い出していく。
到達目標	物を見る、写真を見る、夢を見る、映画を観る、こうした見る/観るという行為の複雑性に対する問題意識をもつこと。とりわけ映画や TV ドラマを観るという体験の中で、「自分と他者との関係」を通して「自分」という存在について知ることができるようになること。
授業方法と留意点	WebFolder を使用して、映画と精神分析に関するテキストを読み進めます。テキストの要約、関連項目の説明などに関して、全体的に五回レポートを提出してもらいます。必ずテキストを熟読し、課題に臨んでください。
科目学習の効果 (資格)	これまで見過ごしてきた日常性の複雑さ、とりわけ人間関係の複雑さあるいは逆に単純さを知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	講義の概要	シラバスの熟読
2	物を見ることの複雑性 (1)	ものの認識と行動への強迫	ノートの見直し
3	物を見ることの複雑性 (2)	精神分析的見解	前回のノートの見直し
4	物を見ることの複雑性 (3)	現象学的見解	前回のノートの見直し
5	物を見ることの複雑性 (4)	自己認識とそのほつれ	前回のノートの見直し
6	写真を見ることの複雑性 (1)	バルトの写真論その 1	前回のノートの見直し
7	写真を見ることの複雑性 (2)	バルトの写真論その 2	前回のノートの見直し
8	写真を見ることの複雑性 (3)	ソシュールの言語論	前回のノートの見直し
9	写真を見ることの複雑性 (4)	ラカンの無意識論	前回のノートの見直し
10	写真を見ることの複雑性 (5)	写真・言語・無意識の交錯	前回のノートの見直し
11	映画を観ることの複雑性 (1)	映画の物語世界の構成	前回のノートの見直し
12	映画を観ることの複雑性 (2)	メッツの映画論その 1	前回のノートの見直し
13	映画を観ることの複雑性 (3)	メッツの映画論その 2	前回のノートの見直し
14	映画を観ることの複雑性 (4)	ラカンの自我論	これまでのノートの見直し
15	試験対策	試験問題答案の書き方	これまでのノートの見直し

実務経験	
関連科目	思想系の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画の構造分析	内田樹	文藝春秋 (文春文庫)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	提出されたレポート (20 点) ×5 で評価します。
学生へのメッセージ	重要なのは、自分自身の日常生活に疑問を抱くことです。当たり前だと思っていることに、「何でやる？」と思ったときから、哲学が始まります。積極的に、しかも緊張感を持って授業に参加して下さい。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前事後の総学習時間の目安は、60 時間です。 質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	貫井 隆
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1305a1		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くと、皆さんはどんなことを思い浮かべるでしょうか。「難しそうだな」と思うでしょうか。それとも「面白そう」とか、「深い話」が聞けるかもしれない」と思う人もいますでしょうか。</p> <p>辞書で「哲学」と調べると、たいてい、次の二つの意味が載っています。</p> <p>一つ目は「自分自身の経験などから作り上げた人生観・世界観」というものです。このような意味での「哲学」は、「人生哲学」といったほうが正確かもしれません。何かの分野で成功した人や、興味深い人生観を持つ人が、このような意味での「哲学」について講演したり、本を出版することがあります。このような「哲学」を、この授業に期待してくれている人もいますかもしれません。</p> <p>もう一つの意味は「世界や人間の究極の根本原理を理性的に追求する学問」というものです。これはたとえば、「タレス」という哲学者は、世界の「根本原理」を「水」と考えたとか、「プラトン」という哲学者にとっては、「根本原理」は「善のイデア」である、とか、そのような仕方でも説明されることがあります。こちらの「哲学」は、もしかすると、私たちの日常生活からかけ離れた、空想めいた話のように聞こえてしまうこともあるかもしれません。「タレス」という人が、根本原理は「水」だと言ったからといって、それと自分の人生に一体何の関係があるのだ、私たちがそのことを学ぶメリットが一体どこにあるのか、と疑問に思う人もいますかもしれません。</p> <p>今挙げた「哲学」の様々な特徴——難しそうだとか、でも何か深いことを言っているのではないかとか、人生の大事な指針になるのではないかとか、いや、単に空想めいた、日常生活からかけ離れたことにすぎないのではないかと、ということ——は、おそらく、すべて当たっているところがあると思います。その中で、私としては、できるだけ哲学の「日常生活からかけ離れた」要素は少なくして、皆さんの人生に深くかかわる可能性がある部分を集中的に扱いたいと思います。</p> <p>歴史上、現代まで伝えられてきた哲学者がいます。その人たちは、死後何百年、人によっては何千年も経っているのに、まだ忘れ去られることなく、「その人の考えは今生きている私たちの参考になる」と、ずっと思われ続けてきた人たちです。どこかの時代の人が「もうこの人は何の参考にもならない」と思ったとしたら、現代にまで伝わっていないかもしれません。</p> <p>この授業では、このような人々の何人かを選んで、その人たちが言っていることの中なかで、現代を生きる私たちの参考になりそうなことを、皆さんと一緒に探っていきたいと思います。このような人たちの哲学は、世界の根本原理の説明から、人生どのように生きるべきか、他者や自己とどのように付き合うべきか等、様々な要素を含んでおり、しかもそれらが密接に繋がって、一つの大きな、言わば「世界の見方」を作っています。皆さんは、その中で「これはなかなかいいな」とか「これはどうだろうか」と、自由な感性で考えてほしいと思います。ただし、その際に、「なぜ自分はそう思ったのだろうか」とさらに踏み込んで考えてもらおうと、これらの人々のことも、自分自身のことも、さらに深く理解できるようにするのではないかと。</p> <p>授業では、西洋哲学史上の著名な哲学者を十数名扱う予定です。しかし、一部変更がある可能性がありますので、その際にご承知願いたいと思います。</p> <p>※本講義は、本学の教養教育の理念における「人間の根源的な問いから、その内面を見つめる思考の幅を広げる」こと、また「人間をとりまく多様な世界を知ることを通じて、自己を確立できる人間の育成」の一環に位置付けられます。(本学の教養教育の理念については http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/kyouyou/about.html を参照してください)。</p>
---------	--

到達目標	<p>授業で扱う西洋哲学史上の人物について、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 彼らの置かれた時代的背景 ② 彼らの考えの要点 ③ 後の時代に与えた影響 <p>の3点を理解すること。</p>
------	--

授業方法と留意点	Moodle, Dropbox を使用して、該当テキストを読み進めます(毎回、ある程度の読書量があります)。授業ごとに Google Form を利用して、そのテキストに関する小問題に答えてもらいます。
----------	---

科目学習の効果(資格)	西洋哲学上の思想的変遷を追い、その延長上にわれわれが生きる時代の思想的状況があることを実感することができる。
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の概要	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	2	古代ギリシアの哲学(1)	ソクラテス以前、ソクラテスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料(プラトン『ソクラテスの弁明』からの抜粋等)について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	3	古代ギリシアの哲学(2)	プラトンの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料(プラトン『国家』からの抜粋等)について的小問題に答えること(予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	4	古代ギリシアの哲学(3)	アリストテレスの思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料(アリストテレス『形而上学』からの抜粋等)について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	5	古代ギリシア・ローマの哲学	ストア派の思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料(セネカ『生の短さについて』からの抜粋等)について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	6	中世の哲学(1)	ユダヤ教とキリスト教思想の概要を扱う予定である	予習：前回配布したプリント(A3両面で2枚程度)を読み直すこと 復習：配布資料(『旧約聖書』『新訳聖書』からの抜粋等)について的小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)

				定しています)
	7	中世の哲学 (2)	アウグスティヌスの思想の概要を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (『新約聖書』「使徒言行録」、アウグスティヌス『告白』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	8	中世の哲学 (3)	トマス・アキナスの思想の概要を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (トマス『神学大全』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	9	ルネサンス期の哲学	ルネサンス期の思想を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (ガリレオ『クリスティーナ大公妃への手紙』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	10	近代の哲学 (1)	デカルト、ヒュームの思想の概要を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (デカルト『方法序説』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	11	近代の哲学 (2)	カントの思想の概要を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (カント『道徳形而上学の基礎付け』『純粋理性批判』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	12	近現代の哲学 (1)	進歩主義の思想を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (ダーウィン『種の起源』序文原文、ヘーゲル『精神現象学』、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	13	近現代の哲学 (2)	実存主義の思想を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (ニーチェ『力への意志』、ハイデガー『存在と時間』からの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	14	現代の哲学 (1)	構造主義、ポストモダンの思想を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (レヴィ=ストロース、リオタール、ドゥルーズからの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)
	15	現代の哲学 (2)	現代社会に関する思想を扱う予定である	予習: 前回配布したプリント (A3 両面で2枚程度) を読み直すこと 復習: 配布資料 (マクルーハン、ボードリヤールからの抜粋等) についての小問題に答えること (予習と復習合わせて、2時間程度の作業時間を想定しています)

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A New History of Western Philosophy	Anthony Kenny	Oxford University Press
	2			
	3			

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Moodle

Teams コード 4o7png2

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段 個人メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	Google Form によって提出してもらった各授業回の課題×15回分で評価します。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	非常勤講師室
備考	質問等は出講時に、授業の後また非常勤講師室にて対応します。

科目名	国語学	科目名 (英文)	Japanese Language
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	橋本 正俊
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1310a1		

授業概要・目的	国語学は、「日本語とは何か」を考える学問である。高校までの「国語」とはまったく異なるのでそのつもりで。この授業では、世界の言語とも比較しつつ、日本語を分析することで、日本語を見つめ直すことを目的とする。言葉について考えることは、人間について、社会について、文化について、考えることにもつながる。単に日本語についての知識を得るのではなく、広い視野をもって考える力を身につけて欲しい。
到達目標	日本語の特色をいくつかあげ、具体的かつ正確に説明することができる。
授業方法と留意点	講義を中心にする。必要な資料をプリントで配布する。講義の最後に、コメントペーパーを配布し、まとめや質問に答える作業を行う。(遠隔授業の場合は、コメント・課題などをwebで入力、または提出する方法を採ります。)
科目学習の効果(資格)	日本語に対する理解が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日本語とは何か	授業の進め方、概説 日本語について考える	事後：提示した日本語に関する疑問について考える (1時間)
	2	世界の中の日本語 1	日本の文字について、世界の文字とあわせて考察する	事後：日本語の文字の特徴について調べる(2時間)
	3	世界の中の日本語 2	日本語の文法的特徴について考える	事後：日本語の文法の捉え方について調べる(2時間)
	4	世界の中の日本語 3	日本語は、世界の言葉の中でどのように位置づけられるか	事後：2～4回の内容を復習してまとめる(2時間)
	5	発音 1	日本語の調音について詳しく知る	事後：日本語の調音について調べる(2時間)
	6	発音 2	日本語の子音について詳しく知る	事後：日本語の子音の調音について、自身で確認しまとめる(2時間)
	7	拍と音節	日本語の拍と音節について考える 拍の一覧表を作成する	事後：日本語の拍について調べ、授業内容を振り返る(2時間)
	8	アクセント 1	東西におけるアクセントの違いを見る	事後：日本語のアクセントの特徴を調べてまとめる(2時間)
	9	アクセント 2	アクセントの高低配分について考える	事後：日本語のアクセントの法則について調べ、授業内容をまとめる(2時間)
	10	文法 1	自動詞と他動詞について考察する	事後：授業時の課題にとりくみ、自動詞と他動詞についてまとめる(2時間)
	11	文法 2	受身文について考察する	事後：日本語の受け身文の特徴について、課題に取り組む(2時間)
	12	文法 3	「～た」形、「～ている」形について考察する	事後：授業時に示した課題に取り組む(2時間)
	13	標準語と方言	標準語と方言の関係について考える	事後：方言と標準語について調べ、授業内容を整理する(2時間)
	14	方言の広がり	現代語における方言の位置づけを考える	事後：授業で示した例を参考に、方言の広がりについて調べる(2時間)
	15	まとめ	これまでの授業内容を整理する	事後：これまでの授業内容をまとめる(2時間)

実務経験	
関連科目	文学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験を実施する。 定期試験の成績(75%)、授業時の課題(25%)により評価する。 (遠隔授業の場合は、定期試験を実施しません。最終課題(50パーセント)、授業後の課題(50パーセント)とします。)
学生への メッセージ	日常当たり前のように用いている「ことば」そのものに関心を持って下さい。
担当者の 研究室等	7号館4階(橋本研究室)
備考	コメントペーパーの回答、質問については、次回にフィードバックします。 事前事後学習時間の目安は、上記に試験勉強時間などを加え、約60時間です。

科目名	日本史概論	科目名 (英文)	Japanese History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我部 愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1405a2		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。本授業は、上記の前提に基づき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的ではなく、客観的に捉える視角が必要である。したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得た上で、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する(数回程度の課題提出)。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法について説明する。 あわせて歴史学を学ぶ意義や、日本史学という学問の特質を提示する。	シラバスを一読しておくこと。
2	原始・古代(1):先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
3	原始・古代(2):古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
4	原始・古代(3):摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
5	中世(1):武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
6	中世(2):モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
7	中世(3):室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
8	中世(4):戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
9	近世(1):江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約250年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
10	近世(2):江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
11	近世(3):幕末の動乱と江戸幕府の終焉	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊辰戦争への流れを概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読	

				しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	12	近・現代 (1)：明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のりを歩んだのか考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	13	近・現代 (2)：対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	14	近・現代 (3) 第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「太平洋戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	15	近・現代 (4)：戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業後の提出物（コメントペーパー・課題等）20% 期末レポート 80%			
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。			
担当者の 研究室等	連絡先：haruyanagi.akatokikudachi@gmail.com			
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界史概論	科目名 (英文)	World History Introduction
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 良生
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1406a2		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパ近現代史を通じて、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目的とする。そのために、ヨーロッパ近現代史の基礎的な知識を習得し、近現代とはどのような時代かを理解することを目的とする。
到達目標	ヨーロッパ近現代史の重要な転機を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進める。オンライン授業としては、パワーポイントをもとに作成した動画を配布する予定である。
科目学習の効果 (資格)	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	学問としての歴史学について	(事前) 近代と現代という時代がいつかを調べてくる。
2	イギリス産業革命	産業革命の歴史的意義	(事前) 産業革命における技術革新について調べてくる。	
3	フランス革命①	革命の勃発・展開・終焉	(事前) フランス革命の展開について簡単に調べてくる。	
4	フランス革命②	フランス革命の文化的側面	(事後) 授業内容を復習してフランス革命の文化的側面について理解する。	
5	フランス革命以後のヨーロッパ	ナポレオン帝国とウィーン体制	(事前) ナポレオンの諸業績について調べてくる。	
6	国民国家の時代①	国民国家とナショナリズムについて	(事後) 復習として現代世界におけるナショナリズムをめぐる対立や問題について調べる。	
7	国民国家の時代②	国民国家形成の進展	(事前) これまでの生活において国民感情を喚起された出来事について考えてくる。	
8	帝国主義の時代	帝国の形成と植民地主義	(事前) 19世紀後半から第一次世界大戦までの欧米列強の植民地の範囲について調べてくる。	
9	第一次世界大戦	はじめての「総力戦」	(事前) 第一次世界大戦の経緯について調べてくる。	
10	ファシズムの時代	ナチズムの誕生と展開	(事前) ヒトラーの生涯について調べてくる。	
11	第二次世界大戦	戦争の展開と世界の再編	(事前) 第二次世界大戦の経緯について調べてくる。	
12	冷戦の時代	冷戦構造と社会	(事前) 西側諸国と東側諸国に参加していた国についてそれぞれ調べてくる。	
13	ヨーロッパ統合の歴史	冷戦下のヨーロッパ	(事後) 復習として近年のイギリスによる EU 離脱 (ブレグジット) に関するニュースを調べる。	
14	近現代の人びとの生活	近現代社会と余暇の過ごし方	(事後) 授業内容を復習して、近現代の人びとの時間感覚について理解する。	
15	講義全体のまとめ	「近代」と「現代」	(事前) 全授業内容を復習しておく。	

実務経験	
関連科目	ヨーロッパ史学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	aoziwi9

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、安易に「正解」を求めめるのではなく、歴史を通じて現代社会や未来についての能動的で批判的な思考力を涵養する学問です。過去の遠い世界の話として一方的に聞くのではなく、講義内容をうけて自分の生活など身近なところにある問題についてこれまでとは違った目線で考えるようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	授業時間外での質問などについては、講師の個人メール (第1回講義で知らせる) などで対応する。
----	---

科目名	スポーツの歴史	科目名 (英文)	History of Sports
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2360a1		

授業概要・目的	スポーツは実践することと観戦することの両方が楽しめる。スポーツの文化としての奥深さはその起源、ルールの変遷、そして名プレーヤーなどについて学ぶことでさらに深まる。特にオリンピックは2020年東京で開催され、オリンピックの歴史を学ぶことがスポーツ文化を学ぶことになる。また、スポーツのルールの変遷は、テレビなどのマスコミに左右される時代である。ルールの変遷に伴い技術・戦術なども大きく変わってきた。本講義では、それらの歴史を学ぶことによって教養を高め、よりスポーツを楽しめるような基礎知識を身につけることを目的とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、①オリンピックの歴史を飾ってきたメダリストや出来事について学習し、オリンピックの変遷を理解する。②各スポーツの歴史と発展に貢献した人物について学習する。③スポーツ用具やスポーツ技術の進化とルールの変遷とのかかわりを理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	授業は対面形式で行う。第1回目のガイダンスは、授業方針、目的、評価方法など詳細を遠隔で実施する。 2回目以降登校の際は感染予防に留意し、登校前に検温、健康観察を行い、教室内では必ずマスクを着用する。体調の悪い場合は、教員にメールで連絡し自宅待機とする。 自宅待機の場合、授業を遠隔リアルタイムで行う。
科目学習の効果 (資格)	スポーツの歴史を理解し、オリンピックを中心としたスポーツ文化を学ぶことによって、社会人として必要な幅広い教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス スポーツの歴史とは	授業の目的、方針、内容、評価方法などを詳しく説明する。 スポーツの歴史を学ぶことの意味、重要性を学習する。	あらかじめシラバスをよく読み、配布された資料を見直す。(1時間)
2	オリンピックの歴史 (1)	古代オリンピック I	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
3	オリンピックの歴史 (2)	古代オリンピック II 近代オリンピックへの変遷	インターネットで古代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
4	オリンピックの歴史 (3)	近代オリンピック I (創成期) 近代オリンピックの発案者 日本のオリンピックへの参加	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
5	オリンピックの歴史 (4)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物①	インターネットで近代オリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
6	オリンピックの歴史 (5)	近代オリンピック II (第2次世界大戦まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
7	オリンピックの歴史 (6)	オリンピックにおいて日本に貢献した人物②	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
8	オリンピックの歴史 (7)	近代オリンピック III (第2次世界大戦から現代まで)	インターネットでオリンピックについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
9	サッカーの歴史 (1)	サッカーの起源からラグビーの分化まで	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
10	サッカーの歴史 (2)	日本サッカーの歴史	インターネットでサッカーについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
11	テニスの歴史	テニスの起源と現代テニス	インターネットでテニスについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
12	その他のスポーツの歴史	柔道、バスケットボール、バレーボール、野球など	インターネットで各スポーツの歴史について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
13	スポーツ用具の変遷	スポーツ用具の材料や形状の変遷について	インターネットでスポーツ用具について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
14	スポーツルールの変遷	様々なスポーツでのルールの変遷について	インターネットでスポーツルールについて調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)
15	スポーツ新技術	スポーツ新技術がもたらした革命	インターネットでスポーツ新技術について調べる。 配布された資料を見直す。(1時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」
------	-------------------------------

Teams コード	qg84qz7
-----------	---------

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	平常点40%、課題60%を合計して評価する。
学生への メッセージ	学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。 東京オリンピックが延期となり、歴史も変わりました。身近なこととしてスポーツの歴史を学んでください。
担当者の 研究室等	総合体育館 近藤研究室 kondo@mpg.setsunan.ac.jp
備考	オンラインで出される課題提出は期限が設定されるので、期限を守ってください。

科目名	地誌学	科目名 (英文)	Regional Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	麻生 将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1309a1		

授業概要・目的	この講義では世界の各地域の特徴について自然環境、歴史、文化、政治、経済など様々な観点から総合的に理解する。そして、地誌学を通して「地理的なものの方・考え方」とその基礎にある地理学的な知識・思考を習得してもらうことをめざしている。そのためには、当然のこととして見過ごしてしまいがちな身近な事象について「なぜここに?」「どこからどこへ?」などと地理的好奇心を常に持ち続けることが地理的なものの方、考え方につながる。
到達目標	世界の各国、各地域について適切かつ客観的な情報に基づいて理解する能力を身に付け、現在の世界的な課題や国際情勢を捉える視点を持てるようになる。
授業方法と留意点	最新の教科書を用いて講義形式で進める。
科目学習の効果 (資格)	中学社会・高校地理歴史教員免許

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	東アジアの地誌 (1)	日本の政治・経済・文化・自然環境	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
3	東アジアの地誌 (2)	中華人民共和国の自然・歴史・社会・文化	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
4	東アジアの地誌 (3)	朝鮮半島の歴史・現状・課題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
5	東南アジアの地誌	ASEAN (東南アジア諸国連合) 地域の政治・経済を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
6	南アジアの地誌	インドの自然環境と産業を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
7	西アジアの地誌	イスラーム・原油・パレスチナ問題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
8	アフリカの地誌	アフリカ諸国において今も続く植民地の影響と政治、経済	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
9	ヨーロッパの地誌 (1)	EU (ヨーロッパ連合) の成立とその背景	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
10	ヨーロッパの地誌 (2)	EU (ヨーロッパ連合) の今後	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
11	ロシアと周辺地域の地誌	冷戦前後の政治・経済・環境問題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
12	北米の地誌	アメリカ合衆国と世界	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
13	南米の地誌	自然環境・経済・政治の現状と課題	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
14	オセアニアの地誌	オーストラリアの自然環境・政治・経済を中心に	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)
15	まとめ	総括と期末試験の説明	授業内で提示した参考文献を読み、講義ノートを復習しておくこと (事前学習 1.5 時間, 事後学習 1.5 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	人文地理学、自然地理学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地誌学概論 (第2版)	矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢 編	朝倉書店
2	地理学概論 (第2版)	上野和彦・椿真智子・中村康子 編	朝倉書店	
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Teams「オンライン型」
Teams コード	isx3syi
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	dankebitte0605@gmail.com
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	期末レポート70%、平常点30%（平常課題を何度か課す。）
学生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義中の私語、不必要な飲食、携帯電話・スマートフォン等の操作を禁止する。講義の進行を著しく妨害するような態度をとった場合、退室を命じることがある。 2. 授業では毎回の冒頭で配布するレジュメを用いる。講義形式を基本とするが、簡単なディスカッションを時々行う。高等学校で地理を履修していなかったとしても、初学者にも分かりやすい授業を心掛けるので、問題はない。 3. また、中学や高校の地理の授業で用いた地図帳を常時持参することが望ましい。 4. 講義中に何らかの作業を行うことがあるので、マーカーまたは色鉛筆
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1308a1		

授業概要・目的	我々人類は過去から現在に至るまで環境に種々の働きかけを行い、これを改変してきた。本講義では、人々の日々の営みが地理的環境といかなる関わりを持っているのかを概説していきたい。
到達目標	最終的には、受講者全員が現代の環境問題について興味を持ち、理解し、考え方を確立してくれることを期待している。これら3点をクリアできれば、この科目を受講したことが諸君の今後の人生に大いに役立つであろう。
授業方法と留意点	WebFolder にあげた音声入りのパワーポイントファイルを使って講義を行います。講義実施日から1週間以内をめどに必ず見て下さい。何回かレポート課題を課しますので、自らも疑問点を調べるといった態度で受講して下さい。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているのかを身近に感じることができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理学とは？	・地理学の歴史 ・地理学の定義	指定テキストに目を通して下さい。
2	地域のとらえ方	・一般地域と特殊地域 ・等質地域と結節地域	指定テキストに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
3	ダム建設にともなう社会環境の変化	・ダムの歴史 ・ダムサイトまでのアクセスルートの建設 ・水没保障	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
4	農業地域における都市化と中小河川の治水	農業地域の都市化にともない、農業水利組織によって行われてきた面的治水がどのように維持されたか、あるいは崩壊していったか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
5	親水と多自然型川づくり	・親水について ・多自然型川づくりについて	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
6	ため池の多面的機能	ため池の持つ多面的な機能とその利用	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
7	ため池の潰廃とその保全	・開発にともないため池はどのように潰廃されていくか ・開発にともないため池はどのように保全されるか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
8	日本における干拓の歴史	・干拓の歴史と戦後の干拓	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
9	輪中地域における生活	・輪中とは？ ・輪中地域における水災害に対する生活の知恵	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
10	すみわけられた都市社会空間	・インナーシティ問題 ・エスニックマイノリティ社会	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
11	広域中心都市仙台の発展	・広域中心都市とは ・仙台の発展状況 ・仙台における東日本大震災の影響	配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
12	ニュータウンの高齢化	・日本におけるニュータウンの成立 ・千里ニュータウンの高齢化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
13	都市商業の盛衰と多様化	・都市商業の発展と社会環境の変化 ・都市中心部の空洞化と都市商業の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。全壊の授業内容を確認してください。	
14	伝統工業の現状と課題	京都を例として	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	
15	平安京の歴史的環境	・平安京の歴史的環境の変化	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の授業内容を確認してください。	

実務経験	
関連科目	自然地理学・地誌学・環境関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	レポート試験を実施します。配点は60点です。さらにパワーポイント講義を聞いてもらった後、何回かレポート課題を課しますので、期日まで

(基準)	に WebFolder の指定したフォルダーに提出して下さい。配点は 40 点です。なお評価のポイントは、自分なりの考えが持てるようになったかどうかです。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいられると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。口頭で説明した内容やスライドの内容も要約して、しっかりノートにまとめる習慣を身に付けていただきたい。なおテキストは後期開講の「自然地理学」でも使用する予定である。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、1 時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	堀 篤史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01311a1		

授業概要・目的	この授業では、「企業の見方」、「経済の見方」を具体的事例に即して分かりやすく解説し、経済・金融の基本的知識を習得することを目的とする。			
到達目標	この授業を通じて 経済・金融のエッセンスを身に付けることで、新聞の経済面の記事のある程度理解できるようになることが期待される。			
授業方法と留意点	レジュメを用いて講義形式で行う。参考文献は随時紹介していく。			
科目学習の効果 (資格)	経済学検定			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	なぜ、経済・金融の知識が必要なのか。	———
	2	金融とは①	株式に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	3	金融とは②	金融リテラシーの必要性を学習する。	前回の内容を復習すること。(1時間)
	4	企業分析入門①	会計に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	5	企業分析入門②	第4回の続き	練習問題を解いておくこと。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	6	企業分析入門③	具体的な事例を挙げ、企業分析の手法を学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	7	企業分析入門④	第6回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(2時間)
	8	市場取引の基礎知識	価格はどうして決まるのか。市場メカニズムが資源配分に与える影響について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	9	前半のまとめ	前半のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
	10	日本経済について	経済状況を把握するための代表的な経済指標について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	11	日本の財政①	日本の財政状況について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	12	日本の財政②	第11回の続き	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	13	金融政策について	金融政策に関する基本的な知識について学習する。	レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	14	国際金融	為替相場に関する基本的な知識について学習する。	前回の内容を復習すること。 レジュメの指定したページを読むこと。(1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを行う。	練習問題を解いておくこと。(1時間)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門経済学	伊藤元重	日本評論社
	2	初めて学ぶ人のための経済入門	松村敏・玉井義浩	培風館
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (85%)、受講態度 (15%)			
学生への メッセージ	金融・経済に関する知識は、今後就職、起業の際に必要な不可欠です。			
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室 (法学部非常勤講師室)			
備考				

科目名	教養経済学	科目名 (英文)	Economics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01312a1		

授業概要・目的	日本経済の身近な事例を題材として説明し、経済活動の仕組みの基礎や日本経済と世界とのつながりについて理解することを目的とします。
到達目標	経済活動の仕組みの基礎を理解することによって、今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ際の基礎的理解を養います。履修者はこの授業を受けることで、国民経済に関するニュース報道などの基本事項を理解することができ、身近な生活と国民経済の関係について理解を深めることができます。
授業方法と留意点	授業はオンラインによるものでレジュメを配布し、それを説明する授業動画を配信します。授業は基本的にオンデマンド方式ですが、一部で同時配信方式を取り入れる場合があります。授業配信はWeb Folderを用います。
科目学習の効果 (資格)	今後、経済学のさまざまな分野を学ぶ差異の基礎的理解を習得します。履修者はこの授業御受けることで日本の財政や貿易など国民経済に関する基本事項を理解できるようになります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要の紹介	初回はイントロダクションなので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと
2	国民経済の指標	国民経済の指標としての有効求人倍率と完全失業率の考え方	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
3	付加価値	国民経済の最も基礎的な概念である付加価値の考え方	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
4	国内総生産と付加価値	国内総生産と付加価値の関係について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
5	国内総生産の三面等価	国内総生産の生産面、支出面、所得面の見方とその関係	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
6	名目 GDP と実質 GDP	国内総生産と物価の関係について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
7	インフレの問題点	物価変動の仕組みとインフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
8	デフレの問題点	持続的なデフレによる問題点について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
9	通貨の種類	さまざまな通貨の種類について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
10	通貨と信用創造	金融機関の役割と信用創造の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
11	日本銀行と金融政策	日本銀行の役割と金融政策について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
12	財政政策	財政政策の仕組みについて	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
13	財政と社会保障	日本の財政と社会保障について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
14	財政赤字の問題	財政赤字の発生要因について	配布レジュメを用いて前回分の復習を1時間程度、次回授業の予習を30分程度行うこと
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	最終回授業なので、配布レジュメを用いて1時間程度の復習を行うこと

実務経験	
関連科目	経済学 I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder/Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	uk3mcfp
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Teams 内のチャットを用います
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業のオンライン化に伴い例年の成績評価方法とは異なります。授業内で課す課題や小レポートなどによる評価 (50 点分) と期末課題 (レポート等) (50 点分) を総合して評価します。
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)
備考	

科目名	経営学入門	科目名 (英文)	Introduction to Management
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島山 俊宏
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01313a1		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と経営学検定の過去問題の演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。 授業担当者は、民間企業における経理事務の経験から企業の経営活動の実践的な分析方法を教授する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論、グローバル経営論の基礎的な内容を説明できる。 ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	教科書を予習した後に解説動画を視聴する。動画を視聴した後はMoodleで経営学検定の過去問題の演習を行う。正解できるまで繰り返し受験することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	経営学検定、中小企業診断士、公認会計士、公務員試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	企業と経営	本講義のガイダンスと企業と経営の概要について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1部第1章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業・会社の概念と諸形態	様々な企業の形態について学習する。	事前：教科書の第1部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	所有・経営・支配と経営目的	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第1部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	会社機関とコーポレート・ガバナンス	株式会社の様々な機関とコーポレートガバナンスについて学習する。	事前：教科書の第1部第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	経営戦略の体系と理論	経営戦略の概念や経営戦略論の発展について学習する。	事前：教科書の第2部第1章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	全社戦略 (1)	全社戦略の概要やドメインについて学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	全社戦略 (1)	成長のための戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	事業戦略	事業戦略や競争戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	機能別戦略	研究開発、生産、マーケティング、人事等の機能別の戦略について学習する。	事前：教科書の第2部第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	経営組織の基本形態	ライン組織、ファンクショナル組織、ライン・アンド・スタッフ組織等の経営組織の基本形態について学習する。	事前：教科書の第3部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	企業組織の諸形態 (1)	職能部門制組織、事業部制組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	企業組織の諸形態 (2)	マトリックス組織等の企業組織の様々な形態について学習する。	事前：教科書の第3部第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	M&Aと買収防衛策	M&Aの目的・手法、買収防衛策について学習する。	事前：教科書の第5部第1章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	経営のグローバル化	経営の国際化、グローバル化について学習する。	事前：教科書の第5部第2章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	企業経営と情報化	企業経営における情報化の進展、情報ビジネスについて学習する。	事前：教科書の第5部第3章を読んでおくこと。小テストに解答しておくこと (1.5時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

実務経験

関連科目 企業論、経営戦略論、経営組織論、人的資源管理論、グローバル経営論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経営学検定試験公式テキスト1	経営学の基本	経営能力開発センター
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「教材・課題配信型」/Moodle

Teams コード	c3hfemh
Moodle コース名 および登録キー	経営学入門（法学部） business
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	15回分の学習終了後に Moodle で実施する小テスト 20%、期末レポート 80% で評価する。
学生への メッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
担当者の 研究室等	11号館8階 島山研究室
備考	授業内容に関する質問は、メールと Teams で対応する。メールアドレスについては、Team s および講義資料に記載する。

科目名	会計学	科目名 (英文)	Accounting
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02314a1		

授業概要・目的	<p>会計情報は、債権者や投資家など特定の人々にのみ有用なものではない。今日の経済社会においては、すべての人々が企業活動と何らかの関係を持っている。企業は、地域社会をはじめ多くの関係者と利害関係を有しており、会計情報は、誰にとっても必要で有用な情報である。また、会計はビジネスの言語といわれ、ビジネスに不可欠になっている。会計を知らずして、経済社会を理解することはできないといえる。本講義では、会計の意義、目的、規範、会計情報開示制度等に関する基礎的知識・用語を初心者向けに分かり易く解説し、公表されている会計情報、財務諸表から企業の経営内容を読み取り、理解できるようになり、また、2年生以降に履修することになる上級科目のより円滑な理解に結びつくことを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の目的、役割を理解する。 ・我が国の会計制度、会計情報開示制度の概要を理解する。 ・自ら必要な会計情報を入手できるようになる。 ・財務諸表の内容、作成ルールを理解し、会計情報から企業内容を推察することができる。
授業方法と留意点	<p>原則として、オンライン授業とする。 授業は、Teamsにより実施し、教材、課題の提出は、Web Folder を使う</p>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスマンとして必要なビジネス言語である会計リテラシーが修得できる。 ・組織 (主として企業) に関する会計情報を読み取る力を修得することにより2年次以降の学びに有用である。 ・経営学部に関連する一連の各種資格取得のための受験準備スタートのよい契機になる。 ・会計と資格、職業についての理解が得られる。(公認会計士、税理士、国税専門官、不動産鑑定士、中小企業診断士等)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	会計の意義と目的	会計の意義、財務会計と管理会計、会計の役割・機能	配布資料の復讐と整理 (1 時間)
2	わが国の会計制度	トライアングル体制、会社法会計、金融商品取引法会計、税務会計	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
3	会計情報開示制度	ディスクロージャーとは、電子開示システム	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
4	会計基準	企業会計原則、会計基準の国際的統合	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
5	会計情報の内容 (1)	会計情報の入手方法、個別財務諸表と連結財務諸表	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
6	会計情報の内容 (2)	貸借対照表 様式、基本原則、分類基準	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
7	会計情報の内容 (3)	貸借対照表 資産について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (90 分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
8	会計情報の内容 (4)	貸借対照表 負債について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
9	会計情報の内容 (5)	貸借対照表 純資産について	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
10	まとめと確認テスト	まとめと小テスト	事前学習 (90 分) 今までの配布資料、練習問題の復讐 事後学習 (30 分) まとめテストの見直し
11	会計情報の内容 (6)	損益計算書 収益の認識と測定	事前学習 (30 分) まとめてテストで理解できないところを調べる 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
12	会計情報の内容 (7)	損益計算書 費用の認識と測定 営業損益、経常損益、純損益	事前学習 (30 分) 前回の講義、練習問題の復讐 事後学習 (1 時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
13	会計情報の利用・分析	安全性分析、収益性分析	事前学習 (30 分)

				前回の講義、練習問題の復習 事後学習(90分) 当日の配布資料の見直しと提示された課題レポートの作成
	14	会計と職業・資格	日商簿記検定、ビジネス会計検定試験、 BATIC、公認会計士、税理士、国税専門 官、不動産鑑定士、中小企業診断士	事前学習(30分) 前回の講義、練習問題の復習 事後学習(1時間) 当日の配布資料、練習問題の見直し
	15	まとめ	講義の復習とまとめ 質問の受付	事前学習(1時間) 今までの講義でどこが理解できていないか箇条書 きにする。 事後学習(5時間) 試験に備え、今までの復習
実務経験				
関連科目	経営学、企業簿記			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	アカウンティング	笹倉 淳史他	同文館出版
	2	1からの会計	桜井 久勝	中央経済社
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	2kcol8j			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への(参加)と課題の提出(50%)、定期テスト(50%)			
学生への メッセージ	毎回授業に出席して、練習問題を自分で解いて下さい。			
担当者の 研究室等	佐井研究室(11号館8階)			
備考				

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1302a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、知覚や記憶のメカニズム、学習理論やコミュニケーション法を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。</p> <p>これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。</p>
到達目標	<p>自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事の捉え方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>Web folder にパワーポイントの資料を提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。スライド部分だけでなく、画面下部のノートというところに、講義で話す予定だった内容も書かれていますので、そちらも読むようにしてください。</p> <p>自己紹介、試験や成績評価については、資料にも記載していますが、動画を載せることができたら、動画でも自己紹介、試験や成績評価の説明をおこないます。コロナに関する役立ちそうな情報も載せることができたら載せるかもしれません。</p> <p>試験に代わる課題については、7月に入ってからⅡ</p>
科目学習の効果(資格)	自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	教科書で、興味を持った分野を見つけて、一読しておくことが望ましい。
2	感覚と知覚について	本講義では、知覚の種類や機能について解説し、私たちが日常生活でどのように物事を捉えているのかについて学ぶ。	五感とは何かを調べて、自分と他人でどのように感じ方が異なるのかを考えておくことが望ましい。	
3	記憶について	本講義では、記憶の仕組みや記憶に関する疾患について学ぶ。	教科書(暮らし 08)を一読しておくことが望ましい。	
4	学習理論、子育て、人の伸ばし方について	本講義では、人や動物がどのように学習し行動を形成するのか、子どもや他人をどのように伸ばせばいいのかを学ぶ。	教科書(仕事 06, 09, 人間関係 03, 06)を一読しておくことが望ましい。	
5	自尊心(自信)について	本講義では、生きていくうえで重要な自尊心(自信)について学ぶ。	教科書(悩み 08, 暮らし 01, 友だち 01, 08, 09, 人間関係 05)を一読しておくことが望ましい。	
6	性格やパーソナリティ障害について	本講義では、人の性格がどのように形成されるのか、パーソナリティ障害とはどのようなものなのかについて学ぶ。	教科書(悩み 05, 友だち 05, 07, 人間関係 08)を一読しておくことが望ましい。	
7	青年期の発達と青年期に発症しやすい疾患について	本講義では、青年期の発達とその時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	教科書(暮らし 02, 恋愛 06)を一読しておくことが望ましい。	
8	成人、高齢者の発達と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について	本講義では、成人と高齢者の発達の過程と課題、それらの時期に発症しやすい疾患について学ぶ。	うつ病や認知症について、さらには、平均初婚年齢の変化など、成人の課題についても調べておくことが望ましい。	
9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましい。	
10	DV(ドメスティックバイオレンス)について	本講義では、DVの背景や実情について学ぶ。	教科書(恋愛 09, 12, 14)を一読しておくことが望ましい。	
11	社会的認知、集団の心理について	本講義では、社会的認知や集団における心理や行動について学ぶ。	教科書(仕事 05, 08)を一読しておくことが望ましい。	
12	感情と欲求、ストレスマネジメントについて	本講義では、感情の種類や機能、人間の欲求、ストレスマネジメントについて学ぶ。	教科書(悩み 01, 02, 03)を一読しておくことが望ましい。	
13	コミュニケーション、傾聴、共感について	本講義では、コミュニケーションで大切な傾聴(話の聴き方)や共感について学ぶ。	教科書(悩み 06, 07, 友だち 11, 仕事 11, 人間関係 02)を一読しておくことが望ましい。	
14	コミュニケーション、日常生活に役立つ心理学について	本講義では、よりよい頼み方や断り方、謝り方などについて学ぶ。	教科書(暮らし 02, 仕事 03, 04)を一読しておくことが望ましい。	
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書の全章を復習しておくことが望ましい。	

実務経験	
関連科目	臨床心理学、発達心理学、コミュニケーション学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラスト図解 わかる！使える！はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップアップ心理学シリーズ 心理学入門 こころを科学する10のアプローチ	板口 典弘	講談社
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 7月に入ってから、Web folder に課題を提示する。 各自ダウンロードして、課題を完成させる、その課題の得点を成績評価に用いる (100%)。 課題の提出は、Web folder で提出するものとする。
学生への メッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の 研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
備考	<ul style="list-style-type: none"> 講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします (メールでも可)。 事前事後学習に、毎回30分以上かけると、定期試験の点数も取りやすくなります。

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	樋口 隆弘
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1303a1		

授業概要・目的	本講義では、最近の個人のあり方や生き方、家族構成や家族関係の複雑・多様化、AI(人工知能)やSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)の発展などの社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学ぶ。さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とする。
到達目標	社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること。さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めること。
授業方法と留意点	Web folder にパワーポイントの資料を提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。スライド部分だけでなく、画面下部のノート(メモ)というところに、講義で話す予定だった内容も書かれているので、そちらも読むようにしてください。 自己紹介、試験に代わる課題や成績評価については、資料にも記載していますが、動画でも説明をおこなう予定です。試験に代わる課題については、12月に入ってからWeb folder にあげます。 講義や課題に関する連絡事項は、Teams で全員に送るようにします。
科目学習の効果(資格)	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは? 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に考えておくことが望ましい。
2	不登校について	本講義では、近年増加傾向にある不登校について学ぶ。	不登校について事前に調べておくこと、自分ならどのような場合に不登校になりそうかを考えておくことが望ましい。
3	ひきこもりについて	本講義では、近年増加傾向にあるひきこもりについて学ぶ。	ひきこもりについて事前に調べておくこと、自分ならどのような場合にひきこもりになりそうかを考えておくことが望ましい。
4	SNS(ソーシャルネットワークサービス)について	本講義では、近年発展が続いているSNSについて学ぶ。	SNSのメリットとデメリット、自分がSNSについてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい。
5	モンスターペアレントやクレイマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレイマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレイマーの心理について事前に考えておくことが望ましい。
6	介護について	本講義では、近年の介護における問題について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい。
7	産業の変化について	本講義では、産業の変化(サービス業の増加)について学ぶ。	サービス業(コミュニケーションが求められる仕事)の増加による問題について、事前に考えておくことが望ましい。
8	自傷行為、自死について	本講義では、自傷行為や自死の背景やその心理について学ぶ。	近年の自死の傾向や対策について調べておくことが望ましいが、気持的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
9	虐待について	本講義では、虐待の背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、虐待の実情や近況を見ておくことが望ましいが、気持的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
10	DV(ドメスティックバイオレンス)について	本講義では、(デート)DVの背景や実情について学ぶ。	ニュースなどをチェックして、(デート)DVの実情や近況を見ておくことが望ましいが、気持的に辛い場合は事前学習をしなくてもよい。
11	ハラスメントについて	本講義では、さまざまなハラスメントが発生する背景やその心理について学ぶ。	自分であれば、どのような場合ハラスメントを受けそうか、もしくはしてしまいそうかを事前に考えておくことが望ましい。
12	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい。
13	ロボット(AI)の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット(AI)の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい。
14	ペットに対する人の心理の変化について	本講義では、人とペットにおける関係性の変化、人の心理の変化について学ぶ。	人とペットの関係性の変化、ペットビジネスの今後について事前に考えておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい。

実務経験	
関連科目	臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イラスト図解 わかる!使える!はじめての心理学	ゆうきゆう	学研プラス
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder
Teams コード	oxoxqa6
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	Tams チャット、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	・12月に入ってから、Web folderの教材フォルダに課題を提示する。各自ダウンロードして、課題を完成させる。その課題の得点を成績評価に用いる(100%)。課題の提出は、Web folderの提出フォルダに提出するものとする。 *各回に課題があるわけではないので、各回で提出するものではありません！
学生への メッセージ	心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の 研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室
備考	・質問は、Teamsのチャット、もしくはメールでしてください。 できるだけ、3日以内に返信するようにします。

科目名	社会学 I	科目名 (英文)	Sociology I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01315a1		

授業概要・目的	社会学という営みは、いかなる問題意識をもち、何をやっているのか。また、その営みによって何が明らかになってきたのか。この授業では、こうした問いに迫るために、社会学の基本的なものの見方について解説する。授業の前半では、社会学の成立の過程をたどりつつ、他の学問とは異なる社会学に固有の関心事を考えていく。授業の後半では、社会学の巨匠たちの古典的業績を参照しつつ、現代にも通じる近代社会の諸問題について考えていく。
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一步深い水準から考察することができるようになる。
授業方法と留意点	PowerPoint で作成した音声付きの講義資料をアップし、それを視聴してもらう。 授業担当者は授業時間中、チャット機能を用いて受講生からの質疑に随時応じる。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。
2	社会学の概要	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
3	社会学前史 (1)	17 世紀と社会契約論	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
4	社会学前史 (2)	18 世紀とスコットランド啓蒙	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
5	社会学の登場	19 世紀とその思想的諸相	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
6	デュルケムの社会学	デュルケムの生涯、デュルケム社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
7	デュルケム『自殺論』を読む (1)	『自殺論』のもくろみ	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
8	デュルケム『自殺論』を読む (2)	連帯の欠如、「自己本位的自殺」、夏目漱石	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
9	デュルケム『自殺論』を読む (3)	規制の欠如、「アノミー的自殺」、『ボヴァリー夫人』	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
10	ウェーバーの社会学	ウェーバーの生涯、ウェーバー社会学の対象・方法・関心	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
11	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (1)	『プロ倫』のもくろみ	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
12	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (2)	意図せざる帰結としての資本主義	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
13	ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』を読む (3)	「鉄の檻」	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
14	社会学のその後の展開	20 世紀以降の社会学	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。	
15	講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。	

実務経験	
関連科目	社会学 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	基本的には、週ごとに指示した課題への取り組みによって成績を評価する (提出 10%、できばえ 90%)。
学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。 「社会学 II」の同時履修が望ましいです。
担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
備考	授業内容に関する質問等は、授業終了後に直接、もしくはメールで受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。

motoki.nonomura@gmail.com

また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。

科目名	社会学Ⅱ	科目名 (英文)	Sociology II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS01316a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。この授業では、受講生自らがこれらの問いに向き合えるようになるために、社会学の基本的なものの見方について解説する。授業の前半では、行為をはじめとする社会学の基礎概念、ならびに社会調査について紹介する。授業の後半では、いくつかの個別のテーマを取り上げ、現代社会の動向を社会的にとらえていく。																																																																		
到達目標	受講生は社会学の基本的な知識と考え方を身につけ、さまざまな社会制度・社会問題について、一步深い水準から考察することができるようになる。																																																																		
授業方法と留意点	PowerPointで作成した音声付きの講義資料をアップし、それを視聴してもらう。 授業担当者は授業時間中、チャット機能を用いて受講生からの質疑に随時応じる。																																																																		
科目学習の効果(資格)	日々の個人的な経験を、社会の構造やその変化をおさえながら把握する能力を身につけることができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>講義へのオリエンテーション</td> <td>授業の流れについて理解する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会学の概要</td> <td>社会学とは何か</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>社会学の基礎概念(1)</td> <td>行為、地位、役割</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>社会学の基礎概念(2)</td> <td>社会関係、社会集団</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>社会学の基礎概念(3)</td> <td>意識</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会学と社会調査(1)</td> <td>質的調査</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会学と社会調査(2)</td> <td>量的調査</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会学と社会調査(3)</td> <td>計量分析の基礎</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>家族の社会学(1)</td> <td>近代家族の成立と崩壊</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>家族の社会学(2)</td> <td>未婚化の進展</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>家族の社会学(3)</td> <td>個人・家族・国家の関係</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>政治と経済の社会学(1)</td> <td>新自由主義の概要</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>政治と経済の社会学(2)</td> <td>新自由主義の社会意識論的分析①</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>政治と経済の社会学(3)</td> <td>新自由主義の社会意識論的分析②</td> <td>レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のまとめ</td> <td>総括</td> <td>授業全体を振り返る。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。	2	社会学の概要	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	3	社会学の基礎概念(1)	行為、地位、役割	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	4	社会学の基礎概念(2)	社会関係、社会集団	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	5	社会学の基礎概念(3)	意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	6	社会学と社会調査(1)	質的調査	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	7	社会学と社会調査(2)	量的調査	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	8	社会学と社会調査(3)	計量分析の基礎	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	9	家族の社会学(1)	近代家族の成立と崩壊	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	10	家族の社会学(2)	未婚化の進展	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	11	家族の社会学(3)	個人・家族・国家の関係	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	12	政治と経済の社会学(1)	新自由主義の概要	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	13	政治と経済の社会学(2)	新自由主義の社会意識論的分析①	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	14	政治と経済の社会学(3)	新自由主義の社会意識論的分析②	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。	15	講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	講義へのオリエンテーション	授業の流れについて理解する。																																																																
2	社会学の概要	社会学とは何か	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
3	社会学の基礎概念(1)	行為、地位、役割	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
4	社会学の基礎概念(2)	社会関係、社会集団	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
5	社会学の基礎概念(3)	意識	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
6	社会学と社会調査(1)	質的調査	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
7	社会学と社会調査(2)	量的調査	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
8	社会学と社会調査(3)	計量分析の基礎	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
9	家族の社会学(1)	近代家族の成立と崩壊	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
10	家族の社会学(2)	未婚化の進展	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
11	家族の社会学(3)	個人・家族・国家の関係	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
12	政治と経済の社会学(1)	新自由主義の概要	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
13	政治と経済の社会学(2)	新自由主義の社会意識論的分析①	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
14	政治と経済の社会学(3)	新自由主義の社会意識論的分析②	レジュメや紹介した文献を読んで復習する(1時間)。																																																																
15	講義のまとめ	総括	授業全体を振り返る。																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	社会学Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																																																																		
Teamsコード	j19vgog																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	基本的には、週ごとに指示した課題への取り組みによって成績を評価する(提出10%、できれば90%)。																																																																		
学生へのメッセージ	なかなか難しい授業ですが、関心のある人はのぞいてみてください。本を読むこと、考えることが好きな学生の受講を歓迎します。 「社会学Ⅰ」の同時履修が望ましいです。																																																																		
担当者の研究室等	11号館6階、経営学部非常勤講師室																																																																		
備考	授業内容に関する質問等は、Teamもしくはメールで随時受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。																																																																		

科目名	スポーツ心理学	科目名 (英文)	Sports Psychology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2357a1		

授業概要・目的	スポーツ活動を心理学的な観点から分析・検討するための基本理論や応用のための方法を学ぶ。
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動の基礎となる運動や人について、心理学的な側面から理解を深めることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。
科目学習の効果 (資格)	スポーツ活動だけではなく、日常生活にも応用できる心理学的な知見の獲得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	スポーツ心理学の意義	スポーツ心理学の意義と学問体系を理解する。	スポーツ心理学という学問領域について整理する。
	2	スポーツ心理学の研究法	実験、調査法、観察	配布資料に目を通す。
	3	スポーツと知覚	スポーツと視覚、スポーツヴィジョン	関連資料に目を通す。
	4	スポーツ指導と動機づけ	動機づけの意味と、その方法論	動機付けの方法を抜粋し整理する。
	5	パフォーマンス修得の意味とその段階	パフォーマンス曲線、プラトウとスランプ	スランプとプラトウの違いを整理する。
	6	リーダーシップとスポーツ (1)	リーダーシップの概念	関連資料に目を通す。
	7	リーダーシップとスポーツ (2)	リーダーシップの形式	配布資料の理解。
	8	リーダーシップとスポーツ (3)、これまでの講義のまとめ	リーダーの役割と PM 理論、および到達度確認	これまでの講義の整理とその理解。
	9	フィードバック	フィードバックの種類と効果	フィードバックという概念の検索。
	10	メンタルプラクティス	メンタルプラクティスの効果と実践方法	関連資料に目を通す。
	11	スポーツとパーソナリティー	スポーツとパーソナリティーの関係	パーソナリティーという言葉の検索。
	12	スポーツの経験と態度変容	態度の概念、態度変容理論、スポーツ経験と態度変容	配布資料の理解。
	13	心理的技能とパフォーマンス (1)	心理的技能がパフォーマンスに与える影響	関連資料に目を通す。
	14	心理的技能とパフォーマンス (2)	心理的技能とパフォーマンスとの関係	前回と講義と今回とを関連づけて整理する。
	15	講義のまとめ	講義の総括と到達度の確認	これまでの講義を体系づけて整理する。

実務経験	
------	--

関連科目	スポーツに関する科目全般
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名	
-------------	--

および登録キー	
---------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	複数回出される課題への回答をもって評価する (100%)。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。
-----------	----------------

担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室
----------	---------------

備考	各回に1時間程度、すなわち半期15時間程度を目安に、講義の内容について事前・事後の学習を行ってください。 課題や習熟度確認試験の解説は、次の回の授業で行う。
----	---

備考	19年度 合格率96% (不受験率4%) A7% B29% C46% D14% 平均75点 72人登録
----	---

科目名	社会調査の方法	科目名 (英文)	Social Research Method
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JS02317a1		

授業概要・目的	この授業では、社会調査の概要を述べた上で、特に量的調査に関して、問題設定から報告書作成までの一連のプロセスについて解説する。すなわち、さまざまな社会現象に対して、問いを立て、データを集め、分析し、それによって得られた結果を解釈し、問いに対する答えを報告書にまとめるという、量的社会調査の一連のプロセスについて、守るべきルールや方法をおさえながら解説していく。
到達目標	受講生は、量的調査のデータベースを用いた情報検索の方法、ならびに量的調査を設計する方法を学ぶことを通して、データの収集、分析にかんする知識と実践力を習得することができる。
授業方法と留意点	PowerPoint で作成した音声付きの講義資料をアップし、それを視聴してもらう。 授業担当者は授業時間中、チャット機能を用いて受講生からの質疑に随時応じる。
科目学習の効果 (資格)	社会調査はゼミ活動や卒業研究だけでなく、たとえば市場調査など、就職後にもさまざまな場面で実施することになりうるものである。受講生はそのための知識や技術を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義のねらいと概要	レジュメを読んで復習する (1 時間)。配布した調査票を見てその構造をつかむ。
2	社会調査の概要	質的調査と量的調査、社会調査の現状	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
3	調査を企画する前に	問い (リサーチ・クエスチョン) の立て方と検証の仕方、変数と尺度水準	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
4	調査の企画	実査の方法、他記式調査と自記式調査	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
5	調査票の作成 (1)	質問文の作成、ワーディング	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
6	調査票の作成 (2)	質問文への回答形式の設定	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
7	サンプリング (1)	全数調査と標本調査、サンプリングの諸技法	レジュメを読んで復習する (1 時間)。例題に取り組む。
8	サンプリング (2)	母集団と標本、ランダム・サンプリング	レジュメを読んで復習する (1 時間)。例題に取り組む。
9	調査の実施	実査の手順、調査倫理	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
10	調査データの作成	エディティング、コーディング、データクリーニング	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
11	調査データの集計・分析 (1)	質的変数と量的変数、その集計・分析の仕方	レジュメを読んで復習する (1 時間)。例題に取り組む。
12	調査データの集計・分析 (2)	1 変数の分布と傾向：度数分布と記述統計	レジュメを読んで復習する (1 時間)。例題に取り組む。
13	調査データの集計・分析 (3)	2 変数の関連：クロス表、平均値の差、相関係数	レジュメを読んで復習する (1 時間)。例題に取り組む。
14	調査結果の提示	報告書の作成、論文・レポートの書き方	レジュメを読んで復習する (1 時間)。
15	総括	講義の振り返りとまとめ	授業全体を復習する (1 時間)。

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	入門・社会調査法 (第 2 版)	轟亮・杉野勇編	法律文化社
2	新・社会調査へのアプローチ—理論と方法	大谷信介ほか	ミネルヴァ書房
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	pwc0f5h
-----------	---------

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	基本的には、週ごとに指示した課題への取り組みによって成績を評価する (提出 10%、できれば 90%)。
-----------	--

学生へのメッセージ	技法の習得・理解はもちろんですが、何を明らかにしたいのか、何のために調査するのかといった「問いの内容」がいつそう重要です。日ごろから新聞や雑誌に目を通すなどして、社会に対する関心を持つようになしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 6 階、経営学部非常勤講師室
----------	----------------------

備考	授業内容に関する質問等は、Team もしくはメールで随時受けつける。担当者のメールアドレスは以下の通りである。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp また、試験の講評等については、後日ウェブサイトを用いるなどして受講者に伝える。
----	--

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での教養学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。1つの目安として、公務員・警察官等の採用試験の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントを用いた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	課題レポート
	2	方程式(2)	・2次方程式	課題レポート
	3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
	4	割合(1)	・比 ・混合算	課題レポート
	5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
	6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
	7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
	8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
	9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	課題レポート
	10	確率	・確率の計算	課題レポート
	11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
	12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
	13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	課題レポート
	14	整数(2)	・記数法	課題レポート
	15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

実務経験	
------	--

関連科目	教養物理
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	演習100%で判断する。
-----------	--------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分授業に参加して下さい。どのような些細なことでかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階(数学準備室)
----------	--------------

備考	事前・事後学習の総時間数の目安は15時間。 演習、小テストは採点したのち、返却する。
----	---

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C D
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での教養習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通じて学生には、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることが期待される。 (1つの目安として、総合適性検査 SPI・公務員試験・教員採用試験等の各種採用試験の数理分野の問題に十分に対応できるようになること。)
授業方法と留意点	資料配信型でのオンライン授業を実施する。授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること。定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	例題プリントの見直し
	2	方程式(2)	・2次方程式	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	4	割合(1)	・比 ・混合算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	6	速さ(1)	・速さ ・流水算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	8	速さ(3)	・時計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	10	確率	・確率の計算	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	11	図形の計量(1)	・多角形	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	14	整数(2)	・記数法	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し
	15	規則性	・数列 ・規則性の発見	例題プリントの見直し及び 前回の課題レポートの理解できなかった部分のやり直し

実務経験	
関連科目	教養物理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	適宜プリントを配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題演習30%と最終回のレポート70%の合計によって評価する。
学生への メッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また学習支援センター(3号館2階)を積極的に利用してほしいと思います。
担当者の 研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	事前・事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題レポートは採点して次の回の授業で返却し、適宜講義中に解説をする。

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	EG
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	<p>近年、本学入学時点では数学的知識・論理能力の低下が認められます。一方、社会においては、(特に法律の解釈・訴訟事例では、)かなりの数学的知識・論理能力が必要とされます。</p> <p>そこで、初等的な数学の話題を通して、大学1年生レベルの論理能力を身につけてもらうことをこの授業の目的とします。</p> <p>尚、題材としては、初等整数論への入門をとりあげます。</p>																																																																		
到達目標	教科書を理解する為に必要な義務教育レベルの初等数学を復習し、指定教科書の内容を理解することを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	<p>Moodle を経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施します。詳細は moodle のコース「2020 前期月 1 教養数学(法学部法律学科クラス EG)」に揭示します。</p> <p>(1) 義務教育レベルの初等数学を復習する。</p> <p>(2) (1)を使って循環小数をめぐるいくつかの現象の解明をする。</p> <p>(3) 時間があれば、(2)の延長線上にある初等整数論の話題にふれる。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>連立 1 次方程式とその応用 (1)</td> <td>掃き出し法</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>連立 1 次方程式とその応用 (2)</td> <td>文章題</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>場合の数と確率</td> <td>・順列 ・組み合わせ ・確率</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>数列と級数</td> <td>・等差数列 ・等比数列 ・等比級数</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>整数(1)</td> <td>・約数と倍数 ・Euclid の互除法 ・素因数分解の一意性</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>整数(2)</td> <td>合同式</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>整数(3)</td> <td>中国剰余定理</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ここまでの復習/補足 ・不思議な数</td> <td>ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>小数</td> <td>・実数の 10 進小数表示 ・有限小数の特徴づけ</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>循環小数</td> <td>・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>循環小数の循環節</td> <td>・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての 2 つの観察</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>循環小数と合同式(1)</td> <td>・Fermat の小定理</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>循環小数と合同式(2)</td> <td>純循環小数</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>原始根と Artin 予想(1)</td> <td>原始根</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>原始根と Artin 予想(2)</td> <td>Artin 予想</td> <td>学習内容の復習と応用</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	連立 1 次方程式とその応用 (1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用	2	連立 1 次方程式とその応用 (2)	文章題	学習内容の復習と応用	3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用	4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用	5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclid の互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用	6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用	7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用	8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。	学習内容の復習と応用	9	小数	・実数の 10 進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用	10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用	11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての 2 つの観察	学習内容の復習と応用	12	循環小数と合同式(1)	・Fermat の小定理	学習内容の復習と応用	13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用	14	原始根と Artin 予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用	15	原始根と Artin 予想(2)	Artin 予想	学習内容の復習と応用
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	連立 1 次方程式とその応用 (1)	掃き出し法	学習内容の復習と応用																																																																
2	連立 1 次方程式とその応用 (2)	文章題	学習内容の復習と応用																																																																
3	場合の数と確率	・順列 ・組み合わせ ・確率	学習内容の復習と応用																																																																
4	数列と級数	・等差数列 ・等比数列 ・等比級数	学習内容の復習と応用																																																																
5	整数(1)	・約数と倍数 ・Euclid の互除法 ・素因数分解の一意性	学習内容の復習と応用																																																																
6	整数(2)	合同式	学習内容の復習と応用																																																																
7	整数(3)	中国剰余定理	学習内容の復習と応用																																																																
8	・ここまでの復習/補足 ・不思議な数	ここまでの復習及び不思議な数の導入を行う。	学習内容の復習と応用																																																																
9	小数	・実数の 10 進小数表示 ・有限小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用																																																																
10	循環小数	・有理数 ・純循環小数の特徴づけ ・循環小数の特徴づけ	学習内容の復習と応用																																																																
11	循環小数の循環節	・素数の逆数の小数表示 ・循環節の長さについての 2 つの観察	学習内容の復習と応用																																																																
12	循環小数と合同式(1)	・Fermat の小定理	学習内容の復習と応用																																																																
13	循環小数と合同式(2)	純循環小数	学習内容の復習と応用																																																																
14	原始根と Artin 予想(1)	原始根	学習内容の復習と応用																																																																
15	原始根と Artin 予想(2)	Artin 予想	学習内容の復習と応用																																																																
実務経験																																																																			
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>分数と小数から広がる整数の世界</td> <td>中島匠一</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	分数と小数から広がる整数の世界	中島匠一	技術評論社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	期末試験 70%, 平常点 30% で評価します。 但し、期末試験については新型コロナウイルス感染状況次第ではレポート等の代替手段への変更も有り得ます。																																																																		

<p>学生への メッセージ</p>	<p>数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。また、学習支援センターを積極的に利用して欲しいと思います。</p> <p>但し、この講義は同名の他の講義とは内容が大きく異なります。論理的に考え説明する練習が中心となります。(数学はあくまでも題材に過ぎません。) また、授業内容の密度は高校時代より格段に濃くなります。授業に出ているだけで、授業内容を理</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	
<p>備考</p>	<p>十分な学習効果を得るには、週3時間以上の予習と復習が必要です。</p> <p>初回の授業でより具体的な授業内容と授業の進め方について説明します。 (ですので、初回の授業には) 必ず出席してください。</p> <p>このシラバスの内容は授業の進行状況に応じて若干変更される場合があります。</p>

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	H I
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での教養学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	この授業を通して、基礎的な数学的知識・論理能力を身につけることができる。一つの目安として、各種採用試験（SPI・公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題に十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	「教材・課題提供型授業」を実施する。 ①「演習課題」の例題を解く→②解説を確認して解き方を理解する→③「演習課題」の問題を解く→④「演習課題」を提出 ※提出課題が合格基準に達しなかった場合、翌週に（再提出課題による）補習を実施
科目学習の効果（資格）	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	方程式(1)	・四則応用 ・1次方程式	「演習プリント（第1回）」の問題を解き直すこと（1時間）
2	方程式(2)	・2次方程式	「演習プリント（第2回）」の問題を解き直すこと（1時間）
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	「演習プリント（第3回）」の問題を解き直すこと（1時間）
4	割合(1)	・比 ・混合算	「演習プリント（第4回）」の問題を解き直すこと（1時間）
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	「演習プリント（第5回）」の問題を解き直す（1時間）
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	「演習プリント（第6回）」の問題を解き直すこと（1時間）
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	「演習プリント（第7回）」の問題を解き直すこと（1時間）
8	速さ(3)	・時計算	「演習プリント（第8回）」の問題を解き直すこと（1時間）
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	「演習プリント（第9回）」の問題を解き直すこと（1時間）
10	確率	・確率の計算	「演習プリント（第10回）」の問題を解き直すこと（1時間）
11	図形の計量(1)	・多角形	「演習プリント（第11回）」の問題を解き直すこと（1時間）
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	「演習プリント（第12回）」の問題を解き直すこと（1時間）
13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	「演習プリント（第13回）」の問題を解き直すこと（1時間）
14	整数(2)	・記数法	「演習プリント（第14回）」の問題を解き直すこと（1時間）
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	「演習プリント（第15回）」の問題を解き直すこと（1時間）

実務経験	
関連科目	数的能力開発Ⅰ、数的能力開発Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法（基準）	「演習課題 50%」と「期末試験 50%」の合計によって評価する。
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です。授業に参加してください。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。授業時間内で理解できなかった場合は、「学習支援センター」を積極的に利用して、授業内容をしっかり理解していくようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館2階 学習支援センター
----------	----------------

備考	講義内の演習問題プリントに関する補習（問題の解き直し）を適宜実施する。
----	-------------------------------------

科目名	教養数学	科目名 (英文)	Mathematics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻茂 工将
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1318a1		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での教養学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で法律の解釈・訴訟事例では、かなりの数学的知識・論理能力が求められることがある。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度前期で確実に身につけることをこの授業の目標とする。
到達目標	基礎的な数学的知識・論理能力を身につける。1つの目安として、各種採用試験（公務員試験・教員採用試験等）の数理分野の問題には十分対応できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	資料を配布し、オンラインでの講義を行う。理解の促進と達成度合いの確認のため、演習を適時行い、課題レポートを課す。
科目学習の効果（資格）	問題を定式化し、論理的に解くことを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	方程式(2)	・2次方程式	課題レポート
3	方程式(3)	・平均算 ・年齢算	課題レポート
4	割合(1)	・比 ・混合算	課題レポート
5	割合(2)	・売買算 ・仕事算	課題レポート
6	速さ(1)	・速さ ・流水算	課題レポート
7	速さ(2)	・旅人算 ・通過算	課題レポート
8	速さ(3)	・時計算	課題レポート
9	場合の数	・数え上げの原則 ・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	課題レポート
10	確率	・確率の計算	課題レポート
11	図形の計量(1)	・多角形	課題レポート
12	図形の計量(2)	・平面計量(円)	課題レポート
13	整数(1)	・約数、倍数 ・剰余	課題レポート
14	整数(2)	・記数法	課題レポート
15	規則性	・数列 ・規則性の発見	課題レポート

実務経験	
関連科目	教養物理

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポート(40%)と期末レポート(60%)で評価する。
学生への メッセージ	授業内の演習と課題レポートで自分の理解度を把握できますので、理解の足りない部分はその都度しっかりと復習をしてください。授業時間内外を問わず、質問は大歓迎です。この授業で確実に基礎を押さえて、今後の科目に役立ててもらえると嬉しく思います。
担当者の 研究室等	数学準備室(3号館3階)
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は15時間。 演習、レポートの正解の提示、解説は次の回の授業で行う。

科目名	教養物理	科目名 (英文)	Physics
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津 浩哲
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1319a1		

授業概要・目的	自然は法則に従って動いている。物理学は自然の法則を理解する学問であり、人間社会の法学に対して、自然界の「法」学ともいえる。この授業では、物理学をこれまで学んでこなかった人向けに、数式の利用を最小限にして、物理学がこの世界(空間、時間、物質、エネルギー)をどのようにとらえているかということについて概観する。さらに、身近な現象を題材に、その現象を生じさせる原理や物理法則について述べる。
到達目標	この授業を通じて学生には、自然現象やこれに基づく科学技術に関する基礎知識が身につく、さらに、新しい情報に対して自らが知的好奇心をもって活用できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	Teamsにおいて、録画した授業を配信する。各回、特定のテーマを題材にして、その関連分野も含め広く解説をおこなう。
科目学習の効果(資格)	法曹界や法務の分野においても、特許、医療、環境分野をはじめ、自然現象やこれに基づく科学技術に関する知識が必要とされることがある。この授業で科学技術のうち物理分野の基礎知識が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	私たちが見ているものは過去	相対速度、波の干渉、マイケルソン・モーリーの実験、光速一定の原理、特殊相対性理論、ローレンツ収縮、双子のパラドックス、重力波について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
3	私たちの生きるこの世界はいかに作られたか	光の色と振動数・波長、ドブラー効果、銀河、ハッブル・ルメートルの法則、ビッグバン、宇宙背景放射について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
4	私たちの体は星くずでできている	元素周期表、恒星、太陽、超新星爆発、ブラックホール、元素生成、核分裂、核融合、質量とエネルギーの等価性、放射線について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
5	私たちだけが特別ではない	太陽系、準惑星、天動説と地動説、ケプラーの法則、系外惑星、ハビタブルゾーンについて理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
6	月とりんごは同じ法則で運動する	ニュートンの運動の三法則、万有引力の法則、重力、キャベンディッシュの実験、等加速度運動について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
7	変化しても変わらないもの	仕事、エネルギー、運動量保存の法則、エネルギー保存の法則について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
8	ぶらんこをこぐには	単振動、振り子の等時性、固有振動、共鳴・共振について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
9	空も飛べるはず	圧力、浮力、アルキメデスの原理、パスカルの原理、大気圧、ベルヌーイの定理、揚力、カルマン渦、ハニカム構造、炭素繊維について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
10	電気を作るには	右ねじの法則、フレミングの左手の法則、モーター、レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、太陽電池、直流と交流について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
11	光と色の世界	三原色、虹、偏光、液晶、電磁波、光の粒子性と波動性、光電効果、プランク定数について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
12	電子の発見からエレクトロニクスへ	陰極線、トムソンの実験、ミリカンの実験、ラザフォードの実験、二重スリット実験、不確定性原理、シュレディンガーの猫、トランジスタについて理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
13	熱と時間の矢	ボイル・シャルルの法則、アボガドロ定数、絶対温度、ボルツマン定数、超伝導、熱力学第二法則、エントロピー、マクスウェルの悪魔について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
14	未来は決まっているのか	気候変動予測、複雑系、カオス、バタフライ効果、ブラウン運動、ランダムウォーク、経済物理、スーパーコンピュータについて理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)
15	科学技術関連法と科学技術政策	科学技術基本法、科学技術政策、宇宙基本法、宇宙政策について理解する。	予習・復習シートの作成(1時間)

実務経験	
関連科目	教養数学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリントを配布		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数式なしでわかる物理学入門	桜井邦朋	祥伝社

	2	人物で語る物理入門（上、下）	米沢富美子	岩波新書
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」／Web Folder			
Teams コード	c6xh3st			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、Teams のチャット			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	毎回の予習シート合計 50%、毎回の復習シート合計 50%。 毎回、予習シートと復習シートを作成し、WebFolder にアップロードすること。 シートの作り方は授業で指示する。			
学生への メッセージ	現代の科学技術文明は、身の回りの自然を理解することで生み出されてきました。一方、2011年の福島第一原子力発電所の事故の後、科学のことは専門家に任せておけば大丈夫という安心感は揺らいでいます。科学は信じるものではなく、理解するものとして取り組んでください。また、課題シートを仕上げる中で、理解できなかった点を洗い出し、遠慮なく質問をしたうえで、さらなる知識を積み上げてください。			
担当者の 研究室等	8号館2階 物理準備室			
備考				

科目名	教養化学	科目名 (英文)	Chemistry
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹内 健治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1320a1		

授業概要・目的	化学はこの世界に存在するさまざまな物質を理解する科学です。はじめて化学を学ぶ人に対して、それぞれの物質がどのようにしてつくられ、どのような性質を示すのかなど、基本的な原理をできるだけ理論的にやさしく解説する。
到達目標	この授業を通じて学生には、身の回りの物質を新しい視点でとらえ、化学の考え方の本質を知ることができるようになることが期待される。
授業方法と留意点	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	原子	この世界をかたちづけている材料は原子です。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
2	元素と周期表	元素を整理して理解する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
3	原子と原子のつながり	原子と原子のつながり方は、いくつかある。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
4	モルと化学反応式	化学反応を正しい化学反応式で記述する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
5	濃度の表しかた	粉末試薬を水に溶かして目的濃度の水溶液を調整する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
6	酸化と還元	酸化と還元を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
7	物質の性質と状態	気体、液体、個体における分子の状態の違い。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
8	気体の性質	気体における温度、圧力、体積の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
9	化学反応と熱エネルギー	熱化学方程式を用いた化学反応と反応熱の関係。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
10	化学反応と化学平衡	化学反応はどのようなしくみで進むのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
11	水と溶液	「溶ける」とはどのような現象なのか。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
12	透析と浸透圧	浸透、透析、浸透圧について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
13	酸および塩基と pH①	酸と塩基を定義する。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
14	酸および塩基と pH②	中和、中和滴定、緩衝作用について。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)
15	放射線と放射能	放射線、放射能、ラジオアイソトープとは何か。	教科書の授業範囲をあらかじめ読む。授業で説明した内容を見直す。(2時間)

実務経験	
関連科目	

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	はじめて学ぶ化学	野島高彦	化学同人
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	遠隔授業 (教材・課題提供型授業) にて実施する。小テスト (課題) などにより評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	質問は適宜受け付ける。
-----------	-------------

担当者の研究室等 備考	枚方学舎 1 号館 5 階生物系薬学分野生化学
----------------	-------------------------

科目名	教養生物	科目名 (英文)	Biology
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1321a1		

授業概要・目的	基礎となる生物そのものの理解を目指す。高校で生物を学んで来なかった学生も含めて、細胞、代謝、進化、系統、生態系等に関する基本的な知識を習得し、公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な生物学に関する基礎知識を得る。 国連の持続可能な開発目標 SDGs の6に対応する。
到達目標	1. 現代生物学における各分野の対象と目的に至るアプローチの方法を理解する。 2. 生物とは何か、生きているということはどういうことなのかについて科学的に説明できる。
授業方法と留意点	講義の主役は受講者である。教員は、受講者の学びを補助するファシリテーター役に徹する(質問には答えます)。とにかく Moodle を多用する。スマホもしくはタブレットが必須の講義である。スマホを充電してから講義に臨むこと。スマホの通信制限や充電不足による講義への不参加は本人に原因があるものとして処理する。
科目学習の効果(資格)	公務員試験の生物の範囲に対し、対応可能な基礎知識を得る。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに 他の科目にも使える! 生物学の勉強の仕方 教科書を素早く読んでキッチンと自分の知識にする方法 食べることで生きることとは?	授業ガイダンス・生物学の勉強の仕方、生物の階層性・食べることで生きること・必要な栄養素・食べ物の運命とエネルギーの関係について、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 12 ページからの「はじめに」の節を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
2	ヒトのカラダとエネルギーの関係 ヒトはなぜ 1 日 3 度の食事をするのか?	3 度の食事とエネルギーの関係や、エネルギー通貨である ATP について、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 16 ページからの第 1 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
3	糖の種類と性質 甘いのに太らない? 人工甘味料と砂糖の違い	身近な糖分・糖質・炭水化物、糖の種類、構造と性質、エネルギーになる単糖類などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 28 ページからの第 2 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
4	糖からエネルギーを得るしくみ 持久系とパワー系はこれほど違う	運動の種類とエネルギーの消費、解糖系の概要、TCA 回路、電子伝達系、ATP の生成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 40 ページからの第 3 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
5	脂質の構造と性質 身体に良い「あぶら」と悪い「あぶら」は何が違うの?	脂質とは、脂肪酸の種類と性質、からだの中での脂肪酸の働き、トリグリセリド以外の脂質、コレステロールの合成と体内での働きなどについて Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 56 ページからの第 4 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
6	脂質の輸送と代謝 甘いものを食べるとなぜ太る?	体内をめぐる脂質、脂質の輸送、脂肪酸からエネルギーを取り出す、脂肪酸の合成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 70 ページからの第 5 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
7	ビタミンとミネラルの働き サプリメントは体にいいの?	ビタミン発見の歴史、脂溶性ビタミンと水溶性ビタミン、体内でのビタミンの働き、ミネラルの働きなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	講義前に教科書 84 ページからの第 6 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いたミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。

				と。復習時間 1 時間。 講義前に教科書 98 ページからのはじめにと教科書 100 ページからの第 7 章を最期まで読んでおくこと。予習時間 0.5 時間。 予習した上で、その内容について講義開始直後に小テストを行う。講義後は Moodle を用いた ミニッツペーパーを記入し、また予め Moodle 上に用意された演習問題を解くことにより、振り返り学習を徹底すること。また、Moodle に配信されるビデオ教材を視聴することにより、さらに深い理解を得ること。復習時間 1 時間。
	8	第 II 部 生命体をつくる情報と構造 細胞の構造と機能 昆布のダシは海の中で出ないの？	細胞の発見、構造、細胞内小器官、原核細胞と真核細胞、細胞周期などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	9	DNA の構造と働き DNA、遺伝子、染色体はどう違うの？	遺伝物質の正体、DNA の二重らせん構造、DNA の複製と維持、DNA の塩基配列からアミノ酸配列へなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	10	DNA からタンパク質へ DNA は細胞の設計図ってどういう意味？	遺伝子のスイッチを制御する仕組み、RNA ポリメラーゼ、RNA の修飾、リボゾームによるタンパク質の合成などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	11	タンパク質のはたらき プロテインを飲むと筋肉が増える？	タンパク質は生まれた後目的の場所まで運ばれる、タンパク質は化学反応を触媒する、細胞内外のシグナルや物質を輸送するタンパク質たちなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	12	細胞内外の情報伝達 細胞はどうやってコミュニケーションしている？	細胞同士のコミュニケーション、細胞外の情報伝達を細胞内に伝える仕組み、タンパク質のリン酸化が伝える細胞内のシグナル、細胞膜の電位変化によるシグナル伝達などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	13	細胞分裂の仕組みと制御 私たちの体の細胞は分裂し続けているの？	体細胞分裂と減数分裂、染色体の数と形、体細胞分裂における染色体の構造変化と分配機構、配偶子形成における減数分裂などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	14	発生と分化 1つの細胞から体ができあがる仕組み	受精卵から体ができあがる過程、細胞の運命はいつ決まるのか、発生後期における分化と器官形成、遺伝子による細胞の運命決定などについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	
	15	細胞のストレス応答機構 細胞もストレスを感じる？	細胞にとってストレスとは、DNA の損傷はがんを引き起こす、活性酸素による損傷、DNA のキズを修復する仕組みなどについて、Moodle に掲載の講義資料を視聴・通読する。	

実務経験

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学で学ぶ身近な生物学	吉村成弘	羊土社
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎生物学	南雲 保	羊土社
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の小テスト (30%) 定期試験の点数 (30%) および、ミニツペーパー (10%) およびレポート、小論文、演習問題などの課題 (30%) の総合点で評価する。 Moodle を多用します。スマホもしくはタブレット必須の講義です。スマホを充電してから講義に臨んで下さい。			
学生への メッセージ	講義前の予習と講義後の復習は不可欠です。必ず教科書を読んでから、講義に参加してください。 本講義では、生物がどのようなしくみで動いているのか、最新のトピックスなども織り交ぜ、その謎を分子レベルで分かり易く説明します。 予習・復習を忘れずに、興味を持ってしっかりと理解するように努めて下さい。			
担当者の 研究室等	枚方学舎・薬学部1号館5階生化学研究室 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp			
備考	不明な点は質問してください。メールで受け付けます。 otsuka@pharm.setsunan.ac.jp			

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	WebFolder にあげた音声入りのパワーポイントファイルを使って講義を行います。講義実施日から1週間以内をめどに必ず見て下さい。何回かレポート課題を課しますのでも自らも疑問点を調べるという態度で受講して下さい。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	様々な地形と生活ーその1ー	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活ーその2ー	・台地・河岸段丘の地形と生活	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するのか	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。それとともに、テキストの第3章を読んでおいて下さい。
9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
10	都市化と中小河川の治水	・都市的治水様式と農業的治水様式	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。
12	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第6章を読んでおいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第4章を読んでおいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸侵食の状況	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。それとともに、テキスト第4章を読んでおいて下さい。
15	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	前回の講義ファイルを確認しておいて下さい。

実務経験	
関連科目	人文地理学、環境関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Web Folder
Teams コード	aby7a9f
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	Teams のチャットを使って下さい。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート試験を実施します。配点は60点です。さらにパワーポイント講義を聞いてもらった後、何回かレポート課題を課しますので、期日までにWebFolder の指定したフォルダーに提出して下さい。配点は40点です。なお、評価のポイントは、自分なりの考えが持てるようになったかどうかです。
学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等備考	7号館2階 (非常勤講師室)

科目名	自然地理学	科目名 (英文)	Physical Geography
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	笠原 俊則
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JNA1322a1		

授業概要・目的	自然環境が人類の活動にどのような影響を与えてきたのか、またそれらを我々人類はどのように改良し、居住地域の拡大に努めてきたのかを自然地理学的視点から理解することを目的としている。その際、我々人類の生活の舞台である地表について、地形・気候・土壌・植生・水文環境など、自然地理学に関する基礎的知識を習得できるように説明していきたい。
到達目標	地理学は人間に関わる学問である。学生諸君には、我々人類は環境改変者であり、自分自身もその一員であるという自覚を持ってもらえたら、講義の目的の半分は達成されたものといえる。さらに、この講義を通じて、地理学の入門的知識を身につけ、常に環境に配慮した行動を取ることができるようになってくれることを期待している。
授業方法と留意点	講義形式で行う。テキストに掲載されている図表だけでは不足するような場合、講義中にプリントを適宜配布していく予定である。
科目学習の効果 (資格)	人間活動が、我々を取り巻く環境にいかなる影響を与えているかを、身近に感じることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	様々な地形と生活ーその1ー	・扇状地・氾濫原・三角州の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
3	様々な地形と生活ーその2ー	・台地・河岸段丘の地形と生活	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
4	世界の気候	・気候因子と気候要素 ・世界に見られる様々な気候	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
5	日本の気候	・日本の気候的特色	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
6	世界の植生と土壌	・世界の気候との関連からみた植生および土壌	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
7	都市気候	・都市気候とは ・都市気候の具体的な例	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
8	都市化の進展と水文環境の変化	・都市化が進展することによって水の環境がどのように変化するか	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
9	都市化にともなう水災害の変化	・都市化にともなう流出変化の実例とその影響 ・都市の水害と下水道整備	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
10	防災について	・環境改変がもたらしたもの ・水害の軽減をめざして	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
11	水資源と農業	・稲作と水資源との関係	前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
12	干拓地の自然的特性	・干拓地の地形と水文環境	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
13	ダム上流における自然環境の変化	・ダム堆砂 ・ダム上流における河床上昇とその影響	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
14	ダム下流における自然環境の変化	・ダム下流における河床の低下とその影響 ・日本における海岸浸食の状況	指定テキストおよび配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。
15	離島における地下ダムの建設	・宮古島ではなぜ地下ダムが建設されたのか	配布プリントに目を通して下さい。前回の講義内容を各自で確認しておいて下さい。

実務経験	
関連科目	人文地理学、環境関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間活動と環境変化	吉越昭久編	古今書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	x1m3k80
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	Teams のチャットを使って下さい。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 60%、授業参加点 20%、課題点 20%である。授業参加点については、授業参加チェックシートを随時配布して確認する。課題点については、時々実施する授業に関わる用語の事前調べの内容によって評価する。したがって、単なる出席点はつけないので、各自真剣に授業に取り組んで欲しい。

学生へのメッセージ	地理学習には地図がつきものである。講義中に出てくる地名を地図帳で確認すれば、内容がより理解しやすくなるであろう。最近の高校教育では地理が選択になっているため、履修していない人もいると思われるが、もし高校時代に使用した地図帳があれば講義中に持参して欲しい。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	授業前の用語の下調べが課された場合、1時間以上の時間をかけた丁寧なレポートの作成を期待している。なお、レポートには必ず出典も明記すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	スポーツプログラミング	科目名 (英文)	Sports Programming
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬 雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3362a1		

授業概要・目的	スポーツを実践するにあたり年齢や健康状態など様々な条件を有する対象者に対して安全かつ効果的な運動プログラムを提供することが必要とされる。本講義では、運動やスポーツとトレーニング効果を理解し、対象者に合わせた運動処方の理論と実際について学習する。
到達目標	対象者に合わせたスポーツ実践のためのプログラムの作成及び実践指導を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び対象者に合わせたプログラムを作成する。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	健康を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方 (種類)	講義ノートの確認
3	健康を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方 (強度)	講義ノートの確認
4	健康を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方 (時間・頻度)	講義ノートの確認
5	運動を目的としたフィットネスプログラム①	運動処方 (種類)	講義ノートの確認
6	運動を目的としたフィットネスプログラム②	運動処方 (強度)	講義ノートの確認
7	運動を目的としたフィットネスプログラム③	運動処方 (時間・頻度)	講義ノートの確認
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
9	中高齢者のフィットネスプログラム①	レポートの返却及び解説 運動処方 (種類)	講義ノートの確認
10	中高齢者のフィットネスプログラム②	運動処方 (強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
11	障がい者のフィットネスプログラム	運動処方 (種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
12	競技者のフィットネスプログラム①	運動処方 (種類強度・時間・頻度)	講義ノートの確認
13	競技者のフィットネスプログラム②	トレーニングの原理・原則	講義ノートの確認
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認

実務経験	
------	--

関連科目	発育発達論 ヘルスエクササイズ理論と実践
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公認スポーツプログラマー専門科目テキスト		日本体育施設協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	受講態度及び意欲 (常識・節度ある姿勢) (20%) 講義内提出課題 (必要に応じて実施する) (20%) レポート課題 (2度実施する) (60%)
-----------	---

学生へのメッセージ	出席状況 (毎回出席) を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
-----------	--

担当者の研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
----------	------------------

備考	講義内では担当で作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。
----	---

科目名	スポーツ栄養学	科目名 (英文)	Sports Nutrition
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古野 幸子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2358a1		

授業概要・目的	健康の保持・増進の観点からスポーツにおけるコンディショニングの土台となる栄養の知識について学び、スポーツに関連した食についての理解を深めていく。
到達目標	栄養学の基礎を学びながら、運動実践者のための栄養知識を習得していく。 競技種目や競技レベルに関わらず、スポーツを行うすべての人に対して栄養指導を行えるよう基礎的理解の習得を目標とする。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた遠隔授業を行う
科目学習の効果 (資格)	日常生活で実践可能な基礎栄養学からスポーツ栄養学へと応用できる知識を学ぶ。 公認スポーツ指導者資格取得対応科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス	スポーツ栄養学とは アスリートの栄養摂取の考え方	事前：栄養学の基礎について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
2	基本の食事	スポーツにおける栄養の役割	事前：基本の食事について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
3	エネルギー代謝	エネルギー消費量と貯蔵エネルギー	事前：エネルギー消費量、貯蔵エネルギーについて予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
4	5大栄養素 (1)：糖質	糖質の役割と特徴	事前：糖質の役割について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
5	5大栄養素 (2)：脂質	脂質の役割と特徴	事前：脂質の役割について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
6	5大栄養素 (3)：たんぱく質	たんぱく質の役割と特徴	事前：たんぱく質の役割について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
7	5大栄養素 (4)：ミネラル	ミネラルの役割と特徴	事前：ミネラルの役割について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
8	5大栄養素 (5)：ビタミン	ビタミンの役割と特徴	事前：ビタミンの役割について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
9	水分補給	スポーツ時における水分補給の重要性と補給方法 熱中症：症状と対応	事前：水分補給、熱中症について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
10	サプリメント	サプリメント摂取に関する注意点 ドーピングの基礎知識	事前：サプリメントについて予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
11	栄養・食事計画の立案 (1)	スポーツ栄養学に基づいた体重管理の方法	事前：減量、増量について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
12	栄養・食事計画の立案 (2)	スポーツ栄養学に基づいた試合前後の食事	事前：試合前後の食事方法について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
13	栄養・食事計画の立案 (3)	スポーツ栄養学に基づいたトレーニング期の食事	事前：トレーニング期分けに基づいた摂取方法について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
14	栄養・食事計画の立案 (4)	スポーツ栄養学に基づいたケガ期の食事	事前：傷害別摂取方法について予習 (1時間)	事後：復習 (1時間)
15	まとめ	講義内容の総括を行う	事前：課題提出	

実務経験

関連科目 スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	リファレンスブック		日本スポーツ協会
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス：

評価方法 (基準)
授業内での課題およびレポートにより評価を行う

学生へのメッセージ
知識を実践に生かしてこそ栄養学は生きてきます。
健康増進やパフォーマンスの向上に役立てられるよう学んで行きましょう。

担当者の研究室等
総合体育館1階 体育館事務室

備考

科目名	応用情報処理	科目名 (英文)	Advanced Information Processing
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA2341a1		

授業概要・目的	1年次に習ったスプレッドシートを中心に、データ処理や統計処理などの実用的な応用課題に取り組み、データ分析のレベルアップを図る。
到達目標	この演習を通じて学生には、1年次の情報処理の演習で培った技能や知識に加えて、ビジネス実務におけるデータ分析および統計処理の応用的活用手法を習得することが期待される。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンを用いてオフィスアプリケーションを用いて課題を完成させ、大学のサーバに提出していただきます。なお進捗度合いに応じて、講義内容は適宜変更する場合があります。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Expert (Excel) の基礎を学ぶことにより当該資格の取得をめざしましょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション: 統計基礎	授業の進め方、評価方法、ミニ講義、基礎演習	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
2	Excel によるデータ処理(1)	データの集計処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
3	Excel によるデータ処理(2)	ピボットテーブルの利用 データの絞り込み ダイス分析 スライス分析 グループ化分析 ドリルダウン・ドリルアップ	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
4	Excel によるデータ処理(3)	階層化による分析 構成比とABC分析 関数を使ったデータ処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
5	Excel によるデータ処理(4)	応用データ処理	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
6	振り返り (中間)	今までの学習内容を振り返り、各自の到達レベルを確認する	今までの内容を復習しておくこと(90分)
7	Excel による統計処理(1)	度数分布とヒストグラム	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
8	Excel による統計処理(2)	記述統計とExcel関数	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
9	Excel による統計処理(3)	散布図・相関係数	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
10	Excel による統計処理(4)	回帰分析	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
11	Excel による統計処理(5)	確率分布	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
12	Excel による統計処理(6)	平均値・分散の差の検定	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
13	Excel による統計処理(7)	独立性・適合度の検定	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
14	Excel による統計処理(8)	分散分析	課題を仕上げておくこと、次回の演習範囲の予習をしておくこと。(90分)
15	振り返りとまとめ	各自の到達レベルを確認するとともに授業の総括を行う	今までの内容を復習しておくこと(90分)

実務経験	
関連科目	情報処理 I, 情報処理 II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	できるやさしく学ぶExcel統計入門	羽山博	インプレス
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	毎回の課題 (60%)、振り返りテスト (40%) を総合して評価する。この授業は演習中心であるため、課題提出が単位取得の必要条件である。
学生へのメッセージ	毎回の授業が前回までの授業内容の理解を前提として進められるので、毎回、課題を完了・提出が必要となることに留意すること。自宅等でパソコンや通信環境が確保できない場合には、早めに担当者に連絡して実施方法を相談すること。
担当者の	11号館10階(寺内研究室)

研究室等	
備考	前回の演習のポイントを次回の演習の冒頭に要約する。予習と復習を合わせて全期間で60時間の自習を必要とする。

科目名	スポーツ指導者入門	科目名 (英文)	Sports Theory for Instructor
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1354a1		

授業概要・目的	スポーツ指導者とは、アスリートにとって多大な影響を与える存在である。指導者としての役割は、競技のコーチングだけにとどまらず、教育、人間形成など多岐にわたる能力を必要とする。また、昨今のスポーツ界で問題となっている体罰は、絶対に根絶するべき課題である。本科目では、スポーツ指導者として必要なスキルを身につけていくことと合わせて、指導者の倫理観とは何かを議論し、将来スポーツに関わるであろう履修学生が、良きスポーツ指導者になるための基礎を学習・理解できることを目標とする。本科目担当者は、保健体育(高校)、柔道実技(大学)、柔道指導(国内外)の実務経験を有する。高校における実技・保健授業や課外活動などのスポーツ現場での指導経験を生かし、スポーツ指導者として必要な知識や指導法を提供する。
到達目標	スポーツ指導者としての基礎を学び、指導者としての心得を理解できる。講義内での議論を通じ、コミュニケーション能力を高める。
授業方法と留意点	授業方法は、教材・課題提供型とし、Microsoft Teams、Moodleの2つのICTツールを使用する。講義教材を用いて一定期間内に学習し、課題を作成・提出することにより授業目的・到達目標の達成を目指す。
科目学習の効果(資格)	スポーツ指導者の基礎的知識と指導法を学ぶ(公認スポーツ指導者資格取得対応科目)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	ガイダンス	事前: 授業概要・目的を確認する(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
2	スポーツとは コーチングとは	スポーツとは何かを学ぶ コーチングとは何かを学ぶ コーチングとティーチングの違いについて理解する	事前: スポーツ、コーチングについて予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
3	コーチに求められる役割(1)	スポーツ指導者について学ぶ スポーツ指導者としての心構えについて学ぶ	事前: スポーツ指導者とはどのようなものを予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
4	コーチに求められる役割(2)	スポーツ指導者の果たすべき役割について学ぶ スポーツ現場の安全管理について学ぶ	事前: スポーツ指導者として行う内容とは何かを予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
5	コーチに求められる知識とスキル(1)	生理・体力学的基礎知識を学ぶ	事前: 運動と筋肉の発達、体力について予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
6	コーチに求められる知識とスキル(2)	心理学的基礎知識を学ぶ	事前: パフォーマンスとメンタルの関係について予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
7	対他者力を磨こう	コミュニケーションスキルとは何かを学ぶ 議論を行いコミュニケーションスキルを高める	事前: コミュニケーションスキルについて予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
8	対自己力を磨こう	自分自身について理解する 自信とは何かを学ぶ	事前: 自分自身はどのような人間かまとめておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
9	スポーツ倫理について(1)	倫理観について学ぶ スポーツ倫理について学ぶ	事前: 倫理とは何か予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
10	スポーツ倫理について(2)	体罰、暴力、ハラスメントとは何かについて学ぶ 実際の体罰などの社会問題について議論する	事前: 過去の体罰問題について予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
11	スポーツ倫理について(3)	スポーツに内在するインテグリティについて学ぶ	事前: スポーツから得られるものとは何か予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
12	時代をリードするコーチング(1)	女性コーチについて学ぶ	事前: 著名な女性コーチの種目と使命について予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
13	時代をリードするコーチング(2)	活躍しているコーチについて学ぶ	事前: 日本で活躍しているコーチについて予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
14	ハイパフォーマンススポーツにおける今日的なコーチング	日本におけるハイパフォーマンススポーツについて学ぶ	事前: NTCという施設について予習しておく(30分) 事後: 内容についての振り返りをしておく(30分)
15	スポーツ指導者入門総括	全体のまとめを行う	事前: これまでの内容を振り返る(30分) 事後: 総括を行う(30分)

実務経験	
関連科目	スポーツ科学実習Ⅰa、Ⅰb・Ⅱa、Ⅱb、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	課題内容を評価対象とし、課題を100%で評価する。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	総合体育館1階 横山講師室			
備考				

科目名	スポーツトレーニングの基礎	科目名 (英文)	Sports Training Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	堀 美幸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH1355a1		

授業概要・目的	スポーツトレーニングの原理・原則に基づいた、スポーツ指導におけるトレーニングメニューの作成や指導法について学ぶ。またスポーツと心の関係を学びながら、コーチングにおける心理的作用を理解し、スポーツトレーニング指導を実践する上での基礎を習得する。
到達目標	スポーツ指導に役立つトレーニングの基礎的知識についての身体的、心理的理解を深める。
授業方法と留意点	講義を中心に授業を行い、レジュメ、参考資料等は適宜配布します。 また各授業の終わりにクイズを実施します。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	体力とは①	運動と健康、防衛体力と行動体力	課題 精神と体力 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う
2	体力とは②	トレーナビリティ	課題 スポーツパフォーマンス 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
3	トレーニングの原理・原則①	スポーツトレーニングの3原理・5原則、特異性	課題 スポーツと特異性 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
4	トレーニングの原理・原則②	筋機能と呼吸循環機能	授業ノートのまとめ・復習	
5	トレーニング処方	トレーニング計画 ウォーミングアップ、クーリングダウンの必要性	課題 年間トレーニング計画 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
6	トレーニングの種類①	スポーツトレーニングの5つの内容	課題 競技特性とトレーニング 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
7	トレーニングの種類②	体力トレーニングと技術トレーニング	テスト①	
8	スポーツと心①	メンタルヘルス	授業ノートのまとめ・復習	
9	スポーツと心②	スポーツと心	課題 コーチングとこころ 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
10	スポーツにおける動機づけ①	スポーツにおける動機づけとは	課題 動機づけと運動意欲 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
11	スポーツにおける動機づけ②	スポーツにおける目標設定	課題 目標達成シート 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
12	コーチングの心理①	スポーツ技能の習得	課題 技能の習得と要因 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
13	コーチングの心理②	メンタルトレーニング	授業ノートのまとめ・復習	
14	コーチングの心理③	グループダイナミクスとチームビルディング	課題 リーダシップ 授業で学んだことをもとに、課題作成を行う	
15	コーチングの心理④	コーチング評価	テスト②	

実務経験	
関連科目	スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	r2jm03f
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	単位取得条件は、知的理解度、提出課題などを総合的に判断し、100点中60点で合格とする。 課題・提出物 50%、テスト 30%、クイズ 20%により評価を行う。
学生へのメッセージ	授業で学んだことをスポーツ活動で実践できるように、取り組んでいきましょう
担当者の研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、60時間を目安とします。

科目名	発育発達論	科目名 (英文)	Growth and Development Theory
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩瀬 雅紀
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2356a1		

授業概要・目的	身体の発育と機能の発達を理解し年齢や性別など対象に合わせた指導を行うことは大切である。具体的には発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し、それぞれのライフステージに応じた発育発達に及ぼす運動の影響や心理的特性について学習する。
到達目標	発育発達期のスポーツ指導に役立つ基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	PPT や作成プリントを用いた講義及び発育発達期に合わせた運動処方を理解する。
科目学習の効果 (資格)	公認スポーツ指導者資格取得対応科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本講義を受講する上での諸注意と講義展開 本講義の意図、目的、価値 自己認識	講義ノートの確認
2	発育発達期における身体的特徴	筋力・持久力の発達 疾走能力・跳躍能力・投能力の発達、性別の考慮	講義ノートの確認	
3	発育発達期における心理的特徴	知的発達 認知発達	講義ノートの確認	
4	発育発達期における怪我	スポーツ外傷 スポーツ障害	講義ノートの確認	
5	発育発達期における病気	ストレス 気分転換 プレッシャー	講義ノートの確認	
6	発育発達期のプログラム①	運動処方 (種類) 有酸素運動・無酸素運動	講義ノートの確認	
7	発育発達期のプログラム②	運動処方 (強度・時間・頻度)	講義ノートの確認	
8	レポート課題 1	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認	
9	障害者とスポーツ	レポートの返却及び解説 障害者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認	
10	高齢者とスポーツ	高齢者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認	
11	競技者とスポーツ	競技者の身体的及び心理的特徴	講義ノートの確認	
12	発育発達期のプログラム③	中高年者の運動処方 (種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認	
13	発育発達期のプログラム④	競技者の運動処方 (種類・強度・時間・頻度)	講義ノートの確認	
14	レポート課題 2	講義内容からレポート課題を 2 題出題 (内容は当日発表)	講義ノートの確認	
15	まとめ	レポートの返却及び解説と本講義のまとめ 自己評価	講義ノートの確認	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	リファレンスブック		日本スポーツ協会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	受講態度及び意欲 (常識・節度ある姿勢) (20%) 講義内提出課題 (必要に応じて実施する) (20%) レポート課題 (2度実施する) (60%)
学生へのメッセージ	出席状況 (毎回出席) を確認し原則として出席は 2/3 以上必要とする。 受講学生各位の積極的な学びを期待する。
担当者の研究室等	総合体育館 1 階 非常勤講師室
備考	講義内では担当者作成のプリントを適宜配布する。 事前・事後の学習時間として、全 15 回で 15 時間を目安としている。

科目名	スポーツ医学の基礎	科目名 (英文)	Fundamental Knowledge of Sports Medicine
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岡崎 和伸
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH2359a1		

授業概要・目的	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について述べ、予防医学としてのスポーツ医学の意義についても言及する。
到達目標	スポーツ・運動と健康の関わり、および、スポーツ・運動による身体の変化と疾病への影響について説明できること、さらに、スポーツ外傷・障害の概要とその対応について説明できることを目標とする。また、自身とその周りの人々について、運動を通じた健康づくりが実践できるようにする。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。なお、資料配布やVTRなどを用い、教育効果を上げる。
科目学習の効果(資格)	スポーツ医学の基礎的知識とスポーツ傷害(内科的・外科的)についての理解と対処法について学ぶ。(公認スポーツ指導者資格取得対応科目)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	スポーツと健康 (1)	スポーツ活動と健康の関わり	テキスト P.54-63 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
2	スポーツと健康 (2)	身体活動(スポーツ活動や運動)の必要性	テキスト P.64-75 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
3	スポーツ傷害 (1)	スポーツ外傷・障害	テキスト P.76-82 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
4	スポーツ傷害 (2)	スポーツ外傷・障害の要因	テキスト P.83-87 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
5	救急処置 (1)	手当ての基本(観察)	テキスト P.88-88 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
6	救急処置 (2)	救命手当て(心肺蘇生法)	テキスト P.89-95 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
7	救急処置 (3)	AEDを用いた心肺蘇生法	テキスト P.96-97 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
8	救急処置 (4)	応急手当(きずと止血、包帯法、骨折固定)	テキスト P.102 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
9	救急処置 (5)	RICE処置	テキスト P.98-101 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
10	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P.111-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
11	スポーツと水分補給	水分補給と熱中症	テキスト P.112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
12	スポーツと栄養 (1)	五大栄養素の役割	テキスト P.104-108 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
13	スポーツと栄養 (2)	栄養とトレーニング、コンディショニング	テキスト P.109-112 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
14	ドーピング	ドーピングの定義、概要	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)
15	まとめ	授業の全体のまとめ	資料 該当箇所を事前に確認し、事後に見直すこと(約 1.5 時間)

実務経験	
------	--

関連科目	スポーツ医学の理論と実際
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		リファレンスブック	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
------	-----------------

Teams コード	ntc321k
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業中に実施する課題の提出状況およびその内容によって評価する。
学生への メッセージ	運動・スポーツと健康に関する身近な話題から、競技力向上のための最新スポーツ科学に関する授業です。毎回、簡単な実習、測定、調査などを行いながら、主体的な学習を通して理解を深めていきます。
担当者の 研究室等	総合体育館1階 非常勤講師室
備考	授業時間外連絡先：okazaki@sports.osaka-cu.ac.jp

科目名	スポーツ教育学	科目名 (英文)	Sports Education
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JPH3361a1		

授業概要・目的	<p>スポーツはさまざまな教育効果をもたらすが、その反面、体罰の問題など社会問題も多数発生している。またスポーツプレーヤーの言動や行動がインターネットやメディアに大きく取り上げられることも多い。本講義では、スポーツがもたらす様々な教育効果や情報が社会に与える功罪について考え、社会人として必要な基礎知識を学習することを目的とする。</p> <p>担当者は大阪府立高等学校学校運営協議会の委員や交野市との地域連携講座の講師などを務め、教育にかかわる諸問題に取り組むことによってこの授業での内容をより深めることができる。</p>			
到達目標	この授業を通じて学生には、①スポーツに関わる道徳問題を理解し、②スポーツがもたらす教育効果を理解できるようになることを期待する。			
授業方法と留意点	<p>授業はオンライン形式で行う。Microsoft Teams を利用しネット環境が安定するまでは Powerpoint の動画を配信し次の授業開始までに課題レポートを提出する。質問は授業時間内に Teams で行う。</p> <p>Teams のログインで出席確認を行うが、第1回目の出席はアクセスが集中が予想されるため、11:00?12:30の間でログインし確認作業を行うこと。</p>			
科目学習の効果 (資格)	スポーツの社会における功罪を知り、社会人としての基礎知識を習得できる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	基礎教育 (1)	スポーツ教育学とは何か考える。スポーツに期待される人間形成について学ぶ。	新聞記事の社会欄、スポーツ欄を読む。(1時間)
	2	基礎教育 (2)	自己アピールプロフィール	自己紹介文を作成する。(1時間)
	3	スポーツと人格 (1)	スポーツ選手に求められる人格	配布プリントの読み返し (1時間)
	4	スポーツと人格 (2)	スポーツ選手と犯罪について考える。	配布プリントの読み返し (1時間)
	5	スポーツと教育 (3)	スポーツ選手のセカンドキャリアについて学ぶ。	配布プリントの読み返し (1時間)
	6	スポーツと教育 (4)	プロスポーツとアマチュアリズム	配布プリントの読み返し (1時間)
	7	スポーツと教育 (5)	薬物問題とドーピング	配布プリントの読み返し (1時間)
	8	スポーツと学校教育 (1)	体罰問題①	配布プリントの読み返し (1時間)
	9	スポーツと学校教育 (2)	体罰問題②	配布プリントの読み返し (1時間)
	10	スポーツと学校教育 (3)	スポーツ特待生について	配布プリントの読み返し (1時間)
	11	スポーツの功罪 (1)	ジュニア期のスポーツ	配布プリントの読み返し (1時間)
	12	スポーツの功罪 (2)	燃え尽き症候群について考える。	配布プリントの読み返し (1時間)
	13	障がい者とスポーツ (1)	パラリンピック	配布プリントの読み返し (1時間)
	14	障がい者とスポーツ (2)	レクリエーションからチャンピオンスポーツへ	配布プリントの読み返し (1時間)
	15	障がい者とスポーツ (3)	障がい者スポーツの問題点	配布プリントの読み返し (1時間)
実務経験				
関連科目	スポーツ科学実習 I a、I b、II a、II b、スポーツ科学概論、スポーツ文化論、スポーツ指導者入門、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの理論と実際、スポーツトレーニングの基礎、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ医学の理論と実際			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	出席確認と課題レポートを総合して評価する。			
学生へのメッセージ	<p>学生諸君はこちらが与える教材だけでなくさまざまな資料を集め、より深い内容にしてください。</p> <p>ネット環境が整っていないかったり、うまくログイン出来なかった学生はその旨必ず連絡してください。</p> <p>kondo@mpg.setsunan.ac.jp</p>			
担当者の研究室等	総合体育館 近藤研究室			
備考				

科目名	時事英語 I	科目名 (英文)	Journal English I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2331c1		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1. 3]、後期は CEFR-J [B1. 1] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解もっていることが前提になる。また演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業についての注意事項や説明	テキストを購入して目を通しておくこと。具体的な内容については備考欄参照。
	2	Chapter 1 (1)	国際関係・教育について 時制	テキストの予習
	3	Chapter 1 (2)	国際関係・教育について 時制	テキストの予習・復習
	4	Chapter 2 (1)	日本文化について 名詞・形容詞	テキストの予習・復習
	5	Chapter 2 (2)	日本文化について 名詞・形容詞	テキストの予習・復習
	6	Chapter 3 (1)	観光業について 分詞	テキストの予習・復習
	7	Chapter 3 (2)	観光業について 分詞	テキストの予習・復習
	8	Chapter 4 (1)	農業と社会について 形容詞	テキストの予習・復習
	9	Chapter 4 (2)	農業と社会について 形容詞	テキストの予習・復習
	10	Chapter 5 (1)	社会・文化について 動詞	テキストの予習・復習
	11	Chapter 5 (2)	社会・文化について 動詞	テキストの予習・復習
	12	Chapter 6 (1)	国際社会・教育について 倒置	テキストの予習・復習
	13	Chapter 6 (2)	国際社会・教育について 倒置	テキストの予習・復習
	14	TOEIC 等の練習	TOEIC 等の練習問題を行う	テキストの復習
15	復習・まとめテスト	前期のまとめ	授業ノート・テキストの復習	

実務経験	
関連科目	他の全英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2020	Junko Murao 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法 (基準)	授業態度 (30%) + 授業時の課題 (小テスト等 70%)
-----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	政治や経済だけが時事ではありません。世界で起きていることから、身近なことまであらゆることに絶えず何故？ どうして？ という疑問を持ちながら授業に参加するようにしてください。もちろん予習・復習はしっかりと！
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。 その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	時事英語 II	科目名 (英文)	Journal English II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	猪熊 慶祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2332c1		

授業概要・目的	国内外のメディアが英語で発信する政治、経済、国際ニュースを主な教材とし、メディアで多用される英語表現に親しむ。文字によるニュース、音声（および映像）によるニュースをバランスよく学ぶ。
到達目標	(1) ニュースの要点や結論を理解し、必要な事実や情報を取捨選択できるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1. 3]、後期はCEFR-J [B1. 1]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	英語による最新のニュースや時事問題を取り扱う。日本語で発信されているニュース、時事問題一般に日ごろから関心を持ち、大まかな理解をもっていることが前提になる。授業に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 授業課題については、WebFolderを通じて提示する。指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 WebFolderに課題を提出することによって出席とみなす。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 また、オンライン小テストについてはポータルを通じてリンクを送付する。ネット

科目学習の 効果 (資格)	TOEIC, 英検等
------------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Chapter 10 (2)	文化・社会について 完了形	テキストの予習と復習
3	Chapter 11 (1)	経済・社会について 助動詞	テキストの予習と復習
4	Chapter 11 (2)	経済・社会について 助動詞	テキストの予習と復習
5	Chapter 12 (1)	ファッション・環境問題について 比較	テキストの予習と復習
6	Chapter 12 (2)	ファッション・環境問題について 比較	テキストの予習と復習
7	Chapter 13 (1)	文化・社会について 比較	テキストの予習と復習
8	Chapter 13 (2)	文化・社会について 比較	テキストの予習と復習
9	Chapter 14 (1)	健康について	テキストの予習と復習
10	Chapter 14 (2)	健康について	テキストの予習と復習
11	Chapter 15 (1)	国際・経済	テキストの予習と復習
12	Chapter 15 (2)	国際・経済	テキストの予習と復習
13	Chapter 16 (1)	テクノロジー	テキストの予習と復習
14	Chapter 16 (2)	テクノロジー	テキストの予習と復習
15	後期の復習	後期のまとめ	授業ノート・テキストをしっかりと復習しておくこと。

実務経験	
関連科目	他の全英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Insights 2020	Junko Murao 他	金星堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/その他
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：

評価方法 (基準)	毎回の授業課題 (60) + 授業関連事項の追加課題 (20%) + オンライン小テスト (10%)
学生への メッセージ	政治や経済だけが時事ではありません。世界で起きていることから、身近なことまであらゆることに絶えず何故？ どうして？ という疑問を持ちながら授業に参加するようにしてください。もちろん予習・復習はしっかりと！

担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
--------------	----------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	---

科目名	教養中国語 I	科目名 (英文)	Chinese I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2334e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	授業はオンラインで行います。 中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果 (資格)	中国語検定試験準 4 級受験可能。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	発音篇	発音 ①中国語の音節, ピンイン, 声調 ②単母音	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	2	発音篇	発音 ③複母音 ④鼻母音	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	3	発音篇	発音 ⑤子音 ⑥音節のつづり ⑦声調記号について	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
	4	発音篇	発音復習・練習 発音テスト	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読む。
	5	第1課 お名前は何ですか?	① 人称代名詞 ② 名前の聞き方を答え方 ③ 「是」の述語文の使い方 ④ 「?」の疑問文	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	6	第2課 これは私のパソコンです。	① 指示代名詞 ② 疑問詞疑問文 ③ 「的」の使い方 ④ 副詞「也」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	7	第3課 こちらの冬は寒いです。	① 場所代名詞 ② 形容詞述語文 ③ 疑問文「?怎??」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	8	第4課 私は毎日七時に起きます。	① 動詞述語文 ② 時間詞の置く場所 ③ 省略疑問文	事前に、テスト1の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	9	第5課 私の家は学校から遠いです。	① 動詞「在」 ② 介詞「?」 ③ 反復疑問文 ④ 方位詞の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	10	第6課 あなたは週に何コマの授業がありますか?	① 量詞 ② 「所有」を表現する「有」の文 ③ 疑問詞「几」と「多少」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	11	第7課 あなたは今年いくつですか?	★第4～6課の単元テスト2 ① 「存在」を表現する「有」の文 ② 年齢の聞き方 ③ 親族の名称	事前に、テスト2の準備をする。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	12	第8課 私たちは図書館で勉強しています。	① 介詞「在」 ② 連動文? ③ 疑問詞「怎?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読む。
	13	第9課 あなたは昨日どこに行きましたか?	① 「完了」を表現する「了」の文 ② 原因の「怎?」 ③ 「A 跟 B 一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	14	第10課 私はパンを食べたいです	① 助動詞「想」 ② 選択疑問文 ③ 提案の「??」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
	15	おさらい	★第7～10課復習 課題	事前に、単元テスト3の準備をする。

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語 (基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	オンライン授業への参加度：30% オンライン課題提出：70%			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室（7号館2階）			
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。			

科目名	教養中国語Ⅱ	科目名(英文)	Chinese II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	段 飛虹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	JCH2335e1		

授業概要・目的	正確な発音と中国語文法の基礎を学習し、読む・聴く・話す・書くの四つの力を総合的にバランスよく習得する。一年間の学習を通じて初級中国語がマスターできる。
到達目標	単語を覚え、基礎文法を学び、簡単な文型を運用して、会話や作文ができるなど、基礎的な中国語能力の習得を目指す。
授業方法と留意点	中国語の発音に慣れるように、口語練習を重視する。
科目学習の効果(資格)	中国語検定試験準4級受験可能。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第6課 あなたは週に何コマの授業がありますか？	①量詞 ②「所有」を表現する「有」の文 ③疑問詞「几」と「多少」	事前にテキストを目を通す、授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
2	第7課 あなたは今年いくつですか？	①「存在」を表現する「有」の文 ②年齢の聞き方 ③親族の名称	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
3	第8課 私達は図書館で勉強しています。	①介詞「在」 ②連動文(1) ③疑問詞「怎?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った発音を繰り返して読むこと。
4	第9課 あなたは昨日どこに行きましたか？	①「完了」を表現する「了」の文 ②原因の「怎?」 ③「A跟B一?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
5	第10課 私はパンを食べたいです。	①助動詞「想」 ②選択疑問文 ③提案の「??」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
6	第11課 母は私より背が高い。	①比較の表現 ②「喜?」の表現 ③「越A越B」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
7	第12課 彼女は中国に行ったことがある。	①過去の経験を表現する「?」の文 ②助動詞「打算」 ③変化を現す「了」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
8	第13課 私は手紙を書いている。	①進行形「在」「?」 ②連動文 ③推量・確認の「?」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
9	第14課 私は英語を話せます。	①助動詞「会」「能」「可以」 ②動詞の重ね型 ③要請の「??」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
10	第15課 あなたはいつ来たのですか？	①「是……的」の構文 ②人民元の教え方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
11	第16課 十五課を習い終わりました。	①兼語文「?」 ②結果補語 ③介詞「用」	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
12	第17課 母が私に生活用品を送ってくれました。	①方向補語「来」「去」 ②介詞「給」 ③「从A到B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
13	第18課 私は中国語を聞いて分かります。	①可能補語 ②動詞+「得/不?」 ③「先A, 然后B」の使い方	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
14	第19課 兄が走るのが早い。	①様態補語 ②時量の表現 ③数量表現	前回まで習った部分を覚えているかどうか確認する。授業後、練習問題を解答し、習った会話や例文を繰り返して読むこと。
15	まとめ	読む・書く復習 ☆テスト	事前に、テスト3の準備をすること。

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい中国語(基礎編)	張慧娟 王武雲 朱藝	郁文堂
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日中辞典		
	2	中日辞典		
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	wtvdpmu			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	平常点60%、テスト40%で評価する			
学生への メッセージ	教科書は必ず購入してください。購入していない者には単位が認定できません。 授業中の私語は他の受講生の迷惑になりますので、控えてください。			
担当者の 研究室等				
備考	授業時間外に質問したい場合、担当教員の授業曜日に非常勤講師室で問い合わせること。 不在の場合は専任教員を通じて問い合わせることもできる。 事前・事後学習に1時間ずつ要します。			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1342a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義では資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期は Teams を使ってグループワークを行うこともある。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	さあ始めよう！大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶということを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること (0.5 時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学の中にある「機会」について知る ・アセスメントを実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること ・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること ・講義で課された課題に取り組むこと (2 時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと (2 時間)
5	グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (インタビュープロジェクト) の目的を理解する ・社会人としてのマナーを学ぶ ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること (0.5 時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること (0.5 時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること (0.5 時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを 100 挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと (1 時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学 4 年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること (0.5 時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身に付ける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること (0.5 時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと (1 時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内のプレゼンテーションの内容をまとめること (1.5 時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること (2 時間)
15	夢の実現に向けて-学びのプランニング-/講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・学びのプランニング ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること (1 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン II、キャリアデザイン III、インターンシップ I、インターンシップ II、エンプロイメントデザイン I、エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各回の課題レポート (55%)、最終レポート (45%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井)			
備考	1. 必要に応じて授業内でレジメを配布する。 2. 各回のミニレポートは採点した後に、最終講義で返却する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名(英文)	Career Planning II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1343a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。 SDG s-4-4 SDG s-8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・事前学修：キャリアデザインⅡを履修する意味を考えること(0.5時間) ・事後学修：配布したレジュメを見直し、大学生活1年目で経験したことを思い出ししておくこと(0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・事前学修：配付したレジュメを見直すこと(0.5時間) ・事後学修：人はなぜ働くのかについて自分なりに考えること(0.5時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・事前学修：働くひとへの取材を行い、グループで討議する準備をすること(1時間) ・事後学修：他の学生が調べてきたことを参考に「働くひと」をまとめること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・事前学修：グループ課題に取り組むこと(1時間) ・事後学修：川会から川下の概念をまとめること(0.5時間)
5	社会を知る④	・会社組織とは何かについて理解する ・職種について理解を深める	・事前学修：配布資料を見直し、どのような業種・会社があるのか調べる(0.5時間) ・事後学修：興味のある業種・会社を調べる(0.5時間)
6	就活体験①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・事前学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(0.5時間)
7	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・事前学修：配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(0.5時間) ・事後学修：配布資料を見直し、学生生活の振り返りを行うこと(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
9	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・事前学修：リーダーシップについて考えること(0.5時間) ・事後学修：講義の内容を日常生活で実践すること(0.5時間)
10	自分を高める③	・講義8回目、9回目の実践報告プレゼンテーション	・事前学修：これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間) ・事後学修：講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること(0.5時間)
11	社会を知る⑤ -グループプレゼンテーション①	グループ課題の発表	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
12	社会を知る⑥ -グループプレゼンテーション②	グループ課題の発表	・事前学修：ライフイベントについて考えること(0.5時間) ・事後学修：配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・事前学修：プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間) ・事後学修：見つかった改善点に基づいて修正をかけること(0.5時間)
14	社会を知る⑧	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・事前学修：日本を取り巻く課題について考えること(0.5時間) ・事後学修：日本を取り巻く課題について理解すること(0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・事前学修：課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

					・事後学修：プリント類の整理をすること（0.5時間）
実務経験					
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップⅠ・Ⅱ				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder				
Teams コード	phgbv23				
Moodle コース名 および登録キー					
連絡手段	学内メール				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：				
評価方法 (基準)	グループワーク（10%）、提出物（40%）、期末レポート（50%）を総合的に評価する。				
学生への メッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。				
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）				
備考	2018年度以前入学の再履修の者は別教室で実施する。 別教室では、ミニレポートや最終課題を除くレポートは採点した後に、講義内で返却する。				

科目名	キャリアデザインⅢ	科目名 (英文)	Career Planning III
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武・上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1344a1		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 この科目を通じて、学生は、学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになることが期待される。 なお、授業担当者の人材業界での業務経験・起業経験を講義に活かす講義の内容となる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の特性や強みについて、他者に伝えられることができる。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義では各課題に挑む上で、講義資料を熟読する必要があるため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・配付資料を熟読すること ・どんな業界があるのかを調べること(1時間)
3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・配付資料を熟読すること ・どんな会社があるのかを調べること(1時間)
4	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・配付資料を熟読すること ・自分のワークスタイルを考えること(1時間)
5	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
6	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
7	ビジネス研究⑦	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと(1時間)
8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・配付資料を熟読すること ・自分の未来について考えること(1時間)
9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・配付資料を熟読すること ・自分について振り返ること(1時間)
10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・配付資料を熟読すること ・自分の特性について考えること(1時間)
11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・配付資料を熟読すること ・エントリーシートを作成する準備をしておくこと(1.5時間)
12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションの種類を知る ・グループディスカッションを実際に体験してみる	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
13	グループでのコミュニケーション②	・議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ	・配付資料を熟読すること ・グループへの貢献の仕方を考えること(1.5時間)
14	面接における対人コミュニケーション	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・配付資料を熟読すること ・模擬面接の準備をしておくこと(1.5時間)
15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無い確認すること(1時間)

実務経験	
関連科目	・キャリアデザイン、インターンシップ基礎、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、教的能力開発、コミュニケーション能力開発、エンプロイメントデザインⅠ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	講義での提出物と授業態度(55%)、期末レポート(45%)を総合的に評価する。

学生への メッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター(上野山研究室) 7号館3階 教育イノベーションセンター(水野研究室)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵, 上野山 裕士, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1345a1		

授業概要・目的	この科目は学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ (将来社会に出て仕事をする際に必要な能力) の獲得の必要性を認識するための科目である。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることが期待される。
到達目標	講義、個人ワーク、グループワークを通じて、目標と手段、意思決定や探求に向けて試行錯誤することができるようになることが目標である。
授業方法と留意点	「学びを通じて学び方を学ぶ」姿勢をもつことを心がける。また、講義で出た課題を実践し、振り返ることが課題となることもあるため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目で、2020年度入学生のみ履修ができる。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	私が NO.1 プロジェクト①	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」ための計画を立て、実践する	・設定した課題を実践すること (2 時間)
3	私が NO.1 プロジェクト② 中間振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること (0.5 時間)
4	仕事で使う分析スキルについての解説	・定量、定性分析の概説、定量分析の 3 つの場面の概説	・講義内容を振り返ること (0.5 時間)
5	私が NO. プロジェクト③最終振り返り	・講義 3 で設定した個別の課題の結果の振り返り、共有	・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること ・第一回課題「NO. プロジェクトの振り返り」レポートを作成すること (2 時間)
6	数字を用いて意思決定を行う①	・損益分岐点を使った意思決定方法を学ぶ	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
7	数字を用いて意思決定を行う②	・機会費用と埋没費用を使った意思決定、重み付けを使った意思決定の方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、日常生活で活かせる場面を考えること (1 時間)
8	議論を進めるファシリテーションの基本	・グループで議論する際の基本的なスキルを学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
9	創造的思考の枠組みを使って議論する	・クレイジープレスト、スマッシュアップなどアイデアを拡散する方法を学ぶ	・講義の内容を振り返り、学生生活で活かす場面を考えること (1 時間)
10	グループでリサーチプロポーザル (研究計画書) を作ろう	・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザル (研究計画書) の作成」	・グループで課題に取り組むこと (2 時間)
11	担当講師のキャリアについて①	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
12	担当講師のキャリアについて②	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
13	担当講師のキャリアについて③	・担当講師の研究内容、仕事の経歴などについての話をきく	・講義の内容を振り返ること (0.5 時間)
14	グループで研究計画書を発表	・講義 10 で取り組んだ課題をグループごとに発表する	・自グループ、及び他グループの発表内容を振り返ること ・第二回課題「グループレポート」提出 0.5 時間)
15	講義のまとめ (担当: 教育イノベーションセンター)	・エンプロイメントデザイン I の振り返り	・講義全体を振り返ること ・第三回課題「講義の最終レポート」を作成すること (2 時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン I ・ キャリアデザイン II ・ エンプロイメントデザイン II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	v500rz8

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回のミニツッパーパー (15%)、グループワーク (15%)、グループレポート (10%)、個人レポート2回 (60%)、を総合的に判断する。
学生への メッセージ	自身の将来の職業選択を考えるために、様々な課題を真摯な態度で聴いてほしい。 また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切に、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター (石井) 7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)
備考	教科書：各回、必要に応じ、プリント配布。 参考書：各回、必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。 中間課題の評価基準・書き方に関する注意事項は講義内またはポータルサイトで伝達する。

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	水野 武、石井 三恵、上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1346a1		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 この科目を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることが期待される。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	「先人(企業家)に学ぶ ～仕事への心構え」大阪商工会議所人材開発部職員(所属: 大阪企業家ミュージアム)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	私が大阪府警察で働く理由～警察官の教だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います(予定)。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会人として転職4回で5社目に勤務しながら週末にNPOも立ち上げたほうが、20歳から40歳まで何を悩んでどう生きてきたかの事例紹介(社会起業家)	・ゲストのキャリアの履歴とその節目で感じたことをお話いただきます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
5	プログラマーを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、「公共性」を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
6	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
7	My proud work しあわせのまちづくり?主役は地域住民!『こどもからおとしよりまで笑顔あふれる地域づくり』の支え方?(社会福祉協議会職員)	・地域住民にもっとも近い社会福祉法人である社会福祉協議会の仕事と理念についてお話しします	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
8	講義の中間まとめ(教育イノベーションセンター)	・講義の中間まとめ ・グループワークの実施	・事後学修: グループワークを振り返ること(1時間) 中間課題を作成すること(2.5時間)
9	「ビジネス創造に必要な力」を事例から学ぶ(IT/役員)	・現役のビジネスパーソンが日々実践している 「ビジネスに必要な力」を事例を通じて解説します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
10	信用金庫の仕事と期待される人材(金融/人材開発)	仕事へのやりがいとキャリアを学生の皆さんにイメージしていただけるよう、講義します。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
11	新卒での就職活動で全てが決まる!? (摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
13	SDGsで世の中を変える～未来の子どもたちのためにやるべきこと～	SDGsについて、ゲスト企業の取り組みについてお話しします。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
14	社会人になって学んだことと、企業経営で大切にしているモノ(摂南大学OB/経営者)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・事前学修: 講義全体を振り返り、ノートにまとめること(1.5時間) ・事後学修: 最終課題を作成すること(2.5時間)

実務経験	
関連科目	キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (60%)、グループ課題 (10%) を総合的に判断する。																
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。																
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (上野山) 7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)																
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。																

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA2506a3		

授業概要・目的	<p>この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。インターンシップ I では事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
---------	---

到達目標	就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。
------	--

授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
----------	--

科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。
-------------	-----------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターンシップとは何かについて考えること(1時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(2時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(3時間) 事後学修: 配付した資料を見直して講義を振り返ること(1時間)
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 興味のある会社や自治体などの組織について調べること(1時間) 事後学修: インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(3時間)
4	効果的なプレゼンテーションとは	<ul style="list-style-type: none"> 効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なプレゼンテーションについて考えること(1時間) 事後学修: 配付された資料を見直し講義を振り返ること(3時間)
5	課題のプレゼンテーション①	<ul style="list-style-type: none"> 第4回目の課題をプレゼンテーションする 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること(3時間) 事後学修: プレゼンテーションのポイントをまとめる(1時間)
6	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: マナーがなぜ大切なのかを考えること(2時間) 事後学修: 配付されたテキストを精読すること(2時間)
7	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間) 事後学修: 授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(2時間)
8	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 効果的なコミュニケーションについて考えること(2時間) 事後学修: マナーの大切さを再度考えること(2時間)
9	履歴書を記入する	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: 履歴書を書く準備をしておくこと(2時間) 事後学修: 講義を振り返り、履歴書を書き下すこと(2時間)
10	グループワーク①	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループ内の自分の役割を考えること(2時間) 事後学修: グループで課題に取り組むこと(2時間)
11	グループワーク②	<ul style="list-style-type: none"> 掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: グループでプレゼンテーションを行う準備をすること(2時間) 事後学修: 自グループ及び他グループのプレゼンテーションを振り返ること(2時間)
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(2時間) 事後学修: 訪問時のマナーについておさらいをすること(2時間)
13	課題のプレゼンテーション②	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間) 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)
14	課題のプレゼンテーション③	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(2時間) 事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(2時間)

	15	振り返りとまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること（2 時間） ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること（3 時間）
実務経験				
関連科目	この科目を履修する学生は、「インターンシップ II（企業等の組織での就業体験）」を履修することが望まれる。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	各課題 55%とレポート 45%(企業研究の PPT と企業研究レポート 25%、最終レポート 20%)			
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※ 4 月下旬にリスト公開→5 月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5 月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6 月末頃に事前訪問→8 月上旬からインターンシップ開始（予定）</p> <p>インターンシップ先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター（石井）			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。</p> <p>インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。 予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p>			

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA3507a3		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	直前学修① 6月20日(土) 3限目(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 *スーツ着用のこと	・事前学習: 社会人を意識したスーツ着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(1時間)
	2	直前学修② 6月20日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
	3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
	7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
	8	事後学修① 9月19日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	9	事後学修② 9月19日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
	10	事後学修③ 9月26日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	11	事後学修④ 9月26日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
	12	事後学修⑤ 10月3日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直していただくこと(1時間)
	13	事後学修⑥ 10月3日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)
	14	事後学修⑦ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・事前学習: 全員スーツ着用で受講するため、身だしなみを再度確認すること *学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること
	15	事後学修⑧ 10月17日(土) (予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	
実務経験				
関連科目	インターンシップⅠ			
教科書				

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など)(40%)を総合的に評価する。																
学生への メッセージ	1. 「インターンシップI」を必ず履修すること。 2. 「インターンシップI」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。																
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター(石井)																
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。 なお、振り返りの課題(体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など)は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。																

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁001~090
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果(資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	14	【レポート】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題2回(20%×2)、レポート(30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	総学習時間の目安は60時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁091~180
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30分程度）
3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30分程度）
4	課題① ある事物について、論理的に 説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
5	「構成」 レポートなどの文章の構成 を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30分程度）
7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づ いて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30分程度）
11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む （1時間程度）
13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計1時間程度）
14	レポート これまでの講義の内容を踏 まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する（1時間程度）

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	4	課題① ある事物について、論理的に 説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成 を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計で 1 時間程度)
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学 ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づ いて意見を述べる	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
	12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (1 時間程度)
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計で 1 時間程度)
	14	レポート これまでの講義の内容を踏 まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでの内容を総括して復習する (1 時間程度)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 181～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1508a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			———
1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
4	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
7	手紙を書く 課題1フィードバック	手紙文の作成 課題1のフィードバック	課題1を見直す
8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ
9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備
12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文 課題2フィードバック	グループワークの報告文を作成する 課題2のフィードバック	報告文の準備 課題2を見直す
14	小テストの復習	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題3フィードバック	課題3フィードバック	課題3を見直す

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	7tingab
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	課題(20%、20%、30%)、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名 (英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、話し合いや発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 授業中に注意されても私語をやめない者は退室させる。 許可無く教室から出た学生の再入室は認めない。
科目学習の効果 (資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方 (1)	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	――
2	レポートの書き方 (2)	資料引用の復習 (文章の引用) 考察・意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方 (3) 敬語の基礎	資料引用の復習 (図表の引用) 敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	課題1のフィードバック (1) ディスカッションの準備 (1)	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備
6	課題1のフィードバック (2) ディスカッション (1)	課題1のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備
7	課題1のフィードバック (3) ディスカッション (2) プレゼンテーションの準備 (1)	課題1のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備
8	ディスカッション (3) プレゼンテーションの準備 (2)	次回のプレゼンテーションに備えて発表資料や原稿の仕上げ・リハーサルを行う	プレゼンテーションの準備
9	【プレゼンテーション (1)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
10	【プレゼンテーション (2)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
11	【課題2】経過のまとめ 課題2の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題2を添削して返却する	ディスカッションの復習
12	【課題3】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習
13	課題3のフィードバック (1) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題3のフィードバック (2) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題3のフィードバック (3) 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

実務経験

関連科目 キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「オンライン型」

Teams コード qdl2xor

Moodle コース名

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。 これからのテレワークやオンラインを通じた会議システムのために、そのようなシステムを使ったワークに、一緒に慣れていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	4	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
	7	手紙を書く 課題1フィードバック	手紙文の作成 課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
	10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
	11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文 課題2フィードバック	グループワークの報告文を作成する 課題2のフィードバック	報告文の準備 課題2を見直す
	14	小テストの復習	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題3フィードバック	課題3フィードバック	課題3を見直す	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	aev6m16
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	課題(20%、20%、30%)、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	日本語能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Japanese Language Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1509a3		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果(資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	レポートの書き方(2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Web Folder/Teams「オンライン型」
Teamsコード	svso5tn
Moodleコース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	<p>数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと</p>
授業方法と留意点	<p>テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く という流れで取り組みます。問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。？後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。？なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト</p>
科目学習の効果(資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習
	15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習

実務経験	
関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス：
評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 20%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く という流れで取り組みます。問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習
15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習

実務経験

関連科目
 数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス
 メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法(基準)
 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 20%

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていること
授業方法と留意点	動画教材を使って予習を行い、講義時間内で類題を解いていきます。Input量が多い実践形式になるので、予習、復習が大切になります。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習計2時間
8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習計2時間
9	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
10	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
11	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
12	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
13	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習計1時間
14	培った思考力を応用問題に活かす	これまで取り組んできた問題の応用問題	全ての問題を事前に復習計2時間
15	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習計2時間

実務経験	
関連科目	キャリアデザインII

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト30点、Smart SPI15点、中間テスト15点、最終試験40点
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等備考	7号館3階 教育イノベーションセンター

科目名	数的能力開発 I	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2371a1		

授業概要・目的	<p>数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。講師陣は様々な実務経験を有しています。仕事上で数学を活用してきた経験を元に数的能力を高めていくことを目指します。</p> <p>前期は、数的能力の基礎を中心に学習します。算数・数学の基礎知識、公式など、使わないと忘れがちな内容にも取り組みます。中学や高校の授業で数学が嫌い・苦手だったという人の学び直しにも適しています。</p>																																																																		
到達目標	この講義を通じて、学生には授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになることが期待される。																																																																		
授業方法と留意点	<p>テキストの指定された問題を①自力で解く→②解説を確認して解き方を理解する→③類題を解く という流れで取り組みます。問題に集中して取り組むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テストの結果</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実力テスト</td> <td>講義概要説明、実力テストの実施</td> <td>実力テストの復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>算数・数学の基礎</td> <td>方程式の基礎</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>算数・数学の文章題①</td> <td>割合の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>算数・数学の文章題②</td> <td>金銭問題の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>算数・数学の文章題③</td> <td>分数の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>算数・数学の文章題④</td> <td>速度の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>復習①</td> <td>復習①</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間テスト</td> <td>中間テスト</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>社会で使う算数・数学①</td> <td>場合の数</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>社会で使う算数・数学②</td> <td>集合問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>社会で使う算数・数学③</td> <td>図表問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>社会で使う算数・数学④</td> <td>論証問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>社会で使う算数・数学⑤</td> <td>推理問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>復習②</td> <td>復習②</td> <td>全ての問題を事前に復習(約2時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終テスト</td> <td>最終テスト</td> <td>全ての問題を事前に復習(約2時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習(約1時間)	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)	8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)	9	社会で使う算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習(約2時間)	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習(約2時間)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習(約1時間)																																																																
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)																																																																
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)																																																																
9	社会で使う算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
10	社会で使う算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
11	社会で使う算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
12	社会で使う算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)																																																																
14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習(約2時間)																																																																
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習(約2時間)																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	数的能力開発Ⅱ、キャリアデザインⅡ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ASHITANE 数的思考 スタンダード</td> <td>キャリアラボ</td> <td>キャリアラボ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	キャリアラボ	キャリアラボ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ASHITANE 数的思考 スタンダード	キャリアラボ	キャリアラボ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「仕事」に使える数学</td> <td>深沢 真太郎</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	「仕事」に使える数学	深沢 真太郎	ダイヤモンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	「小テスト 30%」+「中間・期末試験 50%」+「Smart SPI 20%」で成績をつけます。																																																																		
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の復習を必ず行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 学習支援センター																																																																		
備考	『ASHITANE 数的思考 スタンダード』をメインテキストに、オリジナル教材を必要に応じて配布します。Smart SPI も利用します。																																																																		

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	9	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	10	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	11	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	12	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	13	思考力が必要な算数・数学⑥	推理問題、その他応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
	14	総復習	総復習	今まで学習した問題全てを事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

実務経験	
関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」&Moodle
Teamsコード	oajhq45
Moodleコース名および登録キー	「数的能力開発Ⅱ」2020年度後期金曜3限(法学部) f3ythk
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的
 数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。

到達目標
 授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと

授業方法と留意点
 まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト

科目学習の効果(資格)
 大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
8	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
9	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	思考力が必要な算数・数学⑥	推理問題、その他応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	総復習	総復習	全ての問題を事前に復習
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

実務経験

関連科目
 数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

授業形態
 Teams「教材・課題配信型」&Moodle

Teams コード
 pzfpomu

Moodle コース名および登録キー
 「数的能力開発Ⅱ」2020年度後期金曜3限(法学部)
 f3ythk

連絡手段
 学内メール

メールアドレス
 メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法(基準)
 小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%

学生へのメッセージ
 社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。

担当者の研究室等
 7号館3階 教育イノベーションセンター

備考

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名 (英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	<p>数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。</p>																																																																		
到達目標	<p>授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>実力テスト</td> <td>講義概要説明、実力テストの実施</td> <td>実力テストの復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>算数・数学の基礎</td> <td>方程式の基礎</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>算数・数学の文章題①</td> <td>割合の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>算数・数学の文章題②</td> <td>金銭問題の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>算数・数学の文章題③</td> <td>分数の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>算数・数学の文章題④</td> <td>速度の文章題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間テスト</td> <td>中間テスト</td> <td>今まで学習した問題全てを事前に復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>思考力が必要な算数・数学①</td> <td>場合の数</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>思考力が必要な算数・数学②</td> <td>集合問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>思考力が必要な算数・数学③</td> <td>図表問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>思考力が必要な算数・数学④</td> <td>論証問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>思考力が必要な算数・数学⑤</td> <td>推理問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>思考力が必要な算数・数学⑥</td> <td>推理問題、その他応用問題</td> <td>事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終テスト</td> <td>最終テスト</td> <td>全ての問題を事前に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習	8	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	9	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	10	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	11	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	12	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	13	思考力が必要な算数・数学⑥	推理問題、その他応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習	14	総復習	総復習	全ての問題を事前に復習	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習																																																																
2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習																																																																
8	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
9	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
10	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
11	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
12	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
13	思考力が必要な算数・数学⑥	推理問題、その他応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習																																																																
14	総復習	総復習	全ての問題を事前に復習																																																																
15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	<p>数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ASHITANE 数的思考 アドバンス</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> <td>(一社) キャリアラボ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	<p>Teams「教材・課題配信型」&Moodle</p>																																																																		
Teamsコード	<p>sz9jpt8</p>																																																																		
Moodleコース名および登録キー	<p>「数的能力開発Ⅱ」2020年度後期金曜3限(法学部) f3ythk</p>																																																																		
連絡手段	<p>学内メール</p>																																																																		
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:</p>																																																																		
評価方法(基準)	<p>小テスト 40%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 10%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	<p>7号館3階 教育イノベーションセンター</p>																																																																		
備考																																																																			

科目名	数的能力開発Ⅱ	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	黒木 和雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JKY2372a1		

授業概要・目的	<p>数的分野(算数・数学)を学習します。数的能力は社会に出てから活用する場面が多くあります。また数的能力を高めることは、論理的思考力を高めることにも繋がります。よってこの授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう数的能力を高めることを目的とします。なお、講義では担当講師の20年来の人材業界および教育業界での業務において数的能力を活用してきた経験を元に、基礎から応用力の習得をめざします。後期は、より実践的な内容で数的能力を高めます。また、実践的な内容に取り組むことで、思考力が高まることも期待されます。</p>
到達目標	授業で取り組んだ問題を概ね解けるようになっていくこと
授業方法と留意点	<p>まずは自力で解く→講師による解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して臨むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。</p> <p>毎回異なる内容に取り組むため、講義で取り扱った問題の復習を必ず行い、学んだことを確実に定着させるようにしてください。</p> <p>後期に開講される数的能力開発Ⅱでは、応用力が必要となる実践的な内容を扱います。Ⅰ・Ⅱの両科目の履修を推奨します。</p> <p>なお、履修者数によっては、2回目以降の授業を複数クラスに分けて行います。初回の実力テスト</p>
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習(約1時間)
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	7	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習(約2時間)
	8	思考力が必要な算数・数学①	場合の数	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	9	思考力が必要な算数・数学②	集合問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	10	思考力が必要な算数・数学③	図表問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	11	思考力が必要な算数・数学④	論証問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	12	思考力が必要な算数・数学⑤	推理問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	13	思考力が必要な算数・数学⑥	推理問題、その他応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習(約1時間)
	14	総復習	総復習	全ての問題を事前に復習(約2時間)
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習(約2時間)

実務経験	
関連科目	数的能力開発Ⅰ、キャリアデザインⅡ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ASHITANE 数的思考 アドバンス	(一社) キャリアラボ	(一社) キャリアラボ
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」& Moodle
Teams コード	hp3etxk
Moodle コース名 および登録キー	「数的能力開発Ⅱ」2020年度後期金曜3限(法学部) f3ythk
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	「小テスト 40%」「中間テスト・最終テスト 50%」「SmartSPI 10%」
学生へのメッセージ	社会で使うことのできる算数や数学を身につけていただければと思います。また、質問はどんなことでも遠慮なく質問してください。毎回の復習なくして数的能力の向上はありません。毎週1時間程度の予習復習を必ず行ってください。
担当者の研究室等	3号館2階 学習支援センター
備考	

科目名	コミュニケーション能力開発	科目名 (英文)	Development of Communication Ability
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣, 橋本 朗子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1512a3		

授業概要・目的
 社会に必要なコミュニケーションスキルを習得するための授業です。読む・書く・話す・聴く の4技能は常に求められるスキルですが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能です。この授業では毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をします。普段、ディスカッションをしたり、プレゼンテーションを練習する機会はありません。講義を通じてこれら社会で求められる力を身につけたい人は受講をお勧めします。講師陣は航空業界で多種多様な価値観に触れた経験や、様々な業界で実務経験を持ち、「話す」「聴く」技術を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使えるコミュニケーション能力の獲得を目指します。

到達目標
 高度なコミュニケーションスキルを身につけることを目標とします。具体的には社会活動において、自らが望む相応の結果を出すためのスキルを身につけることが目標です。
 SDGs4
 SDGs10

授業方法と留意点
 毎回オンライン(オンデマンド)で授業動画を配信します。それを学習し、レポート課題で習熟度を測ります。個人での学習にはなりますが、コミュニケーションに必要な理論を学び、それを実社会で主体的に実践してください。

科目学習の効果(資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	コミュニケーションとは	コミュニケーションの本質を考える。	シラバス熟読
2	聴く力①傾聴力を高める	聴くための技術の基本的な方法を学ぶ。	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
3	聴く力②質問力・コーチング力	聴いた内容を深めるために、質問とコーチングの基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
4	話す力①ロジカルコミュニケーション①	論理的に会話するための基礎を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
5	話す力②ロジカルコミュニケーション②	論理的に会話するためのフレームワークを学び、発表する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
6	話す力③プレゼンテーションの技法①	非言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
7	話す力④プレゼンテーションの技法②	言語面で、プレゼンテーションを効果的に行う方法を学ぶ	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)
8	中間テスト	聴く力・話す力を問う	今までの範囲を復習しておくこと(目安:2時間)
9	議論する力①対話と議論の進め方①	対話・議論を進めるための方法を知る	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
10	議論する力②対話と議論の進め方②	対話・議論の練習をして、対話・技法のスキルを習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
11	議論する力③ファシリテーションの技法	話し合いを円滑にする技術を習得する	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
12	相手を尊重する①自分の気持ちを伝える	適切に主張する態度・手法を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
13	相手を尊重する②ダイバーシティを理解する	コミュニケーションの基礎となる多様性の考え方を身につける	講義内容を復習し、実践すること(目安:30分)。チームで発表の準備を行う(目安:1時間)。
14	総合演習①	課題について、発表と議論を行う	講義内容を復習し、実践すること(目安:2時間)
15	総合演習②・最終テスト	課題について、発表と議論を行う	全ての範囲を確認しておくこと(目安:2時間)

実務経験
関連科目 キャリアデザインⅡ, 数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態
 Teams コード

Moodle コース名
 および登録キー

連絡手段
 メールアドレス

メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
 メールアドレス:

評価方法(基準)
 毎回の小レポート40%、2回のテスト30%、動画プレゼンテーション30%

学生へのメッセージ
 人間は「社会的動物」です。他者との関係の中で生きていかねばなりません。他者との関係性を良好に保つことは、豊かな人生を送るための重要な条件になります。そのために求められるものが「コミュニケーション能力」と言われており、これはビジネスシーンにおいても同様です。コミュニケーションを楽しみながら、適切に行えるようになっていきましょう。

担当者の研究室等
備考

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1513a3		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCA について調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400 字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0 をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社交文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400 字以上)。
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

実務経験				
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート (50%)、期末試験 (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manner II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JCA1514a3		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	「遠隔授業(教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			1
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: 第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用クレーム対応	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO 意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	・設営業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修: 会議に参加するための心構えを考える。 ・事後学修: YTT 方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事前学修: ビジネスマナーの必要性を考える。 ・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事前学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

実務経験				
関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務ワーク	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder			
Teams コード	v6ccssr			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。 だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持ち、それを振り返ることから始まります。 まずは、TPOを考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。 レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1301a1		

授業概要・目的	「最近余り本を読んでいないなあ」と思っているあなた、でも、本当に読むことがずっとキライでしたか？ 若い人たちの活字離れがあれこれ取り沙汰されている昨今ですが、視覚や聴覚に訴える作品とは異なり、文字を通じてしか伝えられない様々な表現や思いがあることを、ぜひ感じてほしいと願っています。現代の流行作品はきっとあなたが一人でも楽しむでしょうから、私はあなたが一人では決して開くことのないような扉を開いて、作品世界を提示しようと思っています。この講座では、俳句・和歌・短歌・詩・歌詞などの韻文作品を中心に扱います。文字作品の新たな魅力の一つでも発見して、あなた自身の言語生活の豊かな糧として下さい。
到達目標	表面的読解にとどまらず、作者の表現内容を読み解くこと。そしてそれを基にして考え、感じる。さらにその考えや思いを文章化すること。読んで「面白かった」で終わるのではなくその思いを言語化することを目標とします。
授業方法と留意点	テーマごとにプリント形式で授業を進めます。授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組むことで積極的な授業参加をあなたに要求します。
科目学習の効果 (資格)	「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、表現やことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果でしょう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	短詩型文学の広がりを概観する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
2	短詩型文学 (1)	散文文学との違いを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
3	短詩型文学 (2)	歴史的な流れを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
4	現代詩 (1)	表現の特徴を考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
5	現代詩 (2)	「歌詞」を素材として考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
6	童謡 (1)	子供のころに聞き覚えた歌詞を振り返る。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
7	童謡 (2)	文学作品として歌詞を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
8	短歌 (1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
9	短歌 (2)	創作の過程を追体験する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
10	短歌 (3)	現代の作品と古典作品の感性の差を比較する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
11	俳句 (1)	表現技法の特徴を考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
12	俳句 (2)	象徴表現の広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
13	俳句 (3)	「俳句」から「ハイク」への広がりを考察する。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
14	韻文の翻訳 (1)	翻訳を通じて伝わるものと伝わらないものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。
15	韻文の翻訳 (2)	「現代口語表現訳」から見えてくるものを考える。	プリントに提示した資料の原典を当たってより学習を深めましょう。目安となる所要時間は半時間程度です。

実務経験	
関連科目	こういった方面に興味のある人は、他に「日本語読解」などを学ぶことで、より理解を深めることができるでしょう。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	毎回の提出レポートに「質問その他」の欄を設けます。
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	◇講義中に作成する小レポートが出席確認を兼ねます。 ◇最終成績は、毎回のレポート回答状況6割と最終レポートの内容4割で判断します。 ◇原則としてレポート提出が半分以下の場合は、成績評価を行いません。
学生への メッセージ	遠いところに自分と同じ考えの人を発見する喜び。近いところに自分の思いも寄らないような発想の人に出会う楽しみ。・・・文学に触れる意味は、この二点に尽きるのではないかと、私は思っています。どうかあなたが「よい出会い」を経験できますように。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	

科目名	日本の歴史	科目名 (英文)	History of Japan
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	曾我部 愛
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1306a1		

授業概要・目的	日本史学を含む歴史学は、過去のさまざまな歴史的事象が、いかなる原因によって起こり、先人達がそれにどのように対応をしたかを学び取り、そこから現代社会に起こっている多様な問題を解決するための糸口を考える学問である。本授業は、上記の前提に基づき、日本の歴史の基本的な流れを理解することを目的とする。具体的には原始・古代から現代まで、毎回テーマを絞り込み、随時配布する資料レジュメをもとに講義を行う。その際、高校の教科書などで通説として理解されている事柄について、歴史学研究の最新の成果を紹介する。
到達目標	歴史を学ぶにあたっては、歴史的事象を、主観的・恣意的ではなく、客観的に捉える視角が必要である。したがって、本授業を通じて日本の歴史に関する最低限の知識を得た上で、歴史に対する関心・客観的な考え方、そこから現代社会全体を見通す視角を習得することを目標とする。
授業方法と留意点	教材を配布し、その都度到達度を確認する(数回程度の課題提出)。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	本講義の進め方、評価方法について説明する。 あわせて歴史学を学ぶ意義や、日本史学という学問の特質を提示する。	シラバスを一読しておくこと。
2	原始・古代(1):先史・原史時代から歴史時代へ	日本列島への人類の渡来と定住から、弥生時代から古墳時代を経て、ヤマト王権の誕生までの流れを、近年の研究成果をふまえて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「継体天皇」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
3	原始・古代(2):古代国家の成立と律令制の展開	朝鮮半島や隋との国際交流に注目しながら、日本における律令国家の成立と展開について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「難波宮・藤原京」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
4	原始・古代(3):摂関政治から院政へ	平安時代に始まる政治制度である摂関政治と院政について概観する。また浄土信仰の興隆など文化的側面にも注目する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「平安仏教」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
5	中世(1):武家政権の成立と展開	平氏政権・鎌倉幕府という武家政権の歴史的特質について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「源平合戦」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
6	中世(2):モンゴル戦争から南北朝内乱へ	初めての大規模な対外戦争であるモンゴル戦争から、いかなる過程を経て幕府滅亡に至るのかを説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「建武親政」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
7	中世(3):室町幕府の成立と展開	室町幕府の成立から応仁の乱までの推移と、室町文化の広がりについて概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
8	中世(4):戦国の争乱と天下人の登場	戦国時代の始まりから織田信長・豊臣秀吉による天下統一までの動向について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
9	近世(1):江戸幕府の開創と幕藩体制の展開	その後約250年続く江戸幕府の支配体制の成立と対外政策について考える。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「島原・天草一揆」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
10	近世(2):江戸幕府の動揺と開国	様々な改革にもかかわらず動揺する幕藩体制と、欧米列強の脅威にさらされた幕末日本の情勢について説明する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「大塩平八郎の乱」の部分を一読しておくこと(所要時間60分)。 復習:レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと(所要時間60分)。	
11	近世(3):幕末の動乱と江戸幕府の終焉	攘夷の高まりと倒幕への動き、そして戊辰戦争への流れを概観する。	予習:高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「戊辰戦争」の部分を一読	

				しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	12	近・現代 (1)：明治政府の成立と近代国家への歩み	幕末の内乱を経て成立した明治政府が、どのような過程を経て近代国家への道のりを歩んだのか考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「文明開化」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	13	近・現代 (2)：対外戦争と近代国家日本	日清・日露戦争を経て本格的に近代国家へ歩み始めた日本が直面した様々な問題について説明する。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「関東大震災」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	14	近・現代 (3) 第二次世界大戦と日本の行方	欧米列強と比肩した日本が、アジアへの進出を果たそうとして起こった諸外国との戦争と、その?末について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「太平洋戦争」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
	15	近・現代 (4)：戦後日本と現代社会	敗戦後の日本の復興と、現代社会へと続く諸問題について考える。	予習：高校・中学校日本史教科書や資料集の該当する記述・コラム、とくに「高度経済成長」の部分を一読しておくこと（所要時間 60 分）。 復習：レジュメ・ノートによって講義を振り返っておくこと（所要時間 60 分）。
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業後の提出物（コメントペーパー・課題等）20% 期末レポート 80%			
学生への メッセージ	積極的に日本史を学ぶ意欲を持つ学生の受講を期待します。 授業内の飲食、私語、携帯電話およびスマートフォン・音楽プレーヤー等の使用は厳禁。 その他、他の受講生に迷惑をかける行為を禁止する。これを守れない場合は、受講を認めない場合がある。			
担当者の 研究室等	連絡先：haruyanagi.akatokikudachi@gmail.com			
備考	課題・提出物等のフィードバックは授業内に行う。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	世界の歴史	科目名 (英文)	History of the World
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 良生
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JHU1307a1		

授業概要・目的	本講義では、ヨーロッパ近現代史を通じて、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する批判的なまなざしを涵養することを目的とする。そのために、ヨーロッパ近現代史の基礎的な知識を習得し、近現代とはどのような時代かを理解することを目的とする。
到達目標	ヨーロッパ近現代史の重要な転機を説明でき、それを活かして現代社会の問題について能動的に考えることができるようにする。
授業方法と留意点	毎回パワーポイントにもとづいて授業を進める。オンライン授業としては、パワーポイントをもとに作成した動画を配布する予定である。
科目学習の効果 (資格)	歴史学に関する基本的な知識を獲得するとともに、現代社会を歴史的視点から読み解く力を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	学問としての歴史学について	(事前) 近代と現代という時代がいつかを調べてくる。
	2	イギリス産業革命	産業革命の歴史的意義	(事前) 産業革命における技術革新について調べてくる。
	3	フランス革命①	革命の勃発・展開・終焉	(事前) フランス革命の展開について簡単に調べてくる。
	4	フランス革命②	フランス革命の文化的側面	(事後) 授業内容を復習してフランス革命の文化的側面について理解する。
	5	フランス革命以後のヨーロッパ	ナポレオン帝国とウィーン体制	(事前) ナポレオンの諸業績について調べてくる。
	6	国民国家の時代①	国民国家とナショナリズムについて	(事後) 復習として現代世界におけるナショナリズムをめぐる対立や問題について調べる。
	7	国民国家の時代②	国民国家形成の進展	(事前) これまでの生活において国民感情を喚起された出来事について考えてくる。
	8	帝国主義の時代	帝国の形成と植民地主義	(事前) 19世紀後半から第一次世界大戦までの欧米列強の植民地の範囲について調べてくる。
	9	第一次世界大戦	はじめての「総力戦」	(事前) 第一次世界大戦の経緯について調べてくる。
	10	ファシズムの時代	ナチズムの誕生と展開	(事前) ヒトラーの生涯について調べてくる。
	11	第二次世界大戦	戦争の展開と世界の再編	(事前) 第二次世界大戦の経緯について調べてくる。
	12	冷戦の時代	冷戦構造と社会	(事前) 西側諸国と東側諸国に参加していた国についてそれぞれ調べてくる。
	13	ヨーロッパ統合の歴史	冷戦下のヨーロッパ	(事後) 復習として近年のイギリスによる EU 離脱 (ブレグジット) に関するニュースを調べる。
	14	近現代の人びとの生活	近現代社会と余暇の過ごし方	(事後) 授業内容を復習して、近現代の人びとの時間感覚について理解する。
	15	講義全体のまとめ	「近代」と「現代」	(事前) 全授業内容を復習しておく。

実務経験	
関連科目	ヨーロッパ史学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teams コード	aoziwi9

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	個人メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	期末レポート (100%) で評価する。
-----------	----------------------

学生へのメッセージ	高校までの「歴史」は、過去の出来事・事件の年号や偉人の名前を暗記する科目だと思われがちです。しかし、大学で研究する「歴史学」は、安易に「正解」を求めめるのではなく、歴史を通じて現代社会や未来についての能動的で批判的な思考力を涵養する学問です。過去の遠い世界の話として一方的に聞くのではなく、講義内容をうけて自分の生活など身近なところにある問題についてこれまでとは違った目線で考えるようにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	授業時間外での質問などについては、講師の個人メール (第1回講義で知らせる) などで対応する。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>概要説明</td><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 1</td><td>代名詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 1</td><td>代名詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 2</td><td>時制</td><td>演習</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit2</td><td>時制</td><td>演習</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 3</td><td>時制</td><td>演習</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 3</td><td>助動詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>8</td><td>Test</td><td>助動詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 4</td><td>態</td><td>演習</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 4</td><td>態</td><td>演習</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 5</td><td>不定詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 5</td><td>不定詞</td><td>演習</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 6</td><td>Grammar Point のまとめ</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 6</td><td>総合復習</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>Test</td><td>TOEIC 演習</td><td>_____</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	概要説明	_____	_____	2	Unit 1	代名詞	演習	3	Unit 1	代名詞	演習	4	Unit 2	時制	演習	5	Unit2	時制	演習	6	Unit 3	時制	演習	7	Unit 3	助動詞	演習	8	Test	助動詞	演習	9	Unit 4	態	演習	10	Unit 4	態	演習	11	Unit 5	不定詞	演習	12	Unit 5	不定詞	演習	13	Unit 6	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	Unit 6	総合復習	授業の復習	15	Test	TOEIC 演習	_____
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	_____	_____																																																																
2	Unit 1	代名詞	演習																																																																
3	Unit 1	代名詞	演習																																																																
4	Unit 2	時制	演習																																																																
5	Unit2	時制	演習																																																																
6	Unit 3	時制	演習																																																																
7	Unit 3	助動詞	演習																																																																
8	Test	助動詞	演習																																																																
9	Unit 4	態	演習																																																																
10	Unit 4	態	演習																																																																
11	Unit 5	不定詞	演習																																																																
12	Unit 5	不定詞	演習																																																																
13	Unit 6	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																
14	Unit 6	総合復習	授業の復習																																																																
15	Test	TOEIC 演習	_____																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	Do your best and enjoy the class																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文
	2	Unit 1: Japanese companies in rural areas facing difficulty in hiring graduates	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.1-6 単語:NO.1-30 事後:前回単語不合格者 再提出
	3	Unit 2: Foreign visitors go on record shopping spree	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.7-12 単語:NO.21-50 事後:前回単語不合格者 再提出
	4	Unit 3: Niigata rice exports to China start	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.13-19 単語:NO.41-70 事後:前回単語不合格者 再提出
	5	Unit 4: India plans manned space mission by 2021	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.20-24 単語:NO.61-90 事後:前回単語不合格者 再提出
	6	Unit 5: Saudi teenager 'under the care' of U.N. agency	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.25-30 単語:NO.81-110 事後:前回単語不合格者 再提出
	7	教科書 Unit 1-5 テスト	Unit 1~5 までの内容について小テストを行う。	Unit 1-5 テスト勉強
	8	中間試験解説及び評	演習	事前:単語:NO.101-130 事後:前回単語不合格者 再提出
	9	Unit 6: Shenzhen switches to electric taxis	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.31-36 単語:NO.121-150 事後:前回単語不合格者 再提出
	10	Unit 7: Frog calls may help improve telecom technology	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.37-42 単語:NO.141-170 事後:前回単語不合格者 再提出
	11	Unit 8: Japan to power fishing boats with Toyota's hydrogen fuel	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.43-48 単語:NO.161-190 事後:前回単語不合格者 再提出
	12	Unit 9: Study: Greenland ice melting four-fold faster than decade ago	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.49-54 単語:NO.181-210 事後:前回単語不合格者 再提出
	13	Unit 10: Domestic firms eye Africa's geothermal power sector	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書:P.55-60 単語:NO.201-230 事後:前回単語不合格者 再提出
	14	教科書 Unit 6-10 復習	単語小テスト及び教科書復習	事前:Unit 6-10 復習 単語:NO.221-248 事後:前回単語不合格者 再提出
15	教科書 Unit 6-10 テスト	Unit 6~10 までの内容について小テストを行う。	事前:Unit 6-10 テスト勉強 事後:前回単語不合格者 再提出	
実務経験				
関連科目	他の英語科目			

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはず。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	藪井 恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>――</td> <td>――</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson3</td> <td>代名詞</td> <td>演習3</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson4</td> <td>代名詞</td> <td>演習4</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson5</td> <td>時制</td> <td>演習5</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson6</td> <td>時制</td> <td>演習6</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson7</td> <td>時制</td> <td>演習7</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson8</td> <td>助動詞</td> <td>演習8</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson9</td> <td>助動詞</td> <td>演習9</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson10</td> <td>態</td> <td>演習10</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson11</td> <td>態</td> <td>演習11</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson12</td> <td>不定詞</td> <td>演習12</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson13</td> <td>不定詞</td> <td>演習13</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson3～13</td> <td>Grammar Pointのまとめ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC演習</td> <td>――</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	概要説明	――	――	2	Lesson3	代名詞	演習3	3	Lesson4	代名詞	演習4	4	Lesson5	時制	演習5	5	Lesson6	時制	演習6	6	Lesson7	時制	演習7	7	Lesson8	助動詞	演習8	8	Lesson9	助動詞	演習9	9	Lesson10	態	演習10	10	Lesson11	態	演習11	11	Lesson12	不定詞	演習12	12	Lesson13	不定詞	演習13	13	Lesson3～13	Grammar Pointのまとめ	授業の復習	14	総合復習	総合復習	授業の復習	15	プリント教材	TOEIC演習	――
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	――	――																																																																
2	Lesson3	代名詞	演習3																																																																
3	Lesson4	代名詞	演習4																																																																
4	Lesson5	時制	演習5																																																																
5	Lesson6	時制	演習6																																																																
6	Lesson7	時制	演習7																																																																
7	Lesson8	助動詞	演習8																																																																
8	Lesson9	助動詞	演習9																																																																
9	Lesson10	態	演習10																																																																
10	Lesson11	態	演習11																																																																
11	Lesson12	不定詞	演習12																																																																
12	Lesson13	不定詞	演習13																																																																
13	Lesson3～13	Grammar Pointのまとめ	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	授業の復習																																																																
15	プリント教材	TOEIC演習	――																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teamsコード																																																																			
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%																																																																		
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、評価方法についての説明、実力テスト	事後学習： 実力テストの復習
	2	Unit 1: Communication	・単語テスト ・コミュニケーションをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
	3	Unit 2: Friendship	・単語テスト ・友情をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
	4	Unit 3: Health	・単語テスト ・健康をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
	5	Unit 4: Environment	・単語テスト ・環境をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
	6	Unit 5: Fashion	・単語テスト ・ファッションをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認、 中間テストの準備
	7	中間テスト	これまで学んだ内容より、中間テスト	事後学習： これまでの授業内容の復習
	8	Unit 6: Food	・単語テスト ・食物をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
	9	Unit 7: Science & Technology	・単語テスト ・科学技術をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの力を向上を目指す	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認
10	Unit 8: Study Abroad	・単語テスト ・留学をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング	事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記 事後学習： 文法、発音の確認	

	11	Unit 9: College Life in the U.S.	<p>の力を向上を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・アメリカでの大学生活をトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング <p>の力を向上を目指す</p>	<p>事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記</p> <p>事後学習： 文法、発音の確認</p>
	12	Unit 10: Steve Jobs	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・スティーブ・ジョブズをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング <p>の力を向上を目指す</p>	<p>事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記</p> <p>事後学習： 文法、発音の確認</p>
	13	Unit 11: Volunteer Work	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・ボランティアをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング <p>の力を向上を目指す</p>	<p>事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記</p> <p>事後学習： 文法、発音の確認</p>
	14	Unit 12: Internship	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・インターンシップをトピックにリスニング、スピーキング、リーディング、ライティング <p>の力を向上を目指す</p>	<p>事前学習： Key Words, Useful Expressions の暗記</p> <p>事後学習： 文法、発音の確認 期末テストの準備</p>
	15	期末テスト	これまで学んだ内容より、期末テスト	<p>事前・事後学習 これまでの授業内容の復習</p>
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 (原則として欠席を</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小倉 永慈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の進め方、予習・復習の内容、成績の基準、受講にあたっての心構えなどについて説明する。また、教科書の構成を紹介する。	教科書前文 教科書:Unit 1
	2	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 1-30 教科書:Unit 1
	3	Unit 1: Stand by Me/Ben E. King	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 21-50 教科書:Unit 2
	4	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 41-70 教科書:Unit 2
	5	Unit 2: Jailhouse Rock/Elvis Presley	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 61-90 教科書:Unit 3
	6	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 81-110 教科書:Unit 3
	7	Unit 3: Blowin' in the Wind/Bob Dylan	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 101-130 教科書:Unit 4
	8	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 121-150 教科書:Unit 4
	9	Unit 4: Puff, the Magic Dragon/Peter, Paul and Mary	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 141-170 教科書:Unit 5
	10	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 161-190 教科書:Unit 5
	11	Unit 5: I've Gotta Get a Message to You/Bee Gees	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 181-210 教科書:Unit 6
	12	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 201-230 教科書:Unit 6
	13	Unit 6: Bridge Over Troubled Water/Simon & Garfunkel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO. 221-248 教科書:Unit 7
	14	Unit 7: Take Me Home, Country Roads / John Denver	単語小テスト及び教科書復習	教科書:Unit 7
	15	Unit 7: Take Me Home, Country Roads / John Denver	単語小テスト及び教科書復習	教科書総復習

実務経験	
------	--

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室 eiji.ogura@edu.setsunan.ac.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、自己紹介 Unit 1 Jobs	授業の進め方や評価方法などの説明 自己紹介の仕方、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える
2	Unit 1 Jobs	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
3	Unit 1 Jobs	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
4	Unit 2 Daily activities	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
5	Unit 2 Daily activities	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
6	Unit 3 At the moment	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
7	Unit 3 At the moment	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 中間テストに備える	
8	中間テスト、学習活動	中間テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
9	Unit 4 Feelings	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
10	Unit 4 Feelings	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
11	Unit 5 On the weekend	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
12	Unit 5 On the weekend	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
13	Unit 6 Downtown	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 小テストに備える	
14	Unit 6 Downtown	小テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題 期末テストに備える	
15	期末テスト、学習活動	期末テスト 聴く、読む、話す、書く技術、単語、文法を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶ	宿題	

実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	聴く、読む、話す、書く技術を、個人・ペア・グループ活動を通して学ぶので、毎週授業に出席することが重要です。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
	2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	14	E-mailについての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記
	15	9-14回のまとめテスト、復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 担当教員の評価 70%
学生への	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が

メッセージ	得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1323c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業方法、提出物、評価方法についての説明</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit1</td> <td>be動詞、現在</td> <td>教科書 p.6-9</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit2</td> <td>一般動詞、現在</td> <td>教科書 p.10-13</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit3</td> <td>多様な疑問文</td> <td>教科書 p.14-17</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit4</td> <td>be動詞、過去</td> <td>教科書 p.18-21</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit5</td> <td>一般動詞、過去</td> <td>教科書 p.22-25</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit6</td> <td>特殊な文</td> <td>教科書 p.26-29</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit7</td> <td>未来形</td> <td>教科書 p.30-33</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit8</td> <td>進行形</td> <td>教科書 p.34-37</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit9</td> <td>助動詞</td> <td>教科書 p.38-41</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit10</td> <td>英文の型</td> <td>教科書 p.42-45</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習1</td> <td>定期試験対策</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習2</td> <td>定期試験対策</td> <td>————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	————	2	Unit1	be動詞、現在	教科書 p.6-9	3	Unit2	一般動詞、現在	教科書 p.10-13	4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p.14-17	5	Unit4	be動詞、過去	教科書 p.18-21	6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p.22-25	7	Unit6	特殊な文	教科書 p.26-29	8	Unit7	未来形	教科書 p.30-33	9	Unit8	進行形	教科書 p.34-37	10	Unit9	助動詞	教科書 p.38-41	11	Unit10	英文の型	教科書 p.42-45	12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する		13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する		14	総合復習1	定期試験対策	————	15	総合復習2	定期試験対策	————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	————																																																																
2	Unit1	be動詞、現在	教科書 p.6-9																																																																
3	Unit2	一般動詞、現在	教科書 p.10-13																																																																
4	Unit3	多様な疑問文	教科書 p.14-17																																																																
5	Unit4	be動詞、過去	教科書 p.18-21																																																																
6	Unit5	一般動詞、過去	教科書 p.22-25																																																																
7	Unit6	特殊な文	教科書 p.26-29																																																																
8	Unit7	未来形	教科書 p.30-33																																																																
9	Unit8	進行形	教科書 p.34-37																																																																
10	Unit9	助動詞	教科書 p.38-41																																																																
11	Unit10	英文の型	教科書 p.42-45																																																																
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する																																																																	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する																																																																	
14	総合復習1	定期試験対策	————																																																																
15	総合復習2	定期試験対策	————																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teamsコード																																																																			
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 定期試験 45% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 25%																																																																		
学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一步一步!」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	下吉 真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	概要説明 Chapter1 Biology (input 演習)	授業の進め方の説明 発表と解説	授業の復習
	2	Chapter1 Biology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	Chapter 2 Psychology (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	Chapter 2 Psychology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	Chapter 3 Government (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	Chapter 3 Government (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	中間テスト	Chapter 1-3	授業の予習復習 中間テストの準備
	8	Chapter 4 Architecture (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	9	Chapter 4 Architecture (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	Chapter 5 Anthropology (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	Chapter 5 Anthropology (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	Chapter 6 Literature (input 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	Chapter 6 Literature (output 演習)	発表と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	総復習	総合復習	授業の予習復習 課題準備
	15	まとめテスト	Chapter 4-6	授業の予習復習 まとめテストの準備

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
--------------	--

学生への メッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
---------------	--

担当者の	7号館2階(非常勤講師室)
------	---------------

研究室等	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Chapter 1: What makes Kobe beef so special?	・授業の進め方、評価方法等の説明 ・Chapter 1 導入	TOEIC 単語テストの準備 授業の復習 (1時間)
	2	Chapter 1: What makes Kobe beef so special?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した Listening/Reading/Writing/Speaking の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	3	Chapter 2: What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	4	Chapter 3: What are the seven things in shichimi?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	5	Chapter 4: Why does Japan's postal symbol look like that?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	6	Chapter 5: Why is there plastic grass in my bento?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	7	Chapter 6: Why is there a 5 o'clock bell?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	中間テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	8	Chapter 7: Why do train drivers in Japan make those strange gestures? 中間テスト	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・中間テスト (Chapters1 - 6)	中間テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	9	Chapter 8: How is nori made?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	10	Chapter 9: Why do Japanese wear masks?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	11	Chapter 10: What do the dates on food package mean?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	12	Chapter 11: Why do Japanese ask about blood type?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	13	Chapter 12: Do Japanese mosquito coils work?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 (2時間)
	14	Chapter 13: Why does miso soup move by itself?	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連した L・R・W・S の活動に取り組む ・TOEIC 単語テスト	TOEIC 単語テストの準備 授業の予習・復習 期末テストの準備 (2時間)
15	前期のまとめ	・前期学習内容の総復習	期末テストの準備 (2時間)	

	期末テスト	・期末テスト (Chapters 7 - 13)	
実務経験			
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%		
学生への メッセージ	自分の「学び」に責任を持って、しっかりと英語の力が伸ばせるように頑張りましょう。		
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習(固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
4	趣味についての文章を通して主語+動詞への学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
7	コンサートについての文章を通してHow+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
14	E-mailについての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 担当教員の評価 70%
学生への	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が

メッセージ	得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実践形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果(資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEICテストに有効な単語力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1-25番まで勉強する事。
	2	Unit1 My Hometown 故郷を紹介しよう	be 動詞	教科書 p.1-6、次回の第二回単語テスト範囲、26-50番まで勉強する事。
	3	Unit2 Hobbies 趣味もいろいろ	一般動詞	教科書 p.7-12、次回の第三回単語テスト範囲、51-75番まで勉強する事。
	4	Unit3 Shopping 買い物に行くならどこ?	名詞、代名詞	教科書 p.13-18、次回の第四回単語テスト範囲、76-100番まで勉強する事。
	5	Unit4 Nature Quiz クイズに挑戦	Wh 疑問文	教科書 p.19-24、次回の第五回単語テスト範囲、101-125番まで勉強する事。
	6	Unit5 Dream House 理想的な住まいとは?	前置詞	教科書 p.25-30、次回の第六回単語テスト範囲、126-150番まで勉強する事。
	7	Unit6 Food 好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書 p.31-36、次回の第七回単語テスト範囲、151-200番まで勉強する事。
	8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書 p.37-42、次回の第八回単語テスト範囲、201-250番まで勉強する事。
	9	Unit8 Detective Story 探偵は真実を求める	進行形	教科書 p.43-48、次回の第九回単語テスト範囲、251-300番まで勉強する事。
	10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十回単語テスト範囲、301-350番まで勉強する事。
	11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十一回単語テスト範囲、351-400番まで勉強する事。
	12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
	15	総合復習	定期試験対策	—————

実務経験	
関連科目	なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 定期試験 45% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 25%
学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一歩一歩！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、爽やかな半期になる事を祈る！
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げること。

	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。
--	---

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明	特になし
2	Unit 1 "It's the Titanic"	Be動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
3	Unit 2 "A Floating Palace"	疑問文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
4	Unit 3 Departure	助動詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
5	Unit 4 Iceberg (1)	第1文型と第2文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
6	Unit 5 Iceberg (2)	第3文型と第4文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
7	Unit 6 Iceberg (3)	進行形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
8	Unit 7 Lifeboat	受動態を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
9	Unit 8 The Miracle of Philip Aks (1)	第5文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
10	Unit 9 The Miracle of Philip Aks (2)	第5文型を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
11	Unit 10 The Miracle of Philip Aks (3)	完了形を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
12	Unit 11 Mr. Smith's "White Lie"	動名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
13	Unit 12 Together until the End of Their Lives (1)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
14	復習、まとめテスト	Unit 1-12の復習 まとめテスト	予習: Unit 1-12
15	まとめ	まとめテスト返却 解説	復習: 間違った箇所の復習

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teamsコード	

Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1 You're Beautiful be 動詞	授業の進め方、評価方法 重要単語、表現の確認	単語学習 教科書の予習
2	Unit 1 You're Beautiful be 動詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
3	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞(現在形)	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
4	Unit 2 I Want It That Way 一般動詞(現在形)	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
5	Unit 3 The First Time 一般動詞(過去形)	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
6	Unit 3 The First Time 一般動詞(過去形)	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
7	Unit 4 Complicated [The Matrix Mix] 進行形	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習復習
8	Unit 4 Complicated [The Matrix Mix] 進行形	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
9	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
10	Unit 5 My Heart Will Go On 未来表現	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
11	Unit 6 With You 助動詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
12	Unit 6 With You 助動詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
13	Unit 7 Torn 受動態	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
14	Unit 7 Torn 受動態	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
15	全体のまとめ	全体の復習とまとめテスト	単語学習 教科書の復習

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法	全学共通英語課題 30%

(基準)	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切です。通学時に i-Pod、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習しましょう。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	修正シラバスはWebFolderを参照のこと。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業内容と進め方に関する説明	教科書を大まかに見わたし、各Unitの構成などを把握しておく
	2	Unit1	be動詞を中心にした意味や用法	教科書 p. 6-9 be動詞が使われる文の用例を考えておく
	3	Unit2	一般動詞(現在)	教科書 p. 10-13 一般動詞の特徴と現在時制の表し方を整理しておく
	4	Unit3	一般動詞(過去)	教科書 p. 14-17 一般動詞の特徴と過去時制の表し方を整理しておく
	5	Unit4	進行形	教科書 p. 18-21 進行形が表す意味を考えておく
	6	Unit5	未来形	教科書 p. 22-25 進行形が表す意味を考えておく
	7	Unit6	助動詞	教科書 p. 26-29 助動詞のタイプと用法を考えておく
	8	Unit7	名詞・冠詞	教科書 p. 30-33 名詞のタイプと冠詞の用法を考えておく
	9	Unit8	代名詞	教科書 p. 34-37 代名詞のタイプと用法を考えておく
	10	Unit9	前置詞(1)	教科書 p. 38-41 前置詞の種類と基本的用法を辞書などで調べておく
	11	Unit9	前置詞(2)	教科書 p. 38-41 前置詞の種類と基本的用法を辞書などで調べておく
	12	Unit10	形容詞・副詞	教科書 p. 42-45 形容詞と副詞の特徴とそれぞれの基本的用法を考えておく
	13	Unit11	比較	教科書 p. 46-49 比較構文が使われる文のタイプと用法を考えておく
	14	Unit12	命令文・感嘆文	教科書 p. 50-53 文のタイプ(叙法)と意味について調べておく
	15	総合復習	これまでに学んだ内容を振り返り、定期試験対策を行う	学んだ範囲の復習をしておく

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。

	メールアドレス :						
評価方法 (基準)	<table> <tr> <td>全学共通英語課題</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>小テスト、課題等</td> <td>50%</td> </tr> </table>	全学共通英語課題	30%	授業への参加、貢献	20%	小テスト、課題等	50%
全学共通英語課題	30%						
授業への参加、貢献	20%						
小テスト、課題等	50%						
学生への メッセージ	英語は日ごろの努力を積み重ねることによって力がつきます。授業では皆さんとのコミュニケーションを大切にし、授業の内外に関わらず普段の取り組みを重視します。						
担当者の 研究室等	船本研究室						
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は船本研究室にて対応する。						

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1324c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 簡単な小テスト Unit 1	授業の進め方、出欠の扱い、評価方法などの説明 精読テキストUnit 1を始める	下読みと単語調べ、, exerciseの予習
	2	1 Our Garden --be 動詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	3	2 Do you trust your GPS?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	4	3 The History of the Village--一般動詞 4 Waiting for a Plane	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	5	5 Where are my socks? 一代名詞 6 Are you all right?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	6	7 Checking in at a Hotel--数詞 8 Tour Schedule	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	7	9 House for Sale--前置詞・接続詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	8	9 House for Sale--前置詞・接続詞 臨時テスト(中間)	前半の既習内容の確認	テスト勉強
	9	10 The City	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	10	11 Our Company--助動詞・完了形	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	11	12 At the Hospital	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	12	13 Packing Your Bags--関係代名詞・命令文	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	13	14 A Train Ticket	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exerciseの予習
	14	15 Airport Forms--関係副詞 臨時テスト(期末)	本文の解釈と exercise 後半の既習内容の確認	テスト勉強

実務経験	
関連科目	英語 I d

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
------	--

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	
------	--

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、小テスト、中間及び期末テスト等 70%
----------	--

学生へのメッセージ	外国語学習は、辞書をしっかりと引いて書き込むなどの地道な下準備が欠かせません。予習をしっかりとしましょう。 積極的な授業参加を期待します。 英和辞書か電子辞書を持参して下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	<p>比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。</p> <p>Contact info: bruce.riley@edu.setsunan.ac.jp</p> <p>This classe utilizes Zoom video technology for regular scheduled weekly classes.</p> <p>Announcements, assignments, tests, and day-to-day work are managed through both Moodle and Google Classroom.</p> <p>Students are expected to attend weekly classes at the regular scheduled time and to be punctual.</p>																																																																			
到達目標	<p>(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。</p> <p>(2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。</p> <p>(3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。</p>																																																																			
授業方法と留意点	<p>演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。</p>																																																																			
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>————</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7</td> <td>代名詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 7</td> <td>代名詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit8</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9</td> <td>時制</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9</td> <td>助動詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Test</td> <td>助動詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 10</td> <td>態</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 10</td> <td>態</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 11</td> <td>不定詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 11</td> <td>不定詞</td> <td>演習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12</td> <td>Grammar Point のまとめ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12</td> <td>総合復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Test</td> <td>演習</td> <td>————</td> </tr> </tbody> </table>				回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	概要説明	————	————	2	Unit 7	代名詞	演習	3	Unit 7	代名詞	演習	4	Unit 8	時制	演習	5	Unit8	時制	演習	6	Unit 9	時制	演習	7	Unit 9	助動詞	演習	8	Test	助動詞	演習	9	Unit 10	態	演習	10	Unit 10	態	演習	11	Unit 11	不定詞	演習	12	Unit 11	不定詞	演習	13	Unit 12	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	Unit 12	総合復習	授業の復習	15	Test	演習	————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																	
1	概要説明	————	————																																																																	
2	Unit 7	代名詞	演習																																																																	
3	Unit 7	代名詞	演習																																																																	
4	Unit 8	時制	演習																																																																	
5	Unit8	時制	演習																																																																	
6	Unit 9	時制	演習																																																																	
7	Unit 9	助動詞	演習																																																																	
8	Test	助動詞	演習																																																																	
9	Unit 10	態	演習																																																																	
10	Unit 10	態	演習																																																																	
11	Unit 11	不定詞	演習																																																																	
12	Unit 11	不定詞	演習																																																																	
13	Unit 12	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																	
14	Unit 12	総合復習	授業の復習																																																																	
15	Test	演習	————																																																																	
実務経験																																																																				
関連科目	他の英語科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																	
1																																																																				
2																																																																				
3																																																																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																	
1																																																																				
2																																																																				
3																																																																				
授業形態	Moodle, その他																																																																			
Teams コード																																																																				
Moodle コース名および登録キー	albatross7pheasant																																																																			
連絡手段	bruce.riley@edu.setsunan.ac.jp																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																			
評価方法(基準)	<p>全学共通英語課題 30%</p> <p>授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%</p>																																																																			
学生へのメッセージ	Do your best and enjoy the class																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	Unit 11: Female birds prefer smarter partners	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.61-66 単語: NO.387-416	
2	Unit 12: Auto tech shifting focus to user experience	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.67-72 単語: NO.397-426	事後:前回単語不合格者 再提出
3	Unit 13: Labor shortages force industry reforms	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.73-78 単語: NO.407-436	事後:前回単語不合格者 再提出
4	Unit 14: Conservation work on Tutankhamun tomb unveiled	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.79-84 単語: NO.417-446	事後:前回単語不合格者 再提出
5	Unit 15: Modern sauna hot spots in Japan shed old-man image	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.85-90 単語: NO.427-456	事後:前回単語不合格者 再提出
6	Unit 11-15 総復習	単語小テスト及び教科書演習	事前:単語: NO.437-466	事後:前回単語不合格者 再提出
7	中間テスト	Unit 11~15 までの内容についてテスト	事前:単語: NO.447-476	事後:前回単語不合格者 再提出
8	中間試験解説及び評	中間試験の詳しい解説	事前:単語: NO.457-486	事後:前回単語不合格者 再提出
9	Unit 16: Students globally protest warming	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.91-96 単語: NO.467-496	事後:前回単語不合格者 再提出
10	Unit 17: Asian nations to increase labor flow to Japan	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.97-102 単語: NO.477-506	事後:前回単語不合格者 再提出
11	Unit 18: Koikeya: Creating potato chips with pioneer's pride	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.103-108 単語: NO.487-516	事後:前回単語不合格者 再提出
12	Unit 19: What the latest dieting studies tell us	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.109-114 単語: NO.497-526	事後:前回単語不合格者 再提出
13	Unit 20: Japanese researchers to test use of iPS cells for cancer treatment	単語小テスト及び教科書演習	事前:教科書: P.115-120 単語: NO.507-523	事後:前回単語不合格者 再提出
14	Unit16-20 総復習	Unit16-20 総復習	事前:教科書Unit 16~20 までの	復習 事後:前回単語不合格者 再提出
15	Unit 16-20 テスト	Unit 16~20 までの内容についてテストを行う	Unit16-20 テスト勉強	

実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む)	70%		
学生への メッセージ	この授業では幅広い話題に触れます。身近な話題でも、じっくりと英語で読むと新しい発見があるはずです。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	藪井 恵美子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>概要説明</td> <td>————</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson 1 4</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson 1 5</td> <td>分詞</td> <td>演習 1 5</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson 1 6</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 6</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson 1 7</td> <td>動名詞</td> <td>演習 1 7</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson 1 8</td> <td>形容詞</td> <td>演習 1 8</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson 1 9</td> <td>比較</td> <td>演習 1 9</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Lesson 2 0</td> <td>比較</td> <td>演習 2 0</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson 2 1</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 1</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson 2 2</td> <td>関係詞</td> <td>演習 2 2</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson 2 3</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 3</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson 2 4</td> <td>仮定法</td> <td>演習 2 4</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson 1 4-2 4</td> <td>Grammar Point の復習</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習</td> <td>総合復習</td> <td>————</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>プリント教材</td> <td>TOEIC 演習</td> <td>————</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	概要説明	————	————	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4	13	Lesson 1 4-2 4	Grammar Point の復習	授業の復習	14	総合復習	総合復習	————	15	プリント教材	TOEIC 演習	————
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	————	————																																																																
2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4																																																																
3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5																																																																
4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6																																																																
5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7																																																																
6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8																																																																
7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9																																																																
8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0																																																																
9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1																																																																
10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2																																																																
11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3																																																																
12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4																																																																
13	Lesson 1 4-2 4	Grammar Point の復習	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	————																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	————																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Moodle																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー	法学部基礎英語 IIaJ1C 20ke2aj1c (1は数字)																																																																		
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献(小テスト、授業内のテストを含む) 70% (遠隔授業を行う上での変更は初回授業でお知らせします)																																																																		
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	侯野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	・前期と同様に、毎回、指定範囲を課題として提出し、教員が提示する解説資料を読んで学習する。 ・課題を解く際に、分からない単語やフレーズは、辞書や文法書などで調べること。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明、実力テスト	
	2	Unit 1: ハンガー・ゲーム 2	単語テスト 『ハンガー・ゲーム2』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	3	Unit 2: ブルージャスミン	単語テスト 『ブルージャスミン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	4	Unit 3: オズ はじまりの戦い	単語テスト 『オズ はじまりの戦い』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	5	Unit 4: トランス	単語テスト 『トランス』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	6	Unit 5: エリジウム	単語テスト 『エリジウム』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ、中間テストの準備
	7	中間テスト	これまでの unit の総復習	事後学習: これまでの学習内容の総復習
	8	Unit 6: アフター・アース	単語テスト 『アフター・アース』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	9	Unit 7: ゼロ・グラビティ	単語テスト 『ゼロ・グラビティ』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ
	10	Unit 8: イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密	単語テスト 『イミテーション・ゲーム/エニグマと天才数学者の秘密』について ・リスニング ・スピーキング	予習: 指定箇所の課題を解く、音声を聞いて、本文の音読練習 復習: 解説資料を読み、ノートまとめ

			・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	
	11	Unit 9: ホワイトハウス・ダウン	単語テスト 『ホワイトハウス・ダウン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所課題を解く、音声聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
	12	Unit 10: ベイマックス	単語テスト 『ベイマックス』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所課題を解く、音声聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
	13	Unit 11: サード・パーソン	単語テスト 『サード・パーソン』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所課題を解く、音声聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ
	14	Unit 12: それでも夜は明ける	単語テスト 『それでも夜は明ける』について ・リスニング ・スピーキング ・ライティング ・リーディング を通して学ぶ	予習：指定箇所課題を解く、音声聞いて、本文の音読練習 復習：解説資料を読み、ノートまとめ、 期末テストの準備
	15	期末テスト	これまでの unit の総復習	事後学習： これまでの授業内容の総復習
実務経験				
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder/Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	csm3nlp			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	teams のチャット機能か学内メール（メールアドレスは初回の授業で提示します）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること（携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない）。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。 （原則として欠席を）			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小倉 永慈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	シラバスと教科書の確認	単語: NO.387-416 教科書: Unit 8
	2	Unit 8: Imagine / John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.397-426 教科書: Unit 8
	3	Unit 8: Imagine / John Lennon	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.407-436 教科書: Unit 9
	4	Unit 9: I Need to Be in Love / The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.417-446 教科書: Unit 9
	5	Unit 9: I Need to Be in Love / The Carpenters	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.427-456 教科書: Unit 10
	6	Unit 10: Honesty / Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.437-466 教科書: Unit 10
	7	Unit 10: Honesty / Billy Joel	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.447-476 教科書: Unit 11
	8	Unit 11: Hotel California / Eagles	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.457-486 教科書: Unit 11
	9	Unit 11: Hotel California / Eagles	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.467-496 教科書: Unit 12
	10	Unit 12: I Just Called to Say I Love You / Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.477-506 教科書: Unit 12
	11	Unit 12: I Just Called to Say I Love You / Stevie Wonder	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.487-516 教科書: Unit 13
	12	Unit 13: Pride (In the Name of Love) / U2	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.497-526 教科書: Unit 13
	13	Unit 13: Pride (In the Name of Love) / U2	単語小テスト及び教科書演習	単語: NO.507-523 教科書: Unit 14
	14	Unit 14: Like a Virgin / Madonna	単語小テスト及び教科書演習	教科書: Unit 14
	15	Unit 14: Like a Virgin / Madonna	単語小テスト及び教科書演習	教科書総復習

実務経験

関連科目 他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Teams「オンライン型」/Zoom

Teamsコード r0duicu

Moodleコース名 および登録キー

連絡手段 学内メール

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準) 全学共通英語課題 30%
授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等も含む) 70%

学生へのメッセージ この授業ではポップソングを通して英語に触れます。予習・復習を欠かさず、積極的に取り組んでくれることを期待しています。

担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室 eiji.ogura@edu.setsunan.ac.jp
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	木村 紀子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	課題演習型の授業を行うので、課題にしっかりと取り組むことが重要な評価項目となる。課題(オンライン教材の課題やe-learning課題を含む)は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 4 Feelings	授業の進め方や評価方法などの説明 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	2	Unit 5 On the weekend	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	3	Unit 5 On the weekend	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	4	Unit 6 Downtown	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	5	Unit 6 Downtown	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	6	Unit 7 People we admire	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	7	Unit 7 People we admire	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	8	Unit 8 At a supermarket	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	9	Unit 8 At a supermarket	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	10	Unit 9 Health problems	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	11	Unit 10 Cities	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	12	Unit 10 Cities	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	13	Unit 11 Music	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	14	Unit 12 Travel plans	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする
	15	Unit 12 Travel plans	前回の課題のフィードバックを確認する 課題をして、聴く、読む、話す、書く技術、語彙、文法を学ぶ	課題をする

実務経験																	
関連科目	他の英語科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」																
Teams コード	51zne8k																
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語Ⅱ a (G) 2020 english																
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 課題 (オンライン教材の課題を含む) 70%																
学生への メッセージ																	
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は学内メールで対応する。																

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
14	別れの手紙の文章を通してセンテンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備	

実務経験	
関連科目	他の英語科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Youtube
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 課題提出 30%, 課題内容 40%
学生への	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にi-Pod等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が

メッセージ	得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。

科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1325c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>前期の復習及びオリエンテーション</td> <td>授業方法、提出物、評価方法についての説明</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit11</td> <td>受動態</td> <td>教科書 p.46-49</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit12</td> <td>比較</td> <td>教科書 p.50-53</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit13</td> <td>完了形</td> <td>教科書 p.54-57</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit14</td> <td>不定詞</td> <td>教科書 p.58-61</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit15</td> <td>分詞</td> <td>教科書 p.62-65</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit16</td> <td>動名詞</td> <td>教科書 p.66-69</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 17</td> <td>節</td> <td>教科書 p.70-73</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit18</td> <td>関係代名詞</td> <td>教科書 p.74-77</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit19</td> <td>熟語の整理</td> <td>教科書 p.78-81</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit20</td> <td>会話文と it の用法</td> <td>教科書 p.82-85</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>資格、検定などの問題演習</td> <td>授業の進度によって内容を決め、教材を用意する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>総合復習 1</td> <td>定期試験対策</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総合復習 2</td> <td>定期試験対策</td> <td>_____</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	_____	2	Unit11	受動態	教科書 p.46-49	3	Unit12	比較	教科書 p.50-53	4	Unit13	完了形	教科書 p.54-57	5	Unit14	不定詞	教科書 p.58-61	6	Unit15	分詞	教科書 p.62-65	7	Unit16	動名詞	教科書 p.66-69	8	Unit 17	節	教科書 p.70-73	9	Unit18	関係代名詞	教科書 p.74-77	10	Unit19	熟語の整理	教科書 p.78-81	11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p.82-85	12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する		13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する		14	総合復習 1	定期試験対策	_____	15	総合復習 2	定期試験対策	_____
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	前期の復習及びオリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	_____																																																																
2	Unit11	受動態	教科書 p.46-49																																																																
3	Unit12	比較	教科書 p.50-53																																																																
4	Unit13	完了形	教科書 p.54-57																																																																
5	Unit14	不定詞	教科書 p.58-61																																																																
6	Unit15	分詞	教科書 p.62-65																																																																
7	Unit16	動名詞	教科書 p.66-69																																																																
8	Unit 17	節	教科書 p.70-73																																																																
9	Unit18	関係代名詞	教科書 p.74-77																																																																
10	Unit19	熟語の整理	教科書 p.78-81																																																																
11	Unit20	会話文と it の用法	教科書 p.82-85																																																																
12	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する																																																																	
13	資格、検定などの問題演習	授業の進度によって内容を決め、教材を用意する																																																																	
14	総合復習 1	定期試験対策	_____																																																																
15	総合復習 2	定期試験対策	_____																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder																																																																		
Teams コード																																																																			
Moodle コース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法(基準)	前期と同じく、各回ごとの課題提出(70%)に全学共通英語課題(30%)を加え、総合評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一步一步！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。																																																																		

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	下吉 真衣
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	授業は遠隔で行う。Web Folderを使用し、課題提出型の授業を展開する。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 8 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	2	Chapter 8 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	3	Chapter 9 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	4	Chapter 9 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	5	Chapter 10 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	6	Chapter 10 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	7	Chapter 11 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	8	Chapter 11 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	9	Chapter 12 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	10	Chapter 12 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	11	Chapter 13 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	12	Chapter 13 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	13	Chapter 14 (input 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	14	Chapter 14 (output 演習)	課題提出と解説	授業の予習復習 課題準備
	15	総復習	オンラインテスト	授業の予習復習 課題準備

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Web Folder

Teams コード

Moodle コース名
および登録キー

連絡手段 学内メール(アドレスは第1回目の講義時にお知らせします。)

メールアドレス メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法(基準)	全学共通英語課題	30%
	平常点(課題を期限内に提出しているか評価する)	30%
	レポート点(課題の出来を評価する)	30%
	オンラインテスト	10%

学生へのメッセージ 授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	真弓 香代子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	・オンラインで授業を行うので、与えられた課題に前向きに取り組む姿勢が重要な評価項目となる。 ・授業方法に関する詳細は、初回授業(Moodleを利用)で説明する。 ・e-learning課題についても、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 ・辞書を活用すること。 ・3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等
-------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Introduction Unit 1: Star Wars??More of an "Experience" than a Show	・授業の進め方、評価方法等の説明 ・トピックに関連したListening/Reading/Writingの活動に取り組む	授業の復習(1時間)
2	Unit 2: Frozen??A Contemporary Fairy Tale	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
3	Unit 3: Toy Story??The Timeless World of "Make-believe"	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
4	Unit 4: Harry Potter??A Masterful Blend of Reality and Fantasy	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
5	Unit 5: The Lord of the Rings??Surpassing the Imagination	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
6	Unit 6: Titanic??The Class-Defying Love Story	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
7	Unit 7: Stand by Me??Searching for a Place in the World	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
8	Unit 8: Pirates of the Caribbean??A Pirate with a Free Soul	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
9	Unit 9: E.T.??A Strange Friend from Outer Space	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
10	Unit 11: Forrest Gump??Life Is Chance: An Individual in History	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
11	Unit 12: Die Hard??The Birth of a New Type of an Action Hero	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
12	Unit 13: A Dark Hero: The Dark Side of Humanity ??	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
13	Unit 14: Good Will Hunting??What Is Success?: Self-fulfillment in the U.S.	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
14	Unit 15: The Devil Wears Prada??Finding Oneself in Cinema	・パッセージの内容理解 ・トピックに関連したL・R・Wの活動に取り組む	授業の予習・復習(2時間)
15	後期のまとめ	・後期学習内容の総復習	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle/Teams「オンライン型」			
Teams コード	gq8a8kr			
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語 IIb (B) 2020 hog5			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献（提出物、小テスト、まとめテスト等も含む） 70% *小テストは授業の進度に応じて、後日、設定する。また、まとめテストについても、学期開始後に連絡する。			
学生への メッセージ	前期の取り組みを振り返って、今期の学習がさらに充実したものになるように努力しましょう。 特別な事情で課題が提出できない場合、システムエラー等で小テスト受験に支障が生じた場合には、各自で責任を持って早めに連絡してください。			
担当者の 研究室等				
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
14	別れの手紙の文章を通してセンテンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記	
15	9-14回のまとめテストと復習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	まとめテストの準備	

実務経験																	
関連科目	他の英語科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Web Folder/Youtube																
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	全学共通英語課題 30% 課題提出 30%、課題内容 40%																
学生への	英語習得には普段の努力が大切である、通学時に i-Pod 等の録音機、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。英語が																

メッセージ	得意なら未来が明るくなります。
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 茂寿
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実践形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしましょう！
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果(資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEICテストに有効な単語力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Unit9 Career 経歴を話そう	現在完了形	教科書 p.49-54
3	Unit10 Parties パーティに行こう！	未来表現	教科書 p.55-60
4	Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.61-66
5	Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.67-72
6	Unit13 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.73-78
7	Unit14 World Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.79-84
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.85-90
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	
15	総合復習	定期試験対策	————

実務経験	
------	--

関連科目	基礎英語 I a
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名および登録キー	
--------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
---------	---

評価方法(基準)	前期と同じく、各回ごとの課題提出(70%)に全学共通英語課題(30%)を加え、総合評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	「感動と発見を与える授業に...明るく、元気で一歩一歩！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法などの説明
授業計画	2	Unit 13 Together until the End of Their Lives (2)	不定詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	3	Unit 14 The Californian	分詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	4	Unit 15 The Carpathia	名詞節と副詞節を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	5	Unit 16 Radio Officers	分詞構文を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	6	Unit 17 Firemen	関係代名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	7	Unit 17-2 Firemen	関係代名詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	8	Unit 18 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	9	Unit 18-2 Eight Courageous Musicians (1)	関係副詞を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	10	Unit 19 Eight Courageous Musicians (2)	比較を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	11	Unit 20 Only 705 Survivors	比較を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	12	Unit 21 If Only...	仮定法を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	13	Unit 21-2 If Only...	仮定法を中心としたリーディング、ライティング、リスニング、スピーキング問題に取り組む	教科書の問題の予習復習
	14	復習、まとめテスト	Unit 13-21の復習 まとめテスト	予習: Unit 13-21
	15	まとめ	まとめテスト返却 解説	復習: 間違った箇所の復習

実務経験

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態 Moodle/Teams 「オンライン型」

Teams コード r0bkc03

Moodle コース名 および登録キー	基礎英語 II b (E) 321
連絡手段	Teams のチャット機能
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等も含む) 70%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Web Folder を使用して毎回課題の提出があります。e-learning 課題は指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。課題を期限までに提出することで出席とします。評価には、原則として80%以上の課題提出が必要です。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 8 You Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	授業の進め方、評価方法 重要単語、表現の確認	単語学習 教科書の予習
	2	Unit 8 You Are Not Alone [Radio Edit] 現在完了形	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	3	Unit 9 You Gotta Be 比較	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習、復習
	4	Unit 9 You Gotta Be 比較	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	5	Unit 10 How Crazy Are You? 分詞	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習、復習
	6	Unit 10 How Crazy Are You? 分詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	7	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix] 不定詞	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習復習
	8	Unit 11 Last Christmas [Pudding Mix] 不定詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	9	Unit 12 Desperado 関係詞	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習、復習
	10	Unit 12 Desperado 関係詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	11	Unit 13 All I Want For Christmas Is You 接続詞・前置詞	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習、復習
	12	Unit 13 All I Want For Christmas Is You 接続詞・前置詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
	13	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	読解、文法、リスニング演習問題	単語学習 教科書の予習、復習
	14	Unit 14 Sunday Morning 動名詞	小テスト、読解、文法、リスニング演習 問題	単語学習 教科書の予習、復習
15	全体のまとめ	まとめテスト	教科書の全体の復習	

実務経験	
------	--

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder
------	------------

Teams コード	
-----------	--

Moodle コース名 および登録キー	
------------------------	--

連絡手段	学内メール
------	-------

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
---------	---

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等も含む） 70%	30%
学生への メッセージ	Web Folder を使用し、課題、テストの提出は必ず提出期限を守ってください。真面目に取り組む姿勢を評価します。	
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、レポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。質問等は学内メールで対応する。	

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	船本 弘史
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	WebFolderを用いた「教材・課題配信型」の授業を行う。また、適宜Teamsのツール(投稿、Web会議等)も補助的に活用し、すべての履修者に授業が確実に行きわたるよう万全の体制を構築する。 「授業概要・目的」にあわせた「到達目標」に向けた取り組みとして、WebFolderを通じて課題等の提出を求める。授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 出席は、各回の授業で																																																																		
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>導入</td> <td>前期の振り返りと授業の進め方、評価方法などに関する説明</td> <td>教科書全体に目を通しておくこと</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 13</td> <td>接続詞(1)</td> <td>教科書 p.54-57 接続詞の種類を辞書などで調べておく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 14</td> <td>不定詞(1)・動名詞(1)</td> <td>教科書 p.58-61 不定詞と動名詞の違いを確認し、それぞれの基本的な用法を考えておく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 15</td> <td>受動態</td> <td>教科書 p.62-65 受動態が使われる要因を考えておく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 16</td> <td>完了形</td> <td>教科書 p.66-69 完了形の意味と用法を調べておく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 17</td> <td>接続詞(2)</td> <td>教科書 p.70-73 接続詞の用法を確認しておく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 18</td> <td>基本文型</td> <td>教科書 p.74-77 文の要素が表す意味関係を考える</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 19</td> <td>各種疑問文</td> <td>教科書 p.78-81 「問いかけ」の機能と表現を整理する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 20</td> <td>不定詞(2)</td> <td>教科書 p.82-85 不定詞のバリエーションと構文上の用法をまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 21</td> <td>Itの特別用法</td> <td>教科書 p.86-89 itの指示代名詞以外の用例を考える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 22</td> <td>分詞・動名詞(2)</td> <td>教科書 p.90-93 分詞・動名詞の用例を考える</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 23</td> <td>関係代名詞</td> <td>教科書 p.94-97 関係代名詞の種類と用法を整理する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 24</td> <td>仮定法</td> <td>教科書 p.98-100 仮定法の用法と解釈を調べる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 13 から Unit 24 までのまとめ</td> <td>後期まとめテストと解説</td> <td>Unit 13 - Unit 24 教科書とノートを見返し、これまでに学んだ内容を整理する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期の総括</td> <td>基礎的な語彙と文法を中心とした後期の総復習</td> <td>後期の総復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	前期の振り返りと授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと	2	Unit 13	接続詞(1)	教科書 p.54-57 接続詞の種類を辞書などで調べておく	3	Unit 14	不定詞(1)・動名詞(1)	教科書 p.58-61 不定詞と動名詞の違いを確認し、それぞれの基本的な用法を考えておく	4	Unit 15	受動態	教科書 p.62-65 受動態が使われる要因を考えておく	5	Unit 16	完了形	教科書 p.66-69 完了形の意味と用法を調べておく	6	Unit 17	接続詞(2)	教科書 p.70-73 接続詞の用法を確認しておく	7	Unit 18	基本文型	教科書 p.74-77 文の要素が表す意味関係を考える	8	Unit 19	各種疑問文	教科書 p.78-81 「問いかけ」の機能と表現を整理する	9	Unit 20	不定詞(2)	教科書 p.82-85 不定詞のバリエーションと構文上の用法をまとめる	10	Unit 21	Itの特別用法	教科書 p.86-89 itの指示代名詞以外の用例を考える	11	Unit 22	分詞・動名詞(2)	教科書 p.90-93 分詞・動名詞の用例を考える	12	Unit 23	関係代名詞	教科書 p.94-97 関係代名詞の種類と用法を整理する	13	Unit 24	仮定法	教科書 p.98-100 仮定法の用法と解釈を調べる	14	Unit 13 から Unit 24 までのまとめ	後期まとめテストと解説	Unit 13 - Unit 24 教科書とノートを見返し、これまでに学んだ内容を整理する	15	後期の総括	基礎的な語彙と文法を中心とした後期の総復習	後期の総復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	前期の振り返りと授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと																																																																
2	Unit 13	接続詞(1)	教科書 p.54-57 接続詞の種類を辞書などで調べておく																																																																
3	Unit 14	不定詞(1)・動名詞(1)	教科書 p.58-61 不定詞と動名詞の違いを確認し、それぞれの基本的な用法を考えておく																																																																
4	Unit 15	受動態	教科書 p.62-65 受動態が使われる要因を考えておく																																																																
5	Unit 16	完了形	教科書 p.66-69 完了形の意味と用法を調べておく																																																																
6	Unit 17	接続詞(2)	教科書 p.70-73 接続詞の用法を確認しておく																																																																
7	Unit 18	基本文型	教科書 p.74-77 文の要素が表す意味関係を考える																																																																
8	Unit 19	各種疑問文	教科書 p.78-81 「問いかけ」の機能と表現を整理する																																																																
9	Unit 20	不定詞(2)	教科書 p.82-85 不定詞のバリエーションと構文上の用法をまとめる																																																																
10	Unit 21	Itの特別用法	教科書 p.86-89 itの指示代名詞以外の用例を考える																																																																
11	Unit 22	分詞・動名詞(2)	教科書 p.90-93 分詞・動名詞の用例を考える																																																																
12	Unit 23	関係代名詞	教科書 p.94-97 関係代名詞の種類と用法を整理する																																																																
13	Unit 24	仮定法	教科書 p.98-100 仮定法の用法と解釈を調べる																																																																
14	Unit 13 から Unit 24 までのまとめ	後期まとめテストと解説	Unit 13 - Unit 24 教科書とノートを見返し、これまでに学んだ内容を整理する																																																																
15	後期の総括	基礎的な語彙と文法を中心とした後期の総復習	後期の総復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	他の英語科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Web Folder/Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」/english centralの運営サイト																																																																		
Teamsコード	elumktp																																																																		
Moodleコース名および登録キー																																																																			
連絡手段	学内メール, Teams																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。																																																																		

	メールアドレス :
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 授業への参加、貢献および小テスト、課題等 70%
学生への メッセージ	英語は日ごろの努力を積み重ねることによって力がつきます。授業では皆さんとのコミュニケーションを大切にし、授業の内外に関わらず普段の取り組みを重視します。
担当者の 研究室等	船本研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は船本研究室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	I
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP8○		
科目ナンバリング	JEN1326c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	Moodle による遠隔授業を行います。前期授業の続きとなります。教科書に沿って課題を提示していくので教科書をしっかり読むことが大事です。自分で電子辞書や紙の辞書を出るだけ引いてください。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 4 回を超える未提出、つまり欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 11 Our Company-- 助動詞・完了形	簡単な復習テスト(単語と文法)	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	2	12 At the Hospital	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	3	13 Packing Your Bags---関 係代名詞・命令文	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	4	14 A Train Ticket	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	5	15 Airport Forms---関係副 詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	6	16 During the Flight	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	7	17 What kind of Person?-- 不定詞・動名詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	8	18 At the Hotel	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	9	19 Driving Instructions-- 形容詞・副詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	10	20 A Lovely Blouse	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	11	21 How was your Room?--- 疑問詞・未来形	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	12	22 What happened?	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	13	23 Shopping (可算名詞・不 可算名詞)	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	14	24 Street Directions	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。
	15	25 My Luxury--there 構文・ 使役動詞	本文の解釈と exercise	下読みと単語調べ, exercise の予習 提出期限を確認し、1 日程度余裕を持って提出するように。

実務経験	
関連科目	英語 I d

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	基礎英語Ⅱb J1I 2020 秋 (金原) EOG			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 30% 課題の提出 70%			
学生への メッセージ	後期も遠隔授業となりました。自宅での学習時間が長くなり、じっくり紙の辞書を引いて力を付けるチャンスです。 課題提出は期限日時に注意して、1日、2日早めに出しましょう。 Moodleの機械は設定時間に閉じますから、time over「時間切れ」にならないよう気をつけてください。入力時間を短く抑えられるよう予め準備するなど工夫してください。 未提出は欠席扱いとなります。欠席は原則3回までとします。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 001~090
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、文章作成を行う。数回の課題を提出し、最後にはレポートを提出する。 毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	———
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語 (話し言葉) と、レポートなどで書く日本語 (書き言葉) は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語 (話し言葉、書き言葉) と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	総学習時間の目安は 60 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 091~180
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。 指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果 (資格)	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	4	課題① ある事物について、論理的に 説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成 を学ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践 (要約文の作成)	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計 1 時間程度)
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学 ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学 ぶ	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づ いて意見を述べる	講義	教科書を復習する (30 分程度)
	11	課題② 資料を引用して意見を述 べる	課題の作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
	12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む (1 時間程度)
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す (合計 1 時間程度)
	14	レポート これまでの講義の内容を踏 まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する (30 分程度)
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでやってきた内容を総括して復習する (1 時 間程度)	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁211～
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる論理的文章（特にレポート・論文）の書き方を習得する。
授業方法と留意点	教科書に沿って、講義形式で行う。毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現の小テストを行うため、遅刻をしないこと。また、講義中はスマートフォンは鞆の中にしまっておくこと。指示した課題を必ず提出すること。課題およびレポート未提出の場合、単位の取得を認めません。
科目学習の効果（資格）	文章作成の能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入 授業の内容、進め方について 「はじめに」 文章で伝えるということについて	講義	教科書を復習する（30分程度）
	2	「文章の書き方」 レポート・論文の基本事項 わかりやすい文章の書き方	講義	教科書を復習する（30分程度）
	3	「事実と意見」 事実と意見の書き分け 説明文とは何か	講義	教科書を復習する（30分程度）
	4	課題① ある事物について、論理的に 説明する	課題の作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
	5	「構成」 レポートなどの文章の構成 を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
	6	「要約」 要旨の要約の作成方法を知る	講義	教科書を復習する（30分程度）
	7	フィードバック 課題①の返却と反省 「要約」 要約文の作成	フィードバックと実践（要約文の作成）	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計で1時間程度）
	8	「文章を引用する」 文章を引用する意方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
	9	「図表を引用する」 図表を引用する方法を学ぶ	講義	教科書を復習する（30分程度）
	10	「意見を述べる」 引用をふまえた考察に基づ いて意見を述べる	講義	教科書を復習する（30分程度）
	11	課題② 資料を引用して意見を述べる	課題の作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
	12	小テストの復習テスト	復習テスト	返却した小テストの内容を復習してテストに臨む （1時間程度）
	13	フィードバック 課題②の返却と反省	フィードバック	教科書を復習する 返却された課題を見直す（合計で1時間程度）
	14	レポート これまでの講義の内容を踏 まえて論説文を書く	レポートの作成・提出	教科書を復習する（30分程度）
15	フィードバック レポートの反省点	フィードバック	ここまでの内容を総括して復習する（1時間程度）	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	口語表現と文章表現の違いを理解し、読み手を意識したわかりやすい文章を書くスキルを身につけてください。 論理的な文章を書く能力は、学生生活でのレポートや論文はもちろんのこと、社会人になってからも必要なものです。積極的に課題に取り組み、実践的な能力を身につけるよう務めましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	前もって教科書の該当箇所をしっかりと読んでから講義にのぞむこと。 返却された小テストはしっかりと復習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 181～210
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1336a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 文章の書き方 1	授業の目的、進め方の説明 レポート・論文の基本事項を学ぶ	――
	2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	前回の復習
	3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	前回の復習
	4	【課題 1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	これまでの復習
	5	構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	要約	要旨の要約の作成方法を学ぶ	前回の復習
	7	フィードバック	課題 1 のフィードバック	課題 1 を見直す
	8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	前回の復習
	10	引用の復習 意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる方法を学ぶ	前回の復習
	11	【課題 2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	12	レポートの書き方 1・2	レポートの体裁について学ぶ レポート課題の説明	前回の復習
	13	フィードバック	課題 2 のフィードバック	課題 2 を見直す
	14	【 レポート 】	レポートを提出する	レポートを作成する
15	レポートの講評 小テストの復習	レポートについて講評する 小テストの復習テスト	これまでの復習 小テストの復習	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により総合的に評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	事前・事後学習の総時間の目安は、1 5 時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	4	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
	7	手紙を書く 課題1フィードバック	手紙文の作成 課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
	10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
	11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文 課題2フィードバック	グループワークの報告文を作成する 課題2のフィードバック	報告文の準備 課題2を見直す
	14	小テストの復習	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題3フィードバック	課題3フィードバック	課題3を見直す	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	7tingab
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	課題(20%、20%、30%)、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	筒井 大祐
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	大学生生活、社会人生活で必要となる文章の書き方を習得する。 グループディスカッションやプレゼンテーションを通して、話し合いや発表の方法を習得する。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 ほぼ毎回、語彙力・表現力を養成するテストを行う。 授業中に注意されても私語をやめない者は退室させる。 許可無く教室から出た学生の再入室は認めない。
科目学習の効果(資格)	大学生生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	導入 レポートの書き方(1)	授業の目的、進め方の説明 レポートの基本的ルール・構成の復習	――
2	レポートの書き方(2)	資料引用の復習(文章の引用) 考察・意見の述べ方を確認する	前回の復習
3	レポートの書き方(3) 敬語の基礎	資料引用の復習(図表の引用) 敬語の種類と用法を学ぶ	前回の復習
4	【課題1】レポート	資料を引用して意見を述べる文章を書く	これまでの復習
5	課題1のフィードバック(1) ディスカッションの準備(1)	課題1のフィードバック ディスカッション資料の要約や問題点の整理を行う。	ディスカッションの準備
6	課題1のフィードバック(2) ディスカッション(1)	課題1のフィードバック グループ分けをしてディスカッションを行う	ディスカッションの準備
7	課題1のフィードバック(3) ディスカッション(2) プレゼンテーションの準備(1)	課題1のフィードバック プレゼンテーション資料の作成を行う	プレゼンテーションの準備
8	ディスカッション(3) プレゼンテーションの準備(2)	次のプレゼンテーションに備えて発表資料や原稿の仕上げ・リハーサルを行う	プレゼンテーションの準備
9	【プレゼンテーション(1)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
10	【プレゼンテーション(2)】	グループごとにプレゼンテーションを行う	他のグループの発表資料を分析しておく
11	【課題2】経過のまとめ 課題2の添削	ディスカッションの経過を箇条書きでまとめる 課題2を添削して返却する	ディスカッションの復習
12	【課題3】レポート	発表の内容をレポート形式でまとめる	これまでの復習
13	課題3のフィードバック(1) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
14	課題3のフィードバック(2) 敬語の復習	課題3のフィードバック 敬語の練習問題を解く	レポートの書き方の復習 敬語の復習
15	課題3のフィードバック(3) 【復習テスト】	課題3のフィードバック 小テストの復習テスト	レポートの書き方の復習 小テストの復習

実務経験

関連科目 キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学 日本語文章表現の会	和泉書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態 Teams「オンライン型」

Teamsコード qdl2xor

Moodleコース名

および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題3回(20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト(30%)により総合的に評価する。課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語(話し言葉)と、レポートなどで書く日本語(書き言葉)は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のためにも、日本語(話し言葉、書き言葉)と向き合ってください。 これからのテレワークやオンラインを通じた会議システムのために、そのようなシステムを使ったワークに、一緒に慣れていきましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南谷 静香
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	文章表現の基本を再確認し、身につけた上で、グループディスカッションやプレゼンテーション、文章作成を行う。3回の課題を提出する。 課題未提出の場合は、単位の取得が認められないので注意すること。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活に必要な書く・話す能力が身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方1	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	レポートの書き方2	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	4	【課題1】 資料を引用して、意見を述べる	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	5	敬意を表す言葉	敬語の種類と用法を学ぶ	敬語の復習
	6	手紙の書き方	手紙の書式・用語・マナーを学ぶ	手紙の復習
	7	手紙を書く 課題1フィードバック	手紙文の作成 課題1のフィードバック	課題1を見直す
	8	ディスカッション準備	ディスカッションの前に個人の意見をまとめる	ディスカッションの準備テーマの下調べ
	9	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	ディスカッション報告文の準備 プレゼンテーション資料の準備
	10	課題2 ディスカッションの報告	ディスカッションの報告文を書く	ディスカッションの反省
	11	プレゼンテーション準備	プレゼンテーション資料の作成を行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文 課題2フィードバック	グループワークの報告文を作成する 課題2のフィードバック	報告文の準備 課題2を見直す
	14	小テストの復習	小テストの復習テスト	小テストの復習
15	課題3フィードバック	課題3フィードバック	課題3を見直す	

実務経験	
関連科目	キャリアデザイン

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」
Teamsコード	aev6m16
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	Teams
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法(基準)	課題(20%、20%、30%)、授業への取り組む姿勢・小テスト・復習テスト(30%)により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生活、就職活動、社会人生活のために、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 授業時間外の質問は、メールにより対応。

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名 (英文)	Japanese Expression II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	澤野 加奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎		
科目ナンバリング	JJA1337a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。 大学生生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。
到達目標	適切な方法を用いて、論理的な文章を書くことができる。 グループで話し合い発表した内容を整理して、論理的に表現することができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、グループワーク、プレゼンテーション等の課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入 レポートの書き方 (1)	授業の目的、進め方の説明	———
	2	レポートの書き方 (2)	レポートの構成、資料の引用と考察、意見の述べ方を確認する	前回の復習
	3	【課題1】レポート	資料を引用して、意見を述べる文章を書く	これまでの復習
	4	ディスカッション準備	配布された資料をまとめる	前回の復習
	5	フィードバック	課題1のフィードバック	課題1を見直す
	6	ディスカッション1	グループ分けとディスカッションを行う	テーマの下調べ
	7	ディスカッション2	ディスカッションを行う	前回の復習
	8	【課題2】報告文	ディスカッションの経過を文書で報告する	これまでの復習
	9	資料作成	プレゼンテーション資料の作成を行う	資料作成の準備
	10	フィードバック	課題2のフィードバック	課題2を見直す
	11	プレゼンテーション1	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	12	プレゼンテーション2	資料を用いて、グループ単位でプレゼンテーションを行う	発表の準備
	13	【課題3】報告文	プレゼンテーションの内容を文書で報告する	報告文の準備
	14	手紙の書き方	手紙の基本とマナーを学ぶ	前回の復習
15	小テストの復習 授業の総括	小テストの復習テスト	小テストの復習	

実務経験	
関連科目	ゼミ、卒業研究など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Web Folder/Teams「オンライン型」
Teams コード	svso5tn
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題3回 (20%、20%、30%)、授業に取り組む姿勢・小テスト (30%) により評価する。 課題を一度でも提出しない場合は不合格となる。
学生へのメッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートなどで書く日本語は区別しなくてはなりません。また、人前で話す日本語と日常の話し言葉も異なります。これからの大学生生活、就職活動、社会人生活のためにも、真面目に日本語と向き合ってください。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	事前事後学習の総時間の目安は15時間。 提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	学籍番号下 3 桁 001~090
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館8階(橋本研究室)			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁091~180
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト(MOS)等の資格取得出題範囲の約40%を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30分) 事後：事後課題の完成・提出 (1時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50分) 事後：事後課題の完成・提出 (40分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1時間) 事後：出題内容の見直し (30分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問を放置しないこと。何でも質問してください。			
担当者の 研究室等	11号館10階(寺内研究室)			
備考				

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	学籍番号下3桁181~210 学籍番号下3桁211~
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石原 恭子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1339a1		

授業概要・目的	大学生生活および卒業後の生活において要求される情報を取り扱うための基礎的なリテラシー能力養成を目的とする。
到達目標	情報システムに関心を寄せ、その可能性を論じる態度を持つこと。アプリケーションの機能の最低限の使い方と、それらの連携作業を実行できるようになること。
授業方法と留意点	基本的に、自宅等で各自のパソコンや通信環境を利用して、Microsoft Word, Excel, PowerPoint を用いて演習課題を完成させ、大学のサーバに電子的に提出する。 具体的な授業方法については、Microsoft Teams の当講義のチームの一般チャネルで紹介する。なお、授業の進捗により授業のスケジュールは変更となる場合がある。
科目学習の効果 (資格)	今後の諸活動において情報リテラシー能力を活用できること。マイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 等の資格取得出題範囲の約 40% を学ぶ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	コンピュータの基礎 関連資格の紹介 【Word】 文書の作成と編集	用語解説 IT パスポートの紹介 メールへのファイル添付 文書を作成する 文書内を移動する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
3	【Word】 文書の編集と管理	文書の書式を設定する 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する 文字列や段落を挿入する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
4	【Word】 書式の設定 表、リストの作成	文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並び替える、グループ化する 表を作成する リストを作成する、変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
5	【Word】 課題演習	テキストの演習問題 (自習あり)	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
6	【PowerPoint】 スライドの作成	スライドの作成 テキスト 図形作成 グラフィック要素の挿入と書式設定	事前：作成課題の準備 (30 分) 事後：事後課題の完成・提出 (1 時間)
7	【PowerPoint】 グループ内での発表	アニメーションの設定 スライドの切り替え 発表者ツールの設定 相互発表 ループリック評価	事前：発表準備 (50 分) 事後：事後課題の完成・提出 (40 分)
8	【Excel】 ワークシートやブックの作成 ワークシートやブックの書式設定、管理	ワークシートやブックを作成する ワークシートやブックの書式を設定する 配布するためにワークシートやブックを設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel】 セルやセル範囲の編集、設定 テーブルの作成、編集	セルやセル範囲にデータを挿入する セルやセル範囲の書式を設定する データをまとめる、整理する テーブルを作成する、管理する テーブルのレコードを抽出する、並び替える	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel】 関数の利用	関数を使用してデータを集計する 関数を使用して条件付きの計算を実行する 関数を使用して書式を設定する、文字列を変更する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel】 グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する グラフを書式設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel】 課題演習	演習問題	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用	受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習	模擬問題演習	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目	情報リテラシーⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618)	富士通 FOM	FOM 出版
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617)	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、2回の総合課題などの演習 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	使いこなすには多くの練習時間が必要です。多くの先輩が、受講の後に独学で MOS (Microsoft Office Specialist (マイクロソフト オフィス スペシャリスト)) に合格していますので、就活時のアピールの為に頑張ってください。さらに IT パスポート資格の取得も視野に入れましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	A B C D
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については説明を行う。実習を中心に行うため、課題提出は必須である。なお、現在のところ、遠隔での実施になる予定である。PC環境の確保に留意いただきたい
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習 (40 分) 事後：演習課題の完成・提出 (50 分)
15	総合演習		MOS 模擬試験	事前：出題範囲の復習 (1 時間) 事後：出題内容の見直し (30 分)

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams/Moodle「オンデマンド型」/Web Folder			
Teams コード	4q004kz			
Moodle コース名 および登録キー	joho.j			
連絡手段	「質問・連絡票」(Teams、Moodle に記載)			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、課題演習や総合演習などの課題の評価等 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。			
担当者の 研究室等	1 1 号館 8 階 (橋本研究室)			
備考				

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	E G H I
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎		
科目ナンバリング	JMA1340a1		

授業概要・目的	大学生活および、卒業後の社会人生活において効率的に資料収集、作成を行い、基礎的な分析も実施できる能力の養成を目的とする。
到達目標	Microsoft Office を用いて大学での授業のレポート課題を作成できる。
授業方法と留意点	毎回、PCを使った実習を行う。実習内容に関連する用語、知識については説明を行う。実習を中心に行うため、課題提出は必須である。なお、現在のところ、遠隔での実施になる予定である。PC環境の確保に留意いただきたい。
科目学習の効果 (資格)	Microsoft Office Specialist Word, Excel が取得できるレベル。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	ICT 学習環境の確認 社会人としての情報モラル	事前：情報リテラシーⅠの復習 (1時間) 事後：事後課題の完成・提出 (30分)
2	【Word 応用】 効率的な文書の作成	テンプレートを使用して新しい文書を作成する Word で PDF ファイルを開き編集する ファイルまたは外部データからテキスト挿入する ブックマークを作成する 文書内の特定の場所またはオブジェクトに移動する ハイパーリンクを挿入する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
3	【Word 応用】 書式や文書のカスタマイズ	文書のテーマを適用する 文書のスタイルセットを適用する ページの背景要素の書式を設定する ズーム機能を使用して、表示をカスタマイズする ウィンドウを分割する 文書のプロパティに値を追加する クイックアクセスツールバーをカスタマイズする 印刷の設定を変更する 別のファイル形式で文書を保存する 隠しプロパティや個人情報がいないか文書を検査する アクセシビリティに関する問題がないか文書を検査する 下位バージョンとの互換性に問題がないか文書を検査する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
4	【Word 応用】 文字列や段落の高度な設定 表やリストの高度な設定	配置、インデントを設定する 書式をクリアする 文字列をワードアートに変更する 文字列や段落に組み込みスタイルを適用する セクション区切りを挿入する 文字列を表に変換する 表を文字列に変換する 表のデータを並び替える 表、行、列のサイズを調整する 表を分割する タイトル行の繰り返しを設定する リストの新しい行頭文字や番号書式を定義する リストのレベルを変更する リストのレベルごとに行頭文字や番号書式を変更する リストの番号を振り直す、自動的に振る	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
5	【Word 応用】 参考資料の作成と管理	脚注や文末脚注を挿入する 脚注や文末脚注のプロパティを変更する 資料文献を作成する 資料文献を変更する 引用文献を挿入する 図表番号を挿入する 図表番号のプロパティを変更する 標準の目次を挿入する 目次を更新する 表紙を追加する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)
6	【Word 応用】 グラフィック要素の活用	図形を挿入する 図を挿入する スクリーンショットや画面の領域を挿入する テキストボックスを挿入する アート効果を適用する 図の背景を削除する 図の効果を適用する	事前：授業テーマの予習 (40分) 事後：演習課題の完成・提出 (50分)

			図のスタイルを適用する オブジェクトを書式設定する オブジェクトの周囲の文字列を折り返す オブジェクトを配置する オブジェクトに代替テキストを追加する SmartArt グラフィックを作成する SmartArt グラフィックを書式設定する SmartArt グラフィックの内容を変更する	
7	【Word 応用】 課題演習		MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
8	【Excel 応用】 ワークシートやブックの高度な編集と設定		区切り文字で区切られたデータをテキストファイルからインポートする ワークシートをコピーする、移動する ブック内のデータを検索する 名前付きのセル、セル範囲、ブックの要素へ移動する ハイパーリンクを挿入する、削除する ワークシートの見出しの色を変更する ブックのテーマを変更する ブックの表示を変更する ズーム機能を使用して表示倍率を変更する 数式を表示する 列や行を表示する、非表示にする ワークシートを表示する、非表示にする ドキュメントプロパティを変更する クイックアクセスツール	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
9	【Excel 応用】 高度なブックの設定 効率的なセルの入力や編集		複数ページのワークシートに列タイトルと行タイトルを繰り返し表示する ブック内の非表示のプロパティや個人情報を検査する ブック内のアクセシビリティの問題を検査する ブック内の互換性の問題を検査する セルを挿入する、削除する データを置換する セルの書式を適用する セルの配置やインデントを変更する セル内の文字列を折り返して表示する 数値の書式を適用する セルのスタイルを適用する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
10	【Excel 応用】 高度な表の作成とデータ管理 関数の利用		データのアウトラインを作成する 小計を挿入する 条件付き書式を適用する テーブルをセル範囲に変換する テーブルにスタイルを適用する テーブルスタイルのオプションを設定する テーブルに集計行を挿入する 複数の列でデータを並び替える レコードを抽出する 重複レコードを削除する UPPER, LOWER, PROPER 関数を使用して文字の書式を設定する CONCATENATE 関数を使用して文字の書式を設定する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
11	【Excel 応用】 グラフやオブジェクトの高度な設定		データ範囲の行と列を切り替える クイック分析を使用してデータを分析する グラフをグラフシートに移動する テキストボックスや図形を挿入する 画像を挿入する オブジェクトのプロパティを変更する アクセシビリティ向上のため、オブジェクトに代替テキストを追加する	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
12	【Excel 応用】 課題演習		MOS 模試課題	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）
13	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
14	応用演習		受講者に必要と思われることに関する実践的な課題演習を行う	事前：授業テーマの予習（40 分） 事後：演習課題の完成・提出（50 分）
15	総合演習		MOS 模擬試験等の課題により到達度を確認する	事前：出題範囲の復習（1 時間） 事後：出題内容の見直し（30 分）

実務経験

関連科目

情報リテラシー I

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる マスター Microsoft Office	富士通 FOM	FOM 出版

		Specialist MOS Word 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1618) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】		
	2	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist MOS Excel 2016 対策テキスト&問題集 (FPT1617) 【前期のテキストと同じ(再購入不要)】	富士通 FOM	FOM 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Moodle+Teams「教材・課題配信型」/Moodle+Teams「教材・課題配信型」			
Teams コード	jktg4w9			
Moodle コース名 および登録キー	Teams にて URL を案内する moodle のコーストップに表示する			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の実習課題 (60%)、課題演習や総合演習などの課題の評価等 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	疑問は放置しないこと。質問はいつでも歓迎します。目的意識を持ち積極的に授業に参加して下さい。			
担当者の 研究室等	11 号館 10 階 (寺内研究室)			
備考				

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鶴坂 貴恵. 尾山 廣. 久保 貞也. 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 teamsを活用したオンライン授業を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 9月12日(土) 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	事前課題: 北河内について調べる(30分) 事後課題: 授業の進め方について確認する(30分)
2	チームビルディング 9月12日(土) 2, 3限	チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題: チームでの取組が円滑にいくにはどのようなことが大切か考える。 事後課題: チームビルディングの成果をまとめる(30分)
3	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
4	北河内地域に関する講演 9月26日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
5	グループワーク・プレゼンテーション 9月26日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
6	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
7	北河内地域に関する講演 10月10日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
8	グループワーク・プレゼンテーション 10月10日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
9	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
10	北河内地域に関する講演 10月17日(土) 2限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
11	グループワーク・プレゼンテーション 10月17日(土) 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
12	北河内地域に関する講演 11月14日(土) 1限	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)に関する講演を聴講し、地域課題の発見する。	事前課題: 学修する市の総合戦略等について調べ、レポートを作成する(1時間)
13	グループワーク・プレゼンテーション 11月14日(土) 2時間目	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる(30分)
14	最終発表会 12月5日(土) 1限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)
15	最終発表会 12月5日(土) 2限	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	事後課題: 討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる。また、プレゼンテーションの練習を十分に行う(10時間)

実務経験

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	j4ihms4			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	個人レポートの評価(40%)、グループごとの聴講および討議の態度のルーブリック評価(30%)、グループワークの成果物(30%)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	鶴坂貴恵(経営学部・経営情報学科) 11号館7階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-9</p>
---------	--

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化 (多様性) を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
------	---

授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	2019年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること (2時間) ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読すること (2時間)
2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること (2時間) ・事後学修: 企業の事例を調べること (2時間) 	
3	組織の種類 - 営利組織と非営利組織 -	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べること (2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること (2時間) 	
4	ビジネス環境をとらえる① - 経済のグローバル化と高度情報化 -	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること (2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること (2時間) 	
5	ビジネス環境をとらえる② - 地球環境問題と少子高齢社会 -	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること (2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること (2時間) 	
6	ビジネス現場をとらえる - オフィスからワークプレイスへ -	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること (2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること (2時間) 	
7	ビジネス実務能力とビジネス実務の基本① - 仕事の進め方 -	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめること。問題プリント①を解くこと (2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと (2時間) 	
8	ビジネス実務の基本② - ビジネスと諸活動 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること (2時間) 	
9	ビジネス実務の基本③ - ビジネスと経営資源 -	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること (2時間) ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成すること (2時間) 	
10	ビジネス実務の基本④ - ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス (経理財務) -	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめること (2時間) ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成すること (2時間) 	
11	自己実現とキャリアプランニング - セルフマネジメントと自己啓発 -	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己振り返りシートを作成すること (2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめること (2時間) 	
12	ビジネスプラン① - 起業への意識 -	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 各自がテーマを見つけること (2時間) ・事後学修: ビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行うこと (2時間) 	

			行う（とくに CSR に関するもの）。																	
	13	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 CM 比較プレゼンテーションを準備する。 実際に企画を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：ビジネスプランを発展させること（2時間） 事後学修：ビジネスプランを再考すること（2時間） 																
	14	寄付の教室	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること（2時間） 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること（2時間） 																
	15	授業のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること（2時間） 事後学修：新たな発見をすること（2時間） 																
実務経験																				
関連科目	2019 年度以前の学生においては、「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ビジネス実務総論</td> <td>全国大学実務教育協会</td> <td>紀伊国屋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>20 歳のときに知っておきたかったこと</td> <td>ティナ・シーリグ</td> <td>阪急コミュニケーションズ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>イノベーションと企業家精神</td> <td>P.F. ドラッカー</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>「デザイン思考」を超えるデザイン思考</td> <td>DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ																	
2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社																	
3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	dgautb5																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 																			
学生への メッセージ	私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。																			
担当者の 研究室等	7 号館 5 階 教育イノベーションセンター (石井)																			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。																			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テスト内容確認
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認
	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	xxuzj4r
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	k8m701sn@yahoo.co.jp
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通し、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 			
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。			
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習
	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める
	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のF Bを元に復習
実務経験				
関連科目	日本語表現作文FⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	18zm0y3			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	個人メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)			
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。			

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
3	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
4	テーマ「大学生生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%)、授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: B○, C科: III○, VI○, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, DP7○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
	5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
	11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
	15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業に変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮して判断する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	日本語総合F II	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A○, A科: C○, M科: B2○, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1○, DP7△, DP8△, D科: DP1○, S科: DP1○, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1○, W科: DP1○, DP7○, N科: DP1○, DP8△N: DP1○, DP8△		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語 F II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	授業内での取り組み、小テスト等 (70%)、課題等の提出物 (30%)
学生への メッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかり確認してください。
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。 ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。
到達目標	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができる。 ビジネス場面で使用する日本語表現を理解し、使用することができる。 異文化ビジネスコミュニケーションについて理解できる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料及びタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって 日本での就職活動及び就職に必要な知識やスキルを身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	ビジネス日本語 1 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
3	ビジネス日本語 2 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
4	ビジネス日本語 3 聞く・話す	ビジネス場面の会話 表現、敬語	ビジネス場面で必要な表現、敬語の復習 授業で提示した課題
5	ビジネス日本語 4 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	ビジネス日本語 5 読む	速読、精読 内容理解	文章に出てきた語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	ビジネス日本語 6 書く	ビジネス文書の書き方	ビジネス文書の形式、表現の復習 授業で提示した課題
8	ビジネス日本語 7 書く	Eメールの書き方	ビジネスにおけるEメールに必要な形式、書き方の復習 授業で提示した課題
9	ビジネス日本語 8	履歴書の書き方	履歴書を書く時に必要な表現の復習 授業で提示した課題
10	ビジネスマナー	異文化ビジネスコミュニケーション	異文化ビジネスコミュニケーションに必要な項目、表現の復習 授業で提示した課題
11	日本の会社 1	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	日本の会社 2	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	日本の会社 3	日本の会社の場面が出てくるドラマ視聴 内容についてディスカッション	授業で確認した語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	日本の会社と仕事	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめる。また、内容について話し合う。	授業で確認した語彙、表現等の復習
15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験				
関連科目	専門日本語 F I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	6zei4yu			
Moodleコース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール、チーム内のチャット等			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	オンライン授業時の参加度、確認問題、活動、課題等の提出物により総合的に判断する。			
学生への メッセージ	オンライン授業では積極的に発言することが求められます。			

担当者の研究室等	7号館2階（非常勤講師室）
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 授業進度及び参加学生のニーズによって授業内容が多少変更することがある。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	茶園 直人
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	日本語で自分の意見を明確に表明できるようになることを目的とします。また、議論を通して、問題発見解決能力の向上を目指し、最終的にはアカデミックな議論や就職活動など様々な場面に対応できるようになることを目標とします。 授業の概要は以下の通りです。 ・まとまった発話を聞いて、そこから話者の抱える問題を発見する。 ・発見した問題についての議論を行い、解決策を提示する。 ・自分の興味関心のある事象について、専門外の人にも分かりやすいように発表する。
---------	---

到達目標	まとまった話を聞いて、概要、問題点を把握することができる。 問題に対する解決策（自分の意見）を明確かつ論理的に説明できる。
------	--

授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、話者が抱える問題とその解決策を提示する。 教員は適宜フィードバックを行う。
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介	自己紹介の準備。(自分の興味関心について話せるようにしておく。)
2	トピック 1	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
3	トピック 2	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
4	トピック 3	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
5	トピック 4	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
6	トピック 5	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
7	トピック 6	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
8	トピック 7	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
9	トピック 8	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
10	トピック 9	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
11	トピック 10	まとまった発話を聞き、話者の抱える問題を見出す。 問題について議論を行い、解決策を提示する。	授業で使用した語彙や表現を復習する。	
12	発表準備 1	スクリプトの作成	発表テーマを決めておく。 スクリプトの作成 (残り)	
13	発表準備 2	スクリプトの修正 発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 3	発表資料の修正	発表練習	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	自分の発表の反省	

実務経験	
------	--

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	授業への取り組み 50%、口頭発表 50%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、発表形式とし、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1328a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有)
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	語彙テストの内容確認
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

実務経験	
関連科目	日本語読解FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	<ol style="list-style-type: none"> (1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅れた箇所を中心に説明を行う。

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:F○,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△N:DP1◎,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1330a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語表現作文FII																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態																																																																			
Teams コード																																																																			
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段																																																																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。 (4) 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。																																																																		

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 涙</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習																																																																
5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
実務経験																																																																			
関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
授業形態	Teams「オンライン型」																																																																		
Teams コード	u34q4dh																																																																		
Moodle コース名 および登録キー																																																																			
連絡手段	個人メール																																																																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																																																																		
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生への メッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！																																																																		
担当者の 研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。 (4) 小テストのFBに関しては、次週間遅えた箇所を中心に説明を行う。																																																																		

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2o, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、様々な素材を用いて観察したり考察したりします。また資料の講読や動画等の視聴を通して、日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・積極的にワークやレポートに取り組んでください。 ・授業の内容や方法が多少変更することもあります。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	2	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	3	テーマ「大学生生活」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	4	テーマ「大学生生活」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	5	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	6	テーマ「仕事」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	7	テーマ「仕事」	タスク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。 ・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・予習: 資料を読んで、漢字の読み方、語彙の意味を調べ、内容を理解する。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	資料の内容理解、ワーク	・ワークシートの課題 ・各自で動画を視聴、レポートを書く。(2時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	ワーク、ディスカッション	・各自で動画を視聴、レポートを書く。(計1.5時間)
	11	各自のテーマに関する発表準備	発表についての手順説明 質疑応答 発表例の提示	発表準備 (計2時間)
	12	各自のテーマに関する発表1	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	13	各自のテーマに関する発表2	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
	14	各自のテーマに関する発表3	発表、質疑応答、ディスカッション、フィードバック	発表準備 (計2時間)
15	まとめ	全体ふり返り	全体レポート (1.5時間)	

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本映画を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生へのメッセージ	楽しく日本語・日本文化について学びましょう!
担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては個別にフィードバックする。

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: IIIo, IVo, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: B○, C科: IIIo, VIo, L科: DP1△, DP2○, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、テーマについて様々なリソースを用いて観察し、考察します。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	(1) 資料の講読 (2) 日本語の表現 (3) タスク (4) ディスカッション (5) 発表
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	2	テーマ「言語」	文献講読、日本語の表現、タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	3	テーマ「言語」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	4	テーマ「言語」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
	5	テーマ「教育」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	6	テーマ「教育」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	7	: テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 文献の講読 (計2時間)
	8	テーマ「ジェンダー」	文献講読、日本語の表現、タスク	資料を読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる。(1.5時間)
	9	テーマ「ジェンダー」	タスク	タスクシートの課題(1.5時間)
	10	テーマ「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポートを書く 発表の準備 (計2時間)
	11	発表について	説明	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	12	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	13	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表の準備、発表内容のフィードバック (計2時間)
	14	発表	発表、質疑応答、ディスカッション	発表内容のフィードバック、発表内容の修正 (計2時間) (計2時間)
	15	ふり取り、まとめ		レポートを書く(計2時間)

実務経験	
関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント配布		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」
Teams コード	h0ek4j4
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	授業では、日本語の4技能「読む、聞く、話す、書く」を使った様々なタスクをします。積極的に参加してください。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 *オンライン授業へ変更のため、発表については、学生個人のネット環境を考慮した上で判断する。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える	
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく	
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)	
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)	
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

授業形態	Web Folder
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。 *オンライン授業になったため、毎回の課題提出により評価する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A○,A科:C○,M科:B2○,E科:F○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1○,DP7△,DP8△,D科:DP1○,S科:DP1○,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1○,W科:DP1○,DP7○,N科:DP1○,DP8△N:DP1○,DP8△		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

実務経験	
関連科目	専門日本語FII

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teamsコード	
Moodleコース名および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	授業内での取り組み、小テスト等(70%)、課題等の提出物(30%)
学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)事前事後学習時間の目安は毎週1時間。

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: F○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△N: DP1◎, DP8△		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
3				
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	u0vvhe6			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生への メッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の 研究室等	外国語学部非常勤講師講師室 (7号館 2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 試験は、最終授業日の前週に行ない、最終授業日にフィードバックを行なう。			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差・学力格差問題、ジェンダーにかかわる問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法により授業を行う。具体的には Moodle や Teams、Zoom 等を用い、教材・課題提供型の授業を行う。その他、双方向性が可能かつ履修学生のみなさんの利用しやすい SNS などにも利用する予定である。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、要約する。また、日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集しておく。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
	2	新自由主義と学校教育	近年の学校教育(制度)の質的転換について、学校教育を社会学観点から考察する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	3	マイノリティと教育Ⅰ	マイノリティという概念について	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	4	マイノリティと教育Ⅱ	前時を踏まえ、学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の実態、現状について考え、その対応について検討する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	5	マイノリティと教育Ⅲ	前時の内容を受けて、実際に学校現場において「外国にルーツのある子どもたち」の生活実態、学校における支援体制について学ぶ。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	6	教育格差・学力格差問題Ⅰ	教育格差・学力格差に関する近年の研究動向を紹介し、その基礎的理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	7	教育格差・学力格差問題Ⅱ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考え、子どもたちの現状についての理解を深める。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	8	教育格差・学力格差問題Ⅲ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて、実際に学校現場で行われている取り組みについても紹介する。	事前課題：事前資料、教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	9	学校教育の現場を知るⅠ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：それぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	10	学校教育の現場を知るⅡ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	11	学校教育の現場を知るⅢ	今、学校教育が抱える問題について、それぞれ関心のある問題について提起し、その解決策を探る。	事前課題：前時のふりかえりとそれぞれ関心のある学校現場の問題について調べ、まとめてくる。
	12	ジェンダーと教育Ⅰ	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	13	ジェンダーと教育Ⅱ	事前課題として出していたジェンダー問題を扱った資料(読み物)についての解説と説明。	事前課題：ジェンダー問題を扱った資料(読み物)を読み、その内容についてまとめてくる。
	14	ジェンダーと教育Ⅲ	ジェンダーロールにとらわれない教育、社会の創造について考える。	事前課題：教科書の該当する章を読み、その内容についてまとめてくる。
	15	総括	全体のふりかえり	事前課題：最終レポートの準備

実務経験									
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」								
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>教師教育テキストシリーズ『教育社会学』</td> <td>久富善之、長谷川裕</td> <td>学文社</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社						

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス
	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー	ブレイディみかこ	新潮社
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前課題 (60%)、宿題 (20%)、最終レポート (20%) それぞれの提出状況、及びその内容をチェックし、総合的に判断し、評価する。			
学生への メッセージ	毎回の事前課題にしっかりと取り組み、授業 (遠隔授業) を受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) ※メールで連絡してください。アドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp です。			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がりが理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第1部を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第2部を読んでくる。	
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権論争についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
4	学校体系のしくみ	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第1部を読んでくる。	
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合	テキスト第1部を読んでくる。	
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第3部を読んでくる。	
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第3部を読んでくる。	
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 教育行政の原則、監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第3部を読んでくる。	
10	教育費と教育財政	教育財政の考え 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第3部を読んでくる。	
11	指導行政と教育課程管理	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政 学力論争と教育評価論	テキスト第4部を読んでくる。	
12	人事行政と教職員管理	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク 教職員の資格・身分・労務管理、教育労働管理	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第4部を読んでくる。	
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第4部を読んでくる。	
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第4部を読んでくる。	

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート内容 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。 遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。			

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名(英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	4	学習指導案の作成について1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	5	学習指導案の作成について2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	6	学習指導案の作成と模擬授業1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	7	学習指導案の作成と模擬授業2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	8	学習指導案の作成と模擬授業3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	9	学習指導案の作成と模擬授業4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	10	学習指導案の作成と模擬授業5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	11	学習指導案の作成と模擬授業6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	12	学習指導案の作成と模擬授業7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	13	学習指導案の作成と模擬授業8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。 (4時間程度)
	14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。 事後 授業終了時に指示する。 (4時間程度)
	15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。 事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。 (4時間程度)

実務経験	
関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。			
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大井 秀士
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。授業担当者は高校と特別支援学校で教諭や管理職を経験し、さらに教育委員会で指導主事を経験している。経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを期待します。			
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。			
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。			
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項:各教科の指導法			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認。	事前 学習指導要領の通読 事後 講義後指示する。 (4時間程度)
	4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成 事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出。(4時間程度)
	14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討論する。	事前 全員の授業計画案を再度確認 事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
	15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出。(4時間程度)
実務経験				
関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			

Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール・個人メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
学生への メッセージ	教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室
備考	

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	遠隔授業の講義方法(MoodleやTeams、その他のSNS等、例えばZoom等の利用)を中心に、まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、遠隔授業というスタイルにはなりますがしっかりと授業の準備やふりかえりに自主的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)／模擬授業のライブ配信(予定)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシミュレーションを行う(事前課題)。
15	総括－社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめること。

実務経験	
関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (60%)、模擬授業 (20%)、最終レポート (20%) 等により、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入 (準備) しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り 組むことができません。入手方法については書店、オンライン書店・ショップ等を利用してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室 ※連絡のある方はメールアドレスは j-oono@arc.setsunan.ac.jp まで。			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。

到達目標
 本講義の到達目標は以下の通りです。
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
 (4) 政治教育、市民性教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

授業方法と留意点
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

科目学習の効果(資格)
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：教育課程及び指導法に関する科目
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括－社会科・公民科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

実務経験
 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020 社会科公民科教育法Ⅱ shakou2			
連絡手段	メール（前期Ⅰ履修学生はLINEも可）			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 （基準）	出席（全15回出席すること。少なくとも80%以上の出席が必須。出席が80%に満たない者は成績評価の対象外とする。）、課題・レポート（提出の締め切りは厳守すること）、平常点（授業への貢献度、模擬授業等）、及び、最終試験（予定）により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。本講義は教職科目の授業であり、他の講義科目とは異なり、第一回目の授業から本格的に始まっています。ですので履修するかしないかを考			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します（前期社会科公民科教育法Ⅰで購入済みの者は購入の必要なし）。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、対面の講義形式で行います。しかし、後半には、学習指導案作成等の演習や模擬授業等を適宜取り入れます。 また、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道徳の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8~17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6~12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12~25を精読しておく。 (事後)道徳の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	道徳の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26~35及びテキスト2のP.26~29を精読しておく。 (事後)道徳の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36~48及びテキスト2のP.30~33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49~58及びテキスト2のP.34~37を精読しておく。 (事後)道徳の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59~68及びテキスト2のP.38~41を精読しておく。 (事後)道徳の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業タイプのねらいと発問の特徴	教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業タイプのそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71~85及びテキスト2のP.42~45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86~95及びテキスト2のP.46~49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96~106及びテキスト2のP.50~53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実際①：カリキュラム・マネジメント、テーマ発問	カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.107~130及びテキスト2のP.54~57を精読しておく。 (事後)カリキュラム・マネジメントに基づく道徳の授業やテーマ発問を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
12	授業づくりの実際②：問題解決的な学習、探究型学習	問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について、実践事例をもとに概観する。	(事前)テキスト1のP.131~152及びテキスト2のP.58~61を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習を取り入れた道徳の授業や探究型学習を取り入れた道徳の授業について整理しておく。
13	学習指導案の作成	これまでの講義内容をふまえて、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62~65を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66~69を精読しておく。 (事後)グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。

	15	模擬授業と事後検討会② まとめ： 道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前) グループ毎に模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後) 「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。																
実務経験																				
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>道徳科 初めての授業づくり</td> <td>吉田誠・木原一彰 編著</td> <td>大学教育出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版	2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版																	
2	中学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—</td> <td>文部科学省</td> <td>廣済堂あかつき</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集</td> <td>『道徳教育』編集部</td> <td>明治図書出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	小学校学習指導要領解説—特別の教科 道徳編—	文部科学省	廣済堂あかつき																	
2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版																	
3																				
授業形態	対面授業																			
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 火5 「道徳教育の研究」(担当：谷口雄一) yuichi																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や、作成した学習指導案(20%)、学期末試験の結果(50%)等をもとに、総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。																			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等の学習を適宜取り入れたいと考えています。受講者の皆さんの積極的な参加・発言を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。																			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうしの関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにしたワークを行う。</p> <p>また、学級担任が担当することが多い総合的な学習の時間の指導についても合わせて取り扱う。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義ならびに実際におこりやすいトラブルや事件についての指導の在り方を例示することができる。</p> <p>主体的・対話的で深い学びを実現するような、総合的な学習の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及</p>
授業方法と留意点	<p>講義は遠隔授業 (Moodle) によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、学級内のディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションを意識した授業への積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動および総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワーク)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワーク)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
5	生徒会活動・児童会活動、学校行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
6	体験活動・体験的な学びの意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」(ソロワーク)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
7	特別活動の歴史・領域・原理ワーク⑥いじめへの対応(1)(グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
8	特別活動と学級経営ワーク⑦いじめへの対応(2)(グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力への対応(即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をする(1時間)。
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨不登校への対応(ソロワーク)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点ワーク⑩いじめへの対応(3)(ソロワーク)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理ワーク⑪進路指導(ソロワーク)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫インクルーシブな学級づくり(ソロワーク)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく(1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する(1時間)。
14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前

		計画と評価 ワーク⑬ジェンダーフリー な学級づくり (ソロワーク)	生徒の学習状況の評価	に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をす るとともに課題を作成する (1時間)。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項につい て再度振り返り整理する。 集団活動の留意点、特別活動の指導の配 慮事項及び担当する教師、総合的な学習 の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学 習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく(1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題 を作成する (1時間)。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」、「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」、「生徒指導論」、「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 特別活 動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総合的 な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	kcsmc51																			
Moodle コース名 および登録キー	特別活動の理論と方法																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	レポート (30%)、毎回の課題 (40%)、講義の視聴及び問への回答等授業への参加状況 (30%) を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するというに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間は60時間とする。																			

科目名	教育相談	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせで行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。 <ul style="list-style-type: none"> ・講義部分は、基本的に遠隔授業（資料配信型）で行う。 ・グループでの活動は、対面授業と遠隔授業（オンライン型）を組み合わせで行う。 ・遠隔授業は、Teams と Moodle を併用する。 ・全体のスケジュール等は、第1回授業で示す。

科目学習の効果（資格）	教員免許取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法
-------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	_____
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む	
3	グループ発表の準備	グループワーク	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備	
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む グループ発表の準備	
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)..... 治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)..... 開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む グループ発表の準備	
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	グループ発表の準備	
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、 適応過程	テキスト第3章を読む グループ発表の準備	
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む グループ発表の準備	
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、 仲間関係の発達	教育心理学の復習 グループ発表の準備	
11	相談援助活動の実際1	不登校.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第5章を読む	
12	相談援助活動の実際2	いじめ.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第6章を読む	
13	相談援助活動の実際3	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第7章を読む	
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動.....その理解と対応（学生グループ発表）	テキスト第8章を読む	
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む	

実務経験	
関連科目	教職課程の科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育相談	森田健宏・吉田佐治子（編著）	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」／対面授業
Teamsコード	q4ztxbf
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	ICTツール内での投稿、学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法	グループ発表50%，期末試験50%

(基準)	
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階（吉田研究室）
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義 (体験報告を含む)、演習 (文献購読、発表、討議を含む)、実習 (指導案作成、模擬授業を含む) を行う。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する	
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する	
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する	
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する	
6	教育実習の実際 (1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する	
7	教育実習の実際 (2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する	
8	指導案の作成 (1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する	
9	指導案の作成 (2)	学級 (ホームルーム) 活動等の指導案について	授業時に指示する	
10	模擬授業 (1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
11	模擬授業 (2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
12	模擬授業 (3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
13	模擬授業 (4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する	
14	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する	
15	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する	

実務経験	
関連科目	教職課程で学んだ全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
2				
3				

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	2020年度教育実習 I (金曜5限・朝日クラス) 20TP1F5A
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	課題の提出状況とその内容、指導案と模擬授業、授業における積極性・貢献度、期末レポート等によって総合的に評価する。
学生への	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。

メッセージ	
担当者の研究室等	吉田研究室・林研究室・大野研究室・朝日研究室（7号館3階） 谷口研究室（7号館4階）
備考	教育実習体験発表会（10月末土曜日）、教育実習総括講義（11月末土曜日）には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインド設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。 事前・事後学習総時間はおよそ60時間程度となる。

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
	2	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	3	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
	4	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと考える。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を扱い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	(事前) 第1回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	5	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	(事前) 第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1~2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
	6	学校の危機管理①: 学校管理下の事件・事故	学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	7	学校の危機管理②: 災害	災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	8	教員の体罰はなぜなくなるのか?	教員の体罰の実態や体罰防止の現状等について学ぶとともに、体罰の背景にある指導観、子ども観について考える。	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。
	9	教員の勤務時間はなぜ長くなるのか?	労働時間法制や教員の勤務時間の実態について学ぶとともに、長時間勤務の背	(事前) 配布した新聞記事の切り抜きを読んでくる。

			景にある問題について考察し、働き方改革の方途を考える。	(事後) ミニレポートを課す。
	10	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)①	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	13	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)②	地元市教委との連携協力をもとに、中学校現場をグループごとに参観し、教科指導上の実践課題を知る。 ※本年度は新型コロナのため、VTRを視聴し学修を進める。	中学校における集団づくりと個別指導(教科指導のあり方)についてレポートにまとめる
	14	専攻科目における実践上の課題①	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する受講者各自の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
	15	専攻科目における実践上の課題②	専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野における実践上の課題について、教科担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	専攻教科における分野ごとの課題を整理する
実務経験				
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	2020年度教職実践演習(金曜3限・朝日講座)、2020年度教職実践演習(金曜3限・谷口担当) 6gazelle、taniguchi			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。そのなかで、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。 Teams内で行う予定です。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調べておくこと（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア供養行くの事例について調べておくこと（1時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3時間）
14	模擬授業	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1時間）

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、(授業課題 20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること(3時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)	
5	フリーター・ニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること(2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること(2時間)	
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
8	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること(2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること(2時間)。	
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること(2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること(2時間)	
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)	
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)	
12	就業力向上計画立案②	11回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)	
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(1時間)	
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(2時間)	
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること(4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること(2時間)	

実務経験	
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teams コード	2z97dst			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター (水野)			
備考				

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語ることができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>【スケジュール】 授業のスケジュールはおおよそ下記の通りです。</p> <p>【方法】 ①基本的に Moodle を使って、教科書についての解説資料等を提供します。 加えて、授業のはじめと終わりに受講される皆さんの考えを共有する場を設けています。 ②毎回の授業の終わりにコメントペーパー-OPPシート (One Page Portfolio シート) を書いてもらいます。 その中からいくつかを次の授業の資料として紹介します (※匿名です)。 これにより、自分とは異なる他の人の考えも参考にし</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス： 教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう?」という問いについて自分の考えをまとめておく。
	2	教育の基礎理論①： 教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59~63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
	3	教育の基礎理論②： 教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59~63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
	4	教育の基礎理論③： 子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76~85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
	5	教育の基礎理論④： 教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69~73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
	6	教育の基礎理論⑤： 近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93~97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
	7	教育の基礎理論⑥： 家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86~90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
	8	近代の教育思想①： コメニウスの教育思想	コメニウスの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.20~22 及び P.94~95 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	9	近代の教育思想②： ルソー、ペスタロッチの教育思想	ルソー、ペスタロッチらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.23~25 及び P.77 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	10	近代の教育思想③： ヘルバルト、フレーベルの教育思想	ヘルバルト、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.26~27 及び 81~82 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた近代の教育思想について整理しておく。
	11	現代の教育理論①： デューイの教育思想	デューイの教育思想について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.28~29 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	12	現代の教育理論②： 20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.29~32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
	13	現在の教育課題①： 学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.50~54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
	14	現在の教育課題②： 生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147~151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
	15	まとめ： 今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P.169~178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。
実務経験				

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	保育出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領	文部科学省	東洋館出版
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle			
Teams コード	9bs70tx			
Moodle コース名 および登録キー	【教職課程】後期 月1（※木1の方は木1）「教育原理」（担当：谷口雄一） yuichi			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらうコメントペーパーの内容(30%)や学期末試験の結果(70%)等をもとに総合的に評価します。また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等の学修は遠隔のためできませんが、チャット機能を使っての意見交換を予定しています。受講者の皆さんの積極的な発言を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」に対応する科目である。</p> <p>障害をはじめ、日本語指導や貧困、被虐待等による特別な教育ニーズのある児童生徒が、安心安全のうちに、楽しく、達成感を持って学び、生きる力を身に付けることができるよう、教員として必要な知識及び支援の方法について学ぶ。</p> <p>「障害とは何か」を可視化させ、「障害」の概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法について歴史的変遷から最新の動向までを踏まえ、その現状と課題について整理し、今後の在り方についても展望したい。</p> <p>中・高（小）免許状取得希望者を対象とする科目であることを踏まえ、公立高校教員として34年間勤務し、特別支援教育コーディネーターや人権教育担当者としての実務経験をもつ授業担当者が、通常の学校での特別支援教育の実践に焦点を絞った授業を行う。</p>
到達目標	<p>①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。</p> <p>②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。</p> <p>③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。</p> <p>④さまざまな障害や成育歴をもち、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法について例示することができる。</p>
授業方法と留意点	講読演習の形式も取り入れながら、講義形式を中心に行う。
科目学習の効果（資格）	教員免許（小学校・中学校・高等学校）取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、インクルーシブ教育システムの概要	わが街は暮らしやすいか、わが学校は学びやすいか。インクルーシブ教育システムの概要と課題	教科書の序章を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	2	新しい障害観と特別なニーズ教育の考え方	ICIDH から ICF へ。医学モデルから社会モデルへ。一人ひとりの教育ニーズに応じた教育	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	3	障害者権利条約と合理的配慮	国連障害者権利条約の批准と国内法の整備。差別的取り扱いの禁止と合理的配慮の提供義務	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	4	戦前・戦後の特殊教育の成立と展開	障害のある子どもの学校教育からの排除。盲・ろう学校の義務化と養護学校の義務化	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	5	特別支援教育への転換	障害種に応じた教育から個別のニーズに応じた教育へ。新たに発達障害も対象に	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	6	障害のある子供たちの学校生活と家庭生活の課題	学校でも家庭でも地域でも孤立しやすい子供たち。周りの子供との関係づくり。保護者との連携	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	7	障害のある子供たちの進路選択と地域生活の課題	差別的取り扱いの禁止及び合理的配慮としての入試受験配慮や就労促進支援	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	8	通常学級での特別支援教育の実践（通級による指導を含む）	ともに学びともに生きる教育の歴史的経過と課題。通教による指導の現状と課題	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	9	発達障害・知的障害の理解と支援	知的障害の概要と学習上の課題と対応。発達障害の概要と学習上の課題と対応	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	10	肢体不自由・病弱・重複障害の理解と支援	肢体不自由・病弱の子どもの学校生活や学習上の配慮。さまざまな重複障害、障害の多様性の理解	教科書の指定箇所を事前に読んでおく。授業後に課すレポートを作成する。
	11	視覚障害・聴覚障害の理解と支援	視覚障害・聴覚障害のある子どもの学校生活や学習上の配慮。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	12	個別の指導計画と個別の教育支援計画、卒業後の課題	つなぐツールとしての個別の指導計画、個別の教育支援計画、移行支援計画。	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	13	校内支援体制の構築と SC・SSW 等との連携・協働	校内での連携。他職種との連携。福祉・医療との連携	教科書の指定箇所を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	14	社会的養護にある子供、LGBT など性的マイノリティの子供の理解と対応	ニューカマーの子供、施設から通学する子供、LGBT など性的マイノリティの子供等を視野に入れた学級づくり、授業づくり	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。
	15	被虐待の子供など家庭の問題を抱えた子供の理解と対応、まとめ	非虐待の子供等、家庭の問題を抱えた子供への心理的ケアと関係機関との連携	配布資料を事前に読んでおく（1時間）。授業後に課すレポートを作成する（2時間）。

実務経験																	
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育 多様なニーズへの挑戦</td> <td>柘植雅義</td> <td>中央公論新社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特別支援教育 多様なニーズへの挑戦	柘植雅義	中央公論新社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>特別支援教育資料（平成31年度版）</td> <td>文部科学省</td> <td>Web</td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特別支援教育資料（平成31年度版）	文部科学省	Web								
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	特別支援教育資料（平成31年度版）	文部科学省	Web														

	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー・ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。			
担当者の 研究室等	7号館3階林研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価し、改善できる資質が身につく。
授業方法と留意点	遠隔授業中心に課題提出型の授業スタイルが基本となります。よって、みなさん一人一人の授業への主体的な参加が求められます。また、授業全体を通して、各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読み、それぞれの免許取得教科の学習指導要領を入手し、熟読しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げている教科書を購入し、授業テーマに該当する分を読み、まとめる。授業後にまとめたレポートをオンライン提出する。
2	日本における教育課程の歴史の変遷 I	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
3	日本における教育課程の歴史の変遷 II	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読む。授業後ふりかえりレポートをオンライン提出する。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：教科書の該当部分と事前配布する資料を読み、最終レポートを作成し、オンライン提出する。

実務経験	
関連科目	教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程(第4版)	田中耕治他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新教育課程ライブラリ(Vol.1～Vol.12)	(株)ぎょうせい	(株)ぎょうせい
2	ワークで学ぶ教育課程論	尾崎博美他	ナカニシヤ出版	

	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	事前課題とふりかえりレポートの内容 (60%) と最終レポート (40%) により総合的に評価する。		
学生への メッセージ	毎回、事前学習をしっかりと行い、ふりかえりレポートを期限内に提出してください。		
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室) 連絡先： j-oono@arc.setsunan.ac.jp		
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画に記載している授業テーマは授業の進捗状況により少々前後することがあります。 授業で用いる資料等については、適宜印刷し、配布します 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。		

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。 総合的な学習の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。 公立高校での34年間の学級担任、総合的な学習の時間の企画主担者等を通じた教員経験に基づき、学校現場での学級づくりや総合的な学習の時間の展開に役立つ実践的な授業を行う。 SDGs-1, 4, 5, 10
到達目標	教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。 総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解し
授業方法と留意点	講義は遠隔授業 (Moodle) によって行う。テキストやプリント教材、視聴覚教材を参照しながらすすめるが、ソロワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ・表現することが求められる総合的な学習の時間を指導する立場として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネート・プレゼンテーション意識しながら授業への積極的な
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

	授業計画			
	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
授業計画	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ワーク①「キャラ」をめぐる (ソロワーク)	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	3	学級活動・ホームルーム活動①	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ワーク②大学に入って (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する (1時間)。
	4	学級活動・ホームルーム活動②	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ワーク③学級活動の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	5	生徒会活動・児童会活動、学校行事	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ワーク④学校行事の思い出 (ソロワーク)	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするをするとともに課題を作成する (1時間)。
	6	体験活動・体験的な学びの意義	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性 ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	7	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちが ワーク⑥いじめへの対応 (1) (グループ討議・発表)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	8	特別活動と学級経営	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 ワーク⑦いじめへの対応 (その2) (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	9	特別活動と生徒指導	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 ワーク⑧問題行動への対応 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	10	特別活動の指導計画と評価	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 ワーク⑨不登校への対応 (ソロワーク)	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	11	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性 ワーク⑩進路指導 (ソロワーク)	配布プリントを事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。
	12	総合的な学習の時間の目標・内容・原理	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 ワーク⑪インクルーシブな学級づくり	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく (1時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1時間)。

			〈ソロワーク〉																	
	13	総合的な学習の時間の学習活動と学習指導	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び ワーク⑩ジェンダーフリーな学級づくり〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第 2・7 章を事前に読んでおく (1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1 時間)。																
	14	総合的な学習の時間の指導計画・評価・校内体制	全体計画、年間計画、単元計画の作成、生徒の学習状況の評価 ワーク⑬いじめへの対応 (その 3) 〈ソロワーク〉	総合的な学習の時間のテキスト第 5・6・8 章を事前に読んでおく (1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1 時間)。																
	15	補足とまとめ	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。集団活動の留意点、特別活動の指導の配慮事項及び担当する教師、総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第 4 章第 2・3・4 節、総合的な学習の時間のテキスト第 9 章を事前に読んでおく (1 時間)。講義資料を参考に復習をするとともに課題を作成する (1 時間)。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	xtuapx2																			
Moodle コース名および登録キー	特別活動・総合的な学習の時間の指導法 (月曜 4 限)																			
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	レポート (30%)、毎回の課題 (30%)、講義の視聴及び問への回答等の授業への参加状況 (30%) を踏まえ、総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の研究室等	7 号館 3F 林研究室																			
備考	授業外学習総時間を 60 時間とする。																			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論の概観、授業の設計から評価に至る授業構成の理解、学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の習得に関する講義、児童生徒に向き合う授業づくりのための技術に関するミニ講座、グループに分かれて、共同作業による教材の開発及びマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。</p> <p>授業担当者は公立高校5校で34年間にわたり授業を行ってきた経験を活かした実践的な授業を行うので、授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場からの能動的な学びを期待する。</p> <p>より具体的には、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得ではなく、生徒の生活背景や教室の人間関係を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、日々の教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とする授業づくりをめざす。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が、上記(2)に関する専門性を向上させるだけでなく、職場で相互に学び合える同僚性を構築すること、また、教育諸科学の最新の研究から新しい知見を積極的に摂取することの重要性を理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は、moodle及びTeamsを使用して遠隔授業で行います。</p> <p>授業担当者も受講者の皆さんも遠隔授業に不慣れだと思えます。途中で問題が生じるようなことがあれば、その都度、指示や修正を行います。皆さんの協力がないと授業が成り立ちませんので、是非とも主体的に取り組んで下さい。</p> <p>(1) 講義資料(通常は紙)は、moodle上にPDFで配布します。できる限り印刷し手元に置いて受講するようにしてください。</p> <p>(2) 講義のスライド・音声・動画の配信は、moodle上で行います。皆さんは自身の環境に合わせて</p>
科目学習の効果(資格)	教員免許(小学校・中学校・高等学校)取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション、教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
4	欧米における授業の歴史(教授論の歴史①) 授業技術ミニ講座④板書の技術	近代教育思想と教授学の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
5	日本における授業の歴史(教授論の歴史②) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。	
6	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方 ワーク1 チーム顔合わせ・自己紹介	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
7	授業をどうデザインするか(計画論) ワーク2 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ①	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)	
8	教育の道具・素材・環境(教材論) ワーク3 チームで教材開発・模擬授業の打ち合わせ②	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備を行う(2時間)。	
9	何をどう評価するか(評価論) ワーク4 第1・2グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) 第3・4グループのチームによるマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの払拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	
11	ICTを活用した授業をつくる① ワーク5 第5・6グループのチームによるマイクロ・テ	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)	

		イーチャング実施																		
	12	ICTを活用した授業をつくる ② ワーク6 第7・8グループのチームによるマイクロ・ティーチャング実施	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の準備・振り返りを行う(2時間)																
	13	インクルーシブな授業をつくる ワーク7 チームによるマイクロ・ティーチャングの振り返り① 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。講義資料を参考に学習内容を整理する。模擬授業の振り返りを行う(2時間)。																
	14	ユニバーサルデザインの授業をつくる ワーク8 チームによるマイクロ・ティーチャングの振り返り② 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく(1時間)。講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う。																
	15	まとめ～学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく(1時間)。教科書・講義資料を参考に学習内容を整理する(1時間)。模擬授業の振り返りを行う(2時間)																
実務経験																				
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法 改訂版</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法 改訂版	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態																				
Teams コード																				
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段																				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	毎回の授業における課題・アンケートの提出状況(50%)、期末レポート(50%)を総合的に評価します。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	生徒指導論	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、教職員や関係機関と協力して解決・改善を目指すとする素養を養います。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導、キャリア教育の意義と原理を理解し、学校の教育活動の核にこれを据え、全ての教職員および関係機関等と協力し、組織的に実践を進めていくために必要な知識やスキルを学び、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐってのディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 教育課程と生徒指導・進路指導	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり	テキスト pp. 3-6、pp. 25-32、pp. 80-100
	2	生徒指導の目標と意義	生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 6-17
	3	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 17-24
	4	生徒指導の理論	発達に関する理論 生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 32-42
	5	生徒理解の進め方 (1)	生徒理解の意義と目的 生徒理解の方法	テキスト pp. 43-52
	6	生徒理解の進め方 (2)	生徒の自己理解の支援 教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 52-62
	7	学級経営の進め方 (1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	8	学級経営の進め方 (2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-79
	9	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	10	学校の生徒指導・進路指導体制と連携・協力	学校における指導体制 家庭との連携 専門機関との連携	テキスト pp. 116-131
	11	生徒の進路・キャリアに関する実態と課題	進路選択の実態と課題 キャリア適応 青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	12	進路指導・キャリア教育の目標と意義	進路指導・キャリア教育の意義 進路指導・キャリア教育の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	進路指導・キャリア教育の理論	キャリア発達に関する諸理論 キャリアカウンセリングに関する理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	14	進路指導における「ガイダンスの機能」	ガイダンスを活かした指導	テキスト pp. 220-223
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 196-220、pp. 223-234

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)	文部科学省	
	3			

授業形態	Moodle
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	木曜日 2 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 2 限) 木曜日 5 限の履修者→2020 生徒指導論 (木曜 5 限) 金曜日 1 限の履修者→2020 生徒指導論 (金曜 1 限) 木曜 2 限→20SgctH2 木曜 5 限→20sgcTh5 金曜 1 限→20Sgcf1
連絡手段	学内メール

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 50%、レポート 50%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
学生への メッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	Moodleを通して資料配布、レポート課題提示・提出受付を行います。メンバー登録を必ずしてください。 また、ポータルシステムを通じて講義連絡、学生呼出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 テキストは授業の各回に先立ち配布します。 事前・事後学習総時間はおよそ 60 時間程度です。

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Communitiy-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導 2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導 3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日報等) の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (大野研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (林研究室)、7号館3階 (吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Communitiy-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の担当者との相談結果によって受入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」をはじめ履修する学生を対象とする。
科目学習の効果(資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導1	活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備	活動のための準備
	2	事前指導2	マナー講座・小中学校の教育現場について	活動のための準備
	3	事前指導3	「守秘義務」の意味とその内容について	活動のための準備
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する	活動のための準備
	5	活動1～25	受け入れ校にて活動(活動業務日報・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成
	6	最終報告会	活動報告会	報告のための準備
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			

実務経験	
関連科目	すべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	対面授業
Teams コード	
Moodle コース名および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(大野研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1?2時間は必要です。

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにしているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	メンタルヘルスに関する配布資料

実務経験	
関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワークにおけるピアレビュー10%
学生への メッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。 遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	発達と教育と心理学と1	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1, 配付資料による本時の予習と復習
2	発達と教育と心理学と2	発達の要因, 主な発達理論の概観	テキスト第8章1, 配付資料による本時の予習と復習	
3	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第9章, 配付資料による本時の予習と復習	
4	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
5	こどもの発達3	青年期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第8章2・第10章・第11章・第12章, 配付資料による本時の予習と復習	
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴, メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1, 配付資料による本時の予習と復習	
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能, 言語理解と言語産出とその発達	テキスト第11章, 配付資料による本時の予習と復習	
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章, 配付資料による本時の予習と復習	
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か, 主な学習理論の概観, 条件づけ	テキスト第1章, 配付資料による本時の予習と復習	
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習, 自己制御学習	テキスト第1章・第6章, 配付資料による本時の予習と復習	
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程, 動機づけ理論	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ, その他の視点, 意欲の発達	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲, 意欲を育む教育のあり方, 学習と評価	テキスト第2章・第3章, 配付資料による本時の予習と復習	
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係, 生徒-生徒の関係, 教師-教師の関係, 集団としての学級	テキスト第0章2・第10章, 配付資料による本時の予習と復習	
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI, 学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2, 配付資料による本時の予習と復習	

実務経験	
関連科目	教職課程におけるすべての科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論, 理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 7号館3階 (吉田研究室)

備考	<ul style="list-style-type: none">・授業内で, moodle を使用することがあります。利用できるようにしておいてください。・期末試験は希望者に返却します。・事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。
----	---

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>特別活動の指導法については、学校における様々な構成での集団活動を通して、自ら課題を発見し、協力協働して解決を行うことで、よりよい集団づくり、生活づくりや人間関係づくりをめざすという特別活動の意義、目標及び内容を理解し、学校教育活動の中での特別活動への要請を踏まえた、指導に必要な知識や素養を身に付けるようにする。</p> <p>子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについても理解を深めるようにする。</p> <p>「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生の背景を踏まえた対応の視点・方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流や意見交換をする。</p> <p>総合的な学習の時間の指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。</p> <p>公立高校教員として34年間にわたり、学級担任、生徒会指導主担者、総合的な学習の時間企画主担者等を分掌した経験に基づいた、学校現場で役立つ実践的な授業を行う。</p>
到達目標	<p>教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連性、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。</p> <p>特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。</p> <p>合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。</p> <p>総合的な学習の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解</p>
授業方法と留意点	<p>講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。</p>
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。
2	特別活動の目標・内容・方法ワーク①「キャラ」をめぐって (ソロワークと意見交換)	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
3	学級活動・ホームルーム活動①ワーク②大学に入って (ソロワークと意見交換)	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
4	学級活動・ホームルーム活動②ワーク③学級活動の思い出 (ソロワークと意見交換)	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直	特別活動テキスト第3章第1節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
5	生徒会活動・児童会活動、学級行事ワーク④学校行事の思い出 (ソロワークと意見交換)	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点	特別活動テキスト第3章第2・3節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
6	体験活動の意義ワーク⑤「14歳の頃」「17歳の頃」 (ソロワークと意見交換、グループワークの班分け、顔合わせ)	特別活動・総合的な学習の時間における体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験を通じた学びの重要性と計画的な指導の重要性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
7	特別活動の歴史・領域・方法ワーク⑥いじめ (1) (グループ討議・発表)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
8	特別活動と学級経営ワーク⑦不登校 (グループ討議・発表)	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
9	特別活動と生徒指導ワーク⑧暴力 (即興劇・交流)	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
10	特別活動の指導計画と評価ワーク⑨外国にルーツのある子ども (グループ討議・発表)	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成、評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用	特別活動テキスト第4章第1・2・5節を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
11	特別活動と総合的な学習の時間ワーク⑩進路指導・キャリア教育 (即興劇・交流)	特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点、教育課程上の関連性	配布プリントを事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
12	総合的な学習の時間の目標・内容・方法ワーク⑪インクルーシブ教育 (グループ討議・発表)	総合的な学習の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
13	総合的な学習の時間の学習指導ワーク⑫ジェンダー・LGBT (即興劇・発表)	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章を事前に読んでおく。講義資料を参考に復習をする。	
14	総合的な学習の時間の指導	全体計画、年間計画、単元計画の作成、	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章を事前	

		計 画 と 評 価 ワーク⑬いじめ(2)〈グループ討議・発表〉	生徒の学習状況の評価	に読んでおく。講義資料を参考に復習する。																
	15	補足とまとめ 補足を行うとともに全学習 事項について再度振り返り 整理する。	特別活動の指導の配慮事項及び担当す る教師、国旗・国歌の取扱い 総合的な学習の時間の体制づくり	特別活動のテキスト第4章第2・3・4節、総合的な学 習の時間のテキスト第9章を事前に読んでおく。講 義資料を参考に復習する。																
実務経験																				
関連科目	すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるともに、教育方法論、生徒指導論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中学校学習指導要領解説 特別活動編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房	2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省	東山書房																	
2	中学校学習指導要領 総合的な学習の時間編	文部科学省	東山書房																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
授業形態	Teams「オンライン型」																			
Teams コード	i92crs8																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	定期試験(50%)、中間レポート(30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況(20%)を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自己史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。																			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。																			
担当者の 研究室等	7号館3F 林研究室																			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		その他 SPI や玉手箱関連の問題集	
2				
3				

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	オリジナル教材を使用します。また適宜 Smart SPI の活用を指示します。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	その他 SPI や玉手箱関連の問題集		
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣・寺内 睦博
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	61cqvnr
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火2) sjt2
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teamsコード	v7t5tc3
Moodleコース名および登録キー	就職実践基礎(後期火4) sjt4
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法(基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	社会人となつてから必要となる基礎学力を総合的に学習します。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のもので、大学時代から取り組むことが重要です。この授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学習していきます。特に、日常生活・仕事での活用頻度が多い数的能力の開発をメインに取り組みます。講師は金融業界・教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達していること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	Teamsは連絡用に使い、講義では主にMoodleで行います。毎回のプリントを解いていくことで実力を養成しますが、解説動画を用意します。Input量が多く実践形式になるので、予習・復習が大切になります。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力・一般常識を獲得する

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的意義の確認・実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	方程式の活用	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	数的思考②	割合の活用①	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	数的思考③	割合の活用②	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
5	数的思考④	割合の活用③	割合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	中テスト①・数的思考⑤	中テスト①・分数の活用	2~5回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
7	数的思考⑥	速度の考え方①	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	数的思考⑦	速度の考え方②	速度算を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
9	数的思考⑧	場合の数と確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	数的思考⑨	集合の概念	集合を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	中テスト②・資料解釈	中テスト②・表の読み取り	6~9回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2時間)
12	論理推論①	順序推理	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
13	論理推論②	内訳・表・位置	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	論理推論③	その他論理推論	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

実務経験	
関連科目	コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Moodle
Teams コード	7zblcpo
Moodle コース名 および登録キー	就職実践基礎 (後期火5) sjt5
連絡手段	Teamsに「連絡・相談」という項目を設けます
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:
評価方法 (基準)	小テスト...30点、Smart SPI...15点、中間テスト...15点、最終試験...40点
学生への メッセージ	数的能力を社会で活かすことをできるようにしてもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター
備考	

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浅野 浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本授業で提供する「金融知力 (リテラシー)」とは、経済・金融に関する知識や情報を正しく理解し、自らが主体的に判断できる能力のことであり、社会人として経済的に自立し、より良い暮らしを送っていくうえで欠かせない生活スキルです。</p> <p>講師が、証券業界に長く勤務した経験を生かして、経済・金融の動向、金融商品の基本的な仕組みや特性、リスクマネジメント、金融資産の形成・運用方法について、実例となる日常のニュースを理解しながら、すでに学んでいる知識と融合させて具体的かつ現実にも則した「金融知力 (リテラシー)」の習得を目指します。</p> <p>サブテーマとして、ESG・SDG's 等近年注目されているテーマについても、随時授業に取り入れます。</p>
到達目標	<p>経済・金融の仕組みやさまざまな金融商品の性格・特性を理解し、ライフステージのさまざまな局面での金融資産形成における的確な判断や行動に結びつく「金融知力 (リテラシー)」を習得することで、将来の自らの資産形成に的確な判断ができる一助になる事を目標にします。</p> <p>また証券系の研究機関として蓄積した企業評価、市場分析の手法を学び、投資のみならず、就職活動における企業選択にも役立てることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持つよう授業に出席すること。 ・教科書と配布レジュメをよく読んで復習を行い、理解を進めていくこと。 ・レポート課題等の提出物は要提出、提出期限を厳守してください。 ・株式シミュレーションゲームを行う予定ですが、評価の対象とはしません。 ・毎回レジュメを配布し・時事問題についても解説します
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解できる可能性があります。</p> <p>企業経営者の考え方が理解できる可能性があります。</p> <p>中長期の経済トレンドを自ら予測し活動できる可能性があります。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	金融知力リテラシー習得の必要性	科学技術のイノベーションとグローバル化の急速な進展、結果として、様々な市場の変化により、学生諸君を取り巻く環境の変化を紹介し、自らのライフプランの中で「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性を解説します。	少子高齢化問題・財政赤字に関する報道内容の整理確認
2	金融・経済の仕組み①	資産形成の前提となる経済の基礎的条件 (ファンダメンタルズ) の知識を2回にわたって解説します。	経済用語等を理解し、経済記事を読みこなす様習慣を持つ	
3	金融・経済の仕組み②	金利や金融政策など経済と金融のかかわり、世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	金融政策全般の再確認	
4	ライフプランニング①	ライフプランとは生涯生活設計といった意味で、自分と家族の生活プラン、暮らし方を表します。ライフデザインを描き、ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる	
5	ライフプランニング② キャッシュフロー表の作成	人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します	自分の大学卒業までの学費、大学生の間の生活費について、自身で計算する	
6	貯蓄型商品	預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	金融機関の業態の理解に努める	
7	リスクとリターンとは	投資は利益 (リターン) をあげることを目的とする行為ですが、その利益は将来回収されるものであり、現時点では必ずしも確定していません。そのためにいろいろな可能性、逆にいえば不確実性があるということになります。「リスク」とはこの不確実性のことをいいます。リスクとリターンの関係、リスクマネジメントについて解説します。	自身の人生設計、今後就職される会社にもリスクリターンの考え方は通じる。派生的に考えてみる	
8	アセットクラス※の基礎知識 / 株式 (1) (ESG投資への展開含む)	上場、株式投資の魅力とリスク、取引の仕組みなどについて解説します。 ※アセットクラス: 資産クラス、資産の種類のこと	媒体でのESG投資に関する記事を確認 株式の模擬売買を経験する	
9	アセットクラスの基礎知識 / 株式 (2)	マーケット・企業分析株価は、会社の業績のほか、景気、為替相場、金利、需給関係、政治、国際情勢、天候等さまざまな要因によって日々、変動しています。企業の株価や経営効率を判断する投資指標、株価水準の割安・割高を判断する分析手法等について解説し、実際の株式投資や企業分析に役立つ手法を解説します。	企業の開示資料への理解を深める	
10	アセットクラスの基礎知識 / 債券 (1) (SDG's含む)	債券とは、国をはじめ、地方公共団体、政府関係機関、事業会社などが広く一般の投資者から、まとまった資金を調達することを目的として発行される証書で	財務省のHPで20年度予算の概要を確認	

			す。債券の種類・特徴とリスク、“格付け”について学びます。	
	11	アセットクラスの基礎知識 ／債券（２）－金利と債券	前回に引き続き、債券投資の理解を深めます。債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してください。	債券の発行市場・流通市場への理解を深める
	12	アセットクラスの基礎知識 ／投資信託	投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	銀行・証券の投資信託販売手法に批判存在。整理確認
	13	アセットクラスの基礎知識 ／外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品	外貨建て商品・証券化商品・ 外国為替取引・外貨建て商品・証券化商品の解説します。	日々の為替の推移、変動要因をチェック
	14	ファイナンシャルプランニング、セーフティネット	これまで学んでいた「金融知力（リテラシー）」を総括して解説します。あわせて、金融資産の形成に欠かせないコストや優遇税制制度、預金保険制度などについて解説します。	自身の今後の人生での最優先課題、夢を今一度考えてみる
	15	試験	試験時間60分。記述式、複数回答からの選択式の併用。全14回授業のレジュメから出題。※なお、試験は電卓以外持ち込み不可。	30分程度試験のポイント解説予定
実務経験				
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	星雲社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Web Folder			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	日興リサーチセンター宛てメール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	理解度等を総合的に評価します。 ・レポート：100%（レポート内容は今後確定）			
学生への メッセージ	実務経験をベースとたし、マーケットメカニズムを、お伝えできればと考えています。半年の授業に是非お付き合いください。 授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	11号館1階（教務課）			
備考	質問等は、遠隔授業を前提とし、下記メールで受け付けますが、一定の期間を要する場合があります asano_hiroshi3@nrc.nikko.co.jp この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	遠隔授業になります。 テキストを準備して下さい。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
8	マーケティングの歴史的研究所と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究所と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間 1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間 1時間)

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化―三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷―	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

授業形態	
Teams コード	
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	毎回の遠隔授業で課される課題の合計で評価します (100%)。
学生への メッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましょう。
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	チームビルディング	科目名 (英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2回生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。なお、講義は担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]</p>
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。土曜日に集中講義で開講する。
科目学習の効果 (資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	9月19日 オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 なぜチームが必要なかを知る チームビルディングとは何か を理解する 	事前学習：本科目のシラバスを精読すること。(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
2	9月19日 グループ分けを自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け 自己紹介ワーク 	事後学修：チームにどのように貢献できるかを考える。(1時間)
3	9月19日 チームビルディングの理論を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> チームビルディングの理論を学ぶ 	事後学修：講義資料を熟読する(1時間)
4	10月3日 チームビルディング体験①	<ul style="list-style-type: none"> コンセンサスゲーム チームの10箇条 	事後学習：自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1時間)
5	10月3日 チームビルディング体験②	<ul style="list-style-type: none"> チームで推理クロスに挑む 	事後学修：自身のチームへの貢献の内容を振り返る(1.5時間)
6	10月3日 チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける
7	10月24日 話し合う技術①	<ul style="list-style-type: none"> GDに関する知識を学ぶ 	事後学修：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
8	10月24日 話し合う技術②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	事後学習：講義で身につけた知識を日常生活で試してみる(1.5時間)
9	10月24日 組織で学習するためのチームづくり	<ul style="list-style-type: none"> チームを機能させるために必要な要素を学ぶ 	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
10	11月7日 情報の読み取りと活用	<ul style="list-style-type: none"> チームで改善計画を考える 	事後学習：講義資料を熟読すること(1.5時間)
11	11月7日 チームで課題解決に挑む	<ul style="list-style-type: none"> チームでニッポンの課題の解決策を考える 	事前学修：チームにどのように貢献できるかを考えること(1時間) 事後学修：講義で配付された資料を見直すこと(1時間)
12	11月7日 チームで企画する	<ul style="list-style-type: none"> チームで学生提案のPBLプロジェクトを企画する 	事後学修：チームでの話し合いを振り返ること(1.5時間)
13	11月21日 チームでワークに取り組む①	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	事後学修：チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
14	11月21日 チームでワークに取り組む②	<ul style="list-style-type: none"> チームで地域創生のワークに取り組む 	事後学修：チームで発表をする準備をすること(1時間) 事後学修：自チームの発表内容、及び他チームの発表を振り返ること(2時間)
15	講義のまとめと振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 講義のおさらいと振り返りを行う 	事前学修提出物などの出し忘れがないか確認する。(1.5時間) 事後学修：講義全体を振り返ること。(1時間)

実務経験	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目 キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、個別課題 10%、最終レポート 40% で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。			
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野研究室）			
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。			

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間 で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部[A]，理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪ーひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪ー街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺ー高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪ー子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パ	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

			スワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	
	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
実務経験				
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の確認ペーパーの正解の提示や、そこに書かれた意見の紹介はポータルサイトを通じて行う。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名 (英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知る。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことをわかる。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティマネジメントをジェンダー視点で俯瞰する。 <p>容認することが期待される。</p> <p>なお、講義は担当講師の民間企業社員、自治体職員として業務経験及び、NPO 法人の理事、高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	<ul style="list-style-type: none"> ・ウチとソトの感覚 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について考えること (2時間) ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成すること (2時間) 	
3	ジェンダー視点	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめること (2時間) 	
4	日本の近代化	<ul style="list-style-type: none"> ・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性たちに関するプレゼンテーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成すること (2時間) 	
5	国際統計比較	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップ ・ジェンダーエンパワーメント指数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間) 	
6	性役割の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階における「刷り込み」 ・DV/デートDV ・結婚と母性信仰 ・妊娠と出生前診断 ・優生保護法と母体保護法 ・「親になること」と「親であること」の相違 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: 中間発表用レポート作成 (2時間) 	
7	中間発表	<ul style="list-style-type: none"> ・興味のあるテーマに関して、個人発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 中間発表準備 (2時間) ・事後学修: 中間発表レポート手直し (2時間) 	
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	<ul style="list-style-type: none"> ・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成 ・格差と二極分化 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間) 	
9	男女共同参画社会とワークライフバランス	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーマネジメント ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べること (2時間) ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成すること (2時間) 	
10	中間プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・各自決めたテーマに関して調査考察した結果を発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 調査考察し、発表準備をすること (2時間) ・事後学修: 議論した結果などを加筆し、最終プレゼンに向けて練習すること (2時間) 	
11	アサーティブネス理論①	<ul style="list-style-type: none"> ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブに話す練習をすること (2時間) 	
12	アサーティブネス理論②	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによ 	

				自身の変化についてレポートを作成すること（2時間）																
	13	ダイバーシティマネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修：企業が必ず取り入れているダイバーシティマネジメントについて、事例研究すること（2時間） ・事後学修：興味のある企業のダイバーシティマネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成すること（2時間）																
	14	ダイバーシティマネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） ・事後学修：事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）																
	15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修：ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめること（2時間） ・事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）																
実務経験																				
関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>共に学ぶ女性学</td> <td>石井三恵</td> <td>泉文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ジェンダーで学ぶ社会学</td> <td>伊藤公男</td> <td>世界思想社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>よくわかるジェンダー・スタディーズ</td> <td>木村 涼子 他</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>性と法律</td> <td>角田 由紀子</td> <td>岩波新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社																	
2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房																	
3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書																	
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																			
Teams コード	800myjf																			
Moodle コース名 および登録キー																				
連絡手段	学内メール																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																			
評価方法 (基準)	ロールプレイ（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。																			
担当者の 研究室等	7号館5階 教育イノベーションセンター（石井）																			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。																			

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名 (英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。</p> <p>・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害（マルチ商法）、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりが無い。</p> <p>・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。</p> <p>・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。</p> <p>・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。</p> <p>・法的知識は、時代を生き抜く上で一種の「転ばぬ先の杖」（教養）でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。</p>
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 「「被害者」概念について説明できる 「犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できる 「犯罪被害者の支援制度について理解できる」 <p>ようになることが期待される。</p>
授業方法と留意点	<p>・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答をミニッツペーパーを通じて行う。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。</p> <p>・公務員や法律事務所などへの就職に役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の入手 事前：教科書第1章をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者」とは何かについてノートにまとめること（2時間）
2	少年犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と被害者救済 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「少年犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「少年犯罪からの被害者救済」についてノートにまとめること（2時間） 	
3	性犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・性犯罪被害特有の問題点 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「性犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「性犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
4	ドメスティックバイオレンス（DV）の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・DV被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「DV」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「DV被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
5	ストーカー犯罪の被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・ストーカーへの対抗手段 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「ストーカー犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「ストーカー被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
6	インターネット犯罪の被害者 刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット犯罪被害の特殊性 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「インターネット犯罪」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「インターネット犯罪被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
7	児童虐待の被害者救済	<ul style="list-style-type: none"> ・児童虐待の意義 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「児童虐待」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「児童虐待被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
8	触法精神障害者からの被害	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害者の加害行為と対処法 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第6章「触法精神障害者」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「触法精神障害者からの被害の特殊性」についてノートにまとめること（2時間） 	
9	犯罪被害救済総論①	<ul style="list-style-type: none"> ・被害届と告訴・告発の効果 ・加害者との示談交渉 ・マスコミ対策 ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第2章「刑事手続きの流れ」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「刑事手続きの流れ」についてノートにまとめること（2時間） 	
10	犯罪被害救済総論②	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴と参加 ・被害者による記録の閲覧と謄写 	<ul style="list-style-type: none"> 事前：教科書第3章「被害者参加制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 	

			<ul style="list-style-type: none"> 被害者における心情陳述 被害者等特定事項の非公開 遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事後：「被害者参加制度」についてノートにまとめること（2時間）
	11	犯罪被害救済総論③	<ul style="list-style-type: none"> 損害賠償命令制度 	事前：教科書第4章「損害賠償命令制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「損害賠償命令制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	12	犯罪被害救済総論④	<ul style="list-style-type: none"> 被害回復給付金制度 	事前：教科書第4章「被害回復給付金制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「被害回復給付金制度の長所と短所」についてノートにまとめること（2時間）
	13	犯罪被害救済総論⑤	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪被害者等給付金支給制度 	事前：教科書第7章「犯罪被害者等給付金支給制度」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「犯罪被害者等給付金支給制度」についてノートにまとめること（2時間）
	14	犯罪被害救済総論⑥	<ul style="list-style-type: none"> 加害者情報へのアクセス 法テラス 	事前：教科書第7章「法テラス」をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：「法テラス」についてノートにまとめること（2時間）
	15	重要事項のまとめと確認テスト	重要事項のまとめ	事前：教科書で取り扱った箇所をあらかじめ読むこと（2時間） 事後：重要事項についてノートにまとめること（2時間）
実務経験				
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	補訂版 犯罪被害者支援実務ハンドブック	第一東京弁護士会犯罪被害者に関する委員会	東京法令出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」			
Teams コード	wol2lfc			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	・Microsoft社 teams を活用し、課題提出とその内容を評価して行う（100%）。			
学生へのメッセージ	・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。			
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室			
備考	講義の理解を試すミニツペーパーに対するコメントは次回講義の冒頭で行う。			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明, 向井 歩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的
 ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
 また、企業で商品開発等に20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かして生体物質の実用化に関する教育も行う（第1回）。

到達目標
 教養としてのライフサイエンスの基礎知識の理解

授業方法と留意点
 配布資料に沿って、教材・課題提供型授業を行う。

科目学習の効果 (資格)
 生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学 (西矢)	授業の進め方を説明する。 微生物や酵素に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	糖質生化学 (大橋)	糖質にまつわる基礎知識・キーワード・最新トピックについて、生化学的な見地から解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
3	細胞生命生理学 (宮崎)	生物がいかんして環境に適応する仕組み (ホメオスタシス) を獲得し、進化してきたのかについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
4	分子生物学 (川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学 (青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学 (長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
7	細胞機能学 (船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
8	環境毒理学 (木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学 (中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
10	共生機能材料学 (松尾)	タンパク質に対する水の必要性とその機能について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学 (西村)	多くの生命現象は「現在 (いま)」を生きるためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学 (井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学 (居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	動物生理学 (向井)	生物が環境の変化に適応するしくみについて、昆虫を題材として解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
15	生体分子機能学 (尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。

実務経験

関連科目
 生物学概論、物理科学、生物無機化学、生物統計学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名
 および登録キー

連絡手段

メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	課題レポートまたは確認小テスト 100%
学生への メッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
担当者の 研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全教員)
備考	欠席・遅刻などの扱いは理工学部の規定に従って処理する(80%以上の出席が必要)。 事後学習に要する総時間の目安は15時間

科目名	ビジネスマナー	科目名 (英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。 ホテル実務経験者として、対人技能やコミュニケーションスキルの重要性を伝え、また経営士としての観点から人間関係について話をします。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	「遠隔授業 (教材・課題提供型授業)」にて実施する。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	オリエンテーションーあいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。	
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。	
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCA について調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。	
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。	
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。	
6	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2H から 6W3H へ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。	
7	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客応対プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。	
8	ハウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。	
9	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書始める前にをする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。	
10	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。	
11	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。	
12	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。	
13	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。	
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。	
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。	
実務経験				
関連科目	キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」//Web Folder			
Teams コード	w3uk3fb			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、期末試験(50%)を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	現代ビジネス論	科目名 (英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。 両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本的経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本的経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向 (interactive) の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果 (資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	現在のビジネス環境及びリーダーの重要性	オペレーションの国際化とマネジメントの国際化の違いを説明しリーダーの役割を述べる。ビジネスマンの職場職場の現実の雰囲気を知る。働くとは何かをを考える。	日本企業の戦後の海外展開の歴史や現状を調べてみよう。
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(1~5回までのレポート提出)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業 NUMMI がなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。	日本人は自己主張をしないと云われいます。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
10	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成のモデルの紹介・提案 (6~10回までのレポート提出)	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
11	自分はどういうビジネスリーダーになるか	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。二人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例1 二宮尊徳	成長・働く・奉仕 (奉公) を実践	第11回参照
13	事例2 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	第11回参照
14	事例3 藤沢武夫	No2の役割とは何か。	第11回参照
15	企業不正	誰も教えてくれない。あなた達が必ず直面する。どう対処すればよいのか	
16	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がったことを総括する。	

実務経験	
関連科目	

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社

	2	マネジメント入門	スティーブン P. ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	6y3a3rw			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メールを使用			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	第5回時のレポート(25%)、第10回時のレポート(25%)、定期試験(50%)			
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。			
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。そのような隣国に関して、大きな歴史の流れを検討し、近現代の韓国社会における変化を長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	この講義を通じて、韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国近現代史を概観できるようになる。 ・「解放」前後における朝鮮半島の政治状況について理解する。 ・「民主化」前後における韓国の政治状況について理解する。
授業方法と留意点	韓国近現代史の基礎を踏まえた上で、関連する映画作品を鑑賞し、それらの解説なども交えながら講義を進める。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・本授業は、教科書とMoodleを利用して授業を進めます。 ・授業の一環としての映画鑑賞は、各自で動画配信サービス等を利用して行なうものとします。 (詳細については、Moodle および配布レジュメにおいて説明します。)
科目学習の効果 (資格)	韓国近現代史および現代韓国社会に関する基礎的な理解

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	近現代韓国の基礎知識 (1)	韓国近現代史概説: 1945年以前と以後	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
3	近現代韓国の基礎知識 (2)	韓国近現代史概説: 軍事政権の時代と民主化後の時代	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
4	映画作品に見る「韓国現代史」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
5	映画作品に見る「韓国現代史」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
6	近現代韓国社会への理解 (1)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
7	近現代韓国社会への理解 (2)	解放・建国に始まる韓国現代史概説	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
8	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
9	映画作品に見る「韓国現代史における政治と人々」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
10	近現代韓国社会への理解 (3)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
11	近現代韓国社会への理解 (4)	民主化と、民主化以後の現代韓国	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
12	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(前編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
13	映画作品に見る「民主化と、民主化以後の現代韓国」(後編)	関連する映画作品の鑑賞と解説	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
14	現代韓国に向き合う (1)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)	
15	現代韓国に向き合う (2)	韓国現代史と現代韓国社会	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分)	

				[事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国現代史	木村幹	中公新書
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	提出レポートに基づく評価を行なう。(100%) 詳細については授業内で指示する。 【遠隔授業の実施にともなう変更点】 ・提出レポートについては、授業内で課される小レポートと最終レポートを併せて総合評価を行なうものとします。 (ともにMoodleを通じて提出することになります。)			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	7号館4階 田中研究室			
備考	授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子・横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGsを実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1)世界の目標SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。 (2)時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3)問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4)チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標SDGsを学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通してSDGsの理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)協働学習による学び、QFT(問い作り)で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果(資格)	社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGsカードゲーム 振り返りシート	事後:SDGsを調べる (Moodleに資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どのSDGsが気になりましたか?)
2	SDGsを学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs前文仮訳ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:SDGsを1分で話せるようにまとめる 事後:今日の学びまとめ	
3	SDGs目標1?10を学ぶ	理解度確認テスト(目標1-10) SDGs目標1-10ABDサマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標1-10の予習 事後:今日の学びまとめ	
4	SDGs目標11?17を学ぶ	理解度確認テスト(目標11-17) SDGs目標11-17ABDサマリ作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標11-17の予習 事後:今日の学びまとめ	
5	SDGsの問い作り	理解度確認テスト(SDGs復習) システム思考ミニ講義 SDGs目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前:目標すべての復習 事後:今日の学びまとめ	
6	SDGsのポスターづくり	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前:新聞づくりの調査 事後:今日の学びまとめ	
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前:新聞づくりの追加調査 事後:振り返りレポート	
8	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第1章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第1章の予習 事後:今日の学びまとめ	
9	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第2章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第2章の予習 事後:今日の学びまとめ	
10	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第3章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第3章の予習 事後:今日の学びまとめ	
11	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第4章ABD リレープレゼン 対話	事前:第4章の予習 事後:今日の学びまとめ	

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・資料ファイリング (個人5%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからなる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大塚 正人・原 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目です。昨年からの教養入門、実践のステップアップの講座としての位置づけです。本科目の目的は、SDGsを実現する。そして、今後の大学での学びにおいても社会との接点を考えながら学ぶ姿勢を習得します。大学生として必要な、SDGs(2030年までの世界の目標)などを中心とした教養(社会、経済、環境等)を身につけ、その知識をもとに考え、自分の考えを持ち、討議ができることを目的とします。
到達目標	(1)世界の目標SDGs(2030年までの世界の目標)について知り、討議することができる。 (2)時事ニュースやコラムから教養を身につけ、討議することができる。 (3)問い作りをすることで、探求テーマを自ら立てることができる。 (4)チームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	この授業では、世界の目標SDGsを学び、世界の課題を学びます。チームごとにテーマを決めて学びを深め、討議をします。この授業を通し自ら主体的に、仲間と対話を通してSDGsの理解を深め、最終的には自らの行動計画につなげてゆきます。学修法としては、ABD(アクティブ・ブック・ダイアログ)協働学習による学び、QFT(問い作り)で探求のテーマ設定をします。この科目では、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習に取り組むことにより、人間関係、チームワーク、リーダーシップ、ものごとに対する柔軟な
科目学習の効果(資格)	社会課題を議論するための教養としてSDGs(2030年までの世界の目標)を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。多様なメンバーと意見を交わしながらシナリオを作成することで、違いを活かし合い新しいものを共創する力を育むことができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る SDGsカードゲーム 振り返りシート	事後:SDGsを調べる (Moodleに資料を載せ、読んでもらう。アンケート使用、どのSDGsが気になりましたか?)
2	SDGsを学ぶ 前文仮訳	理解度確認テスト SDGs前文仮訳ABD リレープレゼン ジグソーまとめ方確認 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:SDGsを1分で話せるようにまとめる 事後:今日の学びまとめ	
3	SDGs目標1?10を学ぶ	理解度確認テスト(目標1-10) SDGs目標1-10ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標1-10の予習 事後:今日の学びまとめ	
4	SDGs目標11?17を学ぶ	理解度確認テスト(目標11-17) SDGs目標11-17ABDサマリー作成 リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:目標11-17の予習 事後:今日の学びまとめ	
5	SDGsの問い作り	理解度確認テスト(SDGs復習) システム思考ミニ講義 SDGs目標で問いづくり 役割分担 振り返りシート	事前:目標すべての復習 事後:今日の学びまとめ	
6	SDGsのポスターづくり	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり+フィードバック プレゼンテーションミニ講義 発表、フィードバック 振り返りシート	事前:新聞づくりの調査 事後:今日の学びまとめ	
7	ポスターづくりと発表、グループ振り返り	理解度確認テスト(SDGs復習) 新聞づくり 全体発表+フィードバック これまでのグループワークの振り返り	事前:新聞づくりの追加調査 事後:振り返りレポート	
8	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第1章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第1章の予習 事後:今日の学びまとめ	
9	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第2章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第2章の予習 事後:今日の学びまとめ	
10	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第3章ABD リレープレゼン 対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前:第3章の予習 事後:今日の学びまとめ	
11	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 第4章ABD リレープレゼン 対話	事前:第4章の予習 事後:今日の学びまとめ	

			理解度確認テスト、振り返りシート	
	12	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	理解度確認テスト 問い作り テーマ設定 役割分担 振り返りシート	事前：日本のSDGsについて調べる (ジェンダー平等、貧困、テクノロジー) 事後：今日のまとめ
	13	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり	理解度確認テスト 日本地図帳づくり 中間発表、フィードバック 役割分担 振り返りシート	事前：2030年の新聞づくりの調査 事後：今日のまとめ
	14	摂南大学オリジナル 2030年新聞づくり、発表	最終プレゼン、その世界を実現するには、自分たちにできることは何か？ ワールドカフェ 振り返り	事前：新聞づくりの調査、最終発表準備 事後：振り返りレポート
	15	全体振り返り	全体を通しての学びの整理、共有、 振り返り、今後の行動目標づくり	グループワークの進め方のポイントを 押さえた振り返り
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs、未来への展望	落合陽一	SBクリエイティブ
	2	SDGs アジェンダ前文		国連
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：30%) ・ポスター、新聞づくり/発表 (チーム：25%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・資料ファイリング (個人5%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	大塚正人 (薬学部1号館5F)、伊藤諱 (1号館3F)、原由紀子 (非常勤講師室)			
備考	バインダーを用意し、資料を管理します。この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践Ⅰからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を修得することを期待しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。			

科目名	株式投資と起業家育成	科目名 (英文)	Investment & Entrepreneurship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>『「投資」とは何か』、個人投資に必要な基本的な金融・経済知識と投資手法について学び、シミュレーションによる資産運用演習を体験します。更に、投資対象として注目度が高い新興企業（ベンチャー企業）について、新規事業の着想から、ビジネスモデルの構築、そして実際の起業に至るまでの諸課題や起業の実際、事業の維持・継続と発展に不可欠な諸要素について学びます。</p> <p>【SDGs-4】（質の高い教育をみんなに）</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①ベンチャー投資財団（企業投資業務担当） ②監査法人（株式上場コンサルティング担当）</p>
到達目標	<p>将来、就職してからの確定拠出型年金制度への対応として、各種投資金融商品の特徴と運用リスク、リターンに対する税務処理を習得し、個人投資家の育成を目指します。</p> <p>また、将来の選択肢として自身のアイデアをビジネスに転換するための知恵を習得する起業家育成を目指します。</p>
授業方法と留意点	<p>毎回、当該授業内容に関するキーワードを記載した「講義メモ」と付属資料を配付します。</p> <p>「講義メモ」のキーワードについては、授業後の復習として活用してください。</p> <p>またスライドで説明した内容について、自身で「講義メモ」に必要な点のみを記載する、効率的で効果的なノートの取り方を身に付けてください（板書の習慣を変えてください）。</p> <p>毎回、講義内容に関する質問（アンケート表）を配布します。講義終了時に提出してもらいます。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>自身の将来に向けた資産形成に必要な基本的ノウハウの習得</p> <p>学生時代に自身のアイデアをビジネスに活かす挑戦意欲の醸成と将来の就くべき職業の選択肢を増やす（視野を広げる）</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講座ガイダンス 個人投資とは？ 起業家とは？	講座ガイダンス（勉強方法・評価方法） 投資を学ぶ理由（確定拠出型年金制度への対応、老後の資金需要への対応） 起業家教育を受ける理由	<事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）
2	経済、財政の基本知識と投資との関係	投資のために必要とされる消費生活における経済動向 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
3	家計と国の財政動向による投資環境への影響	雇用と所得、財政の役割 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
4	海外の動向による影響と経済指標との関係	景気動向指数、為替動向による投資環境への影響と対応 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
5	株式市場の役割と株式価値	株式市場、発行市場、流通市場による株式の役割と価値 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習（1時間）	
6	銘柄選択の考え方と投資シミュレーションの説明	投資情報に基づく株価評価の考え方と投資シミュレーション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
7	債券市場の役割と投資の考え方	債券の基礎情報と債券投資の仕組み。金利の決定方法。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
8	株式市況先読みの捉え方	株式投資の基本的分析手法と投資テクニック 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
9	チャート分析と銘柄選定の考え方	株価下降局面、景気低迷期における投資リスクヘッジの考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
10	投資信託の仕組み	グローバル投信を含む投資信託商品選定の考え方 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）	
11	外貨預金・FX・金投資の仕組みと投資の考え方	外貨預金・FX・金投資の魅力とリスク判定 配布資料の「講義メモ」のキーワードに	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることに	

			基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	よる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	12	企業組織と市場市場	ベンチャー企業組織組成の考え方と株式公開の意義。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	13	事業構想におけるドメイン設定の考え方	起業準備としての事業構想の立て方と事例によるディスカッション 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	14	経営機能構造の設計と税務	ビジネスモデル設計の考え方と会社設立および税務手続き。 配布資料の「講義メモ」のキーワードに基づく授業聴講でのポイントをメモ。 設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業内容についてネットや新聞等を活用した用語等の習得（30分）。 <事後>授業で学んだキーワードを調べることによる再認識と事例等の検索学習、投資シミュレーション開始（各自）（1時間）
	15	投資シミュレーション結果検証	各自投資シミュレーションの結果報告と銘柄変動の要因についてのディスカッション。	<事後>投資シミュレーション結果と分析の再確認（30分）
実務経験				
関連科目	ベンチャービジネス論、経営管理論、ビジネスプランニング（演習）			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	①毎回のアンケート内の〔設問1〕に対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習として設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。またアンケート内の〔設問2〕（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。 ②最終課題レポート（評価割合：50%） 投資手法および銘柄選定（経済指標分析）に関する知			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ■「投資」はギャンブルではありません。将来の資産形成のための金融手段です。 ■「儲かる／儲からない」を競うものでもありません。 ■法令を遵守した投資スタンスが必要です。 ■投資は、あくまでも自己責任で行うものです。 この点を理解できる学生は参加してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	実際の株式銘柄の動きを反映した「投資シミュレーション」を行う予定です。			

科目名	AI ビジネス創造実習	科目名 (英文)	Practicum in Business Creation by Using AI
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塚田 義典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, P科: YT01423a2～YT01427a2, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1, N科: NT01350a1～NT01354a1		

授業概要・目的
近年、情報処理基盤の社会浸透、人工知能 (AI) や IoT 等の最先端技術のオープン化に伴い、既存のビジネスモデルが大きく変化すると言われています。本講義では、学生の自由な発想のもと、一人ひとりが独自の AI を作ることで、AI とは何か、AI にできること、AI では難しいことを理解します。そして、作成した AI を持ち寄り、新しいビジネスプランを考えるグループワークを通して、事業創造に必要な企画・構想力を身に着けます。

到達目標
(1) AI の基本原理を理解し、AI を活用した既存サービスに関する知識を深めること
(2) AI の作り方を知り、独自の AI を作れること
(3) AI を活用したビジネスプランを提案し、グループディスカッションにより洗練させた上でプレゼンテーションできること

授業方法と留意点
本年度は、Microsoft Teams を使用した資料配信型授業とする。
授業資料 (PDF) は、各回の授業日までに Microsoft Teams の AI ビジネス創造実習クラスにアップロードする。
毎回の授業でテーマに関する演習課題を課す。提出期限が設定されているため、毎週必ず取り組むこと。
なお、授業計画 15 回分の内容を 11 回で実施するため、予習・復習に努めること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、AI の構築環境の準備	シラバスの確認、配布資料の指定頁の予復習
2	AI の基本原理と最新動向 (1)	AI の歴史、AI の仕組み、最新動向	配布資料の指定頁の予復習
3	AI の基本原理と最新動向 (2)	最新動向の調査、アイデア出し	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
4	AI を作るための準備 (1)	データ収集、ツールの使用方法、データ変換、データの意味付け	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
5	AI を作るための準備 (2)	データの整備	データの整備、授業内容の見直し
6	AI の作り方	CNN を用いた画像認識 AI モデルの構築方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
7	AI の使い方	画像認識 AI モデルを用いた画像の認識方法	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
8	AI の評価方法	画像認識 AI モデルの評価、再学習	配布資料の指定頁の予復習、授業内容の見直し
9	AI によるビジネスプランの考案	作成した AI の相互評価、グループ分け	学生が作成した AI の評価、ビジネスプランのアイデア出し
10	AI によるビジネスプランの考案 (2)	グループディスカッション、ビジネスプランの考え方、書き方	グループディスカッションのための市場調査、ビジネスプランの考案
11	AI によるビジネスプランの考案 (3)	ビジネスプランと AI の作成	ビジネスプランの文書作成、AI の作成
12	AI によるビジネスプランの考案 (4)	ビジネスプランの推敲、AI の作成	ビジネスプランの文書修正、AI の高精度化
13	AI によるビジネスプランの考案 (5)	ビジネスプランの推敲、AI の評価	ビジネスプランの文書修正、AI の評価
14	プレゼンテーション	グループによる発表、相互評価	授業内容の振り返り
15	総括	これまでのまとめ	授業内容の振り返り

実務経験

関連科目
情報リテラシーやプログラミングに関連する科目を履修済みであることが望ましい

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人工知能が変える仕事の未来	野村 直之	日本経済新聞
2	人工知能は人間を超えるか	松尾 豊	角川
3			

授業形態

Teams コード

Moodle コース名および登録キー

連絡手段

メールアドレス
メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。
メールアドレス:

評価方法 (基準)
成績は、演習課題の回答内容に基づき評価する。期限内に提出できなかった場合は、大幅な減点となる。

学生へのメッセージ
Society 5.0 時代は、高度な情報システムやデータ処理技術を「作る人」よりも、上手に「使う人」が重宝されるでしょう。だれもが、わずかな専門知識と大いなる熱意があれば、驚くようなプロダクトやソリューションを創造することができてしまう世の中になっています。この授業をとおして、そのことを実感してほしいと思います。

担当者の研究室等備考
11 号館 8 階 塚田講師室

科目名	社会福祉論	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本講義では、さまざまな要因から生きづらさを感じている人びとの暮らしをどのように支えていくかについて、社会福祉の制度や地域における支え合い、個人々の生き方など、多角的な視点から考えていきます。</p> <p>本講義を通じ、受講生は、社会に貢献できる能力として、社会福祉の知識だけではなく、これからの地域、社会の担い手に求められる技能、態度を身につけることが期待されます。</p> <p>SDGs-1, 3, 5, 10, 11, 17</p>
---------	---

到達目標	<p>①講義で取り扱うテーマを理解し、その概要について説明ができること</p> <p>?日本の社会福祉の特徴と概要について説明ができること</p> <p>③これからの地域、社会の担い手に求められる知識、技能、態度を身につけること</p>
------	--

授業方法と留意点	学生に対する積極的な問いかけ、講義中のディスカッション、グループワークを取り入れた講義を行います
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方について説明を行うとともに社会福祉の基本理念について理解を深めます	事後学修: 配布資料を熟読すること (2時間)
2	社会福祉の歴史①	諸外国における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
3	社会福祉の歴史②	日本における展開過程に焦点を当てながら社会福祉の歴史について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
4	社会福祉の実施主体	社会福祉の実施主体について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
5	社会保障の概観	社会保障の機能および種類を概観したのち、公的扶助と保険制度の内容について理解し、その役割について考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
6	高齢者福祉	高齢者を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに高齢者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
7	認知症と地域生活	認知症になっても地域で暮らしつづけるにはどうすればよいか、認知症にかんする基本的な知識を踏まえて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
8	障害者福祉	障害のある人びとを取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに障害者福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
9	子ども家庭福祉	子どもと家庭を取り巻く社会福祉の現状と課題について理解するとともに子ども家庭福祉のこれからのことについて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
10	地域福祉①	地域福祉の考え方と手法、キーワードを紹介し、地域福祉についての基礎的理解を目指します	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
11	地域福祉②	地域福祉の国内における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
12	地域福祉③	地域福祉の海外における実践事例を紹介し、具体的な展開方法について理解を深めます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
13	地域福祉④	地域が抱える課題とその解決法を模索する手法について、個人ワークを行います	事後学修: 提出した成果物の内容について振り返りを行うこと (2時間)	
14	社会福祉と大学生の役割	社会福祉を展開に対して大学生にどのような役割が期待されるかについて実践事例を通じて考えます	事前学習: テーマについて自分なりに考え、意見を整理すること (2時間) 事後学修: 配布資料を用いて振り返りを行うこと (2時間)	
15	講義のふりかえり	講義のふりかえりをおこない、これからの地域、社会の担い手に求められる知	事後学修: 講義の内容について振り返りを行うこと (4時間)	

			識、技能、態度についてあらためて考え ます	
実務経験				
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder			
Teams コード	eqjnral			
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	毎回のレポート50%、最終レポート50%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 久保 貞也, 佐井 英子, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む(1.5時間以上)	
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート1回目 事前学習: SDGsとは何かを調べる (3時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か調べる (1.5時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsとは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる (1.5時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート2回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む(2時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート3回目 (2時間以上)	
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート4回目 (2時間以上)	

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・振り返りレポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・ファイル管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>																
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 石井三恵 (7号館 5F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 久保貞也 (11号館 7F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スボ振), 古矢篤史 (7号館 4F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F), 羅鵬飛 (経済)																
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。																

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 久保 貞也, 古矢 篤史, 柳沢 学, 羅 鵬飛
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む(1.5時間以上)	
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート1回目 事前学習: SDGsとは何かを調べる (3時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か調べる (1.5時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsとは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる (1.5時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート2回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む(2時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート3回目 (2時間以上)	
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート4回目 (2時間以上)	

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・振り返りレポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・ファイル管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>																
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 石井三恵 (7号館 5F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 久保貞也 (11号館 7F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スボ振), 古矢篤史 (7号館 4F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F), 羅鵬飛 (経済)																
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。																

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙, 石井 三恵, 大塚 正人, 荻田 喜代一, 寺本 俊太郎, 松島 裕一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1, N科: NKY1349a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGsとUNAIについて基礎的な知識を身につけている。 (5)読書の意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 学修法を中心として、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 「大人の教養」序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か？」 ABDの体験	事前学習: 「おとなの教養」第二章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 「大人の教養」第二章 宇宙	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABDによる学習の進め方の説明 ABD法に挑戦「第二章 宇宙」	事前学習: 「おとなの教養」第三章を読む(1.5時間以上)	
3	教養入門: 第三章 人類の旅路	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第五章を読む(1.5時間以上)	
4	教養入門: 第五章 経済学	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「おとなの教養」第一章を読む(1.5時間以上)	
5	教養入門: 第一章 宗教	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート1回目 事前学習: SDGsとは何かを調べる (3時間以上)	
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsの概要 SDGsゲーム 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGsとは何か調べる (1.5時間以上)	
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGsとは何か ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAIとは何かを調べる (1.5時間以上)	
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事後学習: 振り返りレポート2回目 事前学習: 「アドラー心理学」第一章を読む(2時間以上)	
10	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第一章 アドラーはどんな人だったか	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第二章を読む(1.5時間以上)	
11	自分を知る教養: 岸見著「アドラー心理学入門」第二章 アドラー心理学の育児と教養?	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第三章を読む(1.5時間以上)	
12	自分を知る教養: 第三章 横の関係と健康なパーソナリティ	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 「アドラー心理学」第四章を読む(1.5時間以上)	
13	自分を知る教養: 第四章 アドラー心理学の基礎理論	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (3時間以上)	
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事後学習: 振り返りレポート3回目 (2時間以上)	
15	大学教養入門: まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	事後学習: 振り返りレポート4回目 (2時間以上)	

実務経験																	
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>アドラー心理学入門</td> <td>岸見一郎</td> <td>KK ベストセラーズ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版	2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版														
2	アドラー心理学入門	岸見一郎	KK ベストセラーズ														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢 (チーム：20%) ・中間発表・まとめ (チーム：20%) ・振り返りレポート 4回 (個人：20%) ・振り返りシート (個人：15%) ・理解度確認クイズ (個人：15%) ・事前学習シート (個人：5%) ・ファイル管理 (個人：5%) <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>																
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部・学科の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																
担当者の 研究室等	荻田喜代一 (7号館 8F, 学長室), 伊藤譲 (1号館 3F), 石井三恵 (7号館 5F), 柳沢学 (8号館 3F), 大塚正人 (薬学部 1号館 5F), 久保貞也 (11号館 7F), 佐井英子 (11号館 6F), 瀬川智広 (スボ振), 古矢篤史 (7号館 4F), 寺本俊太郎 (1号館 3F), 松島裕一 (11号館 9F), 羅鵬飛 (経済)																
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を越えた多くの友人を見つけてください。																

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙・上野山 裕士・友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話(感想を述べ合うこと、質疑応答)を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業(6回)と遠隔授業(9回)で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート(学習範囲を200~250字で要約)を作成する。教科書 p.48-79 を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p.80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	事後学習シート
5	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	学びの振り返り(整理、共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p.109~146 を読み、事前学習シートに記入する。
6	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
7	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.148~181 を読み、事前学習シートを作成する
8	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.181~203 を読み、事前学習シートを作成する
9	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 協働学習(要約・プレゼン・対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
10	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	ポスター作成 発表・質疑応答、投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート1回目 「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シートを作成
11	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20章を読み、事前学習シートを作成
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27章を読み、事前学習シートを作成
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート(ポスター作成・プレゼン準備)
14	教養としての文学作品に触れる:「未来の年表」	解説、確認試験 ポスター作成	振り返りレポート2回目 図書館の利用

			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	大学教養実践 DKJ			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢/ループリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%)、・事後学習シート (個人：10%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、上野山裕士(7号館 3F)、寺内睦博 (11号館 10F)、水野武 (7号館 3F)、友枝恭子 (3号館 3F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同スタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	伊藤 謙、瀧 千波、寺内 睦博、水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1459a1, L科: LKY1361a1, D科・S科: IKY1368a1, P科: YTO1423a2~YTO1427a2, J科: JKY1370a1, W科: WKY1349a1, N科: NTO1350a1~NTO1354a1		

授業概要・目的	この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。 本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。
到達目標	(1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。 (2) ABDによる読書法の基礎(要約、プレゼンテーション、対話)を身に付けている。 (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。 (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。 (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。 (6) テーマにそった対話(感想を述べ合うこと、質疑応答)を行うことができる。 (7) 自主学習の習慣を身に付けている。
授業方法と留意点	この授業は対面授業(6回)と遠隔授業(9回)で行う。 授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果(資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。ABDやQFT等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	チーム分け、役割分担、確認試験 解説(振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート(学習範囲を200~250字で要約)を作成する。教科書 p.48-79 を読み、事前学習シートを作成する。
3	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート。教科書 p.80-108 を読み、事前学習シートを作成する。
4	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説(事前学習シート)、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 投票と表彰、振り返りシート	事後学習シート
5	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	学びの振り返り(整理、共有) 要約・プレゼン・対話の要点を説明	教科書 p.109~146 を読み、事前学習シートに記入する。
6	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	事後学習シート
7	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	QFT(質問づくり) 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.148~181 を読み、事前学習シートを作成する
8	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習(要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書 p.181~203 を読み、事前学習シートを作成する
9	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	解説、確認試験 協働学習(要約・プレゼン・対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート ポスター作成 プレゼン準備 図書館の利用
10	教養としての社会の課題を知る:「未来の年表」	ポスター作成 発表・質疑応答、投票と表彰 振り返りシート	振り返りレポート1回目 「星の王子様」1~10章を読み、事前学習シートを作成
11	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 11~20章を読み、事前学習シートを作成
12	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) 振り返りシート	事後学習シート 21~27章を読み、事前学習シートを作成
13	教養としての文学作品に触れる:「星の王子様」	解説、確認試験 協働学習(要約、プレゼン、対話) QFT(中間発表のテーマ出し) 振り返りシート	事後学習シート 事前学習シート(ポスター作成・プレゼン準備)
14	教養としての文学作品に触れる:「未来の年表」	解説、確認試験 ポスター作成	振り返りレポート2回目 図書館の利用

			発表・質疑応答 振り返り、振り返りレポート	
	15	全体振り返り	各グループで選択した文学作品の紹介。 バインダーチェック 全体を通しての学びの整理、共有、振り返り	
実務経験				
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	未来の年表	河合雅司	講談社現代新書
	2	星の王子様	サン＝テグジュペリ	新潮文庫
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー	大学教養実践 DKJ			
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組み姿勢/ルーブリック (チーム：15%)、・ファイリング (個人：5%) ・ポスター発表 (チーム：20%) ・振り返りレポート 2回 (個人：20%)、・振り返りシート (個人：10%) ・理解度確認クイズ (個人：10%) ・事前学習シート (個人：10%)、・事後学習シート (個人：10%) 以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。？			
担当者の 研究室等	伊藤謙 (1号館 3F)、上野山裕士(7号館 3F)、寺内睦博 (11号館 10F)、水野武 (7号館 3F)、友枝恭子 (3号館 3F)、瀧 (スポ振)			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同スタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。？			

科目名	職業指導	科目名(英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期		授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。

到達目標
職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。

授業方法と留意点
講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。

講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。尚、遅刻等は厳禁です。

科目学習の効果(資格)
工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(1時間)。 事後学習:年間の学びの計画を立てること(3時間)
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習:職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと(2時間) 事後学習:職業指導に関する資料を熟読すること(2時間)。
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習:欧米の職業指導に関して調査すること(3時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(1時間)
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習:日本の産業の変遷について市調べておくこと(3時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習:日本の戦後の教育改革について調べておくこと(2時間)。 事後学習:配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習:日本型雇用について発表資料を作成すること(3時間)。 事後学習:発表及びディスカッションの内容を振り返ること(1時間)
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習:高卒労働市場に関して調べておくこと(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習:高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること(3時間) 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
9	「労働すること」を考える	・仕事をする事の意義を考える	事前学習:仕事をする意味について意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習:自らの労働観について考えること(2時間)。
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習:職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:自己について考えておくこと(2時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(2時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えておくこと(3時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(1時間)。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習:高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと(1時間) 事後学習:模擬授業の準備をすること(3時間)。
14	模擬授業①	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習:模擬授業の準備をすること(2時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(2時間)
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習:前期のレポートを作成すること(3時間)。 事後学習:講義全体を振り返ること(1時間)
16	オリエンテーション	・後期授業概要の説明	事前学習:本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習:後期の学習計画を立てること(3時間)
17	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導について	事前学習:商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
18	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導について	事前学習:工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
19	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習:普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。

			事後学習：講義の内容を振り返ること（2時間）
20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）。
24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）。
25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来においての働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）。
26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder
Teams コード	2z97dst
Moodle コース名 および登録キー	
連絡手段	学内メール
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。
担当者の 研究室等	7号館3階 教育イノベーションセンター（水野）
備考	

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I は、主として、法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生として学習意欲を高めること、そして、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。</p> <p>法学基礎演習 I では、学部全体で実施している図書館の利用方法、文献の利用の仕方、研究倫理教育、環境教育、自校史教育（後期実施の場合もある）などの他、法律を勉強していくうえで必要な基礎的知識として、「法律と言葉」を主なテーマとして検討します。</p>		
到達目標	この演習を通じて、学生には法律の理解に最低限必要な知識としての「言葉」及び「法律用語」を理解していることを説明できるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	<p>前期に予定されている学部共通行事は中止または延期が予定されていますので、新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、この演習の主たる授業テーマである「法律と言葉の理解」について問題を設定してそれにレポートで答える、という形で進めます。</p> <p>具体的には、WebFolder を利用します。「教材」フォルダに提示した資料と質問に対して「レポート」を作成して「提出」フォルダに提出することを求めます。また最後に、総合課題のレポートを求めることにします。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部共通の図書館利用指導など・・・中止の予定 2. フレッシュマンズ・スタディガイドを使った指導 3. 研究倫理及び環境についての教育・・・後期に延期予定 4. IT を使った法令・判例の入手方法の指導 5. 六法の使い方、読み方の指導 6. 法律を学ぶ基礎として必要な「法律と言葉」について問題とその検討 <ul style="list-style-type: none"> 2・3・4については、各1回程度 5・6については、9回程度を使って行う。 <p>共通行事以外については、配付する資料を検討し、事後にはゼミでの結果を復習することを重視して、各授業時間ごとに2時間程度の学習をして下さい。</p>		
関連科目	法学部で開講されている授業科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	必要な資料を配付します。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、紹介します。	
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	「総合課題レポート」(40%)と「課題レポート」(60%)を合計して評価します。		
学生へのメッセージ	しばらく大学でのゼミができませんが、教室で会えることを楽しみにしています。		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室		
備考	レポートについては、後期の法学基礎演習 II 及びSHの時間などを使ってフィードバックします。		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>新聞で報道されている法律の問題を題材にして、法律学の紹介を行っていきます。</p>																		
到達目標	この授業を通じて、学生は、大学で法学教育を学ぶために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>法学の基礎を習得できます。</p> <p>First Year Study Guide を用いて、大学で学ぶための最小限の知識を習得できます。</p> <p>新聞の記事などを読んで、様々な法律学の入門的な知識を習得できます。</p> <p>SPI テスト対策の勉強もします。</p> <p>演習中に勉強したことを復習して、さらに、興味があることについては、図書館等を利用して、自主的に勉強してください。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習 I・II ともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点 70% レポート 30%																		
学生へのメッセージ	<p>演習には必ず、出席してください。</p> <p>演習中は、ポケット六法を携帯してください。</p> <p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	「事前・事後学習は、合計 20 時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p> <p>SDGs-5, 10</p>																		
到達目標	<p>まず、学生生活に慣れ、勉学がスムーズに進められるようにすることが第一です。法学部の学生にふさわしい基礎能力を習得することが期待されます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>演習は、WEB で行いますが、かならず参加してください。今年の基礎演習は、NEW YEARS STUDY GUIDED を通して大学生活の基本を学ぶこととなります。学生生活全般にわたる質問や疑問も、この時間に受け付けますので、気軽に相談してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>大学の授業や学生生活について必要な知識やノウハウを身につける。講義ノートのとり方、レポートの書き方、図書館利用指導、パソコン指導など。</p>																		
関連科目	<p>特定の科目というより、社会への関心が大事。新聞を読み、ニュースに接すること。</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																		
評価方法 (基準)	<p>質授業への真摯な態度、レポートの出来などにより評価します。WEB への参加と、レポートを課しますので、その総合点で評価します。平常の授業参加 80%、レポート 20% の配分とします。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>知らないことは若さの特権です。いずれそれが恥となり、自らにとって不利な事態を招く可能性もあります。食欲に学び、経験し、そして息抜きをしましょう。</p> <p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>																		
担当者の研究室等	<p>11 号館 10 階 牧田教授室</p>																		
備考	<p>レポートは評価した上で、キャリアルームで返却します。ゼミの課題については、テーマによっても異なりますが、最低でも週 3 時間以上 (実際には自分がわかるまで上限無制限になると思います) をかけて取り組むべきものです。日ごろから関心を持って、関連文献に目を通す地道な取り組みが必要です。</p>																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるように様々な支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること ②大学生活になじむこと ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること																		
授業方法と留意点	遠隔授業のうち双方向のオンライン型授業を行います。演習は参加重視です。毎回必ず参加してください。途中参加は進行を妨げるので定刻までには待機してください。参加できないときは、事前に教員まで連絡ください。 法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答の時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本学共通教材の「first year study guide」を使用して大学生活を送るうえで知っておくべきことを学ぶほか、当ゼミ独自では、「社会で起きていることに関心を持つ」というテーマで世論を二分しているような種々の社会問題について考えます。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。																		
関連科目	憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(50%)、レポート(20点)、及び課題発表(30%)によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と参加状況を重視します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となります。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。 重要なことは自ら学習する姿勢を身に着けることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・I I の目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごし方などを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																
授業方法と留意点	<p>前期に予定されている学部共通行事は中止または延期が予定されていますので、新入生共通教材の「フレッシュマンズ・スタディガイド」を使った指導と、法律の理解の前提になる社会問題への関心の醸成を進めていきます。</p> <p>なお、上記の指導は、オンラインで使用可能なシステムを活用して行います。</p> <p>詳細はMicrosoft Teamsの「法学基礎演習 I」の私の名前のところを確認してください。</p> <p>また、法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時メールなどで受け付けますので、気軽に相談してください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ね I では、大学での学業生活に慣れることを主眼に据えています。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	平常点(学習姿勢50%および課題提出50%)により評価します。																
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																
備考	課題レポートは、その課題内容により、提出した次の回に講評を加えることがあります。 事前事後学習を重視して、各2時間程度行ってください。																

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男, 田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・IIの目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項について学びます。</p>																		
到達目標	大学生として生活に慣れ、自発的に学ぶ姿勢を身につけること。友人を作ること。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	自分の意見の発表力をつけることを重視する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	出席を重視し、平常点により評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習 I・IIともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等備考	11号館10階 古川教授室																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	演習 (ゼミ) は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論 (ディスカッション) をしたり、発表 (プレゼンテーション) をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。		
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う (ディスカッション)。同様に、発表を行う (プレゼンテーション)。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の地元の特色といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。		
到達目標	この演習を通じて学生は、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培います。また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作って行けるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。個人での作業だけでなくグループワークも行いますのでコミュニケーション能力を高める必要があります。プレゼンテーションも行ってもらいます。 基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むこととなります(30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・IIの目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を今後学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。First year study guideを用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>授業テーマ：あらかじめ指定した、および受講者との相談の下に決められるテーマ。</p> <p>内容・方法：演習 (各テーマについて報告)</p> <p>事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	複数回出される課題に対する回答をもって評価する (100%)。																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室																		
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説については、次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・IIの目的は、主として3つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。																		
授業方法と留意点	受講生の通信環境などを考慮したうえで、Microsoft TeamsなどのICTツールを用いて行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>「FIRST YEAR STUDY GUIDE 2020」および「摂南大学読本」の解説が中心となります。</p> <p>また、各回の授業の後に、小レポートを課します。</p> <p>したがって、事前・事後学習についても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われます。</p> <p>なお、疑問点などがある場合は、次回以降の授業の中で回答します。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	各回の授業後に課す小レポートによる (100%)																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。</p> <p>したがってこのゼミでは、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学んでいただきたいと思います。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。</p> <p>なお、上記指導および皆さんからの報告や活動につき、Moodle など、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細はMicrosoft Teamsの「J123—法学基礎演習 I」内の「連絡用」を確認してください。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>時事問題や最近話題になった法的問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定です。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでくるべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自（またはグループで）、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>																		
関連科目	法学基礎演習 II																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミに取り組む姿勢やゼミ中の活動状況 (50%)、提出された課題 (50%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	課題については、次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間																		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	原発問題を素材とした調査・研究を行います。		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けること、議論の仕方の基礎を身に付けることを期待します。		
授業方法と留意点	毎週、課題を出しますので、この課題に対するレポートを作成し、提出して下さい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本授業では、原発問題について検討します。事前事後の学習課題については、適宜指示します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	提出レポートの評価(100%)		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、teams 上で気軽に相談してください。		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室		
備考			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として3つあります。</p> <p>(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと (2) 法学生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、</p> <p>①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方 (とくに法学生として必要な使い方) ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。</p> <p>たとえば、</p> <p>①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう ⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。</p> <p>みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。</p> <p>たとえば、</p> <p>①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学</p> <p>など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、法学基礎演習は、少数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>			
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <p>「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>			
授業方法と留意点	<p>・今般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義は Microsoft 社 teams を活用して行いますが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。 ・法学基礎演習にかかわらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。</p>			
関連科目	<p>専門科目全般</p>			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	※開講時に指示する。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	※開講時に指示する。		
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：</p>			
評価方法 (基準)	<p>・ディスカッションへの参加度 (90%) と簡単なレポート (10%) によって評価する。</p>			

学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の 研究室等	11号館10階 小野教授室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I のおもな授業内容として、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>																
到達目標	<p>大学生活が始まったばかりで多々不安な点があるかと思います。この演習を通じて学生には、そうした不安をいち早く払拭し、法律学の勉強に専念できる体制を整えることが期待される。</p>																
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、図書館利用案内等、法学部共通のプログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション並びにその準備としてのグループワーク、その題材に基づくディベートやディスカッションを中心に行います。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。大学生活が始まったばかりで、色々分からないことや不安なことがあるかと思うので、それらの不安を払拭してサポートすることを念頭に置いています。また、大学内に友人や知人が未だ少ない時期だと思います。そのため、ゼミ生同士がお互いを知り、今後4年間学生生活をともにする仲間を見つけられるように、自己紹介や、互いにコミュニケーションが図れるような機会を多く設ける予定です。</p> <p>演習の具体的な内容としては、パワーポイントを用いた自己紹介、パワーポイント・ワードの使い方やレポートの書き方の講習、大学生活についてのアドバイス、簡単な法律に関する課題・レポートや発表を予定しています。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分、プレゼンテーション前は1時間を想定しています。</p>																
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																
評価方法 (基準)	<p>演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点 (60%)、プレゼンテーションやレポート (40%) で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。</p>																
学生へのメッセージ	<p>法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。</p>																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	<p>判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。</p> <p>また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。</p> <p>なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。</p>																

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4年間の大学生生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。 今期は、Teamsを使ったゼミを対話型で行う予定です。ただし、通信環境等が不明であることから、初回から何度かは自己紹介等をはじめ、ツールの練習なども行う予定です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	ゼミへの取り組み方から、教員により評価をいたします。具体的には、課題に対する対応・提出内容 (40点)、ゼミでの発言等の積極性 (40点)、自らのアピール (20点) の予定です。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと		

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	法学基礎演習 I・II のおこな授業内容として、(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの 3 点を上げることができます。 個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2 年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。																
到達目標	この演習を通じて学生には、法律学の勉強に専念できる体制を整え、一刻も早く大学生活に慣れることが期待される。																
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 *新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度はしばらくのあいだ、対面ではなく Teams (あるいは LINE) などの ICT ツールを用いてゼミを行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期は大学生活に慣れることを目標に、みんなで大学生の基本的スキルを身につけたいと思います。時おり簡単な課題を出しますので、それを事前に教員まで連絡してください。具体的には毎年パワーポイントを用いた報告会を行っていますので、今年も皆さんにもそれに取り組んでもらうことになると思います。																
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言 (ディスカッション・ディベート) 30%、レポートなどの提出物 30%、レジュメ・報告の出来 40% で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。																
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 松島講師室																
備考	パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに 60 分程度、またゼミで学習したことの振り返りに 60 分程度が必要となります。 グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。																

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学・政治学に関わるテーマを設定し、グループごとに情報収集、発表、議論を行う。適切な情報の入手方法、分かりやすい発表資料の作り方、建設的な議論の仕方について学ぶ。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、多様な情報を基に自分の意見を形成し、他者との議論を通じて一段階上の結論を導くことができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. ガイダンス 大学生活について、授業の進め方、情報機器の使い方、情報の入手方法などについてガイダンスを行う。</p> <p>2. テーマの設定 法学・政治学に関わるテーマをいくつか提示し、グループごとに取り組むテーマを選択する。</p> <p>3. 情報収集 図書館、インターネットなどを駆使して、テーマについての情報を集め、グループとしての結論を出す。</p> <p>4. プレゼンテーション グループごとに成果を発表し、質問や意見を出し合い、更に理解を深める。</p> <p>事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う (4 時間)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	到達目標の達成度 60%、グループ活動への貢献 20%、積極的発言 10%、プレゼンテーション 10%																		
学生へのメッセージ	大学では、高校までとは勉強の仕方が 180 度変わります。正解のない問題に取り組む難しさと楽しさを感じてもらえればと思います。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 増田講師室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生活を送る上で必要な事柄についても授業します。			
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する			
授業方法と留意点	オンライン授業で行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業テーマ・内容 <p>教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業方法 <p>学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前、事後学習課題 <p>事前学習...その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>			
関連科目	法学基礎演習 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	授業でのグループディスカッション (50%) とプレゼンテーション (50%) で評価します。			
学生への メッセージ	大学生生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。			
担当者の 研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。			

科目名	法学基礎演習 I	科目名 (英文)	Primary Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1132a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習 I・II の目的は、主として 3 つあります。(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方 (とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。		
授業方法と留意点	前期授業は Web 方式となります。大学指定の Microsoft「Teams」で、「J131-法学基礎演習 I-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい。First Year Study Guide が基本的な資料となりますが、課題についてはその都度指示します。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後 学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題を法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに実践検討します。		
関連科目	なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	First Year Study Guide	
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	学期末に課するレポートの内容 (70%)、授業中の課題 (30%) により総合的に評価します。		
学生への メッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。		
担当者の 研究室等	11 号館 9 階 川谷教授室		
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらおうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各 1 時間程度が必要です。報告についてはその場で受講者全員によるディスカッションを行い、レポートは評価を記入して次回講義で返却します。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅱは、前期の法学基礎演習Ⅰで学んだことを基礎として、さらに2年次以降の法学部での勉学のためのガイダンスを行います。法学部生として身につけるべき基本的能力を確認し、さらに学習意欲を高めること、その他、有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすること、が目的となります。</p> <p>法学基礎演習Ⅱでは、学部全体で実施している学習支援センター・裁判所などの見学(中止の予定)の他、演習では、社会で議論される問題を題材として賛成反対に分かれて討論することが中心となります。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、「最近起こった社会問題」をテーマとする討論を通して、培うべき「法的なものの考え方」を理解し説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	後期授業は学内での実施を予定していて、問題を提示して賛成・反対(自分の意見とは関係なく)に分かれてディベートもしくはディスカッションを中心に行います。それぞれの立場をとる理由を事前に考えてゼミに臨んで下さい。なお、事情変更から一部をWebFolderを使った資料配付と課題提出の形をとりますので注意してください。最後に、「総合課題レポート」の提出を求めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学部共通の裁判所見学(刑事裁判の傍聴)、学習支援センターの体験学習、特別講演会・・・中止の予定 2. 前期の配付資料と課題に対する知識の再確認：3回程度 3. 討論する問題の提示と提示された問題についての討論 ：提示とやり方の説明を加えて12回程度 事前に提示した問題について、各授業時間ごとに2時間程度の事前の「問題の検討」と「見直し」をして下さい。 																		
関連科目	法学部で開講されている授業科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要な資料を配付します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要な資料を配付します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要な資料を配付します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	チーム内のチャット及び学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	討論での「参加状況」と「発言の明確性」(60%)及び最後に提示する「総合課題レポート」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	設定する問題に対して賛成・反対のどちらの立場でも発言ができるように、社会問題に関心を持ってください。新聞やテレビなどもチェックを忘れないで下さい！																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	Teamsに「質疑応答」チャンネルを作成して双方向性を維持します。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。																		
到達目標	この演習を通じて学生は、大学で法学教育を受けるために必要な基礎的な知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。 授業は遠隔授業(Teams)で行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	法学の基礎を習得します。 SPIテスト対策の勉強もします。 特に、2年以降に学ぶ法学の基礎になる民法を中心に、判例の読み方とか、試験の答案の書き方などを勉強します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	9c2dwgb																		
Moodleコース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	出席を重視し、平常点・レポートにより評価します。ただし、欠席・遅刻が多い場合には、法学基礎演習Ⅰ・Ⅱともにレポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。平常点70%レポート30%																		
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席し、議論に加わるようにしてください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	「事前・事後学習の課題には合計20時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p> <p>SDGs-5, 10</p>		
到達目標	本格的な法学部の学びの導入として、易しい法学入門の文章に親しみ、法学に関心を持つようになることが期待される。また、新聞記事の紹介などを通して、社会問題に関心を持ち、社会科学に必要な基礎的な力を養成する。		
授業方法と留意点	Teamsを利用した双方向での質疑を基本とするが、3回に1回は対面型授業を実施したい。ただし、状況によって対面型授業ができないこともありうるので、その場合には前者を中心とする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	主として新聞記事を使い、現在の社会問題について考える。Teamsで記事を読んで、その問題性についてレポートなどにまとめる。大阪地方裁判所で刑事裁判の傍聴もおこなうかもしれない。		
関連科目	法学関連科目、社会科学全般		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teamsコード	6kuvavt		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	Teams内の質問チャネルか研究室メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	レポート点を90%、出席点を10%とします。ただし、対面型授業が不可能になった時は、レポート点を100%とします。		
学生へのメッセージ	今年は大學生活にまだ、なじめない人も多いと思います。誘惑にまげず、夢に向かって努力しましょう。法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽にメールで相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	ゼミの課題については、テーマによっても異なりますが、自分がわかるまで時間をかけて取り組むべきものです。日ごろから社会に関心を持って、法学に取り組みましょう。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活を送るに当たって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるよう様々な支援をすることです。		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①法学部における学習の基本や法律的なものの考え方を理解すること。 ②大学生活になじむこと。 ③大学4年間を計画的に過ごすための基礎を固めること。		
授業方法と留意点	演習は、参加重視です。毎回必ず参加して、無断不参加・無断遅刻は慎んでください。やむをえず不参加・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習に限らず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。当ゼミ独自のテーマでは、皆さんのプレゼンテーションの後に質疑応答やディスカッションの時間を設けます。皆さんが主役ですので積極的に発言してください。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	裁判所見学などの法学部共通プログラム(実施未定)のほか、憲法制定の沿革や法令解釈の仕方などを学びます。また、当ゼミは「自分の言葉で説明してみよう」を中心テーマとして掲げ、皆さんに効果的なプレゼンテーションをするにはどうしたらよいかを考えてもらいます。資料は提供しますが、一方的なお話ではなく、他のゼミ生を参加させるように工夫してください。授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を行い、理解を深めることが重要です。		
関連科目	憲法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teamsコード	96w58hp		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	学内メールを利用。		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	平常点(50%)、レポート(20点)、及び課題発表(30%)によって評価します。平常点は、ゼミでの積極的な発言と出席状況を重視します。		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、皆さんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法が分からないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な友人となります。良好な関係を築いてください。		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室		
備考	課題発表は、質疑応答の後に、良かった点、改善・工夫を要する点などにつきコメントします。レポートについても適宜講評を行います。重要なことは自ら学習する姿勢を身につけることです。したがって、授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習の目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、図書館の利用方法、六法や法学参考文献の利用のしかた、法学専門講義の履修についての心構え、パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、みなさんが関心をもっていることがらについて議論する、法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、ディベートをおこなう、裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、公務員試験対策、税理士や裁判所職員などの法律専門職、就職への心構え、大学院進学、海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談のり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、大学生としての勉強のしかたや日々の過ごしかたなどを学んで、安全で有意義な大学生活を送れるようになることと、2年次後期から履修が始まる「専門演習」に備えて演習形式の学習法に慣れることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習は、少人数教育の強みを生かすもので出席してディスカッションに参加することが重要です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。対面授業を中心に実施したいと考えていますが、新型コロナウイルスの感染状況によって、遠隔授業(Web上)に切り替わる可能性があります(ハイブリッド方式)。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	詳細は、第1回目の演習で説明しますが、概ねⅡでは、法学部の演習形式による学習に慣れることを主眼に据えています。なお、対面授業を中心にしますが、必要に応じて、遠隔授業(Web上)を行うハイブリッド方式で実施します。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	平常点(ディスカッションへの参加などの学習姿勢70%および課題提出30%)により評価します。なお、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、クラス担任のようなものです。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																		
備考	課題レポートは、報告してもらった後で講評します。 特に事後学習を重視して、各授業時間ごとに2時間程度の見直しをしてください。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	古川 行男, 田中 敦
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、(1)法学部における勉学のためのガイダンスを行うこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力を引き出して訓練するとともに、これからの法学部生活を送るにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることにある。</p> <p>法学基礎演習Ⅱは、同Ⅰで行ったガイダンス等を踏まえ、法的な考え方の習得という観点を加え、さらに上記3点について深めていくこととした。</p>																		
到達目標	授業の目的欄に記載したとおり、法学部学生として身につけておくべき基本的な姿勢を習得することである。																		
授業方法と留意点	演習は、遠隔授業も含めて出席を重視する。無断欠席・無断遅刻は慎んでほしい。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡をいただきたい。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けるので、気軽に相談してほしい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学基礎演習Ⅰと同じく、自分の意見の発表力を高めることを内容とするが、様子を見て、条文等を音読したうえ、内容を確認することも行う。これは、文章の理解能力を高めるものである。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	trok00r																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	遠隔授業を含めて出席を重視するとともに、適宜与える課題の内容により評価する。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任なので、学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談していただきたい。演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となることと思う。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってほしい。																		
担当者の研究室等	11号館10階 田中教授室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	演習(ゼミ)は大学独特の勉強の形式で、教員と少人数の学生の間で議論(ディスカッション)をしたり、発表(プレゼンテーション)をしたりする。法学基礎演習では、卒業まで4年間続く演習の形式でどういった努力が必要か、課題に取り組みながら学ぶ。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①課題について自分の考えをまとめて、発言する、②他の学生の考えを聴いて、メモをとる、③そのメモをもとに質問をしたり、意見を述べたりすることが期待される。		
授業方法と留意点	課題について下調べをして、自分の考えをまとめ、他の学生との間で議論を行う(ディスカッション)。同様に、発表を行う(プレゼンテーション)。*遠隔の場合、前期に引き続き zoom で行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	学生間で話し合う、発表しあう課題は、自分の小中高校生時代の経験といった身近な事柄から、政治・経済・社会の時事に関することまで広く扱う。事前の下調べが不可欠である。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom		
Teams コード	srqbtw8		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	大学メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	演習時限の全出席を前提とする。課題の下調べ(30%)、発表(40%)、議論への貢献度(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	課題の下調べに各回1時間ほどが必要になる。 発表の質疑応答や議論の記録をとり、学生に共有する。		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します。																		
到達目標	この講義を通じて学生には、前期に引き続き大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を培い、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作れるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。個別の学習だけでなくグループワークを用いて行いますのでコミュニケーション能力が必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず <ul style="list-style-type: none"> ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。																		
関連科目	法学部開講科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 zoom																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	出席を前提として、当日演習中に作成する課題(60%)、事後の課題(40%)で評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室																		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むことになります(30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かく対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談にのり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法学・政治学・法政策学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待される。																		
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。First year study guideを用いるが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う予定ですが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思います。 内容・方法：演習(決められたテーマについて報告、ディスカッションを行う) 事前・事後学習課題：必要に応じてその都度指示する																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」(併用)																		
Teamsコード	c5c1r5x																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール(併用)																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	平常点(授業に参加する態度30%、課題50%、プレゼンテーション20%)により評価します。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課す場合もあります。																		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。 法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室																		
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。 課題の解説は次の回の授業で行う。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2)法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。たとえば、①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心をもつ、②みなさんが関心をもっていることについて議論する、③法学や政治学への関心をもつような文献を読んで討論する、④ディベートをおこなう、⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんな希望を言ってください。できるかぎり、希望にそうよう努力します。</p> <p>(3)学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。たとえば、①公務員試験対策、②税理士や裁判所職員などの法律専門職、③就職への心構え、④大学院進学、⑤海外留学など、早い段階から準備をしたほうがよいことについて相談のり、適切なアドバイスを与えます。以上のように、法学基礎演習は、少人数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>			
到達目標	この授業を通じて学生には、法学を学んでいく上で必要と思われる基本的素養を修得することが期待されます。			
授業方法と留意点	原則として、Microsoft TeamsなどのICTツールを用いて行う方式を予定していますが、社会状況を考慮したうえで対面方式に変更することも考えています(その際は、適宜指示します)。なお、演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	例年、Power pointを用いたプレゼンテーションやディベートなどを行っていますが、詳細は受講生と相談しながら決めていきたいと思えます。したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることとなりますが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ30分程度は要することになるかと思われます。なお、プレゼンテーションやディベートの後には講評をするかたちでフィードバックを行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/対面授業			
Teamsコード	dfplm3x			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス:			
評価方法(基準)	プレゼンテーションなどの内容(50%)、プレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度(50%)。ただし、欠席・遅刻が多い場合には単位不認定となる場合があるのでくれぐれも注意してください。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室			
備考				

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>これから法学部で4年間を過ごすことになる学生の皆さんにとって必要な知識と能力の基礎作りをするのが、このゼミの目的です。たとえば、社会で起きている出来事について、それが一体どういうことなのか、なぜその出来事が起きているのか、また問題があるのならどのような解決が考えられるか、といったことを考えていただくことは、法学、政治学を学ぶにあたって重要なことです。そして様々なことについて自ら考える力は、これから皆さんが社会人として生活するにあたって必須であり、役立つことです。</p> <p>したがってこのゼミでは、法学基礎演習Ⅰに引き続き、自分で情報を調べたり、ゼミの他の学生と話し合ったりして、物事を理解するための方法と、理解することの重要性を学ぶとともに、それらを他の人に伝えることを学んでいただきたいと思います。</p>		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、様々なツールを使って、自らの力で物事を理解することができるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	<p>教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分とが混在することになりますが、ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。</p> <p>なお、後期授業を遠隔授業によりおこなうこととなった場合、上記指導および皆さんの活動につき、ZoomやMoodleなど、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細は別途、お知らせします。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期の法学基礎演習Ⅰに引き続き、時事問題や判決、法律を扱ったドラマや映画を題材として取り上げる予定ですが、前期に比べて、1つのことをより掘り下げて理解する能力を身につけていただくことに重きを置くことを考えています。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでおくべき資料をお渡ししたり、課題を課したりすることがありますので、各自またはグループで、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>		
関連科目	法学基礎演習Ⅰ		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Moodle/その他 (Zoom)		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー	前期に設定済みのコースを継続して使用します。		
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	ゼミ中の受講姿勢や活動の内容 (75%)、提出された課題 (25%) を評価の対象とします。		
学生へのメッセージ	とにかくゼミには出席していただくこと、これが第一です。		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室		
備考	<p>課題については、次の回で講評をおこないます。</p> <p>事前・事後学習に要する総時間数の目安：20時間</p>		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	原発問題を出発点として、現代社会の課題を検討します。			
到達目標	この授業を通じて学生には、法学部生として学ぶべき基本的知識を理解すること、論理的思考の基礎を身に付けることを期待します。			
授業方法と留意点	本ゼミはレポートに対する指導を基本とします、なお、後期は、Teams 上で議論の場を設けることも考えています。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本授業では、原発問題について検討します。毎週のレポート課題は、必ず提出して下さい。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	klz2bz8			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	レポート課題の評価(100%)			
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。			
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考				

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。</p> <p>(1) 法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと (2) 法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること (3) 有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1) ガイダンスでは、 ①図書館の利用方法 ②六法や法学参考文献の利用のしかた ③法学専門講義の履修についての心構え ④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方) ⑤その他、学生生活に必要な事項に関する助言・指導を行います。</p> <p>(2) 法学部生として身につけるべき基本的な能力とは、なによりも「読む・書く・話す」能力、すなわち、「論理的思考力」と「論理的表現力」です。文献の要点を的確に理解し、明快な文章を書き、自分の見解を堂々と述べることは、なかなか大変なことです。けれども、この法学部の4年間を意欲的にすごせば、みなさんもかならずそれを修得することができます。法学基礎演習は、論理的思考力を訓練する第一歩なのです。授業では、担当教員の持ち味を生かしたさまざまな企画がなされます。</p> <p>たとえば、 ①新聞やニュース記事を読んで、現代社会の動きに関心を高める ②みなさんが関心をもっていることがらについて議論する ③法学や政治学への関心を高めるような文献を読んで討論する ④ディベートをおこなう ⑤裁判所見学など学外研修を実施するなどです。</p> <p>みなさんの学習意欲を高めるため、今後とも工夫を重ねる予定ですので、どんどん希望を言ってください。できるかぎり、希望にそよう努力します。</p> <p>(3) 学生生活支援とは、みなさんの学生生活上の悩みや不満に対して担当教員がきめ細かに対応するということです。また、みなさんの将来の進路選択に有益なさまざまな助言活動も行います。</p> <p>たとえば、 ①公務員試験対策 ②税理士や裁判所職員などの法律専門職 ③就職への心構え ④大学院進学 ⑤海外留学 など、早い段階から準備をしたほうがよいことがらについて相談のり、適切なアドバイスを与えます。</p> <p>以上のように、法学基礎演習は、少数教育の強みを生かし、教員が学生のみなさんに親身に接するなかで、個々の希望にできるだけ対応しながら、今後4年間にわたって実りある法学部生活をおくってもらうための道筋を示すことをめざしています。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、 「・図書館を通じて法学の文献を取捨選択できる ・判例データベースを用いて判例を検索できる」 ようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	・演習は、プレゼンテーションやディスカッションを通じて積極的な発言を重視します。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。 ・やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。 ・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	法的な問題について、プレゼンテーションやディベートなどを行う。																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する。																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	gqbgzb6																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法	・Microsoft社teamsを活用し、課題提出とその内容を評価して行う(100%)。																		

(基準)	
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。 ・また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。 ・どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習として、演習で扱った内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。 ・レポート課題に対するフィードバックは翌週の授業内にて行う。

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅱのおもな授業内容として、(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>																		
到達目標	<p>法学基礎演習Ⅰでは「大学生」としての基本スキルを身につけることが目標でしたが、この法学基礎演習Ⅱを通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身につけることが期待されます。具体的に、学生には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することが期待されます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、原則として、事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。演習では、大阪地方裁判所における裁判所見学、学習支援センター見学、SMART-SPI 説明会等の法学部共通プログラムのほか、数名で構成するグループによる判例研究等のプレゼンテーション及びその準備であるグループワーク、その題材に基づくディベートや</p>																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>後期は、より詳細なレポートの書き方やプレゼンの仕方(レジュメやパワーポイントの作り方など)を、みんなで身につけていきます。裁判所見学やスマートSPIの講習会等も予定されています。裁判所見学で得た知識・感想のレポートやプレゼンテーション、そしてグループでの発表など課題をいくつか出しますので、みんなで協力しながら頑張しましょう。</p> <p>予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。</p> <p>また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。</p> <p>事前・事後学習の時間は、それぞれ30分、プレゼンテーション前に1時間を想定しています。</p>																		
関連科目	法学部の専門科目のすべてにかかわります。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	5r3151h																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート(40%)で評価します。また、欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																		
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	前期に引き続き、法学部生としての基礎的な能力を養います。またそれだけでなく、大学生として、将来の社会人として生きていけるような基礎力を身につけるきっかけを創り出します																		
到達目標	前期に引き続き、この演習を通じて学生には、大学生としての基礎的なコミュニケーション能力、文献検索能力、プレゼンテーション能力を付けることが期待されます。 また、4年間の大学生活のスタート地点の講義として、また卒業後の人生も含めた過ごし方の基礎を作ってもらいます。																		
授業方法と留意点	演習形式で行います。基本的にはレポートで替えられるものではありませんので毎回の出席が前提です。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まず ・自分が何を考えているのか ・自分は何を話しているのか ・他人が何を意図しているのか ・他人が何を伝えようとしているのか を実感出来るよう、具体的なコミュニケーション、文章理解、報告などを実践します。 具体的には開講時、そして講義の途中に決めていく部分も多くなります。																		
関連科目	法学部開講科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	jjw5ico																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	成績は、ゼミにおける各学生の、ゼミへの取り組み(30%)、得られた知識に基づく報告(30%)、得られた知見に基づく対応・行動(30%)、個人的PR(10%)の観点から、判断を行う。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱのおもな授業内容として、(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることの3点を上げることができます。</p> <p>個々の細かな知識を覚えることも大事ですが、むしろこの演習ではこれから学習していく法律学の全体像を大まかにとらえ、2年次以降の専門的な学習に対応できる基礎力を養うことが重要になります。</p>			
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、「法学部生」としての基本スキルを身に着けることが期待される。具体的には、法令や判例の調べ方、法律文献の引用の仕方などを習得することがこの演習の目標です。</p>			
授業方法と留意点	<p>¥演習は、出席重視です。毎回、かならず出席して、無断欠席・無断遅刻は慎んでください。やむをえず欠席・遅刻するときには、できるだけ事前に教員まで連絡してください。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p> <p>*前期と同じく、Teams(あるいはLINE)などのICTツールを用いてゼミを行います。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>後期はおもに次の二つの活動を行う予定です。いずれも事前・事後の学習が必要となります。</p> <p>①裁判所見学に向けて、裁判所の仕組みや判例の読み方などをみんなで学習します。また、裁判所見学終了後にレポート課題を出しますので、そのための基本的な知識(基本的なレポートの書き方や参考文献の探し方など)を習得します。</p> <p>②憲法あるいは民法の教科書や判例集を全員で購読します。具体的には該当箇所をグループで報告してもらい、それに基づいてディスカッションを行います。課題図書は全員で話し合って決める予定ですが、必ず1冊読み終えることを目標とします。</p>			
関連科目	法学部のすべての科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder			
Teamsコード	yj2cnln			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	毎回の出席を当然の前提とし、ゼミ中での発言(ディスカッション・ディベート)30%、レポートなどの提出物30%、レジュメ・報告の出来40%で成績評価を行います。欠席・遅刻が多い場合には、単位取得を認めないこともあります。			
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	<p>パワポ、レジュメ作成などの事前の課題の取り組みに60分程度、またゼミで学習したことの振り返りに60分程度が必要となります。</p> <p>グループワークやディスカッションを行いますので、無断欠席・遅刻は他のゼミ生の迷惑になります。その点は注意してください。</p>			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	この授業では、法学部で勉強する上で必要な、基礎的な知識・技能を身につけることを目指す。法学基礎演習Ⅰで学んだことを基盤に、批判的読書の方法と、優れたレポートの作成法を学ぶ。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、文献を活用しながら、自分の考えを自分の言葉で、論理的な文章にまとめることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	講義と実習を組み合わせる授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. レポート作成法概論 優れたレポートを作成するための文献調査の方法と、論理的な文章の書き方について学ぶ。</p> <p>2. 文献調査 個別に設定したテーマに関連する文献を読み、文献調査メモを作成する。</p> <p>3. プレゼンテーション 文献の要約と疑問点を発表し、議論を行う。</p> <p>4. レポート作成 これまで学んだことを生かして、実際にレポートを作成する。</p> <p>事前・事後学習課題 選んだテーマについての情報収集を行う(4時間)</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	mw7cfhx																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	レポート60%、実習課題20%、積極的発言10%、プレゼンテーション10%																		
学生へのメッセージ	参考文献を引き写すだけでは良いレポートになりません。情報を上手く消化して、自分の言葉で表現する力を身につけてほしいと思います。																		
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考																			

科目名	法学基礎演習 II	科目名 (英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	一般的に大学生の教養とされている文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また授業の受け方やレポートの書き方など、大学生を送る上で必要な事柄についても授業します。			
到達目標	この授業を通じて学生は、大学生の教養として必要な書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する			
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、教養文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・授業テーマ・内容</p> <p>教養文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議してその内容を吟味し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>・授業方法</p> <p>学生の皆さんの興味・関心を考慮しながら、教養文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、望ましい解決策について他者と討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <p>・事前、事後学習課題</p> <p>事前学習...その場で教養文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60 分～90 分程度)。</p>			
関連科目	法学基礎演習 I、プレ専門演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	オンライン授業での受講態度で評価します。			
学生へのメッセージ	大学生生活に慣れるべく、毎回出席してください。またさまざまな分野の教養文献を読み、自分の興味・関心を広げていってください。 新型コロナウイルス感染者が減少した場合は、対面式授業に変更します。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 和田講師室			
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。			

科目名	法学基礎演習Ⅱ	科目名(英文)	Primary Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ1133a0		

授業概要・目的	<p>法学基礎演習Ⅰ・Ⅱの目的は、主として3つあります。(1)法学部における勉学のためのガイダンスをおこなうこと、(2)法学部生として身につけるべき基本的能力をひきだして訓練するとともに、これからの法学部生活をおくるにあたって学習意欲を高めること、(3)有意義な学生生活を送れるようさまざまな支援をすることです。</p> <p>(1)ガイダンスでは、①図書館の利用方法、②六法や法学参考文献の利用のしかた、③法学専門講義の履修についての心構え、④パソコンの使い方(とくに法学部生として必要な使い方)、⑤その他、学生生活に必要なノウハウを学びます。</p>																		
到達目標	この授業を通じて学生には、法律の学習の基本的な方法と、法の理解に必要な知識としての法律用語を理解し、ものごとについての法的な見方の枠組みを身につけることが期待されます。																		
授業方法と留意点	講義はTeamsによるオンライン講義となります。現状で動画配信の予定はありません。法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法学部生として大学生活を始めるに当たり、学習の基本的なスキルを身につけることを目標とします。図書館利用や情報処理講習で基本的な学習の方法を知るとともに、身近に起こる問題を法的に議論し理解するとはどういうことであるのかについて、具体例をもとに実践検討します。																		
関連科目	なお、First Year Study Guide は基本的な資料となります。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>First Year Study Guide</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	First Year Study Guide			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	First Year Study Guide																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teamsコード	0n9nn2d																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	出席状況を含めた受講態度(50%)並びに随時課する報告、レポートの内容(50%)により評価します。																		
学生へのメッセージ	法学基礎演習の担当教員は、みなさんのクラス担任です。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、今後のみなさんの学生生活にとって大切な最初の友人となるでしょう。良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活のスタートをきってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室																		
備考	授業においては受講生が興味を持ったニュースや社会事象について、その内容とそれについての自分の考えを報告してもらうことを考えています。テーマについて、事前の準備と事後の確認のため各1時間程度が必要です。また、法律、時事問題等についてのテーマを提示し、各人に報告してもらうことも考えています。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	ブレ専門演習は、後期の「専門演習Ⅰ」、次年度の「専門演習Ⅱ」に直接繋がるものではありませんが、それらに関連する知識の理解及び確認が主眼となります。3年次の専門演習Ⅱでは「国際私法」を研究のテーマとしますが、2年次前期の「ブレ専門演習」では、それに関連する法律知識、特に、民法の基礎知識の中で身近な「親族法」について「戸籍法の視点」から概観します。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、「親族法」と「戸籍法」についての基本的な知識を理解していることを説明できることが期待されます。																		
授業方法と留意点	演習のやり方は、WebFolderを利用して、提示する教材を学習してそれについての設問に答える、という形をとります。「戸籍法」から「親族法」についての基本的な知識を理解するために、資料を提示してそれに質問を設定します。特に、戸籍法や親族法の条文の意味をどのように捉えるのか、また理解すべきなのかを「課題レポート」として作成してください。また最後に、まとめとして「総合課題レポート」を求めます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレ専門演習の進め方 2. 「家族法」、「親族法」、「旧親族法」とは何か 3. 「親族関係及び氏」と「戸籍」について <ol style="list-style-type: none"> 1、2については、それぞれ1回程度 3については、13回程度を使って行う。 <p>事前・事後学習の具体的な方法については個々に指示しますが、配付する資料を事前に熟読し、復習にも力点を置いて、各授業時間ごとに2時間程度の学習を求めます。</p>																		
関連科目	民法総則、親族法、相続法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>必要な資料を配付します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	必要な資料を配付します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	必要な資料を配付します。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	「課題レポートの理解度」(60%)及び「総合課題レポート」(40%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	親族法における「戸籍」、また「戸籍制度」が持つ意義を考えて下さい。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	課題レポートについては、SHの時間などを使ってフィードバックします。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。会社法の中から、適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。		
到達目標	この演習を通じて、学生は、会社法を中心にして、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。積極的に議論に参加して欲しい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。 方法は、判例・学説の研究である。 事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	原則として定期試験は行いません。平常点70%レポート30%		
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室		
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には、合計20時間とって下さい。 提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習への導入として、日本法史に関わる基礎知識を身につけるとともに、さまざまな問題について調べるためのノウハウを提供します。 SDGs-5, 10		
到達目標	この授業を通じて学生は、日本法史に関わる基礎知識をもつとともに、広く社会問題についてその歴史的淵源を探り、問題解決の糸口を見つけられるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	ゼミの主役は学生諸君です。学生諸君が自ら調べ、まとめ、プレゼンテーションできるようにアドバイスしたり、足りないところを補足したり、誤りを修正したりします。今年前期は、対面授業ができませんので、WEBを通して発表してもらい、アドバイスを与えたいと思います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	このゼミでは、日本法史に関わる様々なテーマを一通り説明したのち、学生諸君により深く自ら調べ、プレゼンテーションしてもらおうと思っています。報告者は、文献、インターネット、新聞記事、雑誌論文など、関係資料にあたり、それについて噛み砕いて説明してください。それを材料に討論ができればと思います。報告者は、何よりも予習が大切です。		
関連科目	近世日本の法文化、日本の人権の歴史、日本女性史、祭りと地域の法社会史、その他あらゆる科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	WEBの授業への参加（80%）と、レポートの内容で（20%）で評価します。		
学生への メッセージ	知的好奇心をもってほしい。		
担当者の 研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	ゼミでの発表の際には事前に十分な準備（調べたり、レジユメの作成）をしてください。勉強に上限はありません。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習の導入教育ですので、税の世界に馴染んで頂く内容としています。私たちの社会生活や経済活動が税とどのように関係しているのかを学習します。税は税法という観点からだけではなく、国家財政のようなマクロの世界から企業の経営や投資の判断などのミクロの世界まで、多種多様な世界に関係しています。税を通して社会を見てみましょう。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①日常生活と税とのつながりを理解できるようになること ②租税法の基本的考え方に慣れること																		
授業方法と留意点	遠隔授業のうち、Teams を使った双方向のオンライン型授業を行います。 様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えると同時に、租税法の概要が理解できるようにします。課題発表 (プレゼンテーション) の後に、内在する税法上の基本問題を取り上げ、ディスカッションを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	講義、課題発表、ビデオ鑑賞、判例解説、社会人体験ゲーム等により、様々な視点から税を捉え、日常生活との関わりや税の機能等について考えると同時に、租税法の概要が理解できるようにします。毎回のテーマについて事前学習し、積極的に発言出来るよう心掛けてください。																		
関連科目	所得税法、消費税法などの租税法、財政学、憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>税法入門</td> <td>金子宏ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>民法入門</td> <td>野村豊弘</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣	2	民法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	税法入門	金子宏ほか	有斐閣																
2	民法入門	野村豊弘	有斐閣アルマ																
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度 (50%)、課題発表の内容 (30%)、及びレポート (20%) の合計で評価します。																		
学生へのメッセージ	租税法は社会人となってからも役に立つ実学の代表格です。税の世界に興味を持って頂きたいと思います。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。専門演習ⅠⅡとは異なり、税と社会とのかかわりに関心を持って頂くことが目的ですので、ゼミで取り上げた内容以外も幅広く学習して下さい。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	2年後期から始まる専門演習での学習にスムーズに入っていけるように指導します。すなわち、法学基礎演習Ⅰが大学生としての勉学のために、そして法学基礎演習Ⅱが法学部教育のために、それぞれにスムーズに入っていけるよう設置された科目であるのに対して、ブレ専門演習は、専門演習での学習に向けてのいわば助走的な内容のゼミとなります。		
到達目標	この演習を通じて学生には、専門演習での学習に向けて、社会科学の演習で必要となる社会情報の取得や演習スタイルの学習のための準備の仕方として15名以下程度の少人数の中での報告形式に慣れることが期待されます。		
授業方法と留意点	学生による報告が主体の形式で行います。今年度はWeb上で実施します。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外の活動は特に予定していませんが、報告(レポート作成)のための時間は各自必要となります。また、必要に応じて、Web上で、コメントや質疑応答を行っていきます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この演習では、社会科学分野の専門学習を念頭に置いたテーマを設定します。特に、国内外の政治・社会問題の動きをみる眼を養うための、すなわち国の内外でいかなる問題が起き、いかなる課題に直面しているか、そしてそれにどう向き合っていくかを考察していきます。演習での報告テーマについては、主に教員からジャンルやイシューについて提示していきますが、演習参加者の希望なども取り入れたいと思います。報告に際しては、事前の学習が必要なのは言うまでもありませんが、事後についても演習で得られたコメントや質問を参考に、さらに報告内容をブラッシュアップしてもらいたいと思っています。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	学習への参加姿勢10%および課題レポートの内容90%により評価します。		
学生へのメッセージ	国内外の政治や社会の動き(時事問題)に関心がある人に向いているゼミです。		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間でさらに上乗せが必要で		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	古川 行男, 田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習のブレであるから、民法の基本的な事項一般について理解することを目的とする。		
到達目標	民法全般について学び、民法とはどのようなものかを知る。		
授業方法と留意点	基本的には講義するが、学生からの発言を大いに待っている。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	繰り返しになるが、民法全般（総則、物権、債権、親族、相続）について一通りの知識を習得する。 民法は全体の構造を知れば部分が理解できるし、部分がわかれば全体像も見えてくるので、まず全体を知ることが重要である。 そのためには予習復習は大切である。		
関連科目	民法概説、民法の各専門科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	出席と授業中の発表、態度により評価する。		
学生へのメッセージ	自分から学ぶ姿勢が何より大事である。		
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室		
備考	一度は模擬裁判をやろうと考えている。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	家庭・学校・地域に関わる身近な社会問題について、「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という視点を大事にして、演習生全員で真剣に議論をする。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①「自分が当事者だったらどう思うのか、どうするのか」という感情移入の姿勢を身につけ、②「人それぞれ」では済ませず、価値観が異なる人と「どう折り合いをつけるのか」考えて議論できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	まちづくりや企業研修などで使われる「ワークショップ」の手法を体験してもらえように進める。演習生みんなで意見を出し、作業をし、議論をするので、能動的な参加が求められる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	多くの人が関わる、少なくとも身近で見聞きする社会問題を取り上げて議論をする。ひとつのテーマを4回ほどで検討し、議論し、演習としての結論を出すのに、みんなで努力する。テーマは演習生と相談して決めるが、家庭では「家事・育児・介護の男女間負担差」「夫婦別姓」「不妊治療」、学校では「学級崩壊」「いじめ」「部活動」、地域では「子どもの深夜徘徊」「性犯罪の防止」「ゴミ屋敷や空き家の問題」などを考えている。議論のための下調べなどの準備が必須になる。		
関連科目	専門演習、卒業研究。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	演習時限の全出席を前提とする。ワークショップへの貢献度(50%)、ワークショップの成果物(50%)の合計によって評価する。		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	ワークショップの下調べに各回1時間ほどが必要になる。 議論の推移と結果を整理して全員で共有する。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習に入る前の導入となります。しかし専門演習に継続するわけではないので15回で一つの区切りとなるような内容となります。		
到達目標	この講義を通じて学生には、とにかく、議論における発言するという力を身につけられるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	出席は前提です。ディベートの中での発言が必須です。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	ビデオ、文献などをきっかけとして議論してもらいます。 文献は事前に渡すことになりますので読んできてもらいます。 発言の振り返りもしてもらいます。		
関連科目	法学部開講科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	出席を前提として、発言回数・内容 (60%)、振り返りペーパー (40%)で評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、演習時に使用する素材に関する文献を読むこととなります (30分)、事後学習としては当日の演習に関する課題を課すのでその作成を行います (60分)。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「ブレ専門演習」は、2年次後期からはじまる「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、および4年次の「卒業研究」につながる演習である。したがって、この分野についての興味を高め、2年半かけて深く学ぶための準備を行うことが本演習の目的である。		
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動に関する諸問題を検討し関連する知見を身につけることが期待される。		
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。教科書は特に用いないが、必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICTツールを活用していただく場合もある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業テーマ：「スポーツ活動にかかわる諸問題を資料や判例から検討する」 方法と内容：演習形式。スポーツに関する判例の検討、レポートの作成。 授業の都度指示する課題に対する予習と復習 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	複数回出される課題への回答をもって評価する (100%)。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室		
備考	各回に1時間程度、すなわち半期で15時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	新聞やインターネットなどから得られる刑事事件に関する記事や専門文献、判例などを使いながら、刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）についての理解を深めていく。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する基礎的な知識を修得するとともに、議論やプレゼンテーションをする力を身につけることが期待される。																		
授業方法と留意点	受講生の通信環境などを考慮したうえで、Microsoft Teams などの ICT ツールを用いて行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	オーソドックスなところでいえば、毎回担当者を決め、レジュメや PowerPoint を使って各々興味のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、その後、全体で討議をするといったかたちになるが、なにしろ半期 15 コマしかないことから、なにをどのようにやっていくかは受講生と相談して決めていく予定。 なお、これらはすべて ICT ツールを活用して行う。 したがって、事前・事後学習についても、授業テーマによって若干異なることになるが、プレゼンテーションの場合であってもディベートの場合であっても、その準備やその後の振り返りにそれぞれ 30 分程度は要することになるかと思われる。																		
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ディベートやプレゼンテーションなどの内容 (50%)、ディベートやプレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度 (50%)。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11 号館 9 階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	<p>私たちは普段、様々な事柄に対して自分なりの意見をもっています。こうした意見は、他の人と類似のものとなることもあれば、正反対と言ってもいいものになることもあります。そもそも1つのことに対して多種多様な意見が存在することや、自分のものを含むそれらの意見がどのような過程を経て形成されるのかを、特別に意識することはあまりないと思います。しかし、ちょっとした意見の食い違いが大きな問題に発展するということが往々にして起こります。したがって、自分の意見がいったいどんなふうに関係する人によって受け取られるのか、また他の人の意見の趣旨がどのようなものなのかを理解する、または理解するよう努めることは重要です。</p> <p>そこで、このゼミでは、特定のトピックについて調べるなどして自分の意見がある程度固めたいという思いで、ゼミ生の皆さんで話し合うことを通じて、ご自分の意見をもつための材料を収集する術を学んだり、ご自分の意見を見つめ直ししたりすることの重要性に気付いていただきたいと思います。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、ご自分の意見を形成してそれをより的確に表現し、他の人の意見を理解するための基礎体力を得ることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>教員から講義をおこなう部分と、ゼミ生の皆さんが自ら考え、議論したり作業するといった活動をしていただく部分が混在することになります。ゼミ生の皆さんが個別に作業したり、またはグループで議論したり作業する時間のほうが、割合としては多くなります。</p> <p>なお、上記指導および皆さんからの報告や活動につき、Moodle など、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細は別途、お知らせします。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>あることについて自分の意見を形づくるためには、そもそもその対象となる事柄についてある程度の知識を得る必要が出てきます。したがって、学生の皆さんには、一定のテーマについて調べていただいたり、それについて発表していただいたりして、ご自分の意見をもつ過程をしっかりと感じていただくことをしたいと考えています。</p> <p>ゼミ中におこなう活動や議論の準備として、事前に読んでおくべき資料をお渡ししたり、課題を課すことがありますので、各自、ゼミ前後にいくらか時間を費やしていただく必要があります。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	ゼミ中の受講姿勢や議論の内容 (70%)、課題・提出物 (30%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	このゼミで、向上心をもって、自ら行動する力をつけていただいきっかけにいただければと思います。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	<p>課題については、次の回で講評をおこないます。</p> <p>事前・事後学習の総時間数の目安：20時間</p>																		

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	民法・消費者法に関わる身近な事例について調査・研究します。 ゼミでは、民法の基本を学ぶと同時に、法を学ぶ上で重要となる判例・資料の読み方について、個別指導します。		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法の基本を理解すること、判例・資料の読み方の基礎を習得することを期待します。		
授業方法と留意点	遠隔授業で行います。 課題について各自作成したレポートに対する指導が中心となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	まずは、いじめ問題をテーマに、具体的には大津いじめ訴訟を取り上げます。(第二回のテーマについては、いじめ問題についての受講生のレポートをみて判断します。) 詳細は、t e a m s 上で指示します。		
関連科目	民法・消費者法		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	レポートの内容を評価します。		
学生へのメッセージ	外出自粛で本来のゼミを実施できないことが残念ですが、この機会に、判例・資料の読み方をしっかり身に付けられれば、災い転じて…です。がんばりましょう。		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室		
備考			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	<p>・指導方針</p> <p>1 このブレ専門演習は、2年次後期の「専門演習Ⅰ」、3年次の「専門演習Ⅱ」、そして4年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</p> <p>2 そこで、本演習では1年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例(判例)や学説を調べて報告してもらいます。</p> <p>3 もつとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</p> <p>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</p>																		
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <p>「・刑法の論点を抽出できる</p> <p>・論点に対する判例や裁判例を調査できる</p> <p>・論点に対する学説を調査できる</p> <p>・論点に対して私見を展開できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・今般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義はMicrosoft社 teamsを活用して行いますが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。</p> <p>・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p> <p>・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・ゼミ内容</p> <p>この演習では、刑法(罪刑法定主義、刑法総論(全犯罪共通の成立要件の検討)、刑法各論(各種個別犯罪〔殺人・強盗・放火等〕の成立要件論)、および、刑事学・犯罪学(犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策)を主な検討対象とします。</p> <p>・授業内容</p> <p>刑事法に関する事例問題(論述式)の答案作成方法</p> <p>刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法(リーガル・リサーチ)</p> <p>個別テーマの報告</p> <p>・授業時間以外での活動</p> <p>学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</p>																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点(第3版)</td> <td>西田=山口=佐伯ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例プラクティス刑法Ⅰ</td> <td>成瀬=安田ほか</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td> <td>成瀬=安田ほか</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点(第3版)	西田=山口=佐伯ほか	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬=安田ほか	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬=安田ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点(第3版)	西田=山口=佐伯ほか	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬=安田ほか	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬=安田ほか	信山社																
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	<p>評価方法</p> <p>プレゼンテーション(50%)とディベートへの参加度(50%)によって評価する。</p> <p>以下の点をとくに重視します。</p> <p>①発表時に問題提起を適切に行っているか(発表姿勢)。</p> <p>②提起した問題に関連する判例や先行研究(学説)を十分に、かつ、主体的に調査しているか(主体的学習)。</p> <p>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか(論理性)。</p>																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	当該民法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。																
到達目標	ブレ専門演習では、法律全般について広く学んだ基礎演習とは異なり、民法法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待されます。また、これからともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前																
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方(論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等)につき指導を行う。後半は、2, 3人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1学期内に、各グループとも、2, 3回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い知の化学反応が生じること																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合っ発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を読み込むこと(インプット)はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法(アウトプット)についても熟慮すること。 発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決(判旨・判決理由)を記載したものと、の2点を別個に用意すること。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度議論を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料や配布レジюмеを作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。 事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点(60%)、プレゼンテーションやレポート(40%)で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次回のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。																

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。		
到達目標	この演習を通じて学生には、ディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込み、その内容を理解できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	2年前期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	成績は、演習で出される課題に対して、情報等を準備しているかどうか及びそのためのグループ活動に積極的に参加しているかどうか (30%)、並びに、その課題の報告等に対して、どのような役割を演じているのか及び質疑応答等において積極的に対応しているかどうか (70%)、で判断を行う。		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題をグループとして演習外でも準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対する報告内容に対して、教員より応用的課題を与えるので、それに対して90分を基準として行う必要があります。		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	このプレゼミの目標は、宅建の試験対策を通じて「勉強する習慣」を身につけることです。しっかり教科書を読んで基本事項の暗記に努め、次に過去問を解いて自分の苦手箇所を把握し、最後に再び教科書に戻って復習する。その繰り返しのなかで少しずつ知識が定着していきます。このプレゼミではそういう勉強法が身につくような指導をしたいと思います。			
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、宅建合格に必要な実践的な法的知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。			
授業方法と留意点	まずは宅建のテキストを全員で講読し、過去問を解きます。事前の予習がゼミ参加の前提となります。もちろん事後の復習は必須です。過去問演習のなかで興味をもった法制度や判例などについて、グループあるいは個別で報告してもらいます。 *新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度はしばらくのあいだ、対面ではなく Teams (あるいはLINE) などの ICT ツールを用いてゼミを行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎時間、範囲を決めて全員で宅建のテキストを講読し、該当箇所の過去問を解いていきます。毎回それなりの予習と復習を求めたので、このゼミを希望する学生はそのつもりでいてください (プレゼミ終了後になってしまいますが、ぜひ10月中旬の宅建士の試験も受けてください)。また、宅建対策で得た知識を使ってディベートやディスカッションも行う予定です。加えて、グループワークを通じて、関連する判例を調査・報告してもらうこととなります。			
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	スッキリわかる宅建士 テキスト+過去問スーパーベスト 2020年度	中村喜久夫	TAC 出版
	2	スッキリとける宅建士 過去問コンプリート 12 2020年度	中村喜久夫	TAC 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	民法 (全) 第2版	潮見佳男	有斐閣
	2	都市法概説 第3版	安本典夫	法律文化社
	3			
授業形態	Teams コード			
Moodle コース名および登録キー	Moodle コース名			
連絡手段	メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法 (基準)	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストと発表 (プレゼン) などへの取り組み 90%と、ゼミ中での発言 (ディスカッション・ディベートなど) 10%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。			
学生へのメッセージ	ゼミは学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事 (コンパや合宿など) も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。			
担当者の研究室等	11号館9階 松島講師室			
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります (これらの事前学習に60分以上)。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください (事後学習60分以上)。			

科目名	ブレ専門演習	科目名(英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	「自治体政策への提言」をテーマとする。特定の社会問題に対する政策立案という体験を通して、地方自治についての理解を深め、調査・研究方法の基礎を身につけてもらう。4~5人程度のグループを作り、政策提言をしてもらう。取り上げるテーマはグループごとに決定する。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、社会問題を認識し、原因を分析した上で、適切な政策を立案し、それを分かりやすく人に伝えることができることが期待される。																		
授業方法と留意点	グループワークを中心に授業を進行する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>1. 問題発見 取り上げるテーマを見つけるため、報道や雑誌・書籍などを頼りに、社会問題を見つける。社会問題について、その背景と現状を明らかにする。</p> <p>2. 問題分析 取り上げたテーマについて、問題発生の原因を明らかにする。その際、文献調査を行った上で、現地調査やインタビュー調査を実施する。</p> <p>3. 政策立案 原因を踏まえた上で、その解決のための政策を立案する。複数の案を立てた上で、メリット・デメリットを比較し、最適な政策パッケージを提案する。</p> <p>4. 政策提言 立案した政策をプレゼンテーションする。</p> <p>事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集を行う(4時間)</p>																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>自治体政策への提言：学生参加の意義と現実</td> <td>今川晃</td> <td>北樹出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	自治体政策への提言：学生参加の意義と現実	今川晃	北樹出版																
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ	夏休みに開催される、「全国大学政策フォーラム in 登別」での入賞を目標にします。まずは、政策立案の楽しさを体験してみてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考																			

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	専門演習 I でどの領域に進んでもいいように、政治問題・社会問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題・社会問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題・社会問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築す																		
授業方法と留意点	オンライン授業で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業テーマ・内容 <p>政治問題・社会問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。</p> <p>どの学問領域に進んでもいいように学問的基礎を固め、自分が関心のある問題の領域を定めることができますようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法 <p>学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題・社会問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前、事後学習課題 <p>事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>																		
関連科目	法学基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅰ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	授業でのグループディスカッション (50%) とプレゼンテーション (50%) で評価します。																		
学生へのメッセージ	この時期に自分が関心のある学問領域を定めてどの専門演習に進みたいかを決定し、その領域に関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。																		

科目名	ブレ専門演習	科目名 (英文)	Pre-Seminar
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2134a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。																		
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をするとともに、簡単な問題を解きながら知識の確認をします。具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。前期授業はWeb方式となるので大学指定のMicrosoft「Teams」で、「J160-ブレ専門演習-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、これについてゼミ生相互の議論を重ねる中で、法的な解決といわれるものの仕組みを理解できるようにします。講義に関しては予めテーマを定めるので、事前に1時間程度関連科目の教科書等の該当箇所を確認するとともに、事後にも配布資料等の確認をしてください (同時間程度)。報告については受講者の希望を考慮して事例を選定しますが、特に報告者は十分な準備が必要です。 題材は一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。																		
関連科目	労働保護法、労働団体会法、民法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	学期末に課するレポートの内容 (70%)、授業中の課題 (30%) により総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習 I は、3年次の「専門演習 II (通年)」及び4年次の「卒業研究 (通年)」においてその理解に必要な基礎知識の「再確認」を主眼とします。「国際私法」の講義は3年次開講ですので、この演習では、2年次までに履修する授業科目を中心に、関連知識を整理することが目的となります。		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法の理解に必要な知識として、特に、民法総則、物権法、債権法、親族法、相続法の基本的な知識を理解していることを説明できるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	国際私法に関連する基礎的知識を体系的に整理し、「それらの問題点は何か」「何が重要な事項なのか」といったことを資料として配付し、それに対する設問に答えるという形式で行います。学内での授業を予定していますが、事情変更により、一部を WebFolder を使った資料配付と課題提出になることもありますので注意してください。最後に、「総合課題レポート」の提出を求めます。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「専門演習 I」の進め方、3年次「専門演習 II」、「卒業研究」との関係などの説明 2. 財産法・家族法(戸籍法を含む)の順序で、国際私法に関連する重要事項を検討 3. 国際私法の概略の説明と総括 <ol style="list-style-type: none"> 1 については、1 回程度 2 については、1 3 回程度 3 については、1 回程度を使って行う。 <p>具体的な事前・事後学習については、その都度指示しますが、事前に配付する資料の熟読を中心に予習と復習のいずれも各授業時間ごとに2時間程度の見直しが必要となります。</p>		
関連科目	民法総則、物権法、担保物権法、債権法、親族法、相続法など		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	必要な資料を配付する。	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	適宜、紹介します。	
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	チーム内のチャット及び学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	「最後に求める「総合課題レポート」の理解度」(40%)及び、「授業での発言状況、質問に対する返答状況」(60%)を合計して評価します。		
学生への メッセージ	民法の体系を考えながら、民法全般の基礎知識を再確認しましょう。		
担当者の 研究室等	11号館9階 小山教授室		
備考	Teams に「質疑応答」チャンネルを作成してそれを使っての双方向性を維持します。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、法学検定試験やビジネス実務法務検定試験対策についても指導する。																		
到達目標	この授業を通じて、学生は、商法全般の知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法律学の習得をめざす。積極的に議論に参加して欲しい。授業は、Teams で行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習のテーマ・内容は、商法に関する重要な法律問題の研究である。方法は、判例・学説の研究である。事前、事後学習課題は、割り当てられたテーマにつき十分に研究することである。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	v9wjj2p																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。メールアドレス：																		
評価方法(基準)	原則として定期試験は行いません。出席と受講態度、レポートを総合して、判定する。平常点 70% レポート 30%																		
学生へのメッセージ	演習には、必ず出席して、積極的に議論に参加してください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	目的意識を見失わず、頑張ってください。事前・事後の学習には合計 20 時間とって下さい。提出されたレポートに対する指導は、提出後の演習の時間中に行います。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	日本法史に関心をもち、またその基礎的な知識を身につけることを目標とする。日本の伝統的な法文化を知り、またそれが西欧法継受によって捨て去られることの意味を考えさせる。 SDGs-4, 5, 10		
到達目標	このゼミを通じて学生は、日本の法史に関心をもち、それにかかわる基本的知識を身につけるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	Teams を用いて教材を配布するので、それを読んで日本法史の基礎的な力を身につけるようにする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	日本法史のあるテーマについて、関連文献を WEB を通じて熟読し、理解を深めるものとする。毎回ではないが、レポートによって知識を確認し、勉強の深度を確認することにした。		
関連科目	近世日本の法文化・日本の人権の歴史・家族と地域の歴史・日本女性史・祭りと地域の法社会史		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード	yncx6is		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	Teams 内の質問チャンネルか研究室メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	定期試験は行わない。レポート (90%)、対面型授業が実施できれば数回の出席点 (10%) を加え、総合点で評価する。		
学生へのメッセージ	楽しく学び、ほどほどに息を抜きましょう。		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室		
備考	歴史が好きで、意欲的に取り組むことのできる学生に選択してもらいたい。コツコツ真面目に取り組む姿勢が大事。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	このゼミでは、租税法の基礎的な知識を習得するとともに、税の世界の考え方に触れることができます。また、租税法は経済活動と密接に関係しており、租税について学ぶことは社会経済の動きを考えることにもつながります。社会人となれば何らかの形で経済活動に参画するため、租税と関連しないわけにはいきません。租税法は、皆さんが社会人となった場合にも有益な学問であり、いわゆる実学の代表格といえます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法の原則、基本的考え方が概略分かるようになること。 ②判例等の読み方に慣れること。 ③個人の確定申告書の作成ができるようになること。																		
授業方法と留意点	課題発表 (プレゼンテーション)、裁判劇、確定申告書の作成、ディスカッション、ゲーム形式での学習など種々の方法により演習を行います。また、配付資料に基づいて議論していきますので、自分の考えを積極的に発言してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	租税法を学びながら、現在の社会経済との関わりについて考えていきます。 この演習は、専門演習Ⅱへの導入という位置づけですので、判例研究を行えるように租税法の基礎を学びます。また、社会人体験ゲームの結果を基に、所得税の仕組みや税額の計算方法を学び、最後には個人の確定申告書を作成します。																		
関連科目	国税通則法及び所得税法等の各税法、財政学、憲法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図解所得税法</td> <td>松崎啓介</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会																
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	r7bksso																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メールを利用。																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度 (50%)、課題発表の内容 (30%)、及びレポート (20%) の合計で評価します。																		
学生へのメッセージ	専門演習Ⅰは、将来かわることになる租税の世界に慣れて頂くことを主眼としています。皆さんは、消費税以外に馴染みがないかもしれませんが、所得税などについても比較的しやすい内容としていますので心配はいりません。一足先に社会人になったとお考えください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気でのゼミにしましょう。 授業計画に応じたテーマにつき、事前・事後の学習を少なくとも毎回各30分程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	私たちは日頃、さまざまなメディアを通じて氾濫する情報の中で生活しており、必要な情報を取捨選択し、かつそれを正しく読み取っていくことが求められています。そういう『みる眼』を養っていくことを目的とした演習です。特に、新聞あるいはテレビから発信される情報との“大人のつきあい方”を模索していきます。		
到達目標	この演習を通じて学生には、国内外の情報に積極的に接していくとともに、マスメディアなどによって氾濫するさまざまな情報を的確に読み取り、自分にとって必要な情報を取捨選択できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	ゼミ形式。学生によるプレゼンテーションおよびそれに対するディスカッションを行います。毎回欠かさず出席すること。なお、今年度は必要に応じて、対面授業と遠隔授業 (Web 上) のハイブリッド方式で実施します。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	政治や社会の動きをみる眼を養うことがテーマです。マスメディアのもつ特性やその発信するさまざまな情報についての基本的な視点を、実際の素材を用いながら学び考えていきます。3年生の専門演習Ⅱでの学習を進めていくための必須となる社会情報の基礎分析力を養います。なお、演習の中で適宜、予習あるいは復習の課題を提示します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	演習での勉学姿勢、特にディスカッションへの参加など (50%)、およびプレゼンテーションによる発表の内容 (50%) により評価します。		
学生へのメッセージ	演習では、積極的な参加が必要です。演習は、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』といえます。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見いだせるか、その成果は、みなさんの演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室		
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 敦, 古川 行男
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	民事法の基礎的知識を確認し、深めることを目的とするゼミである。民事法は財産と家族という我々の日常生活に関する一連の法であって、現実の生活と密接に関係している。典型的裁判例、法ことわざを素材とすることにより民事法の基礎的知識を確実に習得することを目標とする。 授業担当者の田中は、大阪高裁・地裁、東京地裁等の裁判官として39年間勤務して、財産法等の民事事件に数多く携わってきた。授業の中では、法理論にとどまらず、実務経験を踏まえた講義をしていきたい。		
到達目標	2年生時は3年生時以降に自主的な学習をするための準備期間としての性格が大きい。民法の基礎的な知識の復習を主としていきたい。		
授業方法と留意点	民事上の権利の発生・消滅に関する法（実体法）及び権利の実現に関する法（手続法）の基礎的事項と全体像を確認した上、重要な法律問題について検討・討論する。民事法は財産と家族という日常的で現実的なことを扱う法であり、現実の生活と関連づけて法律問題を検討することが重要である。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基本的に2年生時は基礎的な講義をするが、様子をみたくて判例ブラクティスⅠ、Ⅱ、Ⅲ、判例百選等から選んだ判例を検討する。宅建等の資格試験にも有益なように、主に不動産及び債権の実現という現実的な問題について検討する。法律の学習には抽象的命題（条文、学説・判例）の具体例を知ることと紛争がどの命題に関する問題なのかといった二つの側面～「具体化と抽象化」、平たく言えば「例えば～」と「要するに～」～がある。論理の展開にはこの二つの側面（具体化と抽象化）を意識することが必要である。各ゼミ生は、このことに留意して与えられた題材に取り組んでもらいたい。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業/Teams「オンライン型」		
Teams コード	3ejla41		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	出席態度（オンラインを含む）及び与えられた課題に対する取り組み等によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館10階 田中教授室		
備考	積極的に課題に取り組んで議論すること、質問すること。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の最初の段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていききたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聞き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査（ともにフィールドワーク）、学外の方への活動報告（プレゼンテーション）、仲間との活動の企画と振り返り（ディスカッション）が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。*遠隔の場合、zoomで行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom		
Teams コード	08b3tzv		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	大学メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(40%)、企画・振り返りへの貢献度(20%)、読書ノート(40%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1~2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。 報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	その他 zoom		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション (60%)、ふり返りのペーパー (40%) で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(4時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む(30分)、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「専門演習 I」は、3 年次の「専門演習 II」と、4 年次の「卒業研究」につながる演習であり、専門分野を 2 年半かけて深く学ぶための準備を行うためである。したがって、この準備を完了することが専門演習 I の目的である。			
到達目標	この授業を通じて学生には、スポーツ活動を多面的（主に法学・政治学・法政策学）に学び関連する知見を身につけることが期待される。			
授業方法と留意点	ICT ツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。必要に応じて資料を配布する。授業中に提示した課題を解決するために、ICT ツールを活用していただく場合もある。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業テーマ：「スポーツ活動を多面的に学ぶ」 ・ 方法と内容：スポーツに関する資料輪読、レポートの作成、作成したレポートのプレゼンテーション、およびディスカッションを行う。 ・ 授業の都度指示する課題に対する予習と復習 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」（併用）			
Teams コード	3evfr2r			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	授業への参加を前提とし、各回の取り組み（与えられた課題の完成度 50%、プレゼンテーションの内容 20%、ディスカッションでの発言 30%）で評価する。			
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11 号館 10 階 石井教授室			
備考	各回に 1 時間程度、すなわち半期で 15 時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。			
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。			
授業方法と留意点	原則として、対面方式で行う予定であるが、諸般の事情や受講生の通信環境などを考慮したうえで、Microsoft Teams などの ICT ツールを用いて行う方式に変更することもありうる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行うほか、状況に応じてディベート等も行いたいと考える（対面方式・オンライン方式）。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに1～2時間/日を要する。			
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	対面授業			
Teams コード				
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	プレゼンテーションなどの内容（50%）、プレゼンテーションなどにおける発言・取り組みの姿勢・態度（50%）。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>日頃、意識して「議論する」ということはあまりないかもしれませんが、日常生活において他の人と意見が異なることは多々あると思います。そのようなときに、話し合いによって自分の意見を相手方に理解してもらい、また相手方の意見を理解すること、つまり相手方と「議論する」ことによって、お互いにとって納得できる合意を得ることが可能になります。そうして何らかの合意を得ることが必要な場面には、友人や家族などとの生活においてだけでなく、将来的には仕事をするうえでも遭遇することになります。そこでこのゼミでは、「議論する」ことに焦点を当てて、どうやって議論をしていくのか、相手に自分の意見を理解してもらうためにはどう話すべきなのか、また相手の意見を理解することがどれだけ重要なのか、といったことを少しずつ学んでいきたいと思ひます。</p> <p>3年次におこなう模擬裁判においても議論をすることがメインとなりますので、専門演習 I はその準備期間という位置付けでもあります。このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。</p>																		
到達目標	<p>毎回、2-3 人 1 グループを報告者として、一定のテーマについて基礎となる報告をおこなっていただきます。そのうえで、全員で、このテーマについて議論をしていただきます。したがって、報告者は、議論をおこなうことができるようなテーマを選択し、それについて基礎的な情報を提供することを目的としてレジュメを準備していただくとともに、報告当日の議論において司会を務めていただきます。</p> <p>報告を聞く側の皆さんには、他人事のように報告を聞くのではなく、積極的に議論に参加するという姿勢をもって臨んでいただきたく思ひます。</p>																		
授業方法と留意点	<p>初回から数回は、報告にあたって必要な準備の方法などについて学びます。その後、各々の報告に移っていきたく思ひます。皆さんが気軽に話せる内容を報告のテーマとしていただいて、とにかく自分の意見を口に出す、また自分の意見を他の人に理解してもらえように話す、という練習をしていただきたく思ひます。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																			
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle/その他 (Zoom)																		
Teams コード																			
Moodle コース名 および登録キー	法学部家本ゼミ専門演習 I2020 wren6goose																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢 (80%)、課題・提出物 (20%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	議論をすることによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思ひますので、こうした活動を通じて、学生間での交流を深めてもらいたいと考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 家本准教授室																		
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：20 時間																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	法律討論会を行います。 準備作業はグループ内で、原則、非対面で行い、内容はレポートで報告してもらいます。 討論会本番は、感染拡大の状況を見て、対面で行うか、オンラインで行うか判断します。																		
到達目標	本ゼミでは、後期2回の法律討論会を行います。 なお、本ゼミでは、3年次に、他大学（近畿大学・立命館大学・神戸学院大学）との合同ゼミ（法律討論会）を行います。この討論会を勝ち抜き実力の養成も副次的な目標となります。																		
授業方法と留意点	討論会は2～3人のチームで行います。受講者には、チームの中での協調性、および、議論に参加する積極性が求められます。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	法律討論会を行います。 討論会は、事前の準備は9割です。グループでの作業となりますので、他のメンバーに迷惑をかけることのないよう、各自、自覚をもって臨んで下さい。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	p2vmat2																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	討論会に臨む姿勢（100%）																		
学生へのメッセージ	ゼミの仲間は、一生の仲間です。「自分さえ良ければ」ではなく、皆で高めあい「学問」しましょう。																		
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	<p>・指導方針</p> <p>1 この専門演習 I は、3 年次の「専門演習 II」、そして 4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</p> <p>2 そこで、本演習では 1 年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例 (判例) や学説を調べて報告してもらいます。</p> <p>3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</p> <p>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</p>																		
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <p>「・刑法の論点を抽出できる</p> <p>・論点に対する判例や裁判例を調査できる</p> <p>・論点に対する学説を調査できる</p> <p>・論点に対して私見を展開できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・ゼミ内容</p> <p>この演習では、刑法 (罪刑法定主義、刑法総論 (全犯罪共通の成立要件の検討)、刑法各論 (各種個別犯罪 [殺人・強盗・放火等] の成立要件論))、および、刑事学・犯罪学 (犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策) を主な検討対象とします。</p> <p>・授業内容</p> <p>刑事法に関する事例問題 (論述式) の答案作成方法</p> <p>刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法 (リーガル・リサーチ)</p> <p>個別テーマの報告</p> <p>・授業時間以外での活動</p> <p>学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</p>																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義 I・II、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点 (第 3 版)</td> <td>西田=山口=佐伯</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例プラクティス刑法 I</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例プラクティス刑法 II</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣	2	判例プラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社	3	判例プラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社																
3	判例プラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社																
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	p8ctcr4																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	<p>評価方法</p> <p>プレゼンテーション (50%) とディベートへの参加度 (50%) によって評価する。</p> <p>以下の点をとくに重視します。</p> <p>①発表時に問題提起を適切に行っているか (発表姿勢)。</p> <p>②提起した問題に関連する判例や先行研究 (学説) を十分に、かつ、主体的に調査しているか (主体的学習)。</p> <p>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか (論理性)。</p>																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	当該民法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。ただし、2年次の段階では民事訴訟等が未履修ですので、まずは民法等の復習ならびに発展問題を取り扱い、私人の権利、ならびに私人間の権利の衝突・紛争の態様につき学んでもらいたいと思います。																
到達目標	専門演習 I では、民法法にフォーカスして、より具体的に学んでいきます。この演習を通じて学生には、これから2年半続くゼミの出発点として、研究テーマの設定、判例研究・判例発表の方法等を、しっかり身に付けることが期待される。また、これから2年半をともに過ごすゼミ仲間とより良い関係が築けるよう、最初は、グループ発表とし、スポーツ交流等も交え、良い雰囲気のゼミ作りをまずは目指したいと考えています。 後半は、2・3名でのグループ発表や個人発表を行い、社会科学系の学問における発表の仕方を身に付けるとともに、人前で発																
授業方法と留意点	【授業内容】 前半は、ゼミでの発表の仕方（論文・判例・その他の資料等の見つけ方、配布資料の作成方法等）につき指導を行う。後半は、2、3人のグループでの研究発表を予定。なお、発表毎に質疑応答を行うので、他のグループの研究発表時にも、積極的な参加姿勢を要する。1学期内に、各グループとも、3回程研究発表を行う機会を有するが、発表毎に構成員を変更し、ゼミ生同士が、より多くのコミュニケーションを、それぞれのメンバーととることができるように考慮している。そこから研究発表にも、より良い化学反応が生じることを期待																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合っ発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したもの、の2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法の見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。 事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teams コード	osiqmm0																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取組み方ならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																
学生へのメッセージ	最初は、グループ発表で、ゼミでの発表方法やディスカッションの仕方等に慣れていってもらえればと思います。このメンバーで卒業までの2年半を過ごすことになるので、皆が気軽に話し合えるような良い雰囲気のゼミになれるといいですね。																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次のプレゼンテーションに還元できるように努める。 なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。																

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	本演習では、ゼミ生全員で最低限での法の意味、とりわけ民法の意味・制度について把握できるようになることを目的としている。そのために、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを理解していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。		
到達目標	本演習を通じて、学生にはディベートなどを駆使して、人前で話すための技術や留意点を体感し、人に伝えるための方法を身につけ、その後一つ一つの判例を使って全員でじっくりその内容を読み込む事を考えている。ただし、学生の目標等に合わせて、柔軟に対応する予定である。		
授業方法と留意点	2年前期の予定としては、①学生によるテーマ設定に基づくディベートにより、プレゼンテーション能力の涵養、②判例を具体的に読み、法制度を具体的に理解していくことを予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	3年次で、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定しているため、その前提となる知識及び経験を涵養する予定である。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、3年次で他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」		
Teams コード	91r03tv		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み(20%)、得られた知識(20%)、得られた経験(20%)、今後の課題(20%)、個人的PR(20%)をもとに判断を行う。		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指しています。		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習 I では特定の法分野に限定せず、欲張っているいろいろな法分野を学習していきましょう。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の基礎知識を用いて、現代社会の諸問題を考えてみるつもりです。		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法の基礎知識を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。		
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者（グループワーク）を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義やDVD鑑賞を行います。 *後期のゼミは対面で行うつもりですが、万が一、新型コロナウイルスの影響で対面のゼミが実施できない場合、Teams（あるいはLINE）などのICTツールを用いてゼミを行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（教科書の読解など）を前提にして、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます（現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いています、その他の法分野でも構いません）。とにかくしっかりと暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。		
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder		
Teams コード	ctz53sz		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表（プレゼン）などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。		
学生へのメッセージ	専門演習は学習の場であるとともに、教員と学生および学生相互の交流の場であるとも思っています。学生の希望があれば、さまざまなゼミの行事（コンパや合宿など）も実施する予定ですので、積極的に参加してほしいと思います。		
担当者の研究室等	11号館9階 松島准教授室		
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習60分以上）。教科書は未定ですが、何かしら購入してもらうことになるので、そのつもりでゼミに臨んでください。		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	「地域における問題発見」をテーマとする。5人程度のグループを作り、特定の地域における問題を自分たちで発見することを目指す。調査方法としては、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査を組み合わせる。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題を発見し、調査によってその原因を明確にし、調査結果を分かりやすく人に伝えることができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	Active Book Dialog による文献講読と、グループワークによる政策立案を組み合わせる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。</p> <p>2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。</p> <p>3. 事例研究 リサーチ・クエスチョンを立て、文献調査、フィールド調査、インタビュー調査によって結論を導く。</p> <p>4. プレゼンテーション 研究成果を発表し、意見交換をすることで理解を深める。</p> <p>事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集 (4時間)</p>																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ (地方政策論)」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	zi2jclw																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ	春休みに開催される、「全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」での入賞を目標にします。																		
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱに備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。			
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕			
授業方法と留意点	ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用いて、政治問題に関する文献の読解・グループディスカッション・プレゼンテーションを毎回全員が行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・授業テーマ・内容</p> <p>政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域・テーマを定めることができます。</p> <p>・授業方法</p> <p>学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <p>・事前、事後学習課題</p> <p>事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>			
関連科目	ブレ専門演習、専門演習Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」/対面授業			
Teamsコード	25r8gbq			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	オンライン授業での受講態度で評価します。			
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文の領域・テーマを定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 新型コロナウイルス感染者が減少した場合は、対面式授業に変更します。			
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室			
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションでは毎回その内容について全員に助言と短評を与えます。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ2135a0		

授業概要・目的	法体系の中で労働法がどのような地位を占めているのか、それは民法に代表される一般市民法と比べてどのような性格を持っているのかについて、基礎的な理解を得るようにします。また、実際に言い渡された判決例、報道された事件を検討することにより法が社会においてどのような機能を担っているのかについても検討します。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働者、使用者、労働契約といった基本的概念と労働法の概要を理解するとともに、法学研究の方法を身につけ、今後の専門演習に向けての自らテーマを選定する契機とすることが期待されます。																		
授業方法と留意点	基礎的な事項については講義をしますが、具体的な事例によりながら学生からする報告及び議論を期待しています。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的な事項は講義形式で行うとともに、具体的な事例を時事問題や裁判例から選定し、課題回答の形で意見を述べてもらいます。教科書は特に指定しませんが、関連科目の教科書ないし解説書と六法は手元に置くようにしてください。 テーマは一応労働法関連のものを予定していますが、皆さんから希望があれば考慮します。 なお、当期授業は Teams によるオンライン授業となります。現状で動画の配信は予定していませんが、ビデオ会議の方法による場合もあります。																		
関連科目	憲法、民法、労働保護法、労働組合法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>労働判例百選 (第9版)</td> <td>村中孝史ほか</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	労働判例百選 (第9版)	村中孝史ほか	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	労働判例百選 (第9版)	村中孝史ほか	有斐閣																
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	p3uv4f5																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	原則として定期試験は行いません。課題回答の内容 (70%) と受講態度 (30%) を総合して判定します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室																		
備考	授業のテーマは事前に与えるので、事前の準備と事後の確認に1時間程度は必要になります。レポートは、採点の上、次回の講義で留意点等の解説をします。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究論文の作成に向けて、3年次の「専門演習 II」は、国際私法の「構造」を理解するために判例を使った検討を中心に、個人あるいはグループで判例を調べて報告することを求めます。なお、理解を確実なものとするために、前期は、「国際私法の構造」についての設題を検討します。3年次終了時には卒業研究論文のテーマの提出も求めます。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法総論の理論構造と、各論の主な準拠法及びその連結政策についての理解を説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>前期については、WebFolder を利用することにします。「教材」フォルダに、「国際私法の構造」についての設問を提示しますので、それに答える形で「課題レポート」の提出を求めます。後期は、学内での授業を行います。事情変更によって、一部が前期と同様の方法になることもありますので注意してください。</p> <p>後期は、「国際私法の諸問題」についての判例研究をします。具体的なやり方は、別途、授業の最初に周知したいと考えています。現時点では、双方向性を重視したディベートを主体として行い、判例報告は、個人ごと及びグループ</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 「国際私法の構造」について、重要であると考えられる事柄を設題にして検討 重要であると考えられる国際私法事件の判例の解説 <p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 前期の課題レポートに対するコメント及び知識の再確認・・・2から3回を予定 「構造」の理解を前提として、国際私法の諸問題について判例を使った具体的な研究 提示する判例の中から選択したものについて、実際の判決文を検討し、レジュメを作成して報告することを求め、その後、その報告を材料として全員でディスカッションと検討 なお、関連する各国実質法については、必要な範囲で適宜講義します。 年度の終わりには、国際私法の理解度を評価するための課題レポート及び卒業研究論文テーマの提出を義務づけます。 <p>具体的な事前・事後学習については、適宜指示しますが、全般的には事前に配付する資料の検討、判例の原典の入手などの事前学習が重要になります。時間数の目安は、各授業時間ごとに2時間程度です。</p>																		
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法、民法、商法、民事訴訟法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際私法判例百選(第2版)</td> <td>櫻田嘉章・道垣内正人編</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際私法判例百選(第2版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	国際私法判例百選(第2版)	櫻田嘉章・道垣内正人編	有斐閣																
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業で紹介します</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業で紹介します			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	授業で紹介します																		
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Web Folder																		
Teams コード	ufpmzin																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	チーム内のチャット及び学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	前期の設問に対する「課題レポート」(40%)と後期の「判例報告レジュメ、報告内容、その実施方法」及び「総合課題レポート」(60%)を合計して評価します。																		
学生へのメッセージ	判決文の読解、レジュメの作成などに日本語の正確な知識が必要になります。日本語を意識して文章力を磨いて下さい。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	判例報告のレジュメについては、報告の時に、改善点・修正点などを指摘します。また、Teamsの「質疑応答」チャンネルを使って双方向性を維持しますので留意してください。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	牛丸 與志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	学生が関心を持つ法学のテーマにつき、4年で求められる卒業論文の作成に役立つことを目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマについて、重要判例および学説の検討を行う。金融関係の判例の分析も行う。あわせて、公務員採用試験や各種の資格試験対策についても指導する。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、商法について、全般的な知識を習得できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	まずは、重要判例の分析を行い、当該判例について学説の研究を行い、議論を深めて、法学の習得をめざす。 積極的に議論に参加して欲しい。 授業は、Teamsで行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業のテーマ：商法に関する重要な法律問題の研究 方法：判例・学説の研究 事前、事後学習課題：割り当てられたテーマにつき十分に研究すること																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	kks7ds0																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール便																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	出席率、演習への参加態度・レポートを総合的に判断して行う。平常点 70%レポート 30%																		
学生へのメッセージ	授業には出席し、積極的に議論に加わってください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																		
備考	自主学習には、合計20時間とって下さい。 レポートに対する指導は、レポート提出後のゼミの授業中に、行ないます。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	日本の法文化や法の変動について関心をもち、主体的に調べ、議論を通じてその理解を深めることを目標とする。過去の法だけでなく、現在の法をも視野に入れて取り組むことにしたい。また、法や紛争の背後にある経済的・社会的・思想的対立関係についても眼を向けたい。その意味では、このゼミは法社会学、法社会史の性格をもっており、法や社会に対して問題意識にあふれた諸君の選択を期待している。 SDGs-4, 5, 10																		
到達目標	このゼミを通じて学生は、将来卒論をまとめるのに必要な問題意識、基礎的知識や情報を得るようになることを期待する。																		
授業方法と留意点	将来の卒業研究につながる基礎作業ともいえるゼミであり、文献調べ、資料収集、テーマに関わる研究上の論点整理などが必要となる。Teamsやメールを使ってレポートを作成し、問題意識を深めることが期待される。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期・後期とも、翌年度の卒業研究論文執筆を視野に入れて、各自が興味をもつテーマについて調べ、WEBで報告、もしくは対面型授業で報告する。																		
関連科目	卒論作成に関わる全ての科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teams コード	su4fg6y																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	Teams 内の質問チャンネルか研究室メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	WEBを通じた報告の内容 (90%)、対面型授業ができれば出席状況 (10%) の合計点、できないときはレポート (100%) で評価する。																		
学生へのメッセージ	少年老い易く学成り難し。一寸の光陰軽んずべからず。学生生活で悩みがあったり、勉強方法がわからないときには、気軽に相談してください。また、演習で出会う仲間は、みなさんの大切な友人となるでしょう。どうぞ、良好な友人関係を築いて、楽しい学生生活を過ごしてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																		
備考	後期になったら私の研究室でもアドヴァイスします。ゼミの事前準備には十分な時間をかけてじっくり取り組むこと。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	租税法の学習を通じて、現実の社会経済と租税法との関連について理解を深めていきます。社会人になった場合、どの職場でも要求されることは、何事にも自主的、積極的に取り組み、自分で考え工夫していくことです。ゼミの題材は租税法の分野ですが、それを一つの教材として、各人が問題意識を持って考えてもらいたいと思います。また、ゼミは知識の習得だけでなくプレゼンテーション能力をつける場でもあります。自分の考えを整理して相手に正確に伝える能力も社会に出ると大事です。いろいろな意味で有意義なゼミにしましょう。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ①租税法における種々の重要問題について、自分の見解を持ち表現できるようになること ②租税法の基本的な考え方を理解すること ③判例の読み方に習熟し、卒業研究において活用できるようになること																		
授業方法と留意点	遠隔授業のうち、Teams を使った双方向のオンライン型授業を行います。配付資料等をもとに租税法の基礎的な理論や個別税法の仕組み、問題点等について研究していきます。プリントアウトし、ゼミにおいて手元で参照できるように準備しておいてください。基本的に、報告者が担当テーマの発表 (プレゼンテーション) を行い、それに基づいて討論 (ディスカッション) していきます。卒業研究の準備にもなりますので、必ず参加してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	判例や裁判事例を素材にして、問題の本質を探り、検討します。方法としては、毎回担当者を決めて発表してもらい、各事例ごとの法解釈や事実認定上のポイントにつき解説します。重要な税法である所得税法、相続税法、法人税法、消費税法等について議論しながら考えていきます。																		
関連科目	所得税法、相続税法、法人税法及び消費税法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>図解所得税法</td> <td>松崎啓介</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>図解相続税・贈与税</td> <td>高藤一夫</td> <td>大蔵財務協会</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会	3	図解相続税・贈与税	高藤一夫	大蔵財務協会
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	図解所得税法	松崎啓介	大蔵財務協会																
3	図解相続税・贈与税	高藤一夫	大蔵財務協会																
授業形態	Teams 「オンライン型」																		
Teams コード	6vg4vbr																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	個人メールを利用。																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミでの積極的発言や貢献度 (50%)、課題発表の内容 (30%)、及びレポート (20%) の合計で評価します。																		
学生へのメッセージ	ゼミは、社会で出てから要求される資質を向上させるのに絶好の機会を提供すると思いますので、ゼミを重要視してください。自由に発言できる雰囲気でのゼミにしましょう。出席することが重要です。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	ゼミは、社会に出てから要求される資質を向上させる機会の一つであり、出席することが重要です。自由に発言できる雰囲気でのゼミにしましょう。専門演習 II では判例研究を中心に行いますので、深度のある学習が求められます。このため、事前・事後の学習が欠かせません。各回の課題について、事前30分・事後1時間程度の学習を心掛けて下さい。																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会において現実に生じている動きをきちんと把握し分析し、それをより深く理解できるようにトレーニングを進めていきます。特に、本演習では、社会における「紛争」や「論争」などを題材としていきたいと思ひます。また、学問に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関する事、あるいは一般社会の問題についても議論し合ひたいと思ひます。																
到達目標	この演習を通じて学生には、個人あるいはグループで、特に関心のある問題について、資料を収集し分析するなどの検討を行い、それを他人の前で口頭で発表できるようになることと、その検討内容を決められた形式・分量に則してレポート化して、期限までにまとめあげることができるようになることが期待される。																
授業方法と留意点	学生による報告が主体のゼミ形式で行います。具体的には、課題を出して、それに対してレポートの提出によって報告してもらおうというスタイルが基本です。課題については、すでに募集要項の中で示した当ゼミの趣旨に沿った内容になります。各自で、学習・調査し、それをレポートで報告してもらいます。なお、授業時間以外の活動は特に予定していませんが、報告(レポート作成)のための時間は各自必要となります。なお、今年度は必要に応じて、対面授業と遠隔授業(Web上)のハイブリッド方式で実施します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅱでは、国の内外の社会におけるさまざまな政治的社会的諸現象が実際にどのように発生し、どのような状態にあるのか、きちんと把握するとともに、より深く理解していく上での分析能力の養成を目指していきます。特に、前期は国際社会や国内社会のさまざまな局面やレベルにおける「紛争」や「対立」あるいは「論争」を題材としていきたいと思ひます。前期の前半は主に、世界各地の「紛争」についての理解を深めることに重点をおきます。前期の後半は、日々動きの激しい国内外の諸問題を題材とし、それを把握するトレーニングに重点をおきたいと思ひます。後期は、夏季休暇中に各自で作成した課題レポートを個別発表して、それに関するディスカッションを行っていき、各問題に対する理解と考察を深めていきます。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																
Teamsコード	pjy2iw0																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	学習への参加姿勢10%および課題レポートの内容90%により評価します。																
学生へのメッセージ	専門演習Ⅱは、2年後期の専門演習Ⅰで培った情報の基礎分析力がベースとなる演習活動です。そしてそれは、みなさんが、生来の資質を伸ばしたり、未知の可能性を見出したりするための、いわば知的な『共同訓練の場』です。ですから、演習に対しては、しっかりとした勉学の目的と意志をもって参加するようにしてください。演習によってどのような知識や思考方法が身に付くか、どのような新たな才能や可能性を見い出せるか、それは、演習に対する積極さ如何に大きく関わってきます。																
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室																
備考	事前・事後学習は、各授業時間ごとに1時間程度行ってください。但し、発表前の場合は、発表の準備に必要な時間をさらに上乗せすることが必要となります。																

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	古川 行男
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	不動産登記、担保物権、民事執行等について復習及び研究をすることにより不動産取引、金融についての知識を確実なものとする。実社会においても必要な知識を深めるだけでなく、宅建、司法書士等の資格取得に対応する法的基礎を得るようにする。		
到達目標	この授業を通じて学生には、民法の分野では宅建試験に合格できる程度の水準に達するようになることが期待される。		
授業方法と留意点	【授業内容】 この授業を通じて学生には、裁判例、文献を検討して、その中で、各自が関心を引く題材、課題を探し出し、レポートの作成等を通じて、卒業研究に繋がる準備を進めるようになることが期待される。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	基礎的文献、判例プラクティス、判例百選から選んだ題材について、検討、討論を重ねる。それによって、法学思考に磨きをかける。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業への参加の態度 (50%)、報告内容 (50%) によって、評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室		
備考	この演習では各授業につき2時間の事後学習をして下さい。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる演習の第二段階である。地域活動に参加して、現場を観察する。関係者の方に聞き取り調査をする。自分たちの行っている活動を学外の方に説明する。読書で知識を得て、それをまとめる。この4つの力をバランスよく養っていきたい。		
到達目標	この演習を通じて学生には、①地域活動に参加して、協力して行動し、観察・聴き取り記録をとれるようになること、②活動の内容・目標・課題を説明できるようになること、③読書を通じて知識を整理できるようになることが期待される。		
授業方法と留意点	地域活動に参加しての参与観察、聞き取り調査(ともにフィールドワーク)、学外の方への活動報告(プレゼンテーション)、仲間との活動の企画と振り返り(ディスカッション)が特徴の演習である。さまざまな立場、価値観の人たちとの交流を楽しんでほしい。*遠隔の場合、zoomで行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	演習で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom		
Teams コード	mloiuiu		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	大学メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	演習時限の全出席を前提とする。活動記録(30%)、企画・振り返りへの貢献度(40%)、読書ノート(30%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	記録簿への記入、ノート整理などで各回1~2時間ほどが必要になる。定期的に記録簿とノートの提出を求め、点検する。個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究につながる法学部の演習科目を行っていくにあたっての基礎的な力を身につけることを目的とします。		
到達目標	この講義を通じて学生には、問題発見・レジュメ作成・報告に関する基礎的な力を身につけられるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	<p>個々人の力にある程度の差があることを前提としつつすべてのメンバーが基礎力を身につけていく経験を積んでいける機会を得られるようにするため、原則として出席して積極的に参加することが必要です。</p> <p>報告はグループで行いますので、グループワークが基本となります。報告ではプレゼンテーション能力を培います。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマを決めていく段階から自主性を重んじますので開講後決定します。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	その他 zoom		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	参加を前提として、報告に対する取り組みと現場でのプレゼンテーション (60%)、ふり返りのペーパー (40%) で評価します		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室		
備考	事前学習としては、報告者は事前の準備(4時間程度)、それ以外は報告者から提示される文献を読む(30分)、事後学習としては当日の報告に関する課題を課すのでその作成を行います(60分)。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	スポーツ活動を多面的な学問領域(主に、法学・政治学・法政策学)から検討し、知見の獲得を図る。卒業研究題目の決定と、必要な資料・文献の収集および予備調査への導入を図る。		
到達目標	この授業を通じて学生には、次年に作成する卒業研究の題目決定と、作成を遂行するための基本的な能力を養うことが期待される。		
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。 専門演習Ⅰの授業において行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 各自が能動的に取り組むことが必要となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業テーマ：スポーツ活動を多面的な学問領域(主に、法学・政治学・法政策学)から検討し、知見の獲得を図る。 授業内容：専門演習Ⅰの授業で行った報告を更に掘り下げるとともに、卒業研究における各自のテーマを決定する。また、論文作成に必要な資料・文献の収集を行うとともに、必要であれば予備調査を実施する。 事前事後学習課題：授業中に指示した課題の実行		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」(併用)		
Teamsコード	tyihuq7		
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法(基準)	各回の取り組み(30%)、与えられた課題の完成度(70%)をもとに評価する。		
学生へのメッセージ	意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井教授室		
備考	各回に1時間程度、すなわち通年で30時間程度を目安に、事前・事後の学習を行ってください。		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	刑事法（刑法・刑事訴訟法・刑事政策・少年法）をめぐる諸問題について、受講者の報告をもとに全体で討議する。			
到達目標	この演習を通じて学生には、刑事法に関する十分な知識を修得することが期待される。			
授業方法と留意点	後期については、原則として、対面方式で行う予定であるが、諸般の事情や受講生の通信環境などを考慮したうえで、Microsoft Teams などの ICT ツールを用いて行う方式に変更することもありうる。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門文献、資料、判例、報道記事などを素材に刑事手続に関する基礎的な知識を習得するとともに、毎回、報告者を設定し、その報告テーマについて議論を行う（対面方式・オンライン方式）。 事前の学習課題としては、議論の準備など（資料の読み込み、レジュメの作成など）。 事後の学習課題としては、議論において教員や他のゼミ生に指摘された点の確認など。 事前、事後学習ともに1～2時間/日を要する。			
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teams コード	tfb3m4t			
Moodle コース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法（基準）	全体討議・報告等における発言・態度等（100%）			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館9階 島田准教授室			
備考				

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<p>法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題や議論されている事柄を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にさせていただきたいと思います。</p> <p>前期は、報告者グループがおこなう何らかの法的・政治的問題や課題についての報告を基に、皆で議論していただきます。単に個人的な考え方や意見を述べるだけでなく、根拠を示しながら、どのように問題を捉えるべきなのかを議論する力をつけていただきたいと思います。後期においては、前期で培った議論・説得する力を存分に発揮しつつ、法を実践的に学ぶために、模擬裁判をおこなっていただく予定です。</p>																		
到達目標	このゼミを通じて、学生の皆さんには、議論や模擬裁判を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	<p>前期はおもに、2-3人を1グループとする報告者に議論の基礎となる報告をしていただいたうえで、皆さんで議論していただくというかたちをとります。報告者は、報告前に集まって、共同でレジュメを作成し、報告や議論の進行について考えてください。そのうえで、報告の数日前までにその概要を担当教員に知らせてください。報告者以外の方々には、積極的に議論に参加されることを望みます。こうして議論をおこなうことによって、違う意見を持つ人々をどう説得するか、またどう折り合いをつけるのかを学ぶことにもなるでしょう。</p> <p>後期は、模擬裁判</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、グループでの報告と、それを基にした議論をおこなっていただきたいと思います。1人につき、2-3回、報告をする機会があると思いますが、そのうち少なくとも1度は、民事事件の判例を報告のテーマとしていただき、当事者双方の主張、そしてそれらに対する裁判所の判断について検討・議論していただきたいと思います。2度目以降の報告については、民事事件に限らず、法律や政治に関連のある事柄について報告していただくというふうにしていきたいと考えています。</p> <p>後期は4年生とともに、模擬裁判をおこなっていただきます。刑事裁判手続きや裁判員制度に関して学んだうえで、模擬裁判で題材とする事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成するという作業と模擬裁判の実施が、後期のゼミの大半を占めることとなります。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle/その他 (Zoom)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	前期に設定済みのコースを継続して使用します。																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	ゼミでの報告における準備や司会進行の様子、議論への参加の姿勢 (80%)、課題・提出物 (20%) を評価の対象とします。																		
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判をおこなうことによって、お互いの考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めてもらえれば、と考えています。また、皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	報告内容については随時、課題については次の回で講評をおこないます。 事前・事後学習の総時間数の目安：65時間																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	SeminarⅡ
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<p>【民法総合演習】</p> <p>本演習では、受講生の法的問題解決能力の向上を目的として、現実に、今、社会で問題となっている、民法(債権法)・消費者法にかかわる最新の事例・判例の検討を行います。</p> <p>12月には、神戸学院大学で開催される法律討論会にも参加予定です。</p>																
到達目標	この授業を通じて学生には、民法、特に財産法分野の基本的知識の理解を確実にすることを期待します。																
授業方法と留意点	<p>前期は遠隔授業で判例研究を行います。本ゼミとしては異例ですが、個人で課題に対するレポートを作成する形式で、判例を読んできたいと思います。この機会に、判例の読み方、資料の読み方をしっかり身に付けましょう。</p> <p>後期は法律討論会を実施します。準備は、原則として非対面で行いますが、討論会本番については、感染状況を見極め、対面で行うか、Teams上で行うかを判断します。</p> <p>本演習は、民法の基礎知識を前提とします。特に、民法総則、債権法、不法行為法、契約法、消費者と法の授業内容は、直接関連するため、履</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>民法総合演習</p> <p>法律討論会は、全員の参加が前提です。リモートになりますが、各自、自覚をもって取り組んで下さい。この作業にかかる時間としては、目安として60分程度を考えています。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	オンライン型																
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	前期については、課題に対するレポートで100%評価します。 後期については、討論会に臨む姿勢(100%)を総合評価します。																
学生へのメッセージ	ゼミは皆で作るものです。徹底的に学び、議論し、思いっきり遊んで、良いゼミをつくっていきましょう。																
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室																
備考																	

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	<p>・指導方針</p> <p>1 この専門演習 II は、2 年次後期の「専門演習 I」にひきつづき、4 年次の「卒業研究」にかかる導入教育として位置づけられています。</p> <p>2 そこで、本演習では 1 年次において刑事法概論の講義で習得した基本事項のうち、参加者各自が興味や関心を抱いた個別テーマに関する裁判例 (判例) や学説を調べて報告してもらいます。</p> <p>3 もっとも、こうした報告作業は、少なくとも法学系の論述問題でまともな答案を書くことができない人にはなかなか難しいのも事実です。そのため、この演習では、発表の前提ともいえる、刑事法に関する論述問題の答案作成方法も学習します。</p> <p>4 また、発表に際し、どのようにして判例や文献を調べればよいのかというリーガル・リサーチの手法も本格的に学習する予定です。図書館や法学データベースの使用方法も適宜指導します。</p>																		
到達目標	<p>この演習を通じて学生には、</p> <p>「・刑法の論点を抽出できる</p> <p>・論点に対する判例や裁判例を調査できる</p> <p>・論点に対する学説を調査できる</p> <p>・論点に対して私見を展開できる」</p> <p>ようになることが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>・一般のコロナ禍による緊急事態宣言を受け、本講義は Microsoft 社 teams を活用して行いますが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答を行う。</p> <p>・法学基礎演習にかぎらず、学生生活全般にわたる質問や疑問でも、随時受け付けますので、気軽に相談してください。</p> <p>・刑法の論点に関して個別にプレゼンテーションを行った上で、参加者全員でディベートを行う。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・ゼミ内容</p> <p>この演習では、刑法 (罪刑法定主義、刑法総論 (全犯罪共通の成立要件の検討)、刑法各論 (各種個別犯罪 [殺人・強盗・放火等] の成立要件論))、および、刑事学・犯罪学 (犯罪原因論、受刑者と出所者の処遇問題、死刑を含めた刑罰の有効性と正当性、犯罪被害者救済策) を主な検討対象とします。</p> <p>・授業内容</p> <p>刑事法に関する事例問題 (論述式) の答案作成方法</p> <p>刑事法領域の裁判例や学説の研究調査方法 (リーガル・リサーチ)</p> <p>個別テーマの報告</p> <p>・授業時間以外での活動</p> <p>学生の希望があれば、刑務所や少年院などの施設訪問を長期休暇時に行うことがあります。</p>																		
関連科目	刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義 I・II、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>※開講時に指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	※開講時に指示する			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	※開講時に指示する																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点 (第 3 版)</td> <td>西田=山口=佐伯</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例プラクティス刑法 I</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例プラクティス刑法 II</td> <td>成瀬=安田</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣	2	判例プラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社	3	判例プラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点 (第 3 版)	西田=山口=佐伯	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法 I	成瀬=安田	信山社																
3	判例プラクティス刑法 II	成瀬=安田	信山社																
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	0aslgwy																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	<p>評価方法</p> <p>プレゼンテーション (50%) とディベートへの参加度 (50%) によって評価する。</p> <p>以下の点をとくに重視します。</p> <p>①発表時に問題提起を適切に行っているか (発表姿勢)。</p> <p>②提起した問題に関連する判例や先行研究 (学説) を十分に、かつ、主体的に調査しているか (主体的学習)。</p> <p>③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか (論理性)。</p>																		
学生へのメッセージ	日常の犯罪報道などに興味のある学生はふるってご参加ください。																		
担当者の研究室等	11 号館 10 階 小野教授室																		
備考	事前学習として、演習テーマの予習に毎回 2 時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、演習テーマの内容についてノートにまとめるなど、毎回 2 時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	当該民法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき紛争が生じ、裁判所等で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求することを最終目標としています。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法・民事訴訟法以外に、民事執行・保全法や倒産法を研究対象とすることも可能です。																
到達目標	この授業を通じて学生には、前期は、2年次より更に内容的に専門的かつ興味深い研究テーマを探求するための手法や思考方法を身に付けるため、2年次とは異なり個人発表を中心とする。また、研究テーマに関するディスカッションをより活発化させ、他人と議論することで自分の研究テーマをより掘り下げて考えることができるようし、かつ、自分の意見を、自分とは意見の異なる相手にも論理的に説明するスキルを磨くようになることが期待される。 この授業を通じて学生には、後期は、個人の判例研究発表の傍ら、卒業研究で取り組みたいと思う																
授業方法と留意点	【授業内容】 3年次は、2年次とは異なり、基本的には個人発表と質疑応答が中心となり、内容もより深いものとなります。発表では、自分が特に興味を有するテーマを取り上げることから、回を重ねるごとにその分野における知識が集積され、卒業研究で取り扱いたいと思う課題・問題意識に繋がることと思います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	授業は、民事事件に関する判例等の研究発表を中心として行う。学期初めに、各グループの発表日時を決めるので、各グループは、構成員同士で話し合ってから発表テーマを決定し、発表に備え、事前に準備すること。事前準備においては、研究対象となる判例や論文等の資料を探し読み込むこと（インプット）はもちろん、どのように発表すれば他人により分かり易く伝えることができるのか、その発表内容や方法（アウトプット）についても熟慮すること。 発表形式は、次の2つの方法のいずれかのうち、そのテーマに適したものをを用いて行う： 1. 資料作成技能重視型： 発表時には、研究内容を、板書やパワーポイント等を用いて説明するとともに、配布資料を配布すること。配布資料は、①研究対象となる事案・争点・判例や学説の流れ・解説等を記載したものと、②研究対象となる事案の判決（判旨・判決理由）を記載したものと、の2点を別個に用意する。まず、発表者が、配布資料①に基づき、事案・争点等の説明を行った後、ゼミ全体でディスカッションし、その後、配布資料②を用いて、当該事案の判決につき、再度論議を行う。 2. コミュニケーション技能重視型： 3人でグループを組み、各自原告・被告・裁判官役の立場に立ち、主に判決全文を用いて、それぞれの主張を述べ合い、裁判を体現する。当事者役は各審級の判決全文から自己の主張を練り、裁判官役は両当事者の見解を聞いたうえで、判決文や判例解説等を基に、それらに対する事実認定や法的見解を述べる。1審から、上訴を含め、確定判決まで、裁判の一連の流れを再現する。ただし、その結論については、必ずしも使用した素材と同一になる必要はなく、各当事者役の主張内容や裁判官役の判断次第で、当人が妥当と考える結論が導き出されれば良い。 予習事項は、毎回その都度指定しますが、各自の発表に備えてパワーポイント資料を作成したり、設定テーマに関連する文献を調べておくこと、発表準備を行うこと等が挙げられます。 また、復習事項は、ゼミ内で教員より個別に指導された内容、例えば、発表資料の修正、文献の追加検索や入手です。 事前・事後学習の時間は、それぞれ30分を想定しています。ただし、発表前は、個人やグループの進捗状況により、ゼミ時間外に個別で又はグループで集まって準備をすることもあり得ます。その場合、事前学習時間は、通常より長くなる可能性があります。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teamsコード	y01jtf9																
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	演習内におけるプレゼンテーション準備やディベート・ディスカッション等の平常点（60%）、プレゼンテーションやレポート（40%）で評価します。ゼミへの参加意欲ならびにその体現、自身の研究発表への取り組みならびにその成果、そして他のゼミ生の発表における質疑応答等を、総合的に判断して評価する。欠席・遅刻が多い場合には、レポートを課します。レポート課題の分量は、欠席・遅刻の回数が増えるほど多くなりますので、くれぐれも注意してください。																
学生へのメッセージ	3年次の専門演習は、2年半に及ぶゼミの中でも一番充実して学べる時期ですので、将来のために、この時間を有意義に活かしてください。また、普段の友達との輪とはまた少し違うゼミ仲間から得られるものも多いと思いますので、全員が声をかけ合えられるような和気あいあいとしたゼミになってくれればと思います。																
担当者の研究室等	11号館9階 萩原准教授室																
備考	判例研究等のプレゼンテーションの際には、準備段階から、WordやPower Pointの使い方、判例研究の仕方を含め、適時、演習内において指導する。 また、プレゼンテーション終了後は、すぐにその場でそのフィードバックを行い、次のプレゼンテーションに還元できるように努める。なお、レポート等のフィードバックは、後日、添削・評価してから、演習内において行うものとする。																

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度については詳細に把握できることを目的としている。そのため、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、3年次には、2年次に引き続き、判例を各班で分担して全員の前で報告することを予定している。そのためには、班での役割分担、各自に割り当てられた課題への対応が必要となる。それらの課題の割り振り方、課題への対応の方法を身につけることが期待される。 具体的には、判例から問題点（論点）を班で確認および抽出できること、それを報告するために必要となる知識をいかに得るかということ、個人での資料収集等の仕方、ならびにそれを文章化してレジュメ等にまとめるための技術を得ることが期待される。																		
授業方法と留意点	3年次では、①グループによる判例報告、②個人の判例報告を予定している。ただし、あくまで予定であり、話し合いなどで変更はありうる。また、他大学との法的問題に対する合宿討論会を行う予定である。この場において、他大学のゼミの前においてプレゼンテーションを行い、その内容についての議論を行い、場合により反論を行う技術が求められる。ゼミではこれらの内容を涵養するよう指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	テーマは、教員の方で最新の判例等をいくつか提示し、学生により取捨選択をしてもらう予定である。グループ活動では、各班で意見をまとめ、それを全員の前で報告する必要がある。その為、ゼミにおいても準備期間を設けるほか、ゼミ外の時間においても、各自で自ら準備期間等を設ける必要がある。 なお、判例の入手方法、レジュメの作成方法などについては、適宜指摘をしていく。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teamsコード	qqomjvp																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	成績は、学期末に教員が用紙を渡すので、各ゼミ生が自己採点を行う。採点を行うに当たり、その評価に見合う事実、経験、結果等を自己で示す必要がある。すなわち、自分で自分を客観的に評価する能力が必要とされる。その自己評価書を元に評価を行う。 評価項目は、ゼミへの取り組み（20%）、得られた知識（20%）、得られた経験（20%）、今後の課題（20%）、個人的PR（20%）をもとに判断を行う。																		
学生へのメッセージ	学生主体のゼミを目指している。 そのため、新ゼミ生自体（次の年度のゼミ生）の獲得もゼミ生自身で行い、そのためのガイダンス等において自ら本ゼミの説明をおこなう必要がある。それにより、縦の人間関係も形成され、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくことができると考えている																		
担当者の研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	専門演習Ⅰに引き続き、この専門演習Ⅱでもいろいろな法分野を学習していきます。具体的には憲法・民法・行政法を中心にテキストと判例を読み進め、資格試験などの過去問を解いてみたいと思います。また、ゼミで習得した実定法の専門知識を用いて、現代社会の諸問題を考えてみるつもりです。		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、憲法・民法・行政法など、実定法にかんするやや高度な専門知識（行政書士試験合格レベル）を習得すること。第二に、報告を通じてレジュメやパワーポイントの作り方、ネットを利用した資料収集の方法、ディスカッションやディベートの仕方を身につけること。		
授業方法と留意点	問題演習とディベートを基調にしつつ、時おり担当者（グループワーク）を決めて課題を発表してもらい、それに基づいてみんなでディスカッションも行います。必要に応じて教員（松島）がゼミの内容を補足するために講義を行います。 *今年度は前期に引き続き、後期も対面ではなく Teams（あるいはLINE）などの ICT ツールを用いてゼミを行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前の予習（教科書の読解など）を前提にして、ゼミでは問題演習とディベートを行うつもりです。もちろん事後の復習は必須です。また、重要判例をいくつか取り上げ、グループごとにその概要を報告してもらいます（現時点では憲法・民法・行政法などの基本的な実定法科目を念頭に置いています、その他の法分野でも構いません）。とにかくしっかり暗記に努めるようなゼミにしたいと思っています。 さらに後期のゼミでは次年度の卒業研究を見据え、自分の興味をもった法分野（判例）にかんして文献調査を行ってもらいます。		
関連科目	広く実定法分野にかかわります。実定法の背景的知識を知りたいと思う学生には、法哲学総論、法哲学各論、法思想史などをお奨めします。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder		
Teams コード	2u3ocqo		
Moodle コース名 および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法（基準）	毎回の出席を前提として、適宜実施する小テストや発表（プレゼン）などへの取り組み70%と、ゼミ中での発言（ディスカッション・ディベートなど）30%で成績評価を行います。なお無断欠席・遅刻が度重なる場合は単位取得を認めないので、十分に注意してください。		
学生へのメッセージ	さまざまな機会を利用して、レポートを課す予定です。自分の言葉で文章をつづることはなかなか骨の折れる作業ですが、必ず次年度の卒業研究に役に立ちますので、頑張って取り組んでほしいと思います。		
担当者の研究室等	11号館9階 松島准教授室		
備考	事前の活動として、教科書の該当箇所を読み、それに対応する問題を解いてきてもらいます。また必要に応じて、レジュメなどの作成が必要となります（これらの事前学習に60分以上）。また、ゼミ終了後に学習した内容を振り返ってください（事後学習に60分以上）。 なお、小テストについてはその回のゼミのなかで全員で答え合わせをし、提出してもらったレポートについてはゼミの最終回に返却します。		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	以下の3つの研究会と3つのプロジェクトにそれぞれ1つずつ参加してもらいます。 【研究会】 ファシリテーション研究会：ファシリテーション技法を学ぶ プレゼンテーション研究会：プレゼンテーション技法を学ぶ 政策立案研究会：政策立案の方法を学ぶ 【プロジェクト】 福祉向上プロジェクト：社会問題を解決するための実践活動を行う 問題提起型広報プロジェクト：地域課題を発見し、情報発信を行う 市民政策フォーラムプロジェクト：市民とともに政策を考えるワークショップを行う																		
到達目標	この演習を通じて学生には、地域における問題の本質をつかみ、不特定多数の読み手に興味を持ってもらえるような形で表現することができるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	研究会とプロジェクトを隔週で交互に行います。基本はグループごとに進行し、各回の最後に進捗報告、最終回の授業で成果発表を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	1. 文献講読 文献の内容を分担してまとめ、発表し、議論を行う。 2. 事例の選定 調査の利便性も考慮しつつ、対象となる地域を選定する。 3. 事例研究 地域における問題を発見し、原因やメカニズムを解明する。 4. 問題提起型広報の作成・公表 研究成果を住民に向けて発信し、フィードバックを得る。 事前・事後学習課題 グループで選んだテーマについての情報収集 (4時間)																		
関連科目	「地方自治論」「住民協働論」「地域政策応用講義Ⅱ (地方政策論)」																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	2a49w6o																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	グループワークへの貢献 60%、プレゼンテーション 40%																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																		
備考																			

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	卒業研究に備えるべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力の基礎を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分が興味を持っている政治問題について主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の書き方や資料収集の仕方についても授業します。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、政治問題に関する書物・新聞記事・評論などを読んで基本的な政治的知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕																		
授業方法と留意点	オンライン授業で行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>・授業テーマ・内容</p> <p>政治問題に関する文献の読解や議論、発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。卒業論文が作成できるように学問的基礎を固め、自分が関心のある政治問題の領域を定めることができます。</p> <p>・授業方法</p> <p>①前半 学生の皆さんの興味・関心・卒業論文のテーマを考慮しながら、政治問題についての文献をその場で毎回輪読・議論・発表する ABD (Active Book Dialogue, アクティブ・ブック・ダイアログ) というアクティブ・ラーニングの方法を用います。短い時間で日本語の文章を読み、その要点を的確に理解することは、就職試験や公務員試験の「文章読解」で求められる能力でもあり、社会人になった後のマニュアル・資料の読解にも必ず必要な能力です。またグループディスカッションやプレゼンテーションは、仕事で問題が発生したときにその原因を的確に把握し、他者と望ましい解決策を討議し、最善と判断した改善策を他者に論理的に説得するためにも必要な能力です。</p> <p>②後半 自分の卒業論文のテーマを定め、その目次・内容・結論について全員が発表し、それを吟味・討議する時間を取ることにします。自主的な参考文献の読解や資料・データの収集が求められます。</p> <p>・事前、事後学習課題</p> <p>事前学習...その場で政治問題に関する文献を読んでもらうので、必要ありません。 事後学習...文献全体をもう一度読み直し、内容を理解しておくこと (60分～90分程度)。</p>																		
関連科目	専門演習 I、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																		
Teams コード	2zz2nx8																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	オンライン授業での受講態度で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動が始まると卒業論文の作成に時間を取ることができなくなってしまいます。この時期に卒業論文のテーマを明確に定め、参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 新型コロナウイルス感染者が減少した場合は、対面式授業に変更します。																		
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																		
備考	グループディスカッションでは教員も適宜参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																		

科目名	専門演習 II	科目名 (英文)	Seminar II
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期		授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ3136a0		

授業概要・目的	労働法に関する判例を検討することを通じて論点について多様な見解があることを知り、多様な見解の中から一つの結論を導くためにどのような思考過程を経ているのかを確認することによって法的思考といわれるものの実体を知るとともに、労働法の具体的内容を理解する。		
到達目標	この授業を通じて学生には、労働法判例を研究することにより、労働法の基本的な解釈を身につけた上で、法的思考のプロセスを理解するとともに、最終年度における修士論文作成のためのテーマの選定、研究の手法を習得することが期待される。		
授業方法と留意点	受講者のうちから担当者を決め、担当者には選定した判例を素材にした報告をして貰い、その後、参加者全員で議論をする予定です。授業は Web 方式となりまので、大学指定の Microsoft「Teams」で講座にアクセスして下さい		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマとする判決は事前に受講者の希望を考慮して上で決定します。判決については公式判例集あるいは法律雑誌、データベースを検索するなどして可能な限り全文を読み込んでください。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	別冊 Jurist 「労働判例百選[第9版]」	村中孝史 ほか
	2	Jurist 増刊 「労働法の争点」	土田道夫 ほか
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」		
Teams コード	e3lsky1		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	授業中に提示する課題の回答を中心に総合評価をします。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 川谷教授室		
備考	テーマは事前に決定します。事前の準備と事後の確認に少なくとも1時間程度は必要です。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小山 昇
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	国際私法を中心として国際取引法、国籍法を含めた分野の諸問題を具体化して論文を完成させることが目的となります。卒業研究は、3年次終了時に提出したテーマを卒業研究論文として完成させることを目指しますが、具体的に検討した結果、さらに興味を持って探求したいと考える別のテーマを見いだすことは妨げません。就職後に必要な知識に関係するテーマに変更することも可能です。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、国際私法、国籍法、国際取引法から各自が選んだテーマを論文として完成させたとき、その論文がその分野において「基本的水準」に達していることを説明できるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	前期については、WebFolderを利用した指導にします。まず、各自の卒業研究テーマについて現時点でのテーマの確認を行い、その後、各自の年間計画の提出を求めます。後期は、学内での個別授業となりますが、事情変更により一部を遠隔授業（WebFolderによる課題提出）に変更することもあります。 文献資料の蒐集や論文作成についての注意点は、テーマごとの指導として日時等を指定した個別指導になりますので、そのために各自の年間計画を作成してください。論文構成については、適宜、プレゼンテーションなどによる報告を求																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 3年次最後のレポートで提出したテーマについて、卒業研究論文としてどのように具体化すべきかを検討することから始めます。検討結果によってはテーマの変更も可能ですが、明確な理由を示す必要があります。 決定したテーマについて、まず、必要な文献や判例を調査し、その蒐集と読解を通して論文の構成や目次をレポートとして提出することを求めます。論文の目次、その他具体的な論文構成は、遅くとも10月下旬までに提出すること。 検討・修正を加えた後に下書きを作成し、その報告を適宜受けながら訂正を加えて論文の完成を目指します。下書きの完成時期は、12月中旬とします。 論文提出期間に入った1月の段階で最終稿を提出し、最後の推敲を経て、その確認後に教務課への提出を許可します。 事前事後の学習は、卒業研究の進捗に合わせてその都度具体的に指示しますが、少なくとも2時間以上のテーマについての熟考と見直しが必要です。 																		
関連科目	国際私法総論・各論、国際取引法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に、指定しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に、指定しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に、指定しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>適宜、紹介します。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	適宜、紹介します。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	適宜、紹介します。																		
2																			
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	チーム内のチャット及び学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業研究論文について、そのテーマと論述方法の関係及びその理解度を中心に、作成過程と下書きなどの原稿(60%)及び完成した論文(40%)を合計して評価します。なお、研究成果である論文についての評価は、基準を定めた「評価表」を用いる予定です。																		
学生へのメッセージ	就活と卒業研究を両立するために、必ず年間計画を立ててください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 小山教授室																		
備考	論文の下書き原稿などのやりとりにはWebFolderを使いますが、Microsoft Teamsを使つての質疑応答も利用します。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牛丸 興志夫
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>学生が関心を持つ法律学のテーマにつき、卒業論文の作成を目的とした指導を行う。また、学生が研究のテーマを決めていない場合は、商法、すなわち、会社法、手形・小切手法、商法総則、商行為法、金融商品取引法、保険法の中から適切なテーマを推薦し、また必要な文献を紹介する。</p> <p>卒業論文の作成は、テーマにそって学説・判例を収集し、自説をまとめていくということになる。卒業論文の完成のための研究により、法律学の応用力を身につけることを目的としている。</p> <p>卒業論文発表会で発表してもらうことを予定している。</p>																
到達目標	この授業を通じて、学生は、卒論を完成することができるようになることが期待される。																
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>卒業論文の指導を行う。卒業論文のテーマは、学生ごとに異なっているので、個別的な指導を行っていく。</p> <p>授業は、Teams とメールで行う。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	資料の収集、資料の読み込み、研究成果のまとめ、卒業論文の下書きおよび卒業論文の完成という順番で、指導していく。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																
Teams コード	vgogs1e																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	演習への参加態度、研究発表の内容等を総合的に判断して行う。平常点30%レポート70%																
学生へのメッセージ	卒論の作成は、計画を立てて、地道に行ってください。 演習では、学生が能動的に研究し、積極的に議論に加わることを望む。																
担当者の研究室等	11号館9階 牛丸教授室																
備考	事前および事後学習課題は、授業中に指示する。 事前および事後学習課題には、20時間を費やしてください。																

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	牧田 勲
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究論文作成のためのアドバイスをを行う。問題意識の醸成、研究テーマの絞り込み、資料や文献の検索の仕方、論文の構成や文章の表現技法などを指導する。よい論文を完成すべく、着実な努力を求める。 SDGs-4, 5, 10																		
到達目標	この論文指導により、学生は緻密で論理的な卒業論文を完成させることが期待される。																		
授業方法と留意点	各自研究テーマが異なるので、それぞれのテーマに沿った資料や文献を見つけ出し、その概要をWEBをとおしてプレゼンテーションしてもらう。夏休み明けに論文の表題や、章構成、論旨、結論など、「論文の計画書」を提出させ、それをチェックする。合格した者はそれに沿って執筆をはじめ、中途もしくは完成後に何度かチェック、添削して最終提出論文を完成させる。なお、その成果を卒論発表会でプレゼンテーションすることもある。後期も対面型授業ができず、場合により就職活動も厳しくなることが予想されるので、状況によって多々変更することがある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の研究テーマに沿って、基本文献を捜し、読み、WEBで報告する。多くの文献を読み込むことが必要であり、その基礎があつてはじめて論文作成が可能となる。																		
関連科目	論文にかかわるすべての科目。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teamsコード	x06i2uk																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	Teams内の質問チャネルか研究室メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	論文の出来具合で100パーセント判断する。																		
学生へのメッセージ	卒論に手を抜くと卒業できなくなってしまう。一層の奮励努力が必要。																		
担当者の研究室等	11号館10階 牧田教授室																		
備考	資料を丹念に読み、手を抜くことなくまじめに取り組むことが望まれる。研究室にアドバイスを求めにきてくれるならば、喜んで協力する。毎週最低でも2時間くらいは、卒論作成の準備に地道に取り組むことが望まれる。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小島 俊朗
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	租税法に関する問題をテーマとした論文を完成させます。税が絡んだテーマならなんでも結構ですので幅広く考えてください。																		
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。「はじめに」のところで問題意識を明らかにし、本文では論理的な展開を行い、結論を導き出します。最後に、自分の見解や提言を簡潔に書いて「おわりに」で結びます。税に関するものである限りテーマは自由ですが、感想文ではないので、法的な論理展開が行われていなければなりません。そして、自分なりの結論を導いてください。																		
授業方法と留意点	【授業内容】 各自の選んだテーマについて個別指導を行います。就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。また、卒業論文発表会のためのプレゼンテーションやパワーポイント資料の作成についても指導します。 集合指導は、Teams を利用した双方向のオンライン方式で行います。論文の個別指導は、PC メールに添付して提出された原稿を基に行いますので、原稿の提出がないと論文の完成は困難です。提出期限を守って計画的に進めて下さい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。また、どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。 12月初旬に開催される卒業論文発表会を念頭において、各人の進行状況に応じた個別面談を行い、論文らしい内容となるように指導します。																		
関連科目	租税法全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>租税法</td> <td>金子宏</td> <td>弘文堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>DHC コメントール</td> <td>武田昌輔</td> <td>第一法規出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	租税法	金子宏	弘文堂	2	DHC コメントール	武田昌輔	第一法規出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	租税法	金子宏	弘文堂																
2	DHC コメントール	武田昌輔	第一法規出版																
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	eij8kgm																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	個人メールを利用。																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容を審査して評価します。具体的には、発想力 (20%)、論理性 (50%)、結論の妥当性 (30%) の合計により評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。努力の形跡がないものはそれ相応の評価となります。																		
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。 文章力に問題のある学生が少なくありません。提出する前によく見直してください。また、いわゆるコピペした文章が少なくありません。出典を明らかにしないで引用することは不正行為ですので厳禁です。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小島教授室																		
備考	フィードバックの必要があれば、個別指導に際して適宜コメントしていきます。 選んだテーマにつき、進捗に応じた学習が必要です。研究課題であるので、個別指導の際には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各1時間程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	河原 匡見
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究においては、大学生活の、さらには小学校以来現在に至るまでの、いわば学生生活の最後の総まとめとしての卒業研究を、一定水準以上の内容を伴って完成できるよう指導していききたいと思います。また、学間に直接関係することだけでなく、広く学生生活全般に関すること、あるいは一般社会の問題についても議論し合っていければと思います。		
到達目標	この演習を通じて学生には、各自関心のあるテーマについて、資料を収集し分析を行うなど研究を進めて、定められた期限までに決められた形式・分量に則してまとめ上げ提出できるようになることが期待されます。		
授業方法と留意点	前期は個人指導を主体として、論文の枠組み検討と資料収集の作業状況の確認を並行して行い、夏期休暇前には、草稿の作成に入れるように指導していきます。そして、後期には各自の草稿を基に、演習参加者全体でディスカッションを行う集団指導を中心に進めていきたいと考えています。また、12月頃に開催される、法学部の「卒業研究発表会」で報告ができるようにプレゼンテーションの指導を行っていきます。なお、対面授業を中心に実施したいと考えていますが、新型コロナの感染状況によって、遠隔授業 (Web 上) に切り替わる可能性があります (ハ		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	本演習の目的は、定められた期限までに、一定の水準以上の卒業研究を確実に完成させることです。長い論文を作成する作業は、喩えて言うならば、一步一步頂を目指して歩みを進めていく『登山』の如きものでしょう。したがって、実質的には約10ヶ月間の指導によって、上記の目的を達成するために、幾つかの研究の進展段階 (提出課題) を設定し、それを一つ一つ達成することによって順々に論文を完成させていくという指導方法をとります。各自、卒業研究のテーマを絞り、考究していくためには、常に積極的に関心のある問題に関する情報および資料・文献を収集しその読解に努めることが要求されます。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	対面授業		
Teams コード			
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法 (基準)	卒業研究演習での論文作成指導状況 (20%) および提出された論文 (卒業研究) の内容 (80%) に基づいて評価します。また、法学部主催の「卒業研究発表会」にて報告した場合には、その分を加味して評価します。		
学生へのメッセージ	4年生は、就職活動などの進路決定にともなう作業もあります。研究論文は、就活後に始めるのではなく、早めに着手する (書き始める) ことが肝要です。両者を並行して進めていきましょう。		
担当者の研究室等	11号館10階 河原教授室		
備考	この演習では卒業研究を進めるための事前・事後学習が必要です。目安は総時間数で60時間です。もちろん選んだテーマ次第でそれ以上の場合もあります。 卒業研究の作成は、これまでの勉学の集大成というだけでなく、みなさんがこれからの人生のさまざまな局面において、どれだけ自信をもって諸事に臨んでいけるかその可能性を示唆してくれるものです。納得のいく内容のものを仕上げるよう頑張らしましょう。		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	古川 行男, 田中 敦
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	各自が選択決定した研究テーマについての参考文献並びに資料の収集方法を指導する。		
到達目標	質の高い卒業研究論文の作成が目標である。この演習を通じて学生には、一つのテーマを深く研究し、長論文を書き上げることで達成感や自信にもつながることが期待される。		
授業方法と留意点	卒業研究論文の作成過程において、ゼミ形式で中間発表、討論を行うことにより、論文作成の進行を図る。なお、卒業研究のテーマの決定には、社会的、法律な関心をもっていなければならないことに留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	選択決定した研究テーマについて、オンラインを使つてのテレビ会議方式を使うことも含め、ゼミ形式で中間発表、討論を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業		
Teams コード	sgf0tqf		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	学内メール、電話、オンラインで会議中は口頭で		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：		
評価方法 (基準)	論文の内容 (85%) と討論への参加 (15%) を審査して評価する。		
学生へのメッセージ	実社会においても、テーマの設定、資料の収集・分析・報告は必須のことである。卒業研究論文の提出はそのための準備でもある。		
担当者の研究室等	11号館10階 古川教授室		
備考	事前・事後学習の総時間数の目安は2時間です。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業研究の題目を決定し、関連する資料・文献を収集し、必要に応じて調査を実施することによって、卒業研究を完成させる。修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字的確に表現するための一助とする。																		
到達目標	この授業を通じて学生には、自ら決定した卒業研究のテーマについて、これまでに修得した法学・政治学・法政策学の知識を文字的確に表現するとともに、将来社会人として自ら考え行動することができる能力を養うことが期待される。																		
授業方法と留意点	ICTツールを活用した形式を基本とするので、その点留意してください。各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。能動的に活動するよう、留意してください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業テーマ：卒業研究の完成。 内容・方法：各自が決定した題目に沿って、卒業研究を推敲し、完成させる。卒業研究の完成に必要な資料を収集し、整理する。 学習課題：卒業研究の完成に向けての資料収集、論文の推敲、およびその完成等についてその都度指示する。公開での卒業研究発表会を行う予定である。																		
関連科目	専門演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Teams「教材・課題配信型」(併用)																		
Teamsコード	pk8scort																		
Moodleコース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業研究の内容(70%)と取り組む姿勢(30%)をもとに評価する。																		
学生への メッセージ	意欲的に取り組んでください。																		
担当者の 研究室等	11号館10階 石井教授室																		
備考	各回に1時間程度、自身の設定したテーマに沿って、事前・事後の学習を行ってください。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	1年半の演習の蓄積に基礎を置く研究である。分野を絞って読書や記事を読みながら課題を明確にし、地域活動を通じての参与観察、聞き取り調査で得られた知見に基づいて結論を出せるように研究を進める。		
到達目標	この研究を通じて学生には、①ぼんやりとした自分の問題意識を他人と議論できる課題にする、②地域活動に参加して、その課題の視点で現場を見て、話を聴く、③現場での知見を蓄積する、④他人と議論をして、知見から自分が言いたいことを文章にすることが期待される。		
授業方法と留意点	書籍・記事からの情報収集、参与観察と聞き取り調査(ともにフィールドワーク)、研究室内の定期報告(プレゼンテーション)、仲間との活動の企画と振り返り(ディスカッション)を、他人に見える形で記録に残し蓄積する。継続的でこまめな作業が必要になる。*遠隔の場合、前期に引き続き zoom で行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	研究で扱う分野は、地域防犯、自治会の地域活動、小学校と地域との関係、地域での児童福祉・青少年健全育成の4つである。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/その他 Zoom		
Teams コード	8cztqir		
Moodle コース名および登録キー			
連絡手段	大学メール		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	研究時限の全出席を前提とする。定期報告(30%)と、卒業論文(50%)、卒業研究発表(20%)の合計によって評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	11号館9階 中沼教授室		
備考	情報収集、観察・聞き取り調査記録、定期報告の準備で各回1~3時間ほどが必要になる。 個人面談をして、地域活動参加の意志確認をし、参加の感想や今後の希望も聴く。それに対して助言を行う。 卒業研究発表に対しては、担当教員のみならず、地域活動の世話役や行政実務家からも意見をいただく。		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部憲法ゼミ修了者として備えておくべき素養を培います。法学部の卒業研究として十分な水準の論文を完成させるとともに、他のゼミ生との共同作業が中心となりますので、コミュニケーション能力も求められます。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、問題発見・分析・文献検索についての能力、論文作成についても法学部修了者として不足のない力を身につけられるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	個別もしくはグループ単位で卒業研究を進めます。基本はグループワークを通じ、ディスカッションを重ねることでテーマを深化させていくため、積極的な参加が必須です。卒業研究報告会に限らず定期的な報告会も行うため、プレゼンテーション能力を磨くことも必要となります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	憲法に関連する諸問題を調べ、討論し、論文にまとめる。 テーマ自体は該当年度のはじめに決定します。 設定されたテーマにつき、グループでより詳細なテーマを決定して進めていきます。 論文を完成後、公開の発表会を行います。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	その他 zoom																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	完成した卒業論文の内容(50%)と取り組み(50%)で評価します。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	11号館9階 浮田准教授室																		
備考	卒業研究は講義以外の時間に作成する割合が多くなります。最低限事前(2時間)、事後(2時間)程度は必要になります。卒業論文は公開の発表会を行います。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	島田 良一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	刑事法をめぐる諸問題について研究・考察を行い、その内容に関する卒業論文を作成する。																		
到達目標	この卒業研究を通じて学生には、とりわけ刑事法に関して、法学部で学んだ者としてふさわしいレベルの知識・思考力・表現力を修得することが期待される。 (12月初旬に法学部全体での卒業研究報告会が予定されているので、そこでの報告に堪えうるような論文の作成を目指す)。																		
授業方法と留意点	3年次までの専門演習において設定した各自の卒論テーマについて、ディスカッションやプレゼンテーションなども行いながら、さらに掘り下げて研究・考察を行う。 なお、諸般の事情を考慮したうえで、ICT ツール (Teams) を用いて研究指導を行うこともある。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文作成指導を行う。 事前学習としては、文献・資料等の読み込み・要約 (1時間/日) 事後学習としては、卒業論文提出後にゼミで卒業論文の検討会を行う予定 (2~3時間程度)																		
関連科目	刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑法総論、刑法各論、刑法応用講義 I・II、刑事政策、現代社会と刑事法、経済刑法、刑事法概論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	oyu54k9																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業論文の出来によって評価する (内容・構成力 50%、文章力 30%、資料収集の程度 20%)。																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	11号館9階 島田准教授室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	家本 真実
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>法は、社会における最低限のルール・道徳であるといわれます。この演習では、現在、社会で起きている問題を通して、現行の法律がどのようなものであるか、そしてどうあるべきかを考えることによって、法に対する知識をより広い視野をもって深めていく機会にさせていただきたいと思います。</p> <p>卒業研究においては、とくに裁判員制度に焦点をあてて、裁判員制度がいったいどのような制度なのか、市民が司法に参加する意義などを調査したうえで、後期中に模擬裁判をおこない、模擬裁判での経験から、一般の市民が司法に参加するにあたってどのような課題が問題点があるのかを探るといったかたちでより深く法の世界を探求していただきたいと思います。</p>																		
到達目標	この卒業研究を通じて、学生の皆さんには、履修している学生同士の議論や模擬裁判の実施を通して、他人の考えを理解し、問題がある場合にはどのような解決を見出すことができるかを考えることができるようになることが期待されます。																		
授業方法と留意点	卒業論文作成の指導をおこないます。資料の収集、論文の書き方などを学んだうえで、グループで議論しながら各自の分担を考えていただき、各自の担当部分について個別指導をおこないます。また、模擬裁判の実施にあたって、チームで議論しながら主張を練り上げ、書面を作成していただきます。 なお、上記指導および皆さんからの報告や活動につき、Zoom や Moodle など、オンラインで使用可能なシステムを活用します。詳細は別途、お知らせします。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期中はおもに、卒業論文作成のベースとなる知識を得るために、裁判員制度や市民の司法参加に関して調査をおこなっていただきます。2-3人で1つのテーマを担当し、毎回事前に担当するテーマについて調査をおこない、報告のうえ、各回終了後に適宜再調査をおこない、卒業論文の基盤をつくりあげていただきます（事前・事後学習として毎週3~4時間程度）。</p> <p>後期は3年生とともに模擬裁判をおこなっていただくとともに、卒業論文を仕上げたうえで、その成果を発表していただきます。模擬裁判に関しては、事案の検討をおこない、検察チームや弁護チームの弁論や尋問を作成し、添削を受けて訂正するという作業をおこなっていただきます（事前・事後学習として毎週3時間程度）。また、同時に、卒業論文を執筆し、添削を受けて訂正する作業を継続しておこなっていただきます（事前・事後学習として毎週3時間程度）。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Moodle/その他 (Zoom)																		
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー	前期に設定済みのコースを継続して使用します。																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	おもに、模擬裁判に対する取り組み (50%) と、卒業研究に対して取り組む姿勢や卒業論文の審査結果 (50%) により評価します。																		
学生へのメッセージ	ともに議論をし、模擬裁判において様々な役割を担うことによって、他人の考え方を知り、理解しあうことにつながると思います。こうした活動を通じて、学生間で交流を深めていただきたいと思います。また皆さんからゼミの内容についての提案があれば、できる限り取り入れていきたいと考えています。																		
担当者の研究室等	11号館9階 家本准教授室																		
備考	模擬裁判や卒業論文完成に向けて提出される書面については、随時添削、講評をおこないます。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	城内 明
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究の完成を目標とする。 研究内容は、学部主催の卒研報告会、ないし翌週に開催される3年城内ゼミ学生を対象としたゼミ内報告会のいずれかで報告する。			
到達目標	この演習を通じて学生には、法学部に学んだ集大成として、質の高い卒業研究を完成することが期待される。			
授業方法と留意点	研究テーマは、3年時の演習で担当した判例等を参考に、自由に選択。テーマに基づき、個別に課題を与え、完成まで指導する。受講生は、就職活動に忙しい時期であっても、メール・LINE等で、最低週1回の連絡を欠かさないように。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成指導。 論文指導は、指導前の十分な準備、指導に従って行う適切な作業があって、はじめて有効なものとなります。 十分な事前学習・事後学習を心がけて下さい。所要時間として、週に90分、年間で60時間程度が目安となります。ただし、論文は、自分が納得いくまで考え抜くことに意義があります。特に、最終段階では、論文に集中する時間が必要となりますので、予定の調整をお願いします。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	k60cfos			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	学内メール			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法(基準)	論文の内容(50%)、論文に臨む態度(50%)により評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	11号館10階 城内准教授室			
備考	教員との連絡は欠かさないように。			

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>法学部ディプロマポリシーに基づき、刑事法学（主として、刑法総論、刑法各論、および、刑事政策）に関する争点を履修者各自の興味に応じて取り上げ、これに関する判例および学説を主体的に研究・調査したうえで、自らの考察を展開する一方で、多様な見解に配慮しつつ、説得力ある論文（卒業論文）の作成することを目的とする。</p> <p>*なお、12月から2月の間に開催される予定である法学部主催の卒業研究発表会で卒業研究の成果を口頭で質疑を交えつつ報告してもらうことも目的としている。</p>																		
到達目標	この演習を通じて学生には、法学士を得るのにふさわしい研究水準の公開報告を遂行したうえで、最終的に研究論文を完成できるようになることが期待される。																		
授業方法と留意点	専門演習において設定した各自の卒論テーマについてさらに掘り下げて研究する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	卒業論文の作成に必要な判例検索や文献リサーチの方法および社会科学系論文の作成方法に関する指導を行う。																		
関連科目	法学概論、刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、少年法、刑事政策など																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>刑法の争点</td> <td>西田典之＝山口厚＝佐伯仁志</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>判例プラクティス刑法Ⅰ</td> <td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td> <td>信山社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>判例プラクティス刑法Ⅱ</td> <td>成瀬幸典＝安田拓人ほか</td> <td>信山社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣	2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社	3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	刑法の争点	西田典之＝山口厚＝佐伯仁志	有斐閣																
2	判例プラクティス刑法Ⅰ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社																
3	判例プラクティス刑法Ⅱ	成瀬幸典＝安田拓人ほか	信山社																
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																		
Teams コード	j06v471																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法（基準）	①問題提起を適切にしているか（20%） ②提起した問題に関連する判例や先行研究（学説）を十分に、かつ、主体的に調査しているか（20%） ③異説に配慮しつつ、自らの考察を適切かつ説得力をもって展開できているか（20%） ④自説の見解がどこまで妥当性をもつかについて、射程を考えて規範や結論を導いているか（20%） ⑤文献の引用方法が適切であるか（20%） によって評価する。																		
学生へのメッセージ	法学系の論文は、指導教員とのコミュニケーションを取りつつ作成するのが一般です。いつでも遠慮無く作成についてご相談ください。学生の手が届きにくい代表的な和書文献およびドイツ語文献を研究室に備えていますので、必要な方は声を掛けてください。																		
担当者の研究室等	11号館10階 小野教授室																		
備考	事前学習として、判例や学説調査など、毎回2時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、論文の修正に毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	萩原 佐織
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	<p>当該民法ゼミでは、例えば民法等の実体法に基づき発生する権利につき争いが生じ、裁判所で解決されるべき場合に、その方法や当事者が従うべきルール等につき、具体的な事案や判例をもとに追求します。それゆえ、既に民法が良く理解できている方は、民法で学んだことを裁判という場にシフトさせ、より深く発展的に学び、他方、民法をまだ良く理解できていないという方は、裁判という角度から、もう一度民法を見つめ直す機会に利用して下さい。皆さんのご希望があれば民法や民事訴訟法以外に、民事保全執行法や倒産法をテーマにすることも可能です。</p>																		
到達目標	<p>初めての論文執筆となるため、この演習を通じて学生には、論文構成、章立て、脚注の付け方、文献目録の作成方法等、社会科学系の論文の書き方につき学び、また、それに対応する Word の各機能の使い方を習得することが期待される。</p> <p>後半は、この演習を通じて学生には、実際に各研究テーマに従った卒業研究論文を執筆していくうえで、深い思考力・探求力・問題解決能力を養うことが期待される。</p>																		
授業方法と留意点	<p>【授業内容】</p> <p>前期は、卒業論文の書き方（論文構成、判例・参考文献等の探し方、Word の機能の使い方、目次・脚注・参考文献目録の作成方法等）につき指導を行った後、それぞれの内容に従い、個別に指導する。後期は、個別指導の傍ら、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期は、下記 2 つを支柱とする；1 つ目は、①卒業研究論文の書き方や、②Word 機能の使い方等、卒業研究執筆にあたり、基本的な事項の指導。2 つ目は、研究テーマの確定、ならびに論文の大まかな構成の作成、につき指導すること。但し、これまでのゼミにおいて、既に研究テーマが確定していたり、十分な判例や参考文献等を収集済みの学生に対しては、個別に、具体的な論文執筆指導を行う。</p> <p>後期は、各自の執筆の進捗状況に差があるため、個別具体的な論文執筆指導を中心とする。また、互いの進捗状況を参考にしたり、また執筆者の考えを明確化させ、かつ内容を深化させるために、中間発表ならびに最終報告会を行う予定である。また、今後は、3 年生に対し卒業論文とはどのようなものか、また卒業研究は何をどのように行うべきなのかを、同じ学生目線で教示する場として、3 年生の専門演習 I I 内の報告会なども考えている。4 年生にとっても、自分の研究を客観的に見ることのできる貴重な体験となることと信じる。進捗状況としては、おおよそ 12 月末までに、一通り執筆を終えた段階で、提出してもらい、1 月は校正を中心とする。</p> <p>予習事項としては、設定テーマに関連する文献を調べ、それらの文献を入手し、読み込んでおくこと。後期は、その上で、得られた情報や知識をもとに、卒業研究の執筆や発表準備を進めること。</p> <p>復習事項としては、ゼミ内で指摘された事由につき、更なる文献の検索・入手や、内容の修正等を行うこと。</p> <p>事前・事後学習に要する時間は、卒業研究の進捗状況に基づき、演習時において、個別に指導する。</p> <p>テーマ選択、文献収集、執筆等に関し、事前・事後学習は、各 30 分を予定する。</p>																		
関連科目	民法全般、民事訴訟法、民事保全執行法、倒産法等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	ezsf0n6																		
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業研究への取り組み方 (30%)、提出された論文 (40%)、並びに研究発表会等における発表態度 (30%) を総合的に審査し評価します。																		
学生へのメッセージ	初めて書く論文ですので、最初は戸惑うかもしれませんが、例年、ゼミ生同士が相談または助け合い、その過程において、友情を深めているような気がします。また、それぞれ提出し終えたときの達成感で輝く顔が印象的です。学生最後の年ですので、有意義な実り多き 1 年にしてください。																		
担当者の研究室等	11 号館 9 階 萩原准教授室																		
備考	<p>卒業研究の成果を公表する場として、12 月における法学部の卒業研究発表会で、ゼミ代表者が発表する他、1 月における 3 年生の 専門演習 II の最終演習時において、代表者を除く他の全てのゼミ生が各自卒業研究の発表を行う予定。発表形式は、原則として、Power Point にて行うこととする。その際、Power Point のパネル 12 枚を、A4 両面に各 6 枚ずつプリントとした発表資料を配布して行う。</p> <p>なお、卒業研究執筆時においては、演習時に、原則として毎回、個別的に各卒業研究及びその進捗状況をチェックし、すぐにその場</p>																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	本演習では卒業までに、ゼミ生全員で少なくとも民法の制度について詳細に把握できることを目的としている。そのため、ゼミ生全員の協力の下で、どのような社会的問題が存在し、法律がどのような対応をしているのかを把握していく。社会状況を知ることにより、自分が社会においてどのような立場に立ち、またどのようなことをすべきかなど、多くの点を考える糸口を得られると考えている。																		
到達目標	この演習を通じて学生には、2年次・3年次演習で得られた知識・経験を駆使し、個人で問題を設定し、卒業論文を作成する。そのためには、これまで全員で行ってきた作業を個人で担当することとなる。中間報告として、各自の問題に対する視点の報告(レジュメや発表方法など)を行い、最終的に論文に仕上げ、文章表現の難しさを知ること、そして、法的問題を個人で分析し自己の考えを述べることを通じて、社会問題全体に対しても、感想ではなく、知識や情報を獲得しそれを駆使して自己の意見を述べられるようにすることが期待される。																		
授業方法と留意点	卒業論文を作成するために、各自でテーマを決定する必要がある。そのテーマについて、適宜演習で報告を行い、他のゼミ生との議論を行う予定である。その為の報告準備等も行う必要がある。各自のテーマについて、他のゼミ生の意見を反映させることも求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	卒業論文のテーマをいかに設定するか、その内容を定期的にいかに報告するか(中間報告)、それを文章化するに当たり、いかに読み手(この場合は教員)を説得させるか、および、それを論文にいかにまとめるか、それらについて各自で試行錯誤することが必要となる。 卒業研究ゼミでは、その論文の作成に関するルールから始まり、その内容や問題提起の方法を全員で確認し、そして、文章化することを予定している。 その際に、全学への公開講座として、研究内容を3年生と4年生との合同講座で発表を行い、ゼミ以外の先生や学生からの意見を聞きつつ、客観的に研究の意義を確認する。これは、全ゼミについて共通の事である。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」																		
Teams コード	sb8m85j																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	okawa@law.setsunan.ac.jp																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	成績は、演習で出される課題に対して、個人で指定された資料等を使用して正確に準備できているかどうか(10%)、並びに、その課題である卒論の完成内容で判断を行う(90%)。																		
学生への メッセージ																			
担当者の 研究室等	11号館9階 大川准教授室																		
備考	大学の講義は、予習・講義・復習の3つから成り立っています。 予習内容としては、演習で与えられる課題を個人で準備を行う必要があります。その準備を90分を基準として行う必要があります。 復習として、課題に対し、中間報告及び最終報告の内容を正確に押さえる必要があります。その為に90分を基準として行う必要があります。 学生主体の演習を目指しています。各実施状況については各自の報告時及びメールで確認します。 演習での縦の人間関係も重視しております。コンパなどで、就活などの情報も先輩から後輩へと伝えていくこと																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	松島 裕一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	前年度後期に決定した個別テーマに基づいて、実際に卒業論文を執筆してもらいます。前年度の専門演習 II で真面目に課題に取り組んでいればそれほど困難はないとは思いますが、いざ卒論を書き始めてみると苦労の連続かもしれません。自分なりに四苦八苦しながら卒業論文を書き上げることがこの卒業研究の目的です。																		
到達目標	このゼミを通じて学生には、次の2つのことが期待されます。第一に、自分の興味関心に基づいたオリジナルの論文を執筆できるようになること。第二に、卒業論文の執筆作業を通じて、図書館やネットを利用した資料収集の方法、参考文献の参照指示方法などを身につけること。																		
授業方法と留意点	新型コロナウイルス感染症への対策として、今年度はしばらくのあいだ、対面ではなく Teams や LINE などの ICT ツールを用いてゼミを行います。個別に課題を課しますので、その課題に真摯に取り組み、卒業論文を書き上げてください。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が決定したテーマにしたがって資料収集を行い、実際に卒業論文執筆の作業を進めてもらいます。各人の進捗状況に応じて個別に指示を出します。 具体的な予定としては 10 月下旬までに全員が卒論をひと通り書き終え、11 月中旬に卒業論文発表会の準備に取り組みます (各人の卒論の要点をパワポにまとめる)。そして 12 月 (予定) の卒業論文発表会本番に臨みます。																		
関連科目	特にありません。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」/Web Folder																		
Teams コード	xwk0ftd																		
Moodle コース名 および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法 (基準)	卒業論文によって評価します。具体的には卒業論文完成に至るまでの取り組み (教員の指示に従い資料や判例などが調査できているか、途中経過をしっかりと説明できるか等) 30%と、卒業論文の出来 70% (脚注や形式は指示に従っているか、論文に独自性があるか等)。																		
学生へのメッセージ	みんなで笑って卒業できるように頑張りましょう！ 教員 (松島) も精いっぱい努力しますので、学生の皆さんも頑張ってください。																		
担当者の研究室等	11号9階 松島講師室																		
備考	教員の指示に従い、各回、決められた分量の文章を事前に執筆してもらいます (この事前学習に 60 分以上)。また、事後に文章の訂正や追加の資料収集を行なってもらいます (この事後学習に 60 分以上)。																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	法学部での学び、そしてゼミでの学びの集大成として、卒業研究を行い、論文にまとめます。 研究とは、未知の事柄について問い(リサーチ・クエスチョン)を立て、データを集め、分析し、結果を解釈し、出た答えを報告するという一連の過程です。どうしても「論文を書く」ということだけに注目してしまいがちですが、研究成果が出なくては論文は書けない、ということは重要です。計画的に研究を進めていきましょう。																
到達目標	この演習を通じて学生には、関連する分野の基礎知識を身につけた上で、狭く深く、設定したテーマについて誰よりも詳しくなり、研究を遂行し論文を完成させるための研究方法、論文執筆法を身につけ、結論ありきではなく、現時点で得られた情報から何が言えるのか、という科学的な態度を身につけることが期待される。																
授業方法と留意点	各自で研究を進めつつ、定期的に報告し、意見交換をする																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【研究テーマ】 地方自治や地域政策に関連するテーマを各自で設定する</p> <p>【スケジュール】 4月 研究計画書を元に面談し、研究テーマを確定する 5月 文献調査を行う 6月 文献調査の結果を元に「先行研究のレビュー」を執筆 7月 データ収集と分析の方法を検討する 夏期休暇：フィールドワークなどにより、データ収集を行う 9月 集めたデータを分析し、「結果」を執筆 10月 結果を出すに至った「対象と方法」を執筆 11月 結果を解釈し、「結論」を執筆 12月 「背景と問い」「課題と展望」を執筆し、論文を完成させる</p> <p>【論文の構成】 背景と問い なぜ問う必要があるのか？ 何を問うのか？ 先行研究のレビュー 現時点でどこまで答えが出ているのか？(理論や仮説) 対象と方法 何を研究対象としたのか？(データや事例の詳細) どのような方法で研究したのか？(データ収集・分析の方法) 結果 データ分析によって得られたものは何か？(客観的) 結論 結果を元に問いに対してどのような答えを導くことができるか？(主観的) 課題と展望 明らかにできなかったこと、更に研究すべきことは何か？</p> <p>【事前・事後学習課題】 各自調査・執筆を進めた上で、週ごとに研究ノートを作成する(4時間程度)</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「オンライン型」																
Teams コード	akeagwq																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	論文としての基本的ルールを守ること 40% 問いと方法と答えの妥当性 20% オリジナリティ 20% 学術的意義 10% 社会的意義 10%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室																
備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	和田 泰一
ディプロマポリシー (DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	卒業論文を完成すべく、政治問題に関する文献の読解能力や論理的思考力・判断力・表現力を身につけることが目的です。学生の皆さん一人一人が、自分の卒業論文のテーマについて主体的に考え、議論し、問題解決への糸口をつかめるような主体的・対話的で深いアクティブ・ラーニングの場を提供します。 また卒業論文の内容や書き方については個別に指導していきます。																		
到達目標	この授業を通じて学生は、自分の卒業論文のテーマに関する書物・新聞記事・評論などを読んで知識・技能を獲得するとともに、その要点やメリット・デメリットをまとめ、望ましい解決策について他者と討議し、他者に対してそれを明確に発表するという論理的思考力・判断力・表現力を育成することが期待されます。 またグループディスカッション・プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングを通じて主体的・対話的で深い学びを行うなかで、学習や仕事に対する意欲や積極的な人間性を育み、社会において良好で協調性のある人間関係を構築する仕																		
授業方法と留意点	各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解を行い、オンライン授業で卒業論文のディスカッション・プレゼンテーションを行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・授業テーマ・内容 <p>自分の卒業論文のテーマに関する文献の収集・読解・議論・発表を通じて、その問題の内容を正確に理解し、他者と討議して望ましい解決策を判断し、他者にわかるようにその内容・解決策を発表することによって、基本的な日本語読解能力と論理的思考力・判断力・表現力を修得することができます。 卒業論文が作成できるように実際に資料収集・読解・執筆・グループディスカッション・プレゼンテーションを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方法 <p>各自が自分の卒業論文のテーマに関する文献を収集・読解・要約し、卒業論文の一部を執筆する時間をとります。教員は、学生の皆さん一人一人のテーマに沿いつつ、個別指導の形式で助言・評価をしていきます。 また卒業論文の進捗状況・内容について全員が適宜プレゼンテーションを行い、ディスカッションを通じてより整合性・妥当性のある卒業論文を完成させていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前、事後学習課題 <p>事前学習...授業で自分が行う資料収集・読解・執筆について各自が主体的にその計画を立てておくこと (週7時間程度)。 事後学習...卒業論文の執筆を自宅でも計画的に進めておくこと (週14時間程度)。</p>																		
関連科目	専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「オンライン型」／対面授業																		
Teamsコード	62sfnf1																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	オンライン授業でのプレゼンテーションと卒業論文で評価します。																		
学生へのメッセージ	就職活動で忙しいでしょうが、卒業論文の制作も継続的に行ってください。自分の卒業論文のテーマに関する参考文献の読解や資料・データの収集を自主的に行うようにしてください。 新型コロナウイルス感染者が減少した場合は、対面式授業に変更します。																		
担当者の研究室等	11号館10階 和田講師室																		
備考	卒業論文の制作では教員も積極的に参加し、助言を与えます。プレゼンテーションではその内容について全員に助言と短評を与えます。また学生の皆さんの卒業論文のテーマについては教員も極力調査し、その参考文献を読破し、助言を与えます。																		

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Research
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	川谷 道郎
ディプロマポリシー(DP)	DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎, DP10◎		
科目ナンバリング	JDJ4137a0		

授業概要・目的	労働契約法、労働基準法、労働組合法を中心とした労働法全般の中から各自の興味に沿ったテーマを選び、これに関する問題点を具体化し、関連資料を分析して、論文を完成させることを目的とします。																		
到達目標	この研究を通じて学生には、論理的思考力と比較衡量する力が備わることが期待されます。労働法制は新しい施策にかかわるものも次々に生みだされている分野ですが、そこでは常使用者と労働者の実質的対等の確保ということが問題となります。論文の作成を通じ、テーマに潜む問題点を抽出し、論理的な展開を行い、結論を導き出すという法的思考のプロセスを身につけることが到達目標となります。																		
授業方法と留意点	各自の選んだテーマについて個別指導を行います。就職活動も重なりますので、計画的に進めることが重要です。初めに論文の作成に向けた年間計画を作成し、論文作成の過程では適宜授業担当者ないしゼミ生相互間で中間報告を行ってもらいます。なお、前期授業はWeb方式となりますので大学指定のMicrosoft「Teams」で、「J205-卒業研究-川谷道郎」のチームにアクセスして下さい																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の選択したテーマに応じて指導します。テーマ選択の過程では、労働法においてこれまでどのような点が問題とされてきたのか、最近はどうなことが問題とされているのかを復習・確認し、選択の一助としてもらいます。また、各自どのような問題意識を持ち、どのような観点から論じるのか、考えをまとめる機会として、中間発表会を適宜の時期に開催します。																		
関連科目	労働保護法、労働組合法																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態	Teams「教材・課題配信型」																		
Teamsコード	mv141n3																		
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	卒業論文の内容を審査して評価します。具体的には、発想力(20%)、論理性(50%)、結論の妥当性(30%)の合計により評価します。ネット情報を安易に使うことのないようにしてください。																		
学生へのメッセージ	文献を読み、考え、更に文章を書く作業は社会人になった場合に、必ず役に立ちます。余裕を持って時間をかけて論文を完成させてください。																		
担当者の研究室等	11号館9階 川谷研究室																		
備考	論文作成時には随時個別指導において適宜コメントします。 選んだテーマにつき、進捗に応じた学習が必要です。研究課題であるので、ゼミによる指導の日には事前・事後の準備・学習を少なくとも毎回各2時間程度行うように心掛けて下さい。																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	法学部	学科	法律学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP6◎, DP7◎, DP8△		
科目ナンバリング	JEN2333c1		

授業概要・目的	<p>海外で実施される語学研修プログラムに参加して外国語運用能力の向上を図りつつ、グローバル・シチズン（地球市民）としての基礎知識、態度を身につける。本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程（GCMP）の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」と目標や学習内容を共有する。副専攻の履修者が本科目の単位を取得すると、「グローバル・シチズンシップ海外実習（入門）」は履修済みと見なされる。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズンの育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加する。受講生には、現地での語学授業に真摯に取り組むと同時に、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ活動を行うことが求められる。また、この授業で得られた反省点を、帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習（応用）での学びに生かすことが期待される。</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・事前・事後を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC（英語の場合）の得点アップ 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合（アルバイト、旅行等）による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。（ ）内は同年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬（9月下旬～10月上旬） ・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬（11月～2月） ・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬（2月中下旬～3月下旬） ・事後授業5回（成果報告会含む）：9月～10月中旬（3月～4月下旬） <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する海外語学研修プログラムのいずれかに参加申し込みをしなければならない。各プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標（SDGs）についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW（English Conversation Workshop）、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書（レポート）および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																		
関連科目	グローバル・シチズンシップ（入門）、グローバル・シチズンシップ（応用）、グローバル・シチズンシップ海外実習（応用）、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法	事前授業評価 30%（規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合）																		

(基準)	現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、この海外語学研修、そして「グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)」で二度行きましょう。
担当者の研究室等	3号館4階国際交流センター
備考	

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵, 石井 三恵, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 久保 貞也, 田中 結華, 古矢 篤史, 水野 武
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科:A◎, A科:A◎, M科:A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	<p>「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地に赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。</p> <p>この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。</p> <p>また由良町役場の行政担当者などの実務経験者より、由良町の現状や課題、現在取り組んでいる対応策について講義があります。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	<p>グループで議論等をした上で、グループごとに発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。</p> <p>第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。体験学習に参加できない学生は履修しないようにしてください。</p> <p>グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【第1回】 4月11日(土) 1限 テーマ: オリエンテーション 内容・方法等: 到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。地域のことを学ぶ意義を解説します。(鶴坂) 事前学習: シラバスをみて、内容を確認する。地域のことを学ぶことについて自分なりに考える (1時間)。 事後学習: 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える (1時間)。</p> <p>【第2回】 4月11日(土) 2、3限 テーマ: チームビルディング 内容・方法等: グループワークを進めていくためのチームビルディングを行います。(水野・鶴坂) 事前学習: グループワークを行う上で大切なことは何かを考える (1時間)。 事後学習: チームビルディングを行った感想と今後の豊富についてまとめる (1時間)。</p> <p>【第3回】 4月25日(土) 1限 テーマ: 今、地域で何が起きているか 内容・方法等: 人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。(鶴坂) 事前学習: キーワード「消滅可能性都市」について調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の現状と人口減少等の地域の問題を結びつける。その上で由良町での人口減少の理由を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第4回】 4月25日(土) 2限 テーマ: 由良町関係者の講演 内容・方法等: 和歌山県由良町役場の方に来学いただき、観光、防災、文化、地域医療等の現状や課題をお聞きします。(鶴坂・上野山) 事前学習: 和歌山県由良町の概要を調べる (1時間)。 事後学習: 和歌山県由良町の課題をまとめグループでレポートを作成する (2時間)。</p> <p>【第5回】 4月25日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1、2限の講義内容をふまえ、由良町の課題と人口減少の原因を議論しまとめ、発表する。(鶴坂・上野山) 事前学習: プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第6回】 5月2日(土) 1限 テーマ: 地域経済・経営-地域の観光・ブランディング- 内容・方法等: 観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。(久保・鶴坂) 事前学習: 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる (1時間)。 事後学習: 由良町の観光の目玉を考え、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第7回】 5月2日(土) 2限 テーマ: 地域環境・防災-空き家の現状と課題- 内容・方法等: 大都市周辺市街地と地方農山村部とは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。(稲地) 事前学習: 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと (1時間)。 事後学習: 授業後は議論した内容をふまえ、由良町における空き家対策について検討し、グループでレポートをまとめる (2時間)。</p> <p>【第8回】 5月2日(土) 3限 テーマ: グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等: 1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(鶴坂・久保・稲地) 事前学習: 前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する (1時間)。 事後学習: グループでのレポート作成 (2時間)。</p> <p>【第9回】 5月16日(土) 1限 テーマ: 地域市民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。(田中・上野山) 事前学習: 事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと (1時間)。 事後学習: 授業で発表された内容について整理し、由良町の地域医療の課題についてまとめグループでレポートにまとめる (2時間)。</p>

	<p>【第10回】 5月16日(土) 2限 テーマ：地域政策・文化ー地域の小規模ミュージアムー 内容・方法等：地域(とくに過疎化地域)における「小規模ミュージアム(記念館、文学館、博物館、美術館など)」の意義や現状を踏まえ、内容や効果を考えます。(古矢) 事前学習：「小規模ミュージアム」とは何かを調べる(1時間)。 事後学習：地域における「小規模ミュージアム」の内容や効果をグループでレポートをまとめる(2時間)。</p> <p>【第11回】 5月16日(土) 3限 テーマ：グループワーク・プレゼンテーション 内容・方法等：1限の課題、2限の課題と2つに区分し、グループでまとめ、発表する。(古矢・田中・上野山) 事前学習：前回のプレゼンテーションをふりかえり、再度プレゼンテーションルーブリックを確認する(1時間)。 事後学習：グループでのレポート作成(2時間)。</p> <p>【第12回】 5月30日(土) 1限 テーマ：プレゼンテーション講座 内容・方法等：プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。(石井、鶴坂) 事前学習：パワーポイントの練習(1時間)。 事後学習：最終報告会での大まかな流れを作る(2時間)。</p> <p>【第13回】 5月30日(土) 2, 3時間 テーマ：グループワーク 内容・方法等：由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。(鶴坂、上野山) 事前学習：グループでどの領域の問題を取り扱うかを決める(1時間)。 事後学習：由良町でのフィールドワークの準備を行う(2時間)。</p> <p>【第14回】 6月6日(土) 終日 テーマ：体験学習(和歌山県由良町) 内容・方法等：由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。(鶴坂、稲地、久保、古矢、上野山) 事前学習：現地で調べることにについて予備調査しておく(1時間)。 事後学習：現地で得られた情報をまとめておく(2時間)。</p> <p>【第15回】 6月27日(土) 1, 2限 テーマ：グループワーク 内容・方法等：発表用スライドの作成。(鶴坂、上野山) 事前学習：現地で得た情報の整理(1時間)。 事後学習：スライドの完成(4時間)。</p> <p>【第16回】 7月18日(土) 1, 2限 テーマ：成果発表会 内容・方法等：作成したスライドを使い、成果発表を行う。(鶴坂、久保、稲地、古矢、上野山) 事前学習：発表の練習(4時間)。 事後学習：他のグループの取組内容の整理をする(1時間)発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。</p> <p>【第17回】 7月18日(土) 3限 テーマ：ふりかえり・わかちあい 内容・方法等：「地域と私」での学びの成果等をふりかえり、発表する 事前学習：これまでのプリントや副専攻ガイドブック等の整理(1時間) 事後学習：個人レポートの作成(4時間)</p>																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																
教科書	<table border="1" data-bbox="316 1496 1460 1599"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" data-bbox="316 1653 1460 1756"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名 および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% (ルーブリック評価) 最終レポート 40% 60%で合格とする。																
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																
担当者の	鶴坂研究室 11号館7階																

研究室等	
備考	詳しい日程はガイダンスのときに発表します。基本的に土曜日開講です。

科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL03457a1,L科:LL03366a1,D科・S科:IL03366a1,P科:YL03422a2,J科:JL03368a1,W科:WL0347a1,N科:NL03348a1		

授業概要・目的	この授業は、ソーシヤルイノベーション副専攻課程における総仕上げ科目です。 これまで、講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証にいたるまでを、学生が主体的に取り組みます。 その過程のなかで、理論と実践を結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的です。 具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りをくりかえしながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていきます。																
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結び付けて、考察し行動することができる。 ②課題発見から解決までのPDCAサイクルを回すことができる。 ③チームで活動することができる。 ④チーム内で役割行動ができる。 ⑤地域の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																
授業方法と留意点	この授業は少なくとも前期中はネットで授業を行います。 授業で課題を出しますので、それぞれ履修者が調べ学習を行いレポートにまとめ指示された提出場所、提出期間に提出をお願いします。 提出されたレポートについて、プロジェクト(グループ)単位で議論をすることがあります。 学生が主体的に地域の課題を解決するため、フィールドに赴き活動を行うかどうかは新型コロナウイルスの状況に応じて判断をします。 状況が改善しない場合は、ネットでの授業や発表を後期も継続します。 また、対面で行わないような活動、たとえ																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	この授業は本来フィールドワークを学生がチーム単位で主体的に行うことを前提にしていたのですが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため不可能ですので、学生個人のワークが中心となります。 プロジェクトは今のところ3つありますので、自分が希望するプロジェクトをに関する学びを深め課題解決のための提案を自分自身が深掘していく形となります。 新型コロナウイルス状況に応じて、プロジェクトの活動時期や内容は異なりますのでご了承ください。 第1回 5月29日(金) 6時間目 オリエンテーション プロジェクト内容や進め方の説明をネットでを行います。 例年とは異なる進め方となりますので、履修者は必ず出席してください。 第2回 6月5日(金) 第3回 6月19日(金) 第4回 7月3日(金) 第5回 7月17日(金) いずれもネットでの授業です。 上記以外でプロジェクトごとにネット上でミーティング等を行うことがあります。 後期については前期最後の授業でお知らせします。 授業担当者は経営学部 鶴坂、法学部 小野、教育イノベーションセンター 水野・上野山です。																
関連科目	ソーシヤルイノベーション副専攻課程関連科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	課題提出物 40%、活動の取組 30%、最終レポート 30%																
学生へのメッセージ	PBL より、さらに踏み込んだ活動を行い、応用力や実践力をつけましょう!																
担当者の研究室等																	
備考	【事前学習】 活動を実施するまでには、チームで議論し役割分担を決め準備を行います。またミーティング等活動をしたときは活動記録を作成してください。そのためには1時間～4時間程度の自主学習時間が必要となります。 【事後学習】 活動を行った後は、結果をまとめ、チームでミーティングを行い振り返りをしてください。また全体ミーティングに備えて、スライドの作成をください。この場合も活動記録を作成してください。これらの活動に1～4時間程度の自主学習時間が必要となります。																

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び事前指導・事後指導における課題提出物、教育実習記録による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明, 大野 順子, 谷口 雄一, 林 茂樹, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
授業形態	対面授業																		
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー	2020 教育実習Ⅱ・Ⅲ 2otp23PE																		
連絡手段	学内メール																		
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室、吉田研究室、林研究室、大野研究室) 7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立つという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果たす体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	授業は、ICT ツールを活用した遠隔授業（非同期・非対面式）の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDF ファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	活動場所は、寝屋川市、交野市役所、すさみ町役場、共学センター、南農園等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月11日6時限目、1134教室で行う。 ----- 事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とのかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方 活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践 事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり ----- 履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。 事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。																
関連科目	ボランティア論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態	Teams「教材・課題配信型」/Teams「オンライン型」																
Teams コード	lusjvks																
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段	学内メール																
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調査、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月15日6時限目、1124教室で行う。																

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)	科目名(英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鳥居 祐介
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1o,E科:B△,C科:II◎,L科:DP2◎,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,W科:DP1◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TT01461a1~TT01465a1,L科:LT01366a1~LT01370a1,D科・S科:IT01371a1~IT01375a1,P科:YT01423a2~YT01427a2,J科:JT01374a~JT01378a1,W科:WT01352a1~WT01356a1,N科:NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベル」に達しない。 			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。()内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会:4月中旬(9月下旬～10月上旬) ・事前授業10回:6月中下旬～7月下旬(11月～2月) ・現地派遣:2週間程度8月中旬～9月上旬(2月中下旬～3月下旬) ・事後授業5回(成果報告会含む):9月～10月中旬(3月～4月下旬) <p>本科目を受講する学生は、まず国際交流センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしなくてはならない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、国際交流センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるよう行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>			
関連科目	グローバル・シチズンシップ(入門)、グローバル・シチズンシップ(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態	Teams「オンライン型」			
Teamsコード	yjvwu6a			
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段	原則Teams、履修前なら国際交流センターへメール問い合わせを			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)			

(基準)	現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましょう。いけるなら二度行きましょう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましょう。
担当者の研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館4階国際交流センターまで 授業内容に関する質問、相談は鳥居(研究室は7号館3階)まで。
備考	

科目名	地域実習	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, P科: YT01423a2~YT01427a2, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1, N科: NT01350a1~NT01354a1		

授業概要・目的	<p>地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。</p>																		
到達目標	<p>①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>主として現地でのフィールドワークです。1か月に2回程度全体で集まり、進捗状況や問題点、解決策などを共有します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 チーム10名程度のチームを作り、地域での活動に取り組みます。</p> <p>1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. 進捗管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。</p> <p>上記の1～6の活動を通じ、PDCAサイクルを回しながら、年度当初に設定した目標を達成できるよう協働していきます。</p> <p>第1回授業は 4月14日(火)6時間目です。 このときに、詳しい取組内容、どの取組内容に参加するかなどを決定します。 チームは「地域と私」のグループ(1グループ5人程度)を基本にして組んでいきます。</p> <p>【前期】 第2回目は4月28日(火)いずれも6時間目 第3回目は5月12日(火) 第4回目は5月26日(火) 第5回目は6月9日(火) 第6回目は6月23日(火) 第7回目は7月7日(火) 第8回目は7月21日(火)を予定しています。</p> <p>【後期】については前期授業中に連絡します。</p>																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:</p>																		
評価方法(基準)	提出物(20%)、活動への参画の程度(40%)、最終報告プレゼンテーション(20%)、最終レポート(20%)																		
学生へのメッセージ	まずは一歩踏み出して、地域での活動に取り組んでみよう!																		
担当者の研究室等備考	鶴坂研究室 11号館7回																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教.木村 朋紀.船越 英資
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の開発・販売プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、多種多様なものがある。これまでに、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を模索し、寝屋川市のサツマイモと和歌山県由良町のみかんの皮を用いたお酒である「初瀬姫」を、第一弾商品として2019年に市販した。本プロジェクトでは、開発中の「シソとミカンの入浴剤」および「シソのペースト」について具体的な商品化を目指す。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p>																		
授業方法と留意点	<p>3人の教員が担当する。</p> <p>少人数で活動を行うため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>実施手順は以下のとおりである。</p> <p><開発プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連携企業を決める。試作品の作製および改良を行う。 2. 必要な資金を確保し、具体的な製品案を決定する。 3. 商品を委託製造する。 4. 広報活動を行う。 <p><販売プロジェクト></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 価格設定 2. 販売ルートの確保 3. 販売管理 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目	教養系・科学技術系科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	摂大ブランド商品の販売を目指して、頑張りましょう。 新聞を読んで、大学のブランド商品に関連した情報を集めるなど、自主学習に努めましょう。																		
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)																		
備考	プレゼンテーション課題などは、各教員がチェックし改善点を指摘する。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⓪,R科:A⓪,A科:A⓪,M科:A1⓪,E科:B⓪,C科:II⓪, L科:DP2⓪,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⓪, S科:DP1⓪, P科:DP8Δ, J科:DP1⓪, DP6⓪, DP7⓪, W科:DP1⓪, DP7⓪, N科:DP1⓪N:DP1⓪		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1, L科:LL02357a1, D科・S科:IL02364a1, P科:YL02420a2, J科:JL02366a1, W科:WL02345a1, N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs -6, 13, 14, 15</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																		
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 天然アユ復活プロジェクトの学習 いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																		
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																		
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																		

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p> <p>SDGs-6, 13, 14, 15</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何が問題であるかを認識し、それに対してチームで解決する素養を身に付けることができる。 ・多様な人の意見を聞いて理解し、自分の意見を述べるができる。 ・世界や日本で起こっている環境問題や流域の課題について、正しい知識を身に付けることができる。 																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：寝屋川市自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに参加し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p> <p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 巨椋池ビオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、主として学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト(6月)、近畿水環境交流会(7月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	<p>メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。</p> <p>メールアドレス：</p>																
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																

学生へのメッセージ	子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室
備考	自主学習時間として、総時間数30時間以上取り組むこと。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:IIⓄ,R科:AⓄ,A科:AⓄ,M科:A1Ⓞ,E科:BⓄ,C科:IIⓄ,L科:DP2Ⓞ,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1Ⓞ,S科:DP1Ⓞ,P科:DP8Δ,J科:DP1Ⓞ,DP6Ⓞ,DP7Ⓞ,W科:DP1Ⓞ,DP7Ⓞ,DP1Ⓞ,DP1Ⓞ,DP1Ⓞ		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の学修指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画：具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中に実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	授業は、ICTツールを活用した遠隔授業(非同期・非対面式)の教材・課題提供型授業とする。授業担当者がパワーポイントやPDFファイル、事前に録画した動画などの教材を「WebFolder」、「Moodle」、「Microsoft Teams」上に提示し、学生が随時アクセスして、学修指示に基づき学修を進める。授業をスムーズに受講するために第1回目は操作トライアルとする。評価は、毎回の就学指示に従った内容になっているかを総合的に評価する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキーポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p> <p>社会人基礎力の、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成を自主学習として、調べておくこと。</p>																		
関連科目	ボランティア論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																		
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																		
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																		
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																		

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト I	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回) ・データベース設計の見直し (3 時間) ・作成したアプリの動作テスト (2 時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思つた書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学 P B L プロジェクト II	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>学生が最新のデータベース技術とアプリケーション構築 (携帯アプリ) の技能を身に付ける。そして、大学近隣の市町村に学生が市民への情報提供の課題を聞き取り、身に付けた情報技術を活かして自治体が公開しているオープンデータを利用したアプリケーションを開発し、その成果を検証する。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>SDGs-3, 4, 11</p>																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が最近の IT 動向を理解している ・学生が一般ユーザー向けの IT についてその仕組みを説明できる ・学生が初めて触れた技術を修得するための持続的な学習を行える ・学生自身が技術的な問題解決のために自学自習できる ・学生が地域の課題を知るためにインタビュー調査票を作成できる ・地域が抱える問題に対して情報技術の特性を活かした提案ができる ・学生が RPA の利用価値を説明できる ・実践的な IT 活用について提案ができる 																		
授業方法と留意点	<p>データベースに関する勉強会 (土曜日開催)</p> <p>ヒアリング調査</p> <p>自治体での業務プロセス分析</p> <p>開発合宿</p> <p>自治体でのプレゼンテーション</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 地域を便利にするアプリ開発と RPA の挑戦</p> <p>【内容】 自治体が保有するオープンデータを用いて、市民の利便性向上に貢献するアプリケーションを開発する。データベース技術を駆使することで開発期間を短縮しつつ、メンテナンス性が高いサービスの提供を目指す。さらに、自治体業務の効率化を狙って RPA の活用にも取り組む。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースに関する勉強会 (土曜日開催) ・ヒアリング調査 ・自治体での業務プロセス分析 ・開発合宿 ・RPA の実践 ・自治体でのプレゼンテーション <p>などを一連の流れとし、支援協力をいただいた自治体ごとにプロジェクトチームを構成する。</p> <p>【事前・事後学習課題】 プロジェクトのテーマを考慮して、以下の内容について自主的な調査、学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の情報サービスの現状調査 (4 時間×2 回) ・IT 関連の情報収集 (サービス、セキュリティ、生産性向上など) (1 時間×8 回) ・データベース設計の見直し (3 時間) ・作成したアプリの動作テスト (2 時間) <p>学習課題を遂行する上で必要と思った書籍やソフトウェアなどについては購入を検討する。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学 (消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第 1 回目の授業で教員より必ず周知されますので、第 1 回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法 (基準)	技術習得の成長度 (グループとしての学び合いを高く評価する) 自発的な役割の選択 開発プロセス全体での関与の度合い																		

学生へのメッセージ	新しい技術は若い人が活用してこそ効果が発揮されます。少しハードルが高そうな課題ですが、社会の課題を最新技術で解決する経験に挑戦しましょう！
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室
備考	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいないです。																
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	守口市の総合戦略の一環として取り組みます。 ①守口市における産業のことを守口市の子供たちに体験を通じて学んでもらう。 ②守口市のシビックプライドを醸成する。 ③守口市の商店街等の活性化を図る。 ①～③の目的を達成するためのイベントを企画し実施する。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①守口市の実態を理解する。 ②企画立案の手法を習得する。 ③企画したものをカタチにする。 ④自ら考え行動できる力をつける。 ⑤チームで活動できる力をつける。																
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 守口市へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 守口市の現状を学ぶ 3. マーケティングの基礎 マーケティングの基礎を学びます。 4. 企画書の作り方 5. 守口市など関係者との打ち合わせ、調整 6. イベント企画と準備 7. イベント実施 8. ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。																
関連科目	各学部マーケティング関連科目、キャリア科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加度 70% 提出物 30%																
学生へのメッセージ	授業で学んだことを、地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。																
担当者の研究室等備考	11号館7階 鶴坂研究室																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II⊙,R科:A⊙,A科:A⊙,M科:A1⊙,E科:B⊙,C科:II⊙,L科:DP2⊙,DP5Δ,DP6Δ,D科:DP1⊙,S科:DP1⊙,P科:DP8Δ,J科:DP1⊙,DP6⊙,DP7⊙,W科:DP1⊙,DP7⊙,N科:DP1⊙N:DP1⊙		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	牧野 幸志
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>地域の産業を活性化させるイベント企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																		
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p> <p>自主学習時間を活動前(1時間)と後(2時間)に取る。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ～産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる～</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬の続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河内町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー間のディスカッション ・グループワーク ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。 事前学習の自主学習時間は、毎週1時間程度とする。その内容をまとめて提出すること。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。 事後学習の自主学習時間は、活動後2時間程度とする。活動での気づき、反省点などをまとめて提出すること。</p>																		
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teamsコード																			
Moodleコース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																		
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、自己評価、リーダーからの評価、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価、自主学習の提出などから総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																		
担当者の	11号館7階、牧野准教授室																		

研究室等	
備考	活動内で課された課題に対しては、その後の活動の中で評価・解説を行い、フィードバックをする。 自主学習時間の評価も行います。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。			
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 マーケティング手法の学習(座学による) 連携先との面談 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 まとめと最終報告会 			
関連科目	チームビルディング			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
授業形態				
Teamsコード				
Moodleコース名および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:			
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。			
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。			
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室			
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。		
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 		
関連科目	チームビルディング		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
授業形態			
Teamsコード			
Moodleコース名および登録キー			
連絡手段			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:		
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みをもとに評価する。		
学生へのメッセージ	積極的に取り組んでください。		
担当者の研究室等	11号館10階 石井研究室 7号館3階 水野研究室		
備考	スケジュールに沿って1時間程度を目安として、プロジェクト遂行のための自主学習の時間(事前・事後)をとってください。		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig! SDGs プロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGsへの取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGsに寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外</p>																
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																
関連科目	全ての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。																

担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間が必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子・水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 Dig!SDGsプロジェクト</p> <p>【概要】 1. 市民が日常生活でできる「SDGsへの取り組み」の事例を学ぶ 2. 組織内外の日々の活動から「組織当事者は気づいていないが、SDGsに寄与する活動(企業のバリューチェーンやサプライチェーンを含む)」に該当するものを掘り起こし、調査対象組織に提言する。また1で学んだ事例を地域の企業・団体に提案する。 3. 地域の子どもたちにSDGs教育を実施する</p> <p>【目的】 1. 2020年11月末までに地域及び学内においてSDGsを広報するためのアクションを5つを行う 2. SDGsを学ぶことで、自らの日常生活で取り組めることを考え、実践する</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性をもって前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクトの到達目標】 上記に加え、以下の6点を本プロジェクトの到達目標とする 1. SDGsとは何かについて理解し、他者に説明できるようになる 2. 国内外の企業・団体で行われている取組事例を理解し、他者に情報提供ができるようになる 3. 外</p>																
授業方法と留意点	協力企業や地域の学校と連携しつつ、学生が中心となって活動するプロジェクトです。 全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】 1. 「SDGsを大学と連携して取り組みたいが、どのようにすればよいか模索している」という課題がある企業等にご協力いただき、現在の取り組みについて学ぶ。 2. 「これからSDGsに取り組むことを考えているものの、社内での認知度・浸透度が低い状態であること、社内への啓蒙活動の方法が不明である」ことなどが課題である企業等に対して、既に行われているSDGsに寄与する活動の掘り起こし、提案を行う。 3. 教育機関においてSDGsを教育に取り入れることは喫緊の課題であるといえることから地域の小学校に向けてロビー活動を実施する。</p> <p>【方法】 ・企業等の取り組み事例の調査 ・企業等向けの社内アンケートの作成と実施 ・小学生向けのイベントの企画と実施</p> <p>【年間計画(予定)】 4月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 5月 SDGsに関する文献レビュー・勉強会の実施 企業・団体の取り組み事例の調査 調査対象企業・団体向けの社内アンケート作成 6月 アンケートの実施、協力企業・団体へ他社事例に関する情報提供を行う 7月 アンケートの集計 小学校向けのイベントの企画立案 8月 小学校向けのイベント実施 10月 中間報告会 11月 活動がパターン化できていれば、協力企業・団体をさらに募集して、上記活動を再現する 12月 振り返り・最終報告</p>																
関連科目	全ての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teamsコード																	
Moodleコース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	全体で行う活動やミーティングへの貢献、自分の役割の遂行、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表、連携先からの評価を総合的に判断し評価する。																
学生へのメッセージ	プロジェクトの成否は、みなさま一人ひとりにかかっています。それぞれが主体的に取り組み、SDGsの普及に貢献しましょう。																

担当者の 研究室等	吉田佐治子（7号館3階） 水野武（7号館3階）
備考	学外での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。活動によっても異なりますが、一つの活動に対して、それぞれ5?10時間が必要です。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02455a1, L科: LL02357a1, D科・S科: IL02364a1, P科: YL02420a2, J科: JL02366a1, W科: WL02345a1, N科: NL02346a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。 			
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世 			
授業方法と留意点	<p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動における様々なブランド形成事業に若者である本学学生の視点を取り 			
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心とした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店会は場提供。) 今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戒祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月～3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> 			
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社
	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房
	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房

	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医「自殺希少地域」を行く-	森川すいめい	青土社
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールによる提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等の NPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席(参画)が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人, 大野 順子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL02456a1, L科: LL02358a1, D科・S科: IL02365a1, P科: YL02421a2, J科: JL02367a1, W科: WL02346a1, N科: NL02347a1		

授業概要・目的	<p>I 授業概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支援の力になりたいという学生の意欲をくみ、地域社会における課題に対して活動するNPO団体や社会貢献活動団体とともに主体的に課題に向き合っテコミュニティ活動にかかわり、活動体験を通して自らの学びをとらえ直し有為な専門職業人となるための活動を行う。具体的には昨年度活動した下記活動①に加え、学生が主体的に企画する②の活動を行う。 ①吹田市栄通商店街における地域活性化事業への支援による商店街ブランド作成プロジェクトへの参画(企画・活動・推進・振り返り活動への参画)を行う。当該活動地域は、顧客獲得において対立構造にある商店街、大規模店、コンビニエンスストアが協働している希有な事例であり、TV等でも紹介された。2018年度よりプロジェクト事業拡大によりブランド化を模索・推進している地域である。 ②世代間におけるコミュニティスキルの向上のため社会貢献活動を行っているNPO団体等との協働による課題対応力を修得する。 <p>II 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャッター街に代表される商店街の課題や地域貢献事業に参画する事によって学生が活動と事前学習によって自ら設定した課題認識との比較により地域活性化の方法論を学ぶ。 ・課外活動経験によるキャリア形成に資することも考慮する。 																		
到達目標	<p>I 到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外連絡先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>II 到達目標(本プロジェクト): Iの目標を達成するため、以下のいくつかの修得を行うこと。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 課題と課題対応した事例を現場体験することで解決プロセスを列挙できること。 (2) 課題解決のための課題認識と対応策を具体的に提案できること。 (3) 異なる世 																		
授業方法と留意点	<p>ICTツールを活用して下記内容を実施する。</p> <p>I 授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の進展と中心市街地での後継者不足とともに大規模店やコンビニエンスストアの出店によって商店街が衰退している。シャッターが閉められ人通りがほとんど無くなっている商店街も地域には多く存在する。 ・本プロジェクトは、このような社会状況のなか、プロジェクトを企画・運営する地域交流拠点(コンビニ2階)を中心に市民が商店街や大規模店及びコンビニエンスストア、さらに2020年度からは吹田市拠点のNPO団体とも協働する。これらの活動みにおける様々なブ 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>I 授業テーマ: 商店街を中心にした地域ブランドの創生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTツールによる事前・事後学習及び講述の課外活動に参画してテーマを達成する事業案の参画 <p>II 内容、方法、事前・事後学習課題</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) ICTツールによる事前・事後学習 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに記載した教科書、参考書を元に事前学習を行う。学習課題の設定の参考とする。 ・下記課外活動後、事前学習に使用した教科書を元に課外活動等との比較を行う事後学習を行う。 ・上記を通じて得た「気づき」を発表する。(中間報告会、最終報告会) (2) 参画する課外活動例 <ul style="list-style-type: none"> ・5月頃: ICTツールによる勉強会や吹田市で活動するNPO団体等との年度事業企画調整を行う。 ・6月: ICTツールによる今後の企画運営検討(エンタメ教室: 地域の子育て世帯の参加者推進。商店街ブランド案の検討: 栄通りの特色を検討、商店街は場提供。)今後の企画運営検討(落研寄席: 近隣住民の参画推進。近隣大学等との連携推進: 地域モデルの模索、新しい形での連携で「イケテル商店街」構築へ) ・7月頃: その他、NPO事業に参画 ・8月以降: エンタメ教室に参加。お茶とお花の教室(親子教室)に参加。落研寄席準備に参加。落研寄席-吹田お笑いグランプリに参加。(予選エントリー本戦16組くらいで決戦、審査員は素人で公平に。継続により商店会のブランドのひとつとなることを目指す。) ・随時: 周辺空き家の活用(古民家を活かしたノスタルジック喫茶店?スタバ)による商店街連携検討。 ・9月頃: エンタメ教室実施。(ミニ四駆をテーマに世代間参加を推進。親子で四駆レースを体験。翌年度吹田祭での大会レースを企画。) ・10月頃: 高浜神社 戎祭支援(チラシ配布、各店お店情報掲載、神社から店への誘導)に参加 ・12月~3月頃: 今年度事業の振り返りと予算策定に参加。翌年度の向けてのWEB委員会年度計画策定二酸化。エンタメ教室、落研寄席予算申請・企画開始に参加。2019年度新たに学生が企画運営したクリスマスパーティや宿題イベントを効果的に実施するための関係先調整を十分に行う。 <p>このスケジュール内に中間報告会、最終報告会がある。</p> 																		
関連科目	地域の持続的発展 地方自治論 地域実践演習 地域貢献実践演習																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>凡人のための地域再生入門</td> <td>木下 齊</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ</td> <td>久繁 哲之介</td> <td>ちくま書房</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道</td> <td>新雅史</td> <td>光文社新書</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社	2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房	3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	凡人のための地域再生入門	木下 齊	ダイヤモンド社																
2	商店街再生の罫 売りたいモノから顧客がしたいコトへ	久繁 哲之介	ちくま書房																
3	商店街はなぜ減るのか 社会・政治・経済史から探る再生の道	新雅史	光文社新書																
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イギリスに学ぶ商店街再生計画</td> <td>足立 基浩</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医</td> <td>森川 すいめい</td> <td>青土社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房	2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医	森川 すいめい	青土社				
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	イギリスに学ぶ商店街再生計画	足立 基浩	ミネルヴァ書房																
2	その島のひとたちは、ひとの話を聞かない-精神科医	森川 すいめい	青土社																

		「自殺希少地域」を行くー		
	3			
授業形態				
Teams コード				
Moodle コース名 および登録キー				
連絡手段				
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：			
評価方法 (基準)	ICT ツールによる事前事後学習への参加を必修とする。地域での活動内容の発表やプレゼンテーションだけでなく、ICT ツールでの提案、議論経過についても評価を行う。 栄通り商店会、吹田市等の NPO との ICT ツールによる意見交換会を中心に事業への参加あるいは ICT ツールによる打ち合わせに必ず参加して提案を行った回数を評価する。実際の課外活動だけでなく、ICT ツールでの打ち合わせ等への参加回数と参加事業等での意見表明や活動内容などの積極性を評価する。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書1「凡人のための地域再生入門」の黄色部分は必読です。 ・商店会のメンバは、商店街の発展を通じて地域活性化に努力している「本気の大人」である。彼らとのコミュニケーションを通じて学生個人のコミュニケーションスキルの醸成と課題設定、解決のプロセスを学ぶ。 ・積極的な活動と活動の糧となる読書を推奨する。 ・当該商店街だけでなく学生が居住する地域の商店街の課題や地域活性化の課題を発見し対策を模索するプロセスを重視する。 ・何よりも商店会等の地域貢献団体が主催する企画会議への出席（参画）が基本である。 			
担当者の 研究室等	1号館7階 経済学部 田井義人研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前・事後学習として教科書や参考書の輪読や講評を推奨する。 ・課外活動に参画することを重視する。 ・やみくもに参画するのではなく、情報や知識習得のため教科書、参考書などの熟読を勧める。 			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																
関連科目	なし																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、暮らしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																
担当者の研究室等備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	<p>テーマ： 中山間地域における生活支援体制の構築プロジェクト</p> <p>概要： 和歌山県海草郡紀美野町をフィールドに、中山間地域におけるひとり暮らし高齢者の生活をどのように見守り、支えるかについて、地域のキーパーソンに対するヒアリング調査や社会資源調査と地域での生活体験、その他の作業等を通じて考え、生活支援体制の構築に向けての具体的な活動に取り組んでいきます。</p> <p>SDGs-3, 11, 17</p>																		
到達目標	<p>①中山間地域に暮らす人びとの生活を知り、地域生活やその課題の多様性について説明することができる</p> <p>②ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法を検討することで、地域福祉の必要性や相互理解の重要性について考えを述べるができる</p> <p>③中山間地域における生活支援体制の構築にかかわる主体について説明することができる</p> <p>④「地域の見守り、支え合い」の担い手としての自覚と責任を身につける</p>																		
授業方法と留意点	<p>文献、資料等を用いた学内研修と和歌山県海草郡紀美野町における現地調査を実施します。</p> <p>具体的には、学内研修（地域について学ぶ）→現地調査（地域について知る）→学内研修（地域について考える）→現地調査（地域のために活動する）→学内研修（活動を振り返り、評価する）というプロセスを通じ、受講生にとっても地域にとっても意義のある活動となることを目指します。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>講義では以下の内容に取り組みます（進捗状況によって変更となる場合があります）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研修：紀美野町の人口・産業・伝統・観光・その他の特性について、地域福祉の考え方について、日常生活支援体制の構築方法について、中間報告会および最終報告会に向けた準備について、等（週一回程度；各回の実施に当たってはテーマに応じた自主学習（1時間程度）が求められます） ・地域での活動：地域視察、地域住民との交流、日常生活支援体制構築に向けた実践、等（月一回程度；学外研修後には活動成果の整理および実施意義の分析にかかる自主学習（2時間程度）が求められます） ・中間報告会、最終報告会：他のプロジェクトと合同で実施（各一回） 																		
関連科目	なし																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
授業形態																			
Teams コード																			
Moodle コース名および登録キー																			
連絡手段																			
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス：																		
評価方法(基準)	学内研修および地域での活動への主体的な参加および中間/最終報告会に対する貢献度により評価します。																		
学生へのメッセージ	ひとり暮らし高齢者の生活を見守り、支える方法について考えることは、すべての地域、たとえば、みなさんが生まれ育った地域にとっても非常に有意義な取り組みです。 都会から離れた場所での生活を実際に体験し、くらしを支えるとはどのようなことか、一緒に考えてみませんか？																		
担当者の研究室等備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02455a1,L科:LL02357a1,D科・S科:IL02364a1,P科:YL02420a2,J科:JL02366a1,W科:WL02345a1,N科:NL02346a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シャカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。																
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in																
授業方法と留意点	1) 週1~2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピーウジュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応(オウ)じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	【授業テーマ】 ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト 【内容】 ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちへ何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をするべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 【方法】 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(スス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。 【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成(摂大HPにアップされます)など																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクト活動における貢献度:30%(自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%)、 レポート:20%(ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析)、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度:30%																
学生へのメッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近(ミヅカ)にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験(ミケイケン)のことにも、失敗(シッパイ)を恐(オソ)れずチャレンジしてください。自(ミヅカ)ら様々な役割(ヤクワリ)を																

	担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシ）に取り組んでほしいと思います。 自分
担当者の研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	梅野 将之、カーティス チュウ
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科:TL02456a1,L科:LL02358a1,D科・S科:IL02365a1,P科:YL02421a2,J科:JL02367a1,W科:WL02346a1,N科:NL02347a1		

授業概要・目的	近年(キンネン)、日本に住む外国人の数は増加(ゾウカ)しており、外国人をどう受け入れ、共生(キョウセイ)していくかが社会課題(シャカイカダイ)となっている。地域(チイキ)社会や近隣(キンリン)の学校等でも異文化理解(イブンカリカイ)・多文化(タブンカ)社会の取(ト)り組(ク)みを実践(ジッセン)しているが、まだまだ手探(テサグ)りの状態(ジョウタイ)である。そこで摂南大学の留学生と日本人学生が協働(キョウドウ)して、異文化理解・交流(コウリュウ)に関(カ)わる活動(カツドウ)を実践することで、地域の異文化理解を深(フカ)めることに貢献(コウケン)することを目的(モクテキ)とする。また、活動を通(トオ)して、日本人学生と留学生の学生間の異文化理解も深(フカ)めることも目的とする。																
到達目標	1) 本プロジェクトでは、参加(サンカ)メンバー・学外の連携先(レンケイサキ)との協働(キョウドウ)を通(トオ)して、「主体性(シュタイセイ)をもって前向(マエム)き」に取(ト)り組(ク)む力(チカラ)、「自分とは異(コト)なった価値観(カチカン)を受け入(イ)れる力」、「課題(カダイ)を発見(ハッケン)し、解決(カイケツ)する力」を身(ミ)につけるとともに、新しい価値の創造(ソウゾウ)を目指(メザ)す。 2) 「異文化理解とは何か」を自分の言葉(コトバ)で表現(ヒョウゲン)できる(母語でよい in																
授業方法と留意点	1) 週1~2回のペースでの活動(授業、講義、イベントの企画(キカク)、提案(テイアン)、準備(ジュンビ)、実施(ジッシ)、ふりかえり、発表準備(ハッピーウジュンビ)、発表(ハッピーウ)など)のほか、必要に応じて集まり、活動計画、進捗状況(シンチョクジョウキョウ)の確認(カクニン)など、情報共有を行(オコナ)います(お昼休みに昼食をとりながら簡単なミーティングを想定(ソウテイ))。 2) まずは、「学ぶ」とはどういうことなのか、「異文化理解」とは何なのかを認識(ニンシキ)する活動を取(ト)り																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【授業テーマ】 ・異文化(イブンカ)コミュニケーション、異文化理解 ・よりよい多文化共生社会(タブンカキョウセイシャカイ)とは何かを考える ・地域(学内外)における異文化理解促進(イブンカリカイクシン);異文化摩擦の解消(カイショウ)のための活動(地域貢献チイキコウケン活動) ・摂大魅力(ミリョク)アッププロジェクト 【内容】 ・連携先(レンケイサキ)の一つである寝屋川市国際交流協会(NIEFA)の協力(キョウリョク)のもと、寝屋川市をはじめとする地域において異文化理解促進(ソクシン)のための交流活動を企画(キカク)し、実施(ジッシ)していく。 ・講義、ビデオ視聴や連携先等を通(ツウ)じて多文化共生に関する課題を明らかにし、自分たちへ何ができるのかを考え、活動に取り入れる。 ・留学生を増やすために(あるいは地域における国際交流拠点となりうるような大学を目指すために)、学内における課題を見つけ、解決に向けて何をすべきなのかをまとめ、しかるべき人(学長や国際交流センター長)に提案する。 ・自由企画(ジユウキカク):自分たちで本プロジェクトを通して地域貢献(チイキコウケン)につながるようなことは何かを考え、行動に移(ウツ)す。 【方法】 初めの数回(スウカイ)は講義、視聴や読み物についてのレポート作成もしくはミニッツペーパーなどから進(ス)めていき、学生が中心となって参加者全員が納得(ナツク)する形で今後どのように活動するか考えていきます(プロジェクトの実行に向けた会議を開催しみんなでその方法を考えます)。 【事前学習】 必要に応じて担当教員より提示された資料を、読んだり、視聴したりします。 【事後学習】 ポートフォリオの作成、活動報告書の作成(摂大HPにアップされます)など																
関連科目	人文社会系科目全般、外国語科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
授業形態																	
Teams コード																	
Moodle コース名および登録キー																	
連絡手段																	
メールアドレス	メールアドレスの記載がない場合は、第1回目の授業で教員より必ず周知されますので、第1回目の授業で確認してください。 メールアドレス:																
評価方法(基準)	プロジェクト活動における貢献度:30%(自己評価10%、他者評価10%、担当教員10%)、 レポート:20%(ポートフォリオに基づく成長や気づきの自己分析)、 ポートフォリオ20%、 到達目標達成度:30%																
学生へのメッセージ	異文化理解や多文化共生の課題は皆さんの身近(ミヅカ)にある課題です。皆にとってよりよい社会になるためには何が大切か考えてみましょう。 未経験(ミケイケン)のことにも、失敗(シッパイ)を恐(オソ)れずチャレンジしてください。自(ミヅカ)ら様々な役割(ヤクワリ)を																

	担（ニナ）っていきましょう。 プロジェクトが円滑（エンカツ）に進むよう、自分以外の人の役割（ヤクワリ）にも関心（カンシン）を持ち、必要に応（オウ）じて助け合ったり、与（アタ）えられた役割に真摯（シンシ）に取り組んでほしいと思います。 自分
担当者の研究室等	梅野、カーティス＝チュウ：国際交流センター教員控室（3号館4階）、 北川：国際交流センター（3号館4階）
備考	第1回目の集まり（授業ガイダンスのため）の日時を確定したいので、1月の面談（履修申請書押印）の際に配布したプリントの日時（※印の箇所）で、一度上記の部屋に来室してください。第1回目の集まりは4月中旬を考えています。